

学生便覧・講義概要

Annual Bulletin
2023

芸術科／専攻科

音楽専攻

演劇専攻

Toho Gakuen College of Drama and Music

桐朋学園芸術短期大学

便 覧	
2023(令和5)年度行事予定	1
桐朋学園芸術短期大学の沿革	4
学校法人桐朋学園の機構	4
建学の精神・教育目標	5
1. 建学の精神・教育目的	5
2. 音楽専攻の教育	5
3. 演劇専攻の教育	7
4. アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）	10
I. 教育課程	11
1. 教育課程	11
2. 単位	11
3. 学修の評価	11
4. 卒業の要件	12
5. 履修登録から単位認定まで	12
6. 教育職員免許状「音楽」の取得について	19
7. 長期履修制度（芸術科音楽専攻）について	21
8. 科目等履修生について	21
9. 研究生について	21
10. 海外研修旅行について	22
11. 学生による授業評価について	23
II. 学生生活全般	24
1. 学生生活	24
2. 課外活動	27
3. 証明書・諸届	28
4. 学費	30
5. 福利厚生	30
6. 学内諸施設、機関の案内	36
7. 学園生活の安全と環境の向上のために	39
III. 卒業後の進路について	40
1. 進路相談室について	40
2. 進学・編入学について	40
3. 音楽専攻 卒業後の進路について	41
4. 演劇専攻 卒業後の進路について	41
IV. 学則・諸規則	42
桐朋学園芸術短期大学学則	42
学位規程	48
桐朋学園芸術短期大学学生懲戒規程	49
図書館利用規程（抄）	50
科目等履修生規程	51
科目等履修生（高大連携）規程	52
単位互換履修生規程	53
音楽専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）	54
演劇専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）	55
学外発表・出演, および学内演奏会関連規則	55
学費の滞納・延納の処理に関する手続について	56

桐朋演劇奨学会規程	57
桐朋音楽奨学会規程	58
桐朋学園芸術短期大学専攻科特待生規程	59
桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程	59
校舎施設の使用について	60
学校法人桐朋学園 個人情報保護方針	63
桐朋学園芸術短期大学 学生個人情報保護規程	64
桐朋学園芸術短期大学 キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程	67
演劇専攻自治会 自治会規約	68
音楽専攻学生会 学生会会則	71
音楽専攻同窓会「桐の音」 同窓会会則	73
演劇専攻同窓会 同窓会会則	75

概 要

2023(令和5)年度入学生	
芸術科：教育課程・卒業の要件	77
本学における中学校教諭2種免許状取得の要件	85
専攻科：教育課程・修了の要件	87
2022(令和4)年度入学生	
芸術科：教育課程・卒業の要件	113
専攻科：教育課程・修了の要件	121

短大事務分掌表	293
2023(令和5)年度 図書館スケジュール	294
仙川キャンパス校舎配置図	295
短大校舎教室配置図	296
非常時の行動要領	299
台風・大雪等の悪天候による 交通機関の乱れ, また大地震における対応	299
学園歌	300

Toho Gakuen College of Drama and Music

学生便覧

芸術科／専攻科

音楽専攻
演劇専攻

4 月				5 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	土				1	月			
2	日				2	火			
3	月	入学式			3	水	憲法記念日		演劇セミナー
4	火	ガイダンス			4	木	みどりの日		↓
5	水	健康診断・マナー講座			5	金	こどもの日		↓
6	木	↑前期授業開講			6	土			
7	金	履修登録期間			7	日			
8	土				8	月			
9	日				9	火			
10	月				10	水			
11	火			11	木				
12	水			12	金				
13	木			13	土				
14	金			14	日		オープンキャンパス		
15	土			15	月			新入生歓迎行事	
16	日			16	火				
17	月			17	水				
18	火			18	木				
19	水			19	金				
20	木			20	土				
21	金			21	日				
22	土			22	月				
23	日			23	火				
24	月			24	水				
25	火			25	木				
26	水			26	金				
27	木			27	土				
28	金			28	日				
29	土	通常授業日(昭和の日)	新入生歓迎行事	29	月				
30	日			30	火				
				31	水				

6 月				7 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	木				1	土		実技試験(Pf・日)	↓
2	金				2	日		実技試験(V・管・弦・Gu)	↓
3	土			オープンクラス	3	月			【専演】自主上演実習
4	日				4	火			↓
5	月				5	水			↓
6	火				6	木			↓
7	水				7	金			↓
8	木				8	土		夏期講習	↓
9	金				9	日		↓	↓
10	土				10	月			
11	日				11	火			
12	月			【専演】試演会A	12	水			
13	火			↓	13	木			
14	水				14	金			
15	木				15	土			
16	金				16	日			入学志望者のためのWS
17	土	オープンキャンパス		↓	17	月	海の日		↓
18	日				18	火			
19	月				19	水		【専音】学習成果発表会	
20	火				20	木			
21	水				21	金			
22	木				22	土			個人歌唱試験
23	金				23	日			
24	土			【演1】演技発表会	24	月			
25	日			↓	25	火	大掃除		
26	月				26	水	前期授業終講	定演オーディション	
27	火				27	木			
28	水				28	金			
29	木				29	土			
30	金			【演2】実技公開試験(~7/2)	30	日			
					31	月			

↑集中講義・補講・試験期間、8/8

8 月				9 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	火	↓			1	金	↑	海外研修旅行	
2	水	↓			2	土			
3	木				3	日	↑		
4	金				4	月	↑		演劇合宿
5	土				5	火	↑		↓
6	日				6	水	↑		↓
7	月				7	木	↑		↓
8	火				8	金	↑		【演2】面接
9	水				9	土	↑		
10	木				10	日	↑		
11	金	山の日			11	月	↑		【演1】面接
12	土	↑			12	火	↑		↓
13	日	↑			13	水	↑		
14	月	↑			14	木	↑		
15	火	↑			15	金	↑		桐朋祭(準備・前夜祭)
16	水	↑			16	土	↑		桐朋祭
17	木	↑			17	日	↑		桐朋祭
18	金				18	月	↑	敬老の日	桐朋祭(片付け)
19	土				19	火	↑	後期授業開講	
20	日				20	水	↑		
21	月				21	木	↑		
22	火				22	金	↑		
23	水				23	土	↑	通常授業日(秋分の日)	
24	木				24	日	↑		
25	金				25	月	↑	日本音楽演奏会	総合型A I 入試
26	土		オープンキャンパス		26	火	↑		
27	日		海外研修旅行(~9/8)	オープンキャンパス	27	水	↑		
28	月				28	木			
29	火				29	金			
30	水				30	土			
31	木								

10 月				11 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	日	都民の日			1	水			
2	月				2	木			
3	火				3	金		通常授業日(文化の日)	
4	水				4	土		オープンキャンパス	
5	木				5	日			
6	金				6	月		オープンプラス	【専演】試演会B②
7	土		学内演奏会 オープンキャンパス		7	火			
8	日				8	水			
9	月	通常授業日(スポーツの日)			9	木			
10	火				10	金			
11	水				11	土			
12	木				12	日			
13	金		研究生演奏会		13	月			【演2】試演会S
14	土			オープンキャンパス	14	火			
15	日				15	水			
16	月				16	木			
17	火				17	金			
18	水				18	土			
19	木				19	日			
20	金		専攻科・研究生説明会		20	月		通常授業日(創立記念日)	【演2】試演会M
21	土				21	火			
22	日				22	水		定期演奏会	
23	月				23	木		通常授業日(勤労感謝の日)	
24	火				24	金			
25	水				25	土		推薦型・総合型BI入試	
26	木				26	日			
27	金				27	月			
28	土				28	火			
29	日		総合型A I 入試	総合型A II 入試	29	水			
30	月			【専演】試演会B①(~11/5)	30	木			
31	火								

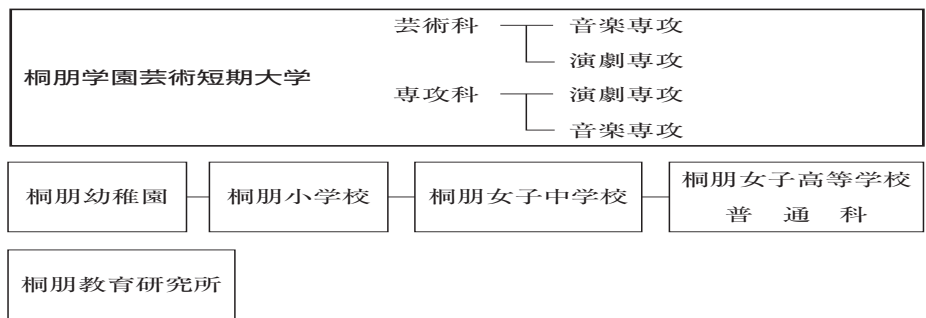
12 月					1 月				
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	金				1	月	学校閉鎖		
2	土			推薦型・総合型B入試	2	火	学校閉鎖		
3	日			↓	3	水	学校閉鎖		
4	月		学内演奏会		4	木			
5	火				5	金			
6	水				6	土			
7	木				7	日			
8	金				8	月	成人の日		
9	土		冬期講習	【演1】演技発表会	9	火	授業再開		
10	日		↓	↓	10	水			
11	月				11	木			
12	火				12	金			
13	水				13	土			
14	木				14	日			
15	金				15	月			
16	土		総合型AⅡ入試	専攻科Ⅰ期入試	16	火			
17	日				17	水			
18	月	年内授業終了			18	木			
19	火	大掃除			19	金			
20	水	↑ 補講期間 ↓			20	土		実技試験(Pf・Dr) 専攻科Ⅰ期入試	
21	木				21	日		実技試験(V・弦・Gn) 専攻科Ⅰ期入試	
22	金				22	月	後期授業終講		
23	土				23	火	↑	実技試験(管) 専攻科Ⅰ期入試	【専演】後期試験期間
24	日				24	水			
25	月				25	木	↓ 後期試験期間	実技試験(副科V)	
26	火				26	金		実技試験(副科Pf)	
27	水				27	土			個人歌唱試験
28	木				28	日			
29	金	↑ 学校閉鎖 ↓			29	月			【専演】修了公演
30	土				30	火			↓
31	日	学校閉鎖 (~1/3)			31	水	(~2/5)		(~2/4)

2 月					3 月				
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	木				1	金		桐朋祭	
2	金		研究生修了演奏会		2	土			
3	土			オープンキャンパス	3	日		オープンキャンパス	
4	日		総合型AⅢ・一般A・ 総合型BⅡ入試	↓	4	月			
5	月		【専音】学内演奏会		5	火			↓
6	火	↑ 集中講義期間 ↓	↓		6	水			
7	水		作曲発表会		7	木			
8	木				8	金			
9	金				9	土			
10	土				10	日			
11	日	建国記念の日			11	月			
12	月	振替休日	【専音】オペラ実習	【演2】卒業公演	12	火			
13	火		↓		13	水			
14	水				14	木			
15	木				15	金			専攻科Ⅱ期入試
16	金				16	土	卒業・修了式 教育職員免許状授与式		
17	土				17	日	オープンキャンパス		
18	日				18	月			
19	月				19	火			
20	火		卒業演奏会		20	水	春分の日	総合型AⅣ・BⅢ・一般B入試 専攻科Ⅱ期入試	
21	水				21	木			
22	木				22	金			
23	金	天皇誕生日			23	土			
24	土				24	日			
25	日		日本音楽・ギター演奏会	一般型入試	25	月			
26	月			演劇研修	26	火			
27	火				27	水			
28	水				28	木			
29	木			↓ (~3/6)	29	金			
					30	土			
					31	日			

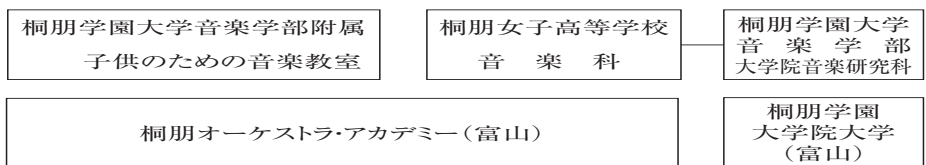
1940年	山下亀三郎氏の献金により財団法人山水育英会が設置され、本学設立の基礎がつけられた。
1941年 3月	山水育英会を母体として、本学現在地に山水高等女学校を設立する。(他に府下北多摩郡国立町168に山水中学校)
1947年 4月	終戦によって山水育英会は東京教育大学(当時は文理大・高師)に経営を移管、同大学に深い関係をもつ財団法人桐朋学園に改編される。
1948年 4月	新学制による桐朋女子高等学校(普通科)・同中学校が併置。
1951年 3月	私立学校法の施行に従って、財団は学校法人となる。
1952年 4月	高校に音楽科が付設される。
1955年 4月	短期大学音楽科ができ、一方普通科には小学校・幼稚園が設置される。
1961年 4月	音楽科に4年制大学(桐朋学園大学音楽学部)が設立される。
1964年 4月	桐朋学園大学短期大学部(文科・音楽科)が設立される。
1966年 4月	短期大学部の音楽科が廃止され、芸術科(音楽専攻・演劇専攻)として再編成される。
1968年 4月	専攻科演劇専攻が設置される。
1988年 4月	文科に日本文化・欧米文化の専攻課程を設置する。
1994年 4月	専攻科に音楽専攻、地域文化研究専攻を設置する。
2004年 4月	名称を桐朋学園芸術短期大学に変更し、芸術科に新たにステージ・クリエイト専攻を設置する。
2005年 9月	文科を廃止する。
2006年 3月	専攻科地域文化研究専攻を廃止する。
2006年 4月	専攻科にステージ・クリエイト専攻を設置する。
2014年 3月	芸術科ステージ・クリエイト専攻、専攻科ステージ・クリエイト専攻を廃止する。
2018年 4月	専攻科が独立行政法人大学評価・学位授与機構の認定を受ける。

学校法人 桐朋学園の機構

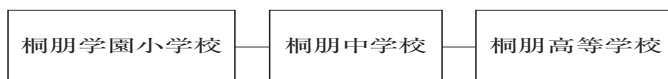
1 女子部門
(調布市)



2 音楽部門
(調布市・富山市)



3 男子部門
(国立市)



1 建学の精神・ 教育目的

桐朋学園の教育は、高名な哲学者であり、戦後日本の教育改革の担い手であった、東京文理科大学の務台理作学長（桐朋学園女子中・高等学校長）による教育理念「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い個性を伸長する」に基づいており、本学はこれを建学の精神と定めている。また、教育目的を「教育基本法および学校教育法に従い、芸術文化の専門的な研究と教育とに取り組み、現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」とし、桐朋学園の特色である専門的な高等教育としての芸術教育を展開している。

2 音楽専攻の 教育

【芸術科音楽専攻】

芸術科音楽専攻は、音楽に関わる専門教育その他を通して、豊かな感性を培い、職業および人間形成に必要な能力の育成を目指している。徹底した実技指導と、少人数クラス制のきめ細かな講義により、幅広い分野で活躍する人材を送り出すことを目標としている。

専門的学習成果

- (1) 専門実技、音楽理論、ソルフェージュ等の演奏表現に必要な基礎を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、演奏表現の向上に向けて多面的に考察し、判断していくことができる。(思考・判断)
- (3) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。(関心・意欲)
- (4) 自らの音楽的な知識、経験をもって社会におけるニーズに応えることができる。(態度)
- (5) 演奏家、指導者としての基礎的な演奏技術と表現能力を持ち、自分の想像した表現を実現することができる。(技能・表現)

汎用的学習成果

- (1) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。(関心・意欲)
- (4) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。(態度)
- (5) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。(技能・表現)

ディプロマ・ポリシー

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者

の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

(1) 楽譜を読み取る力

音楽理論、ソルフェージュ、音楽史等の基本を習得し楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。

(2) 演奏表現

個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身につけるための実践的な力を養う。

(3) アンサンブル

古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

アドミッション・ポリシー

(1) 専門実技、音楽理論における知識と基礎的な理解力を有する者。(知識・理解)

(2) 楽典、ソルフェージュ、和声理論等を体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲を持っている者。(思考・判断)

(3) 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)

(4) 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブル等に積極的に参加できる者。(態度)

(5) プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。(技能・表現)

【専攻科音楽専攻】

専攻科音楽専攻は、学科の教育課程の上に立って、専門領域を体系的・系統的に学び、現在の高度化した音楽界の実情に対応できる知識と技術を獲得することを目的とする。

演奏家、指導者を育成すると共に、音楽療法、アウトリーチの実践を通し、社会において教育、福祉等様々な分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。

学習成果

(1) 音楽を中心とした芸術全般の知識、音楽理論、歴史等を体系的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための音楽的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。(知識・理解)

(2) 時代に即した演奏表現を獲得すると共に、同時代から求められている最先端の演奏表現等を取り入れることができる。(思考・判断)

(3) 同時代における最先端の演奏表現、創造行為の動向に関心を払い、自らもそれに参入することができる。(関心・意欲)

(4) 他者との協働に積極的に関わり、自らの音楽経験、知識をもって教育、福祉、文化活動等、社会的なニーズに応えると同時に、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。(態度)

(5) 演奏家、指導者としての確かな演奏技術と表現力を持ち、音楽による表現、創造活動の意義を社会に伝えることができる。(技能・表現)

ディプロマ・ポリシー

実践力・応用力を備え、広く音楽分野で活躍できる人材になるため、専攻科の教育課程の学修を通して科目の単位を修得し、専攻の定める修了の要件を満たした者に修了証書を授与する。

カリキュラム・ポリシー

専攻科は、芸術科音楽専攻の2年間の教育課程の上に立って、演奏家、指導者を育成すると共に、音楽療法、アウトリーチの実践を通し、社会において教育、福祉等様々な分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。そのため以下の三項目を軸として2年間の専攻課程を組んで具体化していく。

(1) 音楽の理論と歴史

音楽を中心とした芸術の理論と歴史を発展的に学び、楽曲に込められた意味を体系的に分析する能力、また作曲された時代の歴史的背景を読み取り演奏に活かす力を養う。

(2) 演奏表現

個人レッスンを中心に、時代に即した演奏表現、技術力を身につける。

(3) アンサンブル

ジャンルにとらわれない多種多様なコラボレーションに柔軟に応じることができる能力を獲得する。

アドミッション・ポリシー

- (1) 専門実技、音楽理論における基礎的な知識と理解力があり、さらにそれを発展させようという意欲を持つ者。(知識・理解)
- (2) 演奏表現、音楽史等を多面的に考察し、積極的に学ぶ意欲を持つ者。(思考・判断)
- (3) 芸術のみならず社会の諸事情に関心を有し、音楽を通して社会に参加し、貢献する意欲を持つ者。(関心・意欲)
- (4) 専門実技、アンサンブル等を通し他者と積極的に関わり、その中でも主体性をもって意欲的に学ぶ態度を有する者。(態度)
- (5) プロフェッショナルな演奏家、指導者を目指し、その技能習得に要する理解力と表現力を有する者。(技能・表現)

3 演劇専攻の教育

【芸術科演劇専攻】

芸術科演劇専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、演劇芸術における表現の基本を体得することを目標としている。

専門的学習成果

- (1) 演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。(知識・理解)
- (2) 演劇、歌唱、舞踊等の表現手段を用いて、他者と共に課題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。(関心・意欲)

- (4) 集団の中で協働の役割を果たすことができ、演劇的な技術、知識をもって地域社会および国際社会のニーズに応えることができる。(態度)
- (5) 俳優、表現者としての基礎的な技能を持ち、自分の想像した表現を実現することができる。(技能・表現)

汎用的学習成果

- (1) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。(関心・意欲)
- (4) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。(態度)
- (5) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。(技能・表現)

ディプロマ・ポリシー

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

芸術科演劇専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- (1) 戯曲を読み解く力
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。
- (2) 身体訓練
声も含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。
- (3) アンサンブル
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

アドミッション・ポリシー

- (1) 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。(知識・理解)
- (2) 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。(思考・判断)
- (3) 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。(態度)
- (5) 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。(技能・表現)

【専攻科演劇専攻】

専攻科演劇専攻は、学科の教育課程の上に立って、専門領域を体系的・系統的に学び、現在の多様化した演劇界の実情に対応できる知識と技術を獲得することを目的とする。

俳優、表現者を育成すると共に、国際交流や地域連携の活動を通し、広く演劇分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。

学習成果

- (1) 演劇を中心とした舞台芸術の理論、歴史等を発展的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための演劇的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
(知識・理解)
- (2) 自ら設定した課題を、理論や歴史を元に、演技、歌唱、舞踊、パフォーマンス等の表現手段を用いて、他者との関わりを深めながら解決していくことができる。(思考・判断)
- (3) 社会における演劇、ひいては芸術の存在意義を考え、自らの表現活動を積極的に実践することができる。(関心・意欲)
- (4) 集団の中で協働性を持ち、進んでリーダーシップをとり、地域社会および国際社会のニーズに応じて、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。(態度)
- (5) 専門俳優、表現者としての確かな技能と表現力を持ち、演劇を中心とした舞台芸術の意義を社会に伝えることができる。(技能・表現)

ディプロマ・ポリシー

実践力・応用力を備え、広く演劇分野で活躍できる人材になるため、専攻科の教育課程の学修を通して科目の単位を修得し、専攻の定める修了の要件を満たした者に修了証書を授与する。

カリキュラム・ポリシー

専攻科演劇専攻は、芸術科演劇専攻の2年間の教育課程の上に立って、幅広い教養とより高度な専門性を兼ね備えた専門俳優および表現者の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現を発展的に体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の専攻課程を組んで具体化していく。

(1) 舞台芸術の理論と歴史

演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を発展的に学び、広い視野に立って表現活動を行う力をつける。

(2) 劇作・演出・演劇教育

劇作、演出、演劇教育の理論を実践的に学び、舞台を構成する力を養う。

(3) 演技・実技

様々な演技メソッドと実技を体得し、それを舞台上の表現に発展させる力を養う。

アドミッション・ポリシー

- (1) 専門俳優または表現者としての基礎的な知識と経験を有しており、さらにそれを発展させる意欲を持つ者。(知識・理解)
- (2) 身体能力と知的好奇心を有し、自らの課題に取り組み、表現の創造に熱意を持つ者。(思考・判断)

- (3) 芸術のみならず社会の諸事情に関心を有し、演劇を通して社会に参加し、貢献する意欲を持つ者。(関心・意欲)
- (4) 集団における創作能力があり、協調性と同時に独創性を有する者。(態度)
- (5) 専門俳優または舞台芸術の表現者(劇作家、演出家、ミュージカル俳優、指導者等)を目指し、その技能習得に必要な理解力と表現力を有する者。(技能・表現)

4 アセスメント・ポリシー (学習成果の評価の方針)

桐朋学園芸術短期大学では、学習成果のアセスメント(査定)を「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)」「アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)」に基づき、機関レベル(全学レベル)、教育課程レベル(専攻レベル)、科目レベルの三段階で実施する。

【検証の方法】

	APに基づく検証	CPに基づく検証	DPIに基づく検証
機関レベル (全学)	各種入学試験 調査書の記載内容 入学前学習(課題) 取組状況 短期大学生調査	GPA 休学率・退学率 自己評価アンケート 学生生活満足度調査 学生会・自治会活動状況 桐朋祭参加率 地域貢献活動状況 国際交流活動状況 短期大学生調査	学位授与率 GPA 取得単位数 進路決定率 卒業生アンケート 進路先アンケート 短期大学生調査
教育課程レベル (専攻)	各種入学試験 調査書の記載内容 入学前学習(課題) 取組状況 高校教員アンケート	GPA 取得単位数 授業評価アンケート 【音楽専攻】 演奏会アンケート 【演劇専攻】 劇上演実習アンケート	学位授与率 GPA 取得単位数 進路決定率 卒業生アンケート 進路先アンケート
科目レベル		成績評価 授業評価アンケート 【音楽専攻】 特別演習アンケート 実技試験フィードバック 【演劇専攻】 実技公開試験アンケート 演技発表会アンケート 試演会アンケート	【音楽専攻】 第一実技卒業試験 卒業演奏会アンケート 【演劇専攻】 卒業公演アンケート

1 教育課程

教育課程とは、本学の教育目標を達成するために、その教育内容を、必要単位数の設定および学修時期の適切な配置も含め、系統的にまとめたものである。

本学の教育課程は、教養科目と専攻科目によって構成されている。

教養科目は、各専攻の枠を越え、共通して必要となる基礎的知識や語学の習得を目的とした科目であり、3つの区分（キャリア教育、一般教養、語学）から成る。専攻科目は音楽、演劇各専攻の理念目的達成のために開講する専攻独自の科目である。それぞれの現場に直結した実践的な教育内容になっており、専門的内容をより深く学ぶことができる。

2 単位

(1) 授業科目を通年または前・後期履修し、その試験等に合格した者には所定の単位を与える。

(2) 1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、そのうち大学における授業時間数は、学則第33条に、講義・演習・実習・実技等について各々定められている。

(3) 各授業科目の単位数は、「講義概要 別表」に記されている。

(4) 履修登録単位数の上限（通称：CAP制度）

各学期に登録できる単位数には上限が設けられている。これは、1単位を修得するために必要な学修時間、授業時間と充足な自習時間（予習・復習）を確保し、1つの科目の理解を深めるためである。各学期20単位を上限とする（ただし、集中講義（演劇専攻科目「劇上演実習A（試演会）」「劇上演実習B（卒業公演）」を除く）、教職課程科目は除く。この場合も単位取得のために十分な自習時間（予習・復習）を確保すること）。上限単位数を参考にし、無理のない履修計画を立てるようにすること。

成績優良者（直前半期のGPA3.0、3.2以上の者）については、下記のとおり履修登録単位数の上限を超えて、履修登録科目を認める。

直前半期のGPAが3.0以上	22単位まで
直前半期のGPAが3.2以上	24単位まで

※長期履修生に関しては、半期13単位までとする。また成績優良者に付与される上限緩和はない。

3 学修の評価

(1) 受験資格

出席が授業時数の3分の2に満たない場合および授業料を期限までに納入しない場合は、原則として受験資格を失う。

(2) 成績の認定基準

成績は100点を最高とし、50点以上を認定、50点未満を不認定とする。また、試験を無断で欠席した場合は不認定とする。

(3) 評価の基準

学科成績	評 価
100 — 90	S
89 — 80	A
79 — 60	B
59 — 50	C
50未満	D

(4) GPA (Grade Point Average) について

本学では、GPA制度を学修指導等に活用する。学生が自らの学業成績の状況を的確に把握し、それに基づいて適切に履修計画を立て、主体的に学修を進めていくことを目的としている。

GPAはそれぞれの評価にGP(Grade Point)を与え、学生個々の履修科目のGPにその科目の単位数を乗じ、その合計を履修登録科目の総単位数で除することによって算出する。ただし、既修得単位・単位互換履修科目等の認定科目、教職に関する専門科目は算出の対象とならない。

$GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の合計} \div \text{履修科目単位数の合計}$

評価	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

(5) 履修登録単位数の上限の緩和

GPAに基づき、優れた成績を修めた者については、履修登録単位の上限を一定数引き上げる。

(6) 卒業判定の基準にGPAを用いる。

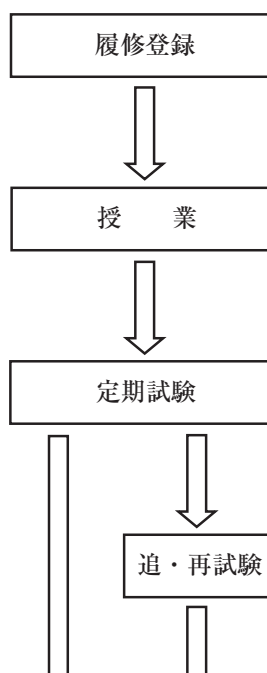
基準はGPA1.0以上とする。

4 卒業の要件

(1) 本学を卒業するためには、2年以上在学し、学則第36条に定めるように62単位以上を修得しなければならない。

(2) 本学を卒業するための最低修得単位数は、音楽専攻・演劇専攻共に62単位であるが、履修条件は専攻によって異なる。「講義概要」別表4「卒業の要件」参照。

5 履修登録から単位認定まで

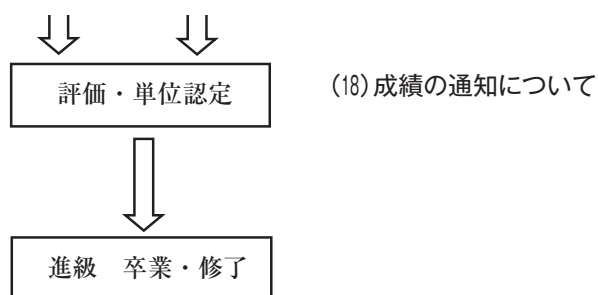


- (1) 履修登録について
- (2) 既修得単位の認定について
- (3) 単位互換について

- (4) 校時について
- (5) Google Workspace for Educationについて
- (6) 休講について
- (7) 補講について
- (8) LA(レッスンアシスタント)による補習について
- (9) 集中講義について
- (10) 教科書・教材の購入について

- (11) 定期試験について
- (12) レポート提出について
- (13) 実技試験について

- (14) 追試験について
- (15) 再試験について
- (16) 追試験・再試験の受験手続きについて
- (17) 試験における不正行為について



(1) 履修登録について

- ①履修登録はWebフォームにて行う。アクセス用URLは各学期始めに配布・掲示をする。

学籍番号（半角数字7桁）※出席番号ではありません！*

回答を入力

氏名*

回答を入力

専攻・学年を選択してください*

選択 ▼

次へ

- ②URLにアクセスし，最初の画面で学籍番号・氏名を入力し，専攻学年を選択すること。専攻学年によって選択できる科目が異なるため，専攻学年の選択間違いに注意すること。
- ③Webフォームにて登録後の科目の追加・取消および変更は，別に設ける訂正期間内に手続きをすること。期間外の訂正は原則として認めない。また指定期日までに登録しなかった学生は，受講資格が取り消される場合がある。登録までの期間が短いので，ガイダンスには必ず出席し，「講義概要」を参考に早めに履修計画を立てること。
- ④履修の上限は各学期20単位を基準として登録すること。（ただし集中講義および教職科目は除く）

⑤音楽専攻実技レッスン時間登録票について

音楽専攻の実技レッスンは、担当教員と個別に時間を設定するので前述の履修登録方法とは異なり、レッスン時間決定後、所定の用紙に記入をし、担当教員の確認印をもらい、4月の開講後2週間以内に教学課へ提出すること。

音楽専攻実技レッスン時間登録票	
音楽1年 1番 桐 朋子	
第一 実 技	主科実技名 曜日 時 分～ 時 分 (時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>
第二 実 技	※履修する実技を○で囲むこと ピアノ 管楽器 (フルート クラリネット オーボエ ファゴット サクソフォン ホルン) 声楽 (トランペット トロンボーン) ギター 弦楽器 (ワイオリン ヲイオリン チェロ コントラバス) 日本音楽 (箏 三味線 琵琶 尺八 笛 囃子) 作曲 曜日 時 分～ 時 分 (時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>
副 科 実 技	※履修する実技を○で囲むこと ピアノ 管楽器 (フルート クラリネット オーボエ ファゴット サクソフォン ホルン) 声楽 (トランペット トロンボーン) ギター 弦楽器 (ワイオリン ヲイオリン チェロ コントラバス) 日本音楽 (箏 三味線 琵琶 尺八 笛 囃子) 曜日 時 分～ 時 分 (時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>

上記票中の第二実技、副科実技で履修する実技を○で囲むこと、(時限)の欄にはレッスン時間が含まれる時限(「(4)校時について」参照)を記入すること。

なお第二実技の履修を希望する場合は、上記時間登録票の他に第二実技履修申込書を提出し、履修料を別途納入すること。

⑥演劇専攻歌唱(個人レッスン)について

演劇専攻の歌唱(個人レッスン)は、担当教員と個別に時間を設定するので、前述の履修登録方法とは異なる。

Webフォームにて申し込み後、履修料を別途納入する必要がある。詳細については、Classroomを通して知らせる。

(2) 既修得単位の認定について

既修得単位とは、本学に入学する前に他の短大または大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を指す。これら入学前の既修得単位について、本学における授業科目の履修により修得したものとしてみなすことを既修得単位の認定と言う。(短期大学設置基準第16条)

本学では、学科、各専攻ごとに既修得単位の限度を決めている。芸術科の内訳は以下のとおりとする。

【音楽専攻】14単位 【演劇専攻】12単位
(いずれも専攻科目を除く)

専攻科の内訳は以下のとおりとする。

【音楽専攻】科目区分：作曲・理論・音楽史，音楽教育の中から10単位まで

【演劇専攻】劇上演実習を除く10単位まで

既修得単位の認定を希望する学生は，教学課にある所定の用紙に記入し，在籍した大学等の単位修得証明書あるいは成績証明書を添えて4月の開講後1週間以内に提出すること。なお，この認定は1年次のみである。

※注 音楽専攻・専攻教養科目の「音楽基礎演習－バロック・ダンス」「音楽理論基礎」は認定の対象とならない。

(3) 単位互換について

本学は，桐朋学園大学音楽学部と単位互換の制度を有している。音楽学部が開放している授業科目の履修に便宜を図り，一定の条件の下で，その授業科目の履修による取得単位を，本学における修得単位と同等に取り扱うことを行っている。科目や履修については別途連絡する。

なお，当単位もCAP制の対象となる。

(4) 校時について

本学の校時は年間を通して次のとおりである。

第Ⅰ時限 8:40～10:10

第Ⅱ時限 10:20～11:50

第Ⅲ時限 12:40～14:10

第Ⅳ時限 14:20～15:50

第Ⅴ時限 16:00～17:30

(5) Google Workspace for Education について

本学では授業運営に活用できるツールのひとつとして，Google社のGoogle Workspace for Educationを導入している。Google Classroomを始め，Gmail，Google Meet，Google ドキュメント等のGoogleサービスや教育機関向けツールを利用することができる。また，授業のレポート提出，履修登録やアンケート等でも使用するため，漏れのないよう小まめに確認をすること。なお，アカウント・パスワードを第三者に教えることは固く禁ず。

(6) 休講について

学校行事や授業担当者のやむを得ない事情により授業が行えない場合は，掲示および本学ホームページで連絡する。

(7) 補講について

休講等による，授業の未消化や授業時間数の不足を補うために前期・後期のそれぞれ決められた期間内に授業を行う場合がある。

補講を行う科目，日程等についてはそれぞれの期間の2週間前までに掲示で連絡する。

(8) LA (レッスンアシスタント) による補習について

授業内容のさらなる充実・質の向上のため、LAによる補習を実施する。
今年度のLA補習対象科目は下記のとおり。

- ジャズダンスA
- ジャズダンスB
- ジャズダンスC
- ミュージカルトレーニングA・B

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと。なお、LA補習への参加状況・受講態度も成績評価の材料となる。

(9) 集中講義について

授業科目によっては通常の週1回という形をとらずに、前期・後期の決められた期間内に集中して授業を行うものがある。（「講義概要」参照）

日程等はそれぞれの期間の2週間前までに掲示で連絡する。

(10) 教科書・教材の購入について

①教科書の購入

「講義概要」に使用する教科書名が記載されている。購入については、研究室で購入できる場合と、指定書店において、学生が各自購入する場合がある。購入についての指示は掲示等ですので注意すること。

②演劇専攻で使用する袴、扇等の購入

演劇専攻の学生は授業料と一緒に教材費を納入しているので、袴・狂言扇・日舞扇・メイク道具一式・舞台製作の道具類等は本学で一斉に購入している。袴は「狂言」の授業時間に採寸し仕立ててもらう。

(11) 定期試験について

定期試験は、原則として、前期・後期共に行事予定表に示された試験期間中に、通常授業と同じ時間帯（コマ）で実施する。

試験の有無、方法等については、試験期間の2週間前までに掲示発表するので、必ず確認すること。

なお、追試験・再試験については後述（14）、（15）を参照のこと。

不正行為が認められた場合は、厳正に対処し、懲戒を行うことがある。

(12) レポート提出について

筆記試験に替えて、レポート提出を課す科目については、担当教員の指示した様式に従い、決められた期日・方法にて提出すること。

なお、剽窃（他人の文章を盗用すること）が認められた場合は、厳正に対処し、懲戒を行うことがある。

郵送や宅配便での提出は、教員宛て・教学課宛てを問わず一切認めない。また、提出期限に遅れた学生については、担当教員の了解を得られた場合のみ、追試験手続きの上、提出を認める場合がある。

提出されたレポートは原則として返還しないので、必要があればコピーをしておくこと。

(13) 実技試験について

音楽専攻の実技試験については、試験期間とは別の日程（「行事予定表」参照）で実施する。詳細については適宜掲示で指示する。なお試験に先立って「レッスン受講票」の提出を求めるが、指定期間内に提出しなかった学生は追試験扱いとする。また、同受講票を紛失し、再発行する場合は2,000円を徴収する。

演劇専攻の実技試験は、特に指定のない限り試験期間中の通常のコマで行う。歌唱の個人レッスンの試験は、試験期間とは別の日程で実施することがある。詳細については適宜掲示で指示する。

なお、歌唱の個人レッスンについては、試験に先立って「レッスン受講票」の提出を求めるが、指定期間内に提出しなかった学生は追試験扱いとする。

また、「レッスン受講票」に改ざんが認められた場合は、懲戒等厳正な対処を行う。

(14) 追試験について

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けられなかったり、レポートを提出できなかった場合は、担当教員が許可した場合について、追試験を受けることができる。その日時は教員が指定する。学生からの日時変更希望は一切受け付けない。

(15) 再試験について

定期試験の結果不認定となった科目について、担当教員が許可した場合のみ、再度試験を行う。

再試験での認定の評価は「C」とする。

(16) 追試験・再試験の受験手続きについて

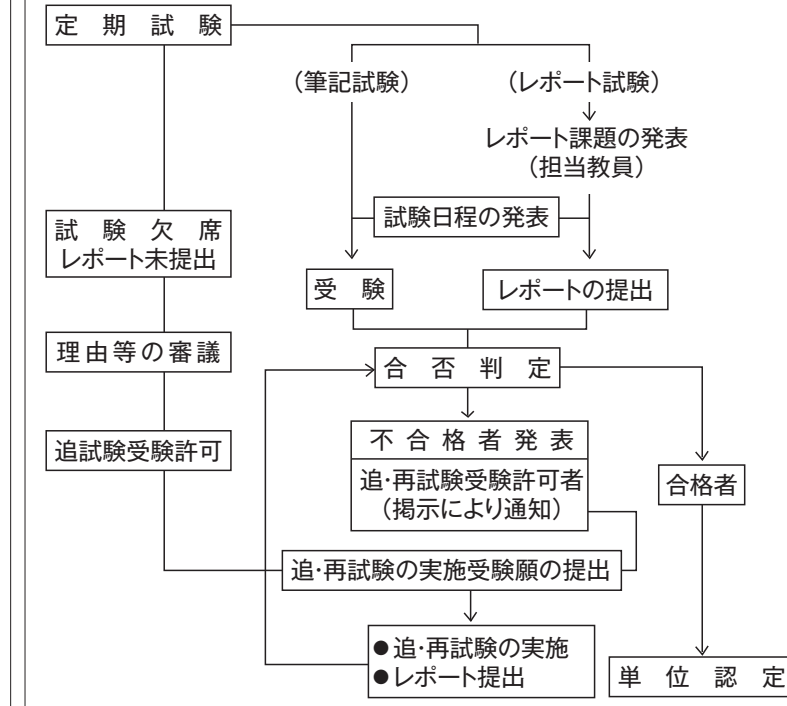
教学課で「追・再試験願」と「受験手数料の納入用紙」を受け取り、必要事項を記入し、追試験・再試験手数料（1科目2,000円）を納入する。

(17) 試験における不正行為について

試験で不正行為が認められた場合、当該学期の当該科目の単位は不認定とする。また、学生の本分に反する行為として懲戒等厳正な対処を行うものとする。

(18) 成績の通知について

前期成績表は後期開講時に教学課で配付する（ただし9月に行われる集中講義の成績は除く）。1年終了時の成績表は2年次前期開講時に、卒業・修了時の成績表は卒業・修了式に配付する。



6 教育職員免許状 「音楽」の取得 について

- (1) 音楽専攻では、一定の条件のもとに教科に関する科目および教職に関する科目等を履修して必要単位を修得することにより中学校教諭二種免許状（音楽）を取得することができる。
- (2) 免許状の取得を希望する者は、卒業要件を充たした上で、教職に関する科目28単位以上、教科に関する科目24単位以上、および専攻教養科目を修得しなければならない。これは、「教育職員免許法施行規則」に定める基礎資格および授業科目・単位数に基づいて本学が定めたものである。（「講義概要」別表5参照）

〈参考〉「教育職員免許法施行規則」に定める基礎資格および教科に関する科目と最低修得単位数、教職に関する科目と最低修得単位数は次の通りである。

A. 基礎資格

大学に2年以上在学し、62単位以上を修得すること（本学所定の課程を修了していること）。

B. 教科に関する科目（音楽）及び最低修得単位数

• ソルフエージュ	1 単位
• 声 楽（合唱及び日本の伝統的歌唱を含む）	1 単位
• 器 楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む）	1 単位
• 指揮法	1 単位
• 音楽理論・作曲法（編曲法を含む）及び音楽史 （日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	1 単位
	計10単位以上

C. 教職に関する科目及び最低修得単位数

• 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）	2 単位
• 教育の基礎的理解に関する科目	9 単位
• 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 単位
• 教職実践演習	2 単位
• 教育実習（事前および事後の指導）	5 単位
• 教育実習	5 単位
	計28単位

- (3) 免許状を取得するには、1年次より2年次にかけて履修する「教育実習」をはじめ、集中講義による履修等の学習の負担が大きく、また、費用もかかるので、安易な気持ちでの教職課程の履修はすすめられない。下記の(6)「教育実習Ⅱ履修の条件について」(7)「教育実習Ⅱにかかわる出欠の取扱いについて」および(9)「受講料について」の項をよく読むこと。
- (4) 免許状は、本学在学中に、必要な資格・要件を充たした者について、所轄官庁に申請して取得することとなる。申請に係る事務は大学が一括して行うので、連絡や指示をきちんと守ること。
- (5) 本学における中学校教諭2種免許状取得の要件は「講義概要別表7」のとおりである。

(6) 「教育実習Ⅱ」履修の条件について

「教育実習Ⅱ」を履修することのできる者は、次のとおりである。

- ①将来、教職に就くことに、確固とした意志がある者。
- ②第1年次に開設されている教職に関する科目・教科に関する科目の単位を修得した者。
- ③「音楽科教育法」の評価がB以上の者。なお、「第二実技（ピアノ）」「副科実技（ピアノ）」の評価がC以下の者は、教職委員会において不適格とする場合がある。
- ④当該年度中に、当該免許取得の要件の全てを充足し得る見込みのある者。
- ⑤教育実習に関するガイダンス・「教育実習Ⅰ」（事前指導）の全てに怠りなく出席した者。
- ⑥本学の指示する諸規則および実習校・当該教育委員会の定める諸規定に違反した者、学業成績および修学態度等が著しく悪い者、介護等体験において教職履修の適格性欠如と判断される者については、教職委員会において不適格とする場合がある。
- ⑦教育実習に関する諸連絡、諸手続き等を定められた期間内に行わず、再度にわたり注意を受けた場合も、教職委員会において不適格とする場合がある。

(7) 「教育実習Ⅱ」に係る出欠の取扱いについて

「教育実習Ⅱ」に係る出欠の取扱いは、次の場合に限り公認欠課とする。

- ①指定された教育実習期間
- ②実習校および当該教育委員会より事前に招集を受けた日
- ③健康診断について、日時、場所等が指定された場合
- ④実習校が遠隔の場合は、教育実習期間の前後1日に限り、期間に加えることができる。

〔公認欠課の手続き〕

教学課において、所定の願書に必要事項を記入して受付印を受けた後、当該授業科目担当教員に提出する。

(8) 介護等体験について

小学校および中学校教諭の普通免許状の取得要件として「介護等体験」が義務づけられている。

介護等体験とは、18歳に達した後、7日間を下らない範囲内において盲学校、聾学校もしくは特別支援学校または社会福祉施設その他の施設において行う介護等の体験実習を指す。

なお、介護等体験期間にかかわる出欠の取扱いは公認欠課とする。手続きは前項の「教育実習Ⅱ」に準ずる。

(9) 受講料について

教職に関する科目を受講しようとする者は、受講願を教学課に提出し、受講料を納入すること。

また、介護等体験のうち、社会福祉施設での体験については実費を徴収する。(2022年度、東京都の施設の場合1日あたり2,090円、神奈川県の場合1日あたり2,095円、埼玉県の場合1日あたり1,600円、千葉県の場合1日あたり1,500円)

教科	音楽
教職に関する科目受講料	80,000円
介護等体験	10,450円 (東京都)
	10,475円 (神奈川県)
	8,000円 (埼玉県)
	7,500円 (千葉県)
教育実習を除いた科目受講料	45,000円

2023年度の介護体験費用については改定される場合がある。

- (10) 教職課程受講者は、副科実技2科目を100,000円で受講できる。

7 長期履修制度 (芸術科音楽専攻)について

- (1) 長期履修制度とは芸術科音楽専攻の修業期間を3年間に延長して、2年間分の学費(一部別途徴収)で、計画的に学ぶことができる制度のことをいう。

専攻	標準 修業年限	長期履修制度	
		修業年限	在学年限
芸術科音楽専攻	2年	3年	4年

- (2) 対象者 入学時満22歳以上の者。
- (3) 申込手順
- ①入学後、「長期履修ガイダンス」に出席し、指定する期日までに「長期履修申込書」を提出すること。
 - ②担当教員のアドバイスを受けながら長期履修計画を作成し、履修登録を行う。
- (4) その他
- ①第一実技(主科実技)は、3年間レッスンを行うこととする。卒業試験は3年目修了時とする。なお、3年目の第一実技履修料は別途徴収する。また、副科実技・第二実技についても、3年間での選択の仕方によって、追加履修料がかかることがある。
 - ②原則として、在学中の修業年数の短縮・延長は認めない。
 - ③中学校教諭二種免許状(音楽)を取得することが可能である。
- ※教職課程には3～4週間の教育実習や、7日間の介護等体験が必要であるが、これらについては通常の修業期間で学ぶ他の学生と同様の扱いとなる。
- ※「教育実習ⅠⅡ」については、後半の2年間で行うことを条件とする。

8 科目等履修生 について

- (1) 科目等履修生とは、本学の学生以外の者で1つまたは複数の授業科目を履修する者のことを言う。(短期大学設置基準第17条)
- (2) 科目等履修生として本学の授業科目の履修を希望する者がある時は、学則第51条に基づき認められることがある。
- (3) 履修できる授業科目については、募集要項と一緒に配付する。
- (4) 詳しくは、P.52「科目等履修生規程」を参照すること。

9 研究生に ついて

- (1) 研究生とは、本学専攻科音楽専攻および専攻科演劇専攻を修了した者で、さらに専修実技等の授業科目を履修する者のことを言う。本学では科目等履修生に準ずる。
- (2) 詳しくは、P.54以降の「音楽専攻研究生規程」および「演劇専攻研究生規程」を参照すること。

10 海外研修旅行 について

(1) 音楽専攻

1999年度より始まった音楽専攻の海外研修旅行は、今年で25年目を迎える。この研修旅行は欧米の音楽大学等での実技レッスン研修を中心に据えたプログラムから成っている。

これまでに実施した研修機関は、米国ボストン大学芸術学部音楽科、英国トリニティ音楽大学（ロンドン）、ドイツ国立フライブルク音楽大学、リューベック音楽大学、デトモルト音楽大学、ベルギー王立メッヘレン・カリヨン専門学校、ポーランド国立ショパン音楽アカデミー、そしてハンガリー国立リスト音楽院、ケチケメート・コダーイ音楽教育研究所、オーブダ民俗音楽学校である。以下は年度別の訪問国および研修機関等の一覧である。

実績年度	訪問国	研修機関	研修分野
1999年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/声楽
2000年度	ドイツ/フランス	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/声楽
2001年度	ハンガリー/ オーストリア	国立リスト音楽アカデミー	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽
		国立コダーイ音楽教育研究所	コダーイ音楽教育システム入門
2002年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽
	アメリカ	ボストン大学芸術学部音楽科	フルート
2003年度	英国/ ベルギー/ フランス	トリニティー音楽大学 (ロンドン)	声楽/ピアノ/室内楽/ヴァイオリン ヴァイオリン/フルート/クラリネット
		王立カリヨン専門学校 (メッヘレン, ベルギー)	カリヨン体験ワークショップ
2004年度	ハンガリー/ スロヴァキア/ オーストリア/チェコ	国立リスト音楽アカデミー	声楽/ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/チェロ
		国立オーブダ民俗音楽学校	マジヤール伝統音楽ワークショップ
2005年度	ドイツ/イタリア	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽/その他 参加学生の専修ジャンルに配慮
2006年度	ポーランド/ チェコ/ドイツ	国立ショパン音楽アカデミー	ピアノ/フルート/その他
			参加学生の専修ジャンルに配慮
2007年度	ハンガリー/ ルーマニア	国立リスト音楽アカデミー 同アカデミー民俗音楽科	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他 マジヤール伝統音楽ワークショップ
2008年度	ドイツ/フランス	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2009年度	ポーランド/エストニア/ ロシア/フィンランド	国立ショパン音楽アカデミー	ピアノ/フルート/その他
			参加学生の専修ジャンルに配慮
2010年度	ドイツ/オーストリア	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2011年度	チェコ/オーストリア/ ハンガリー	ブラハ芸術アカデミー	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/ チェロ/その他
2012年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2013年度	ドイツ	リューベック音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2014年度	ハンガリー	リスト音楽院	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2015年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2016年度	チェコ	ブラハ芸術アカデミー	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/チェロ/その他
2017年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2018年度	ハンガリー/ オーストリア/ ポーランド	リスト音楽院	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2019年度	ドイツ/チェコ	国立デトモルト音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他

本場の風土に身を置き現地で経験豊かな教授陣のレッスンに接すること、加えてそこに学ぶ各国の学生との積極的な交流は、単に音楽研鑽という視点

に留まらず、国際感覚を磨く上でも貴重な体験となっている。

ただし、新型コロナウイルス感染状況により、昨年度は開催不可能と判断し、中止することとなった。今年度以降については、状況を見て実施の可否を判断する。

(2) 演劇専攻

演劇専攻の創設者の一人である故千田是也教授の日中演劇交流への貢献により、1982年に中国演劇研修旅行が実現して以来、演劇専攻では毎年10日間程度の日程で海外研修旅行を実施している。

研修では、演劇大学等相手国の演劇高等教育機関を訪問し、現地の学生と共に授業やワークショップに参加する等して、体験を通じてその国の演劇の特色を理解している。近年、交流を行った機関としては、イギリスの王立演劇院(RADA)、ドイツのエルンスト・ブッシュ演劇学校、オーストラリアのNIDA(国立演劇大学)、北京の中央戯劇学院、ブルガリアのNATFA(国立演劇映画学院) ミラノのテアトロ・アルスナーレ、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのルースムース・シアター、アイルランドの国立演劇学校等が挙げられる。例年、海外研修は3月に実施している。

また、近年、ITI-UNESCO(国際演劇協会)、WTEA(世界演劇教育連盟)、ATEC(アジア演劇学校教育センター)、APB(アジア太平洋支局)等が開催する演劇フェスティバルにも積極的に参加してきた。

本年度の海外研修については、新型コロナウイルスの感染状況を見て、実施の可否を判断する。

11 学生による 授業評価 について

本学では前期末・後期末に「学生による授業評価」を実施している。これは本学で開設されている授業に対して、学生がどのように評価しているかを、アンケートを行って把握していこうというものである。履修者が5名以下の科目・集中講義・LA科目・実技レッスンを除く開講科目を対象として行われる。

この「学生による授業評価」の目的は、学生から寄せられる授業に関する率直な意見に耳を傾け、今後のより良い教育内容・教育方法・教育環境を、授業担当教員はもとより全学を挙げて作り出していこうというところにある。

学生からの回答に対しては、本学が委託した学外の専門業者が集計し、統計処理等を施す。そして授業担当教員と本学とが、それぞれに関わる情報を受領する。本学が受領した統計処理結果等については公表し、学生の閲覧にも供している。

1 学生生活

(1) 掲示について

必要な連絡・通知事項は掲示やGoogle Classroomで行うので必ず確認すること。よって、何かの提出物について、それらを見ていなかったと言う理由で、提出を免除されたり、延期を認められたりすることはない。

なお、掲示内容は、原則として掲示してから1週間で全員に周知されたとみなす。

(2) オフィスアワー

授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯(何曜日の何時から何時まで等)のことをオフィスアワーと言う。本学では、専任教員について各学期当初に掲示にてその時間帯を伝える。その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができる。

(3) 学内駐輪について

通学する際に徒歩以外は、電車・バス等の公共交通機関によることを原則としているが、やむを得ず自転車やオートバイで通学する場合は、次の条件で短大駐輪場(短大新館南側)の使用を認めている。

- ①「駐輪場使用許可願」を教学課に提出し、許可を受ける。
- ②「駐輪許可証」(ラベル)を発行するので、自転車やオートバイの見えやすい部分に貼る。
- ③「駐輪許可証」の効力は、申請年度の年度末までとする。(1年ごとに更新を必要とする)
- ④許可なく駐輪している場合は撤去、処分する。

(4) 個人ロッカーについて

本学は、学生に対して個人ロッカーを貸与している。各自の責任で清潔に使用すること。

- ①1人1ロッカーを貸与するので、鍵は各自で用意する。
- ②貴重品は楽屋等に置いたままにせず、ロッカーに鍵をかけ保管すること。各自で責任を持って管理すること。ロッカーに鍵をかけなかった場合の事故等には学校は一切の責任を負わない。
- ③ロッカーの上に物を置かない。
- ④卒業時は指定する期限(掲示にて連絡する)までに各自私物を整理し持ち帰ること。それ以後残っているものは廃棄処分する。

(5) 会議室の使用について

学生の休憩や談話のための場所として会議室がある。使用に当たっては次のことに注意すること。なお、現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から使用を制限しているが、状況が改善すれば制限を緩和する。

- ①使用時間 8:15~21:30(休日・祝日および長期休暇中は閉鎖)
- ②飲食はできるが、片付けは各自が責任をもって行うこと。
- ③マナーを守って、皆が気持ち良く使用できるようにする。
- ④本学の会議・行事等で使用できない場合がある。

(6) 学内での飲食の場所について

学内の飲食できる場所は、次のとおりである。片付けは必ず行うこと。

- ①学生食堂（混雑時の11:00～13:00は持ち込み利用不可）
- ②2102教室（昼休時11:50～12:40のみ）
- ③会議室（利用方法は(5)参照）
- ④ロビーおよび各階フロアーのテーブルが置いてある場所

(7) 環境の保持（施設・備品・ごみ等）について

- ①学園の施設・備品は大切に扱うこと。もし破損等した場合は、直ちに教学課に届け出ること。事情によっては弁償を請求することがある。
- ②教室の備品を移動して使用する場合は、教学課に「備品借用願」を提出して、許可を受けること。
- ③ごみは「可燃物」と「不燃物」（ビニール・プラスチック・発砲スチロール等）と「ビン・カン・ペットボトル」に分けて所定のごみ箱に捨て、学内の美化に努めること。

また、スプレー缶を捨てる場合は、必ず穴を開けてから捨てること。器具は旧館1階通路と新館地下1階にある。

(8) 喫煙・飲酒について

校舎内外共に、全面禁煙である。なお、学内での飲酒は禁止である。

(9) アルバイトについて

本学ではアルバイトの斡旋は行っていない。ただし、企業等からの求人案内は進路相談室にある。

アルバイトは学業等に支障のない範囲で行い、求人企業、仕事の内容、給与等の勤務条件をよく確認し、トラブルのないよう十分注意すること。またアルバイトで何かおかしいと感じることがあったら、学生・安全対策委員会に報告すること。

(10) 落し物・忘れ物の取扱い

キャンパス内で落し物を拾得した場合は、教学課窓口へ届け出ること。
また、落し物・忘れ物をした場合は、教学課窓口まで問い合わせること。
※持ち主が明らかな場合：呼び出し掲示・電話等で連絡する。
持ち主不明の場合：届けられた日から6ヶ月間保管する。
(教学課前の展示ケースに展示)

(11) キャンパス・ハラスメント等の防止について

本学は、大学におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントおよびその他のハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント等」という。）を、学生・教職員一人ひとりの人権を侵害し、適切な教育環境の場を阻害するものとして捉え、これに対して厳しい姿勢で臨んでいる。

本学では、常勤・非常勤を問わず、本学に在職する教職員と学生との間、および本学の学生同士の間には、常に教育環境上の関係があるものとみなす。よって大学におけるキャンパス・ハラスメント等は、正課の授業時間中の大学構内における場合にとどまらず、課外活動や学外を含むあらゆる場合のそ

れを意味する。

1. キャンパス・ハラスメント等とは

(1) セクシュアル・ハラスメント

ア. 学生・教職員または関係者が、意図するか否かにかかわらず、性差別的または性的な言動によって、相手を不快にさせる行為

例：性的な噂を流したり、人を傷つける性的な内容の冗談を言ったりすること。

性的な文書や画像等の掲示や提示をすること。

相手が望まない飲食等にしつこく誘うこと。

不必要に身体に触れること。

イ. 学生・教職員または関係者が、利益もしくは不利益を与えることを利用して、または利益を与えることを代償として、相手に性的な誘いまたは要求をする行為

例：成績評価等と引き換えに、性的要求を迫ること。

(2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の勉学・研究意欲や研究環境を害する言動または行為

(3) パワー・ハラスメント

職場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の就労意欲や就労環境を害する言動または行為

(4) その他のハラスメント

学生・教職員または関係者が、他の学生・教職員または関係者に飲酒の強要、喫煙にまつわる不法行為、SNSを含め誹謗・中傷・風評の流布等により人権を侵害したり不快にさせたりする行為

2. キャンパス・ハラスメント等を起こさないために

キャンパス・ハラスメント等は、大学の構成員である教職員および学生の相互の人格の尊重と良識ある生活態度によって防止されるものである。

だれもがキャンパス・ハラスメント等を受ける可能性があると同時に、だれもがキャンパス・ハラスメント等を起こしうる可能性もあることを自覚し、日頃から、次のような姿勢を心がけることが重要である。

(1) 日常生活において男女間の対等な関係を形成すること

(2) いやなことははっきりと意思表示すること

(3) お互いに誤解を招かないように、より良いコミュニケーションを心がけること

3. 被害にあったときの対処方法

実際に被害にあったときには、決してひとりで悩んだり、泣き寝入りしたりせず、以下の対処を心がけること。

(1) 相手に、自分が「望んでいない、不快である」ことをはっきりと伝える。

- (2) いつ、どこで、誰からどのようなことをされたかについての詳しい記録をとる。
- (3) その場を目撃した人がいる場合は、その人にその時自分が何をされていたかについての確認をとっておく。
- (4) 身近な信頼できる人に相談する。
- (5) 学内の相談窓口等に申し出る。

4. 被害を訴えた人への本学の対応

本学は、「キャンパス・ハラスメント等の防止等に関する規程」に基づき、キャンパス・ハラスメント等防止委員会および相談窓口を設置し、被害を訴えた人にとって不利益になることがないことを保証し、被害を訴えた人のプライバシーを最大限に尊重しつつ、可能な限り当該者が望むことへの手助けを行う。

防止委員会は、相談窓口寄せられる事例について、キャンパス・ハラスメント等であるか否かの判断を行い（必要に応じて、別に調査委員会を組織することもある）、キャンパス・ハラスメント等と判断した場合は、速やかに学長に報告し、その指示に基づき、関係部署と協議し、適切な措置を講ずる。

■ キャンパス・ハラスメント等相談窓口

相談員は学生・安全対策委員が兼任する。

相談申込方法については、オフィスアワーに準拠する。

(12) 新型コロナウイルス等感染症について

新型コロナウイルス・インフルエンザ・麻疹・風疹・感染性胃腸炎等の感染症であると診断された場合は、出席停止になる。新型コロナウイルスに感染した場合は、「行動記録表」等所定の様式により、速やかに学校へ報告をし、医師や保健所の指示に従うこと。

インフルエンザ等その他の感染症の場合、完治後医師の指示に従い治癒証明書またはインフルエンザ治癒確認書を研究室に提出すること。これらは本学のホームページ（保健室のページ）よりダウンロードすることができる。なお、新型コロナウイルスの場合は、治癒証明書等は不要。

授業、レッスンについては各担当者に個別に申し出ること。定期試験についても通常の追再試験手続きではなく別対応になる。

(13) 忌引について

忌引はない。扱いについては各授業、レッスン担当者に個別に申し出ること。

2 課外活動

(1) 課外活動

- ① 学生が学内でクラブ・サークル等の団体を結成しようとする場合は、1ヵ月前までに「部活動設立申請書」（所定用紙）により、学長の許可を得なければならない。
- ② 学生関係の団体もしくはその他の学外団体の行事に参加する場合には、1週間前までに学生・安全対策委員会に「行事参加許可願」（様式任意）を提出し、許可を受ける。
- ③ クラブ活動等による上演は、桐朋祭等の学内発表に限る。

- ④学生が団体で行動する場合は事前に学生・安全対策委員会に願い出て許可を受ける。
- ⑤学内にて掲示または印刷物の配布をする時は、事前に学生・安全対策委員会に願い出て許可を受ける。
- ⑥クラブ活動等は授業の妨げにならぬように注意する。

(2) 学外出演について

音楽専攻・演劇専攻の学生が、学外の演奏会や演劇等に出演する場合は、P.55以降の「学外演奏発表規則」「学外出演規則」に従って所定の手続きを行う。出演許可願の用紙は各研究室にある。

(3) 「桐朋祭」について

桐朋祭は各専攻学生会・自治会が中心となり、学生の日頃の授業成果の発表の場として、あるいは、研究発表の場として催されている。

参加を希望する学生および団体は各学生会・自治会に企画書を提出する。以後、企画が進む中で企画代表者会議が開かれ必要事項が確認される。なお、以下について十分留意すること。

- ①桐朋祭には、本学学生以外の一般の来訪者が多いので、安全対策・感染症対策には特に気を配る。また、本学はあらゆる宗教的・政治的諸団体の学内における諸活動（情宣や勧誘等）は一切認めていない。
- ②本学の備品を使用する場合には、「備品借用願」、火気を使用する場合には、「火気使用願」、模擬店を出す場合には、多摩府中保健所に「行事開催届」を提出する必要がある。学園は、調布消防署に「催物の開催届出書」を提出する。
- ③企画で外部者を要請する場合は、「外部出演者等の届」を提出し、保険加入を行う。

※「備品借用願」「火気使用願」等の提出書類は教学課にある。

3 証明書・諸届

(1) 学生証（IDカード）について

学生証は在学期間中有効のものが入学時に交付されるので、現住所・通学区間の欄を記入し、写真を貼付して速やかに教学課で契印を受ける。学生証は通学時等、常に携行し、卒業・退学等で学籍がなくなった場合は直ちに返納する。もし、紛失した時は、直ちに教学課に届け出て再交付を受けること。次のような場合、提示を求められることがある。

- 教室使用の申込みをする時
- 定期試験を受ける時
- 通学定期券を購入する時
- 学生旅客割引証（学割証）を使用する時
- 成績表を受け取る時
- その他

また、学生証はIDカードとしても使用している。本学園は保安対策の一環として、身分を判別できるように学生および教職員にはIDカードの着用が義務付けられている。登校した時は必ず着用すること。

(2) 諸届・諸願、証明書の発行について

長期欠席や休学または退学をする場合は事前に専攻主任と相談の上、書類等を提出する。

①諸届

(a) 住所変更届

住所を変更した場合、学生証を添えて教学課へ提出する。

(b) 改姓届

改姓した場合、住民票の抄本と学生証を添えて教学課へ提出する。

(c) 保証人（住所）変更届

保証人に変更があった場合、または保証人の住所に変更があった場合、教学課へ提出する。

(d) 公認欠課届

教育実習・介護等体験の時、教学課へ提出する。

(e) 欠席届（様式任意）

長期にわたる欠席が予想される場合には、必要に応じて欠席届を教学課へ提出する。病気による欠席の場合には診断書を添える。

	証明書種類	金額
1	成績証明書	400円
2	成績証明書（英文）	1,000円
3	卒業証明書	200円
4	卒業証明書（英文）	600円
5	卒業見込証明書	200円
6	在学証明書（在籍証明書）	200円
7	在学証明書（在籍証明書）（英文）	600円
8	推薦書	400円
9	人物考査書・人物証明書・身上調査書	400円
10	人物考査書・人物証明書・身上調査書（英文）	1,000円
11	学生証（身分証明書）再発行	2,000円
12	単位修得証明書	400円
13	単位修得見込証明書	400円
14	学力に関する証明書	400円
15	教員免許状取得見込証明書	200円
16	健康診断書	400円

②諸願

(a) 退学願

事前に専攻主任に相談の上、教学課へ提出する。

(b) 休学願

病気による場合は、診断書を添えて教学課へ提出する。

(c) 復学願

病気による休学から復学する場合には、診断書を添えて教学課へ提出する。

なお、上記の願書は学長の許可を受けた後、その旨、本人および保証人あてに通知する。

③証明書の発行

各証明書等の発行を必要とする場合は、教学課に交付願を提出し、手数料を納入する。原則2営業日後（英文は6営業日後）に交付願控を提示して受け取る。

健康診断書については、受診した年度内のみの発行となるため、注意すること。

長期休業中は受渡し日時を掲示で別に連絡する。

なお、手数料は上記のとおりである。

④通学定期券・学生割引について

(a) 通学定期券について

通学定期券を購入する時は、電車・バス等の駅等に備えつけの定期券購入申込書に学生証を添えて購入する。

なお、新入生は学生証に写真の貼付・契印がなくても4月中は購入できる。

(b) 学生割引について

鉄道等を利用して101km以上を移動する場合、学割証を使用すると運賃の一部が割引きされる。

学割証を必要とする時は教学課に学生証提示の上、交付願を提出し、2営業日に交付願控と引き換えに受け取る。なお、学割証の交付枚数は、

原則として一人年間10枚である。

長期休業中は受渡し日時を掲示で別に連絡する。

※証明書等を申し込み後3カ月以上、受け取りに来ない場合は、無効とし廃棄する。

4 学費

(1) 学費について

①授業料等は、学則第45条に定められた期間に納入すること。

- 前期は4月16日より4月30日まで（新入学生は入学手続日）
- 後期は9月16日より9月30日まで

②施設維持費、学生諸料、各専攻の演習費・実習費は授業料に準じて、年2期に分けて納入する。

③納入方法は、前もって保証人に郵送される本学園指定の振込用紙による銀行振込とする。

④事情により、納入期限を延ばしたい場合（延納）は、期日までに所定の願書を教学課へ提出すること。

詳細はP.56「学費の滞納・延納の処理に関する手続きについて」による。

5 福利厚生

(1) 奨学金・教育ローン

①奨学金

学生生活を経済的に援助するものとして、各種の奨学金制度がある。

個々の奨学金制度には趣旨、選考基準、金額、返還の有無等に違いがあるので、希望者はそれぞれの特徴をよく理解した上で申し込むこと。

なお、奨学金のうち「貸与」は卒業後返還が必要な奨学金、「給付」は返還の必要がない奨学金である。

(a) 日本学生支援機構の奨学金

日本学生支援機構

第一種奨学金（無利子貸与）・第二種奨学金（有利子貸与）・給付奨学金

日本学生支援機構（略称JASSO）は、教育の機会均等に寄与するために修学の援助を行い、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成を目的に設立された独立行政法人である。

奨学金は、経済的理由により修学に困難がある、優れた学生を対象としており、無利子で貸与される「第一種奨学金」と、有利子で貸与される「第二種奨学金」の2種類および返還不要の給付奨学金がある。

なお、貸与奨学金・給付奨学金共に2023年度入学生で予約採用候補者となっている者は「採用候補者決定通知（進学先提出用）」を入学後、速やかに短大事務室（教学課）に提出すること。

〈貸与奨学金〉

貸与額：第一種 自宅通学／月額

20,000円 30,000円 40,000円 53,000円

自宅外通学／月額

20,000円 30,000円 40,000円 50,000円 60,000円

第二種 20,000円～120,000円（10,000円刻み）から希望月額を選択

募集時期：第一種，第二種共に，学内での定められた期間に申込書類を配付し，その書類に基づき学内審査の後，機構に推薦する。また，第一種，第二種共に，年収・所得および学業成績に一定の基準がある。

申込書類配布：4月上旬（日時・場所は別途通知）

※注1 貸与額は，2023年度以降変更される可能性がある。

※注2 上記の定期採用以外に「緊急採用（無利子貸与）」、「応急採用（有利子貸与）」があり，家計支持者が失職・破産・倒産・病気・死亡，または火災・風水害等により家計急変が生じ，緊急に奨学金が必要になった場合に申込みが可能。（ただし，事由が発生したときから1年以内）

〈給付奨学金〉

大学や専門学校等の高等教育を一部無償化する制度が2020年4月から開始され，本学はその対象校として認定されている。世帯収入の基準の他，諸条件を満たしていれば，世帯収入によって定められた3つの区分および通学形態（自宅通学・自宅外通学）に応じた金額の給付を受けることができる。また，給付奨学金の対象となれば，授業料・入学金も減免される。

※制度の概要については以下URL参照。

→ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/

※収入の基準の確認については以下URL参照。

→ <https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

(b) 本学独自の奨学金

桐朋演劇奨学会奨学金（給付）

演劇専攻には，有志の寄附金を財源に，成績優秀にして，本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とした奨学金制度が設けられている。（P.57「桐朋演劇奨学会規程」参照のこと）

対 象：芸術科演劇専攻2年次生および専攻科演劇専攻生

給 付 額：半期授業料相当分または半期授業料の半額相当分

募集人数：若干名

募集時期：年2回（前期，後期各1回）

※本年度の募集期間，提出書類等の詳細は決定次第学内に掲示する。

桐朋音楽奨学会奨学金（給付）

音楽専攻には，有志の寄附金を財源に，成績優秀にして，本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とした奨学金制度が設けられている。（P.58「桐朋音楽奨学会規程」参照のこと）

対 象：芸術科音楽専攻2年次生および専攻科音楽専攻生

給 付 額：半期授業料の半額相当分

募集人数：若干名

募集時期：年2回（前期，後期各1回）

※本年度の募集期間，提出書類等の詳細は決定次第学内に掲示する。

被災学生支援奨学金（給付）

東日本大震災および熊本地震が原因で被災した学生に対して経済支援として奨学金を支給する。（P.59「桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程」参照のこと）

(c) 地方公共団体の奨学金

都道府県や市町村により、地元出身者・地元高等学校卒業者等を対象とした奨学金制度を設けているところがある。詳しくは、都道府県・市町村の教育委員会まで問い合わせること。

(d) 民間育英団体等の奨学金

本学学生の採用実績があるのは次の奨学金である。

福島育英会奨学金（給付）

財団法人福島育英会は、音楽関係大学生のうち、学業、人物共に優秀かつ健康であって、経済的理由によって修学の困難の学生に奨学金を支給し、我が国音楽界の発展のために寄与する人材を育成するために設立された公益法人である。

対 象：東京都に居住する芸術科音楽専攻1年生
(収入・所得および学業成績について基準がある)

給 付 額：月額75,000円

募集人数：2名（学内審査の後、育英会に推薦する）

募集時期：9月頃

※2023年度新規募集については未定（給付額、募集人数は2022年度実績）

ホリプロ文化芸能財団奨学金（給付）

給 付 額：月額30,000円（6ヵ月分ずつ年2回給付）

一般財団法人ホリプロ文化芸能財団は、株式会社ホリプロ創業者である堀 威夫により2014年4月に設立された。文化芸能の振興を担う人材を育成するため、映画・音楽・演劇・テレビ番組等のエンターテインメントの製作に携わるプロデューサーや、タレントを発掘・育成しマネージャーを志す学生を支援することを目的とした奨学金である。

対 象：芸術科2年生

募集時期：3～4月頃

選考・採用方法：一次選考は書類審査（課題作文（指定）、活動計画申請書（指定）等）。
二次選考は面接。

守谷育英会（給付）

給 付 額：月額80,000円（専攻科生は月額120,000円）

一般財団法人守谷育英会は株式会社守谷商会により1972年11月に設立された。東京都内の高校・大学等に在学している有為の学生のうち、学術優秀・品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し奨学援助を行い、以って社会有用の人材を育成することを目的とした奨学金である。

対 象：芸術科および専攻科1・2年生

募集時期：4月頃

選考・採用方法：一次選考は書類審査（願書、成績証明書、推薦書等）。
二次選考は面接。

なお、以下の奨学制度については各個人が直接申込みを行う（募集開始期間含む）。詳細、応募方法は各団体のホームページ等で確認すること。

財団法人ヤマハ音楽振興会 音楽奨学支援（給付）

給 付 額：月額200,000円

※2023年度の募集は終了している。2024年度の募集・詳細については、財団ホームページを参照。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 奨学生(給付)

給付額：月額300,000円

※2023年度の募集は終了している。2024年度の募集・詳細については、財団ホームページを参照。

公益財団法人 富山文化財団 奨学生(給付)

公益財団法人富山文化財団の奨学金は「楽しく豊かな遊び文化」「子供の遊育と健やかな成長」「日本のものづくり」の創造を目指し、夢の実現に向けて学び励む学生の支援を目的としている。

対象：芸術科および専攻科1・2年生

給付額：年間300,000円

募集時期：6～7月頃

※2023年度新規募集については未定（給付額、募集時期は2022年度実績）

②教育ローン

(a) 提携学費教育ローン

本学では、主な学費負担者となる保護者（保証人）の一時的な経済的負担軽減のため、簡単な手続きで利用できる学費の分納制度を、株式会社オリエントコーポレーション（以下、オリコ）、株式会社セディナ、楽天銀行会社の3社と提携し案内している。

これは、入学金・授業料・実習費・教材費等の納付金を提携会社が立て替え、申込者より毎月分割で口座振替により納付する制度である。

返済の利率は年3.7%（固定2023年3月現在）。他、制度の概要、詳細については以下の各社ホームページ等で確認すること。

○株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク

☎ 0120-517-325 営業時間 9:30～17:30（土日祝日を除く）

○株式会社セディナ カスタマーセンター

050-3827-0375 営業時間 9:30～17:00（土日祝日を除く）

○楽天銀行 カードセンター 教育ローン専用ダイヤル

☎ 0120-61-6910

受付時間 平日9:00～19:30 土日祝日9:00～17:30

(b) 国の教育ローン

入学・在学時にかかる諸費用を対象に、学生の保護者（保証人）が低利で融資を受けられる「国の教育ローン」制度がある。応募条件・手続詳細については、下記問い合わせ先にて確認すること。

取扱機関名：日本政策金融公庫

融資限度額：350万円

返済期間：18年以内

金利：年1.95%（固定金利）

※母子家庭、父子家庭または世帯年収200万円（所得132万円）以内の方または子ども3人以上の世帯かつ世帯年収500万円（所得356万円）以内の方は1.55%

（2022年11月1日現在）

問い合わせ先

教育ローンコールセンター TEL 0570-008656

日本政策金融公庫「国の教育ローン」HP

(c) その他の教育ローン

銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、JA等が取り扱う教育ローンについては、それぞれで融資限度額・利率・返済期間等融資条件が異なる。詳細については各金融機関に直接問い合わせること。

(2) 学生教育研究災害傷害保険制度について

本学は、教育研究活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」に芸術科・専攻科学生および研究生が加入している。

①保険金が支払われる事故の範囲

被保険者が在籍する大学の教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の事故による身体の傷害を被った場合に保険金が支払われる。事故発生時および不明な点は保健室に申し出ること。

教育研究活動中とは次の場合

- (a) 正課中（講義、実験・実習、演習または実技による授業等）
（教職免許取得にかかる、教育実習、介護等体験等）
- (b) 学校行事中（入学式、オリエンテーション、卒業式等教育活動の一環としての各種学校行事）
- (c) (a) (b) 以外で学校施設内にいる間
- (d) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

②保険金の種類等（2023年度）

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
「正課中」 「学校行事中」	2,000万円	120万円～3,000万円	治療日数 1日以上が対象 3,000円～300,000円	1日につき 4,000円
「課外活動（クラブ活動）を行っている間以外で学校施設にいる間・通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中」	1,000万円	60万円～1,500万円	治療日数 4日以上が対象 6,000円～300,000円	
・学校施設内外を問わず、課外活動（クラブ活動）を行っている間			治療日数 14日以上が対象 30,000～300,000円	

※保険金が支払われない場合（例：故意、疫病等）もある。

※保険料は本学が負担する。

③学研災付帯賠償責任保険について

本学では、国内外において、学生が、正課・学校行事・教育実習等での課外活動およびその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償するための「学研災付帯賠償責任保険」に芸術科・専攻科学生および研究生が加入している。この保険で対象となる事故が発生した場合には、直ちに保険会社に連絡し、保健室へも事故についての報告をすること。

詳細については、「学研災付帯賠償責任保険加入者のしおり」を参照すること。

④学研災付帯学生生活総合保険について

本学では、学生教育災害傷害保険に全員加入しているが、さらに任意で

補償を拡大した保険に加入することができる。

4月に配布されるパンフレットを参照の上、申し込み希望者は、直接パンフレットに記載されている取り扱い代理店に問い合わせること。

(3) 学生食堂・購買部等の利用案内

①学生食堂

○営業時間 平日 11:00～14:00

なお、学生食堂(ホール)は8:00～21:00の間(日曜を除く)開いているので、営業時間以外も談話等で利用ができる。ただし、厨房への立ち入りや食堂備品の使用、また、楽器演奏、演劇・ダンス等の稽古、携帯電話等の充電は厳禁である。利用後はごみの片付けや整理・整頓に心がけること。

○場 所 短大旧館地下(170席)

○電子レンジの利用について

各自責任をもって大事に取り扱うこと。

電子レンジに関する質問や意見は、食堂ではなく教学課に申し出ること。

②購買部

○営業時間 平日 8:05～15:40(13:00～14:00昼休み)

○場 所 短大正面向かい校舎(本館)1階

○販売品目 文房具を中心に、おにぎりも扱っている。なお、おにぎりは10:00までに予約が必要。

※購買部の隣で、パン・飲み物を平日・土曜日共に11:00～14:00まで販売。

③コピー・サービス

○コピー機設置場所 短大旧館2階

○利用方法 コインキットによる現金払い

○利用料金 1枚10円 カラー50円

○コピー可能用紙サイズ B5・B4・A4・A3

○パソコンデータの印刷 USBメモリーを差し込み印刷することが可能である。

○その他 (a) 著作権に注意して複写すること。

(b) 図書館の図書は、図書館で複写すること。

(c) 現金の両替は原則、教学課では行わない。

(d) 用紙の補給やトラブル等は教学課に申し出ること。

④パソコン利用

○パソコン設置場所・台数 短大旧館2階・4台

○印刷 パソコンからコピー機に出力するか、コピー機にUSBメモリーを差し込み印刷することが可能。ただし、USBメモリーから印刷する場合は、対応ソフトで作成したデータに限る。

※上記①学生食堂、②購買部は仙川キャンパス内各学校の共有・共用施設である。そのため学校行事等に関連して一部利用が制限される場合もあるので注意すること。

6 学内諸施設、 機関の案内

(1) 図書館

本学図書館は北館にあり、図書、雑誌、視聴覚資料（DVD・CD等）を所蔵している。資料は必要に応じ、規程に準じて借りることができる。辞書・事典類、雑誌の最新号、映像資料等は、館内のみでの利用となる。

学外者の利用はできないので、入館の際は、本学学生であることを示す図書館利用カード（学生証でも可）の提示を求めている。利用カードは入学時のガイダンスで、冊子「図書館利用案内」と共に配付する。利用カードがないと館外貸出が受けられないので、卒業時まで各自で保管すること。

なお卒業後も、館内利用（閲覧）は可能である。その際は、氏名の確認ができる物を持参の上、来館すること。

その他、利用についての詳細は、P.50「図書館利用規程」や、配布される「図書館利用案内」を参照のこと。学習の場として、在学中に大いに活用してほしい。

なお本学学生は、桐朋学園大学附属図書館（短大旧館4階、調布キャンパス共）の利用が可能である。利用の際には、学生証を持参して利用登録を行うこと。

(2) 桐朋教育研究所について

桐朋教育研究所は、桐朋学園女子部門の教育活動がより一層円滑に、そして活性化するように、様々な方向から研究し、考察し、そして実践に向けて提言している機関である。教育がより幅と深みのあるものとなるためにも、教職員がより充実した研究・研修ができるような環境を用意することにも知恵を絞っている。更に、社会の動向と切り離すことのできない教育の性格を考慮して、学園と社会との接点として、情報の集約および発信にも心を砕いている。

以下、短大生に関係する教育研究所の活動を紹介する。

① 学園機関誌「桐朋教育」の編集・発行

日々の学園の教育活動がどのように行われているのかを、本来の学園の教育理念とどのように結びつけたものなのか、という視点で検証しつつ、広く社会に紹介し、批判を求める。そのような場が、年一回刊行される「桐朋教育」である。特集記事、入学試験の実際、普段の活動の様子、卒業後の進路の状況等の記事で構成されている。グラビアページは、学園生活の様子がビジュアルで紹介され、生き生きとした光景が毎年見られる。

② 「桐朋講座」の企画・運営

保護者や卒業生、卒業生の保護者、そして在校生等、主に学園関係者を対象に、各種の講座を開設し、運営に当たっている。外国語会話教室、趣味や教養等、30を超える講座が、セミナーハウスを拠点に、活発に活動している。学術的な色彩の強い内容の講座には、教員が受講しているケースも見られ、時間が許せば、短大生も受講することが可能である。

なお、受講に際しては所定の受講料金が必要である。

③ 学術資料の収集・管理

全国各地の大学や研究機関との間で、研究紀要の交換を行っている。従ってリアルタイムで各種の学術論文に触れることができる。学習や研究活動に有用なものも数多くあり、希望者には、閲覧や貸し出しも行っている。

④ 本学園関係の様々な資料の保存・管理

創立以来80年を超える本学園の歴史の証人とも言える各種資料（文書に限らず、写真やスライド等の画像、映画やビデオ等の映像も含めて）が教育研究所に集約され、管理されている。調布市の歴史の編纂等、学園外か

らも貴重な資料として利用されている。

⑤教育研究所・セミナーハウスの開設時間は、

月曜日～金曜日 9:00～16:30

土曜日 9:00～16:00である。

(日曜日、祝祭日および中高部の長期休業期間は閉鎖される。)

※桐朋教育研究所への問い合わせは、03-3300-2119へ

(3) 総合保健体育センター（含む保健室）について

①短大校舎の南側に総合保健体育センターがあり、演技発表会の稽古等をここで行うことがある。

このセンターは、短大を始め、高校・中学・小学校および音楽大学の学生・生徒等の共用施設なので利用の仕方をよく知っておくこと。

②保健室について

保健室は体育センター1階に位置し、中学・高校（女子）と場所を共有している。通常養護教諭が対応に当たり、保健衛生管理等を目的とし次の業務を行っている。

(a) 定期健康診断

本学では、4月のガイダンス時に健康診断を実施している。全員必ず受診すること。検査項目は、1年生が胸部X線検査、尿検査（蛋白・糖・潜血）、血液検査（貧血・脂質）、内科検診、身体測定（身長・体重・視力）を実施し、2年生および専攻科は、尿検査（蛋白・糖・潜血）、内科検診、身体測定（身長・体重・視力）を実施している（教職課程履修者の希望者のみ、実費にて胸部X線検査可能）。

(b) 健康相談

健康相談を希望する場合は、保健室まで申し出ること。本人の希望により相談場所や日程等を決定する。

(c) アクセシビリティ支援相談窓口について

アクセシビリティ支援の相談をしたい時は、事前に「アクセシビリティ支援相談受付票」に記入の上、各専攻主任または保健室まで申し出ること。「アクセシビリティ支援相談受付票」は、4月当初の保健室配布資料に同封している。短大旧館1階ロビーの学生部掲示板前ロッカー上にも置いてあるので、各自で取って利用すること。

(d) 短大保健室通信

「短大保健室通信」を4月はガイダンス時に全員に配布し、他の月については掲示をしている。（学生・安全対策委員会の掲示板に掲示）

(e) 救急処置

保健室では、傷病についての救急処置を行っている。基本的に内服薬の使用はしていない。近年、薬に対するアレルギーの学生が増えたこと、症状を抑えることによる症状の悪化等がその理由である。

外科的なことに関しては、アイシング（水で冷やす）や、症状により2次的処置を行っている。

(f) 学生教育研究災害傷害保険に関する手続きについて

学内・学外および通学中事故に遭った場合は、保険会社に事故発生日から30日以内に届出をしなければならない（30日以内に届出をしない場合、保険の適用を受けられない場合がある）事故が発生した場合は、直ちに保健室へその旨を申し出ること。

通院または入院した治療日数により、保険申請ができない場合がある。授業中や休憩中等、状況により申請に必要な治療日数が異なる。入学時に配布される「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とP.34「(2) 学生教育研究災害傷害保険制度について」を参照すること。

また、学研災付帯賠償責任保険および学研災付帯学生生活総合保険については、P.34を参照すること。

③スクールカウンセラーについて

学園内にて、スクールカウンセラー（臨床心理士）との面談日が設けられている。プライバシーは完全に守られるので、安心して面談を受けることができる。面談の申し込みは保健室を通しての完全予約制となる（スクールカウンセラーに急用が生じた場合等、緊急を要する際にその旨を連絡するため名前を申し出てもらっている）。

詳細は以下の通りである。

(a) 面談申し込み方法：完全予約制のため、保健室を通しての申し込みとなる。面談をキャンセルする場合は、必ず保健室に連絡すること。

なお、面談の申し込みおよびキャンセルについては保健室の直通電話でも受け付けているので、来訪が無理な場合は下記に連絡すること。

☎保健室直通電話 03-3300-4295 平日（月～金）8:15～16:20

（土）8:15～12:40

(b) 面談日・面談時間：毎週火～土曜日

10:40～17:00（12:20～13:20は除く）

※ただし、長期休業中は原則的に休室。また、臨時に休室となる場合がある。

※同じ時間帯に中高生も相談日が開設されており、面談希望者が多い時は予約が取りにくい場合もある。一人当たりの面談時間は約45分。

(c) 面談場所：セミナーハウス2階の203教室。場所はP.295で確認すること。

④短大カウンセラー・コミュニケーションサポートの相談窓口について

学校生活を送る中で、学生同士、また授業等での主にコミュニケーションにおいてメンタル面や身体面で悩みを抱え困っている学生に対して、カウンセラーとは別にサポートする窓口を設けている。豊富な経験を積んだベテランの担当者が相談に乗る。ケースによって必要であれば精神科の専門の先生につないだり、また授業担当者や保健室等と連携を取りながら適切な対応する。

(a) 申し込み：教学課窓口での予約制（原則）

(b) 相談日：不定期（カウンセラーと相談）

(c) 場所：短大会議室等およびオンライン

(4) 八ヶ岳高原寮について

「いまだこの地には 語られざる詩がある 見えざる絵がある 聞こえざる歌がある（後略）」

今から約60年前、故生江義男元本学学長が、八ヶ岳高原寮の開設にあたって詠まれた詩の一節である。当時に比べて、建物は木造から鉄筋コンクリートに変わり、周囲の環境も道路が整備され、観光に避暑に訪れる人も多くなってきたが、それでも高原寮を取巻く自然環境は未だ豊かであり、人々の心を

惹きつけている。

八ヶ岳高原寮では、年間を通じ、短大の演劇専攻の合宿授業を始め、高等学校・中学校・小学校の合宿活動、クラブ合宿や補講等が実施されている。

また、短大を含めた在学生・卒業生、その家族の方も利用できる。ただし、前述の通り、桐朋学園女子部門の学生・生徒・児童の教育活動のための施設なので、教育活動の期間以外の利用となる。その他詳細については、毎年4月にお知らせする「八ヶ岳高原寮の利用案内」を確認し、その趣旨を理解の上、利用すること。なお、問い合わせ等は本館事務室で取り扱っている。

所在地	〒409-1501 山梨県北杜（ほくと）市大泉町西井出8240-2
電話	0551-38-2106（管理人 玉川裕之）
FAX	0551-38-2164
交通	JR中央線小淵沢駅にて小海線に乗換え、2駅目の『甲斐大泉駅』下車、徒歩40分またはタクシー10分

7 学園生活の 安全と環境の 向上のために

- (1) 桐朋学園女子部門仙川キャンパス内の各学校には、安全対策委員会とそれぞれの代表委員で構成される保安委員会が設置されている。
これらの委員会では次のような諸業務を行うことにより、園児・児童・生徒・学生・教職員の安全で快適な学校生活の確保に努めている。
 - ①校舎および諸施設の使用の許可・規制等の管理
 - ②火気使用（暖房器具も含む）の許可・規制等の管理
 - ③学内駐輪場使用の許可・規制等の管理
 - ④火災、地震、風水害に対する防災対策全般
 - ⑤学内生活環境の施設設備に関すること全般
 - ⑥その他、安全対策上必要な対応並びに諸規則の作成と指導
- (2) 保安委員会より「安全で快適な学校生活のために」（抜粋）
 - ①校舎内外を問わずキャンパス内は全面禁煙である。
 - ②自動車の校内乗り入れは禁止されている。
 - ③駐輪は短大駐輪場以外は禁止されている。希望者は許可手続き（P.24参照）が必要である。
 - ④休業中も含めて教室等の使用は、必ず事前に定められた手続きを行って使用すること。（P.60～参照）
 - ⑤教室等の使用にあたっては、照明・空調等使用施設の後始末を確実に行うこと。
 - ⑥貴重品は各自が責任を持って管理すること。ロッカーに鍵をかけなかった場合の事故等には、学校は一切の責任を負わない。
 - ⑦不審者を見たり異常を感じたら、些細なことでも速やかに近くの教職員に知らせること。（P.299参照）
 - ⑧キャンパスには幼稚園の園児や小学校の児童が生活している。よって弱者の安全確保には十分留意すること。
 - ⑨その他、お互いに安全で快適な生活ができるよう自覚を持って行動するように心がけること。

学園各校門の開閉時間

	通常	土曜日	日祝・閉鎖期間中	長期休暇中(月～土)
	開門時間	開門時間	開門時間	開門時間
正門	7:25～18:00	7:25～17:00	閉鎖	8:30～16:00
「自動車通用門」脇の 夜間等通用門	6:30～7:25	6:30～7:25	6:30～22:00	6:30～8:30
	18:00～22:00	17:00～22:00		16:00～22:00

※東門，初等部通用門は終日閉門

Ⅲ. 卒業後の進路について

Toho Gakuen College of Drama and Music

1 進路相談室について

本学では，進路相談室が設けられており，学生の卒業後の進路（就職，進学，フリーランスの活動等）に関する相談を行っている。

- (1) 就職を希望する学生に対して，就職に対する一般的心得全般，自己分析，面接練習，履歴書作成等について，個別に相談に応じている。新卒応援ハローワーク，ミュージキャリを活用しながら，幅広く求人情報を提供し，就職活動の支援を行っている。
- (2) 就職を希望せず，進学やフリーランスの活動を希望する学生に対しても相談に応じているので，学生は事前予約の上，相談を受けることができる。

2 進学・編入学について

卒業後の進路として進学，編入学を希望する学生が増えている。進路相談室ではその方面に関する情報を収集しているので，興味・関心に応じてこれを活用することが望ましい。

(1) 本学専攻科への進学

本学芸術科には，専攻科演劇専攻，専攻科音楽専攻が設置されている。本科での学習を深め，より高度な専門的内容を学ぶことのできる2年間の課程である。

わが国では法令により，四年制大学と独立行政法人大学改革支援・学位授与機構のみが，学士の学位を授与することができる。本学専攻科は，同機構により大学の学士課程に相当する教育を行っているとして認定され，平成30年度より認定専攻科になった。所定の単位を修得し，「学修成果」を作成すれば，学位授与の申請ができる。審査に合格すれば，「学士（芸術学）」を取得できる。詳しくは，同機構が発行する資料「新しい学士への途」を参照すること。

(2) 4年制大学への編入学

一般編入学試験により，3年次編入学試験を受験できる。編入学に関して質問がある場合には，所属専攻の教員および進路相談室に相談すること。

(3) 専門学校への進学

資格取得や技術修得を目指して，専門学校や各種学校へ進学する学生もいる。どのような進路を考えるにしても，本学2年間の学習を充実させることが基本となる。進学を希望する学生は，所属専攻の教員，あるいは進路相談室に相談し，進学先の内容についてよく知ることが大切である。

3 音楽専攻 卒業後の進路 について

音楽専攻の凝縮した2年間を終えた後、ここで身につけた能力や関心を強力なバネにして、それぞれが、実に多彩で発展的な進路をとっている。その中で、さらなる勉学の継続としては、本学専攻科への進学が3分の1、その他桐朋学園大学音楽学部（3年次編入）等他大学への編入が挙げられる。海外留学をする卒業生も増えており、留学先としては、ドイツ、オーストリア、イギリス、フランス、ハンガリー、アメリカ等がある。就職については、教職免許を取得し教員になる者、音楽教室で指導者になる者の他、本学で学んだことを基礎に、音楽療法士、保育士、バレエピアニスト等、幅広い領域で活躍している者が多くいる。また、コンクール入賞者も多く、たくさんの卒業生が演奏家として活躍している。

4 演劇専攻 卒業後の進路 について

日本における劇団の数は俳優座・文学座・青年座・民藝・青年劇場等の他、ミュージカルの劇団、小劇団も含め、東京だけでも3千以上と言われ、その実数は把握されていない。また、公共劇場や制作事務所等での公演もある。

俳優として舞台に立つためには、所属劇団の公演、自分達で劇団を結成しての上演活動、フリーもしくはプロダクション（芸能事務所）に所属して各種公演のオーディションを受けて「役につく」という方法等がある。

劇団やプロダクションによってその採用方法、研修期間・制度、待遇も異なる。まずなによりも大事なことは「自分の目標は何か？」という目的意識を明確にすること。劇団を選ぶ場合、まずその劇団の舞台を観劇し、その劇団の表現が自分の目的に合ったところであるか否かの判断が重要である。プロダクションの場合は資料を取り寄せる等して主な実績を知る必要がある。「研修生制度」と称して多額の入所金を徴収する場合もあるので注意してほしい。1年次は、比較的時間にゆとりがあるので少しでも多くの舞台に接して勉強すること。必要な情報を集め、実際の創造現場の状況を把握した上で進路を決めることが大切である。

ここ数年の主な進路は次のとおりである。

[俳優座、民藝、青年劇場、四季、青年座、文学座、円、人形劇団ブーク、虚構の劇団、劇団仲間、青年団、音楽座、ステップス、アミューズ、SCOT、SPAC、コンドルズ、イツフォーリーズ、オリエンタルランド等]

また、一般就職を希望する場合は進路相談室に相談すること。演劇で培った能力は幅広い適応性を示している。

卒業後、さらに勉強を続けたい学生にはより専門性を高める専攻科がある。専攻科では年3回の劇上演実習やワークショップ等を通じて実践力を養っていく。

桐朋学園芸術短期大学学則

第1章 総 則

(目 的)

- 第1条 本学は、教育基本法および学校教育法の精神にしたがい、芸術文化の専門的な研究と教育とに取り組み、現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成を目的とする。
2. 本学の設置する各学科または専攻における人材の育成に関する目的その他教育研究の目的については別に定める。

(目的達成と評価)

- 第2条 本学は、その目的及び社会的使命を達成するため、教育の水準、研究活動等の状況について、自ら点検および評価を行う。
2. 本学は、教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令第40条で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価をうけるものとする。
3. 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

(教育内容等の改善)

- 第3条 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。
2. 前項の委員会については、別に定める。

(名 称)

- 第4条 本学は、桐朋学園芸術短期大学という。

(位 置)

- 第5条 本学の位置は、東京都調布市若葉町1丁目41番地の1とする。

第2章 組 織

(学科・専攻課程)

- 第6条 本学に、次の学科を置く。
- 芸 術 科
2. 芸術科に、次の専攻課程を置く。
- 音 楽 専 攻
- 演 劇 専 攻

(専攻科)

- 第7条 本学に、専攻科を置く。
2. 専攻科に、次の専攻課程を置く。
- 演 劇 専 攻
- 音 楽 専 攻

(図書館)

- 第8条 本学に図書館を置く。

(保健室)

- 第9条 本学に保健室を設け、学生および教職員の健康管理にあたる。

(事務室)

- 第10条 本学に事務室を置く。
- 第11条 図書館、保健室および事務室に関して必要な事項は、別に定める。

(職員組織)

- 第12条 本学に次の職員を置く。
- 学 長
- 教 授
- 准 教 授
- 講 師
- 助 手
- 事 務 職 員
- 技 術 職 員
- 司 書
- その他必要な職員

(教授会)

第13条 本学に重要事項を審議するため教授会を置く。

2. 教授会は学長、教授、准教授および専任講師をもって構成する。
3. 本条に定めるもののほか、教授会に関する事項は、教授会規程の定めるところによる。

(一般条項の学科適用)

第14条 第3章以後の条項は、特に付言する場合を除き、学科について適用するものとする。

第3章 学生定員および修業年限

(学生定員)

第15条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

専攻課程	入学定員	収容定員
音楽専攻	50名	100名
演劇専攻	70名	140名

(修業年限および在学年限)

第16条 本学の修業年限は2年とする。

2. 学生は4年を越えて在学することはできない。

第4章 学年、学期および休業日

(学年)

第17条 学年は4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第18条 学年を次の2学期に分ける。

前学期	4月1日から	9月30日まで
後学期	10月1日から	翌年3月31日まで

(休業日)

第19条 休業日は次のとおりとする。

日曜日	
国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日	
夏季休業	8月1日から 8月31日まで
冬季休業	12月23日から翌年1月4日まで
春季休業	3月21日から 3月31日まで
創立記念日	11月20日

2. 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
3. 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第5章 入学、退学および休学

(入学の時期)

第20条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第21条 本学に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるとみとめた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第22条 本学に入学を志願する者は、本学所定の願書および必要書類に、検定料を添えて提出しなければならない。

(入学者の選考)

第23条 前条の入学志願者に対しては、入学試験を行い、入学を許可すべき者を定める。

2. 前項の入学試験に関しては、別に定める「入学試験規定」による。

(入学手続きおよび入学許可)

第24条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに、入学料等を納付しなければならない。

2. 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(転学)

第25条 本学に転学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当学年次に入学を許可することがある。

2. 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目および単位数の取扱いならびに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(退学)

第26条 退学をしようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第27条 疾病その他やむを得ない事情により3ヵ月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2. 疾病のため修学することが適当でない認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第28条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2. 休学の期間は通算して2年を超えることができない。

3. 休学の期間は、第16条の在学年限に算入しない。

(復学)

第29条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第30条 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第16条第2項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第28条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

第6章 教育課程、履修方法及び卒業等

(教育課程及び授業科目)

第31条 本学の授業科目は教養科目と専攻科目とする。

2. 授業科目の種類、単位数等は別表第1のとおりとする。

(教職に関する科目)

第32条 前条に定めるもののほか、教職に関する科目を置く。

2. 教職に関する科目の種類、単位数等は別表第2のとおりとする。

(単位の計算方法)

第33条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については15時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については30時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については15時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習・実技については45時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 個人指導による芸術科音楽専攻・演劇専攻、専攻科音楽専攻・演劇専攻の実技科目については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (5) 芸術科演劇専攻、専攻科演劇専攻の劇上演実習については、集中的な研修による成果と準備を評価して、4単位を与える。
- (6) 卒業または修了の論文に対しては、その研究の成果と準備を評価して4単位を与える。

(単位の授与)

第34条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(学修の評価)

第35条 試験等の評価は、S、A、B、C、Dの評語で表し、C以上を合格とする。

2. 成績と評価基準は、次のとおりとする。

学科・実技成績	評価
100-90	S
89-80	A
79-60	B
59-50	C
50未満	D

3. 前項の成績評価による学修成果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。

(卒業の要件)

第36条 本学を卒業するためには、2年以上在学し、別表第1に定めるところにより、62単位以上を修得しなければならない。

2. 卒業要件は最低修得単位数に加え、GPA (1.0以上) を判定基準とする。

(入学前の既修得単位の認定)

第37条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が入学する前に短期大学又は大学等において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 学生が入学する前に行った第39条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3. 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて15単位を超えないものとする。

(他の短期大学又は大学等における授業科目の履修等)

第38条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が他の短期大学又は大学等において履修した授業科目について修得した単位を、15単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 前項の規程は、学生が外国の短期大学又は大学に留学する場合に準用する。この場合修得したものとみなすことのできる単位数は、前項及び第39条第2項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

第39条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2. 前項により与えることができる単位は、前条第1項により修得したものとみなした単位数と合わせて15単位を超えないものとする。

(卒業)

第40条 本学に2年以上在学し、第36条に定める単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第41条 前条により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学学士の学位を授与する。

(資格の取得)

第42条 本学において取得することができる資格及び免許状の種類は次のとおりとする。

専攻課程	資格および免許状の種類
音楽専攻	中学校教諭2種免許状(音楽)

2. 前項の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和63年法律第106号)に定める単位数を取得しなければならない。

第43条 本章に定めるもののほか、教育課程、履修方法及び卒業等に関して必要な事項は別に定める。

第7章 検定料，入学料，授業料その他の費用

(検定料等の種類及び金額)

第44条 本学の検定料，入学料，授業料，その他の費用の種類と金額は次のとおりとする。

学費等種類	専攻課程	金額
検定料	全専攻	35,000円
(但し、同一年度内に異なる入試種別で再受験する場合の2回目以降および一般入試で複数の専攻を併願する場合の2専攻目の検定料，または桐朋学園大学音楽学部を併願する場合の検定料は20,000円とする)		
入学金	音楽	入学時 420,000円
	演劇	入学時 330,000円
施設拡充費	全専攻	入学時 170,000円
授業料	音楽	年額 1,114,000円
	演劇	年額 989,000円
施設維持費	音楽	年額 80,000円
	演劇	年額 70,000円
学生諸費	全専攻	年額 32,000円
演習実習費	音楽	年額 45,000円
舞台実習費	演劇	年額 120,000円

(授業料等の納入期)

第45条 授業料，清掃冷暖房費等（以下授業料等という）は，学期区分に従い，次の期間に納入しなければならない。

前学期 4月16日より4月30日まで。但し，新入学生は入学手続日

後学期 9月16日より9月30日まで。

但し，納入期の最終日が金融機関休業日に当たる場合，その直前の金融機関営業日を最終期限とする。

2. 特別の事情があると認められる者には，延納または分納を認めることがある。

(退学および除籍の場合の授業料等)

第46条 学期の途中で退学または除籍された者の当該学期分の授業料等は徴収する。

(休学の場合の授業料等)

第47条 休学を許可された者については，その期間，以下に定める休学在籍料を納めなければならない。ただし，学期の中途から休学した者の当該学期分の授業料等は徴収する。

休学在籍料：半期60,000円 通年120,000円

(復学の場合の授業料等)

第48条 学期の中途において復学した者は，当該学期分の授業料等を納入しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料等)

第49条 学年の途中で卒業する者は，卒業する学期分の授業料等を納入しなければならない。

(既納入金の扱い)

第50条 一旦納入した検定料，入学料は原則として返還しない。一旦納入した施設拡充費，授業料等は，4月1日以降は原則として返還しない。

2. 在学生については，第1項の規定にかかわらず，学期末までに退学，休学が認められ，納入済の翌学期の授業料等があるときは，その授業料の全額を返還する。

第8章 科目等履修生，単位互換履修生，外国人留学生，委託生および長期履修生

(科目等履修生)

第51条 本学の授業科目の履修を希望する者があるときは，本学の教育に支障のない限りにおいて科目等履修生として履修を許可することがある。

2. 科目等履修生には，本学則第34条および第35条の規定を準用して単位を与えることができる。

(単位互換履修生)

第52条 桐朋学園大学音楽学部の学部生が本学の履修対象科目の履修を希望した場合，単位互換履修生として履修を許可することがある。

2. 単位互換履修生には，本学則第34条および第35条の規定を準用して単位を与えることができる。

(外国人留学生)

第53条 外国人で，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

(委託生)

第54条 公共団体またはその他の機関が、その所属職員の教育の委託を願い出たときは、本学の教育に支障がない限りにおいて、選考のうえ委託生として入学を許可することができる。

(長期履修生)

第55条 入学時に修業年限延長を申し出た者は長期履修生として1年の延長を許可する。修業年限は3年とし、在学年限は4年とする。
履修方法、授業料等の納入については、別に定める。
2. 前項の規定にかかわらず、教授会が特に認めた場合には、在学中であっても修業年限の延長を申し出ることができる。

(その他)

第56条 科目等履修生、単位互換履修生、外国人留学生、委託生および長期履修生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 専攻科

(本章の適用)

第57条 この章は、専攻科に関し必要な事項を定める。

(専攻課程および学生定員)

第58条 専攻科の専攻課程および学生定員は、次のとおりとする。

専攻課程	入学定員	収容定員
演劇専攻	20名	40名
音楽専攻	20名	40名

(修業年限)

第59条 専攻科の修業年限は各専攻2年とする。
2. 専攻科の学生は、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第60条 専攻科に入学することのできる者は、本学を卒業した者およびこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(授業科目)

第61条 専攻科の授業科目の種類、単位等は、別表第3のとおりとする。

(修了の要件)

第62条 本学専攻科を修了するための要件は、次のとおりとする。

専攻課程	在学年数	修得単位
演劇専攻	2年以上	50単位以上
音楽専攻	2年以上	50単位以上

2. 専攻科を修了した者に、修了証書を授与する。

(専攻科の検定料、入学料、授業料、その他の費用)

第63条 専攻科の検定料(審査料)、入学料、授業料、その他の費用は下表のとおりとする。

学費等種類	専攻課程	本学卒業生	一般公募生
検定料	全専攻	10,000円	10,000円
入学金	演劇 入学時	10,000円	165,000円
	音楽 入学時	10,000円	210,000円
施設拡充費	全専攻 入学時	0円	85,000円
授業料(年額)	音楽	999,000円	999,000円
	演劇	989,000円	989,000円
施設維持費	全専攻 年額	70,000円	70,000円
学生諸費	全専攻 年額	32,000円	32,000円
舞台実習費	演劇 年額	130,000円	130,000円
演習実習費	音楽 年額	45,000円	45,000円

(注) 一般公募生とは、本学卒業生以外の者をいう。

(授業料の納入期)

第64条 授業料等は学期区分に従い、次の期間に納入しなければならない。

前学期 4月16日より4月30日まで。但し一般公募生は入学手続日

後学期 9月16日より9月30日まで。

但し、納入期の最終日が金融機関休業日に当たる場合、その直前の金融機関営業日を最終期限とする。

(準用規定)

第65条 この章に定めるもののほか、専攻科学生に関し必要な事項は、学科学生に適用する関係条項を準用する。

第10章 賞 罰

(表 彰)

第66条 学生として表彰に値する行為のあった者は、教授会の議を経て学長が表彰する。

(懲 戒)

第67条 本学の規則に違反し、または学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2. 前項の懲戒の種類は、退学、停学および訓告とする。

3. 前項の退学は、次の各号の1に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

附 則 略

学位規程

(目 的)

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条及び桐朋学園芸術短期大学学則（以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）において授与する学位について必要な事項を定めるものである。

(付記する専攻分野)

第2条 本学において授与する学位は短期大学士とし、付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

音楽 Associate of Music

演劇 Associate of Drama

(学位授与の要件)

第3条 短期大学士の学位は、学則第41条の規定に基づき、本学を卒業した者に授与する。

(学位の授与)

第4条 学長は、教授会の議を経て、卒業を認定した者に対して、学位を授与し、学位記を交付するものとする。

(学位の名称)

第5条 本学の学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「桐朋学園芸術短期大学」と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第6条 学長は、学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚辱する行為があったときは、教授会の議を経て当該学位を取消することができる。

2. 学長は、前項の規定に基づき当該学位を取消したときは、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

附 則

1. この規程は、平成18年1月1日から施行する。

2. この規程の改廃については、教授会において行う。

桐朋学園芸術短期大学学生懲戒規程

(目的)

第1条 この規程は、桐朋学園芸術短期大学学則第66条に基づき学生の懲戒に関する規程を定めることを目的とする。

(懲戒の対象とする者)

第2条 この規程において懲戒の対象とする者とは、芸術科、専攻科に所属する学生（以下「学生」という。）のことをいう。
2. 科目履修生、および研究生の取扱いは各規程の定めによる。

(懲戒の対象とする行為)

第3条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。
(1) 犯罪行為等、社会的諸秩序に対する侵犯行為
(2) 学生の本分に反し本学の秩序を乱す行為
(3) ハラスメント行為
(4) 情報倫理に反する行為
(5) 学問的倫理に反する行為
(6) 学生の学習、研究および教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為
(7) 試験等における不正行為
2. 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

(懲戒の種類)

第4条 学則第66条第2項に定める懲戒は、次のとおりとする。
(1) 退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
(2) 停学は、一定期間、学生の教育課程の履修および課外活動等を停止するものとする。
(3) 訓告は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

(停学の期間)

第5条 停学の期間は、無期もしくは原則1か月以上6か月以下の有期とする。
2. 期間については、対象とする行為等で勘案するものとする。

(事実関係の調査)

第6条 懲戒の対象となる行為またはその疑いが生じたときは、当該専攻は、遅滞なく当該学生等に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認し、学生・安全対策委員会に報告しなければならない。
2. 前項の調査にあたり、学生・安全対策委員会は、事前に学生に対して、要旨を口頭または文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。
3. 前項の定めにかかわらず、行為が重大犯罪であり、明白と認められる等特段の事情がある場合は、この限りではない。

(懲戒決定までの手続き)

第7条 学生部長は、前条の事実関係の調査により、懲戒が相当と判断した場合、懲戒手続きを開始する。
2. 学生部長は、学生・安全対策委員会において懲戒の原案を作成し、運営委員会で調整のうえ、教授会を経て学長に上申する。

(懲戒の発効)

第8条 懲戒は、教授会を経て学長が行う。
2. 懲戒は、学生に対して懲戒内容を文書で発信した日から発効する。

(学生への通告および保証人への通知)

第9条 学長は、学生に対し懲戒の内容を文書により通告する。
2. 学長は、学生の保証人に対し懲戒の内容を文書により通知する。

(公示)

第10条 懲戒を行った場合、学長は遅滞なく公示を行う。
2. 公示する事項は、所属、学年、懲戒の種類、懲戒理由とする。
3. 公示期間は、原則1か月とする。

(無期停学の解除)

第11条 無期停学は、懲戒の発効日から6か月を経過した後でなければ解除できない。
2. 無期停学解除の学生への通告、保証人への通知は、文書で行う。

(懲戒に関する記録)

第12条 学生部長は、懲戒の事実を学籍簿に記録する。

(不服申立て)

第13条 懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日から1週間以内にその懲戒に対する不服申立てを行うことができる。

2. 不服申立てをしようとする学生は、不服申立書を学長に提出しなければならない。

(不服申立審査について)

第14条 学長は、前条の不服申立てに基づき不服申立審査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2. 委員会は、学生・安全対策委員会から学生部長が招集する委員と、不服申立てを行った学生が所属する専攻主任で構成する。

3. 委員会が必要と認める場合は、弁護士等学外有識者の出席を求めることができる。

4. 不服申立てをした学生は、書面で意見を述べ、資料を提供することができる。

5. 委員会は、懲戒の内容が相当であると判断した場合は、不服申立ての却下を求める旨の勧告を学長に行う。

6. 委員会は、懲戒の内容が相当でないと判断した場合は、懲戒の取消しまたは変更を求める旨の勧告を学長に行う。

(不服申立に対する措置)

第15条 学長は、前条第5号の勧告を受けた場合には、不服申立てを却下する旨を申立てた学生に通知する。

2. 学長は、前条第6号の勧告を受けた場合には、学生部長に対し、学生・安全対策委員会の協議を経て、新たな懲戒原案を作成するよう指示する。

3. 学生部長は学生・安全対策委員会においてあらたな懲戒原案を作成し、再度教授会を経て学長に上申する。

(懲戒対象者の退学申し出の取扱い)

第16条 学長は、第9条において事情聴取等調査の対象となった者から、懲戒の決定前に退学の申し出がある場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。

(停学期間中の指導)

第17条 停学期間中は教育的指導を行う。

2. 学長は、教育的指導に必要と判断される場合、学生の施設利用および正課授業への参加を認めることができる。

(補 則)

第18条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別にこれを定める。

(改 廃)

第19条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

1. この規程は平成27年4月1日より施行する。

図書館利用規程(抄)

(開館時間) 図書館の開館時間は次のとおりとする。

(1) 月曜日～金曜日 午前10時～午後6時30分

(2) 土曜日 午前10時～午後3時

2. 館長は必要に応じて開館時間を延長または短縮することがある。

(館外利用)

本学は、次の各号により、教職員及び学生に対して資料の貸出を行なう。

(1) 資料(図書・楽譜・雑誌)については次のとおりとする。

イ. 学生 冊数10冊まで、期間は2週間以内とする。

(但し、2年生は2月10日(閉館日の場合はその翌日)を最終返却日とし、それ以降の貸出は行わない)

ウ. 専攻科学生 冊数10冊まで、期間は1か月以内とする。

(但し、2年生は2月10日(閉館日の場合はその翌日)を最終返却日とし、それ以降の貸出は行わない)

(2) その他の資料については別に定める。

(3) 長期休暇前の貸出期間・冊数については別に定める。

2. 学生の卒業、休学及び退学の際は、館外貸出中の図書館資料を直ちに返却するものとする。

(未返却の図書館資料がある場合、卒業、休学及び退学が承認されないこともある)

3. 図書館から借りた資料は、他の利用者に貸してはならない。

4. 図書館は次の資料は原則として貸出を認めない。

(1) 参考図書

- (2) 映像資料
- (3) 貴重資料
- (4) その他特別に指定した資料

(視聴覚資料・機器の利用)

利用者は、視聴覚資料ならびに機器を所定の手続きにより、図書館内で利用することができる。

(複 写)

利用者は、本学所蔵資料の複写を所定の手続きにより行なうことができる。

ただし次の資料は複写することはできない。

- (1) 著作権法に抵触するもの
- (2) 館長が不適当と認めたもの

(相互利用)

本学における他の図書館等の利用については次のとおりとする。

- (1) 館長は必要に応じて当該機関に対して利用依頼等を行なう。
- (2) 経費は利用者負担とする。

(館内規律)

利用者は次のことを守らなければならない

- (1) 静粛にすること
- (2) 他の利用者の迷惑になるような行為をしないこと
- (3) 館員の指示にしたがうこと
- (4) 資料の無断持ち出しをしないこと

2. 前各号を守らない場合は退館を求めることがある。

(弁 償)

利用者は、利用中の資料、機器を紛失、毀損または汚損した場合は弁償しなければならない。弁償は現物弁償を原則とするが、不可能な時は時価弁償とする。

(貸出停止)

館長はこの規程に違反した者に対しては、図書館の利用を制限または停止することがある。

科目等履修生規程

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、科目等履修生に関する取扱いについて定める。

(趣 旨)

第2条 本学において開講する授業科目の履修を希望する者があるときは、当該専攻等の授業及び研究の妨げのない限り、科目等履修生として履修を許可することができる。

第2章 出願手続・履修の許可・履修料・履修期間

(出願資格)

第3条 科目等履修生として出願できる者は、芸術科においては本学入学の資格を有する者とする。専攻科においては本学を卒業した者、またはこれと同等以上の学力を有する者。ただし、教職に関する科目については、本学卒業または修了した者とする。

(出願期間)

第4条 願書の受付期限は、原則として前年度末日までとする。

(出願手続)

第5条 出願する者は、次に定める書類を提出しなければならない。また、単位認定を希望する者は別表に定める選考登録料を納入しなければならない。

単位認定を希望する者

ア. 科目等履修生願書

イ. 最終出身学校の卒業証明書（卒業見込証明書）

単位認定を希望しない者

ア. 科目等履修生願書

(履修の許可)

第6条 履修については、30単位以内とし、当該授業科目担当教員の承諾を得るとともに、当該専攻会議等で審査のうえ、教授会の議を経て学長が許可する。

(履修の始期)

第7条 履修の開始は、学年または後学期の初めとする。

(履修料)

第8条 履修を許可された者は別表に定める履修料を所定の期日までに納入し、科目等履修生証の交付を受けなければならない。

(履修期間)

第9条 履修期間は原則として6か月または1カ年以内とする。

第3章 単位の認定

(単位算定基準)

第10条 履修単位の算定基準は、履修した授業科目における本学の学生の算定基準に準ずる。

(単位の認定)

第11条 単位の認定は、履修した授業科目の担当教員の指定する試験または報告、論文、作品等により、当該担当教員の評価に基づき、教授会の承認を経て決定する。

(教員免許状の単位)

第12条 科目等履修生の修得した単位は、教育職員免許法施行規則第20条の規定により、認定された単位とすることができる。

第4章 その他

(準用規定)

第13条 この規程に定めるもののほかは、本学学生に関する規程を準用する。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃については、教授会において行なう。

附 則

1. この規定は、令和3年4月1日から施行する。

【別 表】

選考登録料及び履修料

選考登録料（単位認定希望者のみ必要）	35,000円
履修料（1単位あたり）	12,500円
教育実習関係手数料	35,000円
第一実技履修料（単位認定対象外）	200,000円
第二実技履修料（単位認定対象外）	160,000円
歌唱（個人レッスン）A／B（単位認定対象外）	120,000円

科目等履修生（高大連携）規程

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規定は、本学学則第51条2の規定に基づき、科目等履修生（高大連携）に関する取扱いについて定める。

(趣 旨)

第2条 桐朋女子高等学校音楽科に所属する高校生が、桐朋学園芸術短期大学音楽専攻（以下「本学」という）の授業科目の単位の修得を希望するときは、当年度の科目等履修生（高大連携）として受け入れる。

2. 桐朋女子高等学校音楽科より推薦された履修生候補者のうちから、所定の手続きを経て履修生を決定する。

第2章 学費・単位の認定

(学費等)

第3条 本規定に基づき受け入れた生徒の学費等（入学科、検定料、授業料、手数料等）は、原則として徴収しない。ただし、実技個人レッスン料は別途徴収する。

(履修単位)

第4条 本学が許可する授業科目および、認定することのできる単位数は、別に定める。

(単位の認定)

第5条 教授会は、受講が認められた科目について、学年末の試験等により単位を認定する。
2. 前項に定める成績及び単位を学年末に桐朋女子高等学校音楽科あてに通知するものとする。
3. 本規定により認定された単位は、本学に入学した際、本学の学則に則り単位を認定する。

附 則

1. この規定は、平成30年4月1日から施行する。

単位互換履修生規程

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規定は、本学学則第52条の規定および、桐朋学園芸術短期大学と桐朋学園大学音楽学部とにおける単位互換に関する協定書に基づき、桐朋学園芸術短期大学単位互換履修生の受け入れ方法及び履修科目その他について定めることを目的とする。

(趣 旨)

第2条 桐朋学園大学音楽学部の学部生が桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という）の授業科目の単位の修得を希望するときは、当年度の単位互換履修生として受け入れる。
2. 本学は、桐朋学園大学音楽学部より推薦された履修希望者のうちから、所定の手続きを経て履修生を決定する。

第2章 学費・単位の認定

(学費等)

第3条 本規定に基づき受け入れた学生の学費等（入学科、検定料、授業料、手数料等）は、原則として徴収しない。

(履修単位)

第4条 本学が許可する授業科目および、認定することのできる単位数は、別に定める。
2. 本学が履修を許可する授業科目は、桐朋学園大学音楽学部との協議によって定める。

(単位の認定)

第5条 教授会は、受講が認められた科目について、学年末の試験等により単位を認定する。
2. 前項に定める成績及び単位を学年末に桐朋学園大学音楽学部あてに通知するものとする。

(遵守義務等)

第6条 単位互換履修生は、本学の学則及びその他の規則を遵守しなくてはならない。

附 則

1. この規定は、平成30年4月1日から施行する。

音楽専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）

第1章 総 則

（目 的）

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、音楽専攻研究生に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（趣 旨）

第2条 本学専攻科音楽専攻を修了、または桐朋学園大学音楽学部を卒業した者で、なお特定の専修実技等の研究を深めようとする希望者があるときは、実技審査、及び書類審査の上、研究生として履修を許可することができる。

第2章 出願・履修期間・履修料等

（履修開始）

第3条 履修開始は、原則として学年初めとする。

（履修期間）

第4条 履修期間は、原則として一年間とする。ただし、研究のため引続き履修する希望がある場合は、さらに一年に限り延長を認めることがある。

（履修資格）

第5条 履修資格は、本学専攻科音楽専攻を修了、または桐朋学園大学音楽学部を卒業した者とする。

（履修科目）

第6条 第一実技の他に、本学専攻科音楽専攻の開設科目を所定の手続きを経て履修することができる。ただし、第二実技は履修料を別途徴収する。

（履修料）

第7条 音楽専攻研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- | | |
|-----------|----------------------|
| (1) 審 査 料 | 5,000円 |
| (2) 授 業 料 | 435,000円 |
| (3) 実 習 費 | 45,000円（合計 485,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

（研究生証・修了証）

第8条 研究生には履修手続終了と同時に研究生証を交付する。

第9条 修了コンサートをもって研究生修了とみなす。なお、修了コンサートの出演には第一実技担当者と音楽専攻の承認を必要とする。

第10条 研究生を修了した者に、修了証を発行し、履修の成果を認証する。

（特別研究生）

第11条 研究生として二年以上在籍して修了した者で、なお研究を深めようとする者があるときは、特別研究生として履修を許可することができる。

2. 特別研究生は、第一実技の他に、決められた専攻科の科目の中から2科目まで履修することができる。

（特別研究生履修料）

第12条 音楽専攻特別研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- | | |
|-----------|----------------------|
| (1) 審 査 料 | 5,000円 |
| (2) 授 業 料 | 275,000円 |
| (3) 実 習 費 | 45,000円（合計 325,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

（規程の改廃）

第13条 この規程の改廃については、教授会において行う。

演劇専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）

第1章 総 則

（目 的）

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、演劇専攻研究生に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（趣 旨）

第2条 本学専攻科演劇専攻を修了した者で、なお特定の実技等の研究を深めようとする希望者があるときは、書類審査の上、研究生として履修を許可することができる。

第2章 出願・履修期間・履修料等

（履修開始）

第3条 履修開始は、原則として学年初めとする。

（履修期間）

第4条 履修期間は、原則として一年間とする。ただし、研究のため引き続き履修する希望がある場合は、一年ごとに審査の上、最長四年間まで期間の延長を認めることがある。

（履修資格）

第5条 履修資格は、本学専攻科演劇専攻を修了した者とする。

（出願者）

第6条 履修希望者は、あらかじめ専攻主任の承認を得た上で出願しなければならない。専攻主任は面接の上、承認を与えないこともある。

（履修科目）

第7条 本学専攻科生の受講することのできる科目のうち、20単位分に限り、所定の手続きを経て履修することができる。単位の認定をあわせて行う。

（履修料）

第8条 演劇専攻研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- | | |
|---------|-----------------------|
| (1) 審査料 | 5,000円 |
| (2) 授業料 | 100,000円 |
| (3) 実習費 | 220,000円（合計 325,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

（研究生証・修了証）

第9条 研究生には履修手続終了と同時に研究生証を交付する。

第10条 研究生を修了した者に、修了証を発行し、履修の成果を認証する。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃については、教授会において行う。

学外発表・出演、および学内演奏会関連規則

(1) 学外演奏発表規則（芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻）

① 学生が学外で演奏または発表を行う際には、次の規定に従わなくてはならない。

- 許可を必要とするもの：入場料、出演料等の有無にかかわらず、あらゆる公開演奏会、門下生発表会、コンクール、放送テレビ等での発表出演に際し、自己の氏名または大学名を明示する場合。
- 届出のみ必要なもの：上記すべての演奏発表のうち自己の氏名または大学名を明示しない場合。
- 許可を必要とするものについては音楽研究室にある所定の許可願用紙に必要事項を記入し、専攻実技担当教員ならびに専攻主任の承認を得たうえ、演奏発表の1週間前までに音楽研究室に提出して許可を得ること。
- 届出のみを必要とするものについては、所定の届出用紙に必要事項を記入の上、事前に音楽研究室へ提出すること。

② 学生としてふさわしくない演奏会、発表会、また演奏の技倆、内容が未熟であると判断された場合、もしくは出欠席その他学業に多大の支障が生ずる場合においては、演奏、出演を許可しないことがある。

③ 上記の規定に従わない学生に対しては、学則の定めるところにより懲戒処分を行うことがある。

(2) 学外出演規則 (芸術科演劇専攻・専攻科演劇専攻)

- ① 学生が学外で演劇・映画・放送・商業写真およびそれに類するものへ出演する際は、履修登録期間内に出演許可願を演劇研究室に提出して許可を得ること。出演許可は、出演内容および出演申請者の状態などを考慮してその決定を行う。ただし、その稽古・リハーサルが履修登録期間以前に開始される場合、出演許可願は稽古・リハーサル開始の1ヵ月前までに提出すること。出演許可は、出演内容および出演申請者の状態などを考慮してその決定を行う。
- ② 舞踊・声楽などの発表会出演は、出演2週間前までに出演許可願を演劇研究室に提出して許可を得ること。
- ③ 単位認定を行う芸術科科目「劇上演実習C」「劇上演実習D」及び専攻科科目「劇上演実習E」「劇上演実習F」を履修する場合は他に手続きがある。
- ④ 上記の規定に従わない学生に対しては、学則の定めるところにより懲戒処分を行うことがある。

(3) 芸術科音楽専攻学内演奏会規則

- ① (目的)
この演奏会は、学生が互いに音楽を探究しあい、日々の勉強の積み重ねを認識し、かつ、ステージ演奏の経験と聴衆としての経験を深めるために、開かれるものである。
出演者は、演奏曲目に対して全力を尽くし、聴く学生は、積極的に集中して聴くことを通し、音楽体験を豊かにすることを目的とする。
- ② (実施要領)
 - (a) この演奏会は公開とし、授業の一環として、学生は全員出席することを原則とする。
 - (b) この演奏会は前期、後期各1回行われる。
 - (c) 演奏者は2年次生とする。
 - (d) 演奏者は原則として音楽専攻会議において実技の成績上位者から選ばれる。
 - (e) 出演者は、出演決定後、所定の期日までに音楽研究室で必要な手続きをすませること。

(4) 専攻科音楽専攻学内演奏会規則

- ① (目的)
この演奏会は、本科の勉強の積み重ねをさらに発展させ、より高度なステージ演奏の経験と、集中して音楽を聴く経験を深めるために、開かれるものである。
- ② (実施要領)
 - (a) この演奏会は公開とし、授業の一環として、学生は全員出席することを原則とする。
 - (b) 1年次生、2年次生とも、必修単位として全員出演する。
 - (c) 2年次生で卒業演奏会に出席する者は出演を免除される。
ただし、卒業演奏会と異った曲目を用意し、積極的に希望する場合に限り重複出演を認める。
 - (d) 出演者は、所定の期日までに、音楽研究室で必要な手続きをすませること。

学費の滞納・延納の処理に関する手続について

授業料等の納入に関して、指定納入期限を過ぎても納入していない学生(滞納者)および納入期限の延長を願い出た学生(延納者)に対する具体的な処理は以下の手続きによって行う。

I. 事前報告と対応

1. 経理課長は、学生の授業料等の納入状況について、定期的に短大教学課長に報告し、短大教学課長は、各専攻に報告する。
2. 各専攻の教員は前項の報告に基づき、授業料等の納入に支障をきたしている学生に対応する。必要のある場合は運営委員会に報告し、助言を得る。

II. 滞納者

1. 第1回文書催告
指定納入期限を過ぎても、未納であることが確認され次第、納入期限を示して、経理課長名をもって保証人あて文書による催告を行う。納入期限は、前期分については5月末日、後期分については10月末日とする。
2. 第2回文書催告
第1回文書催告に示した納入期限を過ぎても納入していない学生に対しては、新たな納入期限を示して、学長名をもって保証人あて文書による催告を行う。
この場合、その納入期限までに納入しなかったときには、学則第30条の適用を受けることがある旨を併記する。納入期限は、前期分については6月末日、後期分については11月末日とする。
3. 滞納者の処分
第2回文書催告によっても、その納入期限までに納入しない学生については、学長は教授会に諮って除籍処分とする。ただし、教授会が、特別の事情があると認めるときは、除籍に代えて他の措置を講ずることができる。

III. 延納者

1. 延納を申し出た学生には前期分については4月末日までに、後期分については9月末日までに所定の「延納許可願」を短大教学課に提出させる。
2. 延納の納入期限は、前期分については6月末日、後期分については11月末日とする。
3. 新規入学生の前期分授業料等の延納は認めない。

4. 納入期限までに納入しない学生については、学長は教授会に諮って除籍処分とする。ただし、延納期間に再び延納を申し出た場合は、学長の判断でこれを考慮する。
5. 専攻科学生には、学則第64条に定める授業料等の納入期間の最終日を指定納入期限として、この手続きを準用する。ただし、一般公募による新規入学生の前期分授業料等については、この手続きを準用しない。
6. 研究生には、4月末日を指定納入期限として、この手続きを準用する。

桐朋演劇奨学会規程

(名 称)

第1条 本会は桐朋演劇奨学会と称する。

(目 的)

第2条 本会は成績優秀にして、本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とする。

(女子部門奨学会への繰り入れ)

第3条 前条の目的のために、本会は、各年度において奨学金給付相当額を桐朋学園女子部門奨学会に繰り入れる。

(財 源)

第4条 奨学金の財源は、有志の寄附金をもってこれにあてる。

(運 営)

第5条 本会の会長は桐朋学園芸術短期大学（以下、「本学」という）学長がこれにあたり、運営は本学教職員によって行う。

(奨学生の資格)

第6条 芸術科演劇専攻2年次生および専攻科演劇専攻生（特待生は除く）である。

なお、特別な例を除き、当該年度において本奨学金を一度受給している者は、原則として申し込むことができない。

(奨学生の募集及び内容)

第7条 前期、後期の2回にわたり募集し、奨学金は半期授業料相当分または半期授業料の半額相当分とする。

(奨学金の申請)

第8条 次の書類を募集期間に事務局に提出する。

1. 奨学金申請書（所定用紙）
2. 家庭調書（所定用紙）
3. 収入証明書（源泉徴収票等）

(奨学生の選考及び発表)

第9条 奨学生の選考は本会が行い、その決定は、本人に通知するとともに本学掲示板に告示する。

(奨学生の選考基準)

第10条 奨学会の選考は次の基準を以て行う。

1. 家計困窮度が高く、修業の継続が困難な者。
2. 熱意をもって学業に取り組み、申請時において最短の修業年限で卒業・修了できる見込みがある者。

(奨学生の資格喪失)

第11条 奨学生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、専攻会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定し、返金を求めることができる。

1. 退学または除籍となったとき
2. 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき
3. 学業成績が不良のとき
4. その他奨学生として適当でないと認められたとき

(奨学金の返還)

第12条 奨学生は、第10条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

附 則

1. この規程は平成26年4月1日より改正施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

附 則

1. この規程は令和2年10月1日より改正施行する。

桐朋音楽奨学会規程

(名 称)

第1条 本会は桐朋音楽奨学会と称する。

(目 的)

第2条 本会は成績優秀にして、本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とする。

(女子部門奨学会への繰り入れ)

第3条 前条の目的のために、本会は、各年度において奨学金給付相当額を桐朋学園女子部門奨学会に繰り入れる。

(財 源)

第4条 奨学金の財源は、有志の寄附金をもってこれにあてる。

(運 営)

第5条 本会の会長は桐朋学園芸術短期大学（以下、「本学」という）学長がこれにあたり、運営は本学教職員によって行う。

(奨学生の資格)

第6条 芸術科音楽専攻2年次生および専攻科音楽専攻生（特待生は除く）である。
なお、特別な例を除き、当該年度において本奨学金を一度受給している者は、原則として申し込むことができない。

(奨学生の募集及び内容)

第7条 前期、後期の2回にわたり募集し、奨学金は半期授業料の半額相当分とする。

(奨学金の申請)

第8条 次の書類を募集期間に事務局に提出する。

1. 奨学金申請書（所定用紙）
2. 家庭調書（所定用紙）
3. 収入証明書（源泉徴収票等）

(奨学生の選考及び発表)

第9条 奨学生の選考は本会が行い、その決定は、本人に通知するとともに本学掲示板に告示する。

(奨学生の選考基準)

第10条 奨学会の選考は次の基準を以て行う。
1. 家計困窮度が高く、修業の継続が困難な者。
2. 熱意をもって学業に取り組み、申請時において最短の修業年限で卒業・修了できる見込みがある者。

(奨学生の資格喪失)

第11条 奨学生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、専攻会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定し、返金を求めることができる。
1. 退学または除籍となったとき
2. 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき
3. 学業成績が不良のとき
4. その他奨学生として適当でないと認められたとき

(奨学金の返還)

第12条 奨学生は、第10条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

附 則

1. この規程は平成26年4月1日より施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

附 則

1. この規程は令和2年10月1日より改正施行する。

桐朋学園芸術短期大学専攻科特待生規程

(目的)

第1条 桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）では、本学芸術科から本学専攻科（演劇専攻・音楽専攻）への進学を積極的に奨励するとともに、学生のさらなる勉学意欲の向上を企図して、学業奨励金を給付する。

(特待生)

第2条 この規程により、学業奨励金の給付を受ける学生を特待生という。

2. 特待生は、以下の期間の成績ならびに勉学への取り組み姿勢等を評価の対象とし、年間10名以内とする。
 - (1) 1年次後期待待生は、芸術科および専攻科1年次前期までの成績
 - (2) 2年次前期待待生は、芸術科および専攻科1年次の成績

(特待生の決定)

第3条 各専攻会議は、専攻科入学人数を勘案したうえで、専攻科入学定員（音楽（20）、演劇（20））を基準に候補者を選抜し、学科会議を経た上で、前条第2項（1）については6月教授会、（2）については11月教授会で審議・決定する。

2. 特待生として決定した学生には、本人宛てに通知する。

(他の奨学金との関係)

第4条 特待生の選抜にあたっては、同時期に桐朋演劇奨学会および桐朋音楽奨学会奨学生として奨学金の給付を受けている者は対象としない。

(学業奨励金)

第5条 学業奨励金は1名につき100,000円とする。

2. 給付は、各専攻の授業料等納入金から、前項の金額を減ずる形で措置する。授業料等納入金を既に納めている場合は、返金する形で措置する。

(特待生の資格喪失)

第6条 特待生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、学科会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定することができる。

- (1) 退学または除籍となったとき
- (2) 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき
- (3) 学業成績が不良のとき
- (4) その他特待生として適当でないと認められたとき

(学業奨励金の返還)

第7条 特待生は、第6条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

附 則

1. この規程は平成26年4月1日より改正施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が原因で被災した桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）の学生に対し、緊急の経済支援として「桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金」（以下「奨学金」という。）を支給することに関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 この規程は、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）により被災した正規学生（以下「被災学生」という。）に対し、奨学金を支給することにより、学業の継続を支援することを目的とする。

(適用対象者)

第3条 この規程は、保証人が東日本大震災の災害救助法適用地域に居住し、被害状況が下記のいずれかにあたる学生を対象とする。

1. 家屋の全半壊、流失
2. 避難所生活を余儀なくされている場合（原発事故によるものも含む）
3. 家計支持者の死亡・行方不明
4. 東日本大震災による直接被害により、家計支持者の年収が激減した場合

(支給額)

第4条 授業料等の免除は、次の各号に掲げる基準により行う。

- (1) 全額免除
家屋全壊、家計支持者の死亡、学資負担者失職又は計画的避難区域外への避難のいずれかに該当する場合
 - (2) 半額免除
住家半壊又は学資負担者負傷の場合
- 2 前項第1号及び前項第2号いずれにも該当しない場合は、桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金選考委員会（以下「委員会」という。）にて審議する。

(支給期間)

第5条 支給期間は、本規程の適用を受ける者が在学する課程の修業年限又は標準修業年限に相当する期間を上限とする。

(授業料等の返還)

第6条 被災後に納付した授業料等が免除された場合は、所定の様式による申請に基づき、納付済の当該授業料等を返還する。

(申請手続及び審査)

第7条 奨学金の支給を受けようとする者は、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 東日本大震災被災学生に対する入学料・授業料免除申請書
 - (2) 家庭調書、罹災証明書等、被害の程度を認定し得る書類や資料等
- 2 免除の審査は、委員会が行う。

(免除の取消し)

第8条 授業料等の免除を受けている者が、次の各号に該当する場合は、委員会の議を経て免除を取り消す。

- (1) 免除を必要としなくなった場合
 - (2) 免除申請について虚偽の事実が判明した場合
 - (3) 退学・除籍により学籍を失った場合
- 2 前項により授業料等免除を取り消された者は、速やかに授業料等を納付しなければならない。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

附 則

この規程は平成24年4月1日から施行する。

この規程は平成28年5月30日から改正施行し、「平成28年熊本地震」にも適用する。

校舎施設の使用について

本学諸施設の学生による使用については、本学の学生による自主練習などのための使用にのみ許可される。

(1) 一般教室・実習室の使用規程要旨

●平日・土曜の使用

○使用教室

一般教室	新館	2111 2112 2211 2212
	旧館	2101 2102 2301 2302 2303 2304 2305
	別棟	N111(※)
実習室	新館	小劇場 第1実習室 第2実習室
	旧館	ライブスタジオ
	別棟	第3実習室 第4実習室 スペース桐朋

- 使用時間 8時30分～21時50分（スペース桐朋 21時30分） ※音楽専攻の学生は1人1回2時間まで
～22時30分（劇上演実習稽古に限る）
～23時00分（劇上演実習関係の搬入搬出に限る）

※7時30分～8時30分の使用は、鍵の開閉が不用な教室に限り「早朝使用表」に記入し、他は通常どおりとする。
ただし、使用時間にはカウントしない。

※N111の使用は17時00分～21時30分（行事関係等で使用できない場合がある）

○使用手続

1. 申込時間 平日 8時30分～16時20分 土曜 8時30分～12時30分
使用当日の一般教室のみ、上記申込時間以降21時まで、警備員の許可にて使用可。
2. 申込方法 ①使用の前日および当日、「教室使用状況一覧表」「教室使用届」に所定事項を記入する。
②研究室で教員、助手の承認印を得る。(不在時のみ教学課で対応)
③承認済の「教室使用届」を「使用予約 教室等使用届」ファイルに綴じる。
④予約した日時に教室を使用する際、上記③で綴ったファイルから「教室使用届」を取り出し、ドアの所定場所に表示する。
⑤使用後は「使用済み 教室等使用届」ファイルに綴じる。
⑥朝の申込みについては、7時30分に窓口に所定の予約順番表を出す。8時30分より記入順に予約する。
※「教室使用状況一覧表」「使用予約 教室等使用届」および「使用済み 教室等使用届」の保管場所は以下のとおり。
【月～金】 8時30分～16時00分：教学課窓口
16時00分～21時50分：短大警備室
【土曜日】 8時30分～12時00分：教学課窓口
12時00分～21時50分：短大警備室
【休日】 終日：本館警備室

●休日の使用

- 使用教室 新館の一般教室・実習室および第3実習室
- 使用時間 9時00分～18時00分 ※音楽専攻、演劇専攻学生共に1人1日4時間まで
～21時00分(劇上演実習稽古に限る)
8時30分～21時50分(上記の開演日の2週間前から)
- 使用手続 1. 申込時間 平日 8時30分～16時20分 土曜 8時30分～12時30分
2. 申込方法 平日と同じ
ただし、休日は使用当日の申込ができないため、休前日に予約する。

●休業期間中(春季・夏季・冬季)の使用

- 使用教室 新館/旧館/別棟の一般教室および実習室
期間中の土曜、日曜、休日、および8月12日～16日、12月29日～1月3日の学園閉鎖期間は使用できない。
- 使用時間 9時00分～18時00分
～21時50分(劇上演実習稽古に限る)
- 使用手続 申込期間・申込方法を休業期間前に掲示にて連絡する。

●その他

1. 複数名で使用する場合は、「教室使用届」に同伴者の氏名を記入すること。ただし、学外の同伴者は認めない。
2. 原則として22時までに学外へ出ること(休日および休業期間中は18時まで)。
3. 原則として小劇場・第1・2・4実習室は演劇専攻以外の学生は使用できない。
4. スペース桐朋はグループ(団体)3名以上の使用とする。
5. 2303, 2304, 2305教室は18時00分までピアノ使用不可とする。
6. レッスン室・練習室が空いている場合には、ピアノ等の練習のため、少人数での一般教室の使用を控えること。
7. ピアノ使用後は、必ず蓋をすること。故意に傷つけた場合は、弁償すること。
8. 教室に置いている備品は、原則として使用できない。
9. 使用を取り消す場合は、教学課または警備員に連絡すること。
10. 16時以降(土曜12時以降)の使用終了後は、警備員詰所のホワイトボードに終了時間を記入すること。
11. 旧館3階のロビーで練習のための音出しは上の階の図書館に影響が及ぶため、禁止。
12. 第3実習室での楽器使用不可。
13. 音楽専攻以外の学生が2301教室を使用する場合は、1回あたりの時間制限を音楽専攻学生と同様とする。
14. 身の安全に注意し、異変等に気づいたら、教学課または警備室まで連絡する。
15. 戸締り、消灯、空調(暖房機)の節電を必ず行う。
16. 平日・土曜日使用申込をした学生が、しかるべき理由なしに教室を継続して20分以上空けた場合は、権利を放棄したものとみなし、他の学生が所定の手続きを経て使用することができる。
17. 学外者による制作や主催を目的とした諸施設の使用に関しては、本学専任教員の関与するものは別として、たとえ本学学生が参加するものであっても使用は認めない。

(2) レッスン室・練習室の使用規程要旨

●平日・土曜の使用

○使用教室

レッスン室	新館	2213	2214	2215	2216	2217
	旧館	2001	2002	2003	2004	
練習室	旧館	2005	2006	2007	2008	2009 2010

- 使用時間 8時30分～21時50分 ※1人1回2時間まで、使用後空いている部屋があれば、再度予約可能。
※7時30分～8時30分の使用は、鍵の開閉が不用な教室に限り「早朝使用表」に記入し、他は通常どおりとする。
ただし、使用時間にはカウントしない。

○使用手続

1. 申込時間 平日8時30分～16時20分 土曜8時30分～12時30分
使用当日のみ、上記申込時間以降21時まで、警備員の許可にて使用可。
2. 申込方法 ①使用の前日および当日、「レッスン室・練習室使用状況一覧表」「レッスン室・練習室使用届」に所定事項を記入する。
②研究室で教員、助手の承認印を得る。(不在時のみ教学課で対応)
③承認済の「レッスン室・練習室使用届」を「使用予約 教室等使用届」ファイルに綴じる。
④予約した日時にレッスン室・練習室を使用する際、上記③で綴ったファイルから「レッスン室・練習室使用届」を取り出し、ドアの所定場所に表示する。
⑤使用後は「使用済み 教室等使用届」ファイルに綴じる。
⑥朝の申込みについては、7時30分に窓口在所定の予約順番表を出す。8時30分より記入順に予約する。
※「レッスン室・練習室使用状況一覧表」「使用予約 教室等使用届」および「使用済み 教室等使用届」の保管場所は以下のとおり。

【月～金】 8時30分～16時00分：教学課窓口
16時00分～21時50分：短大警備室

【土曜日】 8時30分～12時00分：教学課窓口
12時00分～21時50分：短大警備室

【休日】 終日：本館警備室

●休日の使用

○使用教室

新館レッスン室

○使用時間

9時00分～18時00分 ※1人1日教室と合わせて4時間まで、使用後の再予約は不可。

○使用手続

1. 申込時間 平日8時30分～16時20分 土曜8時30分～12時30分
2. 申込方法 平日と同じ
ただし、休日は使用当日の申込ができないため、休前日に予約する。

●その他

1. 複数名で使用する場合は、「レッスン室・練習室使用届」に同伴者の氏名を記入すること。ただし、学外の同伴者は認めない。
2. 飲食は認めない。
3. 原則として音楽専攻以外の学生は使用できない。音楽学部生・音高生は、新館レッスン室のみ使用可。
4. 音楽専攻以外で副科・第二実技科目・歌唱(個人レッスン)を履修している学生は、旧館練習室のみ使用することができる(休日は新館レッスン室の使用可)。
5. 原則として22時までに学外へ出ること(休日および休業期間中は18時まで)。
6. 使用を取り消す場合は、教学課または警備員に連絡すること。
7. 16時以降(土曜12時以降)の使用終了後は、警備員詰所のホワイトボードに終了時間を記入すること。
8. ピアノ使用後は、必ず蓋をすること。故意に傷つけた場合は、弁償すること。
9. 身の安全に注意し、異変等に気づいたら、教学課または警備室まで連絡する。
10. 戸締り、消灯、空調(暖房機)の節電を必ず行う。
11. 平日・土曜日使用申込をした学生が、しかるべき理由なしにレッスン室を継続して20分以上空けた場合は、権利を放棄したものとみなし、他の学生が所定の手続きを経て使用することができる。

(3) 大学校舎教室・レッスン室使用規程要旨 〈音楽専攻学生のみ〉

●一般教室・一般レッスン室（個人練習・二重奏練習）

地下，地上，S館，H館問わず使用できる。

●使用可能時間帯および申込受付時間帯

使用可能時間帯			申込受付について			
			窓口	受付日	受付時間帯	
授業日・試験期間等	月・土	早朝時間帯	5時10分～8時00分	S館1階 警備デスク	使用日 当日のみ	5時10分～7時00分
		授業時間帯	8時00分～17時00分			8時00分～16時00分
		夜間時間帯	17時00分～21時45分			17時00分～21時00分
	日・祝	休日時間帯	8時00分～21時45分			8時00分～21時00分
長期休暇期間		8時00分～17時00分				8時00分～16時00分

※祝日授業日は，平日と同じ時間帯での使用・受け付け。

※休日の12時00分～13時00分，18時00分～19時00分は，使用申し込みは受け付けない。

●使用手続

1. 申し込みは使用者本人が行う。伴奏者等の代理人の申し込みは受け付けない。
2. 1回の申し込みは1人（1グループ）1日につき1件とし，1件についての時間を次のように制限する。
早朝時間帯：特に定めない
授業時間帯・夜間時間帯：2時間以内
休日時間帯・長期休暇期間：4時間以内
3. 申し込みにあたっては，「レッスン室一般使用許可願」（大学事務局前に設置）に必要事項を記入し，使用日当日に，学生証（身分証明書）を添えて警備デスクに提出する。
4. 交付される許可証を受け取ってから，使用を開始できる。

学校法人桐朋学園 個人情報保護方針

学校法人桐朋学園では，教育・研究，事務等の諸活動において，多くの個人情報を取り扱っております。学生，生徒，児童，園児をはじめその保護者，そして教職員等，学園にかかわる方々の個人情報を慎重に取り扱い，適切に保護，管理することは，教育機関としての本法人の社会的責務であると認識しております。

この責務を果たすため，本法人は，個人情報保護法及びその他の規範を遵守するとともに，以下に掲げる方針のもと，個人情報の適切な保護，管理を実行いたします。

1. 個人情報の取得

個人情報の取得に際しては，利用目的を特定のうえ，これを明示し，適法かつ公正な方法により，原則として本人から取得します。

2. 個人情報の利用

個人情報は，取得の際に明示した利用目的の範囲内で利用いたします。本人の同意を得ないで，目的外での利用はいたしません。

3. 個人情報の保護，管理

個人情報の正確性及び安全性を確保するために，安全管理対策を講じ，個人情報の漏えい，改ざん，紛失等を防止します。

本法人は，各部門各機関に「個人情報保護管理責任者」を置き，個人情報の保護，管理について，責任の所在を明確にしております。

個人情報の取扱いは，その権限を付与された教職員のみが，業務の遂行上必要な限りにおいて取り扱うものとします。なお，個人情報を取り扱う教職員であるか否かにかかわらず，学園に勤務する全ての者に必要かつ適切な監督を行い，加えて，教育・研修等の機会を通して意識の啓発に努めます。

個人情報に関する業務を外部に委託する場合は，委託先において個人情報の安全管理が図られるよう，契約書を取り交わすなど，必要かつ適切な措置を講じます。

4. 個人情報の第三者への提供

原則として，法令に定める場合等を除き，事前に本人の同意を得ることなく，第三者に個人情報を提供することはいたしません。

なお，第三者に個人情報を提供する場合には，提供先においてその安全管理が図られるよう，契約書を取り交わすなど，必要かつ適切な措置を講じます。

5. 個人情報の開示, 訂正, 利用停止, 削除等の請求並びに不服の申立

各機関の「個人情報保護管理責任者」は、開示, 訂正, 利用停止, 削除の請求等に関しては、本人であることの確認をしたのち、速やかに対応いたします。

6. 個人情報に対する保護, 管理体制の継続的改善

個人情報保護の重要性を、本法人の役員をはじめ学園に勤務する全ての者に周知徹底するとともに、今後も本方針に則り、保護・管理の体制を見直し、改善、向上に努めます。

桐朋学園芸術短期大学 学生個人情報保護規程

第1章 総則

(目的)

第1条 桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）は個人情報（個人情報データベースを含む。以下「個人情報」という。）の保護が、人格の尊厳に由来する基本的人権の保障に係る問題であることを深く認識し、本学が保有する個人情報の取扱いに関する基本事項を定める。

(用語の定義)

第2条 この規程において、「学生」とは次の各号によるものとし、「教職員」とは専任の教職員ならびに本学の業務に直接かかわりがあり、またはかかわりがあった者をいう。

- (1) 「本学において教育を受けている者」で在学生、科目等履修生や聴講生など。
- (2) 「本学において教育を受けようとする者」で受験生、入学前の合格者、入学ガイダンスへの参加者など。
- (3) 「過去において、本学において教育を受けた者」で卒業生、修了生、中退者など。
- (4) 「過去において、本学において教育を受けようとした者」で不合格者や入学辞退者など。

2 この規程において、「個人情報」とは次の各号によるものとする。

- (1) 学生について特定の個人が識別されるもの（氏名、住所、生年月日、電話番号）。
- (2) 識別され得るもの（映像、デジタル記録等）。
- (3) 個人を特定できないものであっても学内で対応付けられた個人情報がある場合のもの（学籍番号、IPアドレス等）。
- (4) 教職員が業務上取得または作成した情報（文書、写真、フィルム、磁気テープその他これらに類するものに記録されたものを含む）。

3 この規程において「個人情報データベース」とは、個人情報が含まれる情報の集まりで、検索できる状態のものであって、ユーザーIDとユーザーが記録されているログ情報ファイル、紙ベースの住所録や名刺など整理されて検索できる利用可能な状態のデータベースをいう。

(責務)

第3条 学長はこの規程の目的を達成するため個人情報の保護に関し次の各号に対する必要な措置を講じなければならない。

- (1) 利用目的の特定・公表
- (2) 適正管理、利用、第三者への提供
- (3) 本人の権利と関与
- (4) 本人の権利への対応
- (5) 苦情の処理

2 教職員または教職員であった者は、業務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、または不当な目的に使用してはならない。

3 学生、教職員は個人情報保護の重要性を認識し、本規程によって学生個人の権利利益を侵害しないように努めなければならない。

第2章 個人情報の収集および利用目的の特定・公表等

(個人情報収集の制限)

第4条 教職員が業務上学生の個人情報を収集するときは、利用目的を明確に特定・公表し、その目的達成に必要な最小限度の範囲で収集しなければならない。ただし、思想および信教に関する個人情報は、いかなる理由があろうともこれを収集してはならない。

2 あらかじめ個人情報を「第三者に提供」することを想定している場合には、利用目的で、その旨特定しなければならない。

3 インターネットのCGI等での個人情報の入力には、入力ホームページ内には必ず利用目的をユーザーの目に付く位置に記載しなければならない。

4 教職員が業務上、個人情報を収集するときは、適正かつ公正な手段により、次の各号のいずれかに該当するときに除き、直接本人から収集しなければならない。

- (1) 本人の同意があるとき。
- (2) 個人の生命、身体、健康、財産に対する急迫の危険を避けるためにやむを得ないと認められるとき。
- (3) 教員の教育指導上特段の必要性があるとき。
- (4) 法の定めるところにより、行政機関から依頼があったとき。
- (5) 指導または相談援助に関わって、本人から収集したのでは目的を達成することができないか、業務に支障があると認められるとき。
- (6) 学長が正当な理由があると認めたとき。

(個人情報の適正管理)

第5条 学長は、個人情報の保護のため、次に各号に掲げる事項について、適正で安全な措置を講じなければならない。

- (1) 紛失、滅失、毀損、破壊その他の事故の防止
- (2) 改ざんおよび漏洩の防止
- (3) 個人情報の正確性および最新性の保持
- (4) 不要となった個人情報のすみやかな廃棄または消去

2 学長は前項の事務をはじめ、本規程に基づく業務を適切に執行するため、業務ごとに個人情報保護管理責任者を選任するとともに次の組織的・人的・物理的・技術的その他の広範囲な安全対策措置を講ずる。

組織的安全管理措置

- ・個人情報保護管理者の設置、組織体制の整備
- ・学内諸規程の整備と運用
- ・個人情報取扱い台帳の整備
- ・安全管理措置の評価、見直し、改善
- ・事故または違反への対処

人的安全管理措置

- ・雇用時や契約時において非開示契約を締結
- ・教職員に対する教育・訓練の実施

物理的安全管理措置

- ・入退室管理
- ・盗難対策
- ・機器、装置等の物理的な保護

技術的安全管理措置

- ・個人情報のアクセス認証・制御・記録・権限管理
- ・不正ソフトウェア対策
- ・移送、通信時の対策
- ・動作確認時の対策
- ・情報システムの監視

その他重要事項

- ・個人情報を閲覧できる教職員の限定
- ・個人情報の持ち出し制限
- ・外部からの個人情報への不正アクセス防止策の導入
- ・教職員に対する個人情報保護研修の実施
- ・個人情報漏洩時は当該本人に速やかに通知
- ・事件内容の公表（類似事件の発生回避）

3 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する教職員に対する情報セキュリティ対策として、個人情報に対するアクセス制限、アクセス管理及び監視を行う。

4 個人情報保護管理責任者は、業務マニュアルを定め、持ち出し制限や移動時の取り決め、暗号化等のプロセスを決め、全て申請・承認によって処理することを決めて、守らせる。

5 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する教職員に個人情報を取り扱わせるに当たっては、当該個人情報の安全管理が図られるよう、当該教職員に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

6 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合は、その取扱いを委託された個人情報の安全管理が図られるよう、委託を受けた者に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

7 個人情報保護管理責任者は、第6条に掲げる場合を除くほか、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人情報を第三者に提供してはならない。

(個人情報の利用制限)

第6条 教職員は、業務上収集した個人情報をその目的以外のために利用または提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときはこの限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき。
- (2) 個人の生命、身体、健康に対する急迫の危険を避けるためにやむを得ないと認められるとき。
- (3) 教員および保護者の教育上、特段の必要性があるとき。
- (4) 法の定めがあるとき。
- (5) 学長または個人情報保護管理責任者が必要と認めたとき。

2 前号一から五の各号に該当して個人情報を利用または提供する場合、または緊急に対応した場合は、業務責任者はすみやかに個人情報保護管理責任者に届け出なければならない。

(個人情報に関する業務の学外委託)

第7条 個人情報に関する業務を学外に委託するときは、業務責任者は個人情報保護管理責任者の指導のもと委託業者との間で個人情報の保護に関する必要な措置をとらなければならない。

(収集の届出)

第8条 教職員は、新たに個人情報を収集するときは、あらかじめ次に事項について個人情報保護管理責任者に届け出なければならない。

- (1) 個人情報の名称
- (2) 個人情報の利用目的
- (3) 個人情報の収集の対象者
- (4) 個人情報の収集方法
- (5) 個人情報の記録項目
- (6) 個人情報の記録の形態

2 前項により届け出た事項を変更または廃止するときは、業務責任者は、あらかじめこれを個人情報保護管理責任者に報告しなければならない。

第3章 個人情報の開示、訂正等

(個人情報の開示)

第9条 学生は本学が保有する自己に関する個人情報の開示を請求することができる。

2 開示の請求があったときは、個人情報保護管理責任者は遅滞なくこれを開示しなければならない。ただし、その個人情報が、個人の選考、評価、判定、学生健康記録その他に関するものであって、本人に知らせないことが明らかに適当であると認められるときは、その個人情報の全部または一部を開示しないことができる。

3 個人情報の全部または一部を開示しないときは、その理由を本人に通知しなければならない。

4 第1項に規定する請求は、学長に対し、本人であることを明らかにして、次に掲げる事項を記載した文書を提出することにより行う。

- (1) 所属および氏名
- (2) 個人情報の名称および記録項目
- (3) 請求の理由
- (4) その他学長が必要と認めた事項

(個人情報の訂正または削除)

第10条 学生は、自己に関する個人情報の記録に誤りがあると認めたときは、前条第4項に定める手続に準じて、学長に対し、その訂正または削除を請求することができる。

2 学長は前項の規定による請求を受けたときは、すみやかに調査のうえ、必要な措置を講じ、結果を本人に通知しなければならない。ただし、訂正または削除に応じないときは、その理由を文書により本人に通知しなければならない。

第4章 不服の申立て

(不服の申立て)

第11条 自己の個人情報に関し、第10条第2項に規定する請求に基づいてなされた措置に不服がある学生は、本人であることを明らかにして、学長に対し、申立てを行うことができる。

2 学長は、前項の不服申立てを受けたときは、すみやかに審査し、その結果を文書により本人に通知しなければならない。

3 不服の申立ては、次に掲げる事項を記載した文書を学長に対し提出することにより行う。

- (1) 不服の申立てを行う者の所属および氏名
- (2) 不服申立て事項
- (3) 不服申立て理由
- (4) その他学長が必要と認めた事項

第5章 規程管理

(所管)

第12条 本規程の管理責任者は学長とし、所管は短期大学教学課とする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は教授会の議を経て学長が行う。

付 則

第1条 この規程は平成17年7月11日から施行する。

桐朋学園芸術短期大学 キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント」という。）の防止及び排除のための措置並びにキャンパス・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「キャンパス・ハラスメントの防止等」という。）に関し、必要な事項を定めることにより、本学における良好な学習・教育・研究・労働環境の維持・確立を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程における用語の意義は、次の各号に掲げるものをいう。

(1) セクシュアル・ハラスメント

ア. 学生、教職員又は関係者が、意図すると否にかかわらず、性差別的又は性的な行動によって、相手を不快にさせる行為

(例) 性的な噂を流したり、人を傷つける性的な内容の冗談を言ったりすること。

性的な文書や画像等の掲示や提示をすること。

相手が望まない飲食等にしつこく誘うこと。

不必要に身体に触れること。

イ. 学生、教職員又は関係者が、利益もしくは不利益を与えることを利用して、又は利益を与えることを代償として、相手に性的な誘いまたは要求をする行為

(例) 成績評価等と引き換えに、性的要求を迫ること。

(2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の勉学・研究意欲や研究環境を害する言動または行為

(3) パワー・ハラスメント

職場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の就労意欲や就労環境を害する言動または行為

(4) その他のハラスメント

学生、教職員又は関係者が、他の学生、教職員又は関係者に飲酒の強要、喫煙にまつわる不法行為、誹謗、中傷、風評の流布などにより人権を侵害したり不快にさせたりする行為

(5) キャンパス・ハラスメントに起因する問題

キャンパス・ハラスメントのため学生等の修学上又は職員の就労上の環境が害されること及びキャンパス・ハラスメントへの対応に起因して学生等が修学上又は職員が就労上の不利益を受けること

(6) 学生

本学で修学する一般学生（本科生・専攻科生）、科目等履修生（研究性含む）、単位互換履修生、外国人留学生及び委託生をいう。

(7) 教職員

教員、事務職員、非常勤講師、嘱託職員、定時職員、委託職員など本学に勤務する全ての教職員をいう。

(8) 関係者

学生の保護者及び関係業者等職務上の関係を有する者をいう。（但し、教職員及び学生を除く。）又、かつて本学に在籍し、現在大学を離れた者であっても、キャンパス・ハラスメントと判断される行為のどちらか一方の当事者が、学生又は教職員である場合はこれに含める。

(9) 教育・研究の場

本学では、常勤・非常勤を問わず、本学に在職する教職員と学生との間、及び本学の学生同士の間には、常に教育環境上の関係があるものとみなす。よって大学におけるキャンパス・ハラスメントは、正課の授業時間中の大学構内における場合に留まらず、課外活動や学外を含むあらゆる場合のそれを意味する。

(学生および教職員の責務)

第3条 学生及び教職員は、相互に個人の人格を尊重するよう努め、キャンパス・ハラスメントを行ってはならない。

2. 学生及び教職員は、前条で規定した用語の意義を深く認識し、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に努めなくてはならない。

3. 学生のキャンパス・ハラスメントに関する苦情や相談については、全ての教職員がこれにあたり、相談を受けた教職員は、必要な指導、助言を行うと共に、事実関係の調査に協力するなど、適切な対応を取らなければならない。

(学長の責務)

第4条 学長は、キャンパス・ハラスメントを差別、人権侵害として禁止すると共に、その防止及び排除するため、本学の教職員に対し、この規程の周知徹底を図るものとする。

2. 学長は、万一キャンパス・ハラスメントによる問題が本学内に生じた場合は、必要な措置を迅速かつ適切に講じなければならない。

(防止委員会)

第5条 キャンパス・ハラスメントに関する具体的事例について、事実関係の調査及び対応策の検討を行うため、また、キャンパス・ハラスメントの防止に関する広報及び啓蒙等に関する業務を行うためにキャンパス・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を設置する。

2. 防止委員会の運営については、別に定める。

(相談窓口)

第6条 防止委員会は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談が学生、教職員又は関係者からなされた場合に対応するため、キャンパス・ハラスメント相談窓口（以下「相談窓口」という。）を設置し相談員を配置する。

2. 相談窓口の運営については、別に定める。

(調査委員会)

第7条 防止委員会は、特定の事例について調査が必要と判断した場合、キャンパス・ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置くことができる。

2. 調査委員会の運営については、別に定める。

(不利益取扱いの禁止)

第8条 学長及び教職員は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談、当該苦情相談に関する調査への協力その他キャンパス・ハラスメントに関して正当な対応をした学生又は教職員に対し、そのことをもって不利益な取扱いをしてはならない。

(懲戒)

第9条 キャンパス・ハラスメントを行った教職員は、その態様等によっては、桐朋学園女子部門就業規則第54条（3）「教職員としての信用を著しく失う非行あった場合」に該当するものとして、懲戒処分を行うことがある。

2. キャンパス・ハラスメントを行った学生は、桐朋学園芸術短期大学学則第67条に基づき、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

附 則

1. この規程は、平成20年4月1日より施行する。

2. この規程の改廃は、教授会の議を経て行う。

附 則

1. この規程は、令和4年4月1日より改正施行する。

演劇専攻自治会 自治会規約

第1章 総 則

(名称・本部)

第1条 本会は、桐朋学園芸術短期大学・演劇専攻自治会とし、その本部を桐朋学園芸術短期大学内に置く。

(会 員)

第2条 本会は桐朋学園芸術短期大学芸術科・演劇専攻生並びに専攻科生をもって組織する。

(目 的)

第3条 本会は、会員一人一人の主体性にとり、演劇芸術の創造と、その新なる運動体を形成することを目的とするものである。各会員はその能力を十二分に発揮し、思想性を高めると共に、既存の諸観念を乗り越え自らの主体を確立し遂に現在の広漠たる芸術分野に、ひとつの指標を打ち立てる責務を担う。

第2章 構 成

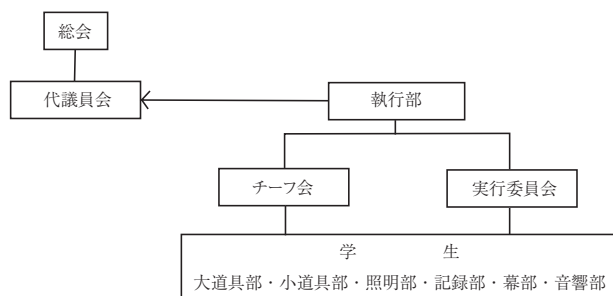
(構 成)

第4条 本会は次の機関を設ける。

1. 総会
2. 代議員会（会計監査、選挙管理委員会）
3. 執行部
4. チーフ会
5. 各種行事実行委員会

(議決機関)

第5条



(総 会)

第6条 総会は本会における最高の機関であり、第2条に定められた全会員をもって組織する。

(総会の開催)

第7条 総会は原則として年2回開催し、本会会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合及び全会員の5分の1以上の要請があった場合には会長は臨時に総会を開催しなければならない。

会長は総会開催の3日前迄に、日程、議案、その他必要事項を全会員に明示しなくてはならない。

(総会成立)

第8条 総会は全会員の過半数（休学者をのぞく在籍数）をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(総会決議)

第9条 総会において次のことを決議する。

1. 規約改正に関すること。
2. 予算及び決算に関すること。
3. 運営方法に関すること。

(代議員会)

第10条 本委員会は総会に次ぐ議決機関であり、学年代議員（各学年2名、ただし専攻科は2学年をもって2名とする）をもって組織する。

(代議員会の開催)

第11条 本委員会は原則として本会会長が必要と認めた場合会長が招集する。ただし学年代議員の3分の1以上の要請があった場合、会長は臨時に代議員会を開催しなければならない。

会長は代議員会開催の7日前迄に、日程、議案、その他必要事項を全会員に明示しなくてはならない。

(代議員会の成立)

第12条 本委員会は、学年代議員の過半数をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(代議員会の決議)

第13条 代議員会において次のことを決議する。

1. 学年代議員の提出事項。
2. 各委員会からの提出事項
3. その他本委員会において必要と認められる事項。

(執行部)

第14条 執行部は本会を円滑に運営する機関であり、会長1名、副会長2名、会計2名、書記2名をもって組織する。

第15条 執行部は次の事項を執行する。

1. 総会及び代議員会への議案提出
2. 予算原案及び決算書の作成
3. その他必要事項

(執行部役員の職務)

第16条 会長は本会を代表し、本会の一切の会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長不在のときの職務を代行する。会計は会の会計を、書記は会の記録を担当する。

(各部)

- 第17条 1. 演劇専攻の全学生は、4月中に各部に所属しなければならない。原則として、部署の移動は認められない。
2. 各部は、1名のチーフと1名のチーフ補佐を執行学年から選出しなければならない。相談役として専攻科から各部に1名付けるものとする。

(チーフ会)

第18条 チーフ会は各部チーフをもって組織する。

(チーフ会の開催)

第19条 チーフ会は原則として会長が必要と認めた場合、チーフ会議長がこれを招集する。ただし、チーフの3分の1以上の要請があった場合には、臨時にチーフ会を開催しなければならない。

(チーフ会の成立)

第20条 チーフ会はチーフの過半数をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(チーフ会決議)

- 第21条 チーフ会において次のことを決議する。
1. 道具、備品に関すること。
 2. 仕込み、ばらしに関すること。
 3. その他チーフ会において必要と認められた事項。

(各種実行委員会)

第22条 本委員会の役員は、行事ごとに執行部が必要数を公募し、各行事の企画運営及び総括を行う。

第3章 選挙

(学年代議員の選出)

第23条 学年代議員は年度始め学年ごとに2名選出し、総会で了承を得る。

(学年代議員の任期)

第24条 学年代議員の任期は毎年4月1日より翌年3月31日までの1年間とする。

(議長)

- 第25条 1. 総会の議長は、総会で選出されたものとする。
2. 学年代議員の議長は、代議員会で選出されたものとし、総会で承認を得る。
3. チーフ会の議長は、執行部副会長のうちいずれか1名を議長とする。

(執行部の選出)

第26条 執行部は演劇専攻1学年の中から選出し、総会で承認を得る。

(執行部の任期)

第27条 執行部の任期は毎年10月から翌年9月末日までとし、10月中は連絡期間とし、その期間の続任を認める。

(選挙管理委員会)

第28条 本委員会は各学年代議員のうち1名、計3名をもって組織される。

(リコール)

第29条 リコール請求は会員の3分の2以上の要求によって成立し、選挙管理委員会がこれにあたる。

第4章 会計

(会費)

第30条 本会の財務は、自治会費にその基をおく。

(金額)

第31条 本会の会員は本会によって定められた会費(入会金2,500円、年額3,500円)を定期に納入しなければならない。ただし、入会金は入学年度のみとし、芸術科演劇専攻から専攻科演劇専攻への進学者はこれを免除される。

(会計年度)

第32条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月末日までとする。会計年度に剰余金のある場合は翌年に繰り越す。

(会計報告)

第33条 本会に収支決算書は執行部会計が作成し代議員会で審議し、総会において承認されることにより成立する。

(会計監査)

第34条 本会に会計監査6名(学年代議委員)を置き、本会の会計を監査する。

第5章 クラブ

(クラブ)

第35条 本会員は第2条の主旨に基づきクラブならびに同好会を結成することができる。

(構成)

第36条 各クラブは年度始めに構成員名簿および活動計画を執行部に提出しなければならない。

(クラブ会計)

第37条 各クラブの会計担当者は年度初めに前年度決算報告ならびに新年度予算申請書を執行部に提出しなければならない。

(成立基準)

第38条 下記の成立基準に満たないものは同好会とする。

1. 活動開始から1年未満のもの
2. 人数が5名に満たないもの

第6章 附 則

第39条 本規約の改正は本会会員の3分の1以上をもって成立する。

第40条 本会規約は2002年4月1日より施行する。

音楽専攻学生会 学生会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻に学生会を置き、桐朋学園芸術短期大学音楽専攻学生会(以下、本会という)と称する。

(会 員)

第2条 本会は桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻の学生全員をもって組織する。

(本 部)

第3条 本会の本部は、東京都調布市若葉町1-41-1桐朋学園芸術短期大学内に置く。

(目 的)

第4条 本会会員は個人の人格を尊重し、学生相互の親睦をはかり、学生会活動を有効かつ円滑に運営し、学生の福祉増進をはかることを目的とする。

第2章 機 関

(機 関)

第5条 本会に次の機関を置く。

1. 総 会
2. 執行部

(総 会)

第6条 総会は本会の最高決議機関であって、芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻の学生全員をもって組織する。

(総会の開催)

第7条 総会は毎年4月、年1回の開催を原則とし、本会会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合及び全会員の3分の1以上の要求が合った場合に会長は臨時に総会を招集しなければならない。

(総会成立)

第8条 総会は全会員の3分の2以上の出席をもって成立し、その決議は出席者の過半数の賛成を必要とする。(委任状出席を認める。)ただし、会則改正の場合は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(議長・総会決議)

第9条 総会の議長はそのつど選出され、総会において次のことを決議する。

1. 会則の改正に関すること。
2. 運営方法に関すること。
3. 予算および決算に関すること。

(執行部)

第10条 執行部は本会の運営を円滑に執行する機関であり、次のことについて共同の責任を負うものとする。

1. 各行事の企画および運営
2. 予算の作成および決算報告
3. その他の必要事項

(執行部)

第11条 執行部は次の役員をもって構成する。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 会計 2名
4. 書記 2名
5. 桐朋祭実行委員 必要数

(職務)

第12条 会長は本会の一切の会務を統括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長不在のときの任務を代行する。書記は会の記録を、会計は会の会計を、桐朋祭実行委員は桐朋祭の企画運営などを担当する。

(会計監査)

第13条 本会に会計監査2名を置き、本会の会計を監査する。

(顧問)

第14条 本会に顧問を置く。顧問は桐朋学園芸術短期大学音楽専攻の教員に委嘱し、本会活動全般に関して指導助言を仰ぐものとする。

第3章 選挙

(執行部役員選出)

第15条 執行部役員は学年初め、学年ごとに3名から4名選出する。

(任期)

第16条 執行部の役員の任期は4月1日より翌年の3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期途中で欠員が生じた場合は補充を行う。この場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長、副会長選出)

第17条 会長、副会長は就任の前年度の12月までに選出し、総会で承認を得る。

(会計、書記)

第18条 会計、書記は執行委員の互選による。

(桐朋祭委員)

第19条 桐朋祭委員は執行委員に加え、必要数を公募する。

(会計監査)

第20条 会計監査は総会によって選出される。

第4章 会計

(会費)

第21条 本会の財務は、会費にその基をおく。

(金額)

第22条 本会の会員は本会によってさだめられた会費（入会金 2,000円、年額 2,000円）を定期に納入しなければならない。ただし、入会金は入学年度のみとし、芸術科音楽専攻から専攻科音楽専攻への進学者は、これを免除される。

(会計年度)

第23条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わるものとする。

(会計報告)

第24条 本会の収支決算書は執行部会計が作成し、執行部に提出された後に会計監査と総会の承認をえるものとする。

第5章 クラブ

(クラブ)

第25条 会員相互の親睦を深め、責任ある自主活動を行うため、本会に教養、趣味、特技などを同じくするクラブならびに同好会を結成することができる。

(構成)

第26条 各クラブは年度初めに構成員名簿、および活動計画を執行部に提出しなければならない。

(クラブ会計)

第27条 各クラブの会計担当者は年度初めに前年度決算報告ならびに新年度予算申請書を執行部に提出しなければならない。

(成立基準)

第28条 下記の成立基準に満たないものは同好会とする。

1. 活動開始から1年未満のもの
2. 人数が10名に満たないもの（同好会は5名から活動できる）

(クラブ顧問)

第29条 各クラブならびに同好会には顧問を置く。顧問は桐朋学園芸術短期大学の常勤の教職員に委嘱する。

第6章 会則の改正

(会則の改定)

第30条 会則の改正は本会が必要と認め、かつ総会で全会員の3分の2以上の承認を得た場合に行われる。

(会則改定委員会)

第31条 本会が必要に応じ、会則改正委員会を置き、会則の改正を検討させることができる。

附 則

本会会則は平成8年4月1日より施行する。

音楽専攻同窓会「桐の音」 同窓会会則

第1条 名 称

桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻同窓会「桐の音」（以下本会とする）と称する。

第2条 目 的

本会は会員相互の親睦と向上をはかることを目的とする。

第3条 事 業

本会は下記の事業を行う。

- (1) 会員名簿及び会報の発行。
- (2) 会員の音楽活動の後援及び奨励。
- (3) 母校の発展に寄与し、後援する。
- (4) その他必要に応じて事業の開催・後援を行う。

第4条 組 織

- (1) 本会は正会員と特別会員により組織される。
- (2) 本会の運営は正会員より選任された役員及び委員により遂行される。
- (3) 正会員のうち若干名を理事とする。

第5条 本部及び事務局

- (1) 本会の本部は桐朋学園芸術短期大学内に置く。
- (2) 本会の事務局は桐朋学園芸術短期大学音楽研究室に置く。

第6条 正会員及び特別会員

- (1) 正会員は母校の卒業生及び母校の一時在籍者のうち入会希望者とする。
- (2) 特別会員は母校の現教職員のうちの専門科目の教職員及び理事会から推薦された者とする。

第7条 名誉会長及び名誉顧問、顧問

- (1) 本会は桐朋学園芸術短期大学学長を名誉会長に推挙する。
- (2) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻主任を顧問に推挙する。
- (3) 理事会は必要に応じ顧問を推挙できる。

第8条 理事

- (1) 理事は本会会長経験者及び理事会役員会で認められた者とし、任期は定めのないものとする。
- (2) 理事は、理事及び会長、役員会が必要と認めた場合、会の運営活動に参加することができる。

第9条 役員及び委員

- (1) 本会の役員は会長、副会長、書記・会計・庶務からなり、委員は代表委員、音楽活動委員、編集委員とし、役員及び委員は全員が評議する権利を持つ。
- (2) 役員及び委員は定められた方法により、正会員の中より選任される。
- (3) 役員及び委員の任期は原則として5年間とし、再選を阻まない。

第10条 役員の職務・権限

- (1) 会長は会務を統括し、会の代表者としての活動をする。
- (2) 副会長は4名とし、会長を補佐し、必要ある時は会長の任務を代行することができる。
- (3) 副会長は運営委員長、代表委員長、音楽活動委員長、会報委員長があたり、各々担当の委員会活動を統括する。
- (4) 役員及び委員選任の決定及び任命は、会長及び副会長の合議により行う。
- (5) 運営委員長は書記・会計・庶務を統括し、運営実務を担当する。
- (6) 役員は必要に応じて理事会に参加することができる。

第11条 委員の任務

- (1) 代表委員は各期2名以上とし、各期会員の動勢、及び活動を把握し、また名簿作成にあたり、名簿、会報その他印刷物を配布する。
- (2) 音楽活動委員は、会員の演奏会活動の支援、研究会その他音楽活動の中心となる活動をする。
- (3) 編集委員は、同窓会の機関紙としての会報の企画・編集にあたる。

第12条 総会

- (1) 総会は、会長またはその代行が必要と認めた場合これを招集する。
- (2) 本会則の改正は総会において承認される。

第13条 理事会

- (1) 理事会は、年1回以上開くものとする。
- (2) 理事及び会長、役員会が必要と認めた場合これを招集することができる。
- (3) 必要に応じて役員会に議事を提出することができる。

第14条 役員会及び委員会

- (1) 役員会は会長、副会長、書記、会計、庶務からなる。
- (2) 役員会は年1回以上開くものとするが、会長及び役員が必要と認めた場合これを招集することができる。
- (3) 役員会の議事は出席役員の過半数でこれを決し、可否同数の場合は理事、役員合議の上審議し決定するものとする。
- (4) 代表委員会、音楽活動委員会、会報委員会は会則にのっとり個別に活動することができる。
- (5) 会報委員会は会報委員長及び編集委員からなる。

第15条 本会の経費

- (1) 本会の経費は、年会費、入会金、臨時会費、寄付金をもって充てる。
- (2) 入会金は、本会の入会と同時に納入する。

第16条 会計年度及び決算

- (1) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- (2) 決算は会報により会員へ報告されなければならない。
- (3) 会計監査を置く。

第17条 会則の改定

- (1) 本会則の改定は役員会により審議され総会により承認される。
- (2) 同窓会の運営実務については、別にこれを定める。

第18条 報告

- (1) 総会及び役員会、委員会で承認された事項は会員に報告されなければならない。

演劇専攻同窓会 同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は桐朋学園芸術短期大学・芸術科演劇専攻（以下、演劇科と略す）同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員の相互の連結・親睦・団結及び演劇文化の向上をめざし、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は以下の活動を行なう。
1. 総会その他会員間の親睦を計るための集会
 2. 会員名簿・会報等の発行
 3. その他、前条の目的に則した活動への支援
- 第4条 本会の本部及び事務局は桐朋学園芸術短期大学演劇研究室内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会は以下の会員により構成される。
1. 正会員・演劇科に在籍した者、及び専攻科演劇専攻のみに在籍した者。
 2. 賛助会員・演劇科教職員、演劇科担当事務職員及びその職にあった方々。

第3章 組 織

- 第6条 本会は以下の役員を置く。
1. 会長1名・会長は本会を代表し会務全般を統括する。
 2. 副会長3名・副会長は会長を補佐し、必要ある場合これを代行する。
 3. 事務局長1名・事務局長は会務全般に関する事務を統括する。
 4. 会計2名・会計は金銭出納に関する事務を行う。
- 第7条 役員は必要に応じ随時役員会を開く。
- 第8条 役員は正会員中から幹事会（第11条及び第4章第15条参照）により選出し、総会（第4章第14条参照）において正会員の承諾を受ける。
- 第9条 役員の任期は次回定例総会までとする。但し再任は妨げない。
- 第10条 役員は正会員の1/3の不信任があった場合、ただちに役員改選をしなければならない。
- 第11条 本会は各期3名の幹事を期ごとの互選によって置く。その任務・任期は以下の通りである。
1. 各期会員の意見を掌握し本会会務に反映させる。
 2. 各期会員の転居地変更を掌握し名簿作製の任に当たる。
 3. 本会会費（第5章第17条参照）の徴収の任にあたる。
 4. 任期は原則として4年とする。但し再任は妨げない。
 5. 改選されたときは、事務局に速やかに届け出ること。
- 第12条 本会は名誉会長を置き、その職は本学の学長職にある者に委嘱する。
- 第13条 本会は監査役2名を置く。任務、選出及び任期は以下の通り。
1. 会計等の会務を監査し総会・幹事会において必要に応じて監査報告をする。
 2. 正会員中から幹事会により選出する。
 3. 任期は次回定例総会までとする。但し再任は妨げない。

第4章 総会及び幹事会

- 第14条
1. 総会は原則として4年に1度開かれる。
 2. 総会は正会員の1/3（委任状を含む）の出席者をもって成立する。
 3. 正会員の1/10の要求があったときは速やかに臨時総会を開かねばならない。
 4. 総会においては次の事項を承認決定する。
 - ① 会則の改正
 - ② 役員の人選
 - ③ 会務の一般報告及び活動予定
 - ④ 予算及び決算
 - ⑤ その他の事項
 5. やむを得ず総会の開催が困難と認められた時は、幹事会をもって総会とする事ができる。但しその場合の幹事会は、幹事の2/3の出席（委任状も含む）を必要とする。尚、正会員はこれに出席し意見を述べる事ができる。
- 第15条
1. 幹事会は役員と各期幹事によって構成される。
 2. 幹事会は原則として年1回、その他必要な場合随時開かれる。
 3. 正会員は幹事会に出席し意見を述べる事ができる。
- 第16条 本会の全ての議決は出席者の過半数を必要とする。

第5章 会 計

- 第17条 本会の会費は終身会費1万円とする。尚、1989年3月までに本会に入会した会員は個人の納入した年会費の額に応じて終身会費の1万円との差額を納入することとする。
- 第18条 本会の経費は会費及び臨時会費、寄附金及びその他の収入をもってあてる。
- 第19条 本会の資産は演劇科同窓会の名義により保管する。
- 第20条 本会の会計年度は1989年4月より2年毎を区切りとする。

第6章 会則の改正

- 第21条 本会則の改正は幹事会により審議され総会により承認される。

第7章 補 則

- 第22条 本会則は1997年5月18日より施行するものとする。

Toho Gakuen College of Drama and Music

講義概要

芸術科／専攻科

音楽専攻
演劇専攻

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				キャリア教育 対象外	実務経験 のある 等 による 授業科目	概要 ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
キャリア教育	情報リテラシー論	宗利 淳一	前期	2						127
	情報処理論	姫野 雅子	前期	2						127
	音楽環境論	久保田 慶一	前期	2						128
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2						128
	表現コミュニケーション論	後藤 絢子	後期	2						129
	芸術環境論	中山 夏織	前期	2						129
	アートプロデュース論	寺田 航	後期	2					○	130
一般教養	メディア論	細谷 修平	後期	2						130
	現代思想論	比嘉 徹徳	前期	2						131
	日本国憲法	西山 智之	後期	2						131
	文化政策論A	後藤 絢子	前期	2						132
	文化政策論B	後藤 絢子	後期	2						132
	青少年教育論	大谷賢治郎	前期	2					○	133
	倫理学	吉川 浩満	後期	2						133
	ジェンダー論	岡 俊一郎	後期	2						134
	ダンス史	宮川麻理子	後期	2						134
	映画史	細谷 修平	前期	2						135
	芸術空間論	鈴木 健介	後期	2					○	135
	国際文化論	後藤 絢子	前期	2						136
	文学論	高橋 宏幸	後集	2					○	136
語学	英語A I	J. ファーナー	前期	1					137	
	英語A II	J. ファーナー	後期		1				137	
	英語B I	田村奈穂子	前期			1			138	
	英語B II	田村奈穂子	後期				1		138	
	演劇英語	①② J. サザーランド	前期	1					139	
	ドイツ語 I	D. グロス	前期	1					139	
	ドイツ語 II	D. グロス	後期		1				140	
	ドイツ語 III	D. グロス	前期			1			140	
	ドイツ語 IV	D. グロス	後期				1		141	
	イタリア語 I	M. スバラグリ	前期	1					141	
	イタリア語 II	M. スバラグリ	後期		1				142	
	イタリア語 III	M. スバラグリ	前期			1			142	
	イタリア語 IV	M. スバラグリ	後期				1		143	
	フランス語 I	佐藤ローラ	前期	1					143	
フランス語 II	佐藤ローラ	後期		1				144		

注：語学は、I の修得なしにIIの履修はできない。

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	除算される科目	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期									
教養科目	情報処理論	姫野 雅子	前期	2				※教職受講者必修	⑥ 修得単位は自由選択単位として卒業要件に含むことができる ⑦ 必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含むことができる					127		
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修							131	
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修							128	
	英語AⅠ・Ⅱ	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊) 1科目選択必修 ※声楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「Ⅰ・Ⅱ」「Ⅲ・Ⅳ」をもって、1科目とみなす							137	
	英語BⅠ・Ⅱ	田村奈穂子	前・後			1	1									138
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	D. グロス	前・後	1	1											139・140
	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ	D. グロス	前・後			1	1									140・141
	イタリア語Ⅰ・Ⅱ	M. スバラグリ	前・後	1	1											141・142
イタリア語Ⅲ・Ⅳ	M. スバラグリ	前・後			1	1								142・143		
フランス語Ⅰ・Ⅱ	佐藤ローラ	前・後	1	1										143・144		
音楽基礎演習ーバロック・ダンス	a b	浜中 康子	前期	1					●全専修必修				○		145	
音楽理論基礎		塩崎 美幸	前期	1										145		
演劇専攻科目	演劇専攻『実技科目(共通)』より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「アフレコ実技A・B」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言Ⅰ」「狂言Ⅱ」必修								
専攻科目1年次	音楽理論 [和声] Ⅰ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期	2			PVWSG必修						146 147		
	音楽理論 [和声] Ⅱ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期		2		PVWSG必修						146 147		
	音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		池原 舞	前・後	2	2		PVWSG必修		○				148		
	日本音楽理論AⅠ・Ⅱ		森重 行敏	前・後	2	2		J必修		○				149		
	日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		野川美穂子	前・後	2	2		J必修		○				150		
	日本音楽特講		杵屋 巳織	後期		2		※教職受講者(J除く)必修(教職受講者のみ履修可)		△					151	
	演奏会制作法		伊藤 直樹	後期		1						○			151	
	アウトリーチ概説		永井 由比	前期	2										152	
	アウトリーチ演習		永井 由比	後期		1									152	
	音響学		中原 凖	後集		2				○	○				153	
	ディクシオン (イタリア語)		井上 由紀	前期	1			V必修							153	
	S. H. M. Ⅰ・Ⅱ	① ② ③	塩崎 美幸 加藤 千春 三瀬 俊吾	前・後	1	1			●全専修必修						154	
	合唱Ⅰ・Ⅱ		福永 一博	前・後	1	1			女子のみ(J除く)必修						154・155	
	オーケストラ・スタディア		野口千代光	前集	1				S必修		○				155	
	合奏A		野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修		○				156	
	管楽器基礎(呼吸法)		三塚 至	前期	1				W必修						156	
	声楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		松井 康司	前・後	1	1			男子のみ(J除く)必修						157	
	管楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ	a b	永井 由比 津川美佐子	前・後 前・後	1 1	1 1			W(FIのみ)必修 W(FI, Tr, Tb, Tub, Sx除く)必修				○		158 158	
	金管アンサンブルAⅠ・Ⅱ		神谷 敏	前・後	1	1			W(Tr, Tb, Tubのみ)必修						160	
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		野原 孝	前・後	1	1			W(Sxのみ)必修						161	
	ギター・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		佐藤 紀雄	前・後	1	1			G必修				○		162	
	うたA		今藤美知央	前期	1				J必修		△				163	
	邦楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		滝田美智子	前・後	1	1			J必修						163・164	
	伴奏法Ⅰ		揚原さとみ	後期		1			※教職受講者(J除く)必修						164	
	初見演奏(基礎)		大家 百子	前期	1				P必修						165	
	身体と表現との調和		志村 寿一	集中		2					○				165	
	第一実技Ⅰ			通年		4			●全専修必修		○				166	
	第二実技Ⅰ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)			通年		4				○	○				166	
	副科実技Ⅰ(ピアノ)			通年	2			●全専修必修	VWSGJ	○	○				166	
	副科実技Ⅰ(声楽)		PGJ						○	○				166		
	副科実技Ⅰ(管・弦・ギター・日本音楽)		GJ						○	○				166		
	伴奏A (1) (2)		柏原 佳奈	前集 後集	1 1						○				167	
	海外特別演習A		松井 康司 東井 美佳	前集	2						○				167	
	特別演習A		志村 寿一 井上 由紀	通年		1			●全専修必修		○				168	
	特別講座		中山 博之	後集		1			●全専修必修	○	○				168	
	コラボレイト実習A (1) (2)		松井 康司	前集 後集	1 1						○				169	

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目：2年次	音楽理論 [和声] Ⅲ	a 平井 正志 b 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修				169	
	音楽理論 [和声] Ⅳ	a 平井 正志 b 池田 哲美	後期				2	PVWSG必修				170	
	対位法Ⅰ・Ⅱ	池田 哲美	前・後			2	2					171	
	コード論Ⅰ	小林 真人	前期				2		◎		○	172	
	楽器法	未定	前集				2		◎	○		173	
	音楽マネジメント	楠瀬寿賀子	前期				2				○	173	
	日本音楽理論BⅠ・Ⅱ	森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎			149	
	音楽史特講A	池原 舞	前期				2		◎			174	
	音楽史特講B	大津 聡	前期				2		◎			174	
	音楽史演習A	池原 舞	後期				1		◎			175	
	音楽史演習B	大津 聡	後期				1		◎			175	
	音楽療法概論	鈴木千恵子	前期				2		◎			176	
	演奏解釈(1) ピアノ楽曲	東井 美佳	後期				2	P必修				176	
	演奏解釈(2) 声楽曲	相田 麻純	前期				2	V必修	◎		○	177	
	演奏解釈(3) 室内楽曲	寺岡有希子	前期				2	S必修			○	177	
	音楽理論 [楽式] Ⅰ・Ⅱ	① 穴戸 里佳 ② 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎			178	
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後			1	1	●全専修必修				180	
	オーケストラ・スタディB	野口千代光	前集			1		S必修		○		155	
	合奏B	野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修		○		156	
	声楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	松井 康司	前・後			1	1	男子(J除く)・女子(Vのみ)必修				157	
	管楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	津川美佐子	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tub, Sx除く) 必修			○	159	
	金管アンサンブルBⅠ・Ⅱ	神谷 敏	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tubのみ) 必修				160	
	指揮法Ⅰ・Ⅱ	福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修				180・181	
	室内楽A	a 荻野 千里 b 野口千代光 未定	前期			1						181	
	室内楽B	a 阪本奈津子 b 蓼沼恵美子 c 吉岡 次郎 d 菊池 奏絵	後期				1				○	182	
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	野原 孝	前・後			1	1	W (Sxのみ) 必修				182	
	ギター・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			○	183	
	うたB	今藤美知央	前期				1	J必修				183	
	邦楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	滝田美智子	前・後			1	1	J必修	△			163	
	伴奏法Ⅱ	揚原さとみ	前期				1	※教職受講者 (J除く) 必修				163・164	
	第一実技Ⅱ		通年				4	●全専修必修		○		184	
	第二実技Ⅱ (ピアノ・チェンバロ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲・ミュージカル・身体と表現との調和)		通年				4	ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	○		166	
	副科実技Ⅱ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・ミュージカル・身体と表現との調和)		通年				2	ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	○		166	
	第一実技卒業試験		通年				4	●全専修必修		○			
伴奏B	(1) 柏原 佳奈 (2)	前集 後集			1	1			○		167		
海外特別演習B	松井 康司 東井 美佳	前集				2			○		167		
特別演習B	志村 寿一 井上 由紀	通年				1	●全専修必修		○		168		
コラボレイト実習B	(1) 松井 康司 (2)	前集 後集			1	1			○	○	169		

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期				2	J必修 ※教職受講者必修	2024	○			
	合奏基礎 (和楽器)	花岡 操聖	前期			1		J必修	2024				
	楽器法 (和楽器)	花岡 操聖	前期	2				J必修	2023			185	
	演奏解釈 (4) 日本音楽	たかの舞俐	後期				2	J必修	2024				

【備考】①P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

②「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生（1・2年次とも。専攻科生含む）が履修可能な科目。

ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でない履修できない。

<2023(令和5)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位
GPA 1.0以上

【内訳】

- ①専攻科目単位数 48単位
(教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専修の必修単位数を含む)
②自由選択単位数 14単位
※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと。
※桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は自由選択単位に含む。

注

- ①Ⅰの修得なしにⅡの履修はできない。
②第一実技は、専修別による必修(1年次・2年次各50分)
③第二実技は、選択(40分)。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。
④副科実技は、Ⅰ必修、Ⅱ選択(20分)
Ⅰは、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。
副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。
⑤「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。
ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。
⑥選択科目「伴奏」について
前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏および演奏発表(実技試験・学内演奏会・卒業演奏会)をもって各々単位認定を行う。
「伴奏受講票」を使用のこと。
⑦選択科目「コラボレイト実習」について
専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会・卒業公演等あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。「コラボレイト実習受講票」を使用のこと。
⑧学内外の演奏会および試験について、提出曲目および曲数と異なる場合は失格とすることがある。
⑨専攻科目必修単位数(※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位数含む)

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	28	28	24	24	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1
	狂言Ⅱ	未定	前期	1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期							
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2			a組必修	6				187	
		b	三浦 剛	前期	2			b組必修					187	
		c	P. ゲスナー	前期	2			c組必修					188	
		d	田中壮太郎	前期	2			d組必修				○	188	
	基礎演劇演習B	a	P. ゲスナー	前期	2			a組必修					189	
		b	田中壮太郎	前期	2			b組必修				○	189	
		c	越光 照文	前期	2			c組必修					190	
		d	三浦 剛	前期	2			d組必修					190	
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1			a組必修				○	191	
		b	山本光二郎	前期	1			b組必修						
		c	山本光二郎	前期	1			c組必修						
		d	山本光二郎	前期	1			d組必修						
	ボイス・トレーニング（歌唱）	a	藍澤 幸頼	前期	1			a組必修					191	
		b	藍澤 幸頼	前期	1			b組必修						
		c	信太 美奈	前期	1			c組必修						
		d	信太 美奈	前期	1			d組必修						
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2		a組必修	8				192	
		b	越光 照文	後期		2		b組必修					193	
		c	田中壮太郎	後期		2		c組必修				○	193	
		d	P. ゲスナー	後期		2		d組必修					194	
	演劇演習B	a	田中壮太郎	後期		2		a組必修				○	194	
		b	P. ゲスナー	後期		2		b組必修					195	
		c	三浦 剛	後期		2		c組必修					195	
		d	越光 照文	後期		2		d組必修					196	
	演劇演習C	a	P. ゲスナー	前期			2			a組必修				196
		b	未定	前期			2			b組必修				197
		c	未定	前期			2			c組必修				197
		d	大塚 幸太	前期			2			d組必修				198
	演劇演習D	a	未定	後期				2		a組必修				198
		b	大塚 幸太	後期				2		b組必修				199
		c	P. ゲスナー	後期				2		c組必修				199
		d	未定	後期				2		d組必修				200
ストレートプレイ	演技演習A（ダイアログ）	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイコース必修	4			○	200	
		b	大谷賢治郎	後期			2							
ミュージカル	演技演習B（アンサンブル）	a	未定	後期			2						201	
		b	未定	前期			2							
ミュージカル	ショーダンス I	①②	未定	前期			1	ミュージカルコース必修 （「ミュージカルトレーニングB」はLAの補習にも参加する）	4				201	
	ショーダンス II	①②	未定	後期			1						202	
	ミュージカルトレーニングB	①②	信太 美奈	前期			1						202	
	ミュージカル演習	①②	大塚 幸太	後期			1						203	

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期								
実技科目(共通)	演劇特別演習Ⅰ ①②③	鴻上 尚史	後期		1			LAの補習にも参加する	8			○	203		
	演劇特別演習Ⅱ ①②③	未定	前期			1							204		
	マイム ①②	江ノ上陽一	前期	1									○	204	
	アクション ①②	藤田 けん	後期		1								○	205	
	日本舞踊Ⅰ ①②	藤間 希穂	後期		1								○	205	
	日本舞踊Ⅱ ①②	未定	前期			1							○	206	
	狂言Ⅰ ①②	善竹大二郎	後期		1								○	○	206
	狂言Ⅱ ①②	未定	前期			1							○	207	
	アフレコ実技A	未定	前期			1							○	207	
	アフレコ実技B	未定	後期				1						○	208	
	クラシック唱法Ⅰ ①②	松井 康司	後期		1									208	
	クラシック唱法Ⅱ ①②	松井 康司	前期			1								209	
	ミュージカルトレーニングA ①②	藍澤 幸頼	後期		1								○	209	
	ジャズダンスA ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	前期	1									○	210	
	ジャズダンスB ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	後期		1								○	211	
	ジャズダンスC ①②③④	未定	前期			1							○	212	
	バレエ・ムーヴメント ①②	中農 美保	前期	1									○	213	
	クラシックバレエⅠ ①②	中農 美保	後期		1								○	213	
	クラシックバレエⅡ ①②	未定	前期			1							○	214	
	タップダンスⅠ ①②	中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1								○	214 215	
タップダンスⅡ ①②	未定	前期			1		○	215・216							
実技科目	歌唱(個人レッスン) A	信太 美奈 他	前期	2			自由選択単位	専攻科目単位数には含まない				216			
	歌唱(個人レッスン) B		後期		2										
	歌唱(個人レッスン) C	未定	前期			2									
	歌唱(個人レッスン) D		後期			2									
	歌唱(個人レッスン) E	信太 美奈 他	前期	1											
	歌唱(個人レッスン) F		後期		1										
	歌唱(個人レッスン) G	未定	前期			1									
	歌唱(個人レッスン) H		後期			1									

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
理論科目	舞台芸術概論	高橋 宏幸	前期	2				必修	12				217
	日本演劇史A (古典)	安富 順	前期	2									217
	日本演劇史B (近現代)	高橋 宏幸	後期		2								218
	西洋演劇史A (古典)	高橋 宏幸	前期	2									218
	西洋演劇史B (近現代)	森山 直人	後期		2								219
	ミュージカル概論	橋爪 貴明	前期	2									219
	ミュージカル論	藤原麻優子	後期		2								220
	アーツマネジメント論	後藤 絢子	前期			2							220
	ソルフェージュ基礎 ①②	永井 由比	後期		2								221
	ソルフェージュ ①②	未定	前期			2	ミュージカルコース必修						221
	応用演劇論	大谷賢治郎	前期		2								222
	演劇批評論	高橋 宏幸	前期			2							222
	パフォーミングアーツ論	高橋 宏幸	後期				2						223
	演出論	川村 毅	後集		2								223
	演劇論	高橋 宏幸	後期		2		隔年開講						224
劇作法	瀬戸山美咲	後期			1		224						
実習科目	舞台照明実習①	石島奈津子	前集	1			※照明部以外対象	○	○	○		225	
	舞台照明実習②	兼子 慎平	前集	1			※照明部対象		○	○		225	
	舞台音響実習①	佐藤こうじ	前集	1			※音響部以外対象	○	○	○		226	
	舞台音響実習②	宮崎 淳子	前集	1			※音響部対象		○	○		226	
	舞台製作実習	鈴木 健介	前集	1					○			227	
	舞台監督実習	鈴木 健介	前集	1					○	○		227	
	電動工具実習	鈴木 健介	前集	1			※人数制限あり		○			228	
	舞台図面実習	鈴木 健介	前集	1					○			228	
	ヘアメイク実習	鈴木 理絵	前集	1					○			229	
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次	穴迫 信一	後集		1					○		229	
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次	宮河愛一郎	後集		1					○		229	
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次	未定	前集			1				○		230	
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次	未定	前集			1				○		230	
	ワークショップ(演大連) 1年次	P. ゲスナー	集中		1					○		230	
	ワークショップ(演大連) 2年次	後藤 絢子	集中			1				○		230	
	演劇合宿	三浦 剛	前集	1						○		231	
	演劇研修 1年次	P. ゲスナー	後集		1					○		231	
	演劇研修 2年次	高橋 宏幸 後藤 絢子	後集			1				○		231	
	劇上演実習A (試演会) ストレートプレイ	未定	後集				4	4単位必修					232
	劇上演実習A (試演会) ミュージカル	未定	後集				4						232
劇上演実習B (卒業公演) ストレートプレイ	未定	後集				4						233	
劇上演実習B (卒業公演) ミュージカル	未定	後集				4						233	
劇上演実習C (学外出演)	三浦 剛	集中		4					○			234	
劇上演実習D (学外出演)	三浦 剛	集中		4					○			234	
劇上演実習E (学内出演)	三浦 剛	集中		1					○			234	
劇上演実習F (学内出演)	三浦 剛	集中		1					○			234	

<2023(令和5)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位
1.実技科目 26単位
2.理論科目 12単位
3.実習科目 10単位
試演会または卒業公演 4単位必修
②教養科目単位数 12単位
外国語 2単位必修
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。
- ② 基礎演劇演習 AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング (歌唱)、演劇演習 ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史 AB、西洋演劇史 AB、ミュージカル概論、ミュージカル論、アーツマネジメント論は全コース必修。
- ③ 演技演習 AB はストレートプレイコース必修。
- ④ ショーダンス I II、ミュージカルトレーニング B、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修。
- ⑤ 試演会または卒業公演は、4 単位必修。
- ⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。
- ⑦ 歌唱 (個人レッスン) の修得単位数は自由選択単位数に含む。
レッスン時間は ABCD40分、EFGH20分。履修料別途徴収。
- ⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数に含む。
- ⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数に含む。

○講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位

【教育課程・卒業の要件】

卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表および注意事項を参照すること。

1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数	14単位
(専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。
- ③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。
- ④ 教養科目の「語学」より2単位1科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって1科目とみなす。(ただし声楽専修はイタリア語を含む2語学を必修とし、合計4単位)
- ⑤ 演劇専攻科目の「実技科目(共通)」の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか1単位必修とする。(ただし、「アフレコ実技A」「アフレコ実技B」「ミュージカルトレーニングA」を除く)

2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数	2単位
(専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数の内訳は
 実技科目 26単位 理論科目 12単位 実習科目 10単位
 試演会または卒業公演 4単位必修
- ③ 教養科目単位数の内訳は
 語学 2単位必修

【本学における中学校教諭2種免許状取得の要件】

1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

・下記の(1)～(5)に定める授業科目を履修し、計10単位以上修得すること

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	要件	概要 ページ
(1) 日本国憲法	日本国憲法	西山 智之	後期	2	必修	131
(2) 体育	音楽基礎演習ーバロック・ダンス	浜中 康子	前期	1	1単位選択必修	145
	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1		206
	狂言Ⅱ	未定	前期	1		207
	日本舞踊Ⅰ	藤間 希穂	後期	1		205
	日本舞踊Ⅱ	未定	前期	1		206
	マイム	江ノ上陽一	前期	1		204
	アクション	藤田 けん	後期	1		205
	ジャズダンスA	三村みどり	前期	1		210
	ジャズダンスB	畔柳小枝子	前期	1		210
	ジャズダンスC	三村みどり	後期	1		211
	ジャズダンスD	畔柳小枝子	後期	1		211
	ジャズダンスE	未定	前期	1		212
	バレエ・ムーヴメント	中農 美保	前期	1		213
	クラシックバレエⅠ	中農 美保	後期	1		213
クラシックバレエⅡ	未定	前期	1	214		
タップダンスⅠ	近藤 淳子	後期	1	215		
タップダンスⅡ	中谷 諭紀	後期	1	214		
タップダンスⅢ	未定	前期	1	215・216		
(3) 外国語コミュニケーション	英語AⅠ	J. ファーナー	前期	1	2単位選択必修	137
	英語AⅡ	J. ファーナー	後期	1		137
	英語BⅠ	田村奈穂子	前期	1		138
	英語BⅡ	田村奈穂子	後期	1		138
	ドイツ語Ⅰ	D. グロス	前期	1		139
	ドイツ語Ⅱ	D. グロス	後期	1		140
	ドイツ語Ⅲ	D. グロス	前期	1		140
	ドイツ語Ⅳ	D. グロス	後期	1		141
	イタリア語Ⅰ	M. スバラグリ	前期	1		141
	イタリア語Ⅱ	M. スバラグリ	後期	1		142
	イタリア語Ⅲ	M. スバラグリ	前期	1		142
	イタリア語Ⅳ	M. スバラグリ	後期	1		143
フランス語Ⅰ	佐藤ローラ	前期	1	143		
フランス語Ⅱ	佐藤ローラ	後期	1	144		
(4) 情報機器の操作	情報処理論	姫野 雅子	前期	2	必修	127
(5) 介護等体験関連	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2	必修	128

2. 教職に関する科目

・下記に定める授業科目を指定された年次に履修し、すべての単位を修得すること（計28単位）

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	学年	概要 ページ
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	音楽科教育法	伊藤 誠	後期	2	1年次	285
教育の基礎的理解に関する科目	教育史概説	宮城 哲	前期	2	2年次	285
	教師論	風見 章	後期	2	1年次	286
	教育原理	木村 康彦	後期	2	1年次	286
	教育心理学	鈴木 敦子	前期	2	2年次	287
	特別支援教育入門	桑山 一也	後期	1	1年次	287
	教育課程論及び教育方法論	風見 章	前集	1	1年次	288
道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	風見 章	後集	2	1年次	288
	総合的な学習の時間の指導法	風見 章	前集	1	1年次	289
	特別活動の指導法	風見 章	後集	1	1年次	289
	生徒指導（進路指導含む）	安富由美子	後期	2	1年次	290
	教育相談	安富由美子	前期	2	2年次	290
情報通信技術を活用した教育及び方法	ICT活用による教育の方法・技術	狩野 浩二	後期	1	1年次	291
教育実習	教育実習Ⅰ・Ⅱ	永井 由比・柏原 佳奈	通年	5	1・2年次	291・292
教職実践演習	教職実践演習（中学校）	永井 由比・柏原 佳奈	後期	2	2年次	292

3. 教科に関する科目

・必修の授業科目含めて24単位以上を修得すること

科目区分	授業科目	学年	単位	要件
ソルフェージュ	S. H. M. I・II	音1	2	必修
	S. H. M. III・IV	音2	2	
声乐 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)	合唱 I・II	音1	2	J2単位必修
	声楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	声楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	うたA	音1	1	
	うたB	音2	1	
	狂言 I	音1	1	
	狂言 II	音2	1	
	第一実技 I (声楽)	音1	4	
	第二実技 I (声楽)	音1	4	
	副科実技 I (声楽)	音1	2	
	第一実技 II (声楽)	音2	4	
	第二実技 II (声楽)	音2	4	
	副科実技 II (声楽)	音2	2	
	オペラ実習A [演奏]	専音1	2	
	オペラ実習A [演技]	専音1	2	
	オペラ実習A [上演]	専音1	2	
	オペラ実習B [演奏]	専音2	2	
	オペラ実習B [演技]	専音2	2	
オペラ実習B [上演]	専音2	2		
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	第一実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	GJ ピアノ必修
	第二実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	
	副科実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	2	
	第一実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	第二実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	副科実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	2	
	サクソフォン・アンサンブルA I・II	音1	2	
	サクソフォン・アンサンブルB I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブルA I・II	音1	2	
	ギター・アンサンブルB I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブルC	専音1	2	
	ギター・アンサンブルD	専音2	2	
	室内楽A	音2	1	
	室内楽B	音2	1	
	邦楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	邦楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	邦楽アンサンブル研究A	専音1	4	
	邦楽アンサンブル研究B	専音2	4	

科目区分	授業科目	学年	単位	要件
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	オーケストラ・スタディA	音1	1	1科目必修
	オーケストラ・スタディB	音2	1	
	オーケストラ・スタディC	専音1	1	
	オーケストラ・スタディD	専音2	1	
	合奏A	音1	2	
	合奏B	音2	2	
	合奏C	専音1	2	
	合奏D	専音2	2	
	ピアノデュオ研究A	専音1	4	
	ピアノデュオ研究B	専音2	4	
	歌曲研究A	専音1	4	
	歌曲研究B	専音2	4	
	管楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	管楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	管楽アンサンブル研究A	専音1	4	
	管楽アンサンブル研究B	専音2	4	
	室内楽研究A	専音1	2	
	室内楽研究B	専音1	2	
室内楽研究C	専音2	2		
室内楽研究D	専音2	2		
伴奏法 I・II	音1・2	2	1科目必修	
合奏基礎 (和楽器)	音2	1		
日本音楽特講	音1	2	必修(J除く)	
指揮法	指揮法 I・II	音2	2	必修
音楽理論・作曲法 (編曲法を含む)及び音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	音楽理論[和声] I	音1	2	J4単位必修
	音楽理論[和声] II	音1	2	
	音楽史概説 I・II	音1	4	
	音楽理論[和声] III	音2	2	
	音楽理論[和声] IV	音2	2	
	音楽理論[楽式] I・II	音2	4	
	対位法 I・II	音2	4	
	楽器法	音2	2	
	日本音楽理論A I・II	音1	4	
	日本音楽理論B I・II	音2	4	
	日本音楽理論C	専音1	2	
	日本音楽史概説 I・II	音1	4	
	音楽史特講A	音2	2	
	音楽史特講B	音2	2	
	音楽史演習A	音2	1	
	音楽史演習B	音2	1	
	音響学	音1	2	
	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	音2	2	
演奏解釈 (2) 声楽曲	音2	2		
演奏解釈 (3) 室内楽曲	音2	2		
演奏解釈 (4) 日本音楽	音2	2		
日本音楽概論	音2	2	必修	

【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験等のある教員による授業科目	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目・1年次	作曲・理論 音楽史	音楽理論〔和声〕V	平井 正志	前期	2							235	
		音楽理論〔和声〕VI	平井 正志	後期		2						235	
		楽曲分析(古典派)	池田 哲美	前期	2								236
		楽曲分析(ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2							236
		コード論II	小林 真人	前期	2						○		237
		S.H.M V・VI	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後	1	1							237
		音楽史研究	大津 聡	通年		4							238
		日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4			J必修				238
		日本音楽理論C	森重 行敏	後期		2			J必修				239
		音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4				○			239
	音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2							240	
	演奏現場論A	合田 香	前期	2					○			240	
	アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4				○			241	
	実技 レッスン	第一実技Ⅲ	(ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6					●全専修必修	241
		第二実技Ⅲ	(ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)		通年		4				○		241
		副科実技Ⅲ	(ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)		通年		2				○		241
	実技・アンサンブル 演奏・室内楽	学内演奏Ⅰ		松井 康司 柏原 佳奈	通年		2					●全専修必修	242
		ピアノデュオ研究A		東井 美佳 柏原 佳奈	通年		4					P必修	242
		管楽アンサンブル研究A		津川美佐子	通年		4					W(Sx除く)必修	243
		室内楽研究A	a	荻野 千里 野口千代光	前期	2							243
			b	北本 秀樹									244
室内楽研究B		a	阪本奈津子									244	
		b	藤沼 恵美子				2					245	
		c	吉岡 次郎									245	
		d	菊池 奏絵									246	
歌曲研究A			松井 康司 東井 美佳	通年		4						246	
オペラ実習A〔演奏〕			布施 雅也	前期	2					○	V選択	247	
オペラ実習A〔演技〕			柴田千絵里	前期	2					○	[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること	247	
オペラ実習A〔上演〕			布施 雅也 柴田千絵里	後期		2				○		248	
邦楽アンサンブル研究A			滝田美智子	通年		4					J必修	248	
オーケストラ・スタディC			野口千代光	前集	1						S必修	249	
合奏C			野口千代光 永井 由比	後集		2					S必修	249	
ギター・アンサンブルC			佐藤 紀雄	通年		2					G必修	250	
室内楽特設クラスA			柏原 佳奈	前集	1					○*		250	
室内楽特設クラスB			柏原 佳奈	後集		1				○*		250	
伴奏C	(1) (2)	柏原 佳奈	前集 後集	1 1							251		
伴奏研究A		柏原 佳奈	前集	1							251		
伴奏研究B		柏原 佳奈	後集		1						251		
海外特別演習C		松井 康司 東井 美佳	前集	2							252		
特別講義(音楽)		松井 康司	集中	1					○	●全専修必修	252		
特別演習C		柏原 佳奈	通年	1						●全専修必修	253		
コラボレイト実習C	(1) (2)	松井 康司	前集 後集	1 1							253		

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある等員による授業科目	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
音楽史・作曲・理論・音楽教育	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞例	前期			2					254		
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞例	後期				2				254		
	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4		J必修			238		
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○		239		
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2					240		
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1				255		
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○		240		
アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○		241			
実技レッスン	第一実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			6		●全専修必修			241		
	第二実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)		通年			4			○		241		
	副科実技Ⅳ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)		通年			2			○		241		
	第一実技修了試験		通年			4		●全専修必修					
実技・アンサンブル 演奏・室内楽	学内演奏Ⅱ	松井 康司 柏原 佳奈	通年			2		●全専修必修			242		
	ピアノデュオ研究B	東井 美佳 柏原 佳奈	通年			4					242		
	管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年			4		W(Sx除く)必修		○	243		
	室内楽研究C	a 荻野 千里	前期			2						243	
		b 野口千代光 未定											
	室内楽研究D	a 阪本奈津子	後期				2					○	244
		b 藤沼恵美子											
		c 吉岡 次郎											
		d 菊池 奏絵											
	歌曲研究B	松井 康司 東井 美佳	通年			4						246	
	オペラ実習B〔演奏〕	布施 雅也	前期			2		V選択	○		247		
	オペラ実習B〔演技〕	柴田千絵里	前期			2		[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること	○		247		
	オペラ実習B〔上演〕	布施 雅也 柴田千絵里	後期			2			○		248		
	邦楽アンサンブル研究B	滝田美智子	通年			4		J必修			248		
	オーケストラ・スタディD	野口千代光	前集			1		S必修			249		
	合奏D	野口千代光 永井 由比	後集			2		S必修			249		
	ギター・アンサンブルD	佐藤 紀雄	通年			2		G必修		○	250		
	室内楽特設クラスC	柏原 佳奈	前集			1			○*		250		
	室内楽特設クラスD	柏原 佳奈	後集			1			○*		250		
	伴奏D	(1) 柏原 佳奈	前集 後集			1						251	
(2) 柏原 佳奈													
伴奏研究C	柏原 佳奈	前集			1						251		
伴奏研究D	柏原 佳奈	後集			1						251		
海外特別演習D	松井 康司 東井 美佳	前集			2						252		
特別演習D	柏原 佳奈	通年			1						253		
コラボレイト実習D	(1) 松井 康司	前集 後集			1						253		
	(2) 松井 康司												

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

【備考】 P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

<2023(令和5)年度入学生の修了要件>
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講義(音楽) 2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

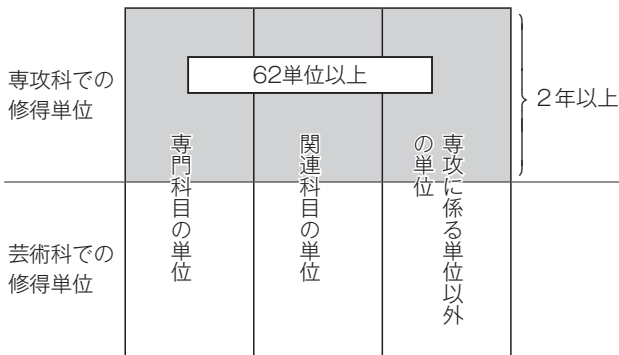
【学士取得に向けて】

<2023(令和5)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目の単位・専攻に係る単位以外の単位を24単位以上修得していること。

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること



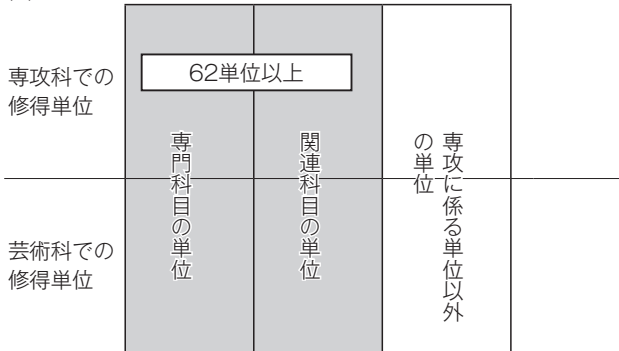
「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

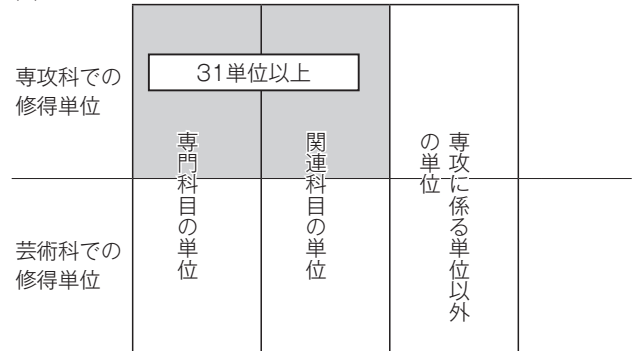
※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること。

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

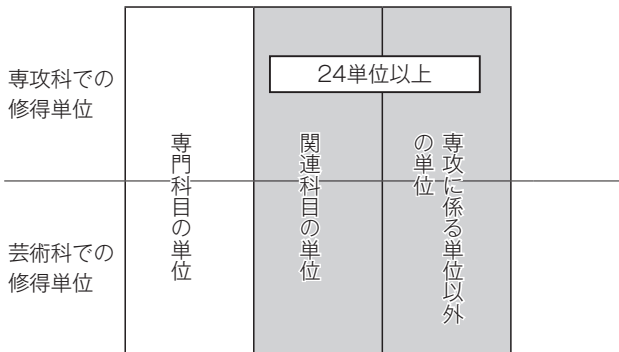
(A)



(B)



③芸術科・専攻科の4年間で専門科目の単位以外の単位を24単位以上修得していること



※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる。

※専門科目、関連科目、専攻に係る科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと。

【教育課程・修了の要件】

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				修了要件	他専攻	実務経験のある等により授業科目	教員による	概要ページ					
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期										
理論科目	特別講義A	高橋 宏幸	前期	2				4	○			257					
	特別講義B	後藤 絢子	前期			2						257					
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)	高橋 宏幸	前期		2							257					
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)		後期	2			258										
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	安宅りさ子	前期		2							258					
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)		後期	2			259										
科目 劇作演出	劇作研究A (劇作論)	瀬戸山美咲	前期		2			8	○		259						
	劇作研究B (劇作演習)	瀬戸山美咲	後期	1			260										
科目 演劇教育・マネジメント	演出研究	小山ゆうな	前期		2			8	○	○	260						
	映像映画研究	山岡 信貴	後集	2			261										
	演劇教育論	柏木 陽	後期	2			261										
	アーツマネジメント研究 (1)	後藤 絢子	前期	2			262										
	アーツマネジメント研究 (2)		後期	2			262										
	アウトリーチ研究 (1)	恵志美奈子	前期	2			263										
アウトリーチ研究 (2)	後藤 絢子	後期	2			263											
演技科目	演技研究A (日本演劇) (1) 1年次	三浦 剛	前期	1				16				264					
	演技研究A (日本演劇) (2) 1年次		後期		1							264					
	演技研究A (日本演劇) (1) 2年次		前期			1						265					
	演技研究A (日本演劇) (2) 2年次		後期				1					265					
	演技研究B (外国演劇) (1) 1年次	P.ゲスナー	前期	1								266					
	演技研究B (外国演劇) (2) 1年次		後期		1		266										
	演技研究B (外国演劇) (1) 2年次		前期			1						267					
	演技研究B (外国演劇) (2) 2年次		後期				1					267					
	演技研究C (現代劇) (1) 1年次	田中壮太郎	前期	1								268					
	演技研究C (現代劇) (2) 1年次		後期		1		268										
	演技研究C (現代劇) (1) 2年次		前期			1						269					
	演技研究C (現代劇) (2) 2年次		後期				1					269					
	演技研究D (フィジカルシアター) 1年次	大谷賢治郎	後期		1							270					
	演技研究D (フィジカルシアター) 2年次					1	270										
	演技研究E (ミュージカル) 1年次	大塚 幸太	前期	1								271					
	演技研究E (ミュージカル) 2年次					1	271										
	演劇特別研究 (1) ①②	真鍋 卓嗣	前期		1							272					
	演劇特別研究 (2) ①②		後期	1			272										
	ワークショップA (1)	内藤 裕子	前集	1								273					
	ワークショップA (2)		後集		1		○					273					
	ワークショップB (1)	未定	前集			1						273					
	ワークショップB (2)		後集				1					273					
	ワークショップC (演大連)	P.ゲスナー	集中		1							274					
	ワークショップD (演大連)	高橋 宏幸 後藤 絢子	集中				1					274					
	演劇研修 1年次	P.ゲスナー 高橋 宏幸 後藤 絢子	後集		1							274					
	2年次						1										
	実技科目	舞踊A (クラシックバレエ) I	中農 美保	前期		1						2	○*1				275
舞踊A (クラシックバレエ) II		後期			1		275										
舞踊B (コンテンポラリー)		勝倉 寧子	前期		1		○	276									
舞踊C (日舞)		藤間 希穂	後期		1		○*2	276									
ミュージカル唱法 (1)		藍澤 幸頼	前期		1		277										
ミュージカル唱法 (2)			後期		1		277										
英語劇 (1)		J. サザーランド	前期		1		278										
英語劇 (2)			後期		1		278										
歌唱 (個人レッスン) I		信太 美奈	前期	2			自由 選択 単位										
歌唱 (個人レッスン) J		他	後期		2												
歌唱 (個人レッスン) K		未定	前期			2											
歌唱 (個人レッスン) L			後期			2											
歌唱 (個人レッスン) M		信太 美奈	前期	1													
歌唱 (個人レッスン) N		他	後期		1												
歌唱 (個人レッスン) O	未定	前期			1												
歌唱 (個人レッスン) P		後期			1												
劇上演実習	劇上演実習A 1年次	大谷賢治郎	前集	4								16		○			279
	2年次①②				未定												4
	劇上演実習B 1年次①	P.ゲスナー	後集	4													280
	2年次①				未定												4
	劇上演実習B 1年次②	三浦 剛	後集	4													280
	2年次②				未定												4
	劇上演実習C (専1最終公演)	越光 照文	後集		4		281										
	劇上演実習D (専2修了公演)	未定	後集			4	281										
	劇上演実習E (学外出演)	三浦 剛	集中		4		282										
	劇上演実習F (学外出演)	三浦 剛	集中		4		282										
劇上演実習G (学内出演)	三浦 剛	集中		1		282											
劇上演実習H (学内出演)	三浦 剛	集中		1		282											
修了論文	修了論文 (1)	高橋宏幸 他	前期		2			283									
	修了論文 (2)		後期		2		283										

*1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエI」「クラシックバレエII」を修得していることを条件とする。

*2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊I」「日本舞踊II」を修得していることを条件とする。

<2023(令和5)年度入学生の修了要件>
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネージメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位 (自他専攻科科目より)

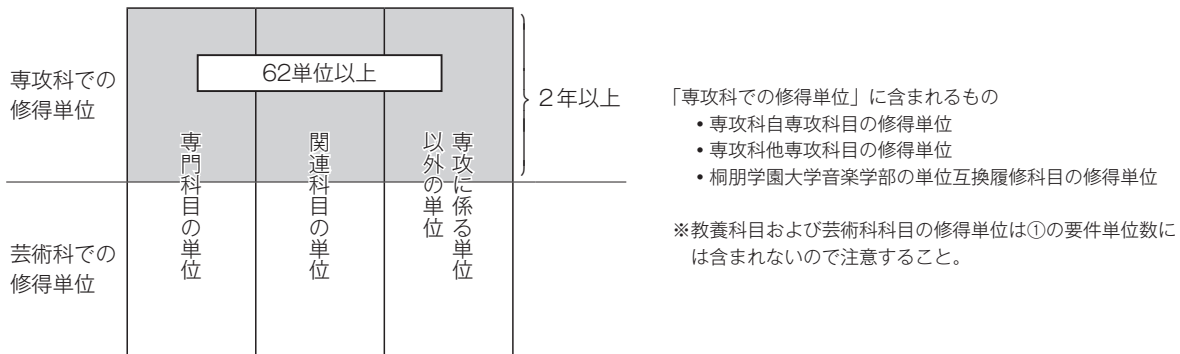
【学士取得に向けて】

<2023(令和5)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

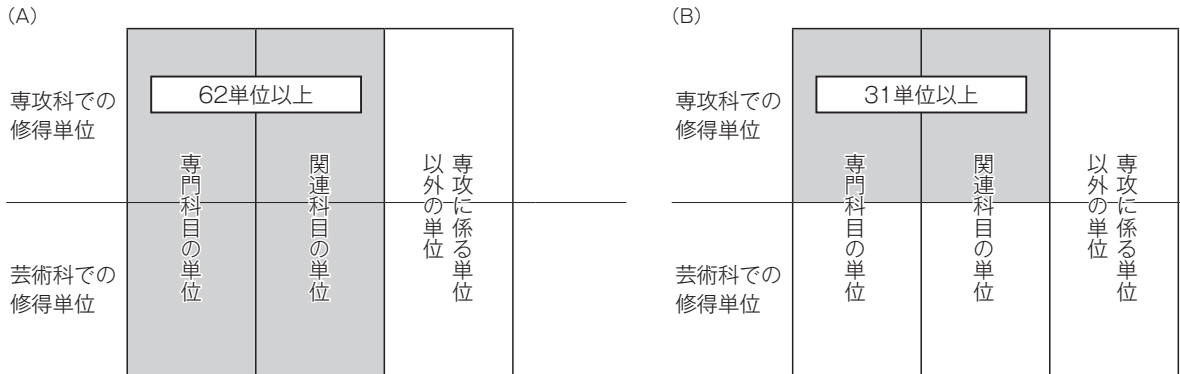
最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目の単位・専攻に係る単位以外の単位を24単位以上修得していること。

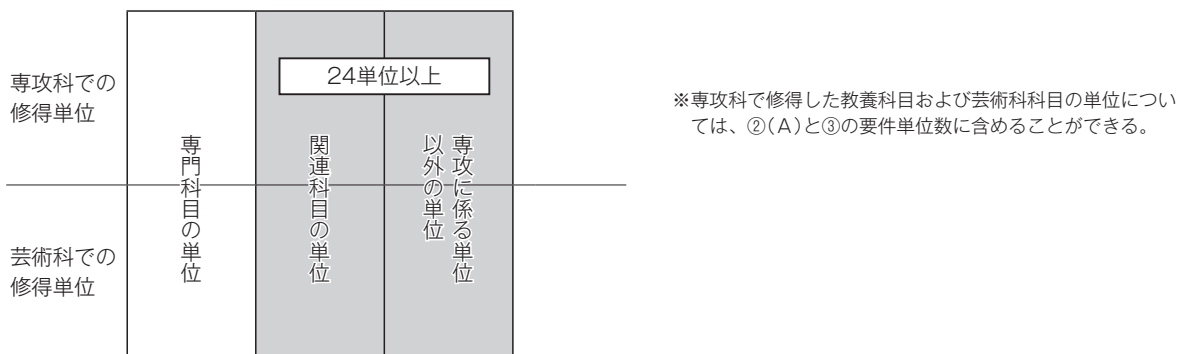
①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること



②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること



③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専門科目の単位以外の単位を24単位以上修得していること



※専門科目、関連科目、専攻に係る科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと。

2023(令和5)年度 カリキュラムマップ

【カリキュラムマップ】

カリキュラムマップは、学習成果で掲げている「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の5つの観点の到達目標が、どの授業科目の履修によって達成されるかの相関関係を示したものである。

各科目がカリキュラムの中でどのような位置付けにあるのかを確認し、学修の一助とすること。

教養科目カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連づけて理解することができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。
- ④ (態度) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。
- ⑤ (技能・表現) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
キャリア教育	前期	情報リテラシー論		○	○		
	前期	情報処理論				○	○
	前期	音楽環境論		○	○		
	前期	社会福祉学	○			○	
	後期	表現コミュニケーション論		○		○	
	前期	芸術環境論	○			○	
	後期	アートプロデュース論		○	○		
一般教養	後期	メディア論		○	○		
	前期	現代思想論	○				○
	後期	日本国憲法	○		○		
	前期	文化政策論A	○		○		
	後期	文化政策論B	○		○		
	前期	青少年教育論		○		○	
	後期	倫理学		○		○	
	後期	ジェンダー論			○	○	
	後期	ダンス史	○		○		
	前期	映画史	○			○	
	後期	芸術空間論	○		○		
	前期	国際文化論				○	○
	後集	文学論	○				○
	語学	前期	英語A I				○
後期		英語A II				○	○
前期		英語B I				○	○
後期		英語B II				○	○
前期		演劇英語①②				○	○
前期		ドイツ語 I				○	○
後期		ドイツ語 II				○	○
前期		ドイツ語 III				○	○
後期		ドイツ語 IV				○	○
前期		イタリア語 I				○	○
後期		イタリア語 II				○	○
前期		イタリア語 III				○	○
後期		イタリア語 IV				○	○
前期		フランス語 I				○	○
後期		フランス語 II				○	○

芸術科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 専門実技、音楽理論、ソルフェージュ等の演奏表現に必要な基礎を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、演奏表現の向上に向けて多面的に考察し、判断していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 自らの音楽的な知識、経験をもって社会におけるニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての基礎的な演奏技術と表現能力を持ち、自分の想像した表現を実現することができる。

■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専攻 教養 科目	前期	音楽理論基礎	○			○	
	前期	音楽基礎演習—バロック・ダンス				○	○
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] I・II	○	○			
	前・後	日本音楽理論A I・II	○		○		
音楽 史	前・後	音楽史概説 I・II			○	○	
	前・後	日本音楽史概説 I・II			○	○	
ソルフェ ージュ	前・後	S. H. M. I・II	○			○	
専門 教育 科目	後期	演奏会制作法			○	○	
	前期	アウトリーチ概説		○	○		
	後期	アウトリーチ演習			○	○	
	後集	音響学	○				○
	後集	特別講座	○	○			
	後期	日本音楽特講			○	○	
	前期	ディクショ (イタリア語)	○				○
	前期	管楽器基礎(呼吸法)			○	○	○
	前期	うたA			○	○	○
	前期	初見演奏 (基礎)			○	○	○
	集中	身体と表現との調和		○			○
	後期	伴奏法 I	○			○	
	前期	楽器法 (和楽器)	○		○		
	室内 楽 アン サン プル 科目	前・後	合唱 I・II			○	○
前集		オーケストラ・スタディ A			○	○	○
後集		合奏 A			○	○	○
前・後		声楽アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		管楽アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		金管アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		サクソフォン・アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		ギター・アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		邦楽アンサンブル A I・II			○	○	○
前・後		伴奏 A			○	○	
実技 科目	通年	第一実技 I			○	○	○
	通年	第二実技 I			○	○	○
	通年	副科実技 I			○	○	○
特別 演習	前集	海外特別演習 A	○		○		
	通年	特別演習 A	○	○			
実習科目	前・後	コラボレイト実習 A		○	○		

■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] III・IV	○	○			
	前・後	対位法 I・II		○	○		
	前期	コード論 I	○	○			
	前・後	音楽理論 [楽式] I・II	○		○		
音楽 史	前・後	日本音楽理論 B I・II	○		○		
	前期	音楽史特講 A	○		○		
	前期	音楽史特講 B	○		○		
	後期	音楽史演習 A	○	○			
ソルフェ ージュ	後期	音楽史演習 B	○	○			
	後期	日本音楽概論			○	○	
	前・後	S. H. M. III. IV	○			○	
	専門 教育 科目	前期	うた B			○	○
前期		音楽マネジメント			○	○	
前期		音楽療法概論	○			○	
後期		演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	○	○			
前期		演奏解釈 (2) 声楽曲	○	○			
前期		演奏解釈 (3) 室内楽曲	○	○			
後期		演奏解釈 (4) 日本音楽	○	○			
前集		楽器法	○		○		
前・後		指揮法 I・II			○	○	
前期		伴奏法 II	○			○	
室内 楽 アン サン プル 科目	前期	室内楽 A		○			○
	後期	室内楽 B		○			○
	前集	オーケストラ・スタディ B			○	○	○
	後集	合奏 B			○	○	○
	前・後	声楽アンサンブル B I・II			○	○	○
	前・後	管楽アンサンブル B I・II			○	○	○
	前・後	金管アンサンブル B I・II			○	○	○
	前・後	サクソフォン・アンサンブル B I・II			○	○	○
	前・後	ギター・アンサンブル B I・II			○	○	○
	前・後	邦楽アンサンブル B I・II			○	○	○
実技 科目	前・後	伴奏 B			○	○	
	前期	合奏基礎 (和楽器)			○	○	○
	通年	第一実技 II			○	○	○
	通年	第二実技 II			○	○	○
特別 演習	通年	副科実技 II			○	○	○
	通年	第一実技卒業試験	○	○			○
	前集	海外特別演習 B	○		○		
実習科目	通年	特別演習 B	○	○			
	前・後	コラボレイト実習 B		○	○		

専攻科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 音楽を中心とした芸術全般の知識、音楽理論、歴史等を体系的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための音楽的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 時代に即した演奏表現を獲得すると共に、同時代から求められている最先端の演奏表現等を取り入れることができる。
- ③ (関心・意欲) 同時代における最先端の演奏表現、創造行為の動向に関心を払い、自らもそれに参入することができる。
- ④ (態度) 他者との協働に積極的に関わり、自らの音楽経験、知識を持って教育、福祉、文化活動等、社会的なニーズに応えると同時に、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての確かな演奏技術と表現力を持ち、音楽による表現、創造活動の意義を社会に伝えることができる。

■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専門教育	通年	音楽療法概説A			○	○	
	通年	音楽療法演習A			○		○
	前期	演奏現場論A			○	○	
	通年	アウトリーチ研究A			○	○	
	集中	特別講義(音楽)	○	○			
	通年	特別演習C		○		○	
音楽理論	前・後	音楽理論[和声] V・VI	○	○			
	前期	楽曲分析(古典派)	○	○			
	後期	楽曲分析(ロマン派以降)	○	○			
	前期	コード論II	○	○			
	後期	日本音楽理論C	○	○			
音楽史	通年	音楽史研究	○		○		
	通年	日本音楽史研究A	○		○		
ソルフェージュ	前・後	S. H. M. V・VI		○		○	
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究A				○	○
	通年	管楽アンサンブル研究A				○	○
	通年	歌曲研究A				○	○
	前集	室内楽特設クラスA				○	○
	後集	室内楽特設クラスB				○	○
室内楽	前期	室内楽研究A				○	○
	後期	室内楽研究B				○	○
	前期	オペラ実習A[演奏]		○			○
	前期	オペラ実習A[演技]		○			○
	後期	オペラ実習A[上演]				○	○
	通年	邦楽アンサンブル研究A				○	○
	前集	オーケストラ・スタディC				○	○
	後集	合奏C				○	○
	通年	ギター・アンサンブルC				○	○
	通年	学内演奏I				○	○
実技	前・後	伴奏C				○	○
	前集	伴奏研究A				○	○
	後集	伴奏研究B				○	○
	前集	海外特別演習C			○		○
	前・後	コラボレイト実習C		○	○		
	通年	第一実技III				○	○
	通年	第二実技III				○	○
	通年	副科実技III				○	○

■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専門教育	通年	音楽療法概説B			○	○	
	通年	音楽療法演習B			○		○
	後集	音楽療法実習			○		○
	前期	演奏現場論B			○	○	
	通年	アウトリーチ研究B			○	○	
	通年	特別演習D		○		○	
音楽理論	前期	楽曲分析[編曲]			○		○
	後期	楽曲分析[創作]			○		○
音楽史	通年	日本音楽史研究B	○		○		
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究B				○	○
	通年	管楽アンサンブル研究B				○	○
	通年	歌曲研究B				○	○
	前集	室内楽特設クラスC				○	○
室内楽	後集	室内楽特設クラスD				○	○
	前期	室内楽研究C				○	○
	後期	室内楽研究D				○	○
	前期	オペラ実習B[演奏]		○			○
	前期	オペラ実習B[演技]		○			○
	後期	オペラ実習B[上演]				○	○
	通年	邦楽アンサンブル研究B				○	○
	前集	オーケストラ・スタディD				○	○
	後集	合奏D				○	○
	通年	ギター・アンサンブルD				○	○
実技	通年	学内演奏II				○	○
	前・後	伴奏D				○	○
	前集	伴奏研究C				○	○
	後集	伴奏研究D				○	○
	前集	海外特別演習D			○		○
	前・後	コラボレイト実習D		○	○		
	通年	第一実技IV				○	○
	通年	第二実技IV				○	○
通年	副科実技IV				○	○	
通年	第一実技修了試験				○	○	

芸術科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 演劇、歌唱、舞踊等の表現手段を用いて、他者と共に課題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 集団の中で協働の役割を果たすことができ、演劇的な技術、知識をもって地域社会および国際社会のニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 俳優、表現者としての基礎的な技能を持ち、自分の想像した表現を実現することができる。

■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
基礎実技科目	前期	基礎演劇演習A		○		○	
		基礎演劇演習B		○		○	
		身体トレーニング		○		○	
実技科目(共通)	前期	ボイス・トレーニング(歌唱)		○		○	
		マイム		○		○	
実技科目	前期	ジャズダンスA		○		○	
		バレエ・ムーヴメント		○		○	
実技科目	前期	歌唱(個人レッスン) A, E		○		○	
		舞台芸術概論	○		○		
理論科目	前期	日本演劇史A(古典)	○		○		
		西洋演劇史A(古典)	○		○		
		ミュージカル概論	○		○		
		応用演劇論			○	○	
実習科目	前期	舞台照明実習①		○		○	
		舞台照明実習②		○		○	
		舞台音響実習①		○		○	
		舞台音響実習②		○		○	
		ヘアメイク実習	○		○		
		舞台監督実習		○		○	
		舞台製作実習	○		○		
		電動工具実習	○		○		
		舞台図面実習	○		○		
		ワークショップ(演大連) 1年次				○	○
		演劇合宿		○		○	
		劇上演実習C, D(学外出演)		○	○		○
劇上演実習E, F(学内出演)		○	○		○		
演技科目	前期	演劇演習A		○		○	
		演劇演習B		○		○	
実技科目(共通)	前期	演劇特別演習I		○		○	
		アクション		○		○	
		日本舞踊I	○			○	
		狂言I	○			○	
		クラシック唱法I	○		○		
		ミュージカルトレーニングA		○		○	
		ジャズダンスB		○		○	
		クラシックバレエI		○		○	
		タップダンスI		○		○	
		歌唱(個人レッスン) B, F		○		○	
理論科目	後期	日本演劇史B(近現代)	○		○		
		西洋演劇史B(近現代)	○		○		
		ミュージカル論	○		○		
		ソルフェージュ基礎	○		○		
		演出論	○		○		
実習科目	後期	演劇論	○		○		
		劇作法	○		○		
		ワークショップ(ストレートプレイ)				○	○
		ワークショップ(ミュージカル)				○	○
		ワークショップ(演大連) 1年次				○	○
		演劇研修 1年次	○		○		
		劇上演実習C, D(学外出演)		○		○	○
劇上演実習E, F(学内出演)		○		○	○		

■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
演技科目	前期	演劇演習C		○		○	
		S実技科目	演技演習A(ダイアログ)		○		○
M実技科目	前期	演技演習B(アンサンブル)		○		○	
		ショーダンスI		○		○	
実技科目(共通)	前期	ミュージカルトレーニングB		○		○	
		演劇特別演習II		○		○	
		日本舞踊II			○		○
		狂言II	○				○
		アフレコ実技A	○		○		
		クラシック唱法II	○		○		
		ジャズダンスC		○			○
		クラシックバレエII		○			○
		タップダンスII		○			○
		歌唱(個人レッスン) C, G		○			○
理論科目	前期	アーツマネジメント論	○			○	
		ソルフェージュ	○		○		
		応用演劇論			○	○	
実習科目	前期	演劇批評論	○		○		
		ワークショップ(ストレートプレイ)				○	○
		ワークショップ(ミュージカル)				○	○
		ワークショップ(演大連) 2年次				○	○
		劇上演実習C, D(学外出演)		○	○		○
劇上演実習E, F(学内出演)		○	○		○		
演技科目	後期	演劇演習D		○		○	
		S実技科目	演技演習B(アンサンブル)		○		○
M実技科目	後期	演技演習A(ダイアログ)		○		○	
		ショーダンスII		○		○	
実技科目(共通)	後期	ミュージカル演習		○		○	
		アフレコ実技B	○		○		
実技科目	後期	歌唱(個人レッスン) D, H		○		○	
		パフォーマンスアーツ論	○		○		
理論科目	後期	演出論	○		○		
		劇作法	○		○		
		ワークショップ(演大連) 2年次				○	○
		演劇研修 2年次	○		○		
		劇上演実習A(試演会)		○		○	○
		劇上演実習B(卒業公演)		○		○	○
		劇上演実習C, D(学外出演)		○		○	○
劇上演実習E, F(学内出演)		○		○	○		

専攻科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論、歴史等を発展的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための演劇的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら設定した課題を、理論や歴史を元に、演技、歌唱、舞踊、パフォーマンス等の表現手段を用いて、他者との関わりを深めながら解決していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における演劇、ひいては芸術の存在意義を考え、自らの表現活動を積極的に実践することができる。
- ④ (態度) 集団の中で協働性を持ち、進んでリーダーシップをとり、地域社会および国際社会のニーズに応じて、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 専門俳優、表現者としての確かな技能と表現力を持ち、演劇を中心とした舞台芸術の意義を社会に伝えることができる。

■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義A	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (1)			○		○
		アウトリーチ研究 (1)			○		○
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) 1年次		○		○	
		演劇特別研究 (1)	○			○	
		ワークショップA (1)				○	○
		ワークショップC (演大連)				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) I		○			○
		舞踊B (コンテンポラリー)		○			○
		ミュージカル唱法 (1)		○			○
		英語劇 (1)	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) I, M		○			○
		劇上演実習A 1年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
修了論文		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
		修了論文 (1)	○	○			○
		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
理論科目		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
		劇作研究B (劇作演習)			○		○
創作・演出科目		映像映画研究	○		○		
		演劇教育論			○		○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (2)			○		○
		アウトリーチ研究 (2)			○		○
演技科目	後期	演技研究A (日本演劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) 1年次		○		○	
		演劇特別研究 (2)	○			○	
		ワークショップA (2)				○	○
		ワークショップC (演大連)				○	○
実技科目		演劇研修 1年次	○		○		
		舞踊A (クラシックバレエ) II		○			○
		舞踊C (日舞)		○			○
		ミュージカル唱法 (2)		○			○
英語劇 (2)		英語劇 (2)	○		○		
		歌唱 (個人レッスン) J, N		○			○
		劇上演実習B 1年次		○		○	○
劇上演実習		劇上演実習C (専1最終公演)		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
修了論文		修了論文 (2)	○	○			○

■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義B	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (1)			○		○
		アウトリーチ研究 (1)			○		○
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) 2年次		○		○	
		演劇特別研究 (1)	○			○	
		ワークショップB (1)				○	○
		ワークショップD (演大連)				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) I		○			○
		舞踊B (コンテンポラリー)		○			○
		ミュージカル唱法 (1)		○			○
		英語劇 (1)	○		○		
歌唱 (個人レッスン) K, O		歌唱 (個人レッスン) K, O		○			○
		劇上演実習A 2年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
劇上演実習		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
		修了論文 (1)	○	○			○
		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
理論科目		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
		劇作研究B (劇作演習)			○		○
創作・演出科目		映像映画研究	○		○		
		演劇教育論			○		○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (2)			○		○
		アウトリーチ研究 (2)			○		○
演技科目	後期	演技研究A (日本演劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) 2年次		○		○	
		演劇特別研究 (2)	○			○	
		ワークショップB (2)				○	○
		ワークショップD (演大連)				○	○
実技科目		演劇研修 2年次	○		○		
		舞踊A (クラシックバレエ) II		○			○
		舞踊C (日舞)		○			○
		ミュージカル唱法 (2)		○			○
英語劇 (2)		英語劇 (2)	○		○		
		歌唱 (個人レッスン) L, P		○			○
		劇上演実習B 2年次		○		○	○
劇上演実習		劇上演実習D (専2修了公演)		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
修了論文		修了論文 (2)	○	○			○

2023(令和5)年度 科目ナンバリング

科目ナンバー

科目ナンバーは、学問分野の中で、その科目がどのような位置付けとなっているかを示す、住所のような役割を持っています。

科目ナンバーの示し方は大学により多様ですが、基本的に3文字か4文字からなる文字コード部と、3ケタから5ケタからなる数字コード部で表す方式が一般的です。

【例】 ジャズダンスA : DNC 1 3 2 0 T

↓

DNC…科目が属する学問分野を示す文字コード
 1 …レベル
 3 …授業の方法
 2 …学問分野・領域の細分
 0 …科目整理番号
 T …所属コード

文字コードは、その科目が主としてどのような学問分野に属しているのかを示しています。

文字コードと学問分野との関係を【表1】に示します。

数字コードは、千の位にてその科目の難易度（レベル）を【表2】、百の位にて当該科目で主とする授業形態（講義主体なのか、実技主体なのか等）を【表3】、十の位にて文字コードで示す学問分野・領域を細分した場合の位置付けを【表4】、一の位にて文字コードと数字コードの千の位・百の位・十の位とが同じ科目中での、住所での番地に相当する当該科目の固有番号（科目を整理するための番号）を示しています。

所属コードは、本学での開講を担っている教育組織等を示しています。所属コードと教育組織との関係は次の通りです。

B : 教養科目 M : 音楽専攻 T : 演劇専攻 MA : 専攻科音楽専攻 TA : 専攻科演劇専攻

[表1] 文字コード：科目が属する学問分野

文字コード	学問分野名称<日本語>	学問分野名称<英語>
CAE	キャリア教育	Career Education
LIA	一般教養	Liberal Arts
FLS	語学	Foreign Language Studies
MUS	音楽(音楽学)	Music
THE	演劇学	Theater
DNC	舞踊学	Dance
VOM	音楽(歌唱)	Vocal Music

[表2] 千の位：レベル

1000から4000へと段階的にレベルが高くなります。

千の位	レベル
1	1000
2	2000
3	3000
4	4000

[表3] 百の位：授業の方法

■音楽専攻 百の位：授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(技術)
3	実技(副科、第二実技)
4	実技(主科)
5	実習(卒業試験など)

■演劇専攻 百の位：授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(演技)
3	実技(グループレッスン) ※GL
4	実技(個人レッスン) ※PL
5	実習(スタッフ) ※Staff
6	実習(ワークショップ) ※WS
7	実習(上演)

[表4] 十の位：学問分野・領域の細分

文字コード	学問分野名称<日本語>	十の位	学問分野・領域の細分
CAE	キャリア教育	0	情報
		1	環境
		2	社会福祉
		3	コミュニケーション
		4	アーツマネジメント
		5	応用演劇
LIA	一般教養	0	メディア
		1	思想
		2	日本国憲法
		3	文化
		4	教育
		5	身体
FLS	語学	0	英語
		1	ドイツ語
		2	イタリア語
		3	フランス語
MUS	音楽（音楽学）	0	専門教育
		1	音楽理論
		2	音楽史・音楽学
		3	ソルフェージュ
		4	合奏・室内楽・アンサンブル
		5	専門実技
THE	演劇学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	戯曲
		2	演出
		3	演技
		4	舞台技術
		5	制作
		6	批評
DNC	舞踊学	0	クラシックバレエ
		1	ジャズダンス
		2	タップダンス
		3	日本舞踊
		4	コンテンポラリー
VOM	音楽（歌唱）	0	ソルフェージュ
		1	声楽

2023(令和5)年度 科目ナンバリング [教養科目]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
キャリア教育	情報リテラシー論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1000B
	情報処理論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1001B
	音楽環境論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1010B
	社会福祉学	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1020B
	表現コミュニケーション論	CAE	講義	2	1・2	後期	CAE2030B
	芸術環境論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1011B
	アートプロデュース論	CAE	講義	2	1・2	後期	CAE2040B
一般教養	メディア論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2000B
	現代思想論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1010B
	日本国憲法	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2020B
	文化政策論A	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1030B
	文化政策論B	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2030B
	青少年教育論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1040B
	倫理学	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2010B
	ジェンダー論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2011B
	ダンス史	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2050B
	映画史	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1000B
	芸術空間論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2012B
	国際文化論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1031B
	文学論	LIA	講義	2	1・2	後集	LIA2001B
語学	英語A I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1100B
	英語A II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2100B
	英語B I	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3100B
	英語B II	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4100B
	演劇英語	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1101B
	ドイツ語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1110B
	ドイツ語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2110B
	ドイツ語 III	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3110B
	ドイツ語 IV	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4110B
	イタリア語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1120B
	イタリア語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2120B
	イタリア語 III	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3120B
	イタリア語 IV	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4120B
	フランス語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1130B
	フランス語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2130B

2023(令和5)年度 科目ナンバリング [芸術科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専攻教養科目	音楽基礎演習－バロック・ダンス	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1200M
	音楽理論基礎	MUS	演習（理論）	1	1	前期	MUS1110M
音楽理論	音楽理論 [和声] I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010M
	音楽理論 [和声] II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010M
	音楽理論 [和声] III	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010M
	音楽理論 [和声] IV	MUS	講義	2	2	後期	MUS4010M
	対位法 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3011M
	対位法 II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011M
	コード論 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3012M
	音楽理論 [楽式] I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3013M
	音楽理論 [楽式] II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4012M
	日本音楽理論 A I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011M
	日本音楽理論 A II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2011M
	日本音楽理論 B I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3014M
日本音楽理論 B II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4013M	
音楽史	音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1020M
	音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2020M
	音楽史特講 A	MUS	講義	2	2	前期	MUS3020M
	音楽史特講 B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3021M
	音楽史演習 A	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4120M
	音楽史演習 B	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4121M
	日本音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1021M
	日本音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2021M
日本音楽概論	MUS	講義	2	2	後期	MUS4020M	
ソルフェージュ	S.H.M. I	MUS	演習（理論）	1	1	前期	MUS1130M
	S.H.M. II	MUS	演習（理論）	1	1	後期	MUS2130M
	S.H.M. III	MUS	演習（理論）	1	2	前期	MUS3130M
	S.H.M. IV	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4130M
専門教育科目	演奏会制作法	MUS	演習（理論）	1	1	後期	MUS2100M
	アウトリーチ概説	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000M
	アウトリーチ演習	MUS	演習（技術）	1	1	後期	MUS2200M
	音響学	MUS	講義	2	1	後集	MUS2002M
	特別講座	MUS	講義	1	1	後集	MUS2000M
	日本音楽特講	MUS	講義	2	1	後期	MUS2001M
	ディクシオン（イタリア語）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1201M
	管楽器基礎（呼吸法）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1202M
	うた A	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1203M
	うた B	MUS	演習（技術）	1	2	前期	MUS3200M
	初見演奏（基礎）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1204M
	身体と表現との調和	MUS	演習（技術）	2	1	集中	MUS2201M
	音楽マネジメント	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000M
	音楽療法概論	MUS	講義	2	2	前期	MUS3001M
	演奏解釈（1）ピアノ楽曲	MUS	講義	2	2	後期	MUS4000M
	演奏解釈（2）声楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3002M
	演奏解釈（3）室内楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3003M
	演奏解釈（4）日本音楽	MUS	講義	2	2	後期	MUS4001M
	楽器法（和楽器）	MUS	講義	2	1	前期	MUS1001M
	楽器法	MUS	講義	2	2	前集	MUS3004M
	指揮法 I	MUS	演習（理論）	1	2	前期	MUS3100M
	指揮法 II	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4100M
	伴奏法 I	MUS	演習（技術）	1	1	後期	MUS2202M
	伴奏法 II	MUS	演習（技術）	1	2	前期	MUS3201M

科目区分	授業科目	文字コード*	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・ アンサンブル科目	合唱Ⅰ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1240M
	合唱Ⅱ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2240M
	合奏A	MUS	演習(技術)	2	1	後集	MUS2241M
	合奏B	MUS	演習(技術)	2	2	後集	MUS4240M
	室内楽A	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3240M
	室内楽B	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4241M
	オーケストラ・スタディA	MUS	演習(技術)	1	1	前集	MUS1241M
	オーケストラ・スタディB	MUS	演習(技術)	1	2	前集	MUS3241M
	声楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1242M
	声楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2242M
	声楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3242M
	声楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4242M
	管楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1243M
	管楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2243M
	管楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3243M
	管楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4243M
	金管アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1244M
	金管アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2244M
	金管アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3244M
	金管アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4244M
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1245M
	サクソフォン・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4245M
	ギター・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1246M
	ギター・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2246M
	ギター・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3246M
	ギター・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4246M
	邦楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1247M
	邦楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2247M
	邦楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3247M
	邦楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4247M
	合奏基礎(和楽器)	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3249M
伴奏A	MUS	演習(技術)	1	1	前集・後集	MUS2248M	
伴奏B	MUS	演習(技術)	1	2	前集・後集	MUS4248M	
実技科目	第一実技Ⅰ	MUS	実技(主科)	4	1	通年	MUS2450M
	第一実技Ⅱ	MUS	実技(主科)	4	2	通年	MUS4450M
	第二実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	1	通年	MUS2350M
	第二実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	2	通年	MUS4350M
	副科実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	1	通年	MUS2351M
	副科実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	2	通年	MUS4351M
	第一実技卒業試験	MUS	実習(卒業試験など)	4	2	通年	MUS4550M
特別演習	海外特別演習A	MUS	演習(技術)	2	1	前集	MUS1248M
	海外特別演習B	MUS	演習(技術)	2	2	前集	MUS3248M
	特別演習A	MUS	演習(技術)	1	1	通年	MUS2203M
	特別演習B	MUS	演習(技術)	1	2	通年	MUS4200M
実習科目	コラボレイト実習A	MUS	実習(卒業試験など)	1	1	前集・後集	MUS2550M
	コラボレイト実習B	MUS	実習(卒業試験など)	1	2	前集・後集	MUS4551M

2023(令和5)年度 科目ナンバリング [専攻科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専門教育科目	音楽療法概説 A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2000MA
	音楽療法演習 A	MUS	演習 (技術)	2	1	通年	MUS2200MA
	音楽療法概説 B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4000MA
	音楽療法演習 B	MUS	演習 (技術)	2	2	通年	MUS4200MA
	音楽療法実習	MUS	実習 (卒業試験など)	1	2	後集	MUS4500MA
	演奏現場論 A	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000MA
	演奏現場論 B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000MA
	アウトリーチ研究 A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2001MA
	アウトリーチ研究 B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4001MA
	特別講義 (音楽)	MUS	講義	1	1	集中	MUS2002MA
	特別演習 C	MUS	演習 (技術)	1	1	通年	MUS2201MA
	特別演習 D	MUS	演習 (技術)	1	2	通年	MUS4201MA
音楽理論	音楽理論 [和声] V	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010MA
	音楽理論 [和声] VI	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010MA
	日本音楽理論 C	MUS	講義	2	1	後期	MUS2012MA
	楽曲分析 (古典派)	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011MA
	楽曲分析 (ロマン派以降)	MUS	講義	2	1	後期	MUS2011MA
	楽曲分析 [編曲]	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010MA
	楽曲分析 [創作]	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011MA
コード論 II	MUS	講義	2	1	前期	MUS1012MA	
音楽史	音楽史研究	MUS	講義	4	1	通年	MUS2020MA
	日本音楽史研究 A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2021MA
	日本音楽史研究 B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4020MA
ソルフェージュ	S. H. M. V	MUS	演習 (理論)	1	1	前期	MUS1130MA
	S. H. M. VI	MUS	演習 (理論)	1	1	後期	MUS2130MA
室内楽・ アンサンブル科目	ピアノデュオ研究 A	MUS	演習 (技術)	4	1	通年	MUS2240MA
	ピアノデュオ研究 B	MUS	演習 (技術)	4	2	通年	MUS4240MA
	管楽アンサンブル研究 A	MUS	演習 (技術)	4	1	通年	MUS2241MA
	管楽アンサンブル研究 B	MUS	演習 (技術)	4	2	通年	MUS4241MA
	室内楽研究 A	MUS	演習 (技術)	2	1	前期	MUS1240MA
	室内楽研究 B	MUS	演習 (技術)	2	1	後期	MUS2242MA
	室内楽研究 C	MUS	演習 (技術)	2	2	前期	MUS3240MA
	室内楽研究 D	MUS	演習 (技術)	2	2	後期	MUS4242MA
	歌曲研究 A	MUS	演習 (技術)	4	1	通年	MUS2243MA
	歌曲研究 B	MUS	演習 (技術)	4	2	通年	MUS4243MA
	室内楽特設クラス A	MUS	演習 (技術)	1	1	前集	MUS1241MA
	室内楽特設クラス B	MUS	演習 (技術)	1	1	後集	MUS2244MA

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・アンサンブル科目	室内楽特設クラスC	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3241MA
	室内楽特設クラスD	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4244MA
	オペラ実習A〔演奏〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1540MA
	オペラ実習A〔演技〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1541MA
	オペラ実習A〔上演〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	後期	MUS2540MA
	オペラ実習B〔演奏〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3540MA
	オペラ実習B〔演技〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3541MA
	オペラ実習B〔上演〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	後期	MUS4540MA
	邦楽アンサンブル研究A	MUS	演習（技術）	4	1	通年	MUS2245MA
	邦楽アンサンブル研究B	MUS	演習（技術）	4	2	通年	MUS4245MA
	オーケストラ・スタディC	MUS	演習（技術）	1	1	前集	MUS1242MA
	オーケストラ・スタディD	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3242MA
	合奏C	MUS	演習（技術）	2	1	後集	MUS2246MA
	合奏D	MUS	演習（技術）	2	2	後集	MUS4246MA
	ギター・アンサンブルC	MUS	演習（技術）	2	1	通年	MUS2247MA
	ギター・アンサンブルD	MUS	演習（技術）	2	2	通年	MUS4247MA
	伴奏C	MUS	演習（技術）	1	1	前集・後集	MUS2248MA
	伴奏D	MUS	演習（技術）	1	2	前集・後集	MUS4248MA
	伴奏研究A	MUS	演習（技術）	1	1	前集	MUS1243MA
	伴奏研究B	MUS	演習（技術）	1	1	後集	MUS2249MA
	伴奏研究C	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3243MA
	伴奏研究D	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4249MA
	海外特別演習C	MUS	演習（技術）	2	1	前集	MUS1244MA
海外特別演習D	MUS	演習（技術）	2	2	前集	MUS3244MA	
実技	学内演奏Ⅰ	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	通年	MUS2550MA
	学内演奏Ⅱ	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	通年	MUS4550MA
	コラボレイト実習C	MUS	実習（卒業試験など）	1	1	前集・後集	MUS2551MA
	コラボレイト実習D	MUS	実習（卒業試験など）	1	2	前集・後集	MUS4551MA
	第一実技Ⅲ	MUS	実技（主科）	6	1	通年	MUS2450MA
	第一実技Ⅳ	MUS	実技（主科）	6	2	通年	MUS4450MA
	第二実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	1	通年	MUS2350MA
	第二実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	2	通年	MUS4350MA
	副科実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	1	通年	MUS2351MA
	副科実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	2	通年	MUS4351MA
第一実技修了試験	MUS	実習（卒業試験など）	4	2	通年	MUS4552MA	

2023(令和5)年度 科目ナンバリング [芸術科/演劇専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
基礎実技科目	基礎演劇演習 A	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1230T
	基礎演劇演習 B	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1231T
	身体トレーニング	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1330T
	ボイス・トレーニング (歌唱)	VOM	実技 (GL)	1	1	前期	VOM1310T
演技科目	演劇演習 A	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2230T
	演劇演習 B	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2231T
	演劇演習 C	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3230T
	演劇演習 D	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4230T
ストレートプレイ 実技科目	演技演習 A (ダイアログ)	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3231T
	演技演習 B (アンサンブル)	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4231T
ミュージカル 実技科目	ショーダンス I	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3310T
	ショーダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	後期	DNC4310T
	ミュージカルトレーニング B	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3310T
	ミュージカル演習	THE	演習 (演技)	1	2	後期	THE4232T
実技科目	演劇特別演習 I	THE	演習 (演技)	1	1	後期	THE2232T
	演劇特別演習 II	THE	演習 (演技)	1	2	前期	THE3232T
	マイム	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1331T
	アクション	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2330T
	日本舞踊 I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2330T
	日本舞踊 II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3330T
	狂言 I	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2331T
	狂言 II	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3330T
	アフレコ実技 A	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3331T
	アフレコ実技 B	THE	実技 (GL)	1	2	後期	THE4330T
	クラシック唱法 I	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2310T
	クラシック唱法 II	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3311T
	ミュージカルトレーニング A	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2311T
	ジャズダンス A	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1310T
	ジャズダンス B	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2310T
	ジャズダンス C	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3311T
	バレエ・ムーヴメント	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1300T
	クラシックバレエ I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2300T
	クラシックバレエ II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3300T
	タップダンス I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2320T
	タップダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3320T
	歌唱 (個人レッスン) A	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410T
	歌唱 (個人レッスン) B	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410T
	歌唱 (個人レッスン) C	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410T
	歌唱 (個人レッスン) D	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410T
	歌唱 (個人レッスン) E	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411T
	歌唱 (個人レッスン) F	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411T
	歌唱 (個人レッスン) G	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411T
歌唱 (個人レッスン) H	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411T	

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	舞台芸術概論	THE	講義	2	1	前期	THE1000T
	日本演劇史A (古典)	THE	講義	2	1	前期	THE1001T
	日本演劇史B (近現代)	THE	講義	2	1	後期	THE2000T
	西洋演劇史A (古典)	THE	講義	2	1	前期	THE1002T
	西洋演劇史B (近現代)	THE	講義	2	1	後期	THE2001T
	ミュージカル概論	THE	講義	2	1	前期	THE1003T
	ミュージカル論	THE	講義	2	1	後期	THE2002T
	アーツマネジメント論	THE	講義	2	2	前期	THE3050T
	ソルフェージュ基礎	VOM	演習 (理論)	2	1	後期	VOM2100T
	ソルフェージュ	VOM	実技 (GL)	2	2	前期	VOM3300T
	応用演劇論	THE	講義	2	1・2	前期	THE1004T
	演劇批評論	THE	講義	2	2	前期	THE3060T
	パフォーミングアーツ論	THE	講義	2	2	後期	THE4060T
	演出論	THE	講義	2	1・2	後集	THE2020T
	演劇論	THE	講義	2	1	後期	THE2003T
	劇作法	THE	講義	1	1・2	後期	THE2010T
実習科目	舞台照明実習①	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1540T
	舞台照明実習②	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1541T
	舞台音響実習①	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1542T
	舞台音響実習②	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1543T
	ヘアメイク実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1544T
	舞台監督実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1545T
	舞台製作実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1546T
	電動工具実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1547T
	舞台図面実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1548T
	ワークショップ(ストレートプレイ)1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2630T
	ワークショップ(ストレートプレイ)2年次	THE	実習 (WS)	1	2	前集	THE3630T
	ワークショップ(ミュージカル)1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2631T
	ワークショップ(ミュージカル)2年次	THE	実習 (WS)	1	2	前集	THE3631T
	ワークショップ(演大連) 1年次	THE	実習 (WS)	1	1	集中	THE2632T
	ワークショップ(演大連) 2年次	THE	実習 (WS)	1	2	集中	THE4630T
	演劇合宿	THE	実習 (WS)	1	1	前集	THE1600T
	演劇研修1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2600T
	演劇研修2年次	THE	実習 (WS)	1	2	後集	THE4600T
	劇上演実習A (試演会)	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4700T
	劇上演実習B (卒業公演)	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4701T
	劇上演実習C (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2700T
	劇上演実習D (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2701T
	劇上演実習E (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2702T
	劇上演実習F (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2703T

2023(令和5)年度 科目ナンバリング [専攻科/演劇専攻]

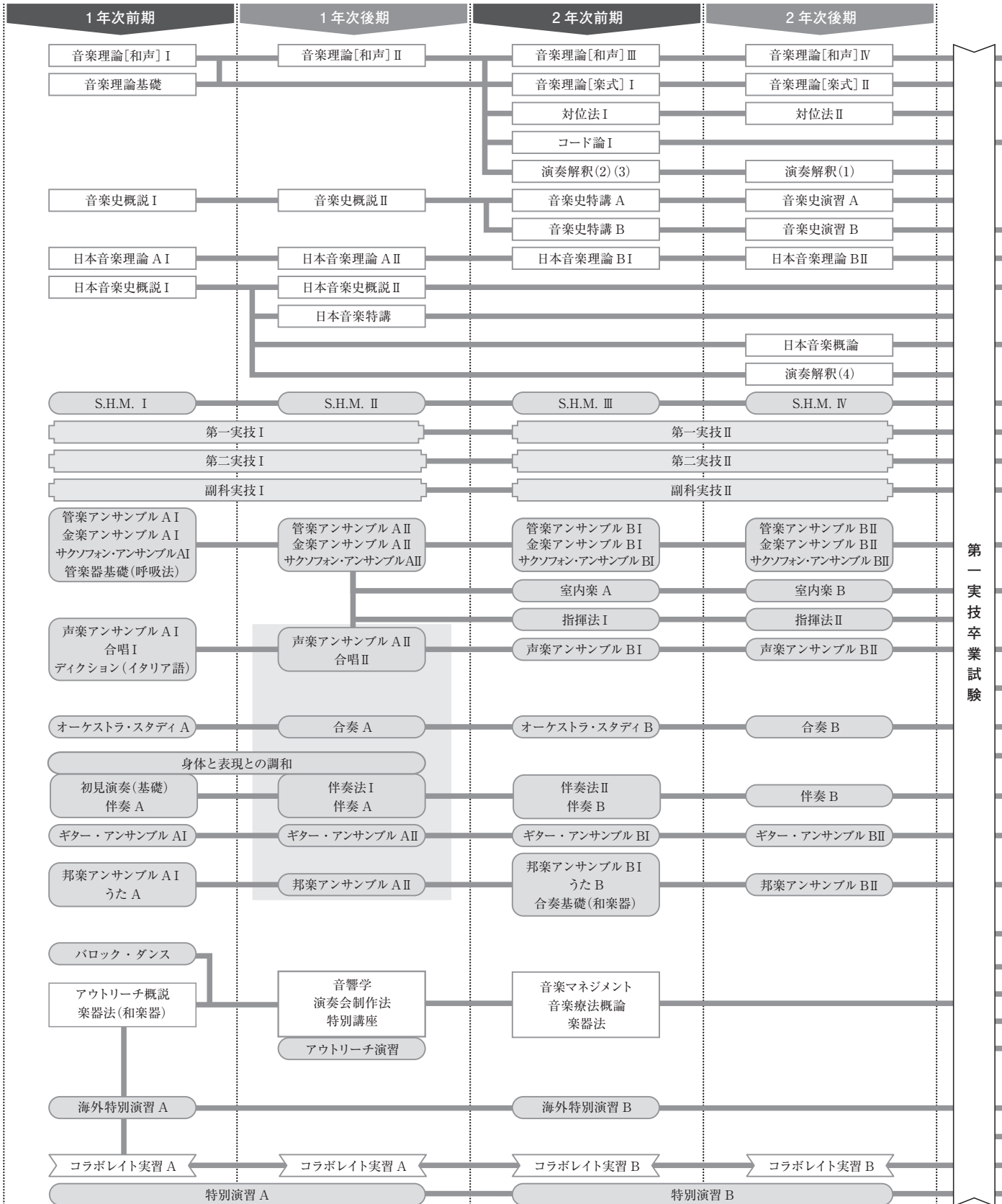
科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	特別講義A	THE	講義	2	1	前期	THE1000TA
	特別講義B	THE	講義	2	2	前期	THE3000TA
	演劇学研究A(日本演劇論)(1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1001TA
	演劇学研究A(日本演劇論)(2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2000TA
	演劇学研究B(西洋演劇論)(1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1002TA
	演劇学研究B(西洋演劇論)(2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2001TA
劇作・演出科目	劇作研究A(劇作論)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1010TA
	劇作研究B(劇作演習)	THE	演習(理論)	1	1・2	後期	THE2110TA
	演出研究	THE	講義	2	1・2	前期	THE1020TA
	映像映画研究	THE	講義	2	1・2	後集	THE2002TA
演劇教育・マネジメント科目	演劇教育論	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2100TA
	アーツマネジメント研究(1)	THE	演習(理論)	2	1・2	前期	THE1150TA
	アーツマネジメント研究(2)	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2150TA
	アウトリーチ研究(1)	THE	演習(理論)	2	1・2	前期	THE1151TA
	アウトリーチ研究(2)	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2151TA
演技科目	演技研究A(日本演劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1230TA
	演技研究A(日本演劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2230TA
	演技研究A(日本演劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3230TA
	演技研究A(日本演劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4230TA
	演技研究B(外国演劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1231TA
	演技研究B(外国演劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2231TA
	演技研究B(外国演劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3231TA
	演技研究B(外国演劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4231TA
	演技研究C(現代劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1232TA
	演技研究C(現代劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2232TA
	演技研究C(現代劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3232TA
	演技研究C(現代劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4232TA
	演技研究D(フィジカルシアター) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2233TA
	演技研究D(フィジカルシアター) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4233TA
	演技研究E(ミュージカル) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1233TA
	演技研究E(ミュージカル) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3233TA
	演劇特別研究(1)	THE	演習(演技)	1	1・2	前期	THE1234TA
	演劇特別研究(2)	THE	演習(演技)	1	1・2	後期	THE2234TA
	ワークショップA(1)	THE	実習(WS)	1	1	前集	THE1630TA
	ワークショップA(2)	THE	実習(WS)	1	1	後集	THE2630TA
	ワークショップB(1)	THE	実習(WS)	1	2	前集	THE3630TA
	ワークショップB(2)	THE	実習(WS)	1	2	後集	THE4630TA
	ワークショップC(演大連)	THE	実習(WS)	1	1	集中	THE2631TA
	ワークショップD(演大連)	THE	実習(WS)	1	2	集中	THE4631TA
	演劇研修 1年次	THE	実習(WS)	1	1	後集	THE2600TA
	演劇研修 2年次	THE	実習(WS)	1	2	後集	THE4600TA

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
実技科目	舞踊 A (クラシックバレエ) I	DNC	実技 (GL)	1	1・2	前期	DNC1300TA
	舞踊 A (クラシックバレエ) II	DNC	実技 (GL)	1	1・2	後期	DNC2300TA
	舞踊 B (コンテンポラリー)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	前期	DNC1340TA
	舞踊 C (日舞)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	後期	DNC2330TA
	ミュージカル唱法 (1)	VOM	実技 (GL)	1	1・2	前期	VOM1310TA
	ミュージカル唱法 (2)	VOM	実技 (GL)	1	1・2	後期	VOM2310TA
	英語劇 (1)	FLS	演習 (理論)	1	1・2	前期	FLS1100TA
	英語劇 (2)	FLS	演習 (理論)	1	1・2	後期	FLS2100TA
	歌唱 (個人レッスン) I	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410TA
	歌唱 (個人レッスン) J	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410TA
	歌唱 (個人レッスン) K	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410TA
	歌唱 (個人レッスン) L	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410TA
	歌唱 (個人レッスン) M	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411TA
	歌唱 (個人レッスン) N	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411TA
	歌唱 (個人レッスン) O	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411TA
	歌唱 (個人レッスン) P	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411TA
	劇上演実習	劇上演実習 A 1年次	THE	実習 (上演)	4	1	前集
劇上演実習 A 2年次		THE	実習 (上演)	4	2	前集	THE3700TA
劇上演実習 B 1年次		THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2700TA
劇上演実習 B 2年次		THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4700TA
劇上演実習 C (専1最終公演)		THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2701TA
劇上演実習 D (専2修了公演)		THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4701TA
劇上演実習 E (学外出演)		THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2702TA
劇上演実習 F (学外出演)		THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2703TA
劇上演実習 G (学内出演)		THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2704TA
劇上演実習 H (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2705TA	
修了論文	修了論文 (1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1004TA
	修了論文 (2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2003TA

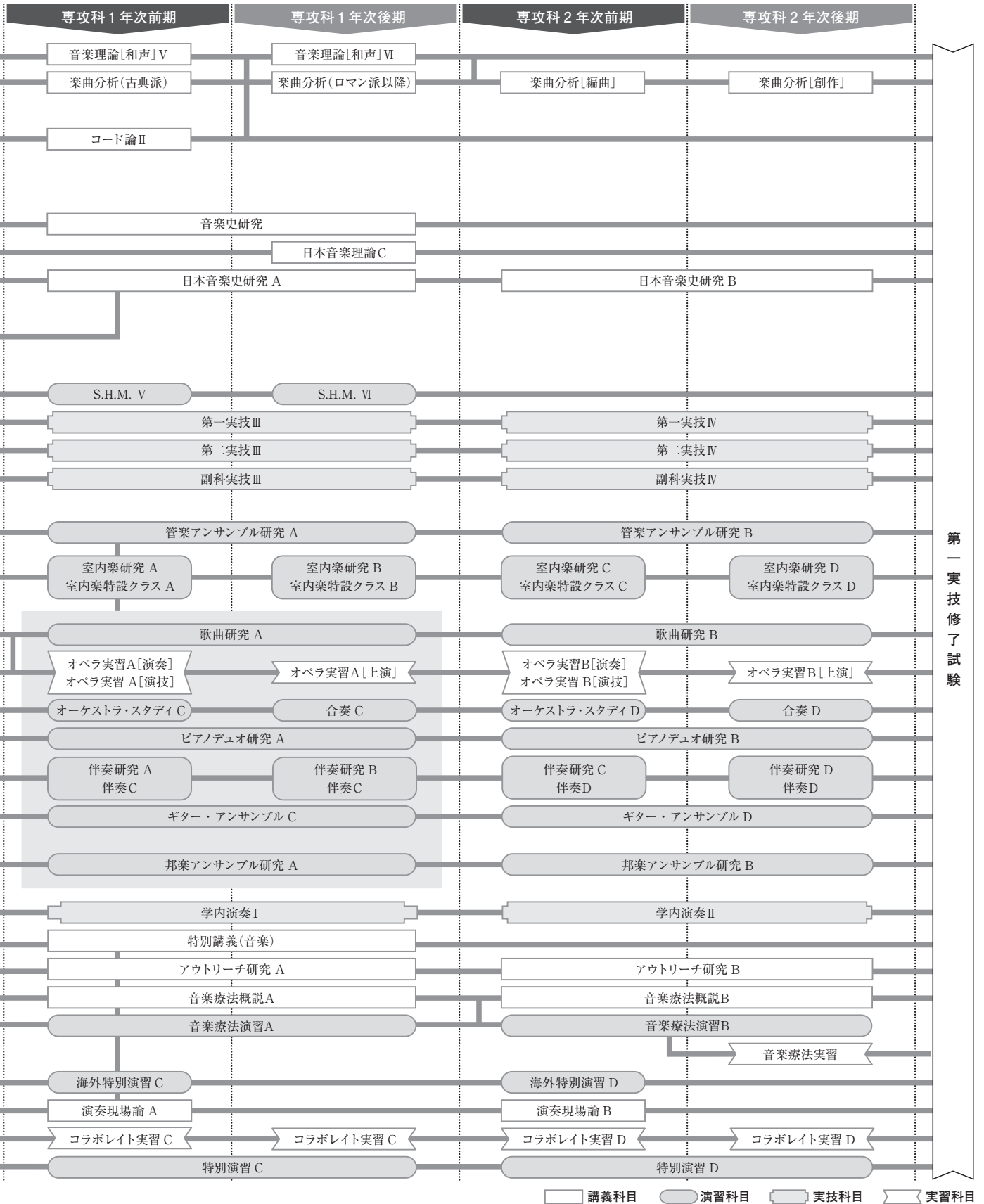
2023(令和5)年度 カリキュラムツリー

カリキュラムツリーは、2年間の学習の系統性と順次性を図に示したものである。各科目がカリキュラムの中でどのような位置付けにあるのかを確認し、学習の一助とすること。

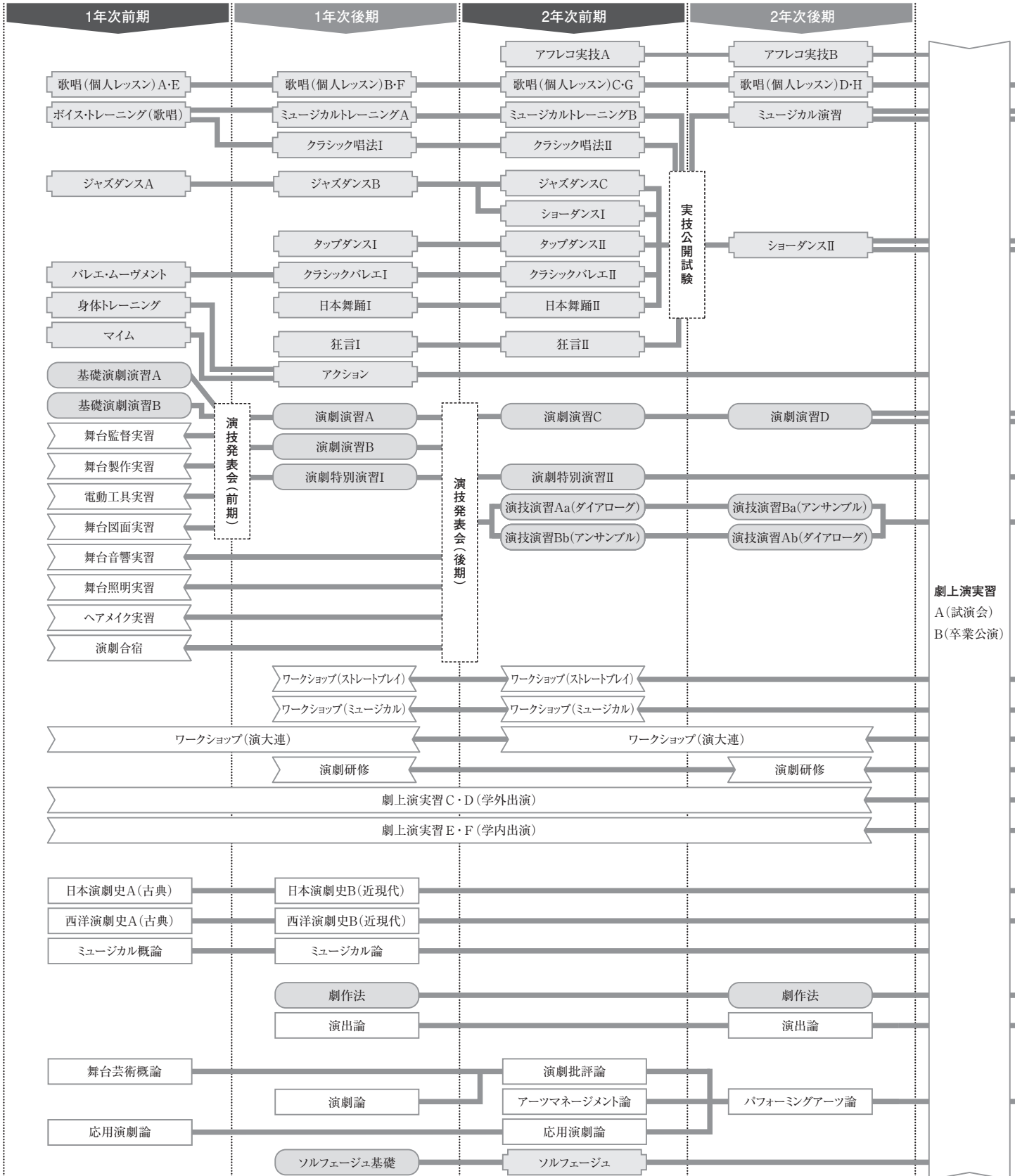
2023(令和5)年度 カリキュラムツリー [芸術科/音楽専攻]



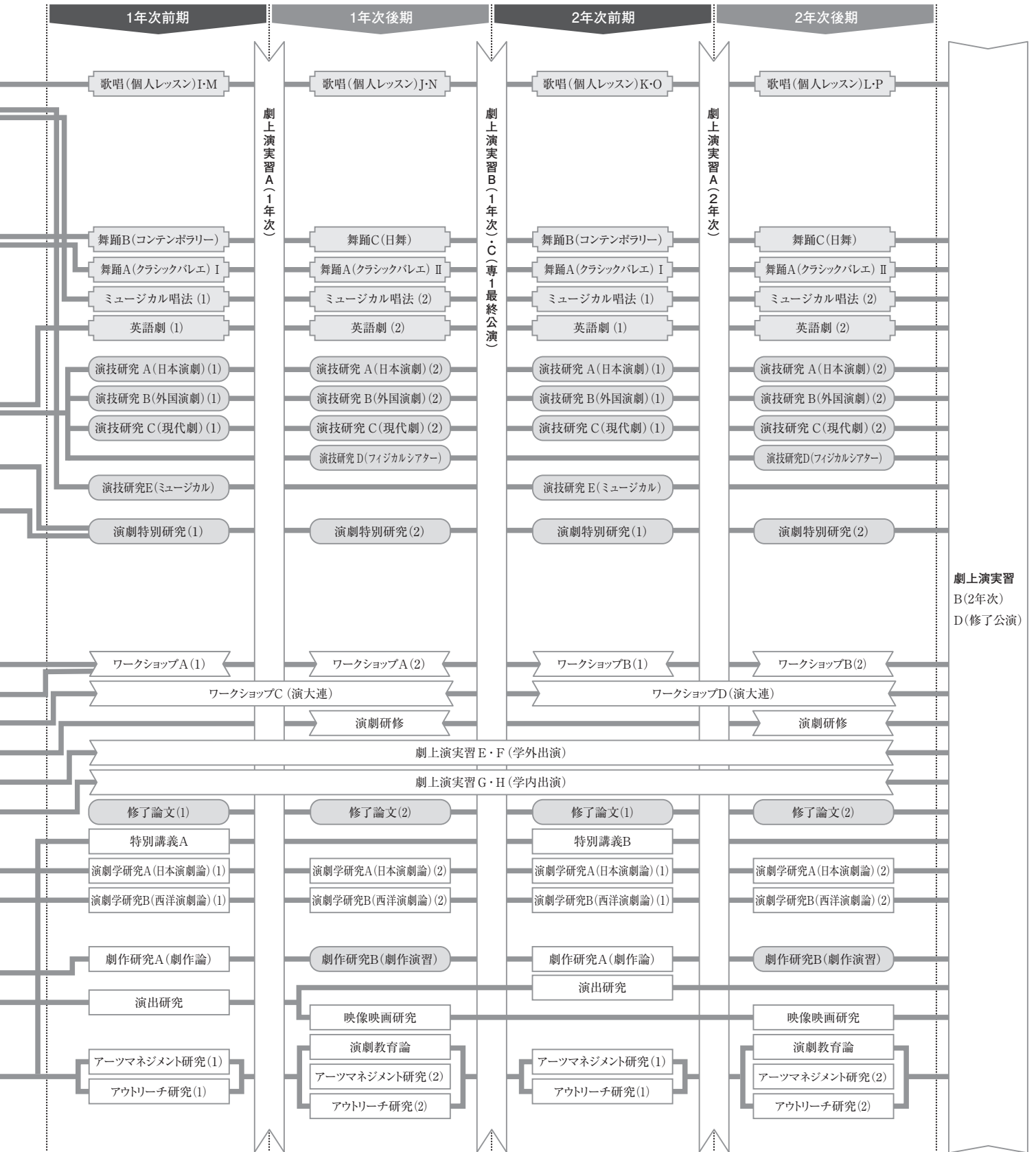
2023 (令和5) 年度カリキュラムツリー [専攻科/音楽専攻]



2023 (令和5) 年度 カリキュラムツリー [芸術科/演劇専攻]



2023 (令和5) 年度カリキュラムツリー [専攻科/演劇専攻]



講義科目 演習科目 実技科目 実習科目

2022(令和4)年度入学生用 別表…1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	2023年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				キャリア制 対象外	実務経験 のある 等 による 授業科目	概要 ページ
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
キャリア教育	情報リテラシー論		宗利 淳一	前期	2						127
	情報処理論		姫野 雅子	前期	2						127
	音楽環境論		久保田慶一	前期	2						128
	社会福祉学		藤森 雄介	前期	2						128
	表現コミュニケーション論		後藤 絢子	後期	2						129
	芸術環境論	新設	中山 夏織	前期	2						129
	アートプロデュース論	新設	寺田 航	後期	2					○	130
	アーツマネージメント論		後藤 絢子	前期	2						220
	応用演劇論		大谷賢治郎	前期	2					○	222
一般教養	メディア論		細谷 修平	後期	2						130
	現代思想論		比嘉 徹徳	前期	2						131
	日本国憲法		西山 智之	後期	2						131
	文化政策論A		後藤 絢子	前期	2						132
	文化政策論B		後藤 絢子	後期	2						132
	青少年教育論		大谷賢治郎	前期	2					○	133
	倫理学		吉川 浩満	後期	2						133
	ジェンダー論		岡 俊一郎	後期	2						134
	ダンス史		宮川麻理子	後期	2						134
	映画史		細谷 修平	前期	2						135
	芸術空間論	新設	鈴木 健介	後期	2					○	135
	国際文化論	新設	後藤 絢子	前期	2						136
	文学論	新設	高橋 宏幸	後集	2						136
	映画論	廃止	行定 勲	後集		2				□	○
語学	英語 A I		J. ファーナー	前期	1						137
	英語 A II		J. ファーナー	後期		1					137
	英語 B I		田村奈穂子	前期			1				138
	英語 B II		田村奈穂子	後期				1			138
	演劇英語 ①②		J. サザーランド	前期	1						139
	ドイツ語 I		D. グロス	前期	1						139
	ドイツ語 II		D. グロス	後期		1					140
	ドイツ語 III		D. グロス	前期			1				140
	ドイツ語 IV		D. グロス	後期				1			141
	イタリア語 I		M. ズバラグリ	前期	1						141
	イタリア語 II		M. ズバラグリ	後期		1					142
	イタリア語 III		M. ズバラグリ	前期			1				142
	イタリア語 IV		M. ズバラグリ	後期				1			143
	フランス語 I		佐藤ローラ	前期	1						143
	フランス語 II		佐藤ローラ	後期		1					144

注：語学は、Iの修得なしにIIの履修はできない。

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	除算される科目	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期									
教養科目	情報処理論	姫野 雅子	前期	2				※教職受講者必修	修得単位は自由選択単位として卒業要件に含むことができない (必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含むことができない)					127		
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修							131	
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修							128	
	英語A I・II	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊) 1科目選択必修 ※声楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「I・II」「III・IV」をもって、1科目とみなす							137	
	英語B I・II	田村奈穂子	前・後			1	1									138
	ドイツ語I・II	D. グロス	前・後	1	1											139・140
	ドイツ語III・IV	D. グロス	前・後			1	1									140・141
	イタリア語I・II	M. スバラグリ	前・後	1	1											141・142
	イタリア語III・IV	M. スバラグリ	前・後			1	1									142・143
フランス語I・II	佐藤ローラ	前・後	1	1										143・144		
専攻教養科目	音楽基礎演習 ーバロック・ダンス	a b 浜中 康子	前期	1					●全専修必修				○		145	
	音楽理論基礎	a b 塩崎 美幸 長谷川郁子	前期	1										145 145		
演劇専攻科目	演劇専攻「実技科目(共通)」より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「アフレコ実技A・B」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言I」「狂言II」必修								
専攻科目1年次	音楽理論 [和声] I	a b 平井 正志 池田 哲美	前期	2				PVWSG必修	専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得					146 147		
	音楽理論 [和声] II	a b 平井 正志 池田 哲美	後期		2			PVWSG必修						146 147		
	音楽史概説I・II	池原 舞	前・後	2	2			PVWSG必修		○				148		
	日本音楽理論A I・II	森重 行敏	前・後	2	2			J必修		○				149		
	日本音楽史概説I・II	野川美穂子	前・後	2	2			J必修		○				150		
	日本音楽特講	杵屋 巴織	後期		2			※教職受講者(J除く)必修(教職受講者のみ履修可)		△					151	
	演奏会制作法	伊藤 直樹	後期		1								○		151	
	アウトリーチ概説	永井 由比	前期	2											152	
	アウトリーチ演習	永井 由比	後期		1										152	
	ディクシオン(イタリア語)	井上 由紀	前期	1				V必修							153	
	S. H. M. I・II	① 塩崎 美幸 ② 池田 哲美 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾	前・後	1	1			●全専修必修							154	
	合唱I・II	福永 一博	前・後	1	1			女子のみ(J除く)必修							154・155	
	オーケストラ・スタディア	野口千代光	前集	1				S必修			□				155	
	合奏A	野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修			□				156	
	管楽器基礎(呼吸法)	三塚 至	前期	1				W必修							156	
	声楽アンサンブルA I・II	松井 康司	前・後	1	1			男子のみ(J除く)必修							157	
	管楽アンサンブルA I・II	a b 永井 由比 津川美佐子	前・後	1	1			W (Flのみ)必修 W (Fl, Tr, Tb, Tub, Sx除く)必修					○		158	
	金管アンサンブルA I・II	神谷 敏	前・後	1	1			W (Tr, Tb, Tubのみ)必修							160	
	サクソフォン・アンサンブルA I・II	彦坂眞一郎	前・後	1	1			W (Sxのみ)必修							161	
	ギター・アンサンブルA I・II	佐藤 紀雄	前・後	1	1			G必修					○		162	
	うたA	今藤美知央	前期	1				J必修			△				163	
	邦楽アンサンブルA I・II	滝田美智子	前・後	1	1			J必修							163・164	
	伴奏法I	揚原さとみ	後期		1			※教職受講者(J除く)必修							164	
	初見演奏(基礎)	大家 百子	前期	1				P必修							165	
	身体と表現との調和	志村 寿一	集中		2						□				165	
	第一実技I		通年		4			●全専修必修			□				166	
	第二実技I (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)		通年		4						○	□			166	
	副科実技I (ピアノ)		通年		2			●全専修必修		VWSGJ	○	□			166	
	副科実技I (声楽)	PGJ								○	□			166		
	副科実技I (管・弦・ギター・日本音楽)	GJ								○	□			166		
	伴奏A	(1) (2) 柏原 佳奈	前集 後集	1		1					□				167	
	海外特別演習A	松井 康司 東井 美佳	前集	2							□				167	
特別演習A	志村 寿一 井上 由紀	通年		1			●全専修必修		□				168			
特別講座	中山 博之	後集		1			●全専修必修		○	□			168			
コラボレイト実習A	(1) (2) 松井 康司	前集 後集	1		1				□				169			

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス制対象外	実務経験のある等による授業科目	登録するページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目2年次	音楽理論 [和声] Ⅲ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修				169 170
	音楽理論 [和声] Ⅳ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期			2		PVWSG必修				170 171
	対位法 I・II		池田 哲美	前・後			2	2					171・172
	コード論 I		小林 真人	前期			2			◎		○	172
	楽器法		大澤 健一	前集			2			◎	□	○	173
	音楽マネジメント		楠瀬寿賀子	前期			2					○	173
	日本音楽理論B I・II		森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎			149
	音楽史特講A		池原 舞	前期			2			◎			174
	音楽史特講B		大津 聡	前期			2			◎			174
	音楽史演習A		池原 舞	後期				1		◎			175
	音楽史演習B		大津 聡	後期				1		◎			175
	音楽療法概論		鈴木千恵子	前期			2			◎			176
	音響学		中原 栄	後集				2		○			153
	演奏解釈(1)ピアノ楽曲		東井 美佳	後期				2	P必修				176
	演奏解釈(2)声楽曲		相田 麻純	前期			2		V必修	◎		○	177
	演奏解釈(3)室内楽曲		寺岡有希子	前期			2		S必修			○	177
	音楽理論 [楽式] I・II	① ②	穴戸 里佳 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎			178 179
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① ② ③ ④ ⑤	塩崎 美幸 大家 百子 加藤 千春 三瀬 俊吾 長谷川 郁子	前・後			1	1	●全専修必修				180
	オーケストラ・スタディB		野口千代光	前集			1		S必修		□		155
	合奏B		野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修		□		156
	声楽アンサンブルB I・II		松井 康司	前・後			1	1	男子(J除く)・女子(Vのみ)必修				157
	管楽アンサンブルB I・II		津川美佐子	前・後			1	1	W(Tr、Tb、Tub、Sx除く)必修			○	159
	金管アンサンブルB I・II		神谷 敏	前・後			1	1	W(Tr、Tb、Tuのみ)必修				160
	指揮法 I・II		福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修				180・181
	室内楽A	a b	荻野 千里 野口千代光 北本 秀樹	前期			1						181
	室内楽B	a b c d	阪本奈津子 蓼沼恵美子 吉岡 次郎 菊池 奏絵	後期				1				○	182 182 183 183 184
	サクソフォン・アンサンブルB I・II		野原 孝	前・後			1	1	W(Sxのみ)必修				161
	ギター・アンサンブルB I・II		佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			○	162
	うたB		今藤美知央	前期			1		J必修	△			163
	邦楽アンサンブルB I・II		滝田美智子	前・後			1	1	J必修				163・164
	伴奏法Ⅱ		揚原さとみ	前期			1		※教職受講者(J除く)必修				184
	第一実技Ⅱ			通年				4	●全専修必修		□		166
	第二実技Ⅱ (ピアノ・チェンバロ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲・ミュージカル・身体と表現との調和)			通年				4	ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□		166
	副科実技Ⅱ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・ミュージカル・身体と表現との調和)			通年				2	ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□		166
	第一実技卒業試験			通年				4	●全専修必修		□		
	伴奏B	(1) (2)	柏原 佳奈	前集 後集			1	1			□		167
	海外特別演習B		松井 康司 東井 美佳	前集			2				□		167
	特別演習B		志村 寿一 井上 由紀	通年				1	●全専修必修		□		168
	コラボレイト実習B	(1) (2)	松井 康司	前集 後集			1	1			□		169

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期		2			J必修 ※教職受講者必修	2022	○			
	合奏基礎(和楽器)	花岡 操聖	前期	1				J必修	2022				
	楽器法(和楽器)	花岡 操聖	前期			2		J必修	2023				185
	演奏解釈(4)日本音楽	たかの舞例	後期		2			J必修	2022				

【備考】

- ①P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修
 ②「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生（1・2年次とも。専攻科生含む）が履修可能な科目。
 ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でないと同履修できない。

<2022(令和4)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位
 GPA 1.0以上

【内訳】

- ①専攻科目単位数 48単位
 (教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専修の必修単位数を含む)
 ②自由選択単位数 14単位
 ※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと
 ※桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は自由選択単位を含む

注

- ①Iの修得なしにIIの履修はできない。
 ②第一実技は、専修別による必修（1年次・2年次各50分）
 ③第二実技は、選択（40分）。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。
 ④副科実技は、I必修、II選択（20分）
 Iは、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。
 副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。
 ⑤「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。
 ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。
 ⑥選択科目「伴奏」について
 前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏および演奏発表（実技試験・学内演奏会・卒業演奏会）をもって各々単位認定を行う。
 「伴奏受講票」を使用のこと。
 ⑦選択科目「コラボレイト実習」について
 専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会、卒業公演等あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。「コラボレイト実習受講票」を使用のこと。
 ⑧学内外の演奏会および試験について、提出曲目および曲数と異なる場合は失格とすることがある。
 ⑨専攻科目必修単位数（※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位含む）

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	31	31	21	21	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1
	狂言Ⅱ	善竹大二郎	前期	1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	2023年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	クラブ制 対象外	実務経験 のある 等による 授業科目	概要 ページ
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2				a組必修	6				187
		b	三浦 剛	前期	2				b組必修					187
		c	P.ゲスナー	前期	2				c組必修					188
		d	田中壮太郎	前期	2				d組必修				○	188
	基礎演劇演習B	a	P.ゲスナー	前期	2				a組必修					189
		b	田中壮太郎	前期	2				b組必修				○	189
		c	越光 照文	前期	2				c組必修					190
		d	三浦 剛	前期	2				d組必修					190
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1				a組必修				○	191
		b	山本光二郎	前期	1				b組必修					
		c	山本光二郎	前期	1				c組必修					
		d	山本光二郎	前期	1				d組必修					
	ボイス・トレーニング (歌唱)	a	藍澤 幸頼	前期	1				a組必修				191	
		b	藍澤 幸頼	前期	1				b組必修					
		c	信太 美奈	前期	1				c組必修					
		d	信太 美奈	前期	1				d組必修					
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2			a組必修	8				192
		b	越光 照文	後期		2			b組必修					193
		c	田中壮太郎	後期		2			c組必修				○	193
		d	P.ゲスナー	後期		2			d組必修					194
	演劇演習B	a	田中壮太郎	後期		2			a組必修				○	194
		b	P.ゲスナー	後期		2			b組必修					195
		c	三浦 剛	後期		2			c組必修					195
		d	越光 照文	後期		2			d組必修					196
	演劇演習C	a	P.ゲスナー	前期			2		a組必修					196
		b	吉田 小夏	前期			2		b組必修				○	197
		c	富士川正美	前期			2		c組必修					197
		d	大塚 幸太	前期			2		d組必修					198
	演劇演習D	a	富士川正美	後期				2	a組必修					198
		b	大塚 幸太	後期				2	b組必修					199
		c	P.ゲスナー	後期				2	c組必修					199
		d	吉田 小夏	後期				2	d組必修				○	200
ストレートプレイ 実技科目	演技演習A (ダイアログ)	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイ コース必修	4			○	200	
		b	大谷賢治郎	後期			2							
ミュージカル 実技科目	演技演習B (アンサンブル)	a	シライケイタ	後期			2	ミュージカルコース 必修 (「ミュージカル トレーニングB」はLA の補習にも参加する)	4			○	201	
		b	シライケイタ	前期			2							
ミュージカル 実技科目	ショーダンス I ①②		三村みどり	前期			1	ミュージカルコース 必修 (「ミュージカル トレーニングB」はLA の補習にも参加する)	4				201	
	ショーダンス II ①②		三村みどり	後期			1							202
	ミュージカルトレーニングB ①②		信太 美奈	前期			1							202
	ミュージカル演習 ①②		大塚 幸太	後期			1							203

科目区分	授業科目・クラス	2023年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
実技科目(共通)	演劇特別演習Ⅰ ①②③		鴻上 尚史	後期		1						○	203	
	演劇特別演習Ⅱ ①②③		鴻上 尚史	前期			1						204	
	マイム ①②		江ノ上陽一	前期	1					○			204	
	アクション ①②		藤田 けん	後期		1				○			205	
	日本舞踊Ⅰ ①②		藤間 希穂	後期		1				○			205	
	日本舞踊Ⅱ ①②		藤間 希穂	前期			1			○			206	
	狂言Ⅰ ①②		善竹大二郎	後期		1				○		○	206	
	狂言Ⅱ ①②		善竹大二郎	前期			1			○			207	
	アフレコ実技A		小金丸大和	前期			1			○			207	
	アフレコ実技B		小金丸大和	後期				1		○			208	
	クラシック唱法Ⅰ ①②		松井 康司	後期		1							208	
	クラシック唱法Ⅱ ①②		松井 康司	前期			1						209	
	ミュージカルトレーニングA ①②		藍澤 幸頼	後期		1					○		209	
	ジャズダンスA ①②③④		三村みどり 畔柳小枝子	前期	1				LAの補習にも参加する		○			210
	ジャズダンスB ①②③④		三村みどり 畔柳小枝子	後期		1					○			211
	ジャズダンスC ①②③④		渡辺美津子 畔柳小枝子	前期			1				○			212
	バレエ・ムーヴメント ①②		中農 美保	前期	1					○			213	
	クラシックバレエⅠ ①②		中農 美保	後期		1				○			213	
	クラシックバレエⅡ ①②		中農 美保	前期			1			○			214	
	タップダンスⅠ ①②		中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1				○			214 215	
タップダンスⅡ ①②		中谷 諭紀 近藤 淳子	前期			1			○			215 216		
実技科目	歌唱(個人レッスン) A		信太 美奈 他	前期	2			自由選択単位	専攻科目単位数には含まない		□		216	
	歌唱(個人レッスン) B	後期			2					□				
	歌唱(個人レッスン) C	前期				2				□				
	歌唱(個人レッスン) D	後期					2			□				
	歌唱(個人レッスン) E	前期		1						□				
	歌唱(個人レッスン) F	後期			1					□				
	歌唱(個人レッスン) G	前期				1				□				
	歌唱(個人レッスン) H	後期					1			□				

科目区分	授業科目・クラス	2023年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員等による授業科目	概要ページ	
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期							
理論科目	舞台芸術概論		高橋 宏幸	前期	2				必修	12	○			217	
	日本演劇史A(古典)		安富 順	前期	2						○				217
	日本演劇史B(近現代)		高橋 宏幸	後期		2					○				218
	西洋演劇史A(古典)		高橋 宏幸	前期	2						○				218
	西洋演劇史B(近現代)		森山 直人	後期		2					○				219
	ミュージカル概論		橋爪 貴明	前期	2						○				219
	ミュージカル論		藤原麻優子	後期		2					○				220
	ソルフェージュ基礎 ①②		永井 由比	後期		2									221
	ソルフェージュ ①②		岩崎 廉	前期			2				ミュージカルコース必修				221
	演劇批評論		高橋 宏幸	前期			2								222
	パフォーマンスアート論		高橋 宏幸	後期				2							223
	演劇文化論A	教養科目「芸術環境論」	中山 夏織	前期	2							○			129
	演劇文化論B	教養科目「アートプロセス論」	寺田 航	後期		2						○		○	130
	舞台空間理論	教養科目「芸術空間論」	鈴木 健介	後期		2								○	135
	演出論		川村 毅	後集			2					○	□	○	223
	演劇論		高橋 宏幸	後期				2			隔年開講	○			224
	劇作法		瀬戸山美咲	後期		1						○		○	224
実習科目	舞台照明実習①		石島奈津子	前集	1				※照明部以外対象	○	□	○	225		
	舞台照明実習②		兼子 慎平	前集	1				※照明部対象		□	○	225		
	舞台音響実習①		佐藤こうじ	前集	1				※音響部以外対象	○	□	○	226		
	舞台音響実習②		宮崎 淳子	前集	1				※音響部対象		□	○	226		
	舞台製作実習		鈴木 健介	前集	1						□		227		
	舞台監督実習		鈴木 健介	前集	1						□	○	227		
	電動工具実習		鈴木 健介	前集	1				※人数制限あり		□		228		
	舞台図面実習		鈴木 健介	前集	1						□		228		
	ヘアメイク実習		鈴木 理絵	前集	1						□		229		
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次		穴迫 信一	後集		1					□		229		
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次		宮河愛一郎	後集		1					□		229		
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次		柳沼 昭徳	前集			1				□		230		
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次		嶽本あゆ美	前集			1				□		230		
	ワークショップ(演大連) 1年次		P. ゲスナー	集中		1					□		230		
	2年次		後藤 絢子	集中			1				□				
	演劇合宿		三浦 剛	前集	1						□		231		
	演劇研修 1年次		P. ゲスナー	後集		1					□		231		
	2年次		高橋 宏幸 後藤 絢子	後集			1				□				
	劇上演実習A(試演会) ストレートプレイ		古川 貴義	後集				4	4単位必修			○	232		
ミュージカル		大塚 幸太	後集				4					232			
劇上演実習B(卒業公演) ストレートプレイ		田中壮太郎	後集				4				○	233			
ミュージカル		信太 美奈	後集				4					233			
劇上演実習C(学外出演)		三浦 剛	集中		4					□		234			
劇上演実習D(学外出演)		三浦 剛	集中		4					□		234			
劇上演実習E(学内出演)		三浦 剛	集中		1					□		234			
劇上演実習F(学内出演)		三浦 剛	集中		1					□		234			

<2022(令和4)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位
1.実技系科目 26単位
2.理論科目 12単位
3.実習科目 10単位
試演会または卒業公演 4単位必修
②教養科目単位数 12単位
外国語 2単位必修
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。
- ② 基礎演劇演習AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング(歌唱)、演劇演習ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史AB、西洋演劇史AB、ミュージカル概論、ミュージカル論は全コース必修。
- ③ 演技演習ABはストレートプレイコース必修。
- ④ ショーダンス I II、ミュージカルトレーニングB、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修。
- ⑤ 試演会または卒業公演は、4単位必修。
- ⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。
- ⑦ 歌唱(個人レッスン)の修得単位数は自由選択単位数を含む。
レッスン時間はABCD40分、EFGH20分。履修料別途徴収。
- ⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数を含む。
- ⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数を含む。
- ⑩ 講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位

【教育課程・卒業の要件】

卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表および注意事項を参照すること。

1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数	14単位
(専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。
- ③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。
- ④ 教養科目の「語学」より2単位1科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって1科目とみなす。(ただし声楽専修はイタリア語を含む2語学を必修とし、合計4単位)
- ⑤ 演劇専攻科目の「実技科目(共通)」の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか1単位必修とする。(ただし、「アフレコ実技A」「アフレコ実技B」「ミュージカルトレーニングA」を除く)

2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数	2単位
(専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数の内訳は
実技科目 26単位 理論科目 12単位 実習科目 10単位
試演会または卒業公演 4単位必修
- ③ 教養科目単位数の内訳は
語学 2単位必修

【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
作曲・理論・音楽史	音楽理論 [和声] V	平井 正志	前期	2							235	
	音楽理論 [和声] VI	平井 正志	後期		2						235	
	楽曲分析 (古典派)	池田 哲美	前期	2							236	
	楽曲分析 (ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2						236	
	コード論II	小林 真人	前期	2						○	237	
	S.H.M. V・VI	① 塩崎 美幸	前・後	1	1							237
		② 大家 白子										
		③ 加藤 千春										
		④ 三瀬 俊吾										
		⑤ 長谷川 郁子										
音楽史研究	大津 聡	通年		4						238		
日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4			J必修			238		
音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4				○		239		
音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2						240		
演奏現場論A	合田 香	前期	2					○		240		
アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4				○		241		
実技レッスン	第一実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6			●全専修必修			241	
	第二実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)		通年		4				○		241	
	副科実技Ⅲ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)		通年		2				○		241	
実技・アンサンブル 演奏・室内楽	学内演奏Ⅰ	松井 康司 柏原 佳奈	通年		2			●全専修必修			242	
	ピアノデュオ研究A	東井 美佳	通年		4			P必修			242	
	管楽アンサンブル研究A	津川美佐子	通年		4			W (Sx除く) 必修		○	243	
	室内楽研究A	a 荻野 千里 野口千代光	前期	2								243
		b 北本 秀樹										
	室内楽研究B	a 阪本奈津子	後期		2							244
		b 藤沼恵美子										
		c 吉岡 次郎										
	d 菊池 奏絵								○		245	
	歌曲研究A	松井 康司 東井 美佳	通年		4						246	
	オペラ実習A [演奏]	櫻井 淳	前期	2				V選択	○		247	
	オペラ実習A [演技]	柴田千絵里	前期	2				[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること	○		247	
	オペラ実習A [上演]	布施 雅也 柴田千絵里	後期		2				○		248	
	邦楽アンサンブル研究A	滝田美智子	通年		4			J必修			248	
	オーケストラ・スタディC	野口千代光	前集	1				S必修			249	
	合奏C	野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修			249	
	ギター・アンサンブルC	佐藤 紀雄	通年		2			G必修		○	250	
	室内楽特設クラスA	柏原 佳奈	前集	1					○※		250	
	室内楽特設クラスB	柏原 佳奈	後集		1				○※		250	
	伴奏C	柏原 佳奈	前集		1						251	
(2)	後集			1						251		
伴奏研究A	柏原 佳奈	前集	1							251		
伴奏研究B	柏原 佳奈	後集		1						251		
海外特別演習C	松井 康司 東井 美佳	前集	2							252		
特別講義 (音楽)	松井 康司	集中		1			●全専修必修	○		252		
特別演習C	柏原 佳奈	通年		1			●全専修必修			253		
コラボレイト実習C	松井 康司	前集		1						253		
(2)		後集		1						253		

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある等による授業科目	除算される	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
音楽史・作曲・理論	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞俐	前期			2						254	
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞俐	後期				2					254	
	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4		J必修				238	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期				2	J必修				239	
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○			239	
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2						240	
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1					255	
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○			240	
	アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○			241	
	実技・アンサンブル	第一実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年				6	●全専修必修				241
		第二実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)		通年				4		○			241
		副科実技Ⅳ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)		通年				2		○			241
		第一実技修了試験		通年				4	●全専修必修				
	実技・アンサンブル	学内演奏Ⅱ	松井 康司 柏原 佳奈	通年				2	●全専修必修				242
		ピアノデュオ研究B	東井 美佳 柏原 佳奈	通年				4					242
		管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年				4	W (Sx除く) 必修				243
		室内楽研究C	a 荻野 千里 野口千代光	前期			2						243
			b 北本 秀樹								○		244
		室内楽研究D	a 阪本奈津子	後期								○	244
			b 藜沼恵美子					2			○	245	
c 吉岡 次郎											○	245	
d 菊池 奏絵											○	246	
歌曲研究B		松井 康司 東井 美佳	通年				4					246	
オペラ実習B〔演奏〕		布施 雅也	前期			2		V選択	○		247		
オペラ実習B〔演技〕		柴田千絵里	前期			2		[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること	○		247		
オペラ実習B〔上演〕		布施 雅也 柴田千絵里	後期				2		○		248		
邦楽アンサンブル研究B		滝田美智子	通年				4	J必修				248	
オーケストラ・スタディD		野口千代光	前集			1		S必修				249	
合奏D		野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修				249	
ギター・アンサンブルD		佐藤 紀雄	通年				2	G必修				250	
室内楽特設クラスC		柏原 佳奈	前集			1			○※			250	
室内楽特設クラスD		柏原 佳奈	後集				1		○※			250	
伴奏D (1)		柏原 佳奈	前集			1						251	
(2)	後集					1					251		
伴奏研究C	柏原 佳奈	前集			1						251		
伴奏研究D		後集				1					251		
海外特別演習D	松井 康司 東井 美佳	前集			2						252		
特別演習D	柏原 佳奈	通年				1					253		
コラボレイト実習D (1)	松井 康司	前集			1						253		
(2)		後集				1					253		

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

【備考】 P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修
 ※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

<2022(令和4)年度入学生の修了要件>
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講義(音楽) 2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

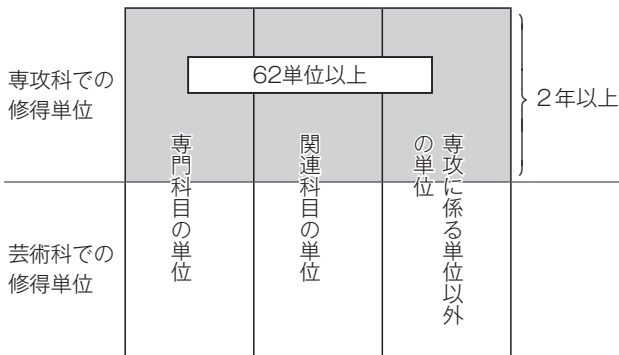
【学士取得に向けて】

<2022(令和4)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目の単位・専攻に係る単位以外の単位を24単位以上修得していること。

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

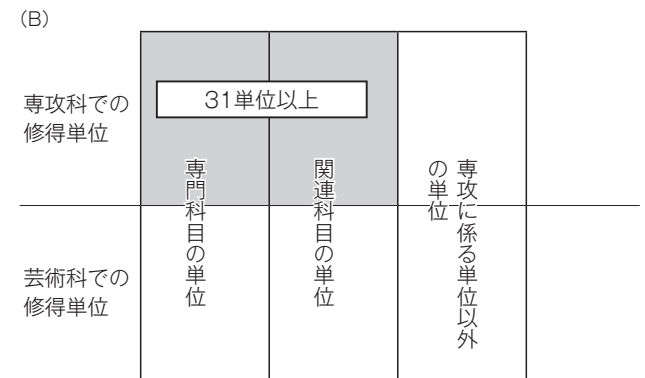
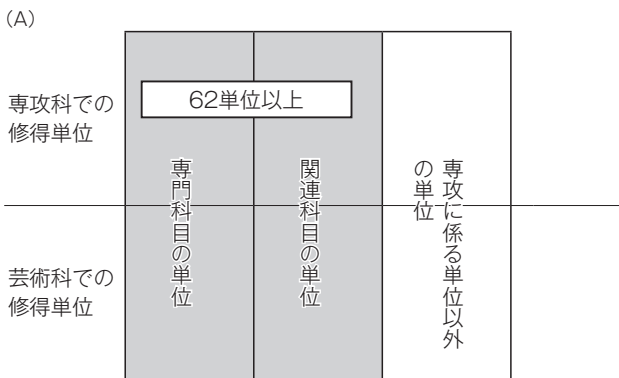


「専攻科での修得単位」に含まれるもの

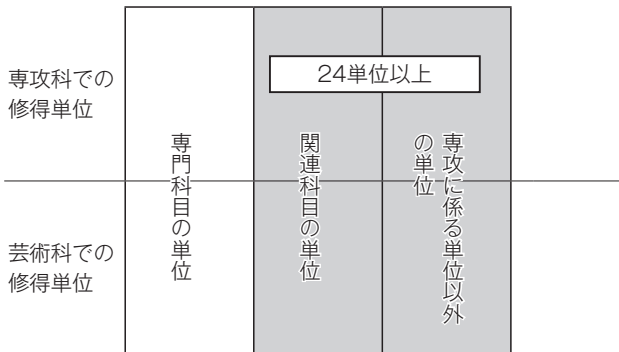
- ・専攻科自専攻科目の修得単位
- ・専攻科他専攻科目の修得単位
- ・桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること。

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること



③芸術科・専攻科の4年間で専門科目の単位以外の単位を24単位以上修得していること



※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる。

※専門科目、関連科目、専攻に係る科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと。

【教育課程・修了の要件】

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	2023年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				修了 要件	他 専攻	実務 経験 等 による 授業科目	教員 による 概要 ページ	
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期					
理論科目	特別講義A		高橋 宏幸	前期	2				4	○	257		
	特別講義B		後藤 絢子	前期			2				257		
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)		高橋 宏幸	前期		2					257		
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)			後期		2					258		
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)		安宅りさ子	前期		2					258		
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)			後期		2					259		
	演劇学研究C (現代演劇論)	廃止	井上 理恵	前期	2						○		
科目 演出	劇作研究A (劇作論)		瀬戸山美咲	前期		2		8	○	259			
	劇作研究B (劇作演習)		瀬戸山美咲	後期		1				260			
	演出研究		小山ゆうな	前期		2				260			
科目 演劇教育	映像映画研究	新設	山岡 信貴	後集			2	○	○	261			
	演劇教育論		柏木 陽	後期		2				261			
	アーツマネジメント研究 (1)		後藤 絢子	前期		2				262			
	アーツマネジメント研究 (2)			後期		2				262			
	アウトリーチ研究 (1)		恵志美奈子	前期		2				263			
	アウトリーチ研究 (2)		後藤 絢子	後期		2				263			
	演技研究A (日本演劇) (1) 1年次		三浦 剛	前期	1						16	○	264
演技研究A (日本演劇) (2) 1年次		後期			1			264					
演技研究A (日本演劇) (1) 2年次		P.ゲスナー	前期			1		○	○	265			
演技研究A (日本演劇) (2) 2年次			後期			1				265			
演技研究B (外国演劇) (1) 1年次		田中壮太郎	前期	1				○	○	266			
演技研究B (外国演劇) (2) 1年次			後期		1					266			
演技研究B (外国演劇) (1) 2年次		大谷賢治郎	前期			1		○	○	267			
演技研究B (外国演劇) (2) 2年次			後期			1				267			
演技研究C (現代劇) (1) 1年次		大塚 幸太	前期	1				○	○	268			
演技研究C (現代劇) (2) 1年次			後期		1					268			
演技研究C (現代劇) (1) 2年次		P.ゲスナー	前期			1		○	○	269			
演技研究C (現代劇) (2) 2年次			後期			1				269			
演技研究D (フィジカルシアター) 1年次		大塚 幸太	前期		1			○	○	270			
演技研究D (フィジカルシアター) 2年次			後期		1					270			
演技研究E (ミュージカル) 1年次		P.ゲスナー	前期	1				○	○	271			
演技研究E (ミュージカル) 2年次			後期		1					271			
演劇特別研究 (1) ①②		眞鍋 卓嗣	前期			1		○	○	272			
演劇特別研究 (2) ①②			後期			1				272			
ワークショップA (1)		生田みゆき	前集	1				○	○	273			
ワークショップA (2)			後集		1					273			
ワークショップB (1)		永井 愛	前集			1		○	○	273			
ワークショップB (2)			後集			1				273			
ワークショップC (演大連)		P.ゲスナー	集中	1				○	○	274			
ワークショップD (演大連)			後藤 絢子	集中			1				274		
演劇研修 1年次		P.ゲスナー	後集		1			○	○	274			
演劇研修 2年次			高橋 宏幸 後藤 絢子	後集			1				274		
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ) (1)	舞踊A (クラシックバレエ) I	中農 美保	前期		1		2	○*1	275			
	舞踊A (クラシックバレエ) (2)	舞踊A (クラシックバレエ) II		後期		1				275			
	舞踊B (コンテンポラリー)		勝倉 寧子	前期		1				○	276		
	舞踊C (日舞)		藤間 希穂	後期		1				○*2	276		
	ミュージカル唱法 (1)		藍澤 幸頼	前期		1					277		
	ミュージカル唱法 (2)			後期		1					277		
	英語劇 (1)		J.サザランド	前期		1					278		
	英語劇 (2)			後期		1					278		
	歌唱 (個人レッスン) I		信太 美奈 他	前期	2						自由 選択 単位		279
	歌唱 (個人レッスン) J			後期		2							
	歌唱 (個人レッスン) K			前期			2						
	歌唱 (個人レッスン) L			後期			2						
	歌唱 (個人レッスン) M			前期	1								
	歌唱 (個人レッスン) N			後期		1							
歌唱 (個人レッスン) O		前期				1							
歌唱 (個人レッスン) P		後期				1							
劇上演実習	劇上演実習A	1年次	P.ゲスナー	前集	4			16	○	279			
		2年次①	大谷賢治郎			4				279			
	劇上演実習B	2年次②	三浦 剛 他		4					279			
		1年次①	三浦 剛	後集		4				280			
	劇上演実習C (専1最終公演)	2年次①	P.ゲスナー	後集			4				280		
		2年次②	中屋敷法仁	後集		4				280			
	劇上演実習D (専2修了公演)		三浦 剛	後集			4				280		
	劇上演実習E (学外出演)		田中壮太郎	後集		4					281		
	劇上演実習F (学外出演)		越光 照文	後集			4				281		
	劇上演実習G (学内出演)		三浦 剛	集中			4				282		
劇上演実習H (学内出演)		三浦 剛	集中			4		282					
修了論文	修了論文 (1)		高橋 宏幸	前期		2				283			
	修了論文 (2)			後期		2				283			

*1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエI」「クラシックバレエII」を修得していることを条件とする。

*2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊I」「日本舞踊II」を修得していることを条件とする。

<2022(令和4)年度入学生の修了要件>
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネージメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位 (自他専攻科科目より)

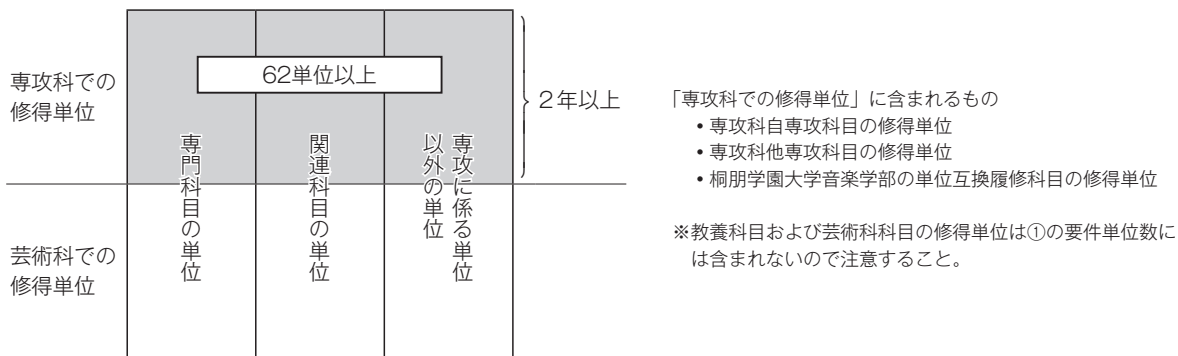
【学士取得に向けて】

<2022(令和4)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

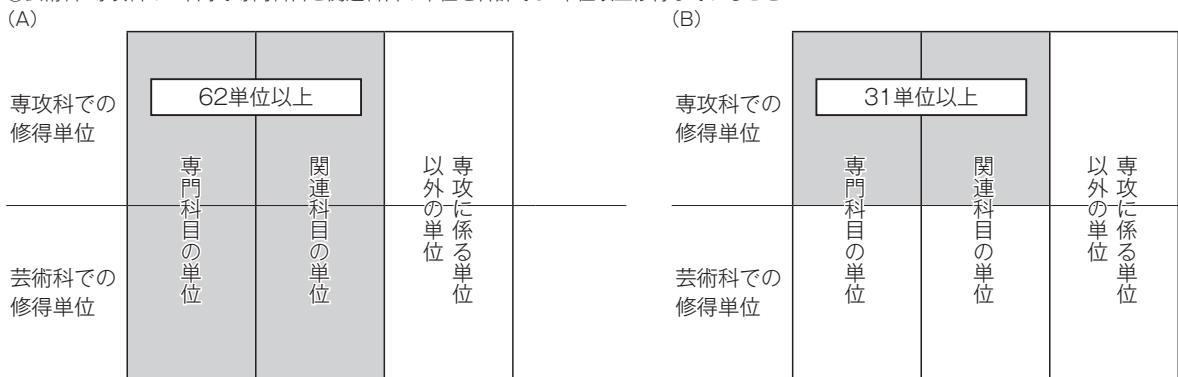
最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目の単位・専攻に係る単位以外の単位を24単位以上修得していること。

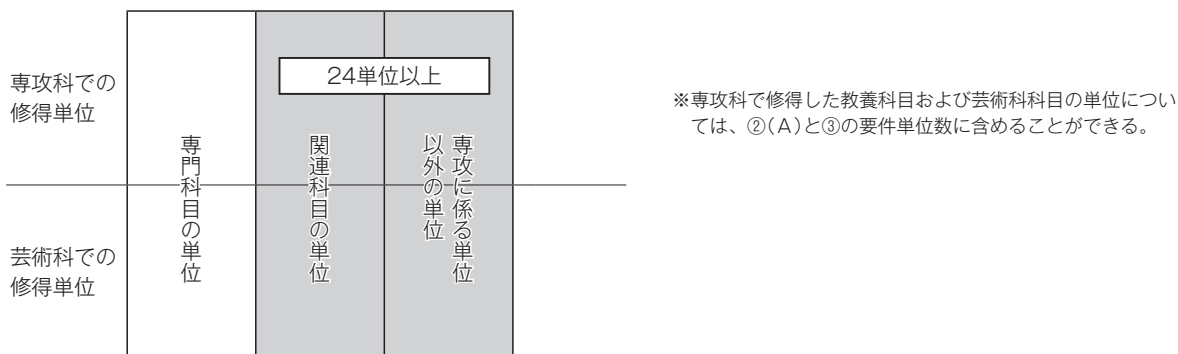
①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること



②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること



③芸術科・専攻科の4年間で専門科目の単位以外の単位を24単位以上修得していること



※専門科目、関連科目、専攻に係る科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと。

Toho Gakuen College of Drama and Music

教養

科目名 情報リテラシー論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 宗利 淳一

科目ナンバリング CAE1000B

学位授与方針との関係 DP②③

期間 前期

他専攻 ー

ー

履修条件

特になし。(Adobe Creative Cloud 学生版 (月額1,980円1年間契約) をインストールしたノート型PCを準備できればお願いします。)

授業の概要

演劇・音楽公演における制作実務の中でも専門技術を要する宣伝美術について、実際の制作実習を通して学び、また情報を享受することから遠く離れ、その情報を発信する立場から公開する技術を習得する。従来のポスター・フライヤーに加え、SNS抜きでは考えられなくなった時代にどのようなプロモーションが可能なのか?どこに注意を払うべきなのか?新しい宣伝美術を考えていきたいと思います。

授業の到達目標

- ・公演フライヤーの制作から、企画・宣伝力を習得できる。
- ・「メディア情報リテラシー」を身につけることができる。
- ・インターネット、情報機器の正しい知識と使い方、ソーシャルメディアを活用するコミュニケーション、企画・宣伝の基本を学ぶことができる。
- ・メディアと宣伝美術(=公開する技術)を学び、これからの時代に即応する知識と技術を身につけることができる。

授業計画

1. 宣伝美術とメディアリテラシー—文字の不安をめぐって
2. フライヤー制作に使用するアプリケーションの概要とタイポグラフィに関して
3. Photoshop#1 画像の切り抜きと合成
4. Photoshop#2 画像の制作とレタッチ
5. Photoshop#3 印刷を前提とした画像のレタッチとその編集
6. Photoshop#4 #1-3を応用した画像の作成
7. Illustrator#1 基本操作と図形作成

8. Illustrator#2 画像を統合し、文字にフレームを与える
9. Illustrator#3 印刷という定点を考える
10. Illustrator#4 SNS空間への転用とその可能性
11. 1-10の項目が複合的にレイヤードし、経過指導を経て、最終的には劇団(楽団)による架空の公演の宣伝美術を作成(12.~15.)
12. 宣伝美術とその実践I
13. 宣伝美術とその実践II
14. 宣伝美術とその実践III
15. 宣伝美術とその実践IV

学生に対する教員からのフィードバック方法

疑問点があれば、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

公演フライヤー、特設サイト等を数多く見てみる。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。個人のPCを用意できる場合は持参すること。

成績評価

授業への取り組み70%、作成された宣伝美術の成果30%の配分で総合的に評価する。
S 総合点90点以上の者
A 総合点80点以上の者
B 総合点60点以上の者
C 総合点50点以上の者
D 総合点49点以下の者

科目名 情報処理論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 姫野 雅子

科目ナンバリング CAE1001B

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 ー

ー

履修条件

教職課程受講者は必修。
教室の定員(18名)の都合上、受講希望者多数の場合には、履修制限を行うこともある。

授業の概要

この授業の目的は「PCの機能を使いこなそう」である。近年、オンライン化に拍車がかかり、日常生活にも情報機器の利用が必須となり、芸術分野の魅力を社会に発信の強力なツールとなるであろう。これを表現するために、普段使わない機能も使い、その上で主張したいことが確実に相手に伝わるように、表現力を身につけてもらう。技術的には、課題作成に欠かせない文章作成ソフト(文字入力のみでなく、画像・表・イラストを扱えるようにする)、表計算ソフト(計算式の使用方法をマスターし、報告書の形態で作成)、スライド作成(画像・イラスト・サウンド等のコンテンツを扱えるようにする)のスキル向上を目指す。また、音楽専攻生には楽譜作成、演劇専攻生には画像処理を予定している。

授業の到達目標

- ・自分自身のPC環境を整え、今後の授業に積極的に利用できるようになる。
- ・文章作成、プレゼンテーションの実践的な使い方と表計算の基本をマスターできる。
- ・元々のPCスキルは個人差が大きいが、それぞれの学生に応じて到達できる。

授業計画

1. PC環境の確認(文字入力とタイピング、文字の強調、ファイル管理、Webドライブ利用の注意)
2. 文章作成① レイアウト整えその1、表作成
3. 文章作成② 複雑な表の作成、画像の扱い方
4. 文章作成③ 図形の使い方と復習
5. 文章作成④ 「ちらし」の作成
6. 文章作成⑤ レイアウト整えその2、レポート作成に必要なスキル
7. 表計算① 基本的な操作(計算式、関数、オート入力)
8. 表計算② グラフを活用した資料作り
9. 表計算③ ビジネス書類作成
10. プレゼンテーション① 基本操作と画像での表現

11. プレゼンテーション② アニメ風に作成
12. 音楽専攻: プレゼン作品作りその1
演劇専攻: 画像処理①(基本操作)
13. 音楽専攻: プレゼン作品作りその2
演劇専攻: 画像処理②(画像の合成等)
14. 音楽専攻: 楽譜作成①(基本操作)
演劇専攻: プレゼン作品作りその1
15. 音楽専攻: 楽譜作成②(楽器を追加して編曲等)
演劇専攻: プレゼン作品作りその2

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・提出された課題は、Classroomを通じて個々に講評する。
- ・全体に関わることは、次回の授業時に説明する。

授業時間外の学習

・準備しておくべき事柄があればClassroomに連絡するので、各自調べておくこと。
・授業中に終わらなかった分や、必要に応じて課す宿題をこなすこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・プリントを使って授業を進める。また、授業中に参考サイト等を紹介する。
- ・個人のPCを持ち込める場合には、持参してもらう。

成績評価

成績評価は、授業への取り組み60%、作成された課題の成果40%の配分で総合的に評価する。
S: 総合点が90点以上の者(授業の取り組みが大変良く、課題作成に独自の工夫が随所になされている)
A: 総合点が80点以上の者(授業の取り組みが良く、作成された課題がおおよそ満足できる)
B: 総合点が60点以上の者(授業の取り組みがおおよそ満足でき、作成された課題の6割ほどは満足できる)
C: 総合点が50点以上の者(授業の取り組みが消極的で、作成された課題の半分ほどは満足できる)
D: 総合点が49点以下の者(授業の取り組みが消極的で、ほとんど課題が作成されていない)

科目名 音楽環境論

授業形態

講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 久保田 慶一

科目ナンバリング CAE1010B

学位授与方針との関係 DP②③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

「音楽環境論」という授業科目だが、音楽専攻以外の学生も履修可。

13. 芸術と経済
14. 芸術家の希望
15. まとめ

授業の概要

芸術を取り巻く様々な環境を考察し、芸術との関係を明らかにする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・授業終了直前に質問タイムをとる。
- ・メールによる質問に対応する。

授業の到達目標

芸術について広く深く考察することができる。

授業時間外の学習

授業内で指示した本・雑誌の記事やインターネット・サイト等を読んでおく。
これらの学修に60時間以上を要する。

授業計画

1. 芸術と環境
2. 芸術の創作
3. 芸術の鑑賞
4. 芸術を学ぶ
5. 芸術と教養
6. 芸術家の職業：アマチュアとプロ
7. 芸術家のキャリア・デザイン
8. 芸術家の人生：意思決定とリスク・マネジメント
9. 芸術家とアクシデント
10. 芸術と文化
11. 芸術と社会
12. 芸術と政治

教科書・参考書等

授業内でその都度指示する。

成績評価

授業時の発表や取り組み状況20%、レポート課題80%によって、総合的に判断する。

科目名 社会福祉学

授業形態

講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藤森 雄介

科目ナンバリング CAE1020B

学位授与方針との関係 DP①④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

教職課程受講者は必修。

14. 日本の社会福祉制度の成立過程⑥これからの方向性
15. まとめ、全講義の理解度を個々で確認の上、全体を振り返る。

授業の概要

21世紀の日本における社会福祉は、「社会福祉基礎構造改革」以降、その制度施策も含めて大きな変革の渦中にある。本講義においては、上記のような現状を踏まえつつ、現代に至る戦後日本社会における社会福祉の歴史的背景や思想等を学んでいきたい。

学生に対する教員からのフィードバック方法

適時、講義の始まりに5～10分程度質疑応答の時間を設け、学生からの質問や補足の説明等を行う。

授業の到達目標

- ・社会福祉全般に対して基本的理解ができる。
- ・「対人援助」の現場における、援助者の基本的な心構えを理解できる。
- ・社会福祉の学びを通じた、新たな視点を獲得できる。

授業時間外の学習

本科目は、予習よりは復習を重視している。第2講以降の受講日前日には前回の講義内容の振り返り(90分程度)を行った上で、翌日の講義に臨んでほしい。また、いわゆる「社会福祉」は実学であり現代社会の動向とは不可分な学問である。日頃から、政治や経済の動向にも関心を持っておく必要がある。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。また、講義中に参考文献を適時紹介していく。

授業計画

1. オリエンテーション：授業の確認および説明、初回アンケート実施
2. 現代日本における社会福祉の定義
3. 「介護」または「介護福祉」の概念
4. ノーマライゼーションの思想
5. 「共生」の思想
6. 社会保障制度の基本的理解①社会保障制度における社会福祉の位置付け
7. 社会保障制度の基本的理解②近代イギリス社会と救貧法
8. 社会保障制度の基本的理解③20世紀のイギリスと福祉国家について
9. 日本の社会福祉制度の成立過程①昭和20年代
10. 日本の社会福祉制度の成立過程②昭和30年代
11. 日本の社会福祉制度の成立過程③昭和40年代
12. 日本の社会福祉制度の成立過程④昭和50年代
13. 日本の社会福祉制度の成立過程⑤平成年代

成績評価

原則として、期末に行う確認テストの得点をもとに評価を行う。ただし、授業内でレポート等を課した場合には、その評価も適時、加点する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、関連付けて説明できる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、説明できる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明できる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 表現コミュニケーション論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 後藤 絢子

科目
ナンバリング CAE2030 B

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

- ・演劇の内容がメインだが、音楽専攻の学生の受講も歓迎する。
- ・語学のレベルは問わないが、積極的に取り組むこと。
- ・3週目までに、以下2つの戯曲に目を通しておくこと。
 - ①テネシー・ウィリアムズ作、小田島雄志訳「ガラスの動物園」(新潮文庫)
 - ②ウィリアム・シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」(翻訳者は問わない)

授業の概要

海外戯曲・ミュージカルについて、戯曲や歌詞の一部を翻訳し、互いの翻訳や既存の翻訳を読み比べたりパフォーマンスを行うことを通して、上演について考える。海外戯曲の作家や翻訳者への上演許可の取り方等、上演のために必要な事項についても学習する。また、学内外で行われる演劇公演についてディスカッションを行うことも考えている。また、国際的なコラボレーションや演劇フェスティバル等についても考える機会を設ける。海外の作品を国内で上演することはもとより、国外で、日本の作品をはじめとする演劇を上演することについても考える機会としたい。

授業の到達目標

海外戯曲の翻訳文化や上演方法について知ると共に、自身の関わる作品を客観的に捉え、プレゼンテーションをする力を身につける。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 自己紹介の続きと課題図書についてのディスカッション
3. 課題図書についてのディスカッション (続き)
4. 課題図書についてのディスカッション (続き)
5. 課題図書についてのディスカッション (続き)
6. 翻訳課題についての学習 (1)
7. 翻訳課題についての学習 (2)
8. 翻訳課題についての学習 (3)
9. 翻訳ワークショップ (1)
10. 翻訳ワークショップ (2)
11. 翻訳ワークショップ (3)
12. 発表準備

13. 発表準備
 14. 発表
 15. 発表
- ※ 授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表や課題提出の後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

戯曲や歌詞の翻訳等、授業準備。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

翻訳課題等は、授業中に適宜プリントを配布する。

成績評価

- 発表および課題30%、授業態度と授業中の取り組み(出席含む)70%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者(大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べる事ができる)
- A 総合点が80点以上の者(欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つ事ができる)
- B 総合点が60点以上の者(欠席が5回未満で、遅滞なく課題を提出する)
- C 総合点が50点以上の者(欠席が5回未満で、課題を提出する)
- D 総合点が49点以下の者(欠席が5回以上または課題が提出されない場合)
- ※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポート等の課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 芸術環境論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中山 夏織

科目
ナンバリング CAE1011 B

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

指定された課題を予習できる者。

授業の概要

コロナ禍を経て、大きく変化する社会の中で、主に、舞台芸術が直面する課題を検証し、創造者・表現者、アートマネジャーとして、いかなる役割を担い、対処していくのかを探っていく。文化政策、アートマネジメント、アーティストサバイバルにまつわる様々な議論や事例を紹介し、その統合と相克を考察すると共に、合わせて、契約や著作権等、関連する重要な課題にも触れていく。舞台芸術に従事する創造者・表現者、アートマネジャーらが変化する社会と共に生き、生かされる存在となるための試みである。

授業の到達目標

- ・創造者・表現者、アートマネジャーが直面する現実・課題を理解できる。
- ・創造者・表現者、アートマネジャーが担う役割を理解できる。
- ・様々な分野の知識を分析、統合し、整理できる。

授業計画

1. 文化政策、アートマネジメント&アーティストサバイバル
2. 文化政策の語る経済・観光・まちづくり・国際
3. 観客は変化する
4. オンライン-新たなビジネス・プラットフォーム?
5. 芸術鑑賞の価値をめぐる議論の変化
6. 芸術は教育に役に立つのか?
7. 多様性をめぐる議論
8. 国際貢献を探る
9. ハラスメントをめぐる議論
10. インクルーシブ一歩扱われるのは誰か?

11. インクルーシブ・イン・プラクティス
12. 舞台芸術とSDGs—アーツ・グリーンブックを読む
13. グリーン・イン・プラクティス
14. リーダーシップと生き残る組織
15. 振り返りと総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業の中で論点をシェアし、議論・整理を行う。

授業時間外の学習

指定された課題をリサーチする予習を行う。新聞等を読み、アンテナを常に張っておく。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリント配布。授業で活用するパワーポイントを事前に送付する。

成績評価

- 成績評価は授業態度30%、授業への貢献度40%、課題の成果30%を総合的に評価する。
- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 アートプロデュース論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 寺田 航

科目
ナンバリング CAE2040 B

学位授与方針
との関係 DP②③

期間 後期

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

素晴らしい作品もチケットを買ってくださるお客様がいなければ成立しないので、チケットが売れない俳優や演奏家・演出家・脚本家をキャストリングすることは難しい。演技演奏が上手い、前例のない演出、才幹溢れる脚本だとしても、そのことがキャストリング権を持つプロデューサーや出資者に評価されなければ役役に繋がらない。この講座では「キャストリング権を持つ側の立場」の目線に立って「演劇・コンサート・イベント等の企画制作基礎」を学ぶことを通じて、「他者からの評価を引き寄せる力」と、結果としての「稼ぐ力」を獲得していく。そのための具体的な学習内容として以下の3本柱で構成する。

- ・成長型マインドセット教育
- ・マーケティング・ブランディング基礎
- ・公演予算書作成と団体経営の基礎

授業の到達目標

- ・成長型マインドセット教育を通じて、非成長的な考え方を換え、行動を変え、手に入れる結果をえることができる。
- ・マーケティング・ブランディング基礎を学んで、他者からの評価・キャストリングに繋がる戦略・戦術についての知識を得ることができる。
- ・公演予算書作成と団体経営の基礎を学んで、高額となる劇場費・文芸費・出演費・舞台技術費・制作費の相場価格や、複雑な著作権等の権利処理を把握し、低予算でもあきらめない作品製作に繋げ、利益が出る公演にして団体を成長させ、旗揚げ公演で終わらない団体にするための知識を得ることができる。

授業計画

1. 講義ガイダンス
2. マーケティング・ブランディング基礎
3. マーケティング・ブランディング基礎
4. マーケティング・ブランディング基礎
5. SNSマーケティング基礎
6. SNSマーケティング基礎
7. 予算書作成基礎
8. 予算書作成基礎
9. 予算書作成基礎
10. 団体経営基礎
11. 団体経営基礎
12. 団体経営基礎
13. 予算書作成実習

14. 予算書作成実習
 15. 講義総括・補強
- ※各講義、脳の準備運動的な感覚でマインドセット教育を行ってから本編に入る。
※授業内容については、進行状況等により多少の前後が出ることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

この講座ではパワーポイント資料を使用した知識教育と、講師とディスカッションしながら諸課題を都度こなしていく実践教育を合わせたアクティブラーニングを行う。講義を重ねる中で、受講生の希望職種や思考パターンを講師が把握し、希望する将来像に近づくためのアドバイス・改善点を伝えていく。

授業時間外の学習

- ・講義内で配布する自己分析シートを都度行う。
 - ・他人より自分の方が評価をされるであろうことを見つける。
 - ・自分のセールスコピーを考え続ける。
 - ・変わっても良いから、講義の時点で卒業してやりたいこと・やりたいことを見つけておく。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・本・音楽・映画・イベント等、講義内で様々紹介していくので、その中で自分が興味を持ったものをチェックする。
- ・講義での使用資料は、基本プロジェクターで投影する。
- ・紙資料は必要に応じて講師が印刷して配布する。

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み60%、諸課題への取り組み40%の配分で総合的に判断する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解せず、諸課題への取り組み・授業態度等に問題がある者）

科目名 メディア論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 細谷 修平

科目
ナンバリング LIA2000 B

学位授与方針
との関係 DP②③

期間 後期

他専攻

履修条件

遅刻、居眠りをしないよう、積極的に授業に参加すること。

授業の概要

本講義ではメディアの発達史と表現の変容を軸に、現代におけるメディアのグローバル化およびメディアによるグローバル化について考えていく。経済のグローバル化やデジタル・メディアの発達・普及により、社会における消費行動は大きく変化している。世界的なメディアの動向から、生活の身近にあるメディアまで広く視野に入れることで、現代社会におけるメディアの作用を深く考察していく。担当教員は、メディアと表現をめぐる研究と共に、様々なメディア活動の現場に立ち会ってきた。日本の戦後前衛芸術から現代美術、メディア・アート、映画における表現についてもグローバルな視野で紹介していく。今日に至るメディアの変容を深く捉え、メディアリテラシーを身につけられるよう講義を進める。

授業の到達目標

- ・メディアと表現についての基本的知識を身につける。
- ・今日のメディアのありようについて批判的に考察できる。
- ・グローバル化とメディアの関係について理解する。

授業計画

- 1 インTRODクッション：メディアとそのグローバル化
- 2 メディアとは何か 世界的転換とメディア
- 3 戦後転形期のメディア①書物と大衆
- 4 戦後転形期のメディア②映画・テレビと大衆
- 5 1960年代 戦後前衛芸術の展開① 美術の展開
- 6 1960年代 戦後前衛芸術の展開② 演劇・舞踏・デザインの展開
- 7 1960年代 独立する映画と写真、そしてドキュメンタリー
- 8 1970年 大阪万博とメディア表現
- 9 ディスカバー・ジャパン 移動する大衆とメディア
- 10 ビデオの登場 「即再生」がもたらしたものの
- 11 オルタナティブ・メディアの可能性①
- 12 オルタナティブ・メディアの可能性②
- 13 現代消費社会① オリジナルとメディア

- 14 現代消費社会② ディズニーランドとメディア
 - 15 メディアをうらむな、メディアをつくれー実践的メディア論
- ※授業内容に関しては、進行具合により多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーへのフィードバックを、次の授業中に行う。

授業時間外の学習

- ・授業内で話題にした内容について図書館やインターネットを利用して理解を深めること。
 - ・映画館や美術館へ行き、様々な表現に触れること。感想に止まらず、なぜ自分が関心を持ったのか、どのようなメディアの作用があるのか等、意識的に考察すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・粉川哲夫「もしインターネットが世界を変えたとしたら」（晶文社）
- ・中平卓馬「なぜ、植物図鑑か—中平卓馬映像論集」（ちくま学芸文庫）
- ・赤瀬川原平「反芸術アンパン」（ちくま文庫）
- ・その他、授業内に適宜紹介する。

成績評価

- レポート50%、授業への取組み50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明があまりできない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 現代思想論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 比嘉 徹徳

科目
ナンバリング LIA1010B

学位授与方針
との関係 DP①⑤

期間 前期

他専攻 ー

ー

履修条件

特になし。

授業の概要

この授業では、ニーチェとフロイトを起点に置いて現代思想のアクチュアルなテーマを概観する。自己、他者、権力、セクシュアリティ等について、哲学および精神分析がどのような議論をしてきたか理解を深めつつ、参加者の問題意識と突き合わせて考察していく。

授業の到達目標

現代思想の諸概念について歴史的背景を踏まえて正確に理解することができる。

社会や文化の様々な現象、文学および芸術について、現代思想の諸概念を用いて理解し、解釈することができる。

授業計画

1. イントロダクション：授業の進め方と評価方法、この授業のポイント
2. ニーチェ①道徳批判／系譜学
3. ニーチェ②遠近法主義
4. フロイト①無意識／意識
5. フロイト②超自我／自我／エス
6. フロイト③文化論・宗教論
7. フロイト以後の精神分析
8. 中間まとめ
9. ホルクハイマー／アドルノ（＋ハーバーマス）：啓蒙のゆくえ

10. フーコー①「権力の系譜学」規律訓練
 11. フーコー②「権力の系譜学」生政治／統治
 12. ドゥルーズ：マゾッホとサド
 13. ベイトソン：ダブルバインド
 14. ジュディス・バトラー：ジェンダー／セクシュアリティと政治
 15. 到達度確認と授業の総括
- ※授業の進行や受講者の理解度に応じて変更の余地あり。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業についての感想・質問・意見をリアクションペーパーに書いてもらい、次の回にいくつかを取り上げて回答する。

授業時間外の学習

授業内で指示した文献を積極的に読むこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。レジュメの配布およびスライド。

成績評価

レポート60%、授業への貢献度40%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 日本国憲法

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 西山 智之

科目
ナンバリング LIA2020B

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 ー

ー

履修条件

教職課程受講者は必修。

授業の概要

本講座では、日本国憲法の歴史をはじめ、国民に保障される自由や権利の他、統治機構（国会・内閣・裁判所）についての解説を講義形式で行う。憲法は私たちの日常生活では、馴染みの薄い存在なのかもしれない。しかし近年、憲法第9条（戦争放棄）に関する議論や過激な表現活動に関する問題等、憲法上の諸問題が活発に議論されており、これらの問題は高等教育を受けた者として当然に知っておくべきものである。また憲法は、刑事法や民事法の基礎となる法であり、今後私たちが生活をする際に法律を学んでいく上で、理解しておくことが望ましいと考えられる。

そのため講義の中では、憲法の基本的知識の他、上記にあげた現代の憲法上の諸問題や憲法改正議論について等、タイムリーな話題についても解説を行いたいと考えている。また、社会問題を考える力を育成するため、授業中にディベート等発言する機会を多く設ける予定である。積極的に議論に参加してほしい。

授業の到達目標

日本国憲法を通じて、現代の法で定められた国家の仕組みに関する知識・理解を深め、社会に対する関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、履修者が日本国憲法の基本的知識を習得し、人権の意義や国会・内閣・裁判所の役割を理解した上で説明することができる、ということ到達目標とする。

授業計画

1. ガイダンス、憲法とは何か、法とは何か
2. 天皇の地位と権能、平和主義
3. 基本的な人権の原理、基本的な人権の保障と限界
4. 包括的基本権、平等原則
5. 精神的自由①（思想・良心の自由、信教の自由）
6. 精神的自由②（表現の自由、学問の自由）
7. 経済的自由（職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権）
8. 人身の自由（適正手続きの保障、被疑者・被告人の権利）
9. 社会権（生存権、労働基本権、教育を受ける権利）
10. 国務請求権、参政権、統治の基本原理
11. 統治機構①（国会の仕組みと役割）
12. 統治機構②（内閣の仕組みと役割）
13. 統治機構③（裁判所の仕組みと役割）

14. 違憲審査制、地方自治、憲法改正
 15. 授業の総括
- ※授業の進捗状況や社会状況により、若干の変更があり得る。

学生に対する教員からのフィードバック方法

毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、その次の授業の冒頭でリアクションペーパーで出た質問に回答し、また授業の感想に対するコメント等も行う。

授業時間外の学習

事前学習：ニュース・新聞等を通じ社会問題に対して常に関心を持ち、現在の日本でどういった問題が起きているのかについて調査し、ノートに列記しておく。

事後学習：各回の授業内容を自分なりに整理し、わかりやすくノートに記述しておく。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：東裕・杉山幸一 編著「Next教科書シリーズ 日本国憲法」(弘文堂、2022年)
その他、授業で資料を配付する。

成績評価

成績評価は、筆記試験50%、平常点50%の配分で総合的に評価する。平常点では、教員の問いに対する発言回数や議論の際の態度等、授業に積極的に参加しているかを見る。ここでの授業への参加とは、単に授業時間に教室へ来て座っているのではなく、授業への意欲的な態度を持って参加していることを意味する。

- S：総合点が90点以上の者（授業に大変積極的に参加し、憲法について優れた理解をしている）
A：総合点が80点以上の者（授業に積極的に参加し、憲法について十分に理解している）
B：総合点が60点以上の者（授業に参加し、憲法についてある程度理解している）
C：総合点が50点以上の者（授業に参加し、憲法について最低限度理解している）
D：総合点が49点以下の者（授業に参加せず、憲法についての理解度が低い）

科目名 文化政策論A

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング LIA1030B

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

演劇の内容が主となるが、音楽専攻の学生も歓迎する。

授業の概要

日本にはどのような劇場（・音楽堂）があり、どのように企画・運営が行われているのか。どのような変遷を経て現行の劇場の仕組みや補助金の仕組み、考え方が成立したのかを概観する。

授業の到達目標

- ・作品が作り手から観客に届くまでの基礎的な過程を理解する。
- ・演劇や音楽が福祉、教育等の現場で応用的に利用されていることを知り、それぞれの専門を、アウトリーチをはじめとする観客創造や応用演劇、社会的包摂と結びつける方法を考えられるようになる。
- ・国や自治体の文化予算の仕組みについて、歴史的な観点からも説明できるようにする。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
 2. 自己紹介・演劇制作の過程—作品が観客に届くまで—
 3. 制作現場の課題
 4. 制作現場の課題
 5. 著作権・民間劇場と国立劇場の違い
 6. 助成金・補助金
 7. 地域による特色
 8. 地域による特色
 9. 劇場の仕組み
 10. 劇場の仕組み
 11. 劇場の取り組み
 12. 劇場の取り組み
 13. 演劇の応用
 14. より良い創作環境づくりのために
 15. 総括
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポートの後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを、図書館の資料やインターネット等でチェックすること。
 - ・授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

公益社団法人全国公立文化施設協会編「アートマネジメントの基礎用語ハンドブック（平成26年度）」（オンライン教材）を予定
URL：https://www.zenkoubun.jp/publication/pdf/afca/art_hb2015.pdf（2023年1月5日現在）
福井健策「改訂版 著作権とは何か 文化と創造のゆくえ」（集英社新書）
福井健策「18歳の著作権入門」（ちくまプリマー新書）

成績評価

- レポート30%、授業態度と授業中の取り組み（出席含む）が70%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者（大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なくレポートを提出し、その内容が極めて優秀である）
- A 総合点が80点以上の者（欠席が3回未満で、遅滞なくレポートを提出し、その内容が優秀である）
- B 総合点が60点以上の者（欠席が5回未満で、遅滞なくレポートを提出する）
- C 総合点が50点以上の者（欠席が5回未満で、レポートを提出する）
- D 総合点が49点以下の者（欠席が5回以上またはレポートの提出がない場合）
- ※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別に課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 文化政策論B

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング LIA2030B

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

演劇専攻・音楽専攻共に歓迎する。
ただし、3つの戯曲「ロミオとジュリエット」「リア王」「ゴドーを待ちながら」には目を通すこと（各作品の最後の回までに）。翻訳は何を使っても良い。もちろん、原文で読んでもかまわない。戯曲を読み慣れていない音楽専攻の学生にはサポートを行う。
安部公房の作品をどれかひとつ、12回目の授業（予定）までに読んでおくこと。作品は小説でも戯曲でも良い。

授業の概要

専攻を問わず一度は触れておきたい戯曲や作家、表現様式について知り、それぞれの作品に基づいて新たに創作された作品に映像等で触れ、感想を述べる。本学の演劇専攻の礎を築いた小説家・劇作家、安部公房の作品についても触れておきたい。

授業の到達目標

国内外で様々な分野のアーティストが影響を受け、アレンジを加えてきた作品に触れ、専攻の異なる学生の感想を聞き合うことにより、柔軟で多角的に作品を捉え、表現する力を身につける。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 「ロミオとジュリエット」に基づく作品—ミュージカル「West Side Story」等
3. 「ロミオとジュリエット」に基づく作品
4. 「ロミオとジュリエット」に基づく作品
3. 「リア王」に基づく作品—映画「乱」等
4. 「リア王」に基づく作品
5. 「リア王」に基づく作品
6. 「エレクトラ」を題材にした作品—オペラ「エレクトラ」等
7. 「エレクトラ」を題材にした作品
8. 「エレクトラ」を題材にした作品
9. 「ゴドーを待ちながら」のアレンジ
10. 「ゴドーを待ちながら」のアレンジ
11. 「ゴドーを待ちながら」のアレンジ
12. 安部公房の作品
13. 現代の作品と日本の伝統芸能

14. 現代の作品と日本の伝統芸能
 15. 総括
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の発言やレポートについて、適宜フィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・課題の作品（戯曲等）を読む等、予・復習をする。
 - ・レポートを書く。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

ウィリアム・シェイクスピア「ロミオとジュリエット」（戯曲）
ウィリアム・シェイクスピア「リア王」（戯曲）
サミュエル・ベケット「ゴドーを待ちながら」（戯曲）
※いずれも翻訳者、出版社を問わない。
※その他、適宜授業中やClassroom等を使って共有・指示する。

成績評価

- 課題30%、授業態度と授業中の取り組み（出席含む）が70%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者（大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べるができる。さらに、課題の内容が優秀である）
- A 総合点が80点以上の者（欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つことができる。さらに、課題の内容が優秀である）
- B 総合点が60点以上の者（欠席が5回未満で、遅滞なく課題を行う）
- C 総合点が50点以上の者（欠席が5回未満で、課題を提出する）
- D 総合点が49点以下の者（欠席が5回以上または課題が1つでも提出されない場合）
- ※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポート等の課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 青少年教育論

授業形態

講義

対象

全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験

○

キャップ制
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

科目
ナンバリング

LIA1040B

学位授与方針
との関係

DP②④

期間 前期

他専攻

—

—

履修条件

子どもならびに若者のための舞台芸術に深い関心があること。
児童青少年教育における演劇の可能性への探求意欲があること。

授業の概要

世界の児童青少年の演劇事情を学ぶ。
舞台芸術が児童青少年の発達にどのような影響を及ぼすのか学習・研究する。
児童青少年のための舞台芸術作品の創作に挑戦する。

授業の到達目標

- ・世界の児童青少年演劇を学習し、その現状について説明できる。
- ・発達心理学の分野等で研究されている、舞台芸術が児童青少年に及ぼす影響を学習し、自らリサーチできる。
- ・これらの学習を経て、児童青少年のための演劇作品を創作することができる。

授業計画

1. 授業の導入：授業内容の説明と目標設定
2. Theatre for Young Audiences (TYA) とは何か
3. 乳児のための演劇
4. 幼児のための演劇
5. 青少年のための演劇
6. 世界のTYA
7. 児童青少年のための演劇ワークショップの可能性
8. 児童青少年のための演劇ワークショップを考案・発表
9. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について①基礎
10. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について②世界の研究成果
11. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について：リサーチの発表①前半（2回に分けて行う）
12. 発達心理学等における舞台芸術の重要性について：リサーチの発表②後半

13. 作品創造①前半（2回に分けて行う）

14. 作品創造②後半

15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

提出された課題に対し講評を行い、場合によってはフィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題発表のためのリサーチを行う。作品の執筆に取り組む。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布。
参考書：必要に応じて授業時に配布。

成績評価

授業への取組み・創造過程への関わり方80%、発表の内容20%の総合的評価。

- S 総合点が90点以上の者（授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が大変高く評価できる）
A 総合点が80点以上の者（授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる）
B 総合点が60点以上の者（授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる）
C 総合点が50点以上の者（授業への取組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している）
D 総合点が49点以下の者（授業への取組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない）

科目名 倫理学

授業形態

講義

対象

全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験

—

キャップ制
対象外

担当教員 吉川 浩満

科目
ナンバリング

LIA2010B

学位授与方針
との関係

DP②④

期間 前期

他専攻

—

—

履修条件

特になし。

授業の概要

倫理とは、人と人が関わり合う際のふさわしい振る舞いを指す。倫理学は、その倫理を理性的に検討する学問である。私たちは、日常生活においてはもちろん、芸術活動においても、様々なかたちで倫理と関わりを持つ。この授業では、日常生活や芸術活動において直面しうる倫理的諸問題について、倫理学の助けを借りて考える。

授業の到達目標

- 以下の2点を到達目標とする。
- ・自己と他者の倫理的判断の根拠を、ある程度まで理解・説明できる。
 - ・特定の状況における倫理的問題の所在を、ある程度まで把握できる。

授業計画

1. 倫理／倫理学とは
2. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか①
3. 倫理学の三部門—規範倫理学、記述倫理学、メタ倫理学
4. 倫理学の三領域—個人、社会、身近な関係
5. 社会の倫理—正義
6. 個人の倫理—自由
7. 身近な関係の倫理—愛
8. ケアの倫理
9. 倫理学の各領域の関係
10. 倫理学の三学説—徳倫理、義務論、功利主義
11. 芸術と倫理①
12. 芸術と倫理②
13. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか②
14. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか③
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーやミニレポートへのフィードバックを、授業内において適宜行う。

授業時間外の学習

配布資料を読むこと、ミニレポートを書くこと。
これらの学修には60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、授業への取組み50%、レポートや発表50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 ジェンダー論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 岡 俊一郎

科目ナンバリング LIA2011B

学位授与方針との関係 DP③④

期間 後期

他専攻 ー

ー

履修条件

受講にあたって、ジェンダー論やセクシュアリティ論に関する知識は求めない。
授業で扱う内容や事例の説明について、受講者からの疑問や異なる見解の提示を歓迎する。

授業の概要

性のあり方は私たちの日常に深く関わり、様々な手法で分析されている。この講義では、受講者が自らの関心とジェンダーやセクシュアリティと密接に関わる問題を結び付けて考察できるようになることを目標に、ジェンダースタディーズの入門的事項を人文学的視点から概観する。とりわけ、パフォーマンス・視覚芸術・映画といった表現との関係を重視する。

前半の講義では、ジェンダースタディーズの基礎的な概念である、社会的に構築された性を示すジェンダーや多様な性のあり方を示すセクシュアリティ等の概念と、これらの概念が重要視されるようになった歴史的経緯を説明する。性感染症や性的合意等、身近で重要な題材についても学ぶ。後半では、1945年以降、多様な表現手段の中で、ジェンダーを巡る問題系がいかに探求されてきたのかを学ぶ。英語圏での議論の展開を中心としながら、日本における展開や、時事的な問題との接続も合わせて説明する。

授業の到達目標

- ジェンダースタディーズの基礎的な概念や内容を理解し、説明することができる。
- ジェンダーやセクシュアリティに関する表現の歴史的展開について、説明することができる。
- 自らの表現活動や他者の表現活動について、ジェンダースタディーズとの関わりで表現することができる。

授業計画

- イントロダクション：ジェンダー論の対象領域、性について語ることに
- ジェンダースタディーズの背景：フェミニズムとは何か
- ジェンダースタディーズの背景：第一波フェミニズムと第二波フェミニズム
- ジェンダースタディーズの背景：第三波フェミニズム以降の展開
- ジェンダースタディーズの基礎的な概念：セックスとジェンダー
- ジェンダースタディーズの基礎的な概念：セクシュアリティ・性の多様性
- ジェンダースタディーズの基礎的な概念：インターセクショナルリティ
- リプロダクティブ・ヘルス/ライツとフェミニズムの展開
- HIV/AIDSを中心とした性感染症とジェンダースタディーズの関わり
- フェミニストパフォーマンスの歴史的展開
- フェミニストパフォーマンスと現代的問題のつながり
- フェミニズムと視覚芸術の関わり
- フェミニズム批評の展開：映画に埋め込まれた男性のまなざし

- ジェンダースタディーズと映画の歴史：誰が映画のスクリーンに表れるのか
 - 授業の振り返り
- ※授業内容は、受講者の興味・理解度や進行の都合により多少前後する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーへのフィードバックを、次の授業時に行う。具体的には、リアクションペーパーの内容に基づき、補足的な説明や応用的な事例の解説を行う。

授業時間外の学習

- 授業で説明する概念や事例について復習すること。
 - 授業で説明する概念や事例に関わる身近な話題に関して、関心を持ち調査すること。
 - 授業で説明する概念や事例と時事的な問題との関わり、芸術表現との関わりについて考えること。
 - 授業で説明するジェンダーやセクシュアリティに関する芸術表現に関心を持ち、各自で鑑賞等を行うこと。
- これらの学修には60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、スライドを用いて授業を行う。
参考書：ハンナ・マッケン他著、最所篤子・福井久美子訳「フェミニズム大図鑑」(三省堂)
※グローバルな視点からフェミニズムの歴史的展開について概観した参考書

成績評価

成績評価については、授業への取組み50%、基礎的な概念の理解・自分や他者による表現活動のジェンダーやセクシュアリティの視点からの分析50%とする。

S 総合点が90点以上の者（基礎的な内容を十分に理解した上で、自らの表現や他者による表現に対して高度な説明・分析を行うことができる）

A 総合点が80点以上の者（基礎的な内容を理解した上で、自らの表現や他者による表現を説明・分析することができる）

B 総合点が60点以上の者（内容をほぼ理解した上で、自らの表現や他者による表現を説明・分析することができる）

C 総合点が50点以上の者（内容の説明が不十分で、表現の説明・分析が曖昧である）

D 総合点が49点以下の者（授業への取り組みが不十分で、内容の説明および表現の分析ができない）

科目名 ダンス史

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 宮川 麻理子

科目ナンバリング LIA2050B

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 ー

ー

履修条件

特になし。ダンスに関心を持つ学生の履修を歓迎する。

授業の概要

劇場でダンスを鑑賞する文化はいつ、どのようにして誕生し、現代まで続いてきたのだろうか。本講義では、舞台芸術としてのダンスがどのように発展し、変容したのかを講義する。バレエの誕生から20世紀に多様な展開を見せたモダンダンス、舞踏、コンテンポラリーダンスまでを概観し、それぞれのダンスに見られる特徴・時代背景・政治や社会とのつながりを考察する。

授業の到達目標

- ダンス史を語る上で基礎となる知識を習得する。また、各作品やダンサー・振付家の持つ美学や革新的な要素を、時代や社会・政治との関わりを念頭に置きながら検討し、ダンスをより深く理解できるようになることを目指す。具体的には以下の3点を到達目標とする。
- 舞台芸術としてのダンスの歴史を語るすることができる。
 - 一つの作品を、多角的に分析することができる。
 - ダンス史の流れの中で、現在のダンスの状況を位置付けられる。

授業計画

- イントロダクション（授業で扱う「舞台芸術としてのダンス」が示す範囲やその定義について）
- バレエの歴史①バレエの誕生からクラシック・バレエまで
- バレエの歴史②バレエ・リュスとニジンスキーについて
- モダンダンスの歴史①20世紀初頭に活躍したダンサーたち
- モダンダンスの歴史②ドイツ表現主義舞踊とその周辺
- モダンダンスの歴史③アメリカのモダンダンスの発展
- ポストモダンダンスについて
- ピナ・バウシュのタンツ・テアター
- 日本における洋舞の発展
- 舞踏について①土方巽と大野一雄の美学
- 舞踏について②舞踏の国際的展開
- ヌーヴェルダンス

- コンテンポラリーダンス①ノンダンスとその周辺
- コンテンポラリーダンス②日本のコンテンポラリーダンスの現状
- 授業の総括および学習到達度の確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーへのフィードバックを、次の授業時に行う。

授業時間外の学習

履修者は各自で講義をノートにまとめ、予習と復習に努めること。授業内で紹介する参考文献に目を通し、ダンスに関する知を積極的に得ようとする。また、できる限り現在上演されているダンスの公演に足を運び、自分の目で舞台を見ること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、参考書は適宜授業内で紹介する。

成績評価

授業内試験の結果60%、授業への取り組み・コメント40%を総合して評価する。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸事項を関連付けて自分の言葉で説明できる。毎回の授業への取り組みも特に秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できる。授業への取り組みもほぼ確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容をほぼ理解しているが、説明しようとする曖昧な部分もある。授業への取り組みは十分だと認められた者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容をあまり理解できていない。授業への取り組みも不十分だった者）

D 総合点が49点以下の者（授業内容を全く理解せず、授業への取り組みにも問題がある者）

科目名 映画史

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 細谷 修平

科目
ナンバリング LIA1000B

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

遅刻、居眠りをしないよう、積極的に授業に参加すること。

授業の概要

本講義では戦後の日本映画の流れを中心に、社会との関わりの中で映画作品がどのような人々によってどのように制作・上映され、どのような影響をもたらしたのかを考える。並行して、世界の映画状況も概観するが、西洋を中心とした既存の「映画史」にとどまらず、アジア各地の映画や小規模で制作された実験映画、映画と関連する他の芸術領域等についても考察していく。また、インターネットを介したグローバルな映像表現の展開も視野に入れ、ファインアートを含めた現在進行形の映画、映像表現の動向を捉えていく。

授業の到達目標

- ・映画、映像作品と社会の関わりについて理解を深めることができる。
- ・映像表現と人間の関わり、カメラの前で表現することについて考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション：今日の映画状況
2. 映画の誕生と日本における生成
3. 戦争と映画—満映の時代
4. 1950年代—記録の時代
5. 1960年代①—スターと映画
6. 世界情勢と映画の交差
7. 1960年代②—新たなる映画の冒険
8. 映画の実験と前衛芸術
9. ビデオの登場と映像表現
10. ドキュメンタリーとフィクション
11. アジア映画—もうひとつの映画史
12. 80年代、90年代の映画、映像表現
13. インターネット社会における映画、映像表現
14. 映画の保存活動

15. わたし／たちと映画、映像のこれから
※授業内容に関しては、進行具合により多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーへのフィードバックを、次の授業中に行う。

授業時間外の学習

- ・授業内で話題にした内容について、図書館やインターネットを利用して理解を深めること。
 - ・映画館や美術館等に出かけ、積極的に映画や芸術作品に触れること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

四方田犬彦「映画史への招待」(岩波書店)
平沢剛「アンダーグラウンド・フィルム・アーカイブス」(河出書房新社)
その他、授業内に適宜紹介する。

成績評価

- レポート50%、授業への取組み50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる）
A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明があまりできない）
D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 芸術空間論

授業形態 講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目
ナンバリング LIA2012B

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

舞台空間の歴史に興味があること。

授業の概要

舞台空間の歴史を舞台美術家の視点で解説する。ギリシア悲劇、聖史劇、ルネサンス演劇、近代演劇等を舞台空間という視点で捉え直していく。

前半では西洋と日本の舞台空間の歴史を大まかに説明していく。後半では各テーマに添いながら舞台空間に起こった出来事とその変化を探っていく。

過去の出来事とつなげながら、現代から未来への舞台空間の考察へとつなげる。

授業の到達目標

- ・古代ギリシアから現代までの舞台空間の大まかな流れを理解できる。
- ・舞台空間と戯曲、演技、演出等がどのような関わりを持っていたかを理解できる。
- ・未来の舞台空間がどのように変化していくかの想像力を持つことができる。

授業計画

1. イントロダクション：なぜ私は舞台美術家を目指したのか？
2. 舞台空間の流れを掴む①古代ギリシア～ルネサンス
3. 舞台空間の流れを掴む②バロック～近代
4. 舞台空間の流れを掴む③日本編（猿楽～能楽）
5. 舞台空間の流れを掴む④日本編（歌舞伎～新劇）
6. 舞台空間の流れを掴む⑤現代の舞台空間
7. 舞台の額縁はなぜ生まれたのか？
8. 客席はなぜ暗くなったのか？
9. リアルな舞台装置はなぜ登場したのか？

10. 何もない空間とは何か？
11. 舞台美術と映画美術は何が違うのか？
12. 2.5次元舞台は何を変えたのか？
13. パフォーミングスペースとは何か？
14. 未来の舞台空間は何が変わるのか？
15. フィードバック

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート・課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

中学程度の日本史・世界史をおさらいしておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に毎回プリントを配布。

成績評価

- 授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 国際文化論

授業形態

講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 後藤 絢子

科目
ナンバリング LIA1031B学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

演劇・舞踊の内容がメインだが、音楽専攻の学生の受講も歓迎する。基礎的なことは説明を省略することもあるが、わからないことは、積極的に質問するか調べて解決すること。また、受講生に音楽専攻の学生が多い場合は、音楽専攻寄りの話題も積極的に取り込みたい。

授業の概要

主に同時代の世界のアーティストたちが、どのような状況のもと、どのような意識を持って創作に向き合っているのか。パフォーマンスアートとその背景の多様性を知る。また、日本と諸外国・地域の演劇・音楽の受容についても考える。参加人数によっては、学生による発表の機会も設けたい。発表の内容としては、現在取り組んでいる作品のことや、授業で扱う国や地域、資料中に出てきた作品・事柄を想定している。

授業の到達目標

世界の動向に関心を持ち、その中でどのようなパフォーマンスアートが生まれているのかを知り、調査し、その一端について説明することができる。

授業計画

1. オリエンテーション・自己紹介
2. 自己紹介の続き・ロシア/ウクライナの演劇
3. ロシア/ウクライナの演劇
4. 発表 (1)
5. 発表 (2)
6. 日本を含むアジアのパフォーマンスアート
7. 日本を含むアジアのパフォーマンスアート
8. 発表 (3)
9. アメリカ・ヨーロッパのパフォーマンスアート
10. アメリカ・ヨーロッパのパフォーマンスアート
11. アメリカ・ヨーロッパのパフォーマンスアート
12. 発表 (4)
13. 発表 (5)

14. 作文
15. 総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表や課題提出の後に、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

発表のための調査や準備、作文の学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

「国際演劇年鑑2023」(国際演劇協会日本センター編集・発行)等適宜プリントを配布したり、ClassroomでURLを共有する。また、学生の専攻等に応じて、個別に課題図書・視聴覚資料等を指示する。

成績評価

発表および作文30%、授業態度と授業中の取り組み(出席含む)70%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者(大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べるができる。さらに、発表や課題の内容が優秀である)
- A 総合点が80点以上の者(欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つことができる。さらに、課題の内容が優秀である)
- B 総合点が60点以上の者(欠席が5回未満で、遅滞なく課題を行う)
- C 総合点が50点以上の者(欠席が5回未満で、課題を提出する)
- D 総合点が49点以下の者(欠席が5回以上または課題が1つでも提出されない場合)

※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポート等の課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 文学論

授業形態

講義

対象 全専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング LIA2001B学位授与方針
との関係 DP①⑤

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

後期の集中講義。1月後半～2月前半の集中講義期間に行う予定。GPA(成績)、CAP制度(履修登録上限制度)、修了公演や卒業公演等のスケジュールとの兼ね合いもあるので、履修希望者はよく考えてから、履修登録すること。

授業の概要

文学の中でも小説というジャンルは、それを原作として、多様な形態に変えることがある。映画や演劇等、台本としてシナリオや戯曲になる例はもちろん、美術であれば、絵画等のモチーフになる場合もある。また、小説家が、小説を書くことはもちろんだが、戯曲を書くこともある。この授業では、それらの作家の小説を中心的に論じつつ、同時に彼らが書いた戯曲も文学として見る。短い小説を読みつつ、原作が他のメディアとなること、もしくは他のメディアから小説への影響等も考える。

授業の到達目標

文学というものの幅の広さを知ると同時に、それがどのように別のジャンルへと転化するのか。小説・詩・戯曲・映画・映像・美術等芸術全般を、文学を通して考える。ひいては社会全体を芸術を通して考えることができる。

授業計画

1. イントロダクション：小説とは何か
2. 作家の小説について：安部公房
3. 作家の戯曲について：安部公房
4. 作家の小説について：三島由紀夫
5. 作家の戯曲について：三島由紀夫
6. 現代の作家の小説について：岡田利規
7. 現代の作家の戯曲について：岡田利規
8. 現代の作家の小説について：本谷有希子
9. 現代の作家の戯曲について：本谷有希子
10. 作家の小説について：ワイルド
11. 作家の戯曲について：ワイルド

12. 作家の小説について：ベケット
13. 作家の戯曲について：ベケット
14. 古典から現代へのアダプテーションについて
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業でのフィードバックシートに対して、さらにコメントをする。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - ・授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - ・授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

成績評価

レポート50%、授業態度と授業中の取り組み(出席含む)50%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 英語 A I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 James Barry Ferner

科目
ナンバリング FLS1100B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。

授業の概要

レベルを問わず、皆が楽しく参加して実践的なロールプレイ・スピーチ・対話等で自信をつけ、英語を話す人々とコミュニケーションできるようにすることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話を楽しめるようになる。

授業計画

1. ガイダンス・自己紹介(スピーチ)
2. 電話の出入方・軽い話(ロールプレイ)
3. 天気予報「今日何しましょう」(ロールプレイ)好きな季節(スピーチ)
4. ホテルのチェックイン・トラブル(ロールプレイ)
5. 旅行の切符を買う・乗り物の間違い(ロールプレイ)
6. レストランで注文・ウェイターとのコミュニケーション(ロールプレイ)
7. 「すみません、ここは禁煙です」人に注意する(ロールプレイ)
8. 「ブラウさんはどういう見た目?」(ロールプレイとゲーム)
9. 旅行の切符を買う・乗り物の間違い(ロールプレイ)
10. 具合の悪い話・薬のおすすめするテレビCM(ロールプレイ)
11. 映画の話(ロールプレイ・ディスカッション)

12. メロドラマ・テレビCM(ロールプレイ)
13. 料理テレビ番組・レシピ(ロールプレイ・スピーチ)
14. パーティの招待・行けなかった理由・謝り
15. 道案内(RPG)

学生に対する教員からのフィードバック方法

宿題を提出後に、クラスルームのメッセージで個別のフィードバックを行う。

授業時間外の学習

予習は必要ないが、毎週、各自復習することで上達が早くなる。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配布。

成績評価

授業への取り組み50%、習熟度50%で評価する。

- S 総合点90点以上の者(授業への取り組みが大変良く、英会話力が大変優れている)
- A 総合点80点以上の者(授業への取り組みが良く、英会話力が優れている)
- B 総合点が60点以上の者(授業への取り組みもしくは英会話力が優れている)
- C 総合点が50点以上の者(授業への取り組みもしくは英会話力が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組みも英会話力も不十分)

科目名 英語 A II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 James Barry Ferner

科目
ナンバリング FLS2100B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「英語 A I」の単位を修得していること。

授業の概要

実用的な英語のトレーニングをする。レベルを問わず、皆が楽しく参加できる。実践的なロールプレイ・スピーチ・対話等で自信をつけ、英語を話す人々とコミュニケーションできるようにすることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話を楽しめるようになる。

授業計画

1. ガイダンス「お久しぶり」(ロールプレイ)
2. 食事の招待・レストランを決める(ロールプレイ)
3. 電気製品のおすすめ・テレビCM(ロールプレイ)
4. 買い物の返品・交換・返金(ロールプレイ)
5. オーディション・アルバイトの面接(ロールプレイ)
6. 注意・緊急(ロールプレイ)
7. 病院に行く(ロールプレイ)
8. 映画・演劇・コンサートの切符を買う(ロールプレイ・ディスカッション)
9. 友達にニュースを知らせる・アナウンス(ロールプレイ)
10. OJT(オンザジョブトレーニング)・やり方の説明(ロールプレイ)
11. 忘れ物・落とし物の報告(ロールプレイ)
12. スポーツクラブのプロモーション・テレビCM(ロールプレイ)

13. 旅行の計画・旅行会社(ロールプレイ)
14. 道を聞く(RPGゲーム)
15. 「コーク vs ペプシ」パネルディスカッション・テレビ番組(ロールプレイ)

学生に対する教員からのフィードバック方法

宿題を提出後に、クラスルームのメッセージで個別のフィードバックを行う。

授業時間外の学習

予習は必要ないが、毎週、各自復習することで上達が早くなる。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配布。

成績評価

授業への取り組み50%、習熟度50%で評価する。

- S 総合点90点以上の者(授業への取り組みが大変良く、英会話力が大変優れている)
- A 総合点80点以上の者(授業への取り組みが良く、英会話力が優れている)
- B 総合点が60点以上の者(授業への取り組みもしくは英会話力が優れている)
- C 総合点が50点以上の者(授業への取り組みもしくは英会話力が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組みも英会話力も不十分)

科目名 英語B I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 田村 奈穂子

科目ナンバリング FLS3100B

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。

授業の概要

本授業では、イギリスの劇作家ピーター・シェファア (Peter Shaffer 1926 - 2016) 作の戯曲「アマデウス」(Amadeus 1989) 第一幕を読む。本作は1979年にロンドンで初演を迎えた後、1981年にニューヨークでも上演され、1984年には映画化された。

「アマデウス」は、実在した作曲家モーツァルトとサリエリを中心人物とし、「モーツァルトの死にサリエリは関与したのか」というテーマで構成されたフィクションである。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

授業の到達目標

- 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
- 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
- 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

授業計画

- ガイダンス：作品の概要、背景等の説明
- 舞台装置等、冒頭のト書き
- ウィーン市民の噂話①
- ウィーン市民の噂話②
- サリエリの罪の告白
- サリエリの回想（子供時代）
- サリエリの全盛期
- モーツァルトの噂①
- モーツァルトの噂②
- モーツァルトとコンスタンツェの会話①

- モーツァルトとコンスタンツェの会話②
- サリエリの衝撃
- サリエリの祈り
- モーツァルトを迎える宮廷
- 授業の総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後が生じることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の都度、個々にフィードバックを行いながら授業に反映させる。

授業時間外の学習

履修者には、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物像・音楽的要素の把握、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語・文法構造等の記憶定着に努めること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。
授業には辞書を必ず持参すること。

成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（文法および作品を十分に理解できている）
A 総合点が80点以上の者（文法および作品を概ね理解できている）
B 総合点が60点以上の者（文法および作品をある程度理解できている）
C 総合点が50点以上の者（文法および作品の理解度が半分程度である）
D 総合点が49点以下の者（文法および作品を理解できていない部分が多い）

科目名 英語B II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 田村 奈穂子

科目ナンバリング FLS4100B

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「英語B I」の単位を修得していること。

授業の概要

基礎的英文法を確認しながらアメリカの劇作家バーナード・スレイド (Bernard Slade 1930-2019) の戯曲「セイム・タイム、ネクスト・イヤー」(Same Time, Next Year 1975) 第一幕を読む。この戯曲は1975年にニューヨークでの初演後、1978年までに1453回のロングランを達成し、映画化された。

本作はそれぞれ家庭のある男女が、年に一度、同じ場所で密会をするという二人芝居である。設定は単純ではあるが、その背景は1951年から1975年までの25年間に及ぶ。ロマンスティック・コメディでありながら、セリフには時代の影響を受けた登場人物の心理と葛藤を読むことができる。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

授業の到達目標

- 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
- 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
- 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

授業計画

- ガイダンス：作品の概要、背景等の説明
- 舞台装置等、冒頭のト書き
- ドリスとジョージのぎこちない会話
- 1951年のベストセラーとヒット曲
- ドリスとジョージの罪悪感
- 1951年の世界情勢
- お互いの家族について
- ドリスとジョージの出会い
- 配偶者の良いところを悪いところを1つずつ①
- 配偶者の良いところを悪いところを1つずつ②

- 子供の写真
- 5年後の近況報告①
- 5年後の近況報告②
- 子供からの電話
- 授業の総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後が生じることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の都度、個々にフィードバックを行いながら授業に反映させる。

授業時間外の学習

履修者には、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物の心理・時代背景等を説明できるよう十分に準備すること。また、和訳準備の他、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語・文法構造等の記憶定着に努めること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。
授業には辞書を必ず持参すること。

成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（文法および作品を十分に理解できている）
A 総合点が80点以上の者（文法および作品を概ね理解できている）
B 総合点が60点以上の者（文法および作品をある程度理解できている）
C 総合点が50点以上の者（文法および作品の理解度が半分程度である）
D 総合点が49点以下の者（文法および作品を理解できていない部分が多い）

科目名 演劇英語①②

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 James Sutherland

科目
ナンバリング FLS1101B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to theatre making used in contemporary Europe and increase our knowledge English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose-fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

授業の概要

Students work in groups and creatively explore a variety of storytelling and narrative theatre techniques. Their challenge will be to collectively think of ways to apply all these to their final performance. Students are asked to apply all the skills they have learned to make a most original and compelling story presentation possible. Students build up confidence performing in English. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games and exercises to tackling larger topics, themes and improvisations. The emphasis is always towards devising - stimulating the reflex to create, compose and devise.

①Commedia and the Street: Story Telling

Students stand in a circle and have to tell a quick story while keeping everyone engaged, and a team lip sync contest. Here the students learn the art of stillness and audience awareness and the push pull dynamic of Comedy.

②Choreography and Song Lip Synced

Students work in groups to choose, study, and recreate the choreography and lyrics of a popular song in English as it unfolds.

③Stage Combat and Film Scene Choreography

Students learn combat choreography to tell a story from a film using their bodies acting skills involving mime, posture, and bare hand combat technique.

④Text Theatre

Students learn the 4 basic elements of Fire, Water, Air, Earth and recreate epic stories like the storm scene in King Lear using their bodies and voice only. Students learn techniques to read a traditional Shakespeare monologue to tell a story.

授業の到達目標

1. Learning theatre vocabulary and improving communication in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity and understanding dialogue written in English.
3. Learning more about history and context of actor training in Europe in English and improve pronunciation and fluency in speaking in English.

授業計画

1. Games Intro to course exercises. Commedia and the Street: Story Telling:Figuration:
2. Games Commedia and the Street: Story Telling: Figuration:
3. Games Commedia and the Street: Story Telling: Lip Sync Competition. Figuration:
4. Games. Figuration/ Final Rehearsal
5. Games. Figuration/ Presentation Stage Combat and Text
6. Games. Stage Combat/ Actor and Text 1
7. Games. Stage Combat/ Actor and Text 2
8. Games. Stage Combat/ Actor and Text 3
9. Games. Stage Combat/ Actor and Text 4
10. Stage Combat Presentation Elements and Text Theatre/ Actor and Text 5
11. Games. Elements and Text Theatre/ Actor and Text 6
12. Games. Elements and Text Theatre/ Actor and Text 7
13. Games. Elements and Text Theatre Rehearsals/ Actor and Text 8
14. Games. Elements and Text Theatre Rehearsals
15. Final Performances/ Evaluate course games Conclusion/feedback MONOLOGUE DUE TODAY

学生に対する教員からのフィードバック方法

Method of feedback to students will be in regular class verbal feedback both individually and in groups.

授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually.

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

The teacher will provide all the material.

成績評価

S +90 A+80 B+65 C+50 D below 49
Commedia and the Street: Story Telling and Comedy: 20%
Ensemble Lip Sync and Choreography: 20%
Stage Combat and Text: 20%
Elements and Text Theatre: 25%
Participation 15%

科目名 ドイツ語 I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Daniel Gross

科目
ナンバリング FLS1110B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。

授業の概要

このコースは、ドイツ語の基礎や知識のない学生を対象に、ドイツ語圏の人々と基礎的な日常会話ができるようになり、ドイツ文化や習慣、地域の見解を深めてもらうことを目標としている。授業で使用するテキストは、卒業・修了時(2年間)には、ドイツ語の公式テスト(Zertifikat Deutsch)を受ける能力を修得することができるものを使用する。また、授業では、テキストだけを使用するのではなく、他のアイテムを使用し、受け身の授業ではなく、学生に自主的に参加して話をするスタイルで進め、学んだことを実用的に使えるよう、授業を進めていく。

授業の到達目標

- ・ドイツ語の文法の基本を学び理解することができる。
- ・基本的なドイツ語のボキャブラリーを構築することができる。
- ・発音を修得することができる。
- ・異文化に触れ日本との違いを感じ取ることができる。

授業計画

1. あいさつ、自己紹介(アルファベット)
2. カウンティング(1~100まで)
3. Weekdays, Months(月), day(日)
4. 動詞の現在人称変化
5. 定冠詞と名詞の格変化
6. 不定冠詞と名詞の格変化
7. 名詞と形容詞の使い方(一格)
8. 名詞(男性名詞、女性名詞、中性名詞) ex. 食べ物、飲み物
9. 4格
10. 名詞と形容詞の使い方(4格)
11. ein / kein (1格)
12. einen / keinen (4格)

13. 時計
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

ペーパーテスト評価および授業内での理解度を判断し評価する。

授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

小野寿美子・中川明博・西巻丈児「クロイツング・ネオ」(朝日出版社)

成績評価

受講態度65%、筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100~90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加に大変熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。
- 筆記試験の結果が89%~80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。
- 筆記試験の結果が79%~60%の者。
- C 授業中、積極的に参加し、授業内容をある程度理解している。
- 筆記試験の結果が59%~50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Daniel Gross

科目
ナンバリング FLS2110B学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

ポキャブラリーが少なく、基本的な文法の習得でも十分に様々なことを表現し伝えることができることを理解し、能動的にドイツ語を学んでいてもらいたい。授業では「ドイツ語Ⅰ」で使用したテキストを使用し、更にポキャブラリーや文法の幅を広げていく。

授業の到達目標

- ・ドイツ語の文法の基本を学び理解することができる。
- ・基本的なドイツ語のポキャブラリーを構築することができる。
- ・発音を修得することができる。
- ・基本的なコミュニケーションスキルとリスニングスキルを修得できる。
- ・授業を通し、ドイツの文化の魅力を学び広い学識を身につけることができる。

授業計画

1. 復習
2. 単語(洋服)
3. 色
4. 2～3のプラクティス(4格の使い方)
5. ロールプレイ
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス
8. コミュニケーションプラクティス
9. ロールプレイ
10. 3格と結びつく前置詞
11. 単語(3格の使い方)
12. 3格のプラクティス
13. 3格と4格

14. 復習
15. テスト、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

ペーパーテスト評価および授業内での理解度を判断し評価する。

授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

小野寿美子・中川明博・西巻丈児「クロイツング・ネオ」(朝日出版社)

成績評価

受講態度65%、筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加に大変熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加し、授業内容にある程度理解している。
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Daniel Gross

科目
ナンバリング FLS3110B学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。

授業の概要

コース修了時にはドイツ語ポキャブラリーと文法の知識の幅を広げ、ドイツ語を自信を持って話せることを目標としている。授業では、発音や読解力の訓練をロールプレイ形式で進め、またテキストやCDを使用しながらリスニングトレーニングを行っていく。その他ピクチャーワークシート等も使用していく。

授業の到達目標

- ・1年目で身につけた基礎から、さらに流暢な発音ができる。
- ・小文章を作成することができる。
- ・リスニング能力やコミュニケーションの能力を向上させることができる。
- ・文法だけにとどまらず、ドイツの音楽の理解を深めることができる。

授業計画

1. 復習
2. 3格、4格(だれに/何を～)
3. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用①前半
4. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用②後半
5. 主文と副文(何故～ warum /～なので weil)
6. ロールプレイ(内容5回目のレッスン)
7. 接続詞と副文(～にもかかわらず obwohl /～なので weil)
8. 接続詞と副文(～するとき wenn)
9. esの使い方
10. dassの使い方
11. ロールプレイ
12. コミュニケーションプラクティス

13. 従属の接続詞と副文
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

ペーパーテスト評価および授業内での理解度にて評価を行う。

授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

小野寿美子・中川明博・西巻丈児「クロイツング・ネオ」(朝日出版社)
※1年目と同じ

成績評価

受講態度65%、筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加に大変熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加し、授業内容にある程度理解している。
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Daniel Gross

科目
ナンバリング FLS4110B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得していること。

授業の概要

前期同様のスタイルで進めていく。また、これらの身につけた能力をベースに、ドイツ語の文化やドイツ社会の習慣等を学生と共に話し合い、ディスカッションしながら授業を進め、更に実用的なドイツ語に近づけていく。この授業を通してドイツ語に関心を深め、その後も一過性で終わるのではなく、ドイツ語を身近な物として捉え、学び続けてほしい。

授業の到達目標

- ・基本的な日常会話ができる。
- ・自信を持って自己表現をし、実用的に使うことができる。
- ・ドイツの文化・習慣を理解し、広い視野を身につけることができる。

授業計画

1. 復習
2. 話法の助動詞①前半
3. 話法の助動詞②後半
4. 分離助詞
5. zu不定詞
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス
8. 再帰代名詞と再帰動詞
9. 楽器、音楽関係
10. 比較級、最上級
11. 関係文の作り方
12. 過去形①前半
13. 過去形②後半

14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

ペーパーテストと授業内での生徒の理解度と能動的参加の評価にて行う。

授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

小野寿美子・中川明博・西巻丈児「クロイツング・ネオ」(朝日出版社)
※1年目と同じ

成績評価

受講態度65%、筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加に大変熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加し、授業内容をある程度理解している。
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 イタリア語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

科目
ナンバリング FLS1120B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

声楽専修は必修。

授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身につける。

授業計画

1. 導入、イタリア語へのアプローチ
2. イタリア語の発音、挨拶や簡単な自己紹介、数え方
3. 性と数、定冠詞等を中心としたイタリア語の特徴
4. 指示代名詞、形容詞の性と数の一致
5. 動詞essereを用いた文章の構造
6. 疑問詞cheおよびchiを用いた疑問文の作り方、その答え方
7. c'èとci sonoを用いた文章
8. 主語人称代名詞と動詞essereの直説法現在の活用
9. 動詞avereの活用変化とその使い方
10. avere、essereを用いた文章
11. 定冠詞と不定冠詞、前置詞等を中心とした文章の構造

12. 規則動詞の現在形とその使い方①
13. 規則動詞の現在形とその使い方②
14. 規則動詞を使った文章、疑問文&答えを中心に
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中に気づいた点をアドバイスする。疑問点に答える。

授業時間外の学習

予習・復習をしっかり行うこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」(三省堂)
遠藤礼子「イタリア語のひとさら (un piatto d'italiano)」(白水社)

成績評価

- 授業態度30%、授業への取組み30%、イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答え等で総合的に判断)40%で100点換算。
- S 総合点90点以上の者(他の学生に抜き出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 イタリア語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

科目
ナンバリング FLS2120B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

声楽専修は必修。「イタリア語Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身につける。

授業計画

1. 時間、曜日の表現
2. 動詞andareとvenire
3. 動詞andareとvenireの前置詞の使い方
4. 助動詞dovereを使った文章
5. 助動詞potereを使った文章
6. 助動詞volereを使った文章
7. その他の不規則動詞
8. 動詞piacereの使い方
9. 所有形容詞
10. 現在形のまとめ①

11. 現在形のまとめ②
12. 近過去の仕組み①
13. 近過去の仕組み②
14. 近過去を使った文章の作り方
15. 1年間の総復習

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中に気づいた点をアドバイスする。疑問点に答える。

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」(三省堂)
遠藤礼子「イタリア語のひとさら (un piatto d'italiano)」(白水社)

成績評価

授業態度30%、授業への取組み30%、イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答え等で総合的に判断)40%で100点換算。

- S 総合点90点以上の者(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 イタリア語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

科目
ナンバリング FLS3120B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。

授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身につける。

授業計画

1. 導入、既習事項の確認
2. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習①
3. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習②
4. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習①
5. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習②
6. 再帰動詞の用法(現在形)
7. 再帰動詞の相互的用法(現在形)
8. 再帰動詞(近過去形)
9. avereを用いた文章
10. essereを用いた文章
11. 直接目的語代名詞の使い方

12. 近過去の文章における直接目的語代名詞の使い方
13. 半過去形の用法①
14. 半過去形の用法②
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中に気づいた点をアドバイスする。疑問点に答える。

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」(三省堂)
遠藤礼子「イタリア語のひとさら (un piatto d'italiano)」(白水社)

成績評価

授業態度30%、授業への取組み30%、イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答え等で総合的に判断)40%で100点換算。

- S 総合点90点以上の者(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 イタリア語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

科目
ナンバリング FLS4120B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得していること。

授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身につける。

授業計画

1. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習①
2. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習②
3. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習③
4. 現在→近過去→半過去 総復習
5. 未来形の用法①
6. 未来形の用法②
7. 未来形と現在形を用いた基本的な作文&会話練習
8. 動詞piacere 他
9. 直接目的語代名詞
10. 間接目的語代名詞
11. 間接目的語代名詞の用法①

12. 間接目的語代名詞の用法②
13. 間接目的語代名詞と直接目的語代名詞の複合形
14. 総まとめ①
15. 総まとめ②

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中に気づいた点をアドバイスする。疑問点に答える。

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」(三省堂)
遠藤礼子「イタリア語のひとざら (un piatto d'italiano)」(白水社)

成績評価

- 授業態度30%、授業への取組み30%、イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答え等で総合的に判断)40%で100点換算。
S 総合点90点以上の者(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
A 総合点80点以上の者
B 総合点60点以上の者
C 総合点50点以上の者
D 総合点49点以下の者

科目名 フランス語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

科目
ナンバリング FLS1130B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。全専攻学生が履修可。

授業の概要

ゼロから、ゆっくりと楽しみながらフランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

授業の到達目標

「聞けて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。

様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

授業計画

1. Leçon 1a - 挨拶をする。自己紹介をする。名前を聞く。
2. Leçon 1b - 名前、職業、国籍を言う。数字(1~10)
3. Leçon 2a - 人について描写する。住んでいる所を詳しく言う。
4. Leçon 2b - 年齢を言う。数字(11~20)
5. Leçon 3a - 自分のことを話す。他の人について話す。職業を聞く。
6. Leçon 3b - 否定する。質問する。数字(20~30)
7. Leçon 4a - 自分の好みについて話す。他の人の好みについて聞く。
8. Leçon 4b - 意見を言う。数字(30~69)
9. Leçon 5a - 家族について話す。理由を言う、尋ねる。
10. Leçon 5b - 何かについて肯定的、否定的に話す。
11. Leçon 5c - 数字(69~99)
12. Leçon 6a - 物の位置を言う。(dans/ sur)
13. Leçon 6b - 物の位置を聞く。
14. Leçon 6c - 質問に答える(単数形)
15. Évaluation - 試験

学生に対する教員からのフィードバック方法

適宜授業内でのコメントやレポート返却により、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は、授業前にその準備を必ずすること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

Vincent Durrenberger「フランス語の方法 - コミュニケーションと文法の基礎 - (改訂版)」(駿河台出版社)

成績評価

- 出席、実習への取り組みと受講態度50%、実技試験50%を100点に換算する。
S: 総合点が90点以上の者
A: 総合点が80点以上の者
B: 総合点が60点以上の者
C: 総合点が50点以上の者
D: 総合点が49点以下の者

科目名 フランス語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

科目
ナンバリング FLS2130B

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「フランス語Ⅰ」の単位を修得していること。全専攻学生が履修可。

授業の概要

楽しみながら、フランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

授業の到達目標

「聞けて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。

様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

授業計画

1. Leçon 1a - 物を描写する。物の位置聞く、質問に答える (複数形)
2. Leçon 1b - 物の色を聞く
3. Leçon 2a - 物の位置関係を言う①
4. Leçon 2b - 物の位置関係を言う②
5. Leçon 3a - カフェで注文する
6. Leçon 3b - 市場、パン屋等で買い物をする。数字 (100 ~ 1000)
7. Leçon 4a - 食生活について話す
8. Leçon 4b - 統計について話す
9. Leçon 5a - 国について話す
10. Leçon 5b - 天気を言う
11. Leçon 6a - 誰が、どこへ、いつ、何故、どうやって行くか言う。
12. Leçon 6b - 数字 (10万まで)。道を尋ねる。
13. Leçon 7 - 時刻を言う。電車の切符を買う。
14. Leçon 8 - 1日にしたことを話す。(現在形) 何か提案する、誘いを受ける、断る。
15. Évaluation - 試験

学生に対する教員からのフィードバック方法

適宜授業内でのコメントやレポート返却により、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は、授業前にその準備を必ずすること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

Vincent Durrenberger「フランス語の方法 - コミュニケーションと文法の基礎 - (改訂版)」(駿河台出版社)

成績評価

出席、実習への取り組みと受講態度50%、実技試験50%を100点に換算する。

S : 総合点が90点以上の者

A : 総合点が80点以上の者

B : 総合点が60点以上の者

C : 総合点が50点以上の者

D : 総合点が49点以下の者

Toho Gakuen College of Drama and Music

芸術科音楽専攻

科目名 音楽基礎演習—バロック・ダンス

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 浜中 康子

科目
ナンバリング MUS1200M

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音1必修。

授業の概要

17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。メヌエットやガヴォット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経たず、再現することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。
ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

授業の到達目標

様々な舞曲の中でブレ、メヌエット、カヴォットを発表できるように仕上げる事ができる。

授業計画

1. バロックダンスについての概説/テクニックの基礎(ポジション他)
2. 歴史的背景/テクニックの基礎
3. プレの基本的ステップ(音楽と動きのアクセントの関係)
4. プレとメヌエットの基本ステップ①舞踏譜の読み方
5. プレとメヌエットの基本ステップ②舞踏譜の読み方
6. プレ①舞踏譜に記述された振付を踊る
7. プレ②舞踏譜に記述された振付を踊る
8. 発表/プレのダンスと共に舞踏上の音楽を演奏する
9. メヌエット①基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
10. メヌエット②基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
11. メヌエット③宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る(お辞儀/エスコートの方法)
12. メヌエットのまとめ①ガヴォットのステップと練習
13. メヌエットのまとめ②ガヴォットのステップを舞踏譜の振付で踊る
14. メヌエット、ガヴォットの仕上げ/サラバンドやジグについて
15. メヌエット、ガヴォットの実習/サラバンドやジグについて

順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実技発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- 授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるように、ステップ名と動きを結びつけながらリピーター練習すること。
- 下記教科書「舞曲は踊る…」に記載されているQRコードを通して視聴できる動画を模範にして復習すること。
- 様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

書籍：浜中康子「舞曲は踊る—バッハを弾くためのバロック・ダンス入門」(音楽之友社)
DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』I・II」(音楽之友社)
服装：膝の曲げ伸ばしが行いやすいパンツまたはスカート(タイトスカート不可)、ダンスシューズ使用

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、実技発表30%、レポート20%を総合的に評価する
S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽理論基礎

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 塩崎 美幸

科目
ナンバリング MUS1110M

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

出された宿題、テスト準備を真面目に行うこと。

授業の概要

音楽を学ぶにあたって必ず理解しておくべき「楽典」を初歩から講義する。専門実技はもちろん、「和声」「楽式」「対位法」「SHM」他、音楽理論に関する科目の習得に必要な不可欠な基礎となる科目である。

授業の到達目標

楽典の真の習得により、音程・音階・和音・調等が有機的に関連付けて理解できるようになる。

授業計画

1. 本講座の概要説明および習得度確認テスト
2. 音の不思議、楽譜の常識
3. 音程の説明
4. 音程の聴き分け、名曲における効果的音程の使い方
5. 小テスト、音階の説明
6. 音階の続き、調号
7. 調号の確認
8. 小テスト、和音の種類、和音の位置
9. 調における和音の役割
10. Dominantの和音①属七の和音について

11. Dominantの和音②減七の和音について
12. 終止形、借用和音について
13. 調の判定
14. 和声外音とは
15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題終了後、その都度フィードバックを行う。

授業時間外の学習

与えられた宿題の実践。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：「楽典 理論と実習」(音楽之友社)
その他、適宜授業内で紹介する。

成績評価

小テスト成績20%、期末試験成績70%、授業態度10%の配分で、総合100点満点に換算する。
S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽理論 [和声] Ia

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 平井 正志

科目
ナンバリング MUS1010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音1 (日本音楽専修以外) 必修。

授業の概要

本科の2年間に、ロマン派までの西洋音楽における和声学の基礎理論を理解し、課題の実習を通して、和声機能の本質を把握し得る能力を育成する。

1年次には、三和音の基本形および転回形とドミナント諸和音(属七・属九の和音)の配置、連結に関する原則を中心に、終止形の形成、様々な終止(全終止、半終止、偽終止、変終止)に対する考察、基本的な声部進行法について学習する。

授業の到達目標

- 三和音(各種転回形を含む)による和声体を扱うための基礎力を確実に習得することができる。
- 属七の和音、属九の和音を扱うことを通じ、より厳密な声部進行の書法を身につけることができる。

授業計画

- 和声学概論: 初歩の音響学に対する知識
- ～4. 四声体作成における楽典知識の確認 配置の規則 良好な音響状態についての考察
- 基本形三和音の配置と連結: 和声法の原則と終止形
- 基本形三和音の配置と連結: 声部進行法に関する禁則 例題の実施と確認
- 基本形三和音の配置と連結: 旋律的配慮、配置転換の可能性 例題の実施と確認
- 基本形三和音の配置と連結: フレーズ構成と終止について 本課題の出題
- 基本形三和音の配置と連結: 実施課題確認
- 三和音の第1転回形: 配置法 声部進行法 例題の実施と確認
- 三和音の第1転回形: 例題の実施と確認 本課題出題
- 三和音の第1転回形: 実施課題確認第1回と出題第2回
- 三和音の第1転回形: 実施課題確認第2回
- 三和音の第2転回形: 概論 配置法 例題の実施と確認
- 三和音の第2転回形: 声部進行法 出題第1回
- 三和音の第2転回形: 実施課題確認第1回と出題第2回

15. 三和音の第2転回形: 実施課題確認第2回

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。

やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容を他の受講者から入手するか参考書を調べて自習し、出題された課題を実施して提出すること。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書: 資料と課題を配布。

参考書: 執筆責任者・島岡 譲「和声『理論と実習』第一巻」(音楽之友社)

成績評価

前期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績を元に下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

成績の評価基準は筆記試験答案の内容40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。

- S 90点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる)
- A 80点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い)
- B 60点以上の者(概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足)
- C 50点以上の者(重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない)
- D 49点以下の者(重要な公理が理解できておらず、和声法を修めたと認めたい)

科目名 音楽理論 [和声] IIa

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 平井 正志

科目
ナンバリング MUS2010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

音1 (日本音楽専修以外) 必修。
「音楽理論 [和声] I」の単位を修得していること。

授業の概要

本科の2年間に、ロマン派までの西洋音楽における和声学の基礎理論を理解し、課題の実習を通して、和声機能の本質を把握し得る能力を育成する。

1年次には、三和音の基本形および転回形とドミナント諸和音(属七・属九の和音)の配置、連結に関する原則を中心に、終止形の形成、様々な終止(全終止、半終止、偽終止、変終止)に対する考察、基本的な声部進行法について学習する。

授業の到達目標

- 三和音(各種転回形を含む)による和声体を扱うための基礎力を確実に習得することができる。
- 属七の和音、属九の和音を扱うことを通じ、より厳密な声部進行の書法を身につけることができる。

授業計画

- 属七の和音: 限定進行、基本形の2種類の配置
- 属七の和音: 声部進行の留意点 出題第1回
- 属七の和音: 実施課題確認第1回 出題第2回
- 属七の和音: 実施課題確認第2回
- 属七の和音の根音省略形: 第7音の例外進行 2種類の配置
- 属七の和音の根音省略形: 声部進行法 出題第1回
- 属七の和音の根音省略形: 実施課題確認第1回 出題第2回
- 属七の和音の根音省略形: 実施課題確認第2回
- 属九の和音: 基本形、転回形の配置法 配置制限 和音形態概論
- 属九の和音: 声部進行法 出題第1回
- 属九の和音: 実施課題確認第1回 出題第2回
- 属九の和音: 実施課題確認第2回 出題第3回
- 属九の和音: 実施課題確認第3回
- 後期内容の総括
- 全教程内容の理解度確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。

やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容を他の受講者から入手するか参考書を調べて自習し、出題された課題を実施して提出すること。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書: 資料と課題を配布。

参考書: 執筆責任者・島岡 譲「和声『理論と実習』第一巻」(音楽之友社)

成績評価

後期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績を元に下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

成績の評価基準は筆記試験答案の内容40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。

- S 90点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる)
- A 80点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い)
- B 60点以上の者(概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足)
- C 50点以上の者(重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない)
- D 49点以下の者(重要な公理が理解できておらず、和声法を修めたと認めたい)

科目名 音楽理論 [和声] I b

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池田 哲美

科目ナンバリング MUS1010M

学位授与方針との関係 DP①②

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音1（日本音楽専修以外）必修。
和声法は、継続した学習の積み上げが大切とされるので、欠席・遅刻は厳禁とする。

授業の概要

音楽作品を理解する上で和声の知識は必須である。論理的に楽曲を把握することは、演奏表現をする際に、より鮮明なイメージを作る手助けともなりえる。その論理的理解に必要な基礎知識のひとつとして、和声の学習が挙げられる。和声課題の実施と共に、具体的な作品の分析を行い、音楽における和声構造の仕組みを捉え、音楽のより深い理解を目指す。
なお、学習の進度については、理解度に応じて、若干の前後が生じる場合がある。

授業の到達目標

具体的な楽曲の音楽のより深い理解・把握と、課題実施による、基礎的な和声進行の定型の学習とその応用ができる。

授業計画

1. 和声学習に必要な予備知識の確認と、三和音の組み立て（密集と開離）①
2. 和声学習に必要な予備知識の確認と、三和音の組み立て（密集と開離）②
3. 音域と配置①
4. 音域と配置②
5. 調性①
6. 調性②
7. 基本形の実習①
8. 基本形の実習②
9. 基本形の実習③
10. 基本形の実習と応用①

11. 基本形の実習と応用②
12. 基本形の実習と応用③
13. 基本形 他の調での実習①
14. 基本形 他の調での実習②
15. 基本形 他の調での実習③

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

授業で学習したことの確認と課題の宿題。
これらの学修に60時間以上を要す。

教科書・参考書等

池内友次郎他「和声 理論と実習Ⅰ」（音楽之友社）

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末課題60%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 音楽理論 [和声] II b

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池田 哲美

科目ナンバリング MUS2010M

学位授与方針との関係 DP①②

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

音1（日本音楽専修以外）必修。「音楽理論 [和声] I」の単位を修得していること。
和声法は、継続した学習の積み上げが大切とされるので、欠席・遅刻は厳禁とする。

授業の概要

音楽作品を理解する上で和声の知識は必須である。論理的に楽曲を把握することは、演奏表現をする際に、より鮮明なイメージを作る手助けともなりえる。その論理的理解に必要な基礎知識のひとつとして、和声の学習が挙げられる。和声課題の実施と共に、具体的な作品の分析を行い、音楽における和声構造の仕組みを捉え、音楽のより深い理解を目指す。
なお、学習の進度については、理解度に応じて、若干の前後が生じる場合がある。

授業の到達目標

具体的な楽曲の音楽のより深い理解・把握と、課題実施による、基礎的な和声進行の定型の学習とその応用ができる。

授業計画

1. 基本形の復習①
2. 基本形の復習②
3. 第一転回形の配置①
4. 第一転回形の配置②
5. 第一転回形の配置③
6. 第一転回形の課題の実習①
7. 第一転回形の課題の実習②
8. 第一転回形の課題の実習③
9. 第一転回形の課題の実習④
10. 第二転回形の配置①
11. 第二転回形の配置②

12. 第二転回形の配置③
13. 楽曲の和声分析と実施①
14. 楽曲の和声分析と実施②
15. 年度末のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

授業で学習したことの確認と課題の宿題。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

池内友次郎他「和声 理論と実習Ⅰ」（音楽之友社）

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末課題60%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 音楽史概説Ⅰ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目ナンバリング MUS1020M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 前期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。

授業の概要

この授業では、西洋音楽の歴史を概観する。時代様式、文化制度の変遷と共に、古代から現代までクロノロジカルに音楽史を追う。単なる作曲家列伝ではなく、時代精神や美学を理解しながら、音と共に、立体的な音楽史を描く。

なお、履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更する場合がある。(また、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義となる場合がある。)

授業の到達目標

- 西洋音楽の歴史において重要な事柄について、自身の言葉で説明できる。
- 西洋音楽の歴史を、机上のものとしてではなく、音と関連させて理解することができる。

授業計画

1. 音楽史を学ぶ意義、古代の音楽
2. グレゴリオ聖歌
3. ポリフォニー音楽の発展プロセス
4. アルス・ノヴァからルネサンスへ
5. 盛期ルネサンスから後期ルネサンスへ
6. オペラの誕生
7. 調性機能の確立
8. 合奏協奏曲と独奏協奏曲
9. バロック期の鍵盤音楽
10. バッハの芸術～バッハ像形成歴史
11. 前古典派から古典派へ
12. ハイドンの芸術～弦楽四重奏曲とオラトリオ
13. モーツァルトの芸術～オペラとクラヴィーア協奏曲
14. ベートーヴェンの時代～「芸術家」の誕生
15. 学習到達度の確認 (テスト)

学生に対する教員からのフィードバック方法

必要に応じて、講義後課題へのフィードバックを、次の週の授業冒頭に行う。テストの答案用紙は、採点后、返却する。解答および解答例はClassroomにアップロードする。その他質問があれば、随時、メールにて受け付ける。

授業時間外の学習

- 毎回授業後にClassroomを使用した「講義後課題」を課す。提出は1回限り、期限は1週間である。
 - 授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲聴くことを推奨する。
 - 世界史や西洋美術史等、音楽史以外の関連文献を積極的に読むことを推奨する。
 - テストに備えて、常に授業内容を復習しておくことを推奨する。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。

成績評価

テストで100%評価する。テストにおいて、90点以上かつ上位1割の者をS、80点以上の者をA、60点以上の者をB、50点以上の者をC、49点以下の者をDとする。ただし、出席率が2/3に満たない者はテストの受験資格を失う。

科目名 音楽史概説Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目ナンバリング MUS2020M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 後期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。「音楽史概説Ⅱ」の単位を修得していること。

授業の概要

この授業では、西洋音楽の歴史を概観する。時代様式、文化制度の変遷と共に、古代から現代までクロノロジカルに音楽史を追う。単なる作曲家列伝ではなく、時代精神や美学を理解しながら、音と共に、立体的な音楽史を描く。

なお、履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更する場合がある。(また、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義となる場合がある。)

授業の到達目標

- 西洋音楽の歴史において重要な事柄について、自身の言葉で説明できる。
- 西洋音楽の歴史を、机上のものとしてではなく、音と関連させて理解することができる。

授業計画

1. ベートーヴェンの交響曲
2. リート
3. ロマン主義思想
4. サロン文化とウィルトゥオーゾの出現
5. 標題音楽
6. メンデルスゾーンとその周辺
7. 絶対音楽
8. ナショナリズムの台頭
9. ワグナーの楽劇
10. 世紀末芸術
11. 調性機能のゆらぎ
12. リズム語法の革新
13. 12音技法からトータル・セリエリズムへ
14. 作品概念の変容
15. 学習到達度の確認 (テスト)

学生に対する教員からのフィードバック方法

必要に応じて、講義後課題へのフィードバックを、次の週の授業冒頭に行う。テストの答案用紙は、採点后、返却する。解答および解答例はClassroomにアップロードする。その他質問があれば、随時、メールにて受け付ける。

授業時間外の学習

- 毎回授業後にClassroomを使用した「講義後課題」を課す。提出は1回限り、期限は1週間である。
 - 授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲聴くことを推奨する。
 - 世界史や西洋美術史等、音楽史以外の関連文献を積極的に読むことを推奨する。
 - テストに備えて、常に授業内容を復習しておくことを推奨する。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。

成績評価

テストで100%評価する。テストにおいて、90点以上かつ上位1割の者をS、80点以上の者をA、60点以上の者をB、50点以上の者をC、49点以下の者をDとする。ただし、出席率が2/3に満たない者はテストの受験資格を失う。

科目名 日本音楽理論AⅠ／BⅠ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 森重 行敏

科目ナンバリング MUS1011M/
3014M

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 0/0

—

履修条件

日本音楽では伝統的に、理論より実践が重視されてきたため、理論的用語や概念が統一されておらず、流派や研究者においてもまちまちであることが多い。

授業の概要

この授業は音楽にとって理論とは何かと言う根本的な観点に立ち返って、日本音楽の様々な側面を観察すると共に、洋楽やアジア諸民族の音楽とも比較しながら、その理論的基礎を見つけ出ししていくこととしたい。

授業の到達目標

日本の楽器や音楽についての基礎知識を身につけると共に、その音楽的特性、理論的構造等を指摘できる。

授業計画

1. この授業の目的と注意事項
2. 日本音楽の概観
3. 日本の楽器と楽譜①音高譜と奏法譜
4. 日本の楽器と楽譜②箏の縦書き譜
5. 日本の楽器と楽譜③箏の横書き譜
6. 日本の楽器と楽譜④三味線の数字譜
7. 日本の楽器と楽譜⑤三味線の奏法譜
8. 日本の楽器と楽譜⑥尺八
9. 日本の楽器と楽譜⑦笛
10. 日本の楽器と楽譜⑧箏
11. 日本の楽器と楽譜⑨笙
12. 日本の楽器と楽譜⑩琵琶
13. 日本の楽器と楽譜⑪打楽器

14. 日本の楽器と楽譜⑫その他
15. 前期まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

積極的に伝統芸能の鑑賞をすることを奨める。詳細については随時紹介する。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。
参考書としては月溪恒子著「日本音楽との出会い」(東京堂出版)等。

成績評価

授業への取り組み・態度50%、課題50%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 日本音楽理論AⅡ／BⅡ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 森重 行敏

科目ナンバリング MUS2011M/
4013M

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 0/0

—

履修条件

日本音楽では伝統的に、理論より実践が重視されてきたため、理論的用語や概念が統一されておらず、流派や研究者においてもまちまちであることが多い。

授業の概要

この授業は音楽にとって理論とは何かと言う根本的な観点に立ち返って、日本音楽の様々な側面を観察すると共に、洋楽やアジア諸民族の音楽とも比較しながら、その理論的基礎を見つけ出ししていくこととしたい。

授業の到達目標

日本の楽器や音楽についての基礎知識を身につけると共に、その音楽的特性、理論的構造等を指摘できる。

授業計画

1. 日本の音律①三分損益
2. 日本の音律②自然倍音と純正律
3. 日本の音律③平均律とは何か
4. 移動ドと固定ド①洋楽の場合
5. 移動ドと固定ド②邦楽の場合
6. 日本のリズム①拍と拍子
7. 日本のリズム②間とずれ
8. 日本のリズム③自由リズム
9. 日本音楽の構造①序破急
10. 日本音楽の構造②雅楽の構造
11. 日本音楽の構造③語り物音楽の構造

12. 日本音楽の構造④箏曲段物の構造
13. 世界の中の日本音楽①東アジアとの関連
14. 世界の中の日本音楽②東南アジアとの関連
15. 後期まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

積極的に伝統芸能の鑑賞をすることを奨める。詳細については随時紹介する。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。
参考書としては月溪恒子著「日本音楽との出会い」(東京堂出版)等。

成績評価

授業への取り組み・態度50%、課題50%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 日本音楽史概説Ⅰ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野川 美穂子

科目ナンバリング MUS1021M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 前期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修は必修。

授業の概要

縄文・弥生時代から現在に至るまで、日本人は様々な音楽に親しんできた。しかし、現在の生活では、日本の伝統的な音楽を聴く機会が少なくなっている。この授業では、日本音楽の変遷を辿りながら、楽器や音楽様式の特徴、文学・演劇・舞踊との関連等について概説する。知識としてではなく音としての理解を深めるために、毎回、視聴覚教材を活用する。

授業の到達目標

時代や種目による違いを辿りながら、日本音楽の魅力をを知ることができる。

授業計画

以下の順に進める。

1. 日本音楽の枠組みと特徴
2. 日本古来の音楽①縄文・弥生時代の出土楽器
3. 日本古来の音楽②古墳時代の出土楽器。楽器分類と日本の楽器の特徴
4. 雅楽の歴史と音楽①雅楽の種類の種類、舞楽
5. 雅楽の歴史と音楽②管弦《越天楽》とその影響
6. 雅楽の歴史と音楽③国風歌舞と平安時代の歌曲
7. 声明の歴史と音楽①声の技法、鳴物
8. 声明の歴史と音楽②法要の様々
9. 琵琶楽の歴史と音楽①琵琶の種類、平家
10. 琵琶楽の歴史と音楽②盲僧琵琶、近代琵琶
11. 能楽の歴史と音楽①能舞台と音楽

12. 能楽の歴史と音楽②能の作品の種類
13. 能楽の歴史と音楽③能の名作
14. 能楽の歴史と音楽④式三番、狂言
15. 古代、中世の日本音楽のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー等に対するフィードバックを授業時に行う。

授業時間外の学習

- ・ 授業で取り上げた種目の特徴を図書館の文献やインターネット等も参照して整理する。
 - ・ 授業時に視聴した作品の特徴を整理し、感想をまとめる。
- これらの学習に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

成績評価

授業への取り組み50%、前期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。

- S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 日本音楽史概説Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野川 美穂子

科目ナンバリング MUS2021M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 後期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修は必修。

授業の概要

縄文・弥生時代から現在に至るまで、日本人は様々な音楽に親しんできた。しかし、現在の生活では、日本の伝統的な音楽を聴く機会が少なくなっている。この授業では、日本音楽の変遷を辿りながら、楽器や音楽様式の特徴、文学・演劇・舞踊との関連等について概説する。知識としてではなく音としての理解を深めるために、毎回、視聴覚教材を活用する。

授業の到達目標

時代や種目による違いを辿りながら、日本音楽の魅力をを知ることができる。

授業計画

以下の順に進める。

1. 三味線の伝来、三曲の楽器
2. 地歌の歴史と音楽
3. 箏曲の歴史と音楽
4. 尺八楽、胡弓楽の歴史と音楽
5. 文楽と歌舞伎に使われる楽器
6. 文楽の歴史と音楽①三業一体について
7. 文楽の歴史と音楽②文楽の名作
8. 歌舞伎の歴史と音楽①歌舞伎の歴史と特徴
9. 歌舞伎の歴史と音楽②歌舞伎の名作
10. 豊後系浄瑠璃の歴史と音楽
11. 長唄の歴史と音楽①長唄の特徴
12. 長唄の歴史と音楽②長唄の多様化

13. 近代の日本音楽
14. 現代の日本音楽
15. 近世、近代、現代の日本音楽のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー等に対するフィードバックを授業時に行う。

授業時間外の学習

- ・ 授業で取り上げた種目の特徴を図書館の文献やインターネット等も参照して整理する。
 - ・ 授業時に視聴した作品の特徴を整理し、感想をまとめる。
- これらの学習に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

成績評価

授業への取り組み50%、後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。

- S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 日本音楽特講

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 杵屋 巳織

科目
ナンバリング MUS2001M

学位授与方針
との関係 DP③④

期間 後期

他専攻 △

—

履修条件

基本的には教職受講者対象。次に音楽専攻対象。専攻科演劇専攻の履修も認める。

授業の概要

日本音楽が学校教育に取り入れられるようになり、学校教育の現場に立つ教員にとっても、日本音楽に対する知識や経験が必要となってきた。具体的に教育者としての立場になった時に使える知識と三味線を弾く技術を学び、三味線を弾くことにより日本音楽の音としての個性を知り、日本人として音の美しさも感じていく。日本音楽の年月を重ねた深さについても考えていく。

授業の到達目標

- ・カリキュラムマップに対応し音楽的教養を広げる。
- ・三味線を中心に日本の楽器についての正しい知識を持つことができる。
- ・西洋音楽とは違った音階を用いている日本の音を知ることができる。
- ・三味線について正しい扱い方・正しい姿勢を習得することができる。

授業計画

1. 日本音楽の簡単な説明と話。三味線の部位の名称を学ぶ。楽器に触る。
2. 三味線の扱い方。構え方。音の出し方。
3. 長唄の説明。譜面の説明。
4. 譜面を読みつつ三味線を弾く。
5. 楽器の特性を理解しつつ弾く。その折に合わせた日本音楽の説明。
6. 長唄①松の緑の前弾を弾いてみる。
7. 長唄②松の緑の前弾を指の使い方を考えながら弾いてみる。
8. 舞台における演奏の説明、楽器の演奏。
9. 唄の簡単な説明と発声。楽器の演奏。
10. 長唄を唄ってみる。

11. 合奏の準備
12. 合奏のコツと実践
13. 合奏の試演
14. 合奏
15. 課題発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に振り返りとして総評を行う。
楽器の扱い方について毎回気づいたところを細かく説明・指導する。

授業時間外の学習

歌舞伎の鑑賞。邦楽器を使用した演奏会の鑑賞。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず授業時にプリント配布。

成績評価

- 成績評価については、授業態度50%、レポート20%、試験30%を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解・取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解・取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、試験未受験者、授業への取り組み、受講態度等に問題がある者)

科目名 演奏会制作法

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 伊藤 直樹

科目
ナンバリング MUS2100M

学位授与方針
との関係 DP③④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

1年生後期の選択科目。演奏会等の企画・制作に興味があり、自らの音楽活動に役立てたい学生。

授業の概要

文化ホール等で行う演奏会は、企画から実施まで細やかな行程のもとに実施されている。本授業では、演奏会実施の目的や意図を明確にした上で、企画から予算作成、公演実施に至るまでの基礎知識を学び、各々が企画書を作成し、発表・考察を行う。

授業の到達目標

演奏会を企画・実施するまでの内容や行程を理解し、演奏会の企画ができる。

授業計画

1. ガイダンス(授業内容と目的、基礎アンケート)
2. 演奏会の必要性について(オンラインにより課題)
3. 演奏会の必要性と公金投入、企画書①の作成(オンラインにより解説)
4. 演奏会の企画に必要な事項、アウトリーチについて
5. 企画書②の作成について(オンラインにより課題)
6. 楽曲使用料、企画概要書の作成について(オンラインにより解説、資料配布)
7. 演奏会実施までのスケジュールと内容、企画書②発表・考察(1)
8. 劇場の仕組み、消防法等による規制について(オンラインにより解説、資料配布)
9. 舞台進行について(オンラインにより解説、資料配布)
10. 企画書②発表・考察(2)
11. 舞台用語の解説、舞台図についての解説(オンラインにより解説、資料配布)

12. 企画書③の作成について(オンラインにより課題)
13. 企画書③の詳細について、企画書③の作成
14. 企画書③の作成
15. 企画書③発表考察、授業まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

企画書提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

- ・自身が生まれ育った地に在る文化ホール等の規模、運営状況等について調査すること。
 - ・興味のある文化施設の運営状況等について調査すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料を授業時に配布する。

成績評価

- 成績評価について、授業への取り組み姿勢30%、企画書等の提出物70%で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をある程度理解し、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解せず、課題への取り組みが不十分、企画書未提出の者)

科目名 アウトリーチ概説

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比

科目
ナンバリング MUS1000M

学位授与方針
との関係 DP②③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

1 年生前期におかれる選択科目。
音楽アウトリーチに関心のある学生。

授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉等の分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービス等の意味で多用される。音楽でのアウトリーチというものは、演奏家が学校や施設等に向いて、普段の生活空間（教室や音楽室）で演奏会やワークショップを行うことである。ここでは、その音楽におけるアウトリーチ活動について、学んだ音楽の知識、技術をどのように社会に還元していくか、また、聴衆と演奏を通して感動を共有できる舞台（プログラム）や手法を模索していく。

授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする。

- ・学年や対象に適したプログラム作りができる。
- ・公演で何を伝えたいか、または何を伝えるべきかを考え、それを活かした企画を作ることができる。
- ・聴くプログラムだけではなく、参加型のアクティビティを作ることができる。

授業計画

1. 導入：アウトリーチとは
2. 公共ホールや自治体によるアウトリーチの評価と課題
3. 施設や場所によるそれぞれのアウトリーチの手法
4. 楽器紹介について①それぞれの楽器の分類
5. 楽器紹介について②楽器の仕組み、歴史を知る
6. 楽器紹介 発表
7. 学校訪問アウトリーチについて①小学校
8. 学校訪問アウトリーチについて②特別支援学校
9. 学校訪問アウトリーチについて③学童
10. 養護施設におけるアウトリーチについて

11. 福祉施設におけるアウトリーチについて
12. アウトリーチの社会的要請、意義について
13. アウトリーチにおけるワークショップの手法①
14. アウトリーチにおけるワークショップの手法②
15. 振り返り・総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・プログラミングするにあたり、色々と曲を調べておくこと。
 - ・専修楽器について歴史・構造等を勉強しておくこと。
 - ・復習・予習をして授業に臨むこと。
- これらの学修に60時間を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート20%、課題発表30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 アウトリーチ演習

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比

科目
ナンバリング MUS2200M

学位授与方針
との関係 DP③⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

1 年後期におかれる選択科目。
音楽アウトリーチ活動に関心のある学生。
前期の「アウトリーチ概説」を履修していることが望ましい。

授業の概要

現在、自治体や各文化会館での自主事業において、学校や施設に演奏家を派遣するアウトリーチ事業が盛んに行われている。普段の生活（勉強）の場で、少人数で行われるこのコンサートは、演奏者と聴衆の垣根のないバリアフリーなコンサートとして大変喜ばれる。この講座では、前期に学んだアウトリーチの手法を生かして実際にプログラミングをし、演奏発表する。

授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする。

- ・聴衆と感動が共有できるコンサート作りができる。
- ・1時間のコンサートで何を伝えたいか、また何を伝えるべきかを考えることができる。
- ・聴き手に伝わる演奏、表現技術の習得。

授業計画

1. 導入：アウトリーチ概説
2. 企画作り①コンサート
3. 企画作り②ワークショップ
4. プログラム構成について
5. プログラム制作
6. 楽器演奏体験について
7. 楽器体験ワークショップ
8. 楽器体験ワークショップ（実践）
9. 演奏発表①
10. 演奏発表②

11. 演奏発表③
12. 演奏発表④
13. 演奏発表⑤
14. 演奏発表⑥
15. 総括・振り返り

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

演奏発表に向けて、個々またはグループで練習をしっかりとすること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、演奏発表50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 音響学

授業形態 講義

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中原 楽

科目ナンバリング MUS2002M

学位授与方針との関係 DP①⑤

期間 後期集中

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

まずは皆さんが無意識で聴いている「音」に意識を持つことから。「音」が自分や人、作品や空間に与える影響を一緒に考察していく。

授業の到達目標

今後、コンサートや舞台等に関わりを持つ場面で、どのように「音」と向き合うのか、その感覚をつかむことができる。

授業計画

1. 「音」を意識して聴く。
2. 自分にとっての「良い音」「悪い音」
3. 頭の中に描く「音」を共有する。音の言語化。
4. 空間と音の関係性を探る実習。
5. 「音響」の存在価値を考察。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習中やレポート発表時に、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・自分が好きだと思う、または好きだと思ったことのある「音」を探し、それはなぜなのかを考えておくこと。
 - ・自分が嫌いだと思う、または嫌いだと思ったことのある「音」を探し、それはなぜなのかを考えておくこと。
 - ・復習・予習をして、授業に臨むこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、実習への取り組み30%、課題またはレポート30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・授業態度等に問題がある者）

科目名 ディクシオン（イタリア語）

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 井上 由紀

科目ナンバリング MUS1201M

学位授与方針との関係 DP①⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

1年生前期におかれる声楽科生の必修科目。(他専攻の履修も可)

授業の概要

一言葉と音楽の密接な関係—歌を学ぶ者にとって、この研究は大変重要なことである。ただ、難しく考えるのはよそう。まずは、明るく美しいイタリア語に親しみ、詩を読み表現する。そして楽譜を眺めてみる。そうすると、色々なことが発見できる。その発見をもとに皆さんと歌唱表現がさらに豊かになることを願いつつ、イタリア歌曲を中心としたディクシオンの学習を行う。声楽専修の方々だけでなく、楽器や伴奏の勉強をしている方も一緒に学ばれることを期待する。

授業の到達目標

作品にふさわしいイタリア語の歌詞の朗読ができ、実際に音楽の中でそれを理解し表現できる。

授業計画

1. イタリア語の音に慣れ、親しむ
2. 正しく明確な発音をする
3. 単語の意味を考え表現する
4. 繰り返しの表現を学ぶ
5. 音節の数、押韻を考える
6. 強調すべき音節、単語を考え表現する
7. 表現の速さや間を考える
8. レチタティーヴォの学習①
9. レチタティーヴォの学習②
10. レチタティーヴォの発表
11. 歌詞と音のつながりを考える
12. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる①
13. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる②

14. 鑑賞

15. まとめ

講義内容に関しては、受講生の理解度を見て、計画が前後することがある。

取り上げる曲については、受講生の声種を考慮し、その都度選ぶ（イタリア古典歌曲が中心）。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学期末試験で発表を行った後に、個別に講評を行う。

授業時間外の学習

事前に配布される楽譜・詩によく目を通し、どのような内容の曲なのかを考えること。また、授業で学習したことの復習に努めること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にその都度指示、プリントを配布する。

成績評価

授業に取組む姿勢30%、中間発表20%、学期末朗読試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合評価90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、優れた発表ができる）
- A 総合評価80点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、発表ができる）
- B 総合評価60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、発表ができる）
- C 総合評価50点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、適切な表現ができない）
- D 総合評価49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、適切な表現ができない）

科目名 S・H・M・I・II

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1・1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 塩崎・加藤・三瀬

科目ナンバリング MUS1130M/
2130M

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期・後期

他専攻 —

—

履修条件

音1必修。

各自、能力を向上させる努力を、常に実践すること。

遅刻をせずに、きちんと出席すること。出欠は各クラス同一条件で厳しくとる。

授業の概要

SHMはSolfège、Harmony、Melodyの頭文字をとったもの。

音楽に携わる者にとって重要な基礎力となる。学ぶ内容は多彩。

弛まぬ訓練を必要とするが、大切なのは遊びの要素も内包するので楽しんで練習すること。身につけたソルフェージュ力は、必ずや音楽活動に大きく役立つこと必定。

レベル別4クラスに分けて授業を行う。

授業の到達目標

音楽実践に必要な基礎的能力を高め、幅広く優れた音楽性を身につけることができる。

授業計画

入学後最初の授業日に、クラス分けテストを一齐に実施する。

授業は、各クラスごとに、学生それぞれの能力・状況に対応した内容および進度をとる。より適切なクラスへの移動が可能となるように、各学期の終わりに、再びクラス分けテストを実施する。

通年の授業計画については、漠然とした内容を記すが、前述のとおり各クラスで異なる。

- ・正しい楽譜の書き方
- ・リズム(音価)の正しい理解
- ・多様な拍子の理解
- ・正しい音程を身につける
- ・初見視唱の練習

- ・音楽的なフレーズを身につける
- ・長調と短調の理解
- ・メロディーの書き取り
- ・二声、三声等同時に鳴る音の認識
- ・和音の種類の見分け
- ・四声体の書き取り、その重唱
- ・多様な調への挑戦
- ・旋法や様々な音階による音楽に触れる
- ・移調奏

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

各々苦手とする分野を積極的に自習すること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

成績評価

学年末に実施する一斉テストで単位評価する。S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 合唱I

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 福永 一博

科目ナンバリング MUS1240M

学位授与方針
との関係 DP③⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

本授業は女子の必修科目(日本音楽専修除く)である。音楽大学で、なぜ合唱が必修であるかを考え、熱意・意欲を持って受講すること。

授業の概要

この授業では、合唱の「基本」を学ぶ。

合唱とは、声楽の技術に立脚した芸術であるので、楽器となる身体の使い方を知ることから始め、呼吸・発声の基礎的な訓練を行う。

また、合唱とはアンサンブルの芸術でもあるので、「声を磨く」と同じくそれ以上に「耳を育てる」ことが大切である。ハーモニーやアンサンブルを磨くための基礎的な訓練も行っていく。

課題は簡易な曲から始め、アカペラの作品・ピアノ付きの作品・外国語の作品等も扱う。

授業の到達目標

- ・声楽の基礎(呼吸法・発声法)を身につけることができる。
- ・ハーモニーとアンサンブルの基本を身につけることができる。
- ・耳を開いて、心を開いて、良く聴きながら自発的に歌うことができる。

授業計画

1. ガイダンス、パート分け

以下第2～15回はウォームアップエクササイズ・プレストレーニング・発声練習・ハーモニーとアンサンブルトレーニング等を通じて合唱の基本を身につけながら、簡易な作品を用いて演習を行う。

2.～5. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング、日本の合唱曲(アカペラ)を用いた演習

6～15. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング、日本の合唱曲(ピアノ付き)、外国語の合唱曲を用いた演習

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏の後に指導を行う。

授業時間外の学習

授業で配られた曲を事前に譜読みしておくこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

その都度指示する。

成績評価

成績評価は、授業への取り組み40%、受講態度30%、発表30%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組みに問題があった者)

科目名 合唱Ⅱ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 福永 一博

科目ナンバリング MUS2240M

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

本授業は女子の必修科目(日本音楽専修除く)である。音楽大学で、なぜ合唱が必修であるかを考え、熱意・意欲を持って受講すること。「合唱Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

この授業では、合唱の「基本」を学ぶ。
合唱とは、声楽の技術に立脚した芸術であるので、楽器となる身体の使い方を知ることから始め、呼吸・発声の基礎的な訓練を行う。
また、合唱とはアンサンブルの芸術でもあるので、「声を磨く」ことと同じかそれ以上に「耳を育てる」ことが大切である。ハーモニーやアンサンブルを磨くための基礎的な訓練も行っていく。
課題は簡易な曲から始め、アカペラの作品・ピアノ付きの作品・外国語の作品等も扱う。
後期は桐朋祭に向けた作品のリハーサルを行う。

授業の到達目標

- ・声楽の基礎(呼吸法・発声法)を身につけることができる。
- ・ハーモニーとアンサンブルの基本を身につけることができる。
- ・耳を開いて、心を開いて、良く聴きながら自発的に歌うことができる。

授業計画

ウォームアップエクササイズ・プレストレーニング・発声練習・ハーモニーとアンサンブルトレーニング等を通じて合唱の基本を身につけながら、簡易な作品を用いて演習を行う。
1.～15. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング、桐朋祭で演奏する作品を用いた演習

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏の後に指導を行う。

授業時間外の学習

授業で配られた曲を事前に譜読みしておくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

その都度指示する。

成績評価

成績評価は、授業への取り組み40%、受講態度30%、発表30%を総合的に判断して行う。
S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組みに問題があった者)

科目名 オーケストラ・スタディA/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野口 千代光

科目ナンバリング MUS1241M/
3241M

学位授与方針との関係 DP③④⑤

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

弦楽器専修者必修。

授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。
・オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、音源等も聴き、作品を理解して臨む。
・演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人ずつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

授業の到達目標

- ・オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。
- ・全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

授業計画

曲目は4月に発表する。
11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。
毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内演奏時、アンサンブル全体への指導、必要に応じてパート指導、個別指導を丁寧に行う。

授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。
授業を受ける前に個々がしっかり個人練習をし、スコアを準備して楽曲の成り立ちを勉強することを必須とする。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、音源を準備すること。

成績評価

成績の評価については、曲の事前準備10%、受講態度50%、演奏成果40%の結果を総合的に評価する。
S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかり把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者
A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者
B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期「合奏」においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者
C 後期「合奏」授業において何とかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者
D 後期「合奏」授業についていける能力が見込まれない者
試験の結果により後期「合奏」授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導も行き、「合奏」授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏A/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野口 千代光・永井 由比

科目ナンバリング MUS2241M/
4240M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」の単位を修得した者。
弦楽器専修者必修。弦楽器専修者以外についてはオーディション等で選出された者。

授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。
個々の力が合わさると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感する。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備等についての確認)
 2. 黒岩氏とのリハーサル①
 3. 黒岩氏とのリハーサル②
 4. 黒岩氏とのリハーサル③
 5. 黒岩氏とのリハーサル④
 6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
 7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ゲネプロ 本番
 8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証、反省を行い、意見交換の場とする。
- 毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内演奏時、アンサンブル全体への指導、必要に応じてパート指導、個別指導を丁寧に行う。

授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。
授業を受ける前に個々がしっかり個人練習をし、スコアを準備して楽曲の成り立ちを勉強することを必須とする。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、音源を準備すること。

成績評価

- 成績評価については、受講態度60%、演奏成果40%の結果を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 管楽器基礎(呼吸法)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三塚 至

科目ナンバリング MUS1202M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

管楽器専修必修。他専修学生の履修も可。声楽専修学生は履修が望ましい。

授業の概要

私達人間が生まれたばかりの時は、小鳥達のようにその小さな体からは想像もできないほど、よく響く、大きな声で泣いていたはずである。それは、私達が成長するに従いいつしか忘れてしまった「自然な呼吸」を、生まれて間もない頃は「無意識」に営んでいたからではないだろうか。
この授業では、こうした「自然な呼吸」、つまり、のどを開けて(オープンスロート)、腹筋、背筋、胸筋および腰筋を、バランス良く使った呼吸(主に腹式呼吸)をストレッチ体操等を取り入れ、体を動かすことによって正しく理解していきたい。
またこれと併行して、実際に声を出して歌うことで、より響きのある、美しい音を目指したい。楽器を用いて演奏する人は特に、歌声が変わると、音色も変わることを実感してほしいところである。
※なお、本年度は感染症対策として、授業の内容から、オンライン授業となる場合もある。

授業の到達目標

演奏家として必要な体作りができる。体の使い方を体得できる。

授業計画

1. 導入
※毎回、ストレッチ・呼吸筋トレーニング・発声・歌唱を行う。
2. 正しい姿勢と呼吸と呼吸筋の働きについて 喉を「あける」練習
3. 呼吸筋強化①(上半身) 2段階呼吸、息を「吐ききる」ことの徹底
4. 呼吸筋強化②(下半身) ベルカントモードを使って
5. 呼吸筋強化③(深層筋) 15段階呼吸①(10段階まで)
6. 15段階呼吸②(15段階まで)
7. 共鳴について
8. 横隔膜、呼吸筋を意識した発声トレーニング
9. 頭声、胸声、地声、ファルセットについての考察
10. 浅呼吸、深呼吸と歌唱への応用
11. 表情筋、舌と呼吸筋の関係

12. 呼吸を意識した子音、母音の発音
13. これまでの復習、まとめ
14. 歌唱テスト準備(全員が一人ずつ歌い、改善すべき点をチェックする)
15. 復習確認と総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

実技課題、および歌唱指導の際、適宜フィードバックを行う。

授業時間外の学習

正しい呼吸は音楽家としての体づくりの基本である。毎日必ずトレーニングする癖をつけること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な時は、こちらで用意する。
マットを使うので、動きやすい服装と内履きを用意すること。

成績評価

- 平常点60%：授業に能動的参加をしているか。努力は見られるか。成果はあったか。
- 実技テスト(個人歌唱)30%：姿勢、呼吸が正しく行われているか。呼吸筋が正しく動いているか。正しい発声を目指しているか。
- その他、授業への取り組み方・音楽家としての表現力・集中力10%を見る。
- 以上を総合的に見て評価する。
- S 総合点が90点以上の者(上記の条件を全てにおいて十分に満たし、かつ優秀と認められる者)
- A 総合点が80点以上の者(上記の条件を全てにおいて十分に満たしていること認められる者)
- B 総合点が60点以上の者(上記の条件を一定のレベルにおいて満たしていること認められる者)
- C 総合点が50点以上の者(上記の条件にばらつきがあり、全体にやや不足していると認められる者)
- D 総合点が49点以下の者(上記の条件で満たしている項目が半分以下と判断される者)

科目名 声楽アンサンブルA I / B I

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司

科目 MUS1242M/
ナンバリング 3242M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

- Aは男子のみ必修（日本音楽以外）。
- Bは男子（日本音楽以外）および声楽専修の女子は必修。
- 他専修の学生（特に男性）の積極的な履修を希望する。定期演奏会、オペラ実習試演会に参加する意欲を求める。

授業の概要

この授業では、日本人作曲家による混声合唱曲を取り上げ、関心を深めていく。曲は未定だが、日本語の美しさとハーモニーの関係を深く探り演奏していく。曲目は、履修人数を考慮し決める。

なお、定期演奏会での発表があるため、それに向け、演奏技術、表現力を高めていく。

授業の到達目標

声によるハーモニー感覚を身につけ、アンサンブル能力の技能を高めることができる。また、日本語による歌唱に関心を持ち、表現能力を身につけることができる。

授業計画

- 3月の演奏会に向けて授業を進めていく。本番前には臨時練習を組むことがある。
- 1. 今年度の履修人数の確認とレベルチェック
- 2. 簡単な混声合唱曲に取り組む（その後演奏会での演奏曲を決定）
- 3～15. 定期演奏会演奏曲の音取り練習
- ※コロナの状況により、分散受講にすることがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内での演奏に対して随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業で言われたことを確認・復習をすると共に、次回授業で取り上げる曲の音取りをしておくこと。
- これらの学修に30時間以上を要する。
- ※コロナの状況により、授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

- 成績評価については、授業態度80%、課題20%にて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、歌唱能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 声楽アンサンブルA II / B II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司

科目 MUS2242M/
ナンバリング 4242M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

- Aは男子のみ必修（日本音楽以外）。
- Bは男子（日本音楽以外）および声楽専修の女子は必修。
- 他専修の学生（特に男性）の積極的な履修を希望する。定期演奏会、オペラ実習試演会に参加する意欲を求める。

授業の概要

この授業では、日本人作曲家による混声合唱曲を取り上げ、関心を深めていく。曲は未定だが、日本語の美しさとハーモニーの関係を深く探り演奏していく。曲目は、履修人数を考慮し決める。

なお、定期演奏会での発表があるため、それに向け、演奏技術、表現力を高めていく。

授業の到達目標

声によるハーモニー感覚を身につけ、アンサンブル能力の技能を高めることができる。また、日本語による歌唱に関心を持ち、表現能力を身につけることができる。

授業計画

- 3月の演奏会に向けて授業を進めていく。本番前には臨時練習を組むことがある。
- 1～15. 前期の内容を踏まえ、演奏会で演奏する曲を音楽的に深めていく。後半では作曲家をお招きし、アドバイスをもらう場も設ける。
- ※コロナの状況により、分散受講にすることがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内での演奏に対して随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業で言われたことを確認・復習をすると共に、次回授業で取り上げる曲の音取りをしておくこと。
- これらの学修に30時間以上を要する。
- ※コロナの状況により、授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

- 成績評価については、授業態度80%、課題20%にて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、歌唱能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 管楽アンサンブルA Ia

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比

科目ナンバリング MUS1243M

学位授与方針との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

1年前期における管楽器専修（フルート）必修。

授業の概要

この授業はフルートアンサンブルを主体に授業を展開していくが、他の専修の学生や演奏員の協力を得て、フルートと様々な楽器とのアンサンブルも展開していく。

学年末に受講生全員でフルートアンサンブルを中心とした演奏会を行う。

授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする。

- ・アンサンブルの基礎を身につけることができる。
- ・バロック時代から近現代までの各時代の様式、形式を学ぶことができる。
- ・楽器やピアノとのアンサンブルも体験し、自分たちの力でアンサンブルを作り上げていく力を向上させることができる。

授業計画

1. 学習曲目の検討と選択
2. テレマン①六つのソナタop.2よりG-dur
3. テレマン②六つのソナタop.2よりG-dur
4. テレマン③六つのソナタop.2よりE-moll
5. テレマン④六つのソナタop.2よりE-moll
6. テレマン⑤六つのソナタop.2よりD-moll
7. テレマン⑥六つのソナタop.2よりD-moll
8. ハイドン①ロンドントリオより第1番
9. ハイドン②ロンドントリオより第1番
10. ハイドン③ロンドントリオより第2番
11. ハイドン④ロンドントリオより第2番

12. ハイドン⑤ロンドントリオより第3番
13. ハイドン⑥ロンドントリオより第3番
14. ハイドン⑦ロンドントリオより第4番
15. 課題発表、総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

自分の担当パートはもちろんのこと、他のパートのスコアリーディングも予習すること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料（楽譜等）は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート20%、発表演奏会30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 管楽アンサンブルA IIa

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比

科目ナンバリング MUS2243M

学位授与方針との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

1年後期における管楽器専修（フルート）必修。
前期のIの単位を修得していること。

授業の概要

この授業はフルートアンサンブルを主体に授業を展開していくが、他の専修の学生や演奏員の協力を得て、フルートと様々な楽器とのアンサンブルも展開していく。

学年末に受講生全員でフルートアンサンブルを中心とした演奏会を行う。

授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする。

- ・アンサンブルの基礎を身につけることができる。
- ・バロック時代から近現代までの各時代の様式、形式を学ぶことができる。
- ・楽器やピアノとのアンサンブルも体験し、自分たちの力でアンサンブルを作り上げていく力を向上させることができる。

授業計画

1. 学習曲目の検討と選択
2. コンサートプログラム制作
3. ドブラー作品について
4. ドブラー作品について
5. クーラウ①フルートデュオ
6. クーラウ②フルートデュオ
7. クーラウ③フルートデュオ
8. クーラウ④フルートトリオ
9. クーラウ⑤フルートトリオ
10. クーラウ⑥フルートカルテット

11. クーラウ⑦フルートカルテット
12. 日本人作曲家について
13. バッハ①トリオソナタ
14. バッハ②トリオソナタ
15. コンサート形式にて演奏発表会

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

自分の担当パートはもちろんのこと、他のパートのスコアリーディングも予習すること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料（楽譜等）は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート20%、発表演奏会30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 管楽アンサンブルA I b / B I

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 津川 美佐子

科目ナンバリング MUS1243M/
3243M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

管楽器専修 (Tr・Tb・Tub・Sx専修以外) 必修。
1年生はF専修以外の学生を対象とする。

授業の概要

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の音色を聞き合い、受け止め、合奏の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバーで音楽を作ることができる。また、他の楽器の特徴を学ぶことができる。

授業計画

1. 授業内容説明と曲目の選択 (前期は古典を中心とする)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪

13. 演奏実習⑫

14. 演奏実習⑬

15. 前期の曲の通し演奏

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

学生に対する教員からのフィードバック方法

随時、その場で行う。

授業時間外の学習

事前にパートの譜読み、練習をしておくこと。また、分奏しておくことが望ましい。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 管楽アンサンブルA II b / B II

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 津川 美佐子

科目ナンバリング MUS2243M/
4243M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

管楽器専修 (Tr・Tb・Tub・Sx専修以外) 必修。
1年生はF専修以外の学生を対象とする。
前期のIの単位を修得していること。

授業の概要

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の音色を聞き合い、受け止め、合奏の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバーで音楽を作ることができる。また、他の楽器の特徴を学ぶことができる。

授業計画

1. 後期曲目説明と選択 (近代作曲家の曲も取り入れる)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩

12. 演奏実習⑪

13. 演奏実習⑫

14. 演奏実習⑬

15. 発表会をもって、試験の代わりとする

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

学生に対する教員からのフィードバック方法

随時、その場で行う。

授業時間外の学習

事前にパートの譜読み、練習をしておくこと。また、分奏しておくことが望ましい。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 金管アンサンブルA I / B I

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 神谷 敏

科目
ナンバリング MUS1224M/
3244M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

金管専修(Tr、Tb、Tub)のみ必修。

授業の概要

管・打・ハープを含む中・大編成アンサンブル能力の育成を目指す。

授業の到達目標

様々な編成の合奏を体験し、基礎から徐々に難易度の高い曲へと進みながら、アンサンブル能力を高めることができる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける①
3. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける②
4. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける③
5. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける④
6. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく①
7. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく②
8. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく③
9. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく④
10. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく⑤
11. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす①
12. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす②
13. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす③
14. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす④
15. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始①

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習時に問題があれば、その都度その点をすぐに指摘し、対処法や練習の方法を指示する。

授業時間外の学習

自分の担当パートを正確に演奏できるよう練習しておくことはもちろん、演奏曲のアナリーゼ、作曲家や時代の背景を知っておくこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

出席状況・授業への取り組み50%、演奏会出演成果50%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 金管アンサンブルA II / B II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 神谷 敏

科目
ナンバリング MUS2244M/
4244M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

金管専修(Tr、Tb、Tub)のみ必修。

授業の概要

管・打・ハープを含む中・大編成アンサンブル能力の育成を目指す。

授業の到達目標

様々な編成の合奏を体験し、基礎から徐々に難易度の高い曲へと進みながら、アンサンブル能力を高めることができる。

授業計画

1. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始②
2. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始③
3. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始④
4. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始⑤
5. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく①
6. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく②
7. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく③
8. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく④
9. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑤
10. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑥
11. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う①
12. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う②
13. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う③
14. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う④
15. 学外ホールにて演奏会を行う

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習時に問題があれば、その都度その点をすぐに指摘し、対処法や練習の方法を指示する。

授業時間外の学習

自分の担当パートを正確に演奏できるよう練習しておくことはもちろん、演奏曲のアナリーゼ、作曲家や時代の背景を知っておくこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

出席状況・授業への取り組み50%、演奏会出演成果50%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 サクソフォン・アンサンブルAⅠ／BⅠ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野原 孝

科目ナンバリング MUS1245M/
3245M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

サクソフォン専修必修。

授業の概要

サクソフォンを用いて二重奏・三重奏・四重奏に取り組み、アンサンブル能力の向上を目指す。また、ソプラノ・アルト・テナー・バリトンの4種類のサクソフォンの奏法・特徴を学び、アンサンブルの中での各楽器の役割を理解し、実践の中でのコントロールを身につける。

授業の到達目標

- ・アンサンブルの中での自身の役割を把握し、演奏に活かすことができる。
- ・各楽器の特性を理解し、アンサンブルの中でもその奏法を反映することができる。

授業計画

1. ガイダンス (サクソフォン・アンサンブルについて)
2. 課題曲選定
3. 奏法1 (マウスピースとリードのセッティング)
4. 奏法2 (アンブシュア)
5. 奏法3 (タンギング)
6. 奏法4 (呼吸)
7. 奏法5 (音程の取り方)
8. 奏法6 (ビブラート)
9. 奏法7 (立奏、座奏の構え方)
10. 課題曲演習
11. 課題曲確認
12. ソプラノサクソフォンの奏法について
13. ソプラノサクソフォン・アンサンブル演習
14. アルトサクソフォンの奏法について
15. アルトサクソフォン・アンサンブル演習

学生に対する教員からのフィードバック方法

レッスン時、常に課題のフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業で使用する楽譜を準備し、担当する各パートの楽器の練習を十分に行うこと。また、各楽器の特徴・音程の癖等も把握しておくこと。授業で取り組む曲はもちろん、それ以外の室内楽作品もCD等を聴いて知識を広げておくように。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

履修学生の希望も取り入れながら、能力に見合った楽曲を選定する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、実習の成果50%で総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 サクソフォン・アンサンブルAⅡ／BⅡ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 野原 孝

科目ナンバリング MUS2245M/
4245M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

サクソフォン専修必修。

授業の概要

より高度な演奏技術が必要な楽曲に取り組み、さらなる演奏技術・表現力の向上を目指す。また、楽曲を作り上げるプロセスやアプローチの方法を学び、アンサンブルというものに対する理解を深める。

授業の到達目標

- ・より高度な演奏技術が必要な楽曲を演奏することができる。
- ・アンサンブル内で価値観を共有し、奏法に反映することができる。

授業計画

1. テナーサクソフォンの奏法について
2. テナーサクソフォン・アンサンブル演習
3. バリトンサクソフォンの奏法について
4. バリトンサクソフォン・アンサンブル演習
5. サクソフォン四重奏実践1 (ハーモニー・音色感)
6. サクソフォン四重奏実践2 (音量バランスとコントロール)
7. サクソフォン四重奏実践3 (担当パートの役割も把握)
8. サクソフォン四重奏実践4 (楽曲の完成イメージの共有)
9. サクソフォン四重奏実践5 (リハーサルを進め方)
10. サクソフォン四重奏実践6 (並び方)
11. サクソフォン四重奏実践7 (多様な表現方法の工夫と検討)
12. アンサンブルレパートリー研究1 (オリジナルの現代曲)
13. アンサンブルレパートリー研究2 (ピアノ作品から編曲された楽曲)
14. アンサンブルレパートリー研究3 (弦楽四重奏作品から編曲された楽曲)
15. コンサートのプログラミング

学生に対する教員からのフィードバック方法

レッスン時、常に課題のフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業で使用する楽譜を準備し、担当する各パートの楽器の練習を十分に行うこと。また、各楽器の特徴・音程の癖等も把握しておくこと。授業で取り組む曲はもちろん、それ以外の室内楽作品もCD等を聴いて知識を広げておくように。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

より高難度の楽曲を選定する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、実習の成果50%で総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 ギター・アンサンブルAⅠ／BⅠ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 佐藤 紀雄

科目
ナンバリング MUS1246M/
3246M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

ギター専修者必修。

授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

授業の到達目標

年2回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様子を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

授業計画

1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴き合い理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドウークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける

12. バンドウークイッカン②各パート同士の役割を理解する
13. バンドウークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドウークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドウークイッカン⑤①～④を踏まえて表現を実現する

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の中に演奏上、またはモチベーション上の問題を抱えている者がいる場合は、個々に対面し解決してゆきたい。アンサンブル上で問題があった時には、曲を変える等皆で話し合っ

授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 ギター・アンサンブルAⅡ／BⅡ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 佐藤 紀雄

科目
ナンバリング MUS2246M/
4246M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

ギター専修者必修。

授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

授業の到達目標

年2回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様子を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

授業計画

1. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
2. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
3. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
4. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
5. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. ヴィヴァルディー四季より「春」①この曲に必要な技術を準備する

12. ヴィヴァルディー四季より「春」②各パート毎に弾いて役割を理解する
13. ヴィヴァルディー四季より「春」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
14. ヴィヴァルディー四季より「春」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
15. ヴィヴァルディー四季より「春」⑤作品の中で自然の描写を豊かに再現する

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の中に演奏上、またはモチベーション上の問題を抱えている者がいる場合は、個々に対面し解決してゆきたい。アンサンブル上で問題があった時には、曲を変える等皆で話し合っ

授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 うたA / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 今藤 美知央

科目 MUS1203M/
ナンバリング 3200M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 △

—

履修条件

日本音楽専修は必修。邦楽(長唄・三味線)・歌舞伎・日本舞踊に興味がある者。
遅刻・欠席の場合は必ず連絡すること。

授業の概要

日本の伝統音楽「長唄」は、江戸時代に歌舞伎と共に、庶民の音楽として大流行、その後も進化・発展し、現代に至る音楽である。
長唄を通して日本の文化・音楽を理解し、今後自分の芸術表現にも活かせるよう技術を学ぶ。

授業の到達目標

- ・情景を大切にしながら音楽的表現ができる。
- ・きれいな発音で唄うこと、話すことができる。
- ・心地良い「間」を表現することができる。

授業計画

1. 導入「うた」とは
2. 課題曲の稽古①楽器の説明、発声、間のとり方
3. 課題曲の稽古②西洋音楽との違い、長唄の特徴
4. 課題曲の稽古③三味線あれこれ
5. 課題曲の稽古④唄と語りとセリフ
6. 課題曲の稽古⑤三味線で色々な表現をする
7. 課題曲の稽古⑥歌舞伎について
8. 課題曲の稽古⑦唄の技術「ごろ」
9. 課題曲の稽古⑧「当てて唄う」「外して唄う」「間を遊ぶ」
10. 課題曲の稽古⑨日本人の豊かな感性
11. 課題曲の稽古⑩学校教育における長唄
12. 指揮者のいない合奏
13. 決まりのない音楽・本当にあったハブニング
14. 学習到達度の確認・発表

15. まとめ

上記の講義内容は前後することがある。
課題曲の稽古とは、唄と語りの実習。

● 学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別に指導、フィードバックを行う。

● 授業時間外の学習

- 与えられた課題の研究、予習、復習に努めること。「邦楽演奏会」「歌舞伎」等、劇場に足を運んでみることに、ネット鑑賞すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

● 教科書・参考書等

教科書はなし。資料、譜面等は授業時に配布する。配布されたものは必ず毎回持参すること。授業内での見本演奏は録音して、予習復習に活用すること。

● 成績評価

授業への取り組み60%、課題に対する成果等40%を総合して評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 邦楽アンサンブルA I / B I

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 滝田 美智子

科目 MUS1247M/
ナンバリング 3247M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

日本音楽専修は必修。

授業の概要

邦楽器は各々楽器の特性が強く、個性的である。楽器の特性を認識しながら、様々な可能性を追求する。洋楽とのアンサンブルを積極的にすることも重要である。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴き、感じることを最大課題として、アンサンブルの醍醐味を体得できるようにする。

授業の到達目標

- ・邦楽アンサンブルの可能性について、各人が考え、意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に得ることができる。
- ・スコア譜を深く読み取ることができる。
- ・年2回の日本音楽演奏会を外部への発信として、成果を発表できる。

授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と前期計画
2. 楽譜を読み解く(作曲家を招いて)
3. 箏二重奏
4. 箏・尺八合奏
5. 箏・尺八合奏のまとめ
6. 箏三味線
7. 箏三味線のまとめ
8. 邦楽器と洋楽器合奏
9. 邦楽器と洋楽器合奏のまとめ
10. 古典曲合奏
11. 古典曲合奏のまとめ
12. 演奏会に向けた大編成曲①譜読み
13. 演奏会に向けた大編成曲②研究
14. 演奏会に向けた大編成曲③まとめ
15. 総まとめ

● 学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で演奏する場合は、総評を行う。
演奏しない場合も、学生の曲解説に対し、総評を行う。

● 授業時間外の学習

授業内で演奏する場合は、譜読み・練習をしっかりと行う。
演奏に参加しない週は、スコア譜を予習しておくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

● 教科書・参考書等

必要に応じて、教員より指示する。

● 成績評価

成績評価については、積極的な授業への取り組み(準備予習50%、成果50%)の結果を、総合的に評価する。

- ※遅刻厳禁。評価に含む。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容への理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 邦楽アンサンブルAⅡ／BⅡ

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 滝田 美智子

科目ナンバリング MUS2247M/
4247M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

日本音楽専修は必修。

授業の概要

邦楽器は各々楽器の特性が強く、個性的である。楽器の特性を認識しながら、様々な可能性を追求する。洋楽とのアンサンブルを積極的にすることも重要である。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴き、感じることを最大課題として、アンサンブルの醍醐味を体得できるようにする。

授業の到達目標

- ・邦楽アンサンブルの可能性について、各人が考え、意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に得ることができる。
- ・スコア譜を深く読み取ることができる。
- ・年2回の日本音楽演奏会を外部への発信として、成果を発表できる。

授業計画

1. 箏四重奏曲
2. 箏四重奏曲のまとめ
3. 尺八合奏曲
4. 箏・尺八合奏曲
5. 第3回・第4回のまとめ
6. 古典合奏曲
7. 古典合奏曲のまとめ
8. 演奏会に向けた大編成曲Ⅰ①譜読み
9. 演奏会に向けた大編成曲Ⅰ②研究
10. 演奏会に向けた大編成曲Ⅰ③仕上げ
11. 演奏会に向けた大編成曲Ⅱ①譜読み
12. 演奏会に向けた大編成曲Ⅱ②研究
13. 演奏会に向けた大編成曲Ⅱ③仕上げ
14. 第8回目・第11回目のまとめ
15. 総まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で演奏する場合は、総評を行う。
演奏しない場合も、学生の曲解説に対し、総評を行う。

授業時間外の学習

授業内で演奏する場合は、譜読み・練習をしっかりと行う。
演奏に参加しない週は、スコア譜を予習しておくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて、教員より指示する。

成績評価

成績評価については、積極的な授業への取り組み（準備予習50%、成果50%）の結果を、総合的に評価する。
※遅刻厳禁。評価に含む。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容への理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 伴奏法Ⅰ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 揚原 さとみ

科目ナンバリング MUS2202M

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

教職課程受講者（日本音楽専修除く）は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、実際の教育現場で活かせるように研究していく。具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に適したピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法等を理解し、実践形式で習得していく。初見ピアノ伴奏、ピアノ弾き語り、コードネームでの即興伴奏についても触れたい。

教職課程必修科目のため、対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

授業の到達目標

- ・教育の場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏ができる。
- ・効果的なピアノ伴奏を可能とする音感を養うことができる。
- ・基本のコードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス・中学校の音楽授業考察（鑑賞）
2. 中学校の音楽授業考察（講義）・斉唱曲の初見練習
3. 授業指導案の作成方法について
4. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究①(1人約25分ずつ)
5. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究②(1人約25分ずつ)
6. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究③(1人約25分ずつ)
7. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究④(1人約25分ずつ)
8. ピアノ連弾・古典派（伴奏音量のバランス感を養う練習）
9. ピアノ連弾・ロマン派（楽曲の分析を兼ねた練習）
10. 初見ピアノ伴奏
11. 弾き語りの練習

12. コードネームについて（基本）
 13. 基本コードによる即興伴奏付け
 14. 課題曲レッスン①
 15. 課題曲レッスン②
- ※受講生の人数や社会情勢等により、内容変更の可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回課題が出されるので、予習・復習に努めること。
グループやペアを組んでのレッスンは、お互いに協力を深め練習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参すること。
授業時に楽譜やプリントを配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み60%、実技レッスンと発表40%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、発表未受験者、受講態度に問題がある者）

科目名 初見演奏（基礎）

授業形態 演習（技術）

対象 音楽専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大家 百子

科目
ナンバリング MUS1204M

学位授与方針
との関係 DP③⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音1ピアノ専修は必修。他専修生でも、ピアノに興味と意欲があれば受講可。

授業の概要

バロックから現代に至るピアノ（チェンバロ）ソロ、連弾、歌曲、他楽器とのデュオ等の作品を教材とする。楽譜は毎授業開始時に配布する。

楽譜を手にしたなら、取り敢えずピアノに向かって弾き始めるということにせず、楽譜を読むことから始めよう。まずは、大掴みに作品の様式と形式を捉える。次に、音の動き、和音の連なりを確認していく。その際、テンポ、曲想はもちろんのこと、強弱、アーティキュレーション、フレーズング、ペダリング等にもできる限り目を通す。調性音楽であるなら転調の移り変わりを把握しよう。ここまでの作業は、当面、受講生皆で意見を出し合いながら進めていく。

読譜の後、初見奏に臨む。予め読み取った情報をどこまで演奏に反映させることができるかは、奏者の集中力に関わってくるであろう。さらには、初見奏での反省を生かし、二度目の演奏を充実した内容に進化させる能力も身につけられたらと考えている。受講生の自主的、積極的な参加が望まれる。

こうした初見奏の訓練を通して培われる読譜力と集中力が、各人のピアノ演奏能力の向上につながっていくことを願っている。

授業の到達目標

限られた時間の中で、楽譜から作品の概要、すなわち作曲家の意図を読み取り、初見奏と言えども、音を追うだけにとどまらない音楽的な演奏ができる。

授業計画

1. 導入：初見演奏を学ぶとはどういうことか？また、その学び方について
2. ピアノソロの小品①ごく易しい作品
3. ピアノソロの小品②易しい作品
4. ピアノソロの小品③少し難易度を上げて
5. 連弾の小品
6. 歌曲の伴奏
7. バロックの作品①ポリフォニー
8. バロックの作品②ホモフォニー
9. 古典派の作品 ソナタ形式を把握する①

10. 古典派の作品 ソナタ形式を把握する②
11. ロマン派の作品
12. 近代の作品
13. 現代の作品①ごく易しい無調の作品
14. 現代の作品②少し難易度を上げて
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・毎授業時、5～7名の受講生が演奏をすることになるが、それに対し初見奏の観点からの指導を行う。
- ・毎授業後、課題曲1題の初見奏が宿題として課される。これを録音（録画）し、3～4日中に提出してもらおうが、それに対する講評をClassroomのストリームに個別に返す。

授業時間外の学習

- ・授業で取り上げた作品全体について復習をし、演奏を試みる。
 - ・毎授業で課される宿題に取り組む。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に配布。

成績評価

平常点50%、実技テスト50%とする。

平常点：授業に能動的参加をしているか。努力は見られるか。成果はあったか。

実技テスト（初見演奏）：与えられた予見時間内に読譜を十分に行えたか。集中力を持って初見演奏に臨み、音を追うのみにとどまることのない、音楽的な表現ができたか。

- S 総合点90点以上の者（上記項目の全てを満たし、優秀と認められる者）
A 総合点80点以上の者（上記項目をよく満たしていると認められる者）
B 総合点60点以上の者（上記の項目を一定レベルにおいて満たしていると認められる者）
C 総合点50点以上の者（上記の項目のいくつかにおいてやや不足があると認められる者）
D 総合点49点以下の者（上記の項目の多くに不足があると認められる者）

科目名 身体と表現との調和—Inspired by Alexander Technique—

授業形態 演習（技術）

対象 音楽専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 志村 寿一

科目
ナンバリング MUS2201M

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 集中

他専攻 —

○

履修条件

良い身体の使い方・動きについて学びたい人。また、それらと自分の出す音や声との関連性を知り、良い音（特に倍音の豊かな音）とはどんなものなのか探求したい人。

パフォーマンスによる身体の痛みを持っていたり、立ち方や楽器の構え方、奏法等について悩みを持っている人。

授業の概要

毎回クラス内で数人の生徒に短いパフォーマンスをしてもらい、それに対して教師がアレキサンダー・テクニク等の知識をベースとした独自のメソッドにより、アドバイスする。聴講している生徒はパフォーマンスを見て聴いて、身体の使い方と出てくる音や声との関連性について、一緒に観察し学ぶ。実際にパフォーマンスをする生徒は仕上がっている曲（作品）を持ってくる必要はなく、簡単なスケールや曲の一部分、あるいは開放弦等のシンプルな音を弾く（あるいは声を出す）だけでも大丈夫である。

授業の到達目標

自分の心と身体を含む、自己全体のより良い使い方を学び、“部分”ではなく常に“全体性”を持って動き、演奏し、表現することの重要性を理解できる。

授業計画

1. “自然”で“個性的”な演奏とは
2. 身体の構造と動きについて
3. 身体の使い方と音・音楽との関連性について
4. 実践①
5. 実践②
6. 実践③

7. 実践④
8. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

日常生活の中において普段からどのように自分の身体を使っているかが、パフォーマンスの質そのものに大きな影響を及ぼすことを理解し、自分の身体の動きについて常に考えることを習慣づける。

教科書・参考書等

その都度必要に応じて配付する。

参考資料として、志村寿一「ヴァイオリン演奏のための身体と音楽との調和」（せきれい社）を推薦する。

成績評価

成績評価については、出席および授業参加への積極性50%、レポート課題50%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート課題未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 第一実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(主科)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 各担当教員

科目 MUS2450M/
ナンバリング 4450M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 通年

他専攻 —

○

履修条件

全学生の専門実技として必修科目である。

授業の概要

全ての授業の中で、一番関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術、表現力を身につけることを目的とする。

全学生が各自の専修実技を担当講師のもとで、本科は週1回50分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。

試験は前期・後期と2回行い、特に後期試験はレッスンを20回以上受講しないと試験を受ける権利を得ることができない(ただし、声楽については1年次のみ前期には試験を行わない)。1年次後期試験と2年次前期試験の成績優秀者は学内演奏会に出演することができ、2年次後期試験の成績優秀者は卒業演奏会に出演することができる。

授業の到達目標

担当講師との一対一での授業となるため、到達目標は各自異なる。専門実技のテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標になるが、担当講師が各学生のレベルを把握し、レベルに応じてエチュード、楽曲等を与え、与えた課題をレッスンを通して演奏できるようにしていくことを到達目標とする。

授業計画

1. オリエンテーションおよび課題の検討
- 2～5. 与えられたエチュード、楽曲のレッスン
6. 楽曲のまとめ、伴奏合わせ等
7. 試験曲の検討 または新しい課題の検討
8. 試験曲の決定
- 9～13. エチュードおよび試験曲研究 あるいは、与えられた課題のレッスン

- 14～15. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等
 16. 新たな課題の検討
 - 17～20. エチュード、楽曲のレッスン
 21. 楽曲のまとめ、伴奏合わせ等
 22. 試験曲の検討
 23. 試験曲の決定
 - 24～28. エチュードおよび試験曲研究
 - 29～30. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等
- ※個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して担当教員が随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。
これらの学修に120時間以上要する。

教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が60点以上の者
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 副科実技Ⅰ・Ⅱ/第二実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(副科・第二)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 副科2
第二4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 各担当教員

科目 MUS2351M/4351M/
ナンバリング 2350M/4350M

学位授与方針
との関係 DP③④⑤

期間 通年

他専攻 ○

○

履修条件

全学生の必修科目である。
なお、他専攻の学生も履修することができる。

授業の概要

全学生が各自の実技担当講師のもとで、週1回20分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンとなるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていくが、意欲を持ってレッスンに向かう姿勢が求められ、基礎的な演奏技術と表現力を身につけていく。

試験は後期に1回行い、20回以上のレッスンを受けることにより試験を受ける権利を得ることができる。

なお、副科実技はレッスン時間が短い。別途徴収にはなるが、レッスン時間を40分にする「第二実技」という制度がある。

授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。副科実技としてのテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

授業計画

1. オリエンテーションおよび課題の検討
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んでいくという形を繰り返していく。
22. 試験曲の検討

23. 試験曲の決定
 - 24～28. 試験曲のレッスン
 - 29～30. 試験曲のまとめ、伴奏合わせ等
- ※個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して担当教員が随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。
これらの学修に副科は60時間以上、第二実技は120時間以上を要する。

教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が60点以上の者
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 伴奏A(1)(2) / B(1)(2)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1・1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS2248M/
4248M

学位授与方針
との関係 DP③④

期間 前期集中・
後期集中

他専攻 —

○

履修条件

ピアノ専修の学生のみ履修可。

授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏および演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)を以って各々単位認定を行う。“伴奏受講票”を使用のこと。

授業の到達目標

様々な楽器に関心を持ち、「伴奏」という立場に責任を持ち、意欲的にアンサンブルを作り上げることができる。

そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(本番までの取り組みが的確かつ秀でた者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
- A 総合点が80点以上の者(本番までの取り組みが的確な者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
- B 総合点が60点以上の者(本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(本番までの取り組み・本番での演奏が不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(本番までの取り組み・本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者)

科目名 海外特別演習A / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司・東井 美佳

科目ナンバリング MUS1248M/
3248M

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

授業の概要

ドイツ・デトモルト音楽大学にて、1週間のレッスン研修を行う。後半は、作曲家のゆかりの地を訪れ音楽家の業績を辿ることにより、芸術全般の知識・教養を深める。

授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。そのためには早くから個人の实技練習を十分に積んでおく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 旅行会社による説明会①
3. 訪問都市についての勉強会①
4. 訪問都市についての勉強会②
5. 旅行会社による説明会②
6. 訪問都市についての勉強会③
7. 受講曲による試演会
8. 研修旅行

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

訪れる街の歴史や、関係する作曲家について深く学んでおく。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

成績評価

事前授業への取り組み30%、研修中の取り組み50%、レポート20%で総合的に判断する。

- S 総合点90点以上の者(事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点80点以上の者(事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確だった者)
- B 総合点60点以上の者(事前授業の理解・レッスンへの取り組みが良好だった者)
- C 総合点50点以上の者(事前授業の理解・レッスンへの取り組みが不十分だった者)
- D 総合点49点以下の者(事前授業の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、レッスンへの取り組み・受講態度に問題がある者)

科目名 特別演習 A/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻 1・2年

単位数 1

実務経験 ー

キャップ制 対象外

担当教員 志村 寿一・井上 由紀

科目ナンバリング MUD2203M/4200M

学位授与方針との関係 DP①②

期間 通年

他専攻 ー

○

履修条件

A・B共に全専修必修。

授業の概要

公開講座・学内演奏会・定期演奏会・卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なのもちろんのことだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことからの得るものの大きさも是非認識して欲しい。

授業の到達目標

様々な演奏、楽曲を聴くことにより、音楽の理解力をさらに深めることができる。

授業計画

公開講座・学外演奏会・学内演奏会の日程・演目の詳細は、オリエンテーション時に発表する。
また日程は変更となる場合もあり、常に掲示を確認のこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

特別公開講座のみについては、レポートを提出後、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

ゲストの音楽家や演奏される楽曲について調べ、理解を深めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

全ての演目に出席することを前提とし、授業への取り組みとレポートにより評価する。
S 公演の内容を深く理解し、取り組みが的確かつ秀でた者
A 公演の内容を理解し、取り組みが的確だった者
B 公演の内容を理解し、取り組みが良好だった者
C 公演の内容を理解し、取り組みが不十分だった者
D 公演の内容を理解しなかった者、取り組み・受講態度等に問題のある者

科目名 特別講座

授業形態 講義

対象 音楽専攻 1年

単位数 1

実務経験 ー

キャップ制 対象外

担当教員 中山 博之

科目ナンバリング MUS2000M

学位授与方針との関係 DP①②

期間 後期集中

他専攻 ○

○

履修条件

1年生必修。

授業の概要

編曲作品は演奏会で取り上げられることはもちろん、映画・ゲーム・アニメ・CM音楽にも多々用いられている。この講座では、編曲法について様々なスタイルを紹介しながら想像・創造することの大切さを学んでいく。

授業の到達目標

様々なスタイルの編曲法を学ぶことにより、音楽への想像力・創造力をさらに高め、深めることができる。

授業計画

1. 編曲の重要性について
2. ゲーム音楽のピアノ編曲の手法
3. メドレーの手法
4. オーケストレーションについて
5. 新しい譜面に対する解釈
6. 編曲作品の実演
7. F.リストの編曲法
8. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

講座後の復習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、レポートへの取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、レポートへの取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解し、レポートへの取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解し、レポートへの取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度に問題がある者)

科目名 コラボレイト実習A(1)(2)/B(1)(2)

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 1・1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司

科目ナンバリング MUS2550M/
4551M

学位授与方針
との関係 DP②③

期間 前期集中・
後期集中

他専攻 —

○

履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会・卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表を以って単位認定を行う。“コラボレイト実習受講票”を使用のこと。

なお、単位認定は、前期・後期1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけていくことが求められる。

授業の到達目標

- ・演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶことができる。
- ・音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶことができる。

授業計画

各々の公演担当教員の稽古計画による。

1. 打ち合わせ
2. 稽古への参加①
3. 稽古への参加②
4. 稽古への参加③
5. 本番

※稽古への参加は1回につき、授業3回分に相当。本番は授業5回分に相当。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の演奏に対して随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

音楽専攻・演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督の要望に応えるよう練習をしていかなければならない。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

- S 90点以上の者(本番までの取り組みが的確かつ秀でた者で、本番での演奏が公演の質を高めた者)
- A 80点以上の者(本番までの取り組みが的確な者で、本番での演奏が公演の質を高めた者)
- B 60点以上の者(本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者)
- C 50点以上の者(本番までの取り組み・本番での演奏が不十分だった者)
- D 49点以下の者(本番までの取り組み・本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者)

科目名 音楽理論 [和声] IIIa

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 平井 正志

科目ナンバリング MUS3010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音2(日本音楽専修以外)必修。「音楽理論 [和声] I・II」の単位を修得していること。

授業の概要

2年次においては、借用和音(準固有、副属和音)、サブ・ドミナント諸和音(副七の和音、四度の付加6)と各種の変化和音(増六、ドリアの四度、ナボリの6の和音)を扱ったバス課題の実施を通じて、より多様で高度な声部進行法の練達を目指す。さらに、それらの和音を含み、かつ近親転調を伴うソプラノ課題の実施によって、2年間に学んだ和声法の総合的な習熟を図る。

授業の到達目標

- ・借用和音や変化和音などの多彩な和音を扱ったバス課題を確実に実施できる力を養うことができる。
- ・転調を含むソプラノ課題の実施を通して、和声進行の本質が把握できる素養を身につけることができる。

授業計画

1. 準固有和音(長調における、同主短調の和音の借用):借用和音の概説 半音階的半音関係
2. 準固有和音:固有和音と混交する際の注意 対斜についての注意 出題第1回
3. 準固有和音:実施課題確認第1回と出題第2回
4. 準固有和音:実施課題確認第2回
5. 借用のドミナント和音:概論 五度五度の和音の各種形態について
6. 借用のドミナント和音:限定進行と声部進行法について 出題第1回
7. 借用のドミナント和音:実施課題確認第1回と出題第2回
8. 借用のドミナント和音:実施課題確認第2回と出題第3回
9. 借用のドミナント和音:実施課題確認第3回
10. 五度五度の下方変位の和音:変化和音の概論 増六の和音の各種形態とその通称
11. 五度五度の下方変位の和音:連結の可能性 声部進行の注意点 出題第1回
12. 五度五度の下方変位の和音:実施課題確認第1回と出題第2回
13. 五度五度の下方変位の和音:実施課題確認第2回と出題第3回
14. 五度五度の下方変位の和音:実施課題確認第3回

15. 前期教程内容の理解度確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって、実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。

やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容を他の受講者から入手するか参考書を調べて自習し、出題された課題を実施して提出すること。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書:資料と課題を配布。

参考書:執筆責任者・島岡 譲「和声 [理論と実習]」第一巻・第二巻(音楽之友社)

成績評価

前期末に筆記試験を行う。

筆記試験の成績を元下記の評価を行うが、単位認定の条件としては、課題の実施実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

成績の評価基準は、筆記試験答案40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。

- S 90点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達が感じられる)
- A 80点以上の者(重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い)
- B 60点以上の者(概ね重要な公理が理解できていて、課題の実施に際しては練達不足)
- C 50点以上の者(重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない)
- D 49点以下の者(重要な公理が理解できておらず、和声法を修めたと認めがたい)

科目名 音楽理論 [和声] IVa

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 平井 正志

科目
ナンバリング MUS4010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

音2 (日本音楽専修以外) 必修。「音楽理論 [和声] I・II・III」の単位を修得していること。

授業の概要

2年次においては、借用和音(準固有、副属和音)、サブ・ドミナント諸和音(副七の和音、四度の付加6)と各種の変化和音(増六、ドリアの四度、ナボリの6の和音)を扱ったバス課題の実施を通じて、より多様で高度な声部進行法の練達を目指す。さらに、それらの和音を含み、かつ近親転調を伴うソプラノ課題の実施によって、2年間に学んだ和声法の総合的な習熟を図る。

授業の到達目標

- 借用和音や変化和音などの多彩な和音を扱ったバス課題を確実に実施できる力を養うことができる。
- 転調を含むソプラノ課題の実施を通して、和声進行の本質が把握できる素養を身につけることができる。

授業計画

- 二度の七、四度の七の和音：七の和音について総論 副七の和音における第七音の予備と限定進行 第二転回形における低音4度の予備について 出題第1回
- 実施課題確認第1回と出題第2回
- 実施課題確認第2回
- ドリアの四度の七、ナボリの六の和音：和音進行の可能性 限定進行 出題第1回
- 実施課題確認第1回と出題第2回
- 実施課題確認第2回と出題第3回
- 実施課題確認第3回 付加六、付加四六の和音：第五音の予備長調の付加四六について 例題の実施と確認
- 近親転調を伴うソプラノ課題：近親転調概論 和音設定概論 出題第1回と実施法解説
- 実施課題確認第1回 出題第2回出題と実施法解説
- 実施課題確認第2回 出題第3回出題と実施法解説
- 実施課題確認第3回 出題第4回出題と実施法解説
- 実施課題確認第4回 出題第5回出題と実施法解説
- 実施課題確認第5回 後期レポート課題の出題
- 後期レポート課題における評価判定基準の説明 実施法要諦解説
- 後期レポートの提出に備え、教程内容の理解度確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって、実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。
やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容を他の受講者から入手するか参考書を調べて自習し、出題された課題を実施して提出すること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：資料と課題を配布。
参考書：執筆責任者・島岡 譲「和声『理論と実習』」第一巻・第二巻 (音楽之友社)

成績評価

後期末に最終実施課題をレポートとして提出する。
レポートの成績を元に下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実施実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。
成績の評価基準は、レポートの内容40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。
S 90点以上の者 (重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる)
A 80点以上の者 (重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い)
B 60点以上の者 (概ね重要な公理が理解できてきているが、課題の実施に際しては練達不足)
C 50点以上の者 (重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない)
D 49点以下の者 (重要な公理が理解できておらず、和声法を修めたと認めがたい)

科目名 音楽理論 [和声] III b

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池田 哲美

科目
ナンバリング MUS3010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

音2 (日本音楽専修以外) 必修。「音楽理論 [和声] I・II」の単位を修得していること。
和声学は途中で抜けると理解できなくなるので、欠席・遅刻をしないこと。
知識を確実に積み上げつつ、与えられた課題を必ず実践すること。

授業の概要

2年次のIII (前期) は1年次で学んだことを土台にして、属七の和音、属七の和音の根音省略形、属九の和音を学ぶ。
なお、学習の進度については、理解度に応じて、若干の前後が生じることがある。

授業の到達目標

奥の深い和声学を、2年間の授業ですべて習得することは不可能に近い。しかし、これからの長い音楽活動を通じて、名曲の中でいかに効果的に和声進行が図られているのかを感じ取る基礎力を養う。

授業計画

- 前年度の復習—課題実施①dur
- 前年度の復習—課題実施②moll
- 前年度の復習—課題実施③総合
- 属七の和音・根音省略形二転一形態①
- 属七の和音一形態②属九の和音一配置
- 属七の和音一形態③属九の和音一最適の配置の実習①
- 属七の和音—課題の実施①属九の和音—最適の配置の実習②
- 属七の和音—課題の実施②属九の和音—課題実習①dur
- 属七の和音—課題の実施③属九の和音—課題実習②moll
- 属七の和音・根音省略形二転一形態①
- 属七の和音・根音省略形二転一形態②
- 属七の和音・根音省略形二転一形態③

- 属七の和音・根音省略形二転一形態④
- 属九の和音—基本形の最適の配置①
- 属九の和音—基本形の最適の配置②

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

授業時に与えられた課題テキストを読んで、理解した上で必ず実践すること。
できた課題をピアノで弾いて耳を鍛えること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

池内友次郎他「和声 理論と実習 I」(音楽之友社)

成績評価

授業への取り組み40%、学期末試験60%を総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者 (講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者 (講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者 (講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者 (講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者 (講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽理論 [和声] IV b

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池田 哲美

科目
ナンバリング MUS4010M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

音2（日本音楽専修以外）必修。「音楽理論 [和声] I・II・III」の単位を修得していること。
和声学は途中で抜けると理解できなくなるので、欠席・遅刻をしないこと。
知識を確実に積み上げつつ、与えられた課題を必ず実践すること。

授業の概要

2年次のIV（後期）は1年次・2年次前期で学んだことを土台にして、属七の和音、属七の和音の根音省略形、属九の和音、属九の和音の根音省略形、IIの七の和音、転調を含む課題等を学習する。
なお、学習の進度については、理解度に応じて、若干の前後が生じることがある。

授業の到達目標

奥の深い和声学を、2年間の授業ですべて習得することは不可能に近い。しかし、これからの長い音楽活動を通じて、名曲の中でいかに効果的に和声進行が図られているかを感じ取る基礎力を養う。

授業計画

- 属九の和音の根音省略形の配置①
- 属九の和音の根音省略形の配置②
- 属九の和音の根音省略形の配置③
- 属九の和音の根音省略形の課題の実施①
- 属九の和音の根音省略形の課題の実施②
- 属九の和音の根音省略形の課題の実施③
- IIの七の和音-配置と実施①
- IIの七の和音-配置と実施②
- IIの七の和音-配置と実施③
- 転調を含む課題—近親転調 dur①
- 転調を含む課題—近親転調 dur②
- 転調を含む課題—近親転調 dur③

- 転調を含む課題—近親転調 moll①
- 転調を含む課題—近親転調 moll②
- 年度末のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

授業時に与えられた課題テキストを読んで、理解した上で必ず実践すること。
できた課題をピアノで弾いて耳を鍛えること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

池内友次郎他「和声 理論と実習I」（音楽之友社）

成績評価

授業への取り組み40%、学期末試験60%を総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 対位法I

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池田 哲美

科目
ナンバリング MUS3011M

学位授与方針
との関係 DP②③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

和声の基本的な知識が必要。対位法および対位法による楽曲に興味を持ち、対位法による楽曲作成・分析に意欲を持つ者。

授業の概要

J.S.BACHの対位法による楽曲の分析と共に、具体的な対位法の手法を、簡単な課題の実施を行うことで、その用法を学習する。インベンション、シンフォニア、平均律クラヴィーア等の楽曲を分析する。実施では、二声の対位法を第一類（全音符）～第五類（華麗対位法）まで学び、課題を実施する。また、フーガの主題の作成にも取り組む。

授業の到達目標

対位法の知識と具体的な創作によって、フーガその他対位法による楽曲をより身近に感じ、実際の演奏に活用できる。

授業計画

- 導入：多声部楽曲の一般形態
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符音域
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符方法と禁止事項①
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符方法と禁止事項②
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符実習①
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符実習②
- BACH インベンションからおよび二声対位法第一類 全音符様々な調 dur①
- BACH シンフォニアからおよび二声対位法第一類 全音符様々な調 dur②
- BACH シンフォニアからおよび二声対位法第二類 二分音符方法と禁止事項①
- BACH シンフォニアからおよび二声対位法第二類 二分音符方法と禁止事項②

- BACH シンフォニアからおよび二声対位法第二類 二分音符実習①
- BACH シンフォニアからおよび二声対位法第二類 二分音符様々な調 dur①
- BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項①
- BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項②
- BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur①

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

課題の実施の宿題を含めた復習と、対位法楽曲に日頃から親しむこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

J.S.BACHの対位法による楽曲と対位法の各教科書における重要部分を、進み具合に応じて、適宜配布。

成績評価

ほぼ毎回、小テストとして分析・課題の実施を行う。評価は授業への取り組み40%、学期末試験60%を総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 対位法Ⅱ

授業形態	講義	対象	音楽専攻 2年	単位数	2	実務経験	—	キャップ制 対象外	
担当教員	池田 哲美	科目 ナンバリング	MUS4011M	学位授与方針 との関係	DP②③	期間	後期	他専攻	—

履修条件

「対位法Ⅰ」の単位を修得していること。
和声の基本的な知識が必要。対位法および対位法による楽曲に興味を持ち、対位法による楽曲作成・分析に意欲を持つ者。

授業の概要

J.S.BACHの対位法による楽曲の分析と共に、具体的な対位法の手法を、簡単な課題の実施を行うことで、その用法を学習する。インベンション、シンフォニア、平均律クラヴィーア等の楽曲を分析する。実施では、二声の対位法を第一類（全音符）～第五類（華麗対位法）まで学び、課題を実施する。またフーガの主題の作成にも取り組む。

授業の到達目標

対位法の知識と具体的な創作によって、フーガその他対位法による楽曲をより身近に感じ、実際の演奏に活用できる。

授業計画

1. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 様々の調 dur②
2. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 様々の調 dur③
3. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 様々の調 moll①
4. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 様々の調 moll②
5. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 実習①
6. BACH 平均律クラヴィーア第1巻および二声対位法第三類 四分音符 実習②
7. BACH オルガン曲 および二声対位法第四類 方法と禁止事項①
8. BACH オルガン曲 および二声対位法第四類 方法と禁止事項②
9. BACH オルガン曲 および二声対位法第四類 実習①
10. BACH オルガン曲 および二声対位法第四類 実習②

11. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法方法と禁止事項①
12. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法方法と禁止事項②
13. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法実習①
14. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法実習②
15. 年度末のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

課題の実施の宿題を含めた復習と、対位法楽曲に日頃から親しむこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

J.S.BACHの対位法による楽曲と対位法の各教科書における重要部分を、進み具合に応じて、適宜配布。

成績評価

- ほぼ毎回、小テストとして分析・課題の実施を行う。評価は授業への取り組み40%、学期末試験60%を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 コード論Ⅰ

授業形態	講義	対象	音楽専攻 2年	単位数	2	実務経験	—	キャップ制 対象外	
担当教員	小林 真人	科目 ナンバリング	MUS3012M	学位授与方針 との関係	DP①②	期間	前期	他専攻	◎

履修条件

コードの仕組みや活用に関心のある学生。

授業の概要

コードとは何かを知り、それぞれのコードを覚える。
メロディに対して、シンプルなコード付けができるようにする。
ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏する際のアイディアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。
コードを元に柔軟に演奏する方法を体験する。
コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

授業の到達目標

- ・3和音と4和音のコードを覚える。
- ・セカンダリードミナントセブンを覚える。
- ・メロディに対して簡単なコード付けができる。
- ・コードの機能と連結を理解して、それを元にしたシンプルなコードの発展のさせ方を知る。それらをピアノ等で演奏、表現できる。

授業計画

1. 導入：コードとは
2. コード論 入門編① 3和音
3. コード論 入門編② 4和音
4. コード論 基礎編① 3和音のダイアトニックコード
5. コード論 基礎編② 4和音のダイアトニックコードと機能
6. コード論 基礎編③ 同じ機能内での代理
7. コード付けの実践① 単純なコード付け
8. コード付けの実践② ボイシング
9. コード論 基礎編④ ドミナントモーションとⅡm7-V7

10. コード論 基礎編⑤ セカンダリードミナントセブン
11. コード論 基礎編⑥ セカンダリードミナントセブンのⅡm7-V7
12. コード付けの実践③ リハモナイズとリズムパターンの組み合わせ
13. コード付けの実践④ 循環コードと逆循環コード
14. コード付けの実践⑤ 様々なコード進行と発展
15. 学習到達度の確認と総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

復習・予習をして授業に臨むこと。
ピアノ等の和音が出せる楽器を使い、コードのサウンド感を「感覚的」に捉えられるようにする。
これらの学修に60時間を要する。

教科書・参考書等

授業時に、その都度プリントを渡す。

成績評価

- 授業態度（出席含む）50%、課題発表への取り組み姿勢・レポート等での総合評価50%
- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 楽器法

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 大澤 健一

科目ナンバリング MUS3004M

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

人が音を奏でる手段としての楽器は太古から今日に至るまで実に多くの楽器が作られてきた。伝達、信号として登場した楽器は次第に歌や踊りの伴奏として使われ、やがて音楽を伝える主役楽器となった。授業では、現在の管弦楽等で使われる楽器について講義するが、その楽器の原点である民族楽器についても触れる。

木管、金管、打楽器、弦楽器に分類して、その誕生と現在の役割、使用楽曲、メンテナンス等について講義する。これら楽器の正確な知識は、あらゆる音楽に携わる全ての行動に必要不可欠であろう。

授業の到達目標

- ・ 楽器というものが、どのように分類され、どのような歴史をたどって、現在使われているかを理解する。また作編曲、器楽指導に必要な楽器の基礎知識を学習することができる。
- ・ 気鳴楽器、弦鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器、機械電気楽器の5つの楽器体系を理解し、全ての楽器がこれらに分類されることを理解できる。

授業計画

[進行予定]

木管楽器…フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン
 金管楽器…トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ
 弦楽器…ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

打楽器

体鳴楽器…シンバル、トライアングル、ドラ、鍵盤楽器他
 膜鳴楽器…太鼓、ティンパニー、タンバリン、ボンゴ他
 [ポイント]

1. 構造…………… 発音原理、楽器の材質
2. 音域…………… 調性、最低音、最高音、適切音域
3. 特色…………… 得意な奏法、不得意な奏法
4. 同属楽器……… 調性の異なる同属楽器
5. 歴史…………… 楽器の誕生について
6. 楽曲…………… この楽器を説明するのに適した楽曲
7. メンテナンス… 楽器の取り扱い上での注意点

学生に対する教員からのフィードバック方法

口頭質問にて、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

室内楽、管弦楽のコンサートを鑑賞し、使用される各楽器の特徴を調べておくこと。
 これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考プリントを授業で配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・受講態度100%で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
 A 総合点が80点以上の者
 B 総合点が60点以上の者
 C 総合点が50点以上の者
 D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽マネジメント

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 楠瀬 寿賀子

科目ナンバリング MUS3000M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 前期

他専攻

履修条件

音楽や音楽家の社会的な役割を踏まえて、コンサートやアウトリーチの企画を考察する意欲を持つ者。

授業の概要

芸術音楽の制作のノウハウやスキルを学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる豊かな社会を創出する、という考え方に基づいた音楽マネジメントが重要となる。
 この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割の重要性を深く考察し、グループディスカッションやワークショップの形態も交えながら、その考えに即した実施方法を学ぶ。

授業の到達目標

- 積極的な興味・関心をもとに豊かな知識やスキルを得て、自らが社会におけるニーズに応えられるようになること。
- ・ 音楽の企画制作の基礎的な能力を身につけることができる。
 - ・ 言葉にしにくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
 - ・ アウトリーチやワークショップ等の手法を理解することができる。

授業計画

1. オリエンテーションと自己紹介、講義全体の概説
2. 音楽マネジメントとは何か
3. コンサートのビジネス的側面
4. 音を聴く、とはどのようなことか
5. 音楽企画の社会性
6. 社会性を手法（アウトリーチやワークショップ等）
7. アウトリーチを体験する
8. アウトリーチで何ができるか、を考える
9. 音楽家の才能を引き出す
10. 広報と宣伝について
11. 企画の作り方①グループディスカッション
12. 企画の作り方②ワークショップ

13. 企画の作り方③企画を提案する
14. 企画の作り方④企画発表
15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題提出や企画発表後に講評を行い、必要に応じてその後の授業の中で振り返りを行う。

授業時間外の学習

様々なコンセプトや構成のコンサートにできるだけ足を運び、運営者の立場での観察に努めてほしい。マスコミやネット等で話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向等に関するニュースに注意を払い、些細なことでもよいので知識や考察の引き出しを増やすことに努めてほしい。
 これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。参考書等も授業内で適宜紹介する。

成績評価

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。評価は小論文50点、日常のレポートや発言等50点として採点する。

- S 総合点90点以上の者
 A 総合点80点以上の者
 B 総合点60点以上の者
 C 総合点50点以上の者
 D 総合点49点以下の者

科目名 音楽史特講A

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目
ナンバリング MUS3020M

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

授業内でしばしば発言やパフォーマンスを求める。その際に能動的な姿勢で臨む者を歓迎する。

授業の概要

今年度は、「20世紀音楽史」と題し、「音楽史概説」で扱った20世紀以降の内容をさらに掘り下げ、この時期に生まれた芸術をトピック別に学ぶ。様々な芸術グループの理念、思想、美学を、単なる知識としてではなく、実践を通じて理解する。

なお、履修者の前提知識や理解度に応じて、授業の順序や内容を変更する場合がある。

授業の到達目標

- 20世紀以降の主要な芸術潮流の流れを把握することができる。
- 感性を開いて、音楽を聴取る感覚を身につけることができる。
- 芸術について考える力を育み、言語化する習慣を身につけることができる。
- 実践的な取り組みを通じ、20世紀音楽の奥深さと広がりを実感することができる。

授業計画

- 調性機能崩壊の諸相
- 表現主義芸術
- 新ウィーン楽派の12音技法
- バレエ・リュスとスキャンダル
- サティとバリの前衛
- イタリア未来派
- ロシア・アヴァンギャルド
- 音群作法
- テクノロジーの発達と電子楽器

- 引用音楽
- 不確定性の音楽、偶然性の音楽
- 図形楽譜
- カウエルからケージへ
- フルクサスと「芸術」
- 聴覚と視覚の交差

学生に対する教員からのフィードバック方法

講義内で随時質疑を受け付け、都度応答する。

授業時間外の学習

- 毎回、授業の復習となるような課題および次の授業の予習となるような課題を提示する。任意で取り組むことを推奨する。
 - 授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲視聴することを推奨する。
 - 20世紀音楽のコンサートを積極的に足を運ぶことを推奨する。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。

成績評価

平常点評価100%。成績は、授業中の発言とパフォーマンスから総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽史特講B

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大津 聡

科目
ナンバリング MUS3021M

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

特に条件はないが、授業内容への関心と受講意欲は必須である。

授業の概要

テーマは「シンフォニーの歴史」。シンフォニーは、私たちがクラシック音楽と呼んでいる、ヨーロッパ芸術音楽の精華の一つであり、オペラと並んで、ヨーロッパの歴史や文化に根ざした重要な文化現象である。本授業は、シンフォニーというジャンルの起源から、その主な時代の終焉までを見渡す「シンフォニー史」である。単にシンフォニーの歴史や形態を概観するにとどまらず、それらの音楽史、社会史上の意味、あるいは、各々の作曲家におけるシンフォニーという問題も考えていきたい。

授業の到達目標

- 主に以下3点を到達目標に掲げる。
- シンフォニーとは何か、それはどのように誕生したかについて説明できる。
- シンフォニーの歴史に固有なトピックスと展開について説明できる。
- 各々の時代を代表する作曲家とその作品について説明できる。

授業計画

- ガイダンス：シンフォニア？シンフォニー？交響曲？
- 前古典派：シンフォニーの出自と型の形成、シンフォニストの誕生まで
- ウィーン盛期古典派1：エステルハージ公爵邸楽長時代のJ. ハイドン
- ウィーン盛期古典派2：J. ハイドンのロンドン滞在と《ザロモン・シンフォニー》
- ウィーン盛期古典派3：W. A. モーツァルトのシンフォニー創作
- ベートーヴェン1：転換期としてのベートーヴェン
- ベートーヴェン2：《田園シンフォニー》と「標題」
- ベートーヴェン3：《第九シンフォニー》におけるジャンルの拡大
- ポスト・ベートーヴェンのシンフォニー
- ベルリオーズの管弦楽作品：「標題シンフォニー」の新たな展開

- ブラームスとブルックナー：絶対音楽としてのシンフォニーへの回帰？
- ナショナル・シンフォニー：国民主義音楽とシンフォニーの国際化
- マーラー：最後のシンフォニストとそのジャンル意識
- R. シュトラウスと管弦楽作品：「シンフォニー神話」の崩壊
- プロバガンダとしてのシンフォニー：シヨスタコーヴィチ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内に実施する（不定期）リアクションペーパーへのフィードバックを、次回授業時に行う。

授業時間外の学習

- 授業では多くの作曲家やその作品について触れることになるが、授業時間内に例として鑑賞できるのはほんの一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。各回（ガイダンスと導入、まとめの回は除く）につき最低1作品は、必ず通して鑑賞すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、初回に参考文献表を配布する他、適宜紹介・指示する。

成績評価

受講姿勢・リアクションペーパーの内容20%、期末レポート80%による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、49%以下はD評価とする。
なお、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽史演習A

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目
ナンバリング MUS4120M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻

—

履修条件

授業内でしばしば発言やパフォーマンスを求める。その際に能動的な姿勢で臨む者を歓迎する。

授業の概要

今年度は「20世紀アンサンブル史」と題し、主に20世紀に書かれた2人以上20人程度までの室内楽作品をトピック別に扱う。特に、それ以前の時代には見られなかったような特殊な楽器編成を持つアンサンブル作品に着目する。新たに開拓された語法やスタイルを分析し、それらの音楽的效果について検証すると共に、そうした芸術思想が生まれた歴史的文脈を探る。また、履修者の人数と専攻によって、演奏可能なアンサンブル作品を選び、授業内容に実践の時間を盛り込む。

なお、履修者の前提知識や理解度に応じて、授業の順序や内容を変更する可能性がある。

授業の到達目標

- ・感性を開いて、音楽を聴取する感覚を身につけることができる。
- ・芸術について考える力を育み、言語化する習慣を身につけることができる。
- ・授業で扱うアンサンブル作品のうち、任意の作品の一部または全曲を演奏できるようにする（演奏に必要な準備を行えるようになる）。

授業計画

1. 音色の拡張
2. 音高組織の探求
3. 声を含むアンサンブルへの注目
4. 打楽器の「発見」
5. ジャズとの融合：他民族への眼差し
6. 新古典主義
7. 特殊奏法の活用
8. 不確定性の音楽、偶然性の音楽
9. 西洋と東洋

10. ポリフォニーの手法
11. ミニマル・ミュージック
12. 電子音、コンピュータの導入
13. スペクトル楽派の系譜
14. 演奏と身体
15. ミュージック・シアター

学生に対する教員からのフィードバック方法

講義内で随時質疑を受け付け、都度応答する。

授業時間外の学習

- ・毎回、授業の復習となるような課題および次の授業の予習となるような課題を提示する。任意で取り組むことを推奨する。
 - ・授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲視聴することを推奨する。
 - ・20世紀音楽のコンサートに積極的に足を運ぶことを推奨する。
 - ・授業で扱うアンサンブル作品のうち、任意の作品を練習する。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。

成績評価

平常点評価100%。成績は、授業中の発言とパフォーマンスから総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽史演習B

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大津 聡

科目
ナンバリング MUS4121M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻

—

履修条件

音楽専攻の2年生を対象とする（他専攻も歓迎）。また、授業内容への関心、能動的参加意欲は必須である。

授業の概要

テーマは「オペラの歴史」。オペラは400年以上の歴史を持ち、私たちが思い浮かべる西洋芸術音楽において、優れて代表的なジャンルである。本授業ではオペラの壮大、かつ濃密な歴史にアプローチし、その起源から20世紀初頭までを視野に入れる。多様な作品に触れることを目標とするが、原則として、1回の授業につき、各国、各時代から代表的な作品を1つ取り上げ、オペラ史を再構成していく。当該科目は演習である。各受講者に作品についての簡単な事前調査と授業中のレポートを担当してもらう。受講者数に応じて、具体的な進め方を事前に説明するので、受講予定者は初回のガイダンスに必ず出席すること。

授業の到達目標

- 以下3点を到達目標として掲げる。
- ・個々の作品に、歴史意識を持って向き合うことができる。
- ・音楽様式の変化と同時に、各時代や各社会の違いを感じ取ることができる。
- ・評論的アプローチで終わらせないため、適切な文献を操ることができる。

授業計画

音楽史の流れに沿って、以下に各回で扱うトピックおよび便宜上、代表する作曲家名を示すが、可能な限り受講者の興味や要望を取り入れていく。

1. ガイダンスと導入：プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》鑑賞
2. バロック時代1：オペラの起源イタリア（モンテヴェルディ）
3. バロック時代2：イタリアから各国へ（パーセル、ヘンデル）
4. 古典派1：近代オペラの始まり：モーツァルト
5. 古典派2：宮廷社会から市民社会へ：モーツァルト
6. 古典派3：オペラと革命：ベートヴェン
7. ロマン派1：オペラ・ブッフアの隆盛：ロッシーニ

8. ロマン派2：オペラ・ブッフアの黄昏：ドニゼッティ
9. ロマン派3：19世紀イタリアオペラの精華：ヴェルディ
10. ロマン派4：「総合芸術作品」としてのオペラ：ヴァーグナー
11. ロマン派5：フランス・オペラの諸相：ビゼー
12. ロマン派6：「ヴェリズモ・オペラ」：プッチーニ
13. 20世紀初頭1：オペラにおける前衛：R. シュトラウス
14. 20世紀初頭2：古典への回帰：R. シュトラウス
15. まとめ：「長い19世紀」とオペラ史

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内に実施するリアクションペーパー（不定期）について、フィードバックを次回授業時に行う。各発表については、授業内で総評を行う。

授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞できるのは、大規模であるというオペラの属性から一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを積極的に活用し、理解を深めてもらいたい。また、担当回については、当然ながら、作品の把握のみならず、参考文献等を用いた下調べ、およびレジュメの作成が求められる。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介・指示する。

成績評価

受講姿勢40%（授業内容への関心、授業への貢献、学期内担当分の準備作業）、および担当回の発表内容60%による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、49%以下はD評価とする。

なお、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽療法概論

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 千恵子

科目
ナンバリング MUS3001M

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期

他専攻

—

履修条件

特になし。

- 14. 音楽の治癒的機能
- 15. 授業の総括

授業の概要

音楽療法とは、心身に障害のある方、発達の遅れや問題を持った方々へ治療・援助の手段として音楽を役立てることであるが、最近では病気や障害に限らず人間の健康な生活に役立てる音楽療法としてのアプローチまで幅広い考え方も広まっている。

本講義では、療法（セラピー）を考える前に、人間の生活と音楽との関わりや人間の健康とは何かを学ぶ。次に音楽療法の様々な背景を考えながら、基本的な知識を学んでいく。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後、個別に講評を行う。また、実践に関しては発表の後に振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行う。これらの学修に60時間以上を要する。

授業の到達目標

人間の生活と音楽の関わりを理解し、さらに療法として音楽を用いる意義とその方法を理解することができる。

教科書・参考書等

参考書：松井紀和「音楽療法の手引き」（牧野出版）
松井紀和、鈴木千恵子他「音楽療法の実際」（牧野出版）
教科書は使用せず、授業時にプリントを配布。

授業計画

1. 導入：授業内容と目的等
2. 人間の生活と健康・音楽
3. 音楽療法とは何か①歴史
4. 音楽療法とは何か②楽曲研究
5. 緩和ケアの音楽療法①カナダ
6. 緩和ケアの音楽療法②日本
7. 高齢者の音楽療法①活動紹介
8. 高齢者の音楽療法②プログラム作成
9. 高齢者の音楽療法③受講生同士で練習
10. 高齢者の音楽療法④受講生同士で実践発表
11. 児童の音楽療法①発達障害児
12. 児童の音楽療法②重度重複障害児
13. 音楽療法の技術

成績評価

- 授業の取組みと態度60%、授業内試験の総合評価40%
- S 総合点90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 演奏解釈（1）ピアノ楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 東井 美佳

科目
ナンバリング MUS4000M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

ピアノ専修必修。
他専修も積極的に履修してほしい。

- 13. 20世紀の作曲家②
- 14. 20世紀の作曲家③
- 15. まとめ：ピアニストの音楽的役割の重要性について

授業の概要

あらゆる楽曲の中でも、ピアノで演奏されるものは多岐に渡って豊富に作品が存在する。楽器の持つ幅広い可能性、あるいは利便性から、ピアノは独奏のみならずあらゆる音楽シーンの中で必要とされる場面も多く、そこではピアニストに柔軟な能力が求められる。

この授業では独奏曲はもとより、多様なジャンルの楽曲にも触れながら、楽器や楽曲の持つ特性を理解し、それぞれの状況の中でどのように楽譜を解釈し、演奏したら良いかを一緒に学んでいきたい。他専修の学生の参加も大いに歓迎する。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

毎回の授業の内容について、自分なりに予備知識を持って臨めるようにすること。また、各回の内容は積み重ねになっていくので、復習もしっかりすること。授業で話した内容については、図書館、インターネットを利用しチェックすること。これらの学修には60時間以上を要する。

授業の到達目標

ピアノという楽器の特性やそれぞれの楽曲の時代やジャンルに応じた楽譜の読み方・解釈の仕方を理解し、ふさわしい演奏方法を見つけることができる。

教科書・参考書等

その都度必要に応じて指示、配布する。

授業計画

1. 導入：ピアノという楽器について
2. 16～17世紀の鍵盤楽器音楽①
3. 16～17世紀の鍵盤楽器音楽②
4. 18世紀の作曲家①
5. 18世紀の作曲家②
6. 18世紀の作曲家③
7. 19世紀の作曲家①
8. 19世紀の作曲家②
9. 19世紀の作曲家③
10. 19世紀の作曲家④
11. 19世紀の作曲家⑤
12. 20世紀の作曲家①

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%、学期末課題の結果50%を総合的に判断して行う。
- S 総合点90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが確かつ秀でた者）
- A 総合点80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 演奏解釈 (2) 声楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 相田 麻純

科目
ナンバリング MUS3002M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻

—

履修条件

声楽専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

授業の概要

声楽が他の演奏分野と決定的に違うのは、音楽に言葉が付属している点にある。この授業では歌詞の理解と、その歌詞に音楽をつけた作曲家の意図を探っていく。歌唱する上で声を鍛錬することは重要だが、音楽表現を追究することも同様にとっても大切なことである。ただ歌うだけの演奏ではなく、きちんと曲を理解することで、演奏する上での表現力を引き出すプロセスと一緒に学んでいく。

前半は全4期に分類されている日本歌曲の作曲家の作品を取り上げ、後半はオペラの代表的作品であるモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》を登場人物に分けて解釈していく。

授業の到達目標

楽譜と歌詞の両面から理解を深めることで、曲に込められた想いを読み取り、演奏する上での土台を作れるようになることができる。

授業計画

1. 導入：日本歌曲の変遷について、担当曲決め
2. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品①瀧廉太郎
3. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品②第1期のその他の作曲家
4. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品①山田耕筰
5. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品②第2期のその他の作曲家
6. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品①中田喜直
7. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品②第3期のその他の作曲家
8. 日本歌曲：第4期の代表的な作曲家と作品
9. オペラ：モーツァルト作曲《フィガロの結婚》における原作と台本
10. オペラ：フィガロの人物像と音楽
11. オペラ：スザンナの人物像と音楽

12. オペラ：伯爵の人物像と音楽
13. オペラ：伯爵夫人の人物像と音楽
14. オペラ：ケルビーノの人物像と音楽
15. オペラ：その他の役柄の人物像と音楽、授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題提出・発表の際に、個別（グループ）に指導と総評を行う。

授業時間外の学習

日本歌曲においては、1人1曲を担当し、作曲家と作詞家の関係性や歌詞の意味等を調べておくこと。オペラにおいては《フィガロの結婚》のあらすじや登場人物について予習しておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に毎回楽譜とプリントを配布する。

成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果30%、レポート20%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み・受講態等に問題がある者）

科目名 演奏解釈 (3) 室内楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 寺岡 有希子

科目
ナンバリング MUS3003M

学位授与方針
との関係 DP①②

期間 前期

他専攻

—

履修条件

弦楽器専修必修。他専修の履修も可。

授業の概要

この授業は他の専修学生にも広く開放している。古典派の弦楽による室内楽作品を中心とするが、履修者の状況により、ピアノ、管楽器等も含まれる作品も取り上げ授業を進めていく。

授業形態としては学生の演奏を基本とし、作曲家とその作品に対してより知識を深め、「演奏」という実践にどのようにしたら結び付いていくか考えていく。学生全員参加の活発な意見交換の場になるよう、望んでいる。

授業の到達目標

スコアから作曲家の意図するものをはじめ、様々なことを読み取ることができる。またそれらを表現につなげていくことができる。

授業計画

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの弦楽による室内楽作品を基礎課題とするが、履修者の状況を考慮しつつ様々な形態（例えば、フルート四重奏曲やピアノ五重奏曲等）の室内楽作品を取り上げていく。

1. 導入および曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. 各グループによる研究発表と演奏：バッハ・ハイドン等①
4. 各グループによる研究発表と演奏：バッハ・ハイドン等②
5. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等①
6. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等②
7. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等③
8. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等④
9. 各グループによる研究発表と演奏：モーツァルト・ベートーヴェン等⑤
10. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等①
11. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等②

12. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等③
13. 各グループによる研究発表と演奏：シューベルト・メンデルスゾーン・ブラームス等④
14. 各グループによる研究発表と演奏：バルトーク等
15. 全体合奏

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏発表時に、個別（グループ）に指導・フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業で演奏するメンバーは事前にリハーサルをしておくこと。また、その曲の作曲者についてや作曲された背景、各自の楽器の詳細についても調べておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題となる曲のスコアをプリントして配布するので、必ず授業に持参すること。

成績評価

成績評価については、授業態度40%、課題への取り組み30%、発表・演奏への積極性30%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 音楽理論 [楽式] I ①

授業形態

講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 宍戸 里佳

科目ナンバリング MUS3013M

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。

授業の概要

音楽形式の基礎。バロック・古典派の主な形式についての説明を行い、楽曲の分析を試みる。

授業は講義形式で行うが、自分の頭で考え、授業に積極的に参加することが求められる。

授業の到達目標

音楽形式の基本を理解し、簡単な楽曲を自分で分析できる。

授業計画

1. 音楽形式とは
2. 動機と形式
3. 二部形式 (バッハ)
4. 三部形式 (シューマン)
5. 二部形式・三部形式のまとめ
6. 複合三部形式①モーツァルト
7. 複合三部形式②ベートーヴェン
8. ロンド形式①ベートーヴェン (1曲目)
9. ロンド形式②ベートーヴェン (2曲目)
10. ロンド形式③モーツァルト
11. ソナタ形式①ベートーヴェン (1曲目)
12. ソナタ形式②ベートーヴェン (2曲目)
13. ソナタ形式①モーツァルト (1曲目)
14. ソナタ形式②モーツァルト (2曲目)
15. 前期まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

提出課題は採点のうえ返却を行う。

授業時間外の学習

予習：知らない曲は、事前にCD等で聴いておくこと。

復習：次の授業までに、一度は授業内容に目を通しておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリント配布。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み等30%、学期末試験70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解・取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解・取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽理論 [楽式] II ①

授業形態

講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 宍戸 里佳

科目ナンバリング MUS4012M

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。
「音楽理論 [楽式] I」の単位を修得していること。

授業の概要

音楽形式の基礎。バロック・古典派の主な形式についての説明を行い、楽曲の分析を試みる。

授業は講義形式で行うが、自分の頭で考え、授業に積極的に参加することが求められる。

授業の到達目標

音楽形式の基本を理解し、簡単な楽曲を自分で分析できる。

授業計画

1. 前期の復習
2. 変奏曲形式①モーツァルト (1曲目)
3. 変奏曲形式②モーツァルト (2曲目)
4. 変奏曲形式③モーツァルト (3曲目)
5. 変奏曲形式④ベートーヴェン
6. フーガ形式 (バッハ) ① 2声
7. フーガ形式 (バッハ) ② 3声
8. フーガ形式 (バッハ) ③ 2声・3声
9. フーガ形式 (バッハ) ④ 4声
10. 歌曲の分析①イタリア戯曲
11. 歌曲の分析②ベートーヴェン
12. 歌曲の分析③シューマン
13. 自由形式 (モーツァルト等) ① 1曲目
14. 自由形式 (モーツァルト等) ② 2曲目
15. 後期まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

提出課題は採点のうえ返却を行う。

授業時間外の学習

予習：知らない曲は、事前にCD等で聴いておくこと。

復習：次の授業までに、一度は授業内容に目を通しておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリント配布。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み等30%、学期末試験70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解・取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解・取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽理論 [楽式] I ②

授業形態

講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

—

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目
ナンバリング

MUS3013M

学位授与方針
との関係

DP①③

期間 前期

他専攻

◎

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。

授業の概要

この授業では、西洋音楽作品の形式構造を分析する方法を学ぶ。具体的な作品を用いて伝統的な形式の「型」を学びながら、その一方で、主題の取り方や区分の仕方は分析者によって異なることを、実践を通して理解する。自分の力でその楽曲に適した分析方法を見つけ、構造を把握する力を高める。

「音楽理論 [楽式] I」では、二部形式、三部形式、ロンド形式、ソナタ形式を学ぶ。それらに先立ち、動機、小楽節、大楽節の捉え方の感覚を身につける。

なお、履修者の理解度および学内行事スケジュールに応じて、授業の順序や内容を変更する場合がある。

授業の到達目標

- ・ 楽曲分析の重要性を実感し、なぜそれが重要なのかを自分の言葉で説明できるようになる。
- ・ 楽譜から自分で楽曲構造を分析することができるようになる。

授業計画

1. 楽曲分析の目的、音楽の特徴の把握、動機
2. 音楽の区切りの感覚、小楽節、大楽節
3. 二部形式①
4. 二部形式② (調的構造の把握等)
5. 三部形式①
6. 三部形式② (「二部形式」と「三部形式」の違い等)
7. 学習到達度の確認 (テスト)
8. テスト問題の解説
9. ロンド形式①
10. ソナタ形式①
11. ソナタ形式② (「展開部」の特徴等)
12. ソナタ形式③ (「推移主題」について等)
13. ソナタ形式④ (「副主題」について等)

14. ロンド形式② (リトルネロ形式、ロンド・ソナタ形式等)
15. 学習到達度の確認 (テスト②)

学生に対する教員からのフィードバック方法

講義内で随時質疑を受け付け、都度応答する。テストの答案用紙は、採点后、返却する。テスト問題の解説に各々1回分の講義時間を割く他、Classroomにも分析事例をアップロードする。その他、質問等があれば、随時メールにて受け付ける。

授業時間外の学習

- ・ 譜面を頭の中で鳴らす訓練を日々行うことを強く推奨する。音を聴きながら楽譜を追えない、もしくは、楽譜を見てもその音楽を頭の中で想像するのが難しい場合には、事前に楽譜を聴き込んでおくのが望ましい (授業で取り扱う予定の楽曲リストは、初回で提示する)。
 - ・ 授業で扱った (扱う) 楽譜を、専攻の如何に問わず、ピアノで弾いてみることを強く推奨する。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・ 授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。
- ・ 授業で扱った (扱う) 楽譜は入手するのが望ましい。

成績評価

2回のテストの合計点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽理論 [楽式] II ②

授業形態

講義

対象 音楽専攻
2年

単位数 2

実務経験

—

キャップ制
対象外

担当教員 池原 舞

科目
ナンバリング

MUS4012M

学位授与方針
との関係

DP①③

期間 後期

他専攻

◎

—

履修条件

日本音楽専修以外は必修。「音楽理論 [楽式] I」の単位を修得していること。

授業の概要

この授業では、西洋音楽作品の形式構造を分析する方法を学ぶ。具体的な作品を用いて伝統的な形式の「型」を学びながら、その一方で、主題の取り方や区分の仕方は分析者によって異なることを、実践を通して理解する。自分の力でその楽曲に適した分析方法を見つけ、構造を把握する力を高める。

「音楽理論 [楽式] II」では、ソナタ形式、変奏曲形式、カノン、フーガ、舞曲、組曲を学ぶ。また、複雑な形式を持つソナタや、一般に「自由なソナタ形式」と分析されるような楽曲について、従来の見方を再考し、音楽分析の目的に合わせて、必要な分析観点を抽出する方法についても議論する。

なお、履修者の理解度および学内行事スケジュールに応じて、授業の順序や内容を変更する場合がある。

授業の到達目標

- ・ 楽曲分析の重要性を実感し、なぜそれが重要なのかを自分の言葉で説明できるようになる。
- ・ 楽譜から自分で楽曲構造を分析することができるようになる。

授業計画

1. テスト問題の解説
2. 変奏曲形式
3. カノン
4. フーガ①
5. フーガ② (区分について等)
6. フーガ③ (声部の多いフーガ等)
7. 舞曲、組曲
8. 学習到達度の確認 (テスト)
9. テスト問題の解説
10. 「自由なソナタ形式」再考
11. 複雑なピアノ・ソナタ①

12. 複雑なピアノ・ソナタ② (ナラティブ分析)
13. 分析実践 (個別)
14. 標題音楽の分析
15. 提出課題の返却 (個別)

学生に対する教員からのフィードバック方法

講義内で随時質疑を受け付け、都度応答する。テストの答案用紙は、採点后、返却する。テスト問題の解説に各々1回分の講義時間を割く他、Classroomにも分析事例をアップロードする。「音楽理論 [楽式] II」での任意課題による個別の分析実践においては、最終回にて個別にフィードバックを行う。その他、質問等があれば、随時メールにて受け付ける。

授業時間外の学習

- ・ 譜面を頭の中で鳴らす訓練を日々行うことを強く推奨する。音を聴きながら楽譜を追えない、もしくは、楽譜を見てもその音楽を頭の中で想像するのが難しい場合には、事前に楽譜を聴き込んでおくのが望ましい (授業で取り扱う予定の楽曲リストは、初回で提示する)。
 - ・ 授業で扱った (扱う) 楽譜を、専攻の如何に問わず、ピアノで弾いてみることを強く推奨する。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・ 授業で配布するレジュメの末尾に、参考文献一覧を掲載する。
- ・ 授業で扱った (扱う) 楽譜は入手するのが望ましい。

成績評価

1回のテストと、冬期休暇前後に課す、任意課題による分析実践の合計点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 S.H.M.Ⅲ・Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1・1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

科目ナンバリング MUS3130M/
4130M

学位授与方針
との関係 DP①④

期間 前期・後期

他専攻 —

—

履修条件

音2必修。「S.H.M.I・II」の単位を修得していること。
各自、能力を向上させる努力を常に実践すること。遅刻をせずに、きちんと出席すること。

- ・多様な調への挑戦
- ・転調を伴う課題における調の判定
- ・移調奏
- ・多様な音階による課題

授業の概要

授業内容は「S.H.M.I・II」の延長上にある。
能力に応じて、基礎力の充実からより音楽的な応用まで、各自力をつけていく。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業の到達目標

音楽実践に必要な基礎的能力を高め、幅広く優れた音楽性を身につけることができる。

授業時間外の学習

各クラスの教員の指示に従い自習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

授業計画

前期は1年次の成績により、能力別クラス編成で授業を行う。
前期終わりに後期のためのクラス分けテストを行う。
[主な授業項目(クラスにより内容・進度は異なる)]

- ・多様なリズムの習得
- ・多様な拍子の理解
- ・ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号の理解
- ・正しい読譜による初見視唱の練習
- ・正確な音程を身につける
- ・より高度なメロディの書き取り
- ・2声、3声等同時に鳴る音への理解
- ・種類の違う和音がもたらす響きの色彩を感じ取る
- ・和音の機能の理解と聴き分け
- ・四声体の書き取り、その重唱

教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

成績評価

学年末に実施する一斉テストで単位評価する。(出席は3分の2以上満たすことが必須)

S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 指揮法I

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 福永 一博

科目ナンバリング MUS3100M

学位授与方針
との関係 DP③④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

指揮、指揮することに興味を持つ者。
教職受講者は必修。

12. 実習：「コンコーネNo.2」
13. 裏拍を表現する方法—引っ掛け／数取り／様々な中間予備運動／「コンコーネNo.4」
14. 実習：「コンコーネNo.4」
15. 前期の総復習／「コンコーネNo.10」

授業の概要

指揮者は、音楽の表現者である。自ら音を出すことのできない指揮者が、最も的確かつ雄弁に音楽を語り得る手段が、指揮法である。本授業では、桐朋学園大学で長らく指揮法を教え、数多くの名指揮者を輩出した斉藤秀雄先生の著した「指揮法教程」の考え方をベースに、オーケストラ・吹奏楽・合唱等あらゆるジャンルに共通する基本的な指揮の技法を体得する。また、培った指揮の技法を、コンコーネや合唱曲等、実際の作品を用いて演習する。基本的に週ごとに講義回→実習回に分けて行い、実習回では2つのグループに分かれてグループ演習を行う。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習の後に個々に指導を行う。

授業の到達目標

自分の音楽的意図を、指揮を通じて表現できるようになる。

授業時間外の学習

指揮法の習得には技術的鍛錬が大切である。したがって課題実習のための練習を十分に行うことが求められる。
これらの学修に30時間以上を要する。

授業計画

1. ガイダンス(授業の概要、進め方、参考書、指揮棒についての説明)
2. 指揮者の歴史、役割／指揮法の大原則／叩きの運動(脱力)
3. 実習：叩きの運動／指揮棒の持ち方／指揮法用語
4. 叩きの図形／平均運動について
5. 実習：叩きの図形・平均運動
6. 平均運動の図形／しゃくいの運動／しゃくいの図形
7. 実習：平均運動の図形
8. 実習：しゃくいの図形
9. 演奏を開始するために①—予備運動・中間予備運動／演奏を終止するために／デュナーミクを表現するために①／アコーギクを表現するために①
10. 実習：「ふるさと」
11. 演奏を開始するために②—様々な予備運動／引き延ばし運動／デュナーミクを表現するために②／「コンコーネNo.2」

教科書・参考書等

参考書：斉藤秀雄著「指揮法教程」(音楽之友社)
高階正光著「指揮法入門」(音楽之友社)
指揮棒を用意すること(1回目に指示)。

成績評価

成績評価は、授業への取り組み30%、受講態度30%、発表40%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組みに問題があった者)

科目名 指揮法Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 福永 一博

科目ナンバリング MUS4100M

学位授与方針との関係 DP③④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

指揮、指揮することに興味を持つ者。
教職受講者は必修。
「指揮法Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

指揮者は、音楽の体現者である。自ら音を出すことのできない指揮者が、最も的確かつ雄弁に音楽を語り得る手段が、指揮法である。本授業では、桐朋学園大学で長らく指揮法を教え、数多くの名指揮者を輩出した斉藤秀雄先生の著した「指揮法教程」の考え方をベースに、オーケストラ・吹奏楽・合唱等あらゆるジャンルに共通する基本的な指揮の技法を体得する。また、培った指揮の技法を、コンコーネや合唱曲等、実際の作品を用いて演習する。基本的に週ごとに講義回→実習回に分けて行い、実習回では2つのグループに分かれてグループ演習を行う。

授業の到達目標

自分の音楽的意図を、指揮を通じて表現できるようになる。

授業計画

1. 実習：「コンコーネNo.10」
2. 6拍子／アゴーギクを表現するために②一分割／演奏を停止するために（3種類のフェルマータ）／「コンコーネNo.16」
3. 実習：6拍子／フェルマータの短曲実習
4. 実習：「コンコーネNo.16」
5. 先入法／二段叩き／様々な変拍子
6. 実習：先入法／二段叩き／変拍子の短曲実習
7. 円運動①（一拍三分割の技法）
8. 実習：「美しく青きドナウ」
9. 円運動②（一拍三分割の技法）
10. 実習：「浜辺の歌」「無言歌」
11. 跳ね上げ—短曲実習

12. 左手の使用法／「森へ行きましょう」
13. 実習：「森へ行きましょう」
14. 総まとめ／「夏の思い出」
15. 実習：「夏の思い出」

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習の後に個々に指導を行う。

授業時間外の学習

指揮法の習得には技術的鍛錬が大切である。したがって課題実習のための練習を十分に行うことが求められる。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：斉藤秀雄著「指揮法教程」（音楽之友社）
高階正光著「指揮法入門」（音楽之友社）
指揮棒を用いること。

成績評価

成績評価は、授業への取り組み30%、受講態度30%、発表40%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組みに問題があった者）

科目名 室内楽A a

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

科目ナンバリング MUS3240M

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

2年生前期におかれる選択科目。
積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲・ピアノ五重奏曲を中心に引き上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

授業の到達目標

- ・様々な時代および編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術の基礎を確立できる。
- ・楽器を通してのコミュニケーション力を身につけることができる。
- ・古典から近現代までの様々な様式・形式を学ぶことができる。

授業計画

1. 導入、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽（ピアノ・弦楽器を中心に）モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽（ピアノ・弦楽器を中心に）モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽（ピアノ・弦楽器を中心に）モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽（ピアノ・弦楽器を中心に）モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽（ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に）メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽（ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に）メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽（ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に）メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等③

9. 近現代の室内楽（様々な楽器を含む）①
10. 近現代の室内楽（様々な楽器を含む）②
11. 近現代の室内楽（様々な楽器を含む）③
12. 声楽を含む室内楽①
13. 声楽を含む室内楽②
14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別（グループ）に指導・フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。また、お互いの楽器の特徴等も調べておくこと。
日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲。
ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。
モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

成績評価

成績評価については、演奏曲目の下調べ30%、各自の練習40%、授業態度30%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 室内楽A b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 北本 秀樹

科目ナンバリング MUS3240M

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

室内楽に興味と意欲のある学生。

授業の概要

あなたが今演奏してみたい室内楽。
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

授業の到達目標

- ・作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- ・アンサンブル能力の向上。

授業計画

1. 導入・ガイダンス
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫
14. アンサンブル実習⑬
15. 発表演奏

第1回目はガイダンス。2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

口頭で行う。

授業時間外の学習

各自十分な練習を行うこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

出席、授業態度、授業への取り組みを重視する。成績評価については、出席および授業参加への積極性80%、授業態度20%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・授業への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・授業への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・授業への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・授業への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽B a

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 阪本 奈津子

科目ナンバリング MUS4241M

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

授業計画

1. 導入および曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレー징の注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性ー弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品
12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品

13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品
 14. ドヴォルザーク②ピアノを含む室内楽作品
 15. まとめと確認
- ※専攻楽器の種類によって、変更あり。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別(グループ)に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組み姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽B b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 蓼沼 恵美子

科目
ナンバリング MUS4241M

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の学生の履修も可。

授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性を踏まえた上で、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な演奏技術や表現法を実践で学ぶ。

演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

具体的には以下の点を到達目標とする。

- ・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。
- ・各々の楽器との響きの融合を考えた音作りができる。
- ・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。
- ・楽曲の様式や作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

授業計画

1. オリエンテーションおよび曲目とメンバーの決定
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩

12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫
14. アンサンブル実習⑬
15. アンサンブル実習⑭

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。
※試験期間中に発表演奏会を行う。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に指導・フィードバックを行う。

授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。事前に音源を聴いたり、スコアを見る等、他のパートにも目を向けておくこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力等に問題がある者)

科目名 室内楽B c

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 吉岡 次郎

科目
ナンバリング MUS4241M

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

授業の概要

フルートを中心とする二重奏～複数のアンサンブルを基盤に、レパートリー修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。

並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催し、そこで様々な対応力を学ぶ。

授業の到達目標

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性等を習得する。

初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力等を習得する。

授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
2. 学習曲目の検討および組み合わせと初見演奏実習①
3. アンサンブル実習、初見実習②
4. アンサンブル実習、初見実習③
5. アンサンブル実習、初見実習④
6. アンサンブル実習、初見実習⑤
7. アンサンブル実習、初見実習⑥
8. アンサンブル実習、初見実習⑦
9. アンサンブル実習、初見実習⑧
10. アンサンブル実習、初見実習⑨
11. アンサンブル実習、初見実習⑩
12. アンサンブル実習、初見実習⑪
13. アンサンブル実習、初見実習⑫

14. アンサンブル実習、初見実習⑬
15. アンサンブル発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

各回の初見実習の発表後に総評を行い、必要な場合は個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽Bd

授業形態 演奏(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 菊池 奏絵

科目ナンバリング MUS4241M

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

楽譜を見ただけで正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣等に興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、実践を通して学んでいく。時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現在の実践現場から見えてくる様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えていく可能性あり。演奏の実践を中心に進めるが、講義も取り入れながら総合的に学んでいく。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

授業の到達目標

バロック時代の音楽の演奏法を理解、習得し、どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考えることができる。また、バロック時代の影響を受けているその後の作曲家への理解も深まり、あらゆる時代の音楽と関連付けることができる。

授業計画

1. 歴史的知識に基づく演奏とは
2. 楽譜について
3. アンサンブル組み
4. バロック時代周辺の楽器について
5. 演奏習慣について
6. 通奏低音 ①数字の理解
7. 通奏低音 ②基本形
8. アンサンブル中間発表
9. 装飾法 ①フランス様式

10. 装飾法 ②イタリア様式
11. 舞曲、組曲について
12. 当時の文献を読む
13. 音楽修辭学について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業演奏時に個別・グループにアドバイス、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を図書館等を利用して、自分なりにやってくる。個人練習、グループでの練習を十分にしてくること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介する。

成績評価

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし、総合的に評価する。
S 総合点90点以上(積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる)
A 総合点80点以上(積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化が見られる)
B 総合点60点以上(積極的に取り組み、演奏に生かそうとする)
C 総合点50点以上(程よく取り組み、程よく演奏する)
D 総合点50点未満(取り組み姿勢に欠け、演奏の変化が見られない)

科目名 伴奏法Ⅱ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 揚原 さとみ

科目ナンバリング MUS3201M

学位授与方針との関係 DP①④

期間 前期

他専攻

履修条件

「伴奏法Ⅰ」の単位を修得していること。
教職課程受講者(日本音楽専修除く)は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、教育現場で活かせるように研究していく。具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に適したピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法等を理解し、実践形式で習得していく。「伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎を発展・展開していきたい。

教職課程必修科目のため対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

授業の到達目標

- ・教育場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏ができる。
- ・効果的なピアノ伴奏ができる音感を養うことができる。
- ・コードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス・初見の基礎
2. 初見の練習
3. 初見のピアノ伴奏と即興伴奏付け
4. ピアノ連弾①呼吸を合わせる練習
5. ピアノ連弾②アーティキュレーションを合わせる練習
6. コードネーム①3和音について
7. コードネーム②4和音について
8. コードにおける伴奏付け①筆記編
9. コードにおける伴奏付け②演奏編
10. 弾き語り①斉唱曲(音量バランスに注目する練習)
11. 弾き語り②合唱曲(楽曲分析を伴奏に活かす練習)
12. スコアリーディング(弦楽曲を用いた要約ピアノ演奏)
13. 課題曲レッスン(前半)

14. 課題曲レッスン(後半)
15. 授業の総括

※受講生の人数や社会情勢等により、内容変更の可能性があります。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回課題が出されるので、予習・復習に努めること。グループやペアを組んでのレッスンは、お互いに協力を深め練習すること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参すること。
授業時に楽譜やプリントを配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み60%、実技レッスンと発表40%の配分で総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、発表未受験者、受講態度に問題がある者)

科目名 楽器法 (和楽器)

授業形態

講義

対象 音楽専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 花岡 操聖

科目ナンバリング MUS1001M

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

日本音楽専修生必修。
他専攻でも興味のある学生は、積極的に履修してほしい。

授業の概要

数多ある日本古来の楽器・和楽器を見て聴くだけでなく、歴史や構造を学んでいく。ここでは、箏・三味線・尺八・笛・琵琶について取り上げる。楽器の成り立ちや歴史の理解を深めることは、演奏上だけでなく、アウトリーチや教育現場等幅広い場面で役立つに違いない。日本音楽専修以外の履修者がいれば、洋楽器との合奏も取り上げられるよう工夫する。

授業の到達目標

それぞれの楽器の特徴を理解し、最終的には自分が専門とする楽器についてより深く解説することができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス
 2. 箏—歴史と構造
 3. 尺八—歴史と構造
 4. 尺八—琴古流と都山流
 5. 箏と尺八—合奏
 6. 三味線—地歌三味線
 7. 三味線—津軽三味線
 8. 箏—山田流箏曲
 9. 雅楽—笙
 10. 笛—歴史と構造
 11. 琵琶—薩摩琵琶もしくは筑前琵琶
 12. 琵琶—平家琵琶
 13. 囃子—小鼓
 14. 様々な邦楽器による現代的アプローチ
 15. まとめ—学生による成果発表
- ※ 1. ～ 13.の内容については、順番が前後する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に振り返りとして、総評を行う。

授業時間外の学習

特にないが、合奏の際は個人練習をしっかりとすること。
これらの学修に30時間以上を要する

教科書・参考書等

その都度、配布する。

成績評価

授業への取り組み姿勢80%、成果発表20%を合わせて総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

Toho Gakuen College of Drama and Music

芸術科演劇専攻

科目名 基礎演劇演習 A a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 越光 照文

科目
ナンバリング THE1230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

a組必修。
授業時間外での予習・復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの2つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機付けと学習習慣を確立させることを目的とする。
そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマの元に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノログドラマ」として完成させるという方法をとる。
加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。
なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

授業の到達目標

- 「自画像を演ずる」というテーマの元に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へ向けてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
8. 「シーンワーク」の本読み③関係
9. 「シーンワーク」のオーディション
10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル

13. 「シーンワーク」の作品発表
14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 「シーンワーク」：日々の授業および集中稽古期間における戯曲解釈、演技指導のコメント。
- 「自画像」の創作：「自画像」の上演台本および演出・演技へのコメント。

授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」はグループでの自主稽古を徹底しておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：井上ひさし「化粧」井上ひさし全芝居その三（新潮社）
宮本研「ブルーストッキングの女たち」宮本研戯曲集第六巻（白水社）
教科書・教材は授業初日に配布。

成績評価

- 毎回の授業への取り組み50%、発表内容の質50%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 90点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる）
- A 80点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる）
- B 60点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる）
- C 50点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した）
- D 49点以下の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない）

科目名 基礎演劇演習 A b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目
ナンバリング THE1230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

- b組必修
- 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋（地下足袋は不可）を着用すること。
- 授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。

授業の概要

毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

授業の到達目標

- 課題戯曲の研究、完成と発表から演劇における「声」と「身体」の扱い方を知ることができる。
- 上演した成果から一人一人の新たな問題点・課題を発見することができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古（前半）
4. トレーニング④集中・読み稽古（後半）
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャスティング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古（前半）
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古（後半）
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 上演（1班）・反省／課題
12. 上演（2班）・反省／課題
13. 上演（3班）・反省／課題
14. 上演（4班）・反省／課題

15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
- グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
- 演技発表会后、全員で収録映像を確認し、個々へのチェック（良い点、悪い点、改善点）を伝える。
※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- 与えられた課題の台詞を入れる。
 - 稽古を行う中で「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
 - 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、準備すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時に配布（戯曲）
参考書：随時授業時に配布。

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者（基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない）

科目名 基礎演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング THE1230T

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

c組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。

以上を通じて「役になる」のではなく「役を演じる」ことを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から、演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術：全身、宿題：人間観察全身物まね、星の王子さま紹介
3. シアターゲーム、基本技術：手、宿題：人間観察手物まね、星の王子さまを読む
4. シアターゲーム、基本技術：足、宿題：人間観察足物まね、星の王子さま

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、星の王子さま
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、星の王子さま
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、星の王子さま
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、星の王子さま
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、星の王子さま
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、星の王子さま
11. シーンワーク、星の王子さま
12. 稽古、星の王子さま
13. 稽古、星の王子さま
14. 発表会、星の王子さま
15. 反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」(英語版)

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習 A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング THE1230T

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

d組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけて自主的に取り組むこと。

授業の概要

演技を技術として学ぶ。戯曲を読み解き、場面として起こし、発表に至る過程でプロの俳優の作業を実践し、更に癖を見極め個性を引き出していく。

授業の到達目標

舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し、明確な目標を持つことができる。

授業計画

1. 授業の導入、シアターゲーム
2. 課題作品発表、シアターゲーム
3. 作品についての話し合い、本読み
4. オーディション
5. 配役発表、読み合わせ
6. 読み合わせ、作品についての話し合い
7. 立ち稽古①空間の把握
8. 立ち稽古②目的、行動の明確化
9. 立ち稽古③人物の要求の強さを上げる
10. 立ち稽古④セリフを身体から外す
11. 立ち稽古⑤作品の中での人物の変遷
12. 通し稽古：相手を動かすことの再認識
13. 通し稽古：照明や音響を入れた演技
14. 発表
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。身体からセリフが離れる感覚を得るまでセリフを入れる。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②自分の問題と向き合ったか10%③座組の一員としての姿勢10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

- S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 基礎演劇演習 B a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング THE1231T

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

a組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。

以上を通じて「役になる」のではなく「役を演じる」ことを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から、演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術：全身、宿題：人間観察全身物まね、星の王子さま紹介
3. シアターゲーム、基本技術：手、宿題：人間観察手物まね、星の王子さまを読む
4. シアターゲーム、基本技術：足、宿題：人間観察足物まね、星の王子さま

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、星の王子さま
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、星の王子さま
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、星の王子さま
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、星の王子さま
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、星の王子さま
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、星の王子さま
11. シーンワーク、星の王子さま
12. 稽古、星の王子さま
13. 稽古、星の王子さま
14. 発表会、星の王子さま
15. 反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」(英語版)

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習 B b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング THE1231T

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

b組必修。与えられた課題に十分な時間をかけて自主的に取り組むこと。

授業の概要

演技を技術として学ぶ。戯曲を読み解き、場面として起こし、発表に至る過程でプロの俳優の作業を実践し、更に癖を見極め個性を引き出していく。

授業の到達目標

舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し、明確な目標を持つことができる。

授業計画

1. 授業の導入、シアターゲーム
2. 課題作品発表、シアターゲーム
3. 作品についての話し合い、本読み
4. オーディション
5. 配役発表 読み合わせ
6. 読み合わせ、作品についての話し合い
7. 立ち稽古①空間の把握
8. 立ち稽古②目的、行動の明確化
9. 立ち稽古③人物の要求の強さを上げる
10. 立ち稽古④セリフを身体から外す
11. 立ち稽古⑤作品の中での人物の変遷
12. 通し稽古：相手を動かすことの再認識
13. 通し稽古：照明や音響を入れた演技
14. 発表
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。身体からセリフが離れる感覚を得るまでセリフを入れる。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②自分の問題と向き合ったか10%③座組の一員としての姿勢10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

- S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 基礎演劇演習Bc

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 越光 照文

科目
ナンバリング THE1231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

c組必修。
授業時間外での予習・復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの2つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機付けと学習習慣を確立させることを目的とする。
そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマの元に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノログドラマ」として完成させるという方法をとる。
加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。
なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

授業の到達目標

- 「自画像を演ずる」というテーマの元に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へ向けてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
8. 「シーンワーク」の本読み③関係
9. 「シーンワーク」のオーディション
10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル

13. 「シーンワーク」の作品発表
14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 「シーンワーク」：日々の授業および集中稽古期間における戯曲解釈、演技指導のコメント。
- 「自画像」の創作：「自画像」の上演台本および演出・演技へのコメント。

授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」はグループでの自主稽古を徹底しておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：井上ひさし「化粧」井上ひさし全芝居その三（新潮社）
宮本研「ブルーストッキングの女たち」宮本研戯曲集第六巻（白水社）
教科書・教材は授業初日に配布。

成績評価

毎回の授業への取り組み50%、発表内容の質50%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
S 90点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる）
A 80点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる）
B 60点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる）
C 50点以上の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した）
D 49点以下の者（授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない）

科目名 基礎演劇演習Bd

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目
ナンバリング THE1231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

- d組必修
- 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋（地下足袋は不可）を着用すること。
- 授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。

授業の概要

毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱ひ方を課題の中で学習していく。

授業の到達目標

- 課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- 上演した成果から一人一人の新たな問題点・課題を発見することができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古（前半）
4. トレーニング④集中・読み稽古（後半）
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古（前半）
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古（後半）
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 上演（1班）・反省/課題
12. 上演（2班）・反省/課題
13. 上演（3班）・反省/課題
14. 上演（4班）・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
- グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
- 演技発表会後、全員で収録映像を確認し、個々へのチェック（良い点、悪い点、改善点）を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

与えられた課題の台詞を入れる。
稽古を行う中で「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、準備すること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時に配布（戯曲）
参考書：随時授業時に配布。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取り組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
S 総合点が90点以上の者（基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる）
A 総合点が80点以上の者（基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる）
B 総合点が60点以上の者（基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる）
C 総合点が50点以上の者（基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない）
D 総合点が49点以下の者（基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない）

科目名 身体トレーニング a b c d

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 山本 光二郎

科目
ナンバリング THE1330T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻

履修条件

必修。カラダを動かすことを厭わない者。

授業の概要

カラダで表現することに気付き、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることを目的とする。

- ・カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。
- ・ダンスカンパニーコンドルズの持つ不思議な世界を紹介する。そこから舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。
- ・楽器を使える人、声を使える人はコンテンポラリーダンスを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

授業の到達目標

カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

授業計画

1. 授業の導入。
2. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ①基本
3. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ②基本
4. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ③基本
5. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ④応用
6. ストレッチする・カラダで遊んでみる・踊るを遊ぶ⑤応用
7. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ①基本
8. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ②基本
9. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ③応用
10. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。
雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ④応用

11. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる①稽古
12. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる②稽古
13. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる③稽古
14. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる④仕上げ
15. コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる⑤発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業ごとに、個々もしくはグループへの動き、演技、演出に対するフィードバックをする。

授業時間外の学習

授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

動きやすい、床に転がってもよい服装。裸足もしくは靴下。

成績評価

授業への取り組み重視90%、レポート提出10%を100点に換算する。
S: 90点以上の者
A: 80点以上の者
B: 60点以上の者
C: 50点以上の者
D: 49点以下の者

科目名 ボイス・トレーニング (歌唱) a b

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 藍澤 幸頼

科目
ナンバリング VOM1310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

- ・ a b 組必修。
- ・ 授業課題を稽古に、積極的に取り組むこと。
- ・ 額を出し、体の線が出る服を着用すること。

授業の概要

声を出す準備として、姿勢や癖の有無を見つめ直し、身体をニュートラルな状態にする。発声訓練により、声の通り道・声の高低・筋肉を意識することによって、呼吸法を学ぶ。詩の暗唱によって、演劇的表現にふさわしい語感を学び、メロディーに語感を乗せる。

授業の到達目標

- ・ 演劇人としてのニュートラルな身体と発声表現の基礎を身につけることができる。
- ・ 個々の声の状態を把握し、コントロールする能力を身につけることができる。

授業計画

1. 演劇人としての心構え・発声訓練の基礎・自己紹介
2. 発声訓練・自己紹介
3. 発声訓練・個人歌唱①
4. 発声訓練・個人歌唱②
5. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練①
6. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練②
7. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練③
8. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練④
9. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練⑤
10. 詩の暗唱による語感表現・発声訓練⑥
11. 歌唱表現・発声訓練①

12. 歌唱表現・発声訓練②
13. 個人発表試験・発声訓練①
14. 個人発表試験・発声訓練②
15. 講評・発声訓練

※授業内容に関しては、その進行具合により、変更することがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

個々の発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・ 授業で学んだ呼吸法、発声訓練
 - ・ 課題の暗唱、暗譜
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

上田敏「海潮音—上田敏訳詞集」(新潮文庫)
高村光太郎「高村光太郎詩集」(岩波文庫)
ミュージカル「レ・ミゼラブル(最新版)」(ハル・レナード社/ミュージカルヴォーカルセレクション)
ピアノヴォーカルセレクション「ミス・サイゴン2004年キャスト版」(WATANABE)

成績評価

心身の健康管理(出席率を含む) 25%、授業への取り組み(個々の進歩・真摯な姿勢) 25%、発表内容の到達度50%の配分で、総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ボイス・トレーニング(歌唱) c d

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 信太 美奈

科目
ナンバリング VOM1310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

- 必修。
素直に何でもトライしたい意欲のある者。
顔面が見えるヘアスタイルで参加。

授業の概要

- 芝居のため、歌のための呼吸・筋肉・声の出し方・歌い方等を学ぶ。
「ヴォイス」声とはどんな物なのかを知る。
声と心と筋肉の関係を知る。
声について色々な角度から試す。

授業の到達目標

- 芝居・歌において、身体を使った声で舞台上立つことができる。
- 完全にはできなくとも、意識は持つことができる。
- 筋肉と感情がコントロールできる。

授業計画

1. 自己紹介①(ひとりひとり歌ってもらう)
2. 自己紹介②(ひとりひとり歌ってもらう)
3. 呼吸と声
4. 声と筋肉と心①
5. 声と筋肉と心②
6. 発声と感情
7. 身体の意識
8. 発声をしながら気持ちを出す①
9. 発声をしながら気持ちを出す②
10. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する①
11. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する②
12. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する①
13. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する②

14. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する③
15. 課題出して試験、まとめ
※予定通りに進まない場合もある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・授業中の発表の後に総評する。
- ・ひとりひとり、発声している時にチェックしてアドバイスする。

授業時間外の学習

- 授業でやったことを必ず復習。次の授業の時にはそれが無意識でもできるようにしてくる。
たくさんの音楽を聞く。たくさんの舞台人の声を聞く。
他の授業でも、この授業で習ったことを利用して、コラボしようように。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 授業中にプリントあるいは楽譜を配布。

成績評価

- 授業態度・課題への取組み(予習・復習)80%、課題の成果20%を元に総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者(意欲があり、課題の予習・復習をしっかり行い成果がある者)
A 総合点が80点以上の者(意欲があり、課題をやってまあまあ成果が見られた者)
B 総合点が60点以上の者(課題には向き合うが、向上していない者)
C 総合点が50点以上の者(課題に向き合う精神が見られない者)
D 総合点が49点以下の者(授業態度、取組みが悪い者)

科目名 演劇演習A a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目
ナンバリング THE2230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

- ・a組必修
- ・授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ・稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ・授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。

授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

授業の到達目標

- ・課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- ・上演した成果から一人一人の新たな問題点・課題を発見することができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストニング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 上演(1班)・反省/課題
12. 上演(2班)・反省/課題
13. 上演(3班)・反省/課題
14. 上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
- ・グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
- ・演技発表会後、全員で収録映像を確認し、個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- ・与えられた課題の台詞を入れる。
- ・稽古を行う中で「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ・課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、準備すること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布。

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 A b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 越光 照文

科目
ナンバリング THE2230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

b組必修。

授業時間外での予習・復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの2つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

授業の概要

この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機付けと学習習慣の確立、さらには良きアンサブルの取り方を学ぶ。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマの元に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な“モノログドラマ”として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

授業の到達目標

- 「自画像を演ずる」というテーマの元に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へ向けてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
7. 「シーンワーク」の本読み②ごさ
8. 「シーンワーク」の本読み③関係
9. 「シーンワーク」のオーディション
10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル

13. 「シーンワーク」の作品発表

14. 自己の「自画像」を演じ発表する。

15. 他者の「自画像」を演じ発表する。

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 「シーンワーク」：日々の授業および集中稽古期間における戯曲解釈、演技指導のコメント。
- 「自画像」の創作：「自画像」の上演台本および演出・演技へのコメント。

授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」はグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：井上ひさし「化粧」井上ひさし全芝居その三(新潮社)

宮本研「ブルーストッキングの女たち」宮本研戯曲集第六巻(白水社)

教科書・教材は授業初日に配布。

成績評価

毎回の授業への取り組み50%、発表内容の質50%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

S 90点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる)

A 80点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる)

B 60点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる)

C 50点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した)

D 49点以下の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない)

科目名 演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 田中 壮太郎

科目
ナンバリング THE2230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

c組必修。与えられた課題に十分な時間をかけて自主的に取り組むこと。

授業の概要

演技を技術として学ぶ。戯曲を読み解き、場面として起こし、発表に至る過程でプロの俳優の作業を実践し、更に癖を見極め個性を引き出していく。

授業の到達目標

舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し、明確な目標を持つことができる。

授業計画

1. 授業の導入、シアターゲーム
2. 課題作品発表、シアターゲーム
3. 作品についての話し合い、本読み
4. オーディション
5. 配役発表 読み合わせ
6. 読み合わせ、作品についての話し合い
7. 立ち稽古①空間の把握
8. 立ち稽古②目的、行動の明確化
9. 立ち稽古③人物の要求の強さを上げる
10. 立ち稽古④セリフを身体から外す
11. 立ち稽古⑤作品の中での人物の変遷
12. 通し稽古：相手を動かすことの再認識
13. 通し稽古：照明や音響を入れての演技
14. 発表
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。身体からセリフが離れる感覚を得るまでセリフを入れる。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②自分の問題と向き合ったか10%③座組の一員としての姿勢10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

S ①～⑤で90%以上を獲得した者

A ①～⑤で80%以上を獲得した者

B ①～⑤で60%以上を獲得した者

C ①～⑤で50%以上を獲得した者

D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演劇演習A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目
ナンバリング THE2230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

d組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムスシアター」によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から、演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、星の王子さまオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
5. 自習練習発表会二人芝居、反省
6. 星の王子さま練習二人芝居、演劇技術論
7. 星の王子さま、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論
8. 星の王子さまコスチューム有り、ボイストレーニング

9. 新ワーク通し
10. 発表会
11. 発表会反省、二番目星の王子さまオーディション、演劇技術まとめ
12. 星の王子さま、宿題：自主練習
13. 星の王子さま通し
14. 星の王子さま稽古
15. 発表会、反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」(英語版)

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習B a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 田中 壮太郎

科目
ナンバリング THE2231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

a組必修。与えられた課題に十分な時間をかけて自主的に取り組むこと。

授業の概要

演技を技術として学ぶ。戯曲を読み解き、場面として起こし、発表に至る過程でプロの俳優の作業を実践し、更に癖を見極め個性を引き出していく。

授業の到達目標

舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し、明確な目標を持つことができる。

授業計画

1. 授業の導入、シアターゲーム
2. 課題作品発表、シアターゲーム
3. 作品についての話し合い、本読み
4. オーディション
5. 配役発表 読み合わせ
6. 読み合わせ、作品についての話し合い
7. 立ち稽古①空間の把握
8. 立ち稽古②目的、行動の明確化
9. 立ち稽古③人物の要求の強さを上げる
10. 立ち稽古④セリフを身体から外す
11. 立ち稽古⑤作品の中での人物の変遷
12. 通し稽古：相手を動かすことの再認識
13. 通し稽古：照明や音響を入れての演技
14. 発表
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。身体からセリフが離れる感覚を得るまでセリフを入れる。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②自分の問題と向き合ったか10%③座組の一員としての姿勢10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

- S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演劇演習 B b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目
ナンバリング THE2231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

b組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムスシアター」によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から、演じることに対する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、星の王子さまオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
5. 自習練習発表会二人芝居、反省
6. 星の王子さま練習二人芝居、演劇技術論
7. 星の王子さま、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論
8. 星の王子さまコスチューム有り、ボイストレーニング

9. 新ワーク通し
10. 発表会
11. 発表会反省、二番目星の王子さまオーディション、演劇技術まとめ
12. 星の王子さま、宿題：自主練習
13. 星の王子さま通し
14. 星の王子さま稽古
15. 発表会、反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」(英語版)

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協同性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 B c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目
ナンバリング THE2231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

- ・ c組必修
- ・ 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ・ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ・ 授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。

授業の概要

・ 毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
・ 相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
・ 「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

授業の到達目標

- ・ 課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- ・ 上演した成果から一人一人の新たな問題点・課題を発見することができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 上演(1班)・反省/課題
12. 上演(2班)・反省/課題
13. 上演(3班)・反省/課題
14. 上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
 - ・ グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
 - ・ 演技発表会後、全員で収録映像を確認し、個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- ・ 与えられた課題の台詞を入れる。
 - ・ 稽古を行う中で「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
 - ・ 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、準備すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)
参考書：随時授業時に配布。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 B d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 越光 照文

科目
ナンバリング THE2231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

d組必修。

授業時間外での予習・復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの2つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

授業の概要

この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機付けと学習習慣の確立、さらには良きアンサブルの取り方を学ぶ。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマの元に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な“モノログドラマ”として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

授業の到達目標

- 「自画像を演ずる」というテーマの元に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へ向けてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
8. 「シーンワーク」の本読み③関係
9. 「シーンワーク」のオーディション
10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル

13. 「シーンワーク」の作品発表

14. 自己の「自画像」を演じ発表する。

15. 他者の「自画像」を演じ発表する。

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 「シーンワーク」：日々の授業および集中稽古期間における戯曲解釈、演技指導のコメント。
- 「自画像」の創作：「自画像」の上演台本および演出・演技へのコメント。

授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：井上ひさし「化粧」井上ひさし全芝居その三(新潮社)

宮本研「ブルーストッキングの女たち」宮本研戯曲集第六巻(白水社)

教科書・教材は授業初日に配布。

成績評価

毎回の授業への取り組み50%、発表内容の質50%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

- S 90点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる)
- A 80点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる)
- B 60点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる)
- C 50点以上の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した)
- D 49点以下の者(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない)

科目名 演劇演習 C a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目
ナンバリング THE3230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

a組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

ひとつの演劇作品のワンシーンを用いて、演技の基礎をさらに深める。以下のことを学ぶ。

- 「サブテキスト」をどのように創出するのか
- 「なりゆき」の重要性を理解する
- 「ターニングポイント」のきっかけを掴む
- 困難な状況において自分の演技を維持する

さらに、実に些細な個人的状況が、より大きな「世界の諸問題」とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を、独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて、役に「なる」のではなく、役を「演じる」ことを学んでいく。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から、演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション(二人—五人)、作品準備：劇作家、時代等
3. 学生レポート：作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット
6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省

9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング

10. ワンシーン稽古

11. ワンシーン通し、反省

12. ワンシーン直し

13. ワンシーン発表会

14. 個人反省

15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

戯曲、戯曲のコンテクスト本

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
- A ①～④まで80%以上獲得した者
- B ①～④まで60%以上獲得した者
- C ①～④まで50%以上獲得した者
- D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習C b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 吉田 小夏

科目
ナンバリング THE3230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 -

-

履修条件

- ・b組必修。
- ・アーティストとして心身の健康管理ができること。もしくは、自分なりのその方法を見つける意欲のある者。
- ・遅刻欠席をせず、積極的に授業に参加する姿勢を持つこと。
- ・その都度の授業内容に見合った稽古用の服装と履物を準備すること。

授業の概要

前半ではワークショップ形式の授業を行い、講義、演技の実践、フィードバックを重ねて演技技術を訓練し感性を磨く。特に、俳優の仕事、演出家の仕事、作家の仕事それぞれの視点から、課題の現代劇のテキストを丁寧に読み解く。戯曲を出発点に創作する時、俳優と演出家は何を担ってゆくのかを知り、表現者として体現するための方法論と選択肢を、学習してゆく。

後半では、前半の学習内容を元に、グループごとにシーンのクリエイションに取り組み、公演の稽古を模した進行で、自主稽古した課題にディレクションやフィードバックを受けながら、小作品を完成させて発表する。

授業全体を通して、卒業後のアーティストとしての社会での活動の仕方、その選択肢の種類やビジョンの持ち方等についても紹介し、学生それぞれの進路へのアプローチ方法を共に発見してゆく。

授業の到達目標

- ・自分達が主に日本語で演技をしているということに自覚と誇りを持ち、言葉を味方につけたりリアルな演技が実践できる。
- ・日本語で書かれた戯曲、読解される台詞について、その言語的特徴や文化背景を理解しながら、シーンを読解できる。
- ・ナチュラルな演技、ディフォルメした演技それぞれがどんな技術で成り立ち、どんなシーンで効果的となるのか、理解しプランできる。
- ・表現者としての今の自分の強味・弱点・独創性を発見し、それを生かしながら、チームメンバーと協力して創作ができる人材となる。

授業計画

1. 授業ガイダンス&ワークショップ①イントロダクションとアイスブレイク
2. ワークショップ②講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてI
3. ワークショップ③講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてII
4. ワークショップ④講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてIII
5. ワークショップ⑤講義と実践：ダイアログとモノログの多様性I/近代演劇史を踏まえて
6. ワークショップ⑥講義と実践：ダイアログとモノログの多様性II/集団創作のワークI
7. ワークショップ⑦講義と実践：集団創作のワークII
8. ワークショップ⑧講義と実践：キャスティングの秘密を知るワークショップ
9. ②～⑧の講義の総括と、課題戯曲の読み合わせ稽古
10. 課題戯曲によるクリエイション①グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
11. 課題戯曲によるクリエイション②グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック

12. 課題戯曲によるクリエイション③グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
 13. 課題戯曲によるクリエイション④グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
 14. 課題戯曲によるクリエイション⑤グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
 15. 課題発表の上演会とその講評/授業全体のまとめと振り返り
- ※各ワークショップには、演技技術の基礎身体訓練としてのエクササイズやシアターゲームが含まれる。
※授業内容に関しては、そのクラスの学習の進捗具合により、多少の前後があることを前提とする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・授業内での演技の実践の際に、演技指導として、具体的な言葉で学生へのディレクションを伝える。
- ・講義や総括の際に、学生それぞれの学習到達度について一緒に確認し、それぞれの今後の課題について直接言葉で伝える。
- ・宿題に対しては、その次の授業の中で、宿題の出来栄について学生と共有しフィードバックする時間を作る。

授業時間外の学習

- ・与えられた課題に対して、授業内で行われた演出や指導を、次の授業でしっかり体現できるよう、自主稽古をすること。
 - ・発表に向けては、個人の学習・練習と、グループでの学習・練習の、いずれも同じく重視し、大切に時間を使うこと。
 - ・教科書、参考書、参考資料については、授業の前夜で十分に目を通し、理解しておくこと。
 - ・常に視野を広く持ち、できるだけ色々な舞台を観て、長い人生の中で自分が演劇にどのように関わっていくかのビジョンを探し出すこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書・参考書として、講師の作成したプリント類および戯曲の抜粋を使用する。演技の技術の参考資料として、動画を含むWEBサイトの紹介をする場合もある。いずれも、随時授業時に紹介・配布する。

成績評価

- 以下の項目につき、1項目の評価の割合について20%を目安とし、総合的に100点換算で評価する。
- ①授業内容への理解度②演技技術・技能の進歩③表現者としての感受性の開花④課題発表の出来栄⑤授業への態度や意欲
- S 総合評価で90点以上となる者
A 総合評価で80点以上となる者
B 総合評価で70点以上となる者
C 総合評価で60点以上となる者
D 総合評価で50点以上となる者
E 総合評価で49点以下となる者

科目名 演劇演習C c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 富士川 正美

科目
ナンバリング THE3230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 -

-

履修条件

- ・c組必修。
- ・演劇する人間として戯曲をどう「読ん」だらよいか、興味と探求意欲のある者。
- ・稽古着、稽古靴を着用すること。

授業の概要

どんなに長大な戯曲も「場面」の連なりでできている。そして、「場面」とは「細部（リアリティ）」の連続体だ。この授業では、「場面」を読み解き、それが戯曲全体とどう関わっていくのかを理解しつつ、実践的な稽古を通じて「場面」を作り上げていく。役者としてめいめいが与えられた役を理解し、台詞と役の行動を自らの身体に落とし込んでいくことを体験する。

授業の到達目標

- ・戯曲を「場面」の連続として理解できる。「場面」もまたより小さな場面（出来事）の連なりであることを理解できる。
- ・それぞれの「場面」で何が起きているかを理解できる。場面の始まりと終わりなどで何が変わっているかを理解できる。
- ・その場面の中で自分が演じる「役」が、何をしたいかを理解できる。
- ・戯曲全体を通して、あるいはその演目を通して、作者が、演出家が、そして役を演じる自分自身が、何をしたいのか、感じ、また考えることができる。

授業計画

1. 導入、戯曲の紹介
2. 通し読み①
3. 通し読み②
4. 戯曲全体に関するディスカッション
5. 場面割り キャスティング グループごとのディスカッション
6. <シーンスタディ>読み稽古①
7. <シーンスタディ>読み稽古②
8. <シーンスタディ>立ち稽古①
9. <シーンスタディ>立ち稽古②
10. <シーンスタディ>立ち稽古③
11. <シーンスタディ>立ち稽古④
12. <シーンスタディ>立ち稽古⑤

13. 授業内発表①
 14. 授業内発表②
 15. まとめと講評
- ※授業内容に関しては、その進捗具合等により、多少の前後・変更があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・稽古時において個人、あるいはグループに対し、その都度改善点等を指摘、提案する。

授業時間外の学習

- ・戯曲の背景となっている時代や社会等について、積極的に調べることを。
 - ・シーンスタディでは各自与えられた役の台詞を入れ、グループで活発な自主稽古を重ねること。
 - ・稽古に必要な仮小道具、衣装等を準備すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題となる戯曲は、授業時間に配布する。

成績評価

- 以下の項目について1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業への取組み、理解度②稽古への取組み、協調性③自らを研鑽する意欲④演技能力の進歩、感受性の開花⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、表現者としても優れている者）
A 総合点が80点以上の者（授業内容を理解し、表現者としても真摯に取り組んでいる者）
B 総合点が70点以上の者（授業内容の理解如何に関わらず、表現者として今一步の努力を要する者）
C 総合点が60点以上の者（授業内容の理解如何に関わらず、表現者としてさらなる努力を要する者）
D 総合点が49点以下の者（授業・稽古への取組み、演技共に不十分な者）

科目名 演劇演習C d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大塚 幸太

科目
ナンバリング THE3230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

d組必修。

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。

稽古着・稽古靴着用。

授業の概要

俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。

本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じたことが反映されるセンスメモリー等のトレーニングを用いることで、新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し、「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現し、オリジナリティある創造性で作り上げていく。

舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出し、協同性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

授業の到達目標

シーンワークの研究から相手役と役としてのコミュニケーション力を身につけ、役の役割、シーンの構成やドラマを学ぶ。台詞だけではない、表現力・演技方法を学ぶ。羞恥心や自我を捨て、新たな自分の発見、他にない自分の表現を研究・探究しながら役の心情を表現する方法を学ぶことができる。

授業計画

1. 発声・シアターゲーム・シーンワーク① (力量チェック)
※アップとして発声・シアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク② (力量チェック) 自己分析
3. 身体表現 (創造) ①
4. 身体表現 (創造) ②
5. センスメモリーワーク①

6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク (以降、分解して進行) ①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表① (衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表② (衣裳・大道具・小道具あり)
15. 学習到達度の確認 (授業内発表)

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で個別にアドバイスを伝える。

授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢と実力④自らを研鑽する意欲⑤身体的・精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者 (①～⑤を満たし、即戦力となりうる可能性のある実力がある者)
- A 総合点が80点以上の者 (①～⑤を満たしている)
- B 総合点が60点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足)
- C 総合点が50点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足・授業態度や他の学生に及ぼしている影響)
- D 総合点が49点以下の者 (①～⑤を満たしていない)

科目名 演劇演習D a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 富士川 正美

科目
ナンバリング THE4230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

a組必修。

演劇する人間として戯曲をどう「読ん」だらよいか、興味と探求意欲のある者。

稽古着、稽古靴を着用すること。

授業の概要

どんなに長大な戯曲も「場面」の連なりでできている。そして、「場面」とは「細部 (リアリティ)」の連続体だ。この授業では、「場面」を読み解き、それが戯曲全体とどう関わっていくのかを理解しつつ、実践的な稽古を通じて「場面」を作り上げていく。役者としてめいめいが与えられた役を理解し、台詞と役の行動を自らの身体に落とし込んでいくことを体験する。

授業の到達目標

- ・戯曲を「場面」の連続として理解できる。「場面」もまたより小さな場面 (出来事) の連なりであることを理解できる。
- ・それぞれの「場面」で何が起きているかを理解できる。場面の始まりと終わりなどで何が変わっているかを理解できる。
- ・その場面の中で自分が演じる「役」が、何をしたいかを理解できる。
- ・戯曲全体を通して、あるいはその演目を通して、作者が、演出家が、そして役を演じる自分自身が、何をしたいのか、感じ、また考えることができる。

授業計画

1. 導入、戯曲の紹介
2. 通し読み①
3. 通し読み②
4. 戯曲全体に関するディスカッション
5. 場面割り キャスティング グループごとのディスカッション
6. <シーンスタディ>読み稽古①
7. <シーンスタディ>読み稽古②
8. <シーンスタディ>立ち稽古①
9. <シーンスタディ>立ち稽古②
10. <シーンスタディ>立ち稽古③
11. <シーンスタディ>立ち稽古④
12. <シーンスタディ>立ち稽古⑤

13. 授業内発表①
14. 授業内発表②
15. まとめと講評

※授業内容に関しては、その進行具合等により、多少の前後・変更があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

稽古時において個人、あるいはグループに対し、その都度改善点等を指摘、提案する。

授業時間外の学習

- ・戯曲の背景となっている時代や社会等について、積極的に調べることを。
 - ・シーンスタディでは各自与えられた役の台詞を入れ、グループで活発な自主稽古を重ねること。
 - ・稽古に必要な仮小道具、衣装等を準備すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題となる戯曲は、授業時間に配布する。

成績評価

以下の項目について1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取組み、理解度②稽古への取組み、協調性③自らを研鑽する意欲④演技能力の進歩、感受性の開花⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、表現者としても優れている者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を理解し、表現者としても真摯に取り組んでいる者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解如何に関わらず、表現者として今一步の努力を要する者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解如何に関わらず、表現者としてさらなる努力を要する者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業・稽古への取組み、演技共に不十分な者)

科目名 演劇演習D b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大塚 幸太

科目
ナンバリング THE4230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

b組必修。

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。

稽古着・稽古靴着用。

授業の概要

俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。

本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じたことが反映されるセンスメモリー等のトレーニングを用いることで、新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し、「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現し、オリジナリティある創造性で作り上げていく。

舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出し、協同性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

授業の到達目標

シーンワークの研究から相手役と役としてのコミュニケーション力を身につけ、役の役割、シーンの構成やドラマを学ぶ。台詞だけではない、表現力・演技方法を学ぶ。羞恥心や自我を捨て、新たな自分の発見、他にない自分の表現を研究・探究しながら役の心情を表現する方法を学ぶことができる。

授業計画

1. 発声・シアターゲーム・シーンワーク① (力量チェック)
※アップとして発声・シアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク② (力量チェック) 自己分析
3. 身体表現 (創造) ①
4. 身体表現 (創造) ②
5. センスメモリーワーク①

6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク (以降、分解して進行) ①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表① (衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表② (衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で個別にアドバイスを伝える。

授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢と実力④自らを研鑽する意欲⑤身体的・精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者 (①～⑤を満たし、即戦力となりうる可能性のある実力がある者)
- A 総合点が80点以上の者 (①～⑤を満たしている)
- B 総合点が60点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足)
- C 総合点が50点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足・授業態度や他の学生に及ぼしている影響)
- D 総合点が49点以下の者 (①～⑤を満たしていない)

科目名 演劇演習D c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目
ナンバリング THE4230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

c組必修。

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ (ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師) とキース・ジョンストン (カルガリー「ルーズムースシアター」) によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解すること、の基本から演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション (二人一五人)、作品準備: 劇作家、時代等
3. 学生レポート: 作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット
6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省

9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

絹川友梨「インプロ・ゲーム」
研究旅行 (キース・ジョンストン「ルーズムースシアター」) で集めた書類
キース・ジョンストン「シアタースポーツ」(英語版)

成績評価

- ①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協同性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。
- S ①～④まで90%以上獲得した者
- A ①～④まで80%以上獲得した者
- B ①～④まで60%以上獲得した者
- C ①～④まで50%以上獲得した者
- D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 D d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 吉田 小夏

科目
ナンバリング THE4230T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 後期

他専攻

履修条件

- ・d組必修。
- ・アーティストとして心身の健康管理ができること。もしくは、自分なりのその方法をみつける意欲のある者。
- ・遅刻欠席をせず、積極的に授業に参加する姿勢を持つこと。
- ・その都度の授業内容に見合った稽古用の服装と履物を準備すること。

授業の概要

前半ではワークショップ形式の授業を行い、講義、演技の実践、フィードバックを重ねて演技技術を訓練し感性を磨く。特に、俳優の仕事、演出家の仕事、作家の仕事それぞれの視点から、課題の現代劇のテキストを丁寧に読み解く。戯曲を出発点に創作する時、俳優と演出家は何を担ってゆくのかを知り、表現者として体現するための方法論と選択肢を、学習してゆく。

後半では、前半の学習内容を元に、グループごとにシーンのクリエイションに取り組む。公演の稽古を模した進行で、自主稽古した課題にディレクションやフィードバックを受けながら、小作品を完成させて発表する。

授業全体を通して、卒業後のアーティストとしての社会での活動の仕方、その選択肢の種類やビジョンの持ち方等についても紹介し、学生それぞれの進路へのアプローチ方法を共に発見してゆく。

授業の到達目標

- ・自分達が主に日本語で演技をしているということに自覚と誇りを持ち、言葉と味方につけたリアルな演技が実践できる。
- ・日本語で書かれた戯曲、発話される台詞について、その言語の特徴や文化背景を理解しながら、シーンを読解できる。
- ・ナチュラルな演技、ディフォルメした演技それぞれがどんな技術で成り立ち、どんなシーンで効果的となるのか、理解しプランできる。
- ・表現者としての今の自分の強味・弱味・独創性を発見し、それを生かしながら、チームメンバーと協力して創作ができる人材となる。

授業計画

1. 授業ガイダンス&ワークショップ①イントロダクションとアイスブレイク
2. ワークショップ②講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてI
3. ワークショップ③講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてII
4. ワークショップ④講義と実践：現代口語演劇の方法論を用いてIII
5. ワークショップ⑤講義と実践：ダイアログとモノログの多様性I/近代演劇史を踏まえて
6. ワークショップ⑥講義と実践：ダイアログとモノログの多様性II/集団創作のワークI
7. ワークショップ⑦講義と実践：集団創作のワークII
8. ワークショップ⑧講義と実践：キャスティングの秘密を知るワークショップ
9. ②～⑧の講義の総括と、課題戯曲の読み合わせ稽古
10. 課題戯曲によるクリエイション①グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
11. 課題戯曲によるクリエイション②グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
12. 課題戯曲によるクリエイション③グループでのシーン作り+ディレクション

- とフィードバック
 - 13. 課題戯曲によるクリエイション④グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
 - 14. 課題戯曲によるクリエイション⑤グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
 - 15. 課題発表の上演会とその講評/授業全体のまとめとふりかえり
- ※各ワークショップには、演技技術の基礎身体訓練としてのエクササイズやシアターゲームが含まれる。
※授業内容に関しては、そのクラスの学習の進行具合により、多少の前後があることを前提とする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・授業内での演技の実技の実践の際に、演技指導として、具体的な言葉で学生へのディレクションを伝える。
- ・講義や総括の際に、学生それぞれの学習到達度について一緒に確認し、それぞれの今後の課題について直接言葉で伝える。
- ・宿題に対しては、その次の授業の中で、宿題の出来栄えについて学生と共有しフィードバックする時間を作る。

授業時間外の学習

- ・与えられた課題に対して、授業内で行われた演出や指導を、次の授業でしっかり体現できるよう、自主稽古をすること。
 - ・発表に向けては、個人の学習・練習と、グループでの学習・練習の、いずれも同じく重視し、大切に時間を使うこと。
 - ・教科書、参考書、参考資料については、授業の前後で十分に目を通し、理解しておくこと。
 - ・常に視野を広く持ち、できるだけ色々な舞台を観て、長い人生の中で自分が演劇にどのように関わるかのビジョンを探し出すこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書・参考書として、講師の作成したプリント類および戯曲の抜粋を使用する。演技の技術の参考資料として、動画を含むWEBサイトの紹介をする場合もある。いずれも、随時授業時に紹介・配布する。

成績評価

- 以下の項目につき、1項目の評価の割合について20%を目安とし、総合的に100点換算で評価する。
- ①授業内容への理解度②演技技術・技能の進歩③表現者としての感受性の開花④課題発表の出来栄え⑤授業への態度や意欲
- S 総合評価で90点以上となる者
A 総合評価で80点以上となる者
B 総合評価で70点以上となる者
C 総合評価で60点以上となる者
D 総合評価で50点以上となる者
E 総合評価で49点以下となる者

科目名 演技演習 A (ダイアログ) a b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

科目
ナンバリング THE3231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期・後期

他専攻

履修条件

ストレートブレイクコース必修。授業時間外での自習、自主稽古を必要とする。アーティストとしての自立、ならびに共同作業の二つを両立させること。稽古着を着用すること。

授業の概要

ダイアログ=対話の演劇創造を可能とするための「相手と関わる」ことのできる俳優の心身の確立。アーティスト自身の想像力を以て、即興からグループワークでシーンを作る、ディバイジングの用法を用いて自分自身と客観的に向き合うシーンを創る。

ダイアログをメインにしたシーンを既存の戯曲から抜粋、「シーンワーク」を行う。創造過程を学習し、最終発表を行う。

シーンの中の対話に留まらず、演劇活動における全ての対話、「アーティスト同士の対話」「観客との対話」「社会との対話」にも創造過程において目を向ける。

授業の到達目標

- ・ディバイジングによるシーンの発表(グループワーク)ができる。
- ・課題で与えられたシーンの発表(二人一組)ができる。
- ・自分で見つけたシーンの発表(二人一組)ができる。
- ・創造過程における自分自身について、そして他者についての発見の報告(個人)ができる。

授業計画

1. 導入/目標設定
2. 身体訓練について/演劇的自己紹介①
3. 演劇的自己紹介②
4. サブテキストによる対話シーンの創造①1回目の発表
5. サブテキストによる対話シーンの創造②2回目の発表
6. フィジカルシアター(身体表現)①ジェスチャー
7. フィジカルシアター(身体表現)②テンポと空間の関係性
8. ディバイジング(グループワークの創造)①1回目の発表

9. ディバイジング(グループワークの創造)②2回目の発表
 10. 翻訳戯曲によるシーンワーク①取り組む戯曲の提案と本読み
 11. 翻訳戯曲によるシーンワーク②1回目の発表
 12. 翻訳戯曲によるシーンワーク③2回目の発表
 13. 課題戯曲によるシーンワーク①1回目の発表
 14. 課題戯曲によるシーンワーク②2回目の発表
 15. 総評/自己と他者に関する発見の報告
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の課題発表後に講評を行い、場合によっては個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 各シーンワーク発表に向けての自習ならびに自主稽古。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：教材は授業時に発表。
参考書：必要に応じて随時指定。

成績評価

- 授業への取組み80%、発表の内容の総合的評価20%の総合評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
 - A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
 - B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
 - C 各課題の発表まで達している。
 - D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技演習B (アンサンブル) a b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 シライ ケイタ

科目
ナンバリング THE4231T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期・後期

他専攻

履修条件

ストレートブレイクコース必修。
自分に興味があること。他者に興味があること。表現に興味があること。演技に興味があること。つまり、人間に興味があること。

授業の概要

演劇におけるアンサンブルとは、没個性を意味しない。
突出した個性の集合体としてのアンサンブルを探索する。
言葉にできる「感情」を起点とする演技ではなく、言葉にできない「衝動」「本能」「生理現象」を起点とする演技を学ぶ。「衝動」が、具体的な「目的」を生み、「行動」に至るといふ人間の仕組み、つまり演技の仕組みを理解する。演技における「目的」とは、自分の役柄の感情や状態の説明ではなく、常に他者を変化させるために設定するべきであることを理解する。演技における「行動」とは、「台詞」と「動作」であることを理解し、具体的に「話す」「動く」ことを学ぶ。
グループで小作品を制作することで演劇作品の制作過程を体験し、「他者」との関わりの中での「自分」というものを自覚する。

授業の到達目標

- ・演技は楽しいものだと思えることができる。
- ・戯曲を「感情」ではなく「目的」で読む癖をつけることができる。
- ・演技は抽象的なものではなく、具体的なものであることを理解できる。
- ・「他者」との共同作業を通じて、演劇作りの楽しさを体験できる。

授業計画

1～14回は座学と実技を並行して行っていく。
座学は、演劇の歴史、演技術の変遷、現代リアリズム演技の基本、日本の演劇界の現在、戯曲の読み方等を話す。
実技は、既存のテキストを使う集団創作と、テキスト作りから体験する集団創作を行う。
【座学】

1. ガイダンス：自己紹介と授業全体像の把握
2. 演劇とは。演技とは。
3. 課題発表に対する講評
4. 日本における演技方法の変遷
5. 「感情」ではなく「衝動」を大切に
6. 課題発表に対する講評
7. 言葉の「意味」ではなく、身体の「状態」で演技する
8. 課題発表に対する講評
9. 演技とは「行動」であり、「感情」を操作することではない
10. テキストの読み解き方
11. 課題の稽古に対する講評
12. 課題発表に対する講評
13. 課題の稽古に対する講評
14. 課題発表に対する講評

15. 授業の総括

- 【実技】
1. ガイダンス：自己紹介と授業全体像の把握
 2. テキストを使って二人の会話を体験する
 3. 二人の会話の課題発表
 4. 「説明」する演技ではなく、「存在」する演技を体験する
 5. テキストを使って複数での会話を体験する
 6. 複数人の会話の課題発表①
 7. 言葉の「意味」に頼らないコミュニケーションを体験する
 8. 複数人の会話の課題発表②
 9. 「行動」の後に「感情」が生まれることを体験する
 10. テキストを読む訓練のために、テキストを自ら作ってみる
 11. 集団創作の課題の稽古①
 12. 集団創作の課題発表①
 13. 集団創作の課題の稽古②
 14. 集団創作の課題発表②
 15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

出された課題に対し、グループでよく話し合い稽古する時間を確保すること。
とにかく、様々な体験をすること。日常を生き生きと、貪欲に生きること。演劇を沢山見ること。同年代のプロフェッショナル達が、どんなレベルで仕事をしているかを知ること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

テキストは適宜、授業時に配布する。
「俳優のためのハンドブック」(フィルムアート社)を参考書として勧める。が、これを元に授業を行うわけではないので、無理に買うことはない。しかし読めばかなり役に立つ。

成績評価

授業への取り組み40%、日々の自己研鑽30%、課題発表の成果30%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、授業への出席が良好であることを前提とする。

S 総合評価90点以上の者(授業への取り組み、課題の発表が特別に評価できる)

A 総合評価80点以上の者(授業への取り組み、課題の発表が高く評価できる)

B 総合評価60点以上の者(授業への取り組み、課題の発表が評価できる)

C 総合評価50点以上の者(授業への取り組み、課題の発表が最低限の域に達した)

D 総合評価49点以下の者(授業への取り組み、課題の発表が評価できない)

科目名 ショーダンスI①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 三村 みどり

科目
ナンバリング DNC3310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

ミュージカルコース必修。

授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につけるために、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う。
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く。

授業の到達目標

実技公開試験に向けて、作品を踊り込むことにより、肉体、感性、表現を磨くことができる。

授業計画

1. 1年次の復習と確認①前半
2. 1年次の復習と確認②後半
3. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う①基礎
4. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う②応用
5. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う③発展
6. 振り付けを覚える①基礎
7. 振り付けを覚える②応用
8. 振り付けを覚える③発展
9. 踊り込み①基礎
10. 踊り込み②応用

11. 踊り込み③発展
12. 踊りを創り上げ、作品化する①稽古
13. 踊りを創り上げ、作品化する②落とし込み
14. 踊りを創り上げ、作品化する③仕上げ
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・日々の稽古による個々への指導時の言葉。
- ・実技公開試験後、全員で収録映像を確認し、個々へのチェック(良い点・悪い点・改善点)を伝える

授業時間外の学習

実技公開試験の振付・練習を行うため、時間外の練習にも参加すること。
できない振り付けは自主トレーニングして参加すること。欠席した場合は事前に習っておくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

S 総合評価90点以上の者

A 総合評価80点以上の者

B 総合評価60点以上の者

C 総合評価50点以上の者

D 総合評価49点以下の者

科目名 ショーダンスⅡ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三村 みどり

科目
ナンバリング DNC4310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

「ショーダンスⅠ」の単位を修得していること。
ミュージカルコース必修。

授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につけるために、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う。
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く。

授業の到達目標

前期で学んだこと・実技公開試験の反省点・自分に不足していることを考え、自分の目標を新たに持つことができる。踊りの技術を高め、感性、表現の幅を広げることができる。

授業計画

1. 今まで学んだことを復習、確認①前半
2. 今まで学んだことを復習、確認②後半
3. 技術を向上させ、肉体訓練を行う①入門
4. 技術を向上させ、肉体訓練を行う②基礎
5. 技術を向上させ、肉体訓練を行う③応用
6. 技術を向上させ、肉体訓練を行う④発展
7. 得意分野だけでなく、色々な踊りのジャンルを体現する①入門
8. 得意分野だけでなく、色々な踊りのジャンルを体現する②基礎
9. 得意分野だけでなく、色々な踊りのジャンルを体現する③応用
10. 得意分野だけでなく、色々な踊りのジャンルを体現する④発展

11. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく①入門
12. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく②基礎
13. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく③応用
14. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく④発展
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

日々の稽古による、個々への指導時の言葉。

授業時間外の学習

できない振り付けは自主トレーニングして次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

- S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 ミュージカルトレーニングB①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 信太 美奈

科目
ナンバリング VOM3310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

- ・ミュージカルコース必修。
- ・日常のクラスはなるべく身体のラインが見える練習着を着用する。
- ・LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること。
「ミュージカルトレーニングB①」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA①」、「ミュージカルトレーニングB②」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA②」に参加すること。
- ・シューズはジャズシューズと女子はヒールのあるダンスシューズが必要。
- ・ナンバーに合う練習着を着用。
- ・顔面が見えるヘアスタイルで参加。

授業の概要

ミュージカル作品の歌を、ストーリー、セリフの中からの流れで気持ちどどのように込めて歌うか。
呼吸法・発声法・筋肉の使い方。
最後に7月の高校生のためのワークショップを公開試験とする。

授業の到達目標

1年次より引き続き、呼吸、筋肉の意識を高めることができる。
暗譜したミュージカルナンバーをダンスやステージングに取り入れながら表現することができる。

授業計画

1. 前年度の反省と今学期の目標等について語り合う
2. 曲選び
3. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む①
4. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む②
5. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む③
6. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習①
7. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習②
8. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習③
9. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習④
10. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習⑤
11. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習⑥
12. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習⑦
13. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習⑧
14. 歌の周囲のステージング、セリフ等も練習⑨

15. 公開試験
※オーディションにより出演の曲目決定

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・7月の発表に向けての各自の曲について、総評・アドバイスをする。
- ・全体で発表する曲への細かいアドバイスをする。

授業時間外の学習

- ・呼吸・筋肉の使い方をマスターするように日々努力する。
- ・楽譜が読めるように努力する。
- ・課題を必ず次の授業までに暗譜する。
- ・グループで歌う場合は集まって練習する。
- ・毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

CD、ミュージカル作品を見たり聞いたりしてほしい。
授業中に資料配布。

成績評価

授業態度・課題への取り組み(予習・復習)60%、課題の成果40%を元に総合的に評価する。

- S 90点以上の者(意欲があり、課題の予習・復習をしっかりと行い成果がある者)
A 80点以上の者(意欲があり、課題をやってまあまあ成果が見られた者)
B 60点以上の者(課題には向き合うが、向上していない者)
C 50点以上の者(課題に向き合う精神がみられない者)
D 49点以下の者(授業態度、取り組みが悪い者)

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。
「授業出席とLA補習参加の合計回数が、2つの総合回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 ミュージカル演習①②

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大塚 幸太

科目
ナンバリング THE4232T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

ミュージカルコース必修。
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。
稽古着・稽古靴着用。

10. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
11. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
12. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
13. 課題作品①②演出
14. 課題作品①②演出
15. 授業内発表

授業の概要

「音」を「楽しみ」、心が動く「演技表現」と空間と空気を動かす「身体表現」を学ぶ。ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」とは何かを学ぶ。
シーンワークでは(群像・ペア・ソロ)ミュージカル特有の「形だけの演技」ではない、演技をしっかり構築し「役として生きる」ことを体感する。俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で個別にアドバイスを伝える。

授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。
これらの学修に30時間以上を要する。

授業の到達目標

各自がそれぞれ得手不得手を素直に理解し、自らそれをさらに伸ばし、克服しようとする努力をすることができる。

教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

授業計画

1. 課題の歌入れ・振付①
2. 課題の歌入れ・振付①
3. 課題作品の演出
4. 課題作品の演出
5. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
6. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
7. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
8. 課題の歌入れ・振付②
9. 課題の歌入れ・振付②

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業態度②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢と実力④自らを研鑽する意欲⑤身体的・精神的健康の維持
S 総合点が90点以上の者(①～⑤を満たし、即戦力となりうる可能性のある実力がある者)
A 総合点が80点以上の者(①～⑤を満たしている)
B 総合点が60点以上の者(①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足)
C 総合点が50点以上の者(①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足・授業態度や他の学生に及ぼす影響)
D 総合点が49点以下の者(①～⑤を満たしていない)

科目名 演劇特別演習 I ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 鴻上 尚史

科目
ナンバリング THE2232T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

13. スタニスラフスキー・システムについて④行動
14. スタニスラフスキー・システムについて⑤演技とは
15. 上手な演技とは何か?

授業の概要

「正しい発声とは何か?」「正しい身体とは何か?」を明確にする。そして、演技の基本であるスタニスラフスキー・システムをおさえる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

適時、質問があればいつでも受け付ける。月曜日の放課後でも可。

授業の到達目標

舞台上立つにふさわしい声や身体、演技の考え方、アプローチの仕方を身につけることができる。

授業時間外の学習

授業内で、何をすればよいか適時伝える。
これらの学修に30時間以上を要する。

授業計画

1. 正しい発声とは何か?①呼吸について
2. 正しい発声とは何か?②共鳴について
3. 正しい発声とは何か?③丹田で支える
4. 正しい発声とは何か?④ベクトル
5. 正しい発声とは何か?⑤個人の声
6. 正しい身体とは何か?①身体の外側
7. 正しい身体とは何か?②身体の内側
8. 正しい身体とは何か?③リラックスとは
9. 正しい身体とは何か?④自由な身体
10. スタニスラフスキー・システムについて①マジック・イフ
11. スタニスラフスキー・システムについて②目的
12. スタニスラフスキー・システムについて③障害

教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「演劇入門」(集英社新書)、「演技と演出のレッスン」[発声と身体のレッスン](白水社)である。
が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

成績評価

- 授業への取り組みおよび授業での参加態度100%で評価する。
S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 演劇特別演習Ⅱ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

実務経験

キャップ制対象外

担当教員 鴻上 尚史

科目ナンバリング THE3232T

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

「演劇特別演習Ⅰ」の単位を修得していること。
やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

授業の概要

- ・上手な演技とは何かを中心に、演技に対して様々な角度からアプローチする。
- ・「声の5つの要素」
- ・三つの集中の輪
- ・リアルな感情と意識した動きの共通部分としての演技の追求。
- ・舞台の演技と映像の演技の違い。

授業の到達目標

リアルにかつ楽しく演技ができる。
「嘘」と「嘘くさい」と「リアル」の演技の違いが分かるようになる。

授業計画

1. 声の教養・身体の教養を上げるために①
2. 声の教養・身体の教養を上げるために②
3. 声の教養・身体の教養を上げるために③
4. 声の教養・身体の教養を上げるために④
5. リアルな演技とは何か?①
6. リアルな演技とは何か?②
7. リアルな演技とは何か?③
8. リアルな演技とは何か?④
9. リアルな演技とは何か?⑤

10. 様々な演技のトライアル①
11. 様々な演技のトライアル②
12. 様々な演技のトライアル③
13. 様々な演技のトライアル④
14. 様々な演技のトライアル⑤
15. 様々な演技のトライアル⑥

学生に対する教員からのフィードバック方法

適時、質問があればいつでも受け付ける。月曜日の放課後でも可。

授業時間外の学習

授業内で、何をすればよいか適時伝える。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「俳優入門」(講談社文庫)、「演技と演出のレッスン」(白水社)である。
が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

成績評価

授業への取り組みおよび授業での参加態度100%で評価する。
S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 マイム①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

実務経験

キャップ制対象外

担当教員 江ノ上 陽一

科目ナンバリング THE1331T

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

表現する身体に関心を持ち、表現者となるための熱意を行動で示すことができる。
意欲を持って取り組むこと。
稽古着、稽古履き着用のこと。無断での遅刻、欠席は厳禁。

授業の概要

バントマイムとは言語という具象行為を意図的に廃し言葉さえも肉体化する芸術である。それは、日常全ての言語を肉体化するということ。
そのためには肉体の緊張と弛緩、分解、重心移動、動くスピードのコントロール等を習得することが必須である。また、肉体訓練を継続して行い、演技者として人前に立つために不可欠な、想いを表現できる身体の獲得を目指す。同時に、観察をもとに無意識な日常行動における身体的動作の認識作業を行い、「動き」に「想い」を込め、独自の魅力的な所作を手に入れる。
基本的なテクニクを身につけた上で、「無声」、「何もない空間」という状況の中で、想像力を駆使し身体だけの表現を体現できるようにする。

授業の到達目標

正確なバントマイムテクニクの習得。自由で型破りな想像力を獲得する。
身体だけで言葉を使わずに、自分の「想い」を他者に伝える術を得ることができる。

授業計画

1. ボディコントロールの訓練：身体のみで表現するために必要な筋力を強化する。
思い描いた動きを体現するためには必要不可欠な要素なのである。
2. 重心移動を学ぶ：その場で歩行(移動)を表現する方法の取得
3. 緊張と弛緩を身につける：テクニクのスキルアップは勿論、多様な感情表現を体現する。また、呼吸との関係も学ぶ。
4. 知識を得る：講師の舞台作品映像を鑑賞し、講師の作品説明のもと「ナンバーバル」芸術を具体的な知識として得る。
5. 観察力を養う：生徒同士の発表の場において、お互いの演技の感想を述べ合うことで見聞を養う。眼で覚えるという感覚を磨く。
6. 間の取り方を知る：文章に「、」や「。」があるように、身体言語にも必要不可欠な「、」や「。」を知り、活用する。
7. デフォルメ：ある動きを誇張し、そのことで強く印象付ける術を学ぶ。
8. ここまで習得したテクニクの小テストを行う：決められた時間内でのパフォーマンスをアンサンブルにて表現する。他者と一緒にパフォーマンスすることで、協力して創作する術を体験する。(状況によってはソロパフォーマンスとする)
9. 既存のイメージからの脱却：発想の転換を図り、独自の表現を生み出す。

10. 仕草：様々なちょっとした動作や表情(仕草)、所作にて魅力的なキャラクターを創る。
11. アンサンブル：8.での小テストを踏まえ、成熟させる時間とする。無声での会話、ルール(時間)がある上での表現の完成。
12. パフォーマンス①複数人でのグループ創作作業。各々アイデアを駆使し、与えられたテーマで創作。(状況によってはソロパフォーマンスとする)
13. パフォーマンス②各グループをシャッフルし、違う仲間との創作作業で新たな体験を生み出す。(状況によってはソロパフォーマンスとする)
14. パフォーマンス③与えられたテーマ、音楽、時間にて短い物語をつくり表現としての構想を練る。
15. パフォーマンス④練り上げた構成をもとに作品を成熟させていく。
16. 「実技試験」完成させた作品の発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

演技発表後、個別(グループ)に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

・基本的なストレッチや身体訓練を自主的に行うこと。
・中間テスト実施するので、グループごとに授業内容をよく復習しておくこと。
・日常生活の中で反復、復習すること。「読む」「見る」「触れる」「食べる」…全ての経験を糧にするよう、感性を研ぎ澄ませて生活すること。
上記の学修に30時間以上要すること。

教科書・参考書等

参考資料等は必要時に配布。また、講師が授業に見せる演技は「生きた教材」である。見逃さず参考にすること。
講師の「作品映像」を鑑賞し、非言語の演技に関して実際に説明を受ける。

成績評価

授業への取り組み50%、レポート20%、実技試験30%。
S 総合点が90点以上の者(①バントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が非常に高い②テクニクのスキルレベルが非常に高い③作品創作にあたりストーリー構築にオリジナリティがある)
A 総合点が80点以上の者(①バントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が高い②テクニクのスキルレベルが高い③独自の発想による表現ができる)
B 総合点が60点以上の者(①バントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方をある程度理解している②テクニクのスキルレベルが高い③既存のイメージではない発想にて表現ができる)
C 総合点が50点以上の者(Bの①②③のうち1つは身につけている者)
D 総合点が49点以下の者(Bの①②③が全く身につけていない者)

科目名 アクション①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藤田 けん

科目ナンバリング THE2330T

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

特になし。

授業の概要

現代アクション・時代アクション(殺陣)を隔週で行う。立ち廻りによって身体を動かすことにより、湧き上がる感情を自然に表現できるよう基本を指導する。

現代アクションは、表現者として身体を使って感情を出せるように指導する。時代アクションは、刀等武器に感情が乗るように指導する。

授業の到達目標

- ・俳優として最小限の基本を身につけることができる。
- ・人を怪我させないように立ち廻りを行うことができる。

授業計画

1. 導入：役者のアクションに対する考え方の説明
2. 現代アクションの基本練習①
3. 現代アクションの基本練習②
4. 殴り、蹴り、受け、よけ方等
5. 1対1での基本練習
6. 現代アクションの基本的な立ち廻り①
7. 現代アクションの基本的な立ち廻り②
8. 時代アクションの基本練習①
9. 時代アクションの基本練習②
10. 正眼、真っ向、袈裟、突き、体裁き等
11. 1対1での基本練習①

12. 1対1での基本練習②
13. 時代アクションの基本的な立ち廻り①
14. 時代アクションの基本的な立ち廻り②
15. まとめ、回数によってレベルを上げていく

学生に対する教員からのフィードバック方法

実技をしてもらった生徒に対して、授業中に評価を行う。

授業時間外の学習

自己の体調管理、体力の増進を行う。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特にないが、動きやすい格好で受講すること。

成績評価

やる気・授業態度40%、課題への取り組み40%、課題の成果20%をもとに総合的に評価する。

- S 90点以上の者(立ち廻りが指導でき、表現できている者)
A 80点以上の者(立ち廻りが十分に表現できる者)
B 60点以上の者(立ち廻りがほぼ表現できる者)
C 50点以上の者(立ち廻りがあまり表現できない者)
D 49点以下の者(立ち廻りが表現できない者)

科目名 日本舞踊Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藤間 希穂

科目ナンバリング DNC2330T

学位授与方針との関係 DP①⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

1. 稽古着は浴衣を含む和服・足袋着用、舞踊扇子持参の上、参加すること。
2. 授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。
3. 授業時間内は必ず時計・アクセサリを外し、髪の色が肩まで届く場合は必ず結ぶこと。
4. 授業内に座学と実技があるが、必ず両方参加のこと。
5. 遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出しにくること。

授業の概要

1. 表現者として唯一無二の存在になることを確認する
 2. プロフェッショナルとしての心得とマナーの体得
 3. グローバルに活躍するために、日本人としての価値観を見出し磨く
 4. 古典芸能を通して、現場で説得力を増すスキルを身に付ける
 5. 「人前へ出ること」に必要な美意識を向上させる
- 以上を目標に「座学」と「実技」の二部構成で行う。
- ・座学では活躍し続ける表現者として必要な「価値を生む素養～健康・品性・コミュニケーション～」について学ぶ。美意識を高めると共に、表現者として必須の精神性を学ぶ。またClassroomコメントを毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
 - ・実技では「人前で表現する者として必要な所作」を古典芸能を通して体得する。座学で深めた理解を、実際に表現する手法を学ぶ。
- 【曲目】 土方(たちかた)：長唄「松」
女形(おんながた)：長唄「新曲娘道成寺」または「京の四季」(受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定)

授業の到達目標

- ・座学をもとにした学習到達度の確認にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を人前で発表できるスキルを身につけることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言すると共に傾聴を重んじ、自ら考え行動することができる。
- ・Classroomコメントでは自己成長を促す「得意分野」と「改善点」を見出し表現できる。

授業計画

- ◆授業タイムスケジュール
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分
後半40分 男子「松」・女子「松+新曲娘道成寺」
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなる。
- ◆授業進行
1. 導入一松、新曲娘道成寺の助手による実演着付け、畳み方、立ち居振る舞い
 2. 価値観3choice 自己紹介—知恵袋①
男子：松10C+手踊り 女子：松10C+新曲 基本動作
着付け、畳み方チェック、立ち居振る舞い、扇開閉、構え、すり足
 3. 自己分析シート—知恵袋②
男子：松20C+手踊り 女子：松20C+新曲 基本動作
立ち居振る舞い、帯結びテスト
 4. 価値を生む—知恵袋③
男子：松後ろ向き左手扇+手踊り 女子：松後ろ向き左手扇+新曲伊達者
立ち居振る舞い、構え
 5. ディスプレイルール—知恵袋④
男子：松前半最後+手踊り 女子：松前半最後+新曲 1番
立ち居振る舞い、指足

6. 継続と行動①—知恵袋⑤
男子：松前半復習+手踊り 女子：松前半復習+新曲 1番復習
立ち居振る舞い、扇開閉
 7. 継続と行動②—知恵袋⑥
男子：松ちらし荒磯松+手踊り 女子：松ちらし荒磯松+新曲 封じ文
立ち居振る舞い、扇振り方確認
 8. 継続と行動③—知恵袋⑦
男子：松さつさつ+手踊り 女子：松さつさつ+新曲 2番最後
立ち居振る舞い、要返し
 9. 継続と行動④—知恵袋⑧
男子：松ちらし最後+手踊り 女子：松さつさつ+新曲 3番
立ち居振る舞い、要ほつき
 10. コミュニケーションワーク—知恵袋⑨
フォーメーション練習①振り役に立つ立居振舞技枠①
 11. プライオリティ—知恵袋⑩
フォーメーション練習②振り役に立つ立居振舞技枠②
 12. 自己計画表作成提出—知恵袋⑪
フォーメーション練習③振り役に立つ立居振舞技枠③
 13. コミュニケーションワーク—知恵袋⑫
フォーメーション練習④振り役に立つ立居振舞技枠④
 14. プレテスト実技学習到達度の確認(スタンプ発表)
 15. 学習到達度の確認(スタンプ発表)
- ※予定は進行状況により変更される場合がある。
※ハイブリッド型授業の場合
座学…オンラインまたはオンデマンド授業
実技…教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

学生に対する教員からのフィードバック方法

1. 授業内の実技指導時の言葉(個・全体)
2. Classroomへのコメント(グループ)
3. 学習到達度の確認後全体への総評

授業時間外の学習

1. 座学内容の理解を深める復習
 2. 実技課題曲の理解
 3. 実技課題曲振りの確認
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

成績評価

筆記・実技の学習到達度の確認40%、授業態度(取り組み)40%、Classroomへのコメント20%を総合して評価する。

S 総合評価90点以上の者(学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが秀でている者)
A 総合評価80点以上の者(学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが良質な者)
B 総合評価70点以上の者(学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが良好な者)
C 総合評価60点以上の者(学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが不十分な者)
D 総合評価49点以下の者(学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントに問題がある者)

科目名 日本舞踊Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藤間 希穂

科目ナンバリング DNC3330T

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

1. 「旧舞Ⅰ」の単位を修得していること。
2. 稽古着は浴衣を含む和服・足袋着用、舞踊扇子持参の上、参加すること。
3. 授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。
4. 授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、髪のがさが肩まで届く場合は必ず結うこと。
5. 授業内に座学と実技があるが、必ず両方参加のこと。
6. 遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出しにくること。

授業の概要

「旧舞Ⅰ」で目標にした1～5の目標をさらに深掘し、「座学」と「実技」の二部構成で行う。
 ・座学では「旧舞Ⅰ」にて学んだ表現者の心得（品性・健康・コミュニケーション能力・美意識）をもとにさらにパーソナルブランディングの構築を意識したプロフェッショナルとしての素養を身につける。またClassroomコメントを毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
 ・実技では座学で学ぶジョックに加え、実技公開テストで発表する古典（全員参加）と創作（自由参加）の演目の構築を通して表現者に必要な所作を学ぶ。
 【曲目】 立方（たちかた）：長唄「青海波」
 女形（おんながた）：長唄「あやめ浴衣」または常磐津「紅売り」（受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定）
 創作：講師が企画・振付・演出する創作舞踊（例：「櫻姫」「かぐやの君」等）

授業の到達目標

- ・座学をもとにした学習到達度の確認にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を舞台上で発表できるスキルをつけることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言すると共に行動変容も併い、傾聴の結果、共同作品に良い効果を生むこと。
- ・Classroomコメントでは自己課題の抽出、課題解決提案ができ、実行および言語表現できる。

授業計画

- ◆授業タイムスケジュール
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分
後半40分 男子「青海波」・女子「あやめ浴衣or 紅売りor 菊の栄」
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなる。
- ◆授業進行

 1. 自己価値観復習 青：松島の～なつかしき
あ：飾り兜の～白重ね 紅：紅染めの～たしなみのは前
 2. 礼儀①・1分間スピーチ 青：梅の花貝～あかぬなる
あ：晝さに～染浴衣 紅：たしなみは～恋の色
 3. 礼儀②・1分間スピーチ 青：花の跡～船の中
あ：古代模様の～講浴衣 紅：恋の色の後～京育ち
 4. 礼儀③・1分間スピーチ 青：あらめで鯛は～初めしり
あ：簪のほつれを～好いた同士 紅：蛸の貝～浅じめり
 5. 礼儀④・1分間スピーチ 青：蛭子の神の～漁火の
あ：命と腕に～糸柳 紅：情けを～贅こきな

6. 礼儀⑤・1分間スピーチ 青：ちらりちらら～一樣に
あ：めぐる杯～芳村 紅：足にも～伊達のの前
 7. 礼儀⑥・1分間スピーチ 青：波も静かに～栄ゆく家の寿を
あ：栄うる～最後 紅：伊達の～最後
 8. 礼儀⑦・1分間スピーチ 青：なほ幾千代も～最後
あ・紅：全体通し
 9. 礼儀⑧・1分間スピーチ 青：フォーメーション組み
あ・紅 共通：フォーメーション組み
 10. 礼儀⑨・1分間スピーチ 青：フォーメーション練習①
あ・紅：フォーメーション練習①
 11. 礼儀⑩・1分間スピーチ 青：フォーメーション練習②
あ・紅：フォーメーション練習②
 12. テスト直前対策 青：フォーメーション練習③
あ・紅：フォーメーション練習③
 13. プレテスト 青・あ・紅：実技公開試験用練習①
 14. 本テスト 青・あ・紅：実技公開試験用練習②（場当たり・通し稽古）
 15. オーディション対策 青：1分間の見栄えがする振付
あ・紅：現場で望まれる所作の勉強
- ※「菊の栄」の進行は状況を見て考慮。その他の予定も進行状況により変更される場合がある。
 ※7月に行われる実技公開試験に参加の者のみ単位取得となる。不参加の場合単位取得とならないので注意すること。
 ※ハイブリッド型授業の場合
 座学…オンラインまたはオンデマンド授業
 実技…教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

学生に対する教員からのフィードバック方法

1. 授業内の実技指導時の言葉（個・全体）
2. Classroomへのコメント（グループ）
3. 学習到達度の確認後全体への総評

授業時間外の学習

1. 座学内容の理解を深める復習
 2. 実技課題曲歌詞の理解
 3. 実技課題曲振りの確認
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

成績評価

筆記・実技の学習到達度の確認40%・授業態度（取り組み）40%・Classroomコメント20%を総合して評価する。
 S 総合点90点以上の者（学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが秀でている者）
 A 総合点80点以上の者（学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが的確な者）
 B 総合点60点以上の者（学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが良好な者）
 C 総合点50点以上の者（学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントが不十分な者）
 D 総合点49点以下の者（学習到達度・授業への取り組み・Classroomへのコメントに問題がある者）

科目名 狂言Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 善竹 大二郎

科目ナンバリング THE2331T

学位授与方針との関係 DP①⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

特になし。音楽専攻日本音楽専修は必修。

授業の概要

- ・丹田を意識した腹式呼吸を、狂言の謡から体得する。
- ・隙のない身体表現を、狂言の小舞を舞うことで体得する。
- ・狂言「附子」または「呼声」の実習で、狂言の演出や感情表現を学ぶ。

授業の到達目標

- ・狂言の発声（日本古来の声の出し方）を身につけ、隙のない身体表現と狂言の感情表現を知ることができる。
- ・浴衣・袴の着付けを体得できる。

授業計画

1. オリエンテーション：浴衣・袴の着付と「盃」の謡①
2. 「盃」の謡② 声楽と謡の違い
3. 「盃」の謡③ 「盃」の舞① 摺り足について
4. 「盃」の謡④ 「盃」の舞② 「泰山府君」の謡① 狂言の台本読み①
5. 「盃」の謡⑤ 「盃」の舞③ 「泰山府君」の謡② 狂言の台本読み②
6. 「盃」の舞④ 「泰山府君」の謡③ 「泰山府君」の舞① 狂言の台本読み③
7. 「盃」の舞⑤ 「泰山府君」の謡④ 「泰山府君」の舞② 狂言の台本読み④
8. 「泰山府君」の謡⑤ 「泰山府君」の舞③ 「土車」の謡① 狂言の立ち稽古①
9. 「泰山府君」の舞④ 「土車」の謡② 「土車」の舞① 狂言の立ち稽古②

10. 「土車」の謡③ 「土車」の舞② 狂言の立ち稽古③
 11. 「土車」の謡④ 「土車」の舞③ 狂言の立ち稽古④
 12. 「土車」の謡⑤ 「土車」の舞④ 狂言の立ち稽古⑤
 13. 「土車」の舞⑤ 狂言の立ち稽古⑥
 14. 狂言の立ち稽古⑦ 役決め
 15. 謡と舞の復習 狂言の立ち稽古⑧
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少変更する場合があります。

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー・小テストにて、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業内容を踏まえ、自主練習を行うこと。
 これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「狂言ハンドブック」（三省堂）

成績評価

平常点（授業への取り組み・受講態度）50%、実技点50%を総合的に判断する。
 S 総合点が90点以上の者
 A 総合点が80点以上の者
 B 総合点が60点以上の者
 C 総合点が50点以上の者
 D 総合点が49点以下の者

科目名 狂言Ⅱ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 善竹 大二郎

科目ナンバリング THE3330T

学位授与方針との関係 DP①⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

「狂言Ⅰ」の単位を修得していること。音楽専攻日本音楽専修は必修。

授業の概要

- ・丹田を意識した腹式呼吸を、狂言の謡から体得する。
- ・隙のない身体表現を、狂言の小舞を舞うことで体得する。
- ・狂言「附子」または「呼声」の実習で、狂言の演出や感情表現を学ぶ。

授業の到達目標

- ・狂言の発声（日本古来の声の出し方）を身につけ、隙のない身体表現と狂言の感情表現を知ることができる。
- ・浴衣・袴の着付けを体得できる。

授業計画

1. オリエンテーション：狂言の身体表現、感情表現、狂言面について
2. 小舞の復習、「雪山」の謡① 狂言の台本読み①
3. 「雪山」の謡② 「雪山」の舞① 狂言の台本読み②
4. 「雪山」の謡③ 「雪山」の舞② 狂言の台本読み③
5. 「雪山」の謡④ 「雪山」の舞③ 狂言の台本読み④
6. 「雪山」の謡⑤ 「雪山」の舞④ 狂言の台本読み⑤
7. 「雪山」の舞⑤ 「十七八」の謡① 狂言の立ち稽古①
8. 「十七八」の謡② 「十七八」の舞① 狂言の立ち稽古②
9. 「十七八」の謡③ 「十七八」の舞② 狂言の立ち稽古③
10. 「十七八」の謡④ 「十七八」の舞③ 狂言の立ち稽古④
11. 「十七八」の謡⑤ 「十七八」の舞④ 狂言の立ち稽古⑤
12. 今までの謡の復習 「十七八」の舞⑤ 狂言の立ち稽古⑥（役決め）
13. 実技公開試験の課題の稽古（小舞と狂言）

14. 実技公開試験
小舞「盃」「泰山府君」「土車」「雪山」「十七八」
狂言「附子」または「呼声」
15. 特別授業（狂言の舞、狂言の特殊な役の身体表現）

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー・小テストにて、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業内容を踏まえ、自主練習を行うこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

「狂言ハンドブック」（三省堂）

成績評価

平常点（授業への取組み・受講態度）50%、実技点50%を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 アフレコ実技A

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 小金丸 大和

科目ナンバリング THE3331T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。受け身の姿勢ではなく、積極的な研究心を持って講義を受講すること。受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しをよく聞き、「見取り稽古」を行うこと。

収録でより良い演技ができるよう、講師の指導に基づく自主学習を行うことが望ましい。

声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」（小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行）を読んでおくこと。

授業の概要

声優として必要な演技術を学ぶ。

具体的には発声・発音・アーテュレーションの見直しから始まり、基礎訓練の方法を知り、アフレコ（アフターレコーディング）における台詞術、役作り、脚本の読解、演技プランの方法について研究を進めていく。

また、現場での礼儀作法・マイクワーク・専門用語の理解等、実践的な技術の習得を目指す。

「空間感覚・距離感の確立」

「呼吸領域を意識し、身体を鳴らすことを覚える」

「声にパーソナリティを持たせる」

上記3点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行い、それを視聴してみることで、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。

授業の到達目標

将来、プロの声優としてアフレコ現場のマイク前で通用する演技ができる。

授業計画

1. 声優演技について
2. 発声・発音・アーテュレーションの見直し
3. 声優の基礎訓練の方法
4. 呼吸領域の理解
5. 基礎能力テスト
6. マイクワークの練習
7. アフレコ脚本の読み方、特殊表記の解説
8. キャラクター表現について
9. 声優に必要な専門知識のまとめ

11. アフレコ実習①短編アニメーションモノローク
12. アフレコ実習②短編アニメーションダイアローグ
13. アフレコ実習③長編アニメーションモノローク
14. アフレコ実習④長編アニメーションダイアローグ
15. アフレコ実習⑤長編アニメーション通し

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・配布された資料、台本をしっかりと読み込んでおくこと。
 - ・声優に必要な肉体的訓練、呼吸の訓練を日常的に行うこと。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：教材プリント、台本は授業時に配布する。

参考資料：小金丸大和「VOICE CUSSION」（小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行）を読んでおくこと。
小金丸大和作・演出「さんになのかい」DVD「新選組」「孫悟空」（VAPより発売）を視聴しておくこと。

成績評価

受講態度および実技試験における技術の習得状況において評価する。追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。

成績は、以下の項目につき、1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取組み②課題の成果③表現者としての魅力、個性④自らを研鑽する意欲⑤身体的、精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者（講義内容をほぼ完璧に理解し、声優演技技術の基礎を応用できている）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を理解し、かつ実践できるレベルに達している）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容を理解することができている）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容を理解するに至ってはいないが、努力と研究が見られる）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解していない、授業への取り組みにも問題がある）

科目名 アフレコ実技B

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 小金丸 大和

科目
ナンバリング THE4330T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。前期に「アフレコ実技A」を履修していることが望ましい。
受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しをよく聞き、「見取り稽古」を行うこと。
収録でより良い演技ができるよう、自主学習を行うことが望ましい。
声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおくこと。

授業の概要

声優として必要な演技技術を学ぶ。「アフレコ実技A」で習得した技術論を分析し、応用し、より具体的にしていく。
「空間感覚・距離感の確立」
「呼吸領域を意識し、身体を鳴らすことを覚える」
「声にパーソナリティを持たせる」
上記3点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行い、それを視聴してみることで、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。
ボイスサンプルを実際に作成し、収録、配布する。自分の声の持っている特質、長所、弱点を知る。

授業の到達目標

- ・ 将来、プロの声優として活動することができる。
- ・ プロの現場オーディション、所属オーディションで合格できる。

授業計画

1. 声優演技について(復習)
2. 神経の多数化について(座学)
3. アフレコ実習①基本理論
4. アフレコ実習②状況の表現
5. アフレコ実習③感情の表現
6. オーディオドラマ演技①マイクワークの実践
7. オーディオドラマ演技②状況の表現
8. オーディオドラマ演技③感情の表現
9. アフレコ実習④キャラクター表現理論
10. アフレコ実習⑤洋画吹き替え
11. アフレコ実習⑥洋画コメディ吹き替え

12. プロダクションマネージャーによる質疑応答
13. ボイスサンプル原稿作成
14. ボイスサンプルリハーサル、収録
15. ボイスサンプル視聴と講評

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

目標とするプロの声優・俳優の出演しているアニメーション作品を複数視聴する。
各プロダクション・養成所・研究所の情報を集め、どの事務所がどの方面の仕事に強いかを研究しておく、卒業後の進路を決定する時の指針とする。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：教材プリント、台本は随時授業時に配布する。
参考資料：小金丸大和「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおくこと。
小金丸大和作・演出「さんいんのかい」DVD「新選組」「孫悟空」(VAPより発売)を視聴しておくこと。

成績評価

受講態度および実技試験における技術の習得状況において評価する。追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。
成績は、以下の項目につき、1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業への取組み②課題の成果③表現者としての魅力、個性④自らを研鑽する意欲⑤身体的、精神的健康の維持
S 総合点が90点以上の者(講義内容をほぼ完璧に理解し、覚えた声優演技技術を応用できている)
A 総合点が80点以上の者(プロの声優として作品に出演できるレベル)
B 総合点が60点以上の者(プロダクション所属オーディション等に合格できるレベル)
C 総合点が50点以上の者(講義内容を理解し、理論としての声優演技基本を理解できた者)
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解できていない、実践することができていない者)

科目名 クラシック唱法 I ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司

科目
ナンバリング VOM2310T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。

授業の概要

クラシックの発声の基本は「響き」にある。大オーケストラの伴奏であっても、マイクも使わずに声を通るのは全身が響いているからである。いかに声を響かせ遠くに飛ばすか、それは芝居のセリフにおいても同じである。
この授業では、発声について知識の理解を深めた上で、響きを意識することに重点を置いて発声を学んでいく。なお、独唱曲ばかりでなく、ハーモニー感覚を身につけるため、合唱曲も取り上げ、歌うことへの関心を高めていく。

授業の到達目標

- ・ 日本語による歌唱のハーモニー感覚を身につけることができる。
- ・ 響きを意識した発声法を身につけることができる。

授業計画

1. 導入：クラシックの発声法を学ぶ意義について
2. ヴォイス・トレーニング①歌うための呼吸について
3. ヴォイス・トレーニング②声と響きについて
4. ヴォイス・トレーニング③発音(母音)について
5. ヴォイス・トレーニング④発音(子音)について
6. ヴォイス・トレーニング⑤言葉について
7. ヴォイス・トレーニング⑥声&言葉&表現
8. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング①
9. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング②
10. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング③
11. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング④
12. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング⑤
13. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング⑥
14. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング⑦

15. 全員でのヴォイストレーニングおよび個々のヴォイストレーニング⑧各回、合唱曲を教材とし、ハーモニー感覚を身につける。
※コロナの状況により、個々のヴォイストレーニング中心とし、動画を見でのレポート課外を重視することもある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して、随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

各授業のテーマについて、次の授業までに、各自実践的に復習しておくこと。また、個人ヴォイストレーニングで与えられた課題は、日々の訓練として活用していくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

成績評価

成績評価については、授業態度50%、課題50%にて総合的に判断して行う。
S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力・課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・歌唱表現力・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・歌唱表現力・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 クラシック唱法Ⅱ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 松井 康司

科目
ナンバリング VOM3311T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

「クラシック唱法Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

「クラシック唱法Ⅰ」で学んだことを基礎に、発声することから表現することへレベルアップしていく。日本語の歌を取り上げ、いかに良い発声で日本語を美しく歌えるようにしていくかを理解しながら演奏できるようにする。実技公開試験に向けては、2～3人で1曲を割り振るので、与えられた曲を協力して演出し、歌と演技によるパフォーマンスを創造し自己表現する。

授業の到達目標

- ・ひとりひとりが歌うことに自信を持つことができる。
- ・言葉と旋律との関連性を理解し、歌唱表現の幅を深めることができる。

授業計画

1. 導入、試聴会
2. 試聴会
3. 合唱曲の練習
4. 実技公開試験の選曲決定、公開レッスン形式の個別指導
5. 公開レッスン形式の個別指導および合唱練習①
6. 公開レッスン形式の個別指導および合唱練習②
7. 公開レッスン形式の個別指導および合唱練習③
8. 公開レッスン形式の個別指導および合唱練習④
9. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導および合唱練習①
10. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導および合唱練習②
11. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導および合唱練習③
12. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導および合唱練習④
13. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導および合唱練習⑤

14. 通し稽古
15. G.P

※コロナの状況により、授業計画を柔軟に変更していく必要がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して、随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

与えられた曲に対し、各グループごとに予習復習を必ず行うこと。また、その曲に対するイメージをしっかりと持ち、演出を考えていくこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

成績評価

成績評価については、授業態度50%、課題40%、テスト10%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・歌唱表現力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・歌唱表現力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 ミュージカルトレーニングA①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藍澤 幸頼

科目
ナンバリング VOM2311T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 ○

—

履修条件

- ・LAによる補習に参加できる者:「ミュージカルトレーニングA①」の履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA①」を、「ミュージカルトレーニングA②」の履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA②」を、それぞれ必ず履修すること。(それぞれ内容が異なる場合がある)
- ・遅刻・欠席なく参加できる者(ステージングを行うため、共演者・指導者に迷惑がかかる)
- ・体のラインがはっきりわかる練習着・ジャズシューズを用意すること。女子は、稽古用スカート(ゴム等で着脱が簡単なもの)とヒールのあるダンスシューズも用意すること。

授業の概要

ミュージカルのプロダクションに参加しているシミュレーションを通して、稽古場のマナーや共演者とのコミュニケーションと共に、役で歌う・踊る・語ることと、作品への向かい方の基本を学習する。試験は公開になる場合もある。

授業の到達目標

トリプルスレット(歌・舞踊・セリフ、全てが高い水準にある俳優)を目指して、個々の弱点を知り、今後の努力の方向を知ることができる。

授業計画

1. 自己紹介
2. ナンバーの解説、役作りのグループワーク
3. 歌唱・ステージング①
4. 歌唱・ステージング②
5. 歌唱・ステージング③
6. ナンバー中のオーディション・歌唱・ステージング
7. 歌唱・舞踊・ステージング①
8. 歌唱・舞踊・ステージング②
9. 歌唱・舞踊・ステージング③
10. 歌唱・舞踊・ステージング④

11. 稽古を振り返り、ディスカッション
12. 歌唱・舞踊・ステージング⑤
13. 歌唱・舞踊・ステージング⑥
14. 試験を兼ねた発表
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業時、口頭による個々への指導。
発表後、個々への改善点を伝える。

授業時間外の学習

それぞれの弱点を克服するために必須である。できないことは、次回までに自主練をして次に参加すること。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

ネット上で、作品のプロの舞台版・映画版を研究すること。

成績評価

授業態度20%、授業への取り組み(弱点の克服)40%、協調性20%、実技試験20%をもとに総合的に評価する。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数が、2つの総合計回数の3分の2以上あればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上の参加、両方揃っていないと正しく理解すること。」

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 ジャズダンスA①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三村 みどり

科目
ナンバリング DNC1310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。 (「ジャズダンスA①」履修者は「ジャズダンスA-LA①」、「ジャズダンスA③」履修者は「ジャズダンスA-LA③」に参加すること)

授業の概要

肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
・ 身体の軸、コントロール、柔軟性を身につけるために、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
・ 部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う。
・ ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
・ 振りを覚えて、表現、感性を磨く。

授業の到達目標

それぞれが目標を作り、その目標に向かって肉体訓練、踊りの感性表現を習得できる。

授業計画

1. 自分の肉体の長所、短所を知る①基礎
2. 自分の肉体の長所、短所を知る②応用
3. 全身または部分でリズムをとる①基礎
4. 全身または部分でリズムをとる②応用
5. 全身または部分でリズムをとる③発展
6. 床を踏む、身体を引き上げるとことを学ぶ①基礎
7. 床を踏む、身体を引き上げるとことを学ぶ②応用
8. 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る①基礎
9. 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る②応用
10. 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる①基礎
11. 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる②応用
12. 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる①基礎
13. 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる②応用

14. 振り付けを覚えて、音、振り付けで感じた感性をプラスし、踊りで自分や作品を表現していく
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

日々の稽古による、個々への指導時の言葉。

授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数が、2つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

- S 総合評価90点以上の者
- A 総合評価80点以上の者
- B 総合評価60点以上の者
- C 総合評価50点以上の者
- D 総合評価49点以下の者

科目名 ジャズダンスA②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

科目
ナンバリング DNC1310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。 (「ジャズダンスA②」履修者は「ジャズダンスA-LA②」、「ジャズダンスA④」履修者は「ジャズダンスA-LA④」に参加すること)

授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、ほとんどの人々が経験をしたことがある。得意であるという状況になっている。そのため、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとてども大切になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を行う。授業で使用する曲等で、ジャズダンスの特長であるリズム感を養い、コンビネーションで振りを覚えて、音楽に合った表現を踊り、どう見せるか?見せたいか?見えたか?を考えながら、身体表現の演習を行う。

授業の到達目標

到達目標は各自のスキルアップが目標であるが、基礎知識・基礎訓練が中心でもあるため、自分自身の身体を知り、自信をつける反面、欠点を認識し、トレーニング方法を見つけることができる。数回、小テストを行うことにより、本人の得意不得意を知り、自分自身の成長に気付くことができる。

授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ中心 (正しいストレッチの仕方) 音のとおり方・のり方。コンビネーション1導入
2. ストレッチ・エクササイズ中心 音のとおり方・のり方。コンビネーション1基礎
3. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとおり方。コンビネーション1応用
4. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとおり方。コンビネーション1発展
5. コンビネーション1重視・学習到達度の確認
6. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2導入
7. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2基礎
8. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2応用
9. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2発展
10. コンビネーション2重視・学習到達度の確認
11. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3導入

12. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3基礎
 13. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3応用
 14. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3発展・授業総括
 15. まとめ
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

個人的には授業の前後にて対応する。
全体的には小テストの後にを行う。

授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングを行うこと。小テストを行うので各自練習をしておくこと。
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用。
ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

成績評価

授業への取り組み・授業態度30%、小テスト・期末テスト70%の状況で評価する。

- S 90点以上の者 (身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で躍ることができた者)
- A 80点以上の者 (音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者)
- B 60点以上の者 (音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者)
- C 50点以上の者 (振付を覚えて踊れる。または成果が出た者)
- D 49点以下の者 (振付を覚えて練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者)

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。
LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数が、2つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスB①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三村 みどり

科目
ナンバリング DNC2310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスB①」履修者は「ジャズダンスB-LA①」、「ジャズダンスB③」履修者は「ジャズダンスB-LA③」に参加すること)

授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につけるために、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かしアインソーレーションを行う。
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
- ・振り覚えて、表現、感性を磨く。

授業の到達目標

前期で取得した技術をより高め、踊りの質を高めることができる。

授業計画

1. 前期の授業の確認①基礎
2. 前期の授業の確認②応用
3. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる①入門
4. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる②基礎
5. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる③応用
6. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる④発展
7. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく①入門
8. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく②基礎
9. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく③応用
10. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく④発展
11. 同じ振りを踊り込むことにより、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる①入門

12. 同じ振りを踊り込むことにより、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる②基礎
13. 同じ振りを踊り込むことにより、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる③応用
14. 同じ振りを踊り込むことにより、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる④発展
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

日々の稽古による、個々への指導時の言葉。

授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと) これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

- S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価50点未満の者

科目名 ジャズダンスB②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

科目
ナンバリング DNC2310T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスB②」履修者は「ジャズダンスB-LA②」、「ジャズダンスB④」履修者は「ジャズダンスB-LA④」に参加すること)

授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、ほとんどの人々が経験したことがある得意であるという状況になっている。そのため、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとてども大切になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を通して、表現方法を見つけていく。ストレッチエクササイズ・アインソーレーション・クロスフロアー・コンビネーションで実技を行う。

授業の到達目標

各自のスキルアップができる。柔軟・筋力トレーニングを通して、各自のトレーニング方法を見つけ、動きの範囲を広げることで、表現方法に生かし、更にテクニックをつけることができる。
小テストを行うことにより、自分自身の成長に気付くことができる。

授業計画

1. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1導入
2. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1基礎
3. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1応用
4. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1発展
5. コンビネーション1重視・学習到達度の確認
6. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2導入
7. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2基礎
8. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2応用
9. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2発展
10. コンビネーション2重視・学習到達度の確認
11. 動きの見せ方について考えて踊る①基礎
12. 動きの見せ方について考えて踊る②応用

13. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を考える。
 14. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を表わす・授業総括。
 15. まとめ
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

個人的には授業の前後にて対応する。
全体的には、小テストの後にを行う。

授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングを行うこと。小テストを行うので各自練習しておくこと。

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと) これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用。
ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

成績評価

授業への取り組み・授業態度30%、小テスト・期末テスト70%の状況で評価する。

- S 90点以上の者 (身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で躍ることができた者)
A 80点以上の者 (音楽に合った動き、ポーズ等を手く表現でき、研究・訓練した者)
B 60点以上の者 (音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者)
C 50点以上の者 (振付を覚えて踊れる。または成果が出た者)
D 49点以下の者 (振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者)

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。
LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数」が、2つの総合回数3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスC①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 渡辺 美津子

科目
ナンバリング DNC3311T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスC①」履修者は「ジャズダンスC-LA①」、「ジャズダンスC③」履修者は「ジャズダンスC-LA③」に参加すること)

授業の概要

- ・ストレッチ、筋肉トレーニング、アイストレーションで基本的な動きをマスターする。
- ・重心の移し方、体の引き上げ方、ハイレベルなバランス感覚を身につけ、幅広いジャンル、様々な動きに対応できる体幹を鍛える。
- ・振付を覚えステップを習得する。場合によっては、個人レベルに合わせたグループ分けをし振付する。
- ・最終的にはテクニックのみならず、表現力も身につけていきたい。イマジネーション力を鍛え、自由に自己表現できるようにする。

授業の到達目標

振付を正確に踊ることができる。ニュアンスを感じ取ることができる。自己表現ができる。

授業計画

1. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1—①
2. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1—②
3. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1—③
4. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1—まとめ
5. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2—①
6. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2—②
7. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2—③
8. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2—まとめ
9. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション3—①

10. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション3—②
11. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション3—③
12. ストレッチ、筋トレ、アイストレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション3—まとめ
13. 学習到達度の確認1
14. 学習到達度の確認2
15. 学習到達度の確認3 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

日々のレッスン時、および課題発表後に振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)
 - ・日頃から、ダンス動画、ミュージカルのダンスシーン等を見て、知識を増やしておくように。
 - ・授業中に話をしたことを、インターネットでチェックすること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用。サルエル、ワイドパンツ不可。バレエ基礎、コンビネーションは裸足で行うこともあるのでフータータイツ不可。ジャズダンスシューズ、ジャズスニーカー着用。バレエシューズは不可。

成績評価

授業への取組み・授業態度30%、課題に対する成果50%、表現力および想像力20%を総合的に評価する。
 S 総合点90点以上の者(優れた表現力のある者)
 A 総合点80点以上の者(表現力のある者)
 B 総合点60点以上の者
 C 総合点50点以上の者
 D 総合点49点以下の者
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。
 授業および、LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。

科目名 ジャズダンスC②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

科目
ナンバリング DNC3311T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスC②」履修者は「ジャズダンスC-LA②」、「ジャズダンスC④」履修者は「ジャズダンスC-LA④」に参加すること)

授業の概要

- ・欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用し、実技を行う。
- ・ダンスに必要な柔軟性・筋力トレーニング・基本的な身体の使い方・リズムのとり方・乗り方、色々な種類の音楽を用いて、その音色・リズム・アクセントを身体を使って表現することを演習する。ダンスを通して、身のこなしと感受性豊かな表現力を身につける。

授業の到達目標

- ・肉体・精神共にコントロールすることを身につけることができる。
- ・踊ることを通して表現豊かなパフォーマンスを実践することができる。

授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ(正しいストレッチの仕方)・コンビネーション1:導入
 2. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(リズムのとり方・乗り方)・コンビネーション1:基礎
 3. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(正しい姿勢・軸のとり方)・コンビネーション1:応用
 4. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(軸、バランスのとり方)・コンビネーション1:発展
 5. コンビネーション1重視・学習到達度の確認
 6. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:導入
 7. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:基礎
 8. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:応用
 9. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:発展
 10. コンビネーション2重視・学習到達度の確認
 11. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:導入
 12. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:基礎
 13. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:応用
 14. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:発展・授業総括
 15. コンビネーション3重視
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

個人的には授業の前後に対応する。
 全体的には小テストの後に行う。

授業時間外の学習

- 各自、柔軟、筋力トレーニングを行うこと。
 - 小テストを行うので振付の練習をし、その音やイメージの表現を研究しておくこと。
 - 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着を着用。
 ダンスシューズ(ジャズシューズ等)を使用。

成績評価

授業への取組み・授業態度30%、小テスト・期末テスト70%の状況で評価する。
 S 90点以上の者(身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者)
 A 80点以上の者(音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者)
 B 60点以上の者(音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者)
 C 50点以上の者(振付を覚えて踊れる。または成果が出た者)
 D 49点以下の者(振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者)
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。
 LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数、2つの総合回数3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていなければならない」と正しく理解すること。

科目名 バレエ・ムーヴメント①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中農 美保

科目
ナンバリング DNC1300T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

特になし。

授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して、下記の事項等を身につけられるように、基本的なレッスンをを行う。

- ・舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、ブレイスメント
- ・あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
- ・西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
- ・音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚

授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができる。

授業計画

毎回、床上のフロアストレッチから始める。

1. 姿勢とブレイスメント、5つの足のポジション、ポール・ド・ブラ
2回目以降は「バーの基本レッスン」
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン
2. 導入・入門
3. 基礎①体の使い方
4. 基礎②綺麗に魅せる
5. 基本レッスンの復習：上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロッパ
6. 応用①体の使い方
7. 応用②綺麗に魅せる
8. 2～7回のまとめ
9回目以降は「バーレッスンとセンターレッスン。センターでは9回以降、以下の基本ステップを加えていく」
アダージュ、バットマン・タンジュ、シャンジェマ・エシャッペ、グリッサード、アッサンブレ、シソヌ、ピルエット等

9. ステップの導入・入門
10. ステップの基礎
11. 発展①バーとセンターの組み合わせ
12. 発展②音楽に合わせてみる
13. 2～12回のまとめ
14. 試験のアンシェヌマン
15. まとめ
順序および内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので、練習に努めること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。
女性は髪をまとめるように。

成績評価

授業への取り組み・授業の状況40%、課題に対する成果30%、期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 クラシックバレエ I ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中農 美保

科目
ナンバリング DNC2300T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

特になし。

授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して、下記の事項等を身につけられるように、基本的なレッスンをを行う。

- ・舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、ブレイスメント
- ・あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
- ・西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
- ・音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚

授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができる。

授業計画

1限は初心者クラス、2限は経験者クラスとして、レベルに応じたレッスンをを行う。

1. 姿勢とブレイスメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ
2回目以降は「バーの基本レッスン」
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン、ルルベ
2. 導入・入門
3. 基礎：体の使い方
4. 基本レッスンの復習：上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロッパ、ロン・ド・ジャンプ・アン・レール
5. 応用①体の使い方
6. 応用②綺麗に魅せる
7. 2～6回のまとめ
8回目以降は「バーレッスンとセンターレッスン。センターでは8回以降、以下の基本ステップを加えていく」
アダージュ、バットマン・タンジュ、バランセ（ワルツステップ）、ピルエット、小さいジャンプ、グリッサード等
8. ステップの導入・入門

9. ステップの基礎・体の使い方
10. 8・9回のまとめ
センターでは11回以降、以下の基本ステップを加えていく。
アッサンブレ、ジュッテ、シソヌ、ジュッテアントラセ、移動する回転等
11. ステップの応用①体の使い方
12. ステップの応用②綺麗に魅せる
13. 8～12回のまとめ
14. 試験のアンシェヌマン
15. まとめ
順序および内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので、練習に努めること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。
女性は髪をまとめるように。

成績評価

授業への取り組み・授業の状況40%、課題に対する成果30%、期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 クラシックバレエⅡ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中農 美保

科目ナンバリング DNC3300T

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

「クラシックバレエⅠ」の単位を修得していること。

授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して、下記の事項等を身につけられるように、基本的なレッスンをを行う。

- ・舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、ブレイスメント
- ・あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
- ・西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
- ・音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚

授業の到達目標

- ・それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。
- ・バレエのアカデミックなムーヴメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

授業計画

1限は経験者クラス、2限は初心者クラスとして、レベルに応じたレッスンをを行う。

- | | |
|---|--------------------|
| 1. クラス分け | |
| 【初心者クラス】 | 【中・上級クラス】 |
| 2. Iの復習①基本 | 2. Iの復習・クラスレッスン①導入 |
| 3. Iの復習②応用 | 3. クラスレッスン②基本 |
| 4. 発展的な体の使い方 | 4. クラスレッスン③応用 |
| 5. 綺麗に魅せる | 5. クラスレッスン④発展 |
| 6. 姿勢とブレイスメント足の5つのポジション、ボール・ド・ブラ | |
| 6回以降は「バーレッスン、センターレッスン、実技公開試験のアンシェヌマン」 | |
| 6～9回では「アダージョ、バットマン・タンジュ、ピルエット、グラン・バットマン等」 | |
| 6. 体の使い方①応用 | |
| 7. 体の使い方②発展 | |

8. 綺麗に魅せる
 9. 6～8回のまとめ
 - 10～13回では「アレグロ、ワルツ、グラン・アレグロ、コーダ等」
 10. 体の使い方①応用
 11. 体の使い方②発展
 12. 綺麗に魅せる
 13. 0～13回のまとめ
 14. クラスレッスンと実技公開試験のアンシェヌマンのまとめ
 15. 実技公開試験
- 順序および内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので、練習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず稽古着(レオタード・タイツ)を着用し、バレエシューズを使用。
女性は髪をまとめるように。

成績評価

授業への取り組み・授業の状況40%、課題に対する成果30%、期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 タップダンスⅠ①

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中谷 諭紀

科目ナンバリング DNC2320T

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

タップダンスに関心のある学生。

授業の概要

リズム感はダンスの基本としてはもとより、芝居や歌を唄うことにおいても大変重要なことである。基礎～テクニックのステップを学び、より表現力を豊かにするため、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。

授業の到達目標

基礎～テクニックのステップを学び、数曲の振り付けを覚え、幅広い表現力を身につけることができる。

授業計画

1. タップシューズと床の感触をつかんではっきりした音を出す
2. 正確に基礎ステップを覚える①導入
3. 正確に基礎ステップを覚える②基礎
4. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む①導入
5. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む②基礎
6. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
7. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確に踏む
8. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む⑤まとめ
9. テクニカル練習をしながら、完結した曲の練習
10. テクニカル練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む①導入

11. テクニカル練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む②基礎
12. テクニカル練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
13. テクニカル練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確に踏む
14. テクニカル練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む⑤強弱やアクセントの工夫
15. まとめ・試験

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表(試験)の後に振り返りとして、総評を行う。

授業時間外の学習

復習・自主練習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

成績評価

授業への取り組み・授業態度30%、課題の成果30%、試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上の者
- A 総合評価80点以上の者
- B 総合評価60点以上の者
- C 総合評価50点以上の者
- D 総合評価49点以下の者

科目名 タップダンスⅠ②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 近藤 淳子

科目
ナンバリング DNC2320T学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

—

履修条件

特になし。

授業の概要

タップダンスの楽しさからプロになるための本格的なテクニックまでを基礎からしっかりと学ぶ。リズム感(音の強弱・音色・アクセント)ダンスの基本としてはもとより、芝居や歌を唄うことにも大変重要なことである。タップダンスのレッスンを通じて身体全体で感じることや表現することを体得してもらったと思う。

授業の到達目標

基本のスキルアップを覚え、数曲の振付を仕上げていく過程で各自のスキルアップと幅広い表現力を身につけることができる。

授業計画

- 音の出し方、タップシューズとチップの床の感触のつかみ、重心移動について
- ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション①導入、練習曲1
- ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション②基本、練習曲1
- ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション③まとめ、復習、練習曲1
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲1
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ①序盤
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ②中盤
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ③終盤
- 前回の復習、課題曲2、アカベラ①②③
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲2
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカベラ①②③グループでの演習

- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカベラ①②③創意工夫を試みる
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカベラ①②③グループ内で息を合わせる
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカベラ④11～14回のまとめ演習
- 学習到達度の確認
※順序および内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内に指導・学習到達度の確認時に、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

成績評価

授業への取り組み30%、課題の成果30%、試験40%の3つを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者(意欲的に課題に取り組み、研究し優れた表現力がある)
- A 総合点80点以上の者(音の強弱等、音楽的に確に合わせたステップができ表現力がある)
- B 総合点60点以上の者(曲に合わせてステップを覚えて踊ることができる、積み重ねの成果がある(音の強弱等))
- C 総合点50点以上の者(ステップを覚えて踊ることができる)
- D 総合点49点以下の者(課題のステップを覚えていない、練習の成果が見えない)

科目名 タップダンスⅡ①

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 中谷 論紀

科目
ナンバリング DNC3320T学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

「タップダンスⅠ」の単位を修得していること。

授業の概要

基礎～テクニックのステップを用い、より表現力を豊かにするため、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。また、発表の場を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学ぶ。

授業の到達目標

リズム感・テクニックとより幅広い表現力を身につけることができる。

授業計画

- 基礎ステップ・テクニカルステップの練習①基礎
- 基礎ステップ・テクニカルステップの練習②応用
- 基礎ステップ・テクニカルステップの練習③まとめ
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える①導入
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える②基礎
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える③細かな体の使い方
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える④応用
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える⑤発展
- 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える⑥まとめ
- 曲に合わせて、より多くの表現力を身につける①曲序盤

- 曲に合わせて、より多くの表現力を身につける②曲中盤
- 曲に合わせて、より多くの表現力を身につける③曲終盤
- 曲に合わせて、より多くの表現力を身につける④強弱やアクセントの工夫
- 曲に合わせて、より多くの表現力を身につける⑤落とし込む
- まとめ・試験

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表(試験)の後に、総評を行う。

授業時間外の学習

復習・自主練習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

成績評価

授業への取り組み・授業態度30%、課題の成果30%、試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上の者
- A 総合評価80点以上の者
- B 総合評価60点以上の者
- C 総合評価50点以上の者
- D 総合評価49点以下の者

科目名 タップダンスⅡ②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 近藤 淳子

科目
ナンバリング DNC3320T

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

—

履修条件

「タップダンスⅠ」の単位を修得していること。

授業の概要

より表現力を豊かにするための様々な曲に合わせてジャズ、ヒップホップ等のステップを使って振り付けていく。音の強弱、アクセント、リズムを身体を使って踊りこみタップダンスの奥深さを学んでほしい。また、発表会を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学びの技術のみならず表現者としての骨格を骨太にしていきたい。

授業の到達目標

幅広い表現方法を身につけ、作品ごとに求められる表現方法を自ら思考工夫できる。真摯に探求心を持って体全体を使って表現できる。

授業計画

- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカベラ、レベルアップコンビネーション①体の使い方
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカベラ、レベルアップコンビネーション②リズムに合わせる
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカベラ、レベルアップコンビネーション③リズムに合わせて正確なタップを試みる
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカベラ、レベルアップコンビネーション④1～4回の復習、まとめ
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2①体の使い方
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2②リズムに合わせて正確なタップを試みる
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2③強弱やアクセントの工夫
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2④5～7回の復習、まとめ
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲3
- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカベラ①グループで息を合わせる

- ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカベラ②強弱やアクセントの工夫
 - 復習、通し稽古①各々の課題発見
 - 復習、通し稽古②「魅せる」を意識する
 - 復習、通し稽古③実技公開試験に向けて
 - 実技公開試験、学習到達度の確認
- ※順序および内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中に指導、通し稽古・学習到達度の確認時に、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

成績評価

授業への取り組み30%、課題の成果30%、試験40%の3つを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者(意欲的に課題に取り組み、研究し優れた表現力がある)
- A 総合点80点以上の者(音の強弱等、音楽的に的確に合わせたステップができ表現力がある)
- B 総合点60点以上の者(曲に合わせてステップを覚えて踊ることができる、積み重ねの成果がある(音の強弱等))
- C 総合点50点以上の者(ステップを覚えて踊ることができる)
- D 総合点49点以下の者(課題のステップを覚えていない、練習の成果が見えない)

科目名 歌唱(個人レッスン) A～H

授業形態 実技(PL)

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 A～D 2
E～H 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 各担当教員

科目
ナンバリング P.104参照

学位授与方針
との関係 DP②⑤

期間 前期・後期

他専攻 —

履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

授業の到達目標

- 音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- 表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる。

授業計画

各講師に委ねられるが、声や歌に関することを学ぶ。身体の使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法等を学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 課題となっている曲への総評をする。
- 発声についてもアドバイスをする。
- 全体的な表現への総評。

授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。
これらの学修に、A～Dは60時間、E～Hは30時間以上を要する。

教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上の者
- A 講師の平均が80点以上の者
- B 講師の平均が60点以上の者
- C 講師の平均が50点以上の者
- D 講師の平均が49点以下の者

科目名 舞台芸術概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE1000T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

1年生前期におかれる必修科目。

授業の概要

舞台芸術に関する概論として、様々な舞台芸術のジャンルを幅広く取り扱う。

日本の古典芸能(能・狂言・歌舞伎)、西洋の古典から近代・現代の演劇、日本の近代・現代の演劇、セリフ劇、実験演劇、フィジカルシアター、ポストドラマ演劇、児童演劇、ミュージカル、ダンス(バレエ・モダン・コンテンポラリー)等、多種多様な舞台芸術の表現があることを知るための授業である。一口に演劇や舞台、ミュージカルといっても、様々な形態があり、それが何に根差した文化の形態としてあるのか。舞台芸術の幅の広さを知るためであるが、同時に歴史や文化といった部分にも目を向けていく。

授業の到達目標

授業で話された様々な舞台芸術を知って、それを足掛かりに各自の興味を深めていくこと。幅広いジャンルの舞台芸術を提示する分、百花繚乱的になりがちだが、今後舞台芸術の深い世界を知るためにも、多種多様なものをまずは知ること。また、単に色々な舞台があったというだけで終わるのではなく、そこから、演劇と社会、演劇と公共圏、演劇と地域等、どのような接点があるのかを考える。最終的には、自分自身で知的好奇心を持って、舞台芸術や授業で話されたトピック等について調べたり、考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション: 多様な舞台芸術の世界
2. 演技とは何か: 古典芸能の型の演技
3. 演技とは何か: 西洋演劇の内面の演技
4. 能、狂言、文楽、歌舞伎 日本の古典芸能
5. 西洋演劇の震源地としての古代ギリシャ演劇
6. 西洋演劇のモダンと現代
7. 日本の近代演劇
8. 日本の現代演劇のセリフ劇
9. 実験演劇の時代

10. ミュージカル
11. バレエとモダン、もしくは舞踏
12. コンテンポラリーダンスの世界
13. こどもと演劇
14. フィジカルシアターとポストドラマ演劇
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - 授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書: 「日本史」「世界史」(山川出版社)、もしくは、それぞれの高校で使った日本史と世界史の教科書。
参考書: 授業時にプリントを配布。

成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 日本演劇史A(古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 安富 順

科目
ナンバリング THE1001T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

必修。

授業の概要

この授業では俳優として最低限備えておきたいと考えられる、日本演劇史に関する知見より、いわゆる《古典分野》を学ぶものである。具体的には日本三大古典演劇と称される能楽(能・狂言)・歌舞伎・人形浄瑠璃(文楽)の史的発生とその展開、さらに演劇的性格・本質等について解説を行う。演劇史である以上、歴史研究分野の一部であることは、言うを俟たない。通常、歴史の記述は遠い過去より現在に近い地平へと降りるものである。が、当該授業ではそれとは正反対に、より現代に近い過去から出発し歴史の流れを遡ることで、三大古典演劇それぞれの発生と展開を探ってみたいと考える。したがって、授業進行に違和感を覚える学生も出ると考えられるので、担当教員は各受講生の負担にならぬよう丁寧な説明を心がける。上の古典演劇に触れた経験を持たない受講生もいるであろうから、ビデオを適宜利用し理解の一助としたい。授業において受講生には今まで耳にしたことがない人物名、作品名、学術用語が頻出するが、基本的事項の把握は全体像の理解するための階梯であると、理解いただきたい。

なお、COVID-19の状況によっては、全回「オンライン」講義となる可能性もある。その際は、授業計画・成績評価に変更が生じる場合もある。この点は了解を願いたい。

授業の到達目標

講義を通じ、日本古典芸能史および演劇史に関する基本的必須知識、教養を習得し、それらを説明することができる。

授業計画

1. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか①唐十郎と寺山修司
2. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか②小林一三と宝塚
3. 寡黙の人—河竹黙阿弥①三深(親)切
4. 寡黙の人—河竹黙阿弥②明治への眼差し
5. 七代目市川團十郎—「安宅」から「勧進帳」
6. 強かな人生—鶴屋南北①「桜姫東文章」
7. 強かな人生—鶴屋南北②現代演劇と南北

8. 人生の真実—近松門左衛門①元禄時代の恋愛
9. 人生の真実—近松門左衛門②近松心中劇
10. 異端、前衛、そして正統—出雲のお国登場
11. 舞と踊り
12. 世阿弥の人生
13. 世阿弥「風姿花伝」を読む
14. 能役者への道
15. 総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

Classroom内に設ける課題に関し、Classroomを通してフィードバックを実施する。

授業時間外の学習

指定文献を事前に読むこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリントを配布する。参考となる書籍等については適宜紹介する。

成績評価

- 授業への取り組み15%、持ち込み不可の筆記試験85%。
- S 総合点90点以上の者(講義内容の理解度が極めて優れていると認められる者)
- A 総合点80点以上の者(講義内容の理解度が優れていると認められる者)
- B 総合点60点以上の者(講義内容の理解度が一定以上には達したと認められる者)
- C 総合点50点以上の者(講義内容の理解度にやや不安を覚えるが、最低限の段階には一応達したと認められる者)
- D 総合点49点以下の者(講義内容の理解度が極めて不十分と判断せざるを得ない者)

科目名 日本演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE2000T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

1年生後期必修科目。

授業の概要

日本の現代演劇史を概括して講義する。半期のため、学生は授業時間外で、戯曲や演劇論、そして時代背景についての読書を行うことが求められる。我々が現在考えている「演劇」の概念は、いかに日本において作られたのか。それら社会の制度と演劇の位置を見る。そして、演劇というものが娯楽的な要素を超えて、社会とどのように関わり、どのように人々が翻弄されながらも、社会に介入しようとしたのか、日本の演劇の歴史を通して考える。そのため、世界史と日本史の高校教科書程度の知識は再度準備しておくこと。

授業の到達目標

単に演劇史の授業ではなく、作品と人々が社会とどのように接点を持ち、何について考えて行動していたのか、その可能性と限界を問う。自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション：日本の近代、現代の見取り図
2. 19世紀末の日本の演劇
3. 新劇のはじまり
4. アヴァンギャルド演劇の時代
5. プロレタリア演劇から戦時期の演劇
6. 戦後の演劇
7. 1950年代の自立演劇
8. 1960年安保と演劇
9. 1960年代、アンダーグラウンド演劇と実験演劇の時代
10. 1970年代、マイノリティの演劇
11. 1980年代の演劇 バブルと演劇
12. 1990年代の演劇 静かな演劇と社会派と呼ばれた演劇、ジャンクな演劇
13. 2000年代以降の演劇についての動向

14. ポストドラマ演劇

15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポートに対してフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - ・授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - ・授業中に次の授業までに行う予習・復習は指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：「日本史」「世界史」(山川出版社)、もしくは、それぞれの高校で使った日本史と世界史の教科書。

参考書：授業時にプリントを配布。

成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 西洋演劇史A (古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE1002T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

1年生前期必修科目。

授業の概要

紀元前5世紀の古代ギリシャ劇から17世紀のフランス古典劇に至るまでの西洋演劇史を概観し、時代背景・文化状況を踏まえながら、劇場構造・上演形態・作品等について講義する。各時代の演劇が後世の演劇にどのような影響を与え、どのような要素が継承されたのかを、それぞれの事象を関連付けながら探っていく。また、古代ギリシャ劇・シェイクスピア劇等の現代における上演を、視聴覚資料を用いて考察する。この授業では、演劇人に求められる基礎的な知識を確実に身につける。

授業の到達目標

- 芸術科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、演劇史に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。
- ・代表的な劇作家とその作品について、説明することができる。
 - ・劇場構造や上演形態について、その特色を説明することができる。
 - ・紀元前5世紀から17世紀までの西洋演劇史の流れを説明することができる。

授業計画

1. ギリシャ神話と演劇
2. 古代ギリシャの劇場
3. ギリシャ悲劇①アイスキュロス
4. ギリシャ悲劇②ソポクレス
5. ギリシャ悲劇③エウリピデス
6. ギリシャ喜劇/ローマ演劇~中世の宗教劇
7. コメディア・デラルテ
8. エリザベス朝演劇
9. シェイクスピア①ハムレット
10. シェイクスピア②リア王

11. シェイクスピア③マクベス

12. シェイクスピア④オセロー

13. シェイクスピア⑤史劇

14. シェイクスピア⑥喜劇

15. 総括と学習到達度の確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 各自指定された戯曲を授業までに読んでくること。第5回までに「オイディプス王」(ソポクレス)、第10回までにシェイクスピアの「ハムレット」等悲劇、第14回までに「夏の夜の夢」「テンペスト(あらし)」を読んでおくこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配布。参考書は、適宜授業内で紹介する。

成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 西洋演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 森山 直人

科目
ナンバリング THE2001T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

芸術科演劇専攻1年必修。
予習・復習に努め、演劇の基礎知識を習得する意志のある者。

授業の概要

近現代の西洋演劇史の基本的な流れを概観し、主要な戯曲作品、上演作品等について多角的に考察していく。この時期の西洋演劇は、単に西洋世界のみならず、現代日本の演劇状況に直接つながる様々な要素を持っている。そのことを踏まえ、講義では、私たちの暮らしている「今」との関係性に重点を置きながら考察していく。個別の作品だけでなく、そうした作品を生み出す母体となった社会や劇場文化の変遷についてもできるかぎり注意を向けていくので、受講生は各自、自分なりの現代演劇についての問題意識を整理しながら授業に臨んでほしい。原則として毎回の感想カードの提出を必須とする。

なお、基本的に対面授業だが、状況に応じて一部オンライン授業を併用する場合もある。

授業の到達目標

- 近現代の西洋演劇史に関する基礎的な知識と見方を身につけ、作品の理解を深めることができる。
- 近現代の西洋演劇史における様々な作品や思考が、現代の私たちの存在や創造活動とどのように結びついているかについて、自分なりの考えをまとめた論述(期末レポート)として表現することができる。

授業計画

- イントロダクションー「近現代劇」の前提
- 市民劇ーなぜ「市民」のための演劇なのか
- メロドラマー「革命」は演劇をどう変えたのか
- ロマン主義からリアリズムへ
- 自然主義と象徴主義
- イブセンの方法ー「個人」と「社会」
- チェーホフの方法ー「主人公」は必要か?
- 「演出家」の誕生ー「演技」の多様化
- 20世紀前衛演劇の展開
- ブレヒトの方法ー「音楽劇」とは?
- ベケットの方法ー「不条理劇」とは?
- 1960年代

- アメリカ合衆国と演劇
 - ポストドラマ演劇の展開
 - まとめ
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーのフィードバックを、次の授業中に行う。

授業時間外の学習

- 授業で扱った作家や作品、トピックについて、図書館やインターネットを使って調査すること。
- その中でも自分が関心のある作家や作品を選び、それらが現代の舞台創造とどのように結びついているかについて、独自にリサーチを進めていくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 以下3点を教科書とする。なお、作品が同一なら他の訳者・出版社のものでも可。
- 神西清訳 チューホフ「桜の園／三人姉妹」(新潮文庫)
 - 谷川道子訳 ブレヒト「三文オペラ」(光文社古典新訳文庫)
 - 高橋康也・安堂信也訳 ベケット「ゴドーを待ちながら」(白水社Uブックス)
- 以下1点を参考書とする。
- 川島健「演出家の誕生 演劇の近代とその変遷」(彩流社)

成績評価

- 成績評価については、期末レポート70%、授業への取り組み(毎回の感想レポート提出を含む)30%の配分として100点満点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、特に優れた成果をあげている)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容をほぼ理解し、優れた成果をあげている)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を一定以上理解し、成果をまとめることに成功している)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解が十分でなく、一定の成果をまとめられていない)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解せず、成果に結びついていない)

科目名 ミュージカル概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 橋爪 貴明

科目
ナンバリング THE1003T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻

—

履修条件

演劇専攻1年必修。遅刻、欠席をしないこと。プロの表現者になる熱意があり、学ぶ欲求があること。

授業の概要

比較的新しい表現形式であるミュージカルの歴史を研鑽し、他の演劇形式との違い、共通点を学び、ミュージカルの可能性を探っていく。理論と実技、そして映像。それぞれの角度からミュージカルという表現形式の理解を深めていく。

ミュージカルの原点は何処にあるのか?どんなルートを辿ってこの芸術、文化が日本に入ってきたのか?オペラからミュージカルが派生したのはどの時点か?フランス〜ニューオリンズ〜ブロードウェイへと至る変遷、またウエストエンドの状況も同時に学んでいく。また、日本のミュージカルの派生、発展も見えていく。

授業の到達目標

ミュージカルの作品分類ができ、歴史を理解し、作品の時代背景、社会的な力関係を把握できる。

授業計画

- 導入、自己受容、自己表現
- 歌の原点を知る。歴史を学ぶ。
- 芝居の原点を知り、歴史を学ぶ。
- 身体表現の原点を知り、歴史を学ぶ。ミュージカル作品の分類の仕方。
- 新・旧ミュージカル映画作品の比較研究
- オペラ〜ミュージカル、派生の場所と時期
- ブロードビショウ、 minstrel、ニューオリンズで花開くものは…。日本のミュージカルの歴史。浅草オペラ〜商業演劇への変遷。
- DVD鑑賞
- 作品の分析

- レ・ミゼラブル、サウンドオブミュージック、ウエストサイドストーリー これらの作品の分析と解説および時代背景、作品が社会に与えたものは?
- ミュージカルにおける作詞、その作品ごとの研鑽
- 日本のミュージカルの創成→宝塚、東宝ミュージカルズ等
- DVD鑑賞
- 作品の分析
- まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 与えられた課題の準備を授業前に行うこと。授業中に学んだことを検討し、改善・研究に努めること。
- 授業の最初に小テストを適時実施するので、前回の授業内容をよく復習しておくこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

成績評価

- レポート50%、授業への取り組み50%で100点に換算。
- S 総合点が90点以上の者(講義内容を元にミュージカルの歴史・作品の時代背景を把握、理解し、的確に自論を展開できた者)
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を元的に自論を展開できた者)
- B 総合点が60点以上の者(講義内容を元に自論を展開できた者)
- C 総合点が50点以上の者(講義内容は把握できているが、自論を展開できなかった者)
- D 総合点が49点以下の者(レポート未提出、授業への取り組み方が不足の者)

科目名 ミュージカル論

授業形態 講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 藤原 真優子

科目ナンバリング THE2002T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

演劇専攻1年生必修。

授業の概要

ミュージカルは、日本を含め現在世界各地で最も人気のある音楽劇のひとつと呼ぶことができる。では、様々な音楽劇の中で、ミュージカルの特徴とは一体何なのだろうか。台詞、歌、ダンスという要素は、どのように作品に組み込まれているのだろうか。そして、語り、歌い、踊るといった演技はどのように組み立てられているのだろうか。

この授業では、いくつかのミュージカル作品を題材に、ミュージカルを分析していく。まず、ミュージカルを理解する上で鍵となる概念について解説する。次に、ミュージカル作品の実践的な分析を通じ、ミュージカルを理解するための基礎的な知識と、ミュージカルを分析するための視点について学習する。

授業の到達目標

- ・ミュージカルというジャンルの特徴を説明できる。
- ・ミュージカル作品を詳細に分析することができる。
- ・ミュージカルについての自分の考えを説明することができる。

授業計画

1. ミュージカルへのアプローチ
2. ミュージカルと“不自然”
3. ミュージカルと“いい曲”
4. 「美女と野獣」作品視聴
5. 「美女と野獣」作品解説（序盤）
6. 「美女と野獣」作品解説（中盤）
7. 「美女と野獣」作品解説（終盤）
8. 「美女と野獣」作品解説（まとめ）
9. 「カンパニー」作品視聴①
10. 「カンパニー」作品視聴②
11. 「カンパニー」作品解説（構成）

12. 「カンパニー」作品解説（ナンバー）
13. 「カンパニー」作品解説（時代背景）
14. ミュージカルを分析する
15. まとめ

※授業の内容については、状況によって変更の可能性がある。
※各回のリアクションペーパーや分析課題はオンライン提出を予定。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業冒頭に、全体へのフィードバックの時間をとる。

授業時間外の学習

- ・授業内容についてのリアクションペーパーの提出をすること。
 - ・視聴映像の分析を提出すること。
 - ・予習・復習として、授業で取り上げる作品の映像を視聴すること。
- これらの学習に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。授業時にプリントを配布。
参考書は、適宜授業時に紹介する。

成績評価

平常点（授業への取り組み、授業態度および課題提出等）60%、期末レポート40%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項をよく理解し、優れた説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を理解し、説明ができる）
- B 総合点が60点以下の者（基本的な諸事項をほぼ理解し、説明ができる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が不足する）
- D 総合点が49点以下の者（極端に出席が少ないため、講義概要を理解しておらず、説明ができない）

科目名 アーツマネジメント論

授業形態 講義

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング THE3050T

学位授与方針との関係 DP①④

期間 前期

他専攻

—

履修条件

演劇専攻2年生必修。

授業の概要

公演を行う際には、広報をするにも、助成金を得るにも、協働者を得るにも、自分の作品を語る言葉が必要だ。この授業では、自分の関わる作品について様々なベクトルから捉え、言語化する力を身につける。また、上演にあたって必要な著作権や契約実務についても、その一端を紹介し、基礎的な知識を身につける。さらに、学内公演等、各自の経験と合わせて、実際の創造の現場が抱える諸問題・課題について考える。ゲストを迎えて話を聞く回も設ける予定。ゲストは演劇の制作者を予定している。

授業の到達目標

- ・自身の関わる作品について、プレゼンテーションをすることができる。
- ・演劇をはじめとするパフォーミングアーツを取り巻く問題を、自身の体験も踏まえて認識し、より良い創作環境の実現について考えることができる。
- ・国内外で演劇が刑務所や教育現場、福祉の現場等で応用的に使われていることや、アウトリーチの一端を知る。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 創造の現場をめぐる諸問題—長時間勤務・ハラスメント・制作者の孤立等
3. 創造の現場をめぐる諸問題—長時間勤務・ハラスメント・制作者の孤立等
4. 著作権・契約
5. 企画書を書いてみる（1）
6. 企画書を書いてみる（2）
7. 企画書を書いてみる（3）
8. 広報
9. 広報
10. 演劇をめぐる国際交流の様々な形—国際共同制作、翻訳戯曲の上演、招聘、フェスティバル

11. 演劇の応用
12. 演劇の応用
13. 演劇の応用
14. 現場の声を聞く
15. 総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後や内容の変更があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題提出後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - ・授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - ・授業中に次の授業までに行う予習・復習は指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

適宜指示する。
推薦図書：福井健策「改訂版 著作権とは何か 文化と創造のゆくえ」(集英社新書)
福井健策「18歳の著作権入門」(ちくまプリマー新書)

成績評価

課題50%、授業態度と授業中の取り組み（出席含む）が50%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 ソルフェージュ基礎①②

授業形態 演習(理論)

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比

科目ナンバリング VOM2100T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

1年後期におかれる選択科目。
音楽(楽譜を正確に読む等)、歌うことに興味のある者。

授業の概要

音楽の基礎力をつけることを目的とする。
楽典基礎を学び、正確な譜面の読み方・リズム感・音感等ソルフェージュ力を養うことで、音楽への理解を深め、各々のパフォーマンスの向上につなげる。

授業の到達目標

以下の2点をこの授業の到達目標とする

- ・ 譜面を読んで歌うことができる。
- ・ フレーズ感・リズム感・音感を育てることができる。

授業計画

1. 楽典基礎①音符の読み方①(音名)
2. 楽典基礎②音符の読み方②(リズム)
3. 楽典基礎③音楽用語について
4. 楽典基礎④リズムを読む
5. 楽典基礎⑤譜面を読む
6. 視唱①
7. 視唱②(3度～)
8. 新曲視唱
9. 聴音①
10. 聴音②
11. 新曲視唱 ハーモニー①
12. 新曲視唱 ハーモニー②
13. 学習到達度確認 譜面の読み方

14. 学習到達度確認 新曲視唱
15. 総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業中課題があれば、予習・復習に努めること。
楽譜を通して歌う訓練をする。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料(楽譜等)は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、プリント課題30%、学期末課題20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが良好だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、プリント課題・学期末課題未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 ソルフェージュ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 岩崎 廉

科目ナンバリング VOM3300T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

ミュージカルコース必修。

授業の概要

「ソルフェージュ基礎」で学習した知識をさらに深める。

授業の到達目標

音楽の基礎知識、音を聞き取り譜面にすることや、視唱のトレーニング、楽典等をさらに深めることができる。

授業計画

1. 導入：ソルフェージュを説明する
2. リズムに強くなるトレーニング
3. 楽典、知識を深める
4. 聴音トレーニング
5. 視唱トレーニング
6. 小テスト
7. リズムトレーニング②
8. 楽典②
9. 聴音トレーニング(コード)
10. 視唱トレーニング(メロディーとリズム)
11. 楽典③
12. 楽語ガイダンス
13. ダイナミックスや表現を学ぶ

14. ミュージカルオーディションのための基礎
15. 総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。
レポート提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

視唱の課題あり。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

五線紙(ノート)

成績評価

提出物評価30点、実技試験30点、筆記試験40点の3つの点数の総合で評価される。

- S 総合評価90点以上の者
- A 総合評価80点以上の者
- B 総合評価60点以上の者
- C 総合評価50点以上の者
- D 総合評価49点以下の者

科目名 応用演劇論

授業形態

講義

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 2

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

科目
ナンバリング THE1004T

学位授与方針
との関係 DP③④

期間 前期

他専攻

—

履修条件

社会において演劇ができることの可能性に関心があること。芸術作品の創造だけでなく、ワークショップのファシリテーター（ワークショップを進める役割の人）等演劇の手法を用いて社会に貢献したり、一般の人に関わることに関心があること。

授業の概要

応用演劇とは何かを学ぶ。
演劇の手法を用いて社会に貢献のできる、そして一般の人が体験できるワークショップの可能性を学習ならびに模索する。
芸術としての演劇と経験としての演劇を比較、演劇ができることの可能性を探求する。
実際にワークショップの内容を作成し、実践する。

授業の到達目標

- ・多岐にわたる応用演劇について学習し、その現状について説明することができる。
- ・演劇を応用した具体例を学び、また自らリサーチすることができる。
- ・これらの学習を経て、自らが考案したワークショップを実施することができる。

授業計画

1. 授業の導入：授業内容の説明と目標設定
2. 応用演劇とは何か
3. 世界の応用演劇①ドラマ教育
4. 世界の応用演劇②社会との関わり
5. 世界の応用演劇③コミュニティの形成
6. 応用演劇の実践①ティーチング・アーティストとは
7. 応用演劇の実践②ファシリテーターの役割
8. 応用演劇の実践③グループワークによる実践
9. 社会的弱者のため演劇ワークショップとは何か
10. タブワークショップとは何か
11. タブワークショップの実践
12. 日本における演劇ワークショップの可能性①発表

13. 日本における演劇ワークショップの可能性②講評
 14. ワークショップ・ファシリテーターの実践
 15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 提出された課題に対し講評を行い、場合によっては個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業内容の復習・予習を行う。出題された課題に取り組む。ワークショップのアイデアを作成する。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：必要に応じて授業時に配布。
参考書：必要に応じて授業時に配布。

成績評価

- 授業への取組み・創造過程への関わり方80%、発表の内容20%の総合的評価
- S 授業への取組み・創造過程への関わり方・発表の内容が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み・創造過程への関わり方・発表の内容が高く評価できる。
- B 授業への取組み・創造過程への関わり方・発表の内容が評価できる。
- C 授業への取組み・創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している。
- D 授業への取組み・創造過程への関わり方・各課題の発表が評価できない。

科目名 演劇批評論

授業形態

講義

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE3060T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

—

履修条件

演劇2年生の専門科目。

授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものを揺るがすこともあるだろう。その双方向的な視点を持って、舞台を観るということ、もしくは観る視点そのものが成り立つ文脈について考える。

授業の到達目標

単に舞台を観る授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何を発見するべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション：演劇の批評を書いてみよう
2. 批評理論とは何か
3. 批評理論の解説
4. 作品と社会性：1960年代を例に
5. 作品と時代性：1960年代を例に
6. 作品を取りまく環境
7. 記憶の装置としての劇場
8. 実際に書く①前半
9. 実際に書く②後半
10. ディスカッション
11. 舞台を観る①前半
12. 舞台を観る②後半
13. 批評の講評①前半
14. 批評の講評②後半
15. まとめ

- ※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 授業中のディスカッションにおいて常にフィードバックする。

授業時間外の学習

- 授業中に話したことを図書館等でチェックすること。
 - 授業中に話したことをインターネットでチェックすること。
 - 授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時にその都度指示する。
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取組み50%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 パフォーミングアーツ論

授業形態

講義

対象 演劇専攻
2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE4060T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

—

履修条件

特になし。演劇2年生の専門科目。

授業の概要

私たちが「演劇」というものを考えた際に、どのようなものをイメージするだろうか。いわゆる舞台のみにとどまらない、「演劇」的な要素とは何か。演劇を幅広いコンテキストで捉え直してみるのが、この授業の目標である。そのために、パフォーマンス・スタディーズ、ポストドラマ演劇、文化人類学等のいくつかのコンセプトを駆使して幅広い要素によって、演劇的なものを再考する。

授業の到達目標

私たちの既成概念としての「演劇」というものはどのように基底されたか。自明なるものを疑うという問題意識を持つことができる。

授業計画

1. イントロダクション：パフォーミング・アーツへの招待
2. パフォーマンス・スタディーズとは何か
3. リチャード・シェクナーについて
4. ゴッパンについて
5. ターナーについて①前半
6. ターナーについて②後半
7. ローズリー・ゴールドバーグ①「パフォーマンス」
8. ローズリー・ゴールドバーグ②60年代以後のパフォーマンス
9. ピーター・ブルックについて
10. 日本のパフォーマンス① 60年代
11. 日本のパフォーマンス② 80年代
12. 他国のパフォーマンス① 60年代
13. 他国のパフォーマンス② 80年代
14. まとめ

15. レポート総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - 授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。

参考書：同様に授業時に指示する。

成績評価

レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 演出論

授業形態

講義

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 2

実務経験 ○

キャップ制
対象外

担当教員 川村 毅

科目
ナンバリング THE2020T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期集中

他専攻 ○

○

履修条件

特になし。

授業の概要

戯曲のリーディングのシミュレーションを行い、演技と演出の知識と技術の幅を広げる。

授業の到達目標

リーディングという表現行為の理解とそれを応用しての将来の展望を獲得できる。
更に、それを通じて演出とは何かを理解することができる。

授業計画

1. 川村毅「戯曲1」リーディングの実践
2. フィードバック①
3. 川村毅「戯曲2」リーディングの実践
4. フィードバック②
5. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

リーディング後に随時、振り返りをする。

授業時間外の学習

与えられた課題の予習および復習をすること。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

受講態度60%、課題への積極性20%、課題の理解度20%にて総合的に評価する。

- S：90点以上の者
- A：80点以上の者
- B：60点以上の者
- C：50点以上の者
- D：49点以下の者

科目名 演劇論

授業形態

講義

対象 演劇専攻
1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング THE2003T学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

特になし。

授業の概要

西洋演劇史と日本演劇史に名を残す名作とされる戯曲を、多読することを目指す。最低でも週に1~2本は戯曲を読み、授業で発表して議論する。そのため、議論に参加していない者は、出席とは認めない。とにかく戯曲をたくさん読んで、戯曲を読むことに慣れること。そのために、授業以外での読書は必須である。

授業の到達目標

単に戯曲を読む授業ではなく、ある時代の中で、その当時の人々が社会とどのように接点を持ち、何を考えて行動していたのか。戯曲を通して、その可能性と限界を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション：西洋演劇の起源として
2. ギリシャ悲劇の戯曲①オレスティア三部作
3. ギリシャ悲劇の戯曲②アンティゴネ等
4. シェイクスピアの戯曲①リア王
5. シェイクスピアの戯曲②テンペスト
6. フランス古典の戯曲①コルネイユ
7. フランス古典の戯曲②ラシーヌ
8. 近代戯曲①イブセン
9. 近代戯曲②チェーホフ
10. 現代戯曲①アメリカ
11. 現代戯曲②ヨーロッパ
12. 日本の近代戯曲①戦前
13. 日本の近代戯曲②戦後
14. 日本の現代戯曲①60年代

15. 日本の現代戯曲②現代

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

● 学生に対する教員からのフィードバック方法

発表時にコメント、フィードバックをする。

● 授業時間外の学習

- ・ 授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - ・ 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - ・ 授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

● 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。
参考書：授業時に指示する。

● 成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 劇作法

授業形態

講義

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 キャップ制
対象外

担当教員 瀬戸山 美咲

科目
ナンバリング THE2010T学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻

—

履修条件

戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。

● 授業の概要

ドラマ演劇の戯曲の基本的な書き方を順を追って学ぶ。物語の骨格となるログラインをつくり、シノプシス（あらすじ）を書き、戯曲を執筆していく。授業内でお互いの戯曲をリーディングし、講評し合って、ブラッシュアップしていく。

● 授業の到達目標

- ・ 短編戯曲（30分程度）を書き上げることができる。
- ・ 戯曲の仕組みを理解し、分析できる。

● 授業計画

1. 戯曲とは何か。映像の脚本との違いについて
2. ログライン発表①物語の種類について
3. ログライン発表②登場人物について
4. ログライン発表③構成について
5. シノプシス発表①
6. シノプシス発表②
7. シノプシス発表③
8. 第一稿発表①
9. 第一稿発表②
10. 第一稿発表③
11. 第二稿発表①
12. 第二稿発表②
13. 第二稿発表③

14. 第二稿発表④

15. まとめ

● 学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の際、フィードバックを行う。

● 授業時間外の学習

様々な演劇や映画を見て、構造を分析する。
各自、リサーチ・取材をしてログライン、シノプシス、戯曲を執筆する。

● 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

● 成績評価

- 授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。
- S 総合点が90点以上の者（ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出）
- A 総合点が80点以上の者（ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出）
- B 総合点が60点以上の者（ディスカッションに参加。戯曲を提出）
- C 総合点が50点以上の者（授業に出席。戯曲を提出）
- D 総合点が49点以下の者（出席日数が足りない等授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出）

科目名 舞台照明実習①

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 石島 奈津子

科目ナンバリング THE1540T

学位授与方針との関係 DP②③

期間 前期集中

他専攻

履修条件

照明部以外の学生を対象とする。

授業の概要

- ・ 舞台照明の変遷
 - ・ 舞台照明の基本的な設備と配置
 - ・ 各種照明器材の説明
 - ・ 仕込みから撤去まで、照明の基本的な作業内容
 - ・ 照明デザインと表現者の関わり方
 - ・ 舞台上で作業する上での安全確保
- 以上のことを、実際に小劇場の機構を使用して実習する。

授業の到達目標

- ・ 舞台の基本的な照明機構や機材を理解できる。
- ・ 舞台上における照明の効果を理解して、それを表現手段のひとつとして、利用することができる。
- ・ 舞台の設営作業の安全基準の現状を知ることによって、安全に対して意識を持ち、怪我や事故等から身を守ることができる。

授業計画

小劇場を実際の舞台に見立て、照明器材を通常よく使われている位置に簡易に設置して、実物を前に説明したり、スポットに実際に接してその効果を体感・理解してもらう。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習時に、個別に必要と思われるフィードバックを行う。

授業時間外の学習

劇上演実習等の際、照明の存在を意識して、表現を深めるための効果をも、照明を利用して得られる方法を検討してみる。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

以下の項目につき1項目25点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②課題への取り組み ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解していなかった者、課題への取り組み・授業態度等に問題がある者）

科目名 舞台照明実習②

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 兼子 慎平

科目ナンバリング THE1541T

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

履修条件

照明部の学生を対象とする。

実習が主になるので、稽古着・稽古履等動きやすい服装で受講すること。また、(舞台)照明に興味があること。舞台照明作業に一度でも触れていることが望ましい。

授業の概要

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとおり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に「実践」してみるところまでを、この実習では求めることとする。作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

授業の到達目標

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

授業計画

1. 照明の仕込み作業を学ぶ① (午前)
2. 演者と照明 (スタッフワーク) の関わりについて (ディスカッションを含めた考察)
3. 照明の仕込み作業を学ぶ② (午後)
4. 特殊機材を扱う
5. 舞台照明 (シーン) を作る
6. 質疑応答

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習終了時に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加してほしい。また、「良い演技」あるいは「良いスタッフワーク」とは何か、機会があれば考察してみること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

実習で使用する図面等は講義時に配布。
藤井直「ステージ・舞台照明入門 舞台の基礎からDMX、ムービングまで」(リットーミュージック)
小川昇「光のデッサンから舞台照明のつくり方まで」(レクラム社)
石井強司「舞台美術・照明・音響効果篇(高校生のための実践演劇講座)」(白水社) 他

成績評価

- 授業への取り組みと積極性60%、講義内容・作業への理解度40%にて総合的に評価する。
- S 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者
- A 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められた者
- B 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者
- C 積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようとする者
- D 積極性に欠け、講義内容も理解しようとする者

科目名 舞台音響実習①

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 佐藤 こうじ

科目
ナンバリング THE1542T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

履修条件

音響部以外の学生を対象とする。

授業の概要

舞台における俳優が知っておくとい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

授業の到達目標

- 音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- 「伝える」ことの難しさを理解できる。

授業計画

- 搬入、仕込み、サウンドチェックの見学
- ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
- スピーカーの向きの検証(モニターの必要性)
- カラオケボックスでキーンとなるのは何故か(ハウリングの検証)
- 有線マイク、ワイヤレスマイク(ハンドマイク、ピンマイク)の取り扱い
- 実際に音を出して音響の仕事を紹介、その効果
- サンプラーの紹介(刀の音、殴る、蹴る等の音を動きと合わせる音響効果)
- 実習(チームごとに分かれ、テキストを上演する)
- 撤去

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表後、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

教科書・参考書等

プリントを配布する。筆記用具、舞台で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

成績評価

授業への取組み50%、実習への取組みと態度50%を100点換算して評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台音響実習②

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 宮崎 淳子

科目
ナンバリング THE1543T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

履修条件

音響部の学生を対象とする。

授業の概要

基本的な音響機材の使用法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立つ。

授業の到達目標

- 音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- 簡単なトラブルシューティングができる。

授業計画

- 機材の用途、機能を知る。
- ミキサー
- エフェクター
- 他、学生から前もって要望があれば応じる。
- ケーブルの名称を再確認、統一する。
- 信号の流れに沿った結線をする。
- 音が正常に出ない時の原因究明の方法。
- 仕込図(配線図)を読むようにする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

適宜指示する。

教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

成績評価

実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者

科目名 舞台製作実習

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目
ナンバリング THE1544T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻

履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

授業の概要

大道具を作成することから、工具、材料、尺貫法、舞台の組み方を学ぶ。工具<なぐり、ノコギリ、パールなど>の使い方。材料<ベニヤ、コンパネ、タルキ、コワリなど>の識別と使い方。尺貫法<1分、1尺、1間>の理解と使い方。箱馬と木足で舞台を高くする方法を学ぶ。

授業の到達目標

- ・舞台で使う基本の工具、材料を知ることができる。
- ・工具、材料、尺貫法を使いながら木足を作成できる。
- ・箱馬、木足を使い舞台を組むことができる。

授業計画

1. 講義①舞台製作の基本
2. 講義②工具を知る
3. 講義③材料を知る
4. 講義④尺貫法を知る
5. 講義⑤木足の作成方法を知る
6. 講義⑥舞台の組み方を知る
7. 実習①工具を使う
8. 実習②木足を作る
9. 実習③木足を作る
10. 実習④木足を作る
11. 実習⑤舞台を組む
12. 実習⑥舞台を組む

13. 実習⑦舞台を組む
14. 実習⑧バラシ、解体作業
15. 振り返り

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内にて個別に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

学んだことを演技発表会や試演会等で実践し復習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用すること。

成績評価

授業への取り組み50%、実習での貢献度30%、作業マナー 20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台監督実習

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目
ナンバリング THE1545T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻

履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

授業の概要

小劇場の舞台、客席を設営することで劇場の仕込みバラシ作業を学ぶ。各部署(舞台監督、客席、幕、パンチなど)のそれぞれの仕事をしっかり把握する。

それぞれの部署がチームワークを持って、安全に的確に時間を守って作業ができるようにしていく。特に舞台監督はその要としての役割をしっかりと担えるようこの実習で学習する。

授業の到達目標

- ・小劇場の舞台、客席を自分達で設営できる能力を身につけることができる。
- ・劇場でのマナー、チームワーク、スケジュール管理等も身につけることができる。

授業計画

1. 講義①劇場空間の基本
2. 講義②桐朋の小劇場を把握
3. 実習①仕込みの準備
4. 実習②仕込み作業<基本舞台>
5. 実習③仕込み作業<基本舞台>
6. 実習④仕込み作業<客席>
7. 実習⑤仕込み作業<客席>
8. 実習⑥仕込み作業<幕>
9. 実習⑦仕込み作業<幕>

10. 実習⑧仕込み作業<パンチ>
11. 実習⑨バラシ作業<パンチ>
12. 実習⑩バラシ作業<幕>
13. 実習⑪バラシ作業<客席>
14. 実習⑫バラシ作業<基本舞台>
15. 振り返り

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内にて個別に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

各部署、事前に先輩からの引き継ぎをしっかり行う。
学んだことを演技発表会や試演会等で実践し復習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用すること。

成績評価

授業への取り組み50%、実習での貢献度30%、劇場でのマナー 20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 電動工具実習

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目ナンバリング THE1546T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻

履修条件

電動工具を使いたい人。電動工具を使う部署に所属している人。
舞台監督は必ず履修すること。

授業の概要

仕込み大道具製作で使用する電動工具を学ぶ。
使い方から安全管理、メンテナンス等を学ぶ。
※電動工具<インパクトドライバー、押し切り、丸ノコ、サンダー等>

授業の到達目標

舞台上で使う電動工具の特性を知り、それを安全に使うことができる。また、それを仕込み大道具製作へと応用することができる。

授業計画

1. 講義①電動工具の基本と安全管理
2. 講義②工具の特性を知る
3. 講義③インパクトドライバー解説
4. 講義④押し切り、丸ノコ解説
5. 講義⑤その他工具(サンダー、トリマー等)解説
6. 実習①インパクトドライバーを使う
7. 実習②インパクトドライバーを使う
8. 実習③押し切り、丸ノコを使う
9. 実習④押し切り、丸ノコを使う
10. 実習⑤電動工具で箱を作る

11. 実習⑥電動工具で箱を作る
12. 実習⑦電動工具で箱を作る
13. 実習⑧電動工具で箱を作る
14. 実習⑨電動工具で箱を作る
15. 振り返り

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内にて個別に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

学んだことを演技発表会や試演会等で実践し復習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず作業着を着用すること。

成績評価

授業への取り組み50%、実習での理解度30%、安全管理20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台図面実習

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 健介

科目ナンバリング THE1547T

学位授与方針との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻

履修条件

舞台図面に興味がある人。舞台図面を使う部署に所属している人。
舞台監督は必ず履修すること。

授業の概要

舞台上で使う図面を理解し、またそれを活用できるようにする。
主に舞台平面図、断面図、道具帖の理解と応用。
応用として舞台平面図を解説し、実際の舞台にバミリを取る方法を学ぶ。さらには、稽古が終わった後の状態を図面に記録する方法等も学ぶ。

授業の到達目標

- ・舞台図面を読むことができる。
- ・図面から舞台のバミリを取ることができる。
- ・稽古後の状態を図面に記録することができる。

授業計画

1. 講義①図面の基本を知る
2. 講義②図面の種類を知る
3. 講義③縮尺を知る
4. 講義④三角スケールを知る
5. 講義⑤バミリの取り方を知る
6. 実習①図形を描いてみる
7. 実習②縮尺を変えて描いてみる
8. 実習③三角スケールを使ってみる
9. 実習④劇場図面を読み込んでみる
10. 実習⑤図面からバミリを出してみる

11. 実習⑥実際の舞台にバミリを貼ってみる
12. 実習⑦置き道具を配置してみる
13. 実習⑧置き道具の位置を図面に記録してみる
14. 実習⑨稽古後の状態を図面に記録してみる
15. 振り返り

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内にて個別に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

学んだことを演技発表会や試演会等で実践し復習すること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

シャーペン(鉛筆でも可)、消しゴム、定規(20cm以上)、メジャーを持参すること。

成績評価

授業への取り組み50%、実習での理解度50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ヘアメイク実習

授業形態 実習(Staff)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 理絵

科目
ナンバリング THE1548T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

特になし。

授業の概要

- ・舞台におけるメイクアップの基礎理論、基本技術を学ぶ。
- ・主に演劇の上で必要となるステージメイクを劇場や照明、演出、役柄等に応じて理解し、舞台での効果的なメイクの基本を実践的に技術習得する。
- ・メイク講義、デモンストレーションの後、テーマに合わせた舞台メイクの実習を行う。

授業の到達目標

舞台メイクアップの基礎理論を理解し、基本技術が習得できる。

授業計画

舞台メイクアップの基礎理論・基本実技

1. 舞台メイク基本概論
 - ・ステージメイクの種類、劇場、照明、演出とメイクの関連性。
 - ・顔の骨格と筋肉、顔の修正方法、舞台メイクで使用する化粧品説明および使用方法。
2. 男女別舞台メイク基礎デモンストレーション
3. 舞台メイクアップ実習(基礎)
4. 役柄に合わせた顔づくり、デモンストレーション
5. 舞台メイクアップ実習(応用)

学生に対する教員からのフィードバック方法

実技評価の後に、総評と質疑応答を行う。

授業時間外の学習

授業前の予習として、様々な舞台のメイクアップを意識して注目しておくこと。授業後は、授業中に理解した技術をより深めるために、反復練習すること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教材：ファンデーション、パウダー、スポンジ、パフ、アイライナーペンシル等。

その他各自で用意するもの：鏡、ティッシュ、綿棒、タオル、基礎化粧品、その他お手持ちのメイク道具。

成績評価

授業態度30%、講義内容への理解30%、メイク技術20%、向上心20%の観点から、総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者
A 総合点80点以上の者
B 総合点60点以上の者
C 総合点50点以上の者
D 総合点49点以下の者

科目名 ワークショップ 1年次

授業形態 実習(WS)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 担当教員

科目
ナンバリング THE2630T/
2631T

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。
ストレートプレイ系、ミュージカル系のどちらのワークショップを受講するか、希望を聞き取る面接あるいは調査を前期末頃、あるいは夏期休暇中に行うので、その日程を発表する掲示を見落とさないこと。面接あるいは調査で希望の意思表示のない学生は受講できない。

授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。
授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また、事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時までに発表する。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・個々への演技指導時の言葉
 - ・グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップ 2年次

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻
2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 担当教員

科目 THE3630T/
ナンバリング 3631T

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。

授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また、事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時までに発表する。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 個々への演技指導時の言葉
 - ・ グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップ (演大連)

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ベーター・ゲスナー・後藤 絢子

科目 THE2632T/
ナンバリング 4630T

学位授与方針
との関係 DP④⑤

期間 集中

他専攻 —

○

履修条件

演劇専攻芸術科1・2年生、専攻科1・2年生を対象とする。しかし、履修希望者多数の場合は、5つの大学からの選抜メンバーによってワークショップが開催されるという授業の趣旨もあって、優先的に芸術科2年生、専攻科1・2年生の中から選抜をする。

また、5大学の総合での授業ということもあって、履修できる人数は少数になる。

授業の概要

演劇大学連盟(桐朋学園芸術短期大学・桜美林大学・日本大学・多摩美術大学・玉川大学)が主催する、共同のサマースクールとしてのワークショップである。8月上旬の集中講義として行う予定である。

授業の到達目標

自分と同世代の他大学の学生がどのようなレベルでどのような志向を持って学生生活もしくは演劇活動を行っているのか、ワークショップで切磋琢磨をして、今後の自身の社会生活もしくは卒業後の進路等、目標を持った活動ができるようにする。

授業計画

1. イントロダクション
2. ワークショップのレクチャー(桐朋学園において)
3. ワークショップ 1日目 午前
4. ワークショップ 1日目 午後
5. ワークショップ 1日目 午後
6. ワークショップ 1日目 夕方
7. ワークショップ 2日目 午前
8. ワークショップ 2日目 午後
9. ワークショップ 2日目 午後
10. ワークショップ 2日目 夕方
11. ワークショップ 3日目 午前
12. ワークショップ 3日目 午後

13. ワークショップ 3日目 午後
14. ワークショップ・発表 3日目 夕方
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 個々への演技指導時の言葉
 - ・ グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

追って指示する。

成績評価

最終発表50%、授業への貢献度50%で100点に換算。

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、発表においても十全にプレゼンスができた)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、発表等の成果においてもプレゼンスを保てた)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、プレゼンスが曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスがあまりできない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスが発揮できない)

科目名 演劇合宿

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻
1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目
ナンバリング THE1600T

学位授与方針
との関係 DP②④

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

授業の概要

演劇専攻の教育課程の基本は次の3つである。

1. 戯曲が読めること。
2. からだを鍛えること。
3. 集団行動が取れること。

この授業では、特に3の「集団行動が取れること」が課題となる。個人だけではできない演劇創造の実践を短期間のうちに、しかも限られた状況の中の集中作業で修得する実演発表形式をとる。

なお、この授業は3泊4日の合宿形式による集中講義である。場所は大学の施設ハケ岳高原寮を使用する。

授業の到達目標

演劇合宿の全過程を通じて、アンサンプルの重要性を学び、協調性を持って芝居を作ることができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス・オリエンテーション
2. 第1日目 出発
3. 第1日目 課題の提示。課題作品を読み取り、理解する。
4. 第1日目 レクリエーション①アンサンプルの前提となるコミュニケーション能力を発揮する。
5. 第1日目 課題稽古①課題作品の中から何を表現の主題とするか検討し、いったん台本としてまとめる。
6. 第2日目 レクリエーション②アンサンプルの前提となる共同作業、共同の体験を積み、体験的に協力する意味を獲得する。
7. 第2日目 課題稽古② 台本の再検討、部分的に立体化を試みる。
8. 第2日目 課題稽古③ 立体化したシーンを検討することによって、さらに台本の再検討に進む。
9. 第2日目 課題稽古④ さらに台本をまとめ、完成させる。
10. 第3日目 課題稽古⑤ 台本をもとにして完全なる上演を作る。スタッフワークも検討する。
11. 第3日目 舞台稽古：実際の発表会場を使ってスタッフワークと合わせてリハーサルを行う。
12. 第3日目 発表（劇上演）：参加者相互で創作した作品を鑑賞し合う。
13. 第3日目 講評：教員から演技、構想、集団作業の全ての面についての講評を受け、自己分析をする。

14. 第3日目 反省会：お互いの苦勞と共同作業の成果を確認し、アンサンプルの意義を再確認する。
15. 第4日目 清掃・帰京：創作の会場に感謝を込めて原状復帰し、創作の全プロセスを締めくくる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出、担当チューターからの個々への演技指導アドバイスの言葉
 - ・グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを確認し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングで何が合意されたか、記録を書きとめ、その内容を復習するように努めること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次の時間帯のミーティングで発言できるように事前準備をすること。毎回合意された内容について作業を行い、着実に完成に向けて進めていくこと。稽古時間外のそうした思索が、発表する作品成果を左右するので、合宿生活を通して緊張感を維持すること。
これらの学習に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考資料等：必要に応じて合宿時に配布。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、チームリーダーとして作品の質を高められる）
- A 総合点が80点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、演技・その他のスタッフワークで貢献ができる）
- B 総合点が60点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、演技で貢献ができる）
- C 総合点が50点以上の者（合宿の内容を十分に把握しておらず、チームに貢献できてない）
- D 総合点が49点以下の者（合宿の内容を理解しておらず、チームに貢献できてない）

科目名 演劇研修

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 ベーター・ゲスナー・高橋 宏幸・後藤 侑子

科目
ナンバリング THE2600T/
4600T

学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

良好な体調を準備して海外での研修に参加できる者。また、事前に複数回の説明会（授業として、渡航先の文化や芸術についての講義等）を課すが、全ての回に受講できる者。

授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、それぞれの文化圏における俳優訓練等を勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を観たり、美術館・博物館を回り、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外の様々な演劇人と実際に触れ合う機会があるので、臆することなく積極的に参加すること。

昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリーのルーズムーズシアター等で研修している。今年度は海外での研修を予定しているが、新型コロナウイルスの状況を見て、実施の可否を判断する。

授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見を持って視野を広めることができる。また、様々な人と触れ合うことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修として様々なものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。そのためのテキスト等は用意される。

授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②
5. 事前学習会①
6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①

9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

学生に対する教員からのフィードバック方法

海外渡航先において、最終日にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

訪問する国の文化・環境・演劇等を必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家・演劇等を知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また、帰国後のレポートを書く際に、体験したことを踏まえて、さらに調べること。
時間外学習として30時間以上を要する。

教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲や様々な資料をその都度配布するので、読んでおくこと。

成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合（およそ33%ずつ）にて総合的に評価する。
- S 上記の①②③の総合点が90点以上の者（基本的なことを十分に理解し、さらに独自の見解を得ている）
- A 上記の①②③の総合点が80点以上の者（基本的なことをほぼ理解し、さらに自身の見解を得ている）
- B 上記の①②③の総合点が60点以上の者（基本的なことの理解に欠け、自身の見解に欠ける）
- C 上記の①②③の総合点が50点以上の者（基本的なことを理解せず、自身の見解だけがある）
- D 上記の①②③の総合点が49点以下の者（基本的なことを理解せず、自身の見解がない）

科目名 劇上演実習A (試演会) (ストレートプレイコース)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 古川 貴義

科目
ナンバリング THE4700T

学位授与方針
との関係 DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

—

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②
8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②

13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ・演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習A (試演会) (ミュージカルコース)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 大塚 幸太

科目
ナンバリング THE4700T

学位授与方針
との関係 DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

—

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル①
7. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル②
8. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル③
9. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①

12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B (卒業公演) (ストレートプレイコース)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング THE4701T

学位授与方針との関係 DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

—

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に大きな迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②
8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み

11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
 - ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出示された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B (卒業公演) (ミュージカルコース)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 信太 美奈

科目ナンバリング THE4701T

学位授与方針との関係 DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

—

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に大きな迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②
8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み

11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
 - ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出示された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習C / D (学外出演)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 4

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目 THE2700T/
ナンバリング 2701T

学位授与方針
との関係 DP②④⑤

期間 集中

他専攻 —

○

履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)等、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合のみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組にも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任を持って管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないので、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。様々な現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
14. 本番 あるいは撮影
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習E / F (学内出演)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻
1・2年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 三浦 剛

科目 THE2702T/
ナンバリング 2703T

学位授与方針
との関係 DP②④⑤

期間 集中

他専攻 —

○

履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)等、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

授業の概要

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)への出演者としての参加。ただし出演依頼を授業担当教員から受けた場合に限る。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組にも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任を持って管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

様々な実習・演習に出演者として参加し、様々な関係者・出演者・スタッフと協調し、協力する態度を可能にする表現力を養う。本番の出演者としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能・心構え・現場での対応力を獲得することができる。

授業計画

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)に出演者として参加し、協調し、協力するプロセスを通じて表現力を養う。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み

11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

Toho Gakuen College of Drama and Music

専攻科音楽専攻

科目名 音楽理論 [和声] V

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 平井 正志

科目ナンバリング MUS1010MA 学位授与方針との関係 DP①② 期間 前期 他専攻 ー

履修条件

「和声Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の教程内容に習熟した上で、さらに高度な内容を求めていること。

授業の概要

音楽における旋律的要素―拍節、律動、非和声音とそれに伴う不協和音程が和声法にあって、どのように考慮されるべきかを詳察する。その上で、半音階的転調を伴う歌謡形式のソプラノ課題を実施し、実践的な和声法の能力を培う。また、上記の内容がロマン派の小品にあってどのように現れているかを観察・分析し、さらに以上の教程を通じて修得された素養をもとに、最後に自作の旋律による簡単な歌謡形式の和声的小品を試作する。

授業の到達目標

非和声音を含むソプラノ和声課題の実施を通して、和声法を実践する技術の習熟を図ることができる。

授業計画

- 内部変換
・非和声音とリズムの変化を伴う和声課題の実施に先立ち、同一和音内での配置の変更の際の諸作法に通暁する。
1. 同一和音で配置を交換する際の各種形態
2. 限定進行音の置換
3. 実施課題確認第1回
4. 実施課題確認第2回
●構成音の転位
・非和声音を含む旋律の和声的狀態を把握する際の音響的条件とその変化の可能性
・非和声音を含むソプラノ課題を実施し、旋律が規定する条件下で同時に旋律自体が内在的に含有する和声感を直覺的に把握する能力を開発する。
5. 非和声音とその解決進行
6. リズム相補の配慮
7. 実施課題確認第1回
8. 実施課題確認第2回
9. 実施課題確認第3回
10. 実施課題確認第4回

- 遠隔転調を含むソプラノ課題の実施
11. 調関係について概説
12. 実施課題確認第1回
13. 実施課題確認第2回
14. 実施課題確認第3回
15. 最終課題の内容検討

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって、実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

後期の授業内容に備えて、ロマン派の和声様式によって作曲された小品に親しんでおくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：資料と課題および参考曲のプリントを配布。参考書：執筆責任者・島岡 譲「和声『理論と実習』第三巻」(音楽之友社)

成績評価

前期末、最終実施課題をレポートとして提出。単位認定の可否については、提出課題内容の優劣のみならず、課題実施を通じて総合音楽力を伸長できた度合いを重視して勘案しつつ、可否を決定する。成績の評価基準はレポートの内容40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。S 90点以上の者(前期の和声課題実施において独自の審美眼を反映でき、書法面の習熟度が高い) A 80点以上の者(前期の和声課題において、原則に対する理解、和声法に対する洞察が確かである) B 60点以上の者(上記の条件において、まだ追求の余地が残されていた) C 50点以上の者(和声法に対する習熟度が足りず、自作品の内容に関する追求が十分でない) D 49点以下の者(和声法への理解が到らず、自作品を満足な状態で完成できない)

科目名 音楽理論 [和声] VI

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 平井 正志

科目ナンバリング MUS2010MA 学位授与方針との関係 DP①② 期間 後期 他専攻 ー

履修条件

「和声Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」の教程内容に習熟した上で、さらに高度な内容を求めていること。

授業の概要

音楽における旋律的要素―拍節、律動、非和声音とそれに伴う不協和音程が和声法にあって、どのように考慮されるべきかを詳察する。その上で、半音階的転調を伴う歌謡形式のソプラノ課題を実施し、実践的な和声法の能力を培う。また、上記の内容がロマン派の小品にあってどのように現れているかを観察・分析し、さらに以上の教程を通じて修得された素養をもとに、最後に自作の旋律による簡単な歌謡形式の和声的小品を試作する。

授業の到達目標

実際の音楽作品総体における和声的側面を音楽的発想の一部として感得するための力を養うことができる。

授業計画

- ロマン派のピアノ小品において、いかに前期の要件が実践されているかを詳密に分析する。
1. 楽式の概説
2. 和声分析と転調の考察
●ここまで培った能力と素養を反映したロマン派的な和声様式による小品を試作する。
3. テーマ創作実践
4. 自作テーマの内容検討
5. 14. 自作曲の内容検討
15. 完成曲の最終内容確認。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の添削指導に加え、必要に応じてメール送付かClassroomへの返却によって、実施課題を添削指導する。

授業時間外の学習

後期の授業内容に備えて、ロマン派の和声様式によって作曲された小品に親しんでおくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：資料と課題および参考曲のプリントを配布。参考書：執筆責任者・島岡 譲「和声『理論と実習』第三巻」(音楽之友社)

成績評価

後期末、自作の小品を完成し、譜面を提出する。単位認定の可否については、提出課題内容の優劣のみならず、課題実施を通じて総合音楽力を伸長できた度合いを重視して勘案しつつ、可否を決定する。成績の評価基準はレポートの内容40%、課題の実施状況40%、授業への取り組み姿勢20%とする。S 90点以上の者(後期の自作曲において美的感覚と発想に優れ、独創性の認められるレベルに到達している) A 80点以上の者(後期の自作曲において、前期を通して身につけた和声的感覚を十分に発揮できている) B 60点以上の者(上記の条件において、まだ追求の余地が残されていた) C 50点以上の者(和声法に対する習熟度が足りず、自作品の内容に関する追求が十分でない) D 49点以下の者(和声法への理解が到らず、自作品を満足な状態で完成できない)

科目名 楽曲分析（古典派）

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 池田 哲美

科目ナンバリング MUS1011MA 学位授与方針との関係 DP①② 期間 前期 他専攻 ー

履修条件

基礎的な和声および楽式に関する知識を有する者。後期を含めて通年履修が望ましい。

授業の概要

和声の歴史の変遷および楽式の変化・発展を考究する。
古典派の音楽を中心に楽曲分析を行う。和声の発展、ソナタ形式の拡大・複雑化とその完成の過程を、ハイドンからベートーヴェンの楽曲分析を通して学習する。そしてベートーヴェン後期の作品にも触れて、その独自性を検討する。

授業の到達目標

古典派のそれぞれの楽曲の和声・楽曲形式を、音楽史の歴史的観点から鑑みつつ、その特徴と位置を観取できるようにする。

授業計画

- ソナタ形式の原型と発生史を検討。および古典派初期の形態を知る。
- ソナタ形式 名称
- ソナタ形式 構造
- ソナタ形式 簡単な楽曲①
- ソナタ形式 簡単な楽曲②
- 古典派中期のモーツァルトおよびベートーヴェン初期の作品を検討①
- 古典派中期のモーツァルトおよびベートーヴェン初期の作品を検討②
- ベートーヴェン中期の作品①
- ベートーヴェン中期の作品②
- ベートーヴェンと初期ロマン派①
- ベートーヴェンと初期ロマン派②
- ベートーヴェン後期①
- ベートーヴェン後期②

- 学生による作品分析の発表①
- 学生による作品分析の発表②

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

特にベートーヴェンの作品において、自分の楽器専攻以外の楽曲に親しむことが望まれる。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

毎回の授業開始時等に、プリント類の配布を行う。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末試験（発表）60%の結果を総合的に判断して行う。
S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験（発表）を行わなかった者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 楽曲分析（ロマン派以降）

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 池田 哲美

科目ナンバリング MUS2011MA 学位授与方針との関係 DP①② 期間 後期 他専攻 ー

履修条件

古典派までの楽式および和声の知識を有すること。また、後半では印象派の作品を取り扱うため、教会旋法の知識も必要となってくるので、あらかじめ学習しておくことが望まれる。

授業の概要

ロマン派初期の作品から、中期～後期に至る変遷を具体的な楽曲を分析しながら学習し、さらにドビュッシー・ラヴェルといった印象派の作品、そして近・現代に至る移り変わりを楽曲分析を通じて検討する。調性の複雑化と崩壊、楽曲創作における各作曲家の時代性を伴う意識の変化を追う、といった広い観点を含め考究したい。

授業の到達目標

特に、印象派以後の作品に親しみ、古典派・ロマン派の作品との関連性と差異性を具体的に知ることができる。

授業計画

- 初期ロマン派のソナタ形式①形態
- 初期ロマン派のソナタ形式②構造
- 初期ロマン派のソナタ形式③楽曲分析①
- 初期ロマン派のソナタ形式④楽曲分析②
- 中期ロマン派のソナタ形式①形態
- 中期ロマン派のソナタ形式②構造
- 中期ロマン派のソナタ形式③楽曲分析①
- 中期ロマン派のソナタ形式④楽曲分析②
- 中期ロマン派①歌曲
- 中期ロマン派②歌曲
- 近代の作品①ドビュッシー 器楽
- 近代の作品②ドビュッシー 歌曲
- 近代の作品③ラヴェル

- 学生による作品分析の発表①
- 学生による作品分析の発表②

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

自分の専攻楽器以外の作品、特にオーケストラ作品等に日頃から親しんでおくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

毎回の授業開始時等に、プリント類の配布を行う。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末試験（発表）60%の結果を総合的に判断して行う。
S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）
C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）
D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験（発表）を行わなかった者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 コード論Ⅱ

授業形態

講義

対象 専音1年

単位数 2

実務経験

担当教員 小林 真人

科目ナンバリング

MUS1012MA

学位授与方針との関係

DP①②

期間 前期

他専攻

履修条件

コードの仕組みや活用に関心のある学生。
「コード論Ⅰ」の単位を修得していること。

授業の概要

より多くのコードを覚え、ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏や作編曲をする際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

譜面通りに演奏することだけでなく、コードを元にその場に応じて、どのように演奏（作編曲も含め）したらよいか、自分自身で柔軟に創出できるようにする。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

授業の到達目標

- ・コードを覚え、その構成音を把握し、自由に転回できる。
- ・メロディに対してコード付けできる。
- ・コードの機能と連結を理解して、それを元にコードの発展、応用をできるようにする。
- ・それらをピアノ等で演奏、表現できる。

授業計画

1. コード論 基礎編① コードの仕組み／3和音と4和音
2. コード論 基礎編② ダイアトニックコード／TSDの機能
3. コード論 基礎編③ ドミナントモーション／Ⅱm7-V7
4. コード論 基礎編④ セカンダリドミナントセブン
5. コード論 基礎編⑤ 同じ機能内の代理／V7とⅡb7
6. コード論 基礎編⑥ トニックとサブドミナントの代理コード
7. コードパターンとコード付け① 様々なコード進行（クリシェ等）
8. コードパターンとコード付け② 様々なコード進行（カノン進行等）

9. コード論 応用編① 代理コードの活用とリハモナイズ
10. コード論 応用編② テンション
11. コード論 応用編③ コードとリズムの関係
12. コード論 応用編④ コードと旋律（旋法）の関係
13. コードパターンとコード付け③ ブルース
14. コードパターンとコード付け④ 作編曲への活用
15. 学習到達度の確認と総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

復習・予習をして授業に臨むこと。

ピアノ等の和音が出せる楽器を使い、コードのサウンド感を「感覚的」に捉えられるようにする。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に、その都度プリントを渡す。

成績評価

授業態度（出席含む）50%、課題発表への取り組み姿勢・レポート等での総合評価50%。

S 総合点90点以上の者

A 総合点80点以上の者

B 総合点60点以上の者

C 総合点50点以上の者

D 総合点49点以下の者

科目名 S. H. M. V・VI

授業形態 演習（理論）

対象 専音1年

単位数 1・1

実務経験

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

科目ナンバリング

MUS1130MA /2130MA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期・後期

他専攻

履修条件

「S. H. M. I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の単位を修得し、更なる音楽能力の向上を望む者。

授業の概要

今までに学んできたことを活かし、より一層高度な能力を身につける。音楽における実践的な技術—アンサンブル、初見視奏、和声付け等—の様々なより柔軟な音楽能力を習得する。

特にすでに学んできた楽典知識等を具体的な形で応用し、楽曲の理解を深めるための重要な手段としてのソルフェージュを学ぶ。

授業の到達目標

より高度で実践的な音楽能力を習得することができる。総合的な力を具体的な題材を用い、訓練する。

授業計画

通年の授業計画については漠然とした内容を記すが、各クラスで異なる。

- ・変拍子を含む多様なリズムの学習
- ・ハ音記号等のクレ読みの実践
- ・楽典的知識の応用
- ・旋律の和声付け
- ・対位的楽曲の聞き取り
- ・即興演奏
- ・移調能力の促進

- ・弾き歌い
- ・読譜力の強化
- ・暗譜力の促進
- ・既存の楽曲の聴音・聴き取り
- ・室内楽および管弦楽曲の読譜と聴音

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で行われる小テストの添削を行い、今後の学習の目安とする。

授業時間外の学習

常に読譜力の向上を目指し、日頃から楽譜を読むことを習慣付ける。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリントの配布。

成績評価

学年末に実施する一斉テストで単位評価する。

S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽史研究

授業形態 講義 対象 専音1年 単位数 4 実務経験 —

担当教員 大津 聡

科目ナンバリング MUS2020MA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 通年 他専攻 —

履修条件

条件は特になが、授業内容への関心は必須である。また、これまで学んできた音楽史の知識を総括しつつ、広く音楽文化や音楽史の諸問題について考察する受講姿勢を期待する。

授業の概要

統一テーマは「19世紀音楽の諸相」。19世紀音楽の諸相について、ピアノコンチェルトとオペラから考察する。本授業は、個々の作品の理解にとどまることなく、音楽史の基礎概念や各々の時代精神との関連から19世紀音楽を考察することを目的としている。各ジャンル共、時系列に従って進めるものの、便宜上の時代区分を設けていないのはそのためである。そういう意味で、歴史の再構成よりも、各ジャンルの諸問題へのアプローチに重きを置いている。以下に、授業イメージを助けるため、各回で主に扱う予定の作曲者名、あるいは作品名等を付すが、進捗状況により変更される場合もある。前期は講読演習形式、後期は講義形式とする。

授業の到達目標

- 以下3点を到達目標として掲げる。
 - ・個々の作品の音楽史上の意味を説明することができる。
 - ・音楽史の基礎概念と作品内容との関連について、説明することができる。
 - ・音楽史固有の問題を、現代にも通用する普遍的問題として理解することができる。

授業計画

- 【前期】講読演習（以下、主に講読テキストの章立てに基づく）
1. ガイダンス：講読演習の方法と進め方についての説明、担当回についての話し合い
 2. 予備的考察：協奏曲の成立について
 3. 「小さなアンサンブルの魅力」：モーツァルト
 4. 「チェンバロ文化の中で」：ベートーヴェン
 5. 「ショパンの規範となった音楽」：フンメル
 6. 「パレードとしての音楽」：モシュレス
 7. 「19世紀の演奏会とごたまぜのプログラム」：ヴェーバー
 8. 「アンサンブル音楽の輝き」：ショパン
 9. 「エンタテインメントか芸術か」：メンデルスゾーン
 10. 「2つのイ短調が切り拓いた世界」：シューマン夫妻
 11. 「近代のピアノに向かって」：リスト
 12. 「ピアノ協奏曲の誕生」：リスト
 13. 「鳴り響く音の博物館」：ブラームス、サン＝サーンス
 14. 「拡散するピアノ協奏曲」：チャイコフスキー、ラフマニノフ
 15. 前期の総括

【後期】講義

1. ガイダンス：後期授業の着目点と進め方についての説明、小オペラの鑑賞
2. オペラ・ブッフアと共同体精神：モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》
3. 受容史と作用史1：モーツァルト《魔笛》
4. 受容史と作用史2：モーツァルト《魔笛》
5. オペラと成立史：ベートーヴェン《フィデリオ》
6. 「ドイツ・ロマン主義オペラ」：ヴェーバー《魔弾の射手》
7. 「回想動機」：ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ》
8. オペラ・ブッフアの終焉：ヴェルディ《ファルスタフ》
9. 「総合芸術作品」：ヴァーグナー《トリスタンとイゾルデ》
10. 出来事史とオペラ：ヴァーグナー《マイスタージンガー》
11. 「舞台神聖祝祭劇」：ヴァーグナー《パルジファル》
12. 「メルヒェン・オペラ」：フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》
13. オペラ・コミック？：ビゼー《カルメン》
14. 「ヴェリスモ」：マスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》
15. 後期の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

各発表については授業内で総評を、不定期に行うリアクションペーパーにおいては次回授業時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞できるのは、両ジャンル共一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。とりわけ前期の講読演習については、事前（授業時間外）の準備が必須である。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介、指示する。前期の講読演習は、小宮信治「ピアノ協奏曲の誕生」（春秋社）を基本テキストとする。

成績評価

受講態度・リアクションペーパー 20%、発表内容（前期）80%、期末レポート試験（後期）80%による。前期・後期の合算で総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、49%以下はD評価とする。なお、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。また、受講態度が両学期を通じて一定の水準に達していないと判断される場合、評価は無条件でC以下とする。

科目名 日本音楽史研究A / B

授業形態 講義 対象 専音1・2年 単位数 4 実務経験 —

担当教員 野川 美穂子

科目ナンバリング MUS2021MA/4020MA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 通年 他専攻 —

履修条件

日本音楽専修は必修。
今年度と来年度では、授業の内容が異なる。

授業の概要

日本音楽には様々な種目があり、使われる楽器の種類、音楽的特徴等に違いがある。一方で、異なる種目でありながら、共通する特徴もある。また、舞踊や演劇と結びついているものが多い。この授業では、近世に発展した種目を中心に、その歴史と特徴を理解しながら、音楽以外の分野とどのように結びついてきたのか、社会や文化の変遷の中で音楽がどのように伝えられてきたのか等を考える。毎回、視聴覚教材を活用しながら、授業を進める。

授業の到達目標

日本音楽の歴史と特徴を多面的に理解できる。

授業計画

- 以下の順に進める。
- 【前期】
1. 日本音楽の歴史と特徴、日本音楽の資料
 2. 三曲の歴史と特徴、絹糸弦の製作方法
 3. 三曲の楽器、地歌の歴史と代表曲（三味線組歌）
 4. 地歌の代表曲（長歌曲、端歌物）
 5. 地歌の代表曲（手事物）
 6. 地歌の代表曲（浄瑠璃物、作物）
 7. 箏曲の歴史、箏の製作方法
 8. 箏曲の代表曲（箏組歌、段物）
 9. 箏曲の代表曲（幕末新箏曲、山田流箏曲）
 10. 尺八楽の歴史と代表曲
 11. 胡弓楽の歴史と代表曲
 12. 三曲の近代と現代
 13. 同じ題材による楽曲群（晒物）
 14. 歌舞伎や文楽に登場する三曲
 15. 前期のまとめ
- 【後期】
16. 文楽、歌舞伎に使われる楽器
 17. 文楽の歴史と特徴、代表曲（時代物）

18. 文楽の代表曲（世話物）
19. 歌舞伎の歴史と特徴、歌舞伎の舞台
20. 歌舞伎の代表曲（丸本物）
21. 歌舞伎の代表曲（純歌舞伎）
22. 歌舞伎の代表曲（所作事）
23. 語り物と劇—文楽と歌舞伎の比較—
24. 舞と踊
25. 同じ題材による楽曲群（石橋物）
26. 芸能を裏で支える人々と技術
27. 歌舞伎の伝承と発展（新しい歌舞伎）
28. 文楽の伝承と発展（新しい文楽）
29. 替女唄と津軽三味線
30. 後期のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパー等に対するフィードバックを授業時に行う。

授業時間外の学習

・授業で取り上げた種目の特徴を、図書館の文献やインターネット等も参照して整理する。
・授業時に視聴した作品の特徴を整理し、感想をまとめる。
これらの学習に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

毎授業時にプリントを配布する。
参考書については、その都度指示する。

成績評価

授業への取り組み50%、前期末・後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。
S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価49点以下の者

科目名 日本音楽理論C

授業形態

講義

対象 専音1年

単位数 2

実務経験 ー

担当教員 森重 行敏

科目ナンバリング

MUS2012MA

学位授与方針との関係

DP①②

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

日本音楽専修必修。
原則として専攻科在籍者とする。
日本音楽の演奏習熟度は問わないが、音楽理論についての基礎知識のある者とする。

授業の概要

この授業では日本音楽にとって理論とは何かという根本的な観点に立ち返って、日本音楽の音階論や楽曲構造について、主要な先行研究の確認を行うと共に、現代的視点での再評価や批判を行うものとする。

授業の到達目標

日本音楽理論についての先行研究についての知識を深めると共に、自主的な再評価ができるようになること。

授業計画

1. この授業の目的と注意事項
2. 日本音楽理論、特に音階理論の概観
3. 「俗楽旋律考」(上原六四郎著、明治28)について
4. 同 原文の精読
5. 同 著者による要約の精読
6. 上原による音階理論の再評価
7. 「日本伝統音楽の研究1」(小泉文夫著、昭和33)について
8. 同 原文の精読
9. 小泉による他の音階解説を読む
10. 小泉による音階理論の再評価
11. 「糸竹初心集」(中村宗三著、1664)について
12. 同 「すががき」の研究、段物の成立について
13. 同 「りんぜつ」の研究
14. その他の古文書における段物の成立について

15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

積極的に伝統芸能の鑑賞をすることを奨める。
詳細については随時紹介する。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。
参考書としては「日本音楽大事典」(平凡社)の該当項目等。

成績評価

成績評価については、授業態度20%、毎回の課題30%、期末課題50%の結果を総合的に判断して行う。
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽療法概説A/B

授業形態

講義

対象 専音1・2年

単位数 4

実務経験 ー

担当教員 鈴木 千恵子

科目ナンバリング

MUS2000MA/4000MA

学位授与方針との関係

DP③④

期間 通年

他専攻 ○

履修条件

特になし。

授業の概要

本講義では、音楽の様々な働きがどのように治療や援助に生かされるのかを理解し、さらに音楽が人間や社会に働きかける可能性を探っていく。
音楽という芸術を治療という科学の領域に入れること自体に難しさはあるが、この領域は20世紀に入り大きく発展してきた。音楽・患者(対象者)・治療者の三者から構築される治療技法の音楽療法は、医療・福祉・教育・保健領域で生かされ、また新しい学問としても現代社会において注目を浴びている。
前期では、理論を中心に基本的概念を学ぶ。
後期では、音楽療法に必要な治療技法について学ぶ。
現場実習としては、音楽療法視点の訪問コンサートへの参加を必修とし、社会状況を見ながら現場との調整を図りガイダンスで説明する。

授業の到達目標

- ・音楽療法の定義を理解し、音楽の治療的機能を把握できる。
- ・基本的なプログラム作成ができる。

授業計画

- 【前期】
1. オリエンテーション、授業の進め方と現場実習について
 2. 音楽療法概説
 3. 音楽療法視点の訪問コンサートとは～対象と目的～
 4. 音楽療法関連理論①児童の発達と音楽
 5. 音楽療法関連理論②人間の発達と音楽
 6. 実習準備①プログラム
 7. 実習準備②役割分担
 8. 実習リハーサル・練習
 9. 実習リハーサル・ディスカッション
 10. 実習①児童
 11. 実習②高齢者
 12. フィードバック
 13. 音楽療法の技術①音楽技術
 14. 音楽療法の技術②コミュニケーション技術
 15. 授業の総括
- 【後期】
1. 後期実習について・臨床現場の理解
 2. 音楽療法事例①高齢者・成人

3. 音楽療法事例②児童
4. 基本的プログラム作成①集団
5. 基本的プログラム作成②個人
6. 実習準備①治療構造
7. 実習中間発表
8. 実習リハーサル
9. 実習①児童
10. 実習②高齢者
11. フィードバック
12. 他領域の臨床活動①芸術療法
13. 他領域の臨床活動②聴覚と視覚
14. 世界の音楽療法動向
15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に振り返りとして総評を行う。また、実習報告書・レポート提出後に個別に講評を行う。

授業時間外の学習

授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：松井紀和「音楽療法の手引き」(牧野出版)
松井紀和、鈴木千恵子他「音楽療法の実際」(牧野出版)
参考書：鈴木千恵子編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

成績評価

授業の取り組みと態度50%、授業内試験50%
S 総合点90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
B 総合点60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習報告書未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 音楽療法演習A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

担当教員 鈴木 千恵子

科目ナンバリング MUS2200MA/
4200MA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 通年

他専攻 ー

履修条件

「音楽療法概説」を履修していること。

授業の概要

この授業は音楽療法の実習を中心とし、実践に関する技術等も学ぶ。実習現場は高齢者と児童を予定しているが、社会状況を見ながら現場との調整を図り、ガイダンスで説明する。この授業での実習は、一般社会で行われている少人数対象の音楽療法セッションをイメージし、対象者とコミュニケーションを図りながら様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。

授業の到達目標

- ・音楽療法の実践に必要な臨床的音楽技術を身につけることができる。
- ・基本的なプログラム作成ができる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス：授業内容と実習について
2. 音楽療法活動の紹介
3. 音楽療法活動と技術①鑑賞・歌唱
4. 音楽療法活動と技術②身体表現・楽器
5. 模擬セッション①扱う曲
6. 模擬セッション②プログラム作成
7. 実習準備①受講生同士で実践
8. 実習準備②グループごとに発表
9. 実習
10. フィードバック
11. 音楽療法における臨床的音楽技術①即興演奏
12. 音楽療法における臨床的音楽技術②歌唱と伴奏
13. 音楽療法における臨床的音楽技術③編曲
14. 音楽療法におけるアンサンブル活動
15. 授業の総括

【後期】

1. 臨床現場についての理解
2. 音楽療法における楽曲①様々なジャンル
3. 音楽療法における楽曲②和と洋
4. 音楽療法における楽曲③癒し

5. セッションの計画と準備①プログラム作成
6. セッションの計画と準備②プログラム発表
7. リハーサル①受講生同士で実践
8. リハーサル②ディスカッション
9. リハーサル③グループごとに発表
10. 実習 (高齢者または児童)
11. 実習
12. フィードバック
13. 音楽療法における臨床的音楽技術④集団活動
14. 音楽療法における臨床的音楽技術⑤個別活動
15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：松井紀和「音楽療法の手引き」(牧野出版)
松井紀和、鈴木千恵子他「音楽療法の実際」(牧野出版)
参考書：鈴木千恵子編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

成績評価

授業の取組みと態度50%、授業内試験50%

- S 総合点90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 演奏現場論A/B

授業形態 講義

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

担当教員 合田 香

科目ナンバリング MUS1000MA/
3000MA

学位授与方針との関係 DP③④

期間 前期

他専攻 ○

履修条件

特になし。

授業の概要

この20年大小の音楽専門ホールが続々とオープンし、都内では乱立気味。一方、オーケストラの世界ではホールとのフランチャイズ提携が増えてきて、本番と同じ場所で練習ができるオーケストラが増えてきている。これは、とりも直さず、日本の音楽界において「響き」(音響)の意識が向上して、それに呼応して周りの環境も整ってきたものであろう。

演奏者も、教育者も、聴衆も、音楽をプロデュースする立場の者も、そして当ホール関係者もホールでの音響、楽器同士の関係等に鈍感ではいられない。演奏者は(声楽を含んで)自分の楽器の特性、別の楽器の特性をよく理解し、違ったホールにおいても即座に色々な状況を感じ取って対応していかなければならない。プロデュースする者やスタッフも演目に合ったホールの選択が当然の時代になってきている。

この授業では個別の楽器の音響的個性の理解に始まり、ホールの響きとの関係、問題点の解消方法を学ぶ。

また一方、「演奏」という進路の他に「音楽業界」を視野に入れたい人にはこの授業内で行う、色々なケーススタディーや会場(現場)での体験の機会が自分の進路選択に役立つと思う。

授業の到達目標

- ・実技やアンサンブルの学習の段階において、また実際の演奏現場等で活用することのできる「響きや配置の「考え方」」を習得できる。
- ・クラシック音楽業界の理解と体験。

授業計画

受講学生の専攻や将来展望によって、系統1、系統2を織り交ぜながら授業を構成する。

[系統1]楽器の特性、配置や楽器とホール等の音環境についての考察

1. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性①ピアノ
2. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性②その他の楽器、受講者の専門楽器を中心に
3. 楽器間の音の影響、特性と範囲①ピアノと他の楽器

4. 楽器間の音の影響、特性と範囲②3人以上の奏者の場合
5. 響きや音の干渉の判断とアドヴァイスの仕方、タイミング
6. 楽曲演奏の中での具体的な検証①受講者の専門楽器による、Duo
7. 楽曲演奏の中での具体的な検証②Trio
8. 楽曲演奏の中での具体的な検証③様々な編成
9. ステージ上の位置による差異、客席の場所による差異について
10. ホールや会場の音特性と対処方法について
- [系統2]コンサートビジネス、演奏会の運営について
11. コンサート業界について、働く人々とその業種
12. コンサートの運用に必要な考え方、知識
13. 自分たちでコンサートを作るときでの考え方
14. コンサートの企画立案(目的や条件の整理)
15. まとめと学習到達度の確認

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業での発表について、授業内で意見交換や振り返りを行い、考え方を共有する。

授業時間外の学習

この授業で理解した内容を、アンサンブル、オーケストラ、実技レッスン、他の授業等で試してみ、その経験をまた授業にフィードバックできることが望ましい。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

受講態度80%、期末レポート20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 アウトリーチ研究 A/B

授業形態 講義

対象 専音
1・2年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 永井 由比

科目ナンバリング M2001MA/
4001MA

学位授与方針との関係 DP③④

期間 通年

他専攻

履修条件

専攻科1年・2年における選択授業。
音楽アウトリーチ活動に関心のある学生。

授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉等の分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービス等の意味で対応される。

本講義では主に、小学校・学童・福祉施設等での現場実習を通して芸術分野のアウトリーチが具体的にどのような社会貢献ができるか、またその社会的ニーズを模索していく。また、福祉施設・学校等を1年間通して定期的に訪問し、アウトリーチによって利用者がどのように変わっていくかを考察していく。

授業の到達目標

学校・福祉施設等それぞれに適したアウトリーチコンサートの企画作りとのワークショップを企画し、芸術アウトリーチの社会的意義を確認できる。

授業計画

【前期】

1. 導入：アウトリーチ概論
2. ワークショップについて
3. ワークショップ企画作り①小学校
4. ワークショップ企画作り②福祉施設
5. ワークショップ発表①小学校①
6. ワークショップ発表②小学校②
7. ワークショップ発表③福祉施設①
8. ワークショップ発表④福祉施設②
9. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作①
10. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作②
11. 学校訪問アウトリーチ 模擬発表
12. 学校訪問アウトリーチ発表（実習）①
13. 学校訪問アウトリーチ発表（実習）②
14. 学校訪問アウトリーチ発表（実習）③
15. まとめ

【後期】

1. 導入：アウトリーチ概論
2. 福祉施設アウトリーチ企画作り①

3. 福祉施設アウトリーチ企画作り②
4. 福祉施設アウトリーチ企画作り③
5. 福祉施設プログラム制作①
6. 福祉施設アウトリーチ 模擬発表
7. 福祉施設アウトリーチ実習①
8. 福祉施設アウトリーチ実習②
9. 福祉施設アウトリーチ実習③
10. 福祉施設アウトリーチ実習④
11. 福祉施設アウトリーチ実習⑤
12. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動についての考察
13. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動について
14. フィードバック
15. 総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

必要な資料（楽譜等）は授業時に配布する。

授業時間外の学習

演奏、ワークショップ発表に向けて、個々またはグループで練習をしっかりとすること。

これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、実習50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習不参加の者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 第一実技Ⅲ・Ⅳ／副科実技Ⅲ・Ⅳ／第二実技Ⅲ・Ⅳ

授業形態 実技

対象 専音
1・2年

単位数 第一実技2
第二実技4

実務経験 —

担当教員 各担当教員

科目ナンバリング MUS2450MA/4450MA/2351MA/
4351MA/2350MA/4350MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻

履修条件

第一実技は全学生の専門実技として必修科目である。
別途徴収になるが、副科実技・第二実技として専門以外の実技を履修することができる。

授業の概要

全ての授業の中で、一番関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術・表現力を身につけることを目的とする。

第一実技は、全学生が各自の専修実技の担当講師のもとで、週1回60分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。

試験は前期・後期と2回行い、また、後期には学内演奏会に出演する。なお、2年次後期の成績優秀者は、修了演奏会に出演することができる。

第二実技は、週1回40分のレッスンを受けることができ、前期・後期に試験を行う。副科実技は、レッスン時間が20分となる。

授業の到達目標

担当講師との1対1の授業となるため、到達目標は各自異なる。テクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

授業計画

1. オリエンテーションおよび課題の検討
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んでいくという形を繰り返していく。
22. 試験曲の検討
23. 試験曲の決定

- 24～28. 試験曲のレッスン
 - 29～30. 試験曲のまとめ、伴奏合わせ等
- ※個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して担当教員が随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。これらの学修に第一実技は180時間以上、副科は60時間以上、第二実技は120時間以上を要する。

教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。
成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
- A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
- B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が60点以上の者
- C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
- D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 学内演奏Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音
1・2年

単位数 2・2

実務経験 ー

担当教員 松井 康司・柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS2550MA/
4550MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻 ー

履修条件

全学生の専門実技、第一実技に伴う授業である。

授業の概要

第一実技のまとめは実技試験で行うが、実技を学ぶ本来の目的は聴衆の前で演奏することにある。この授業では、コンサートの場を設け、たくさんの聴衆の前で演奏する機会をつくる。また、舞台衣装を着用することにより、舞台上のマナーも学ぶ。

授業の到達目標

たくさんの聴衆を前に、緊張しながらも実力を発揮できるようにすることを目標とする。

授業計画

第一実技の授業計画と共に進めていく。

1. オリエンテーションおよび課題の検討
- 2～5. 与えられたエチュード、楽曲のレッスン
6. 楽曲のまとめ、伴奏合わせ等
7. 試験曲の検討または、新しい課題の検討
8. 試験曲の決定
- 9～13. エチュードおよび試験曲研究あるいは、与えられた課題のレッスン
- 14～15. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等
16. 新たな課題の検討
- 17～20. エチュード、楽曲のレッスン

21. 楽曲のまとめ、伴奏合わせ等
22. 試験曲・学内演奏会の演奏曲の検討
23. 試験曲・学内演奏会の演奏曲の決定
- 24～28. エチュードおよび演奏曲研究
- 29～30. 演奏曲研究のまとめ、伴奏合わせ等

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して担当教員が随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

演奏会で演奏する楽曲についての解釈の研究、予習・復習を怠らないようにする。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、楽曲を指定する。

成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏会に出演することができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
- A 演奏において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
- B 演奏において、審査員の評価の平均点が60点以上の者
- C 演奏において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
- D 演奏において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 ピアノデュオ研究A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 4

実務経験 ー

担当教員 東井 美佳・柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS2240MA/
4240MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻 ー

履修条件

専1ピアノ専修必修。他専修の学生も履修可能。

授業の概要

自由に組んだペアで曲を準備し、毎回の授業で数組が演奏し、レッスン形式で進めていく。

履修者全員で楽譜を共有し、積極的に意見を出し合いながら、アンサンブルの一員としてパートナーと協力して仕上げていくことを実践的に学ぶ。

授業の到達目標

自分の出している音、相手の音もよく聴きながら、呼吸を合わせて演奏できる。その上でお互いの音をよく鳴らし合わせ、曲の構成もしっかり理解しながら上げることができる。

授業計画

1. 導入・選曲および組み合わせ決定
2. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ①
3. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ②
4. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ③
5. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ④
6. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑤
7. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑥
8. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備①
9. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備②
10. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備③
11. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備④
12. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑤
13. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑥
14. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑦
15. 前期成果発表・前期の反省、後期自由課題の選択への準備
16. 自由選択曲による研究、発表①
17. 自由選択曲による研究、発表②

18. 自由選択曲による研究、発表③
19. 自由選択曲による研究、発表④
20. 自由選択曲による研究、発表⑤
21. 自由選択曲による研究、発表⑥
22. 自由選択曲による研究、発表⑦
23. 自由選択曲による研究、発表⑧
24. 自由選択曲による研究、発表⑨
25. 自由選択曲による研究、発表⑩
26. 自由選択曲による研究、発表⑪
27. 自由選択曲による研究、発表⑫
28. 自由選択曲による研究、発表⑬
29. 自由選択曲による研究、発表⑭
30. 授業の総括、成果発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

事前の予習、授業後の復習において、自らの練習はもちろん、パートナーとの合わせを十分にしておくこと。それぞれの曲の作曲家や時代背景についても十分に調べておくこと。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

その都度指示、配布。必要に応じて各自準備する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、演奏能力20%、学期末課題の結果40%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み・演奏能力・受講態度等に問題がある者)

科目名 管楽アンサンブル研究A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 4

実務経験

担当教員 津川 美佐子

科目ナンバリング MUS2241MA/
4241MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻

履修条件

管楽器専修 (Sx専修以外) 必修。

授業の概要

木管五重奏、四重奏、ピアノ六重奏等を学習していく。1・2年で学んだことをさらに深め、お互いによく聞き合い、受け止め、さらにはメンバーでディスカッションしながら音楽を作っていく。

授業の到達目標

より一層細かく楽譜を読み込み、スコアを読んで勉強し、メンバーと一緒に音楽を作り、合奏の楽しみを見出していくことができる。

授業計画

【前期】

1. 授業内容説明と曲目の選択 (前期はバロック・古典中心の曲目)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪
13. 演奏実習⑫
14. 演奏実習⑬
15. 前期の曲の通し演奏

【後期】

1. 後期曲目説明と選択 (後期は近代作曲家の曲目を中心とする)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③

5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪
13. 演奏実習⑫
14. 演奏実習⑬
15. 実技試験 (コンサート形式)
※専攻科の学生については、希望する曲目を取り入れていきたい。

学生に対する教員からのフィードバック方法

随時、その場で行う。

授業時間外の学習

パート譜の譜読みと復習をしておくこと。スコアも見て勉強しておくこと。事前に分奏しておくことが望ましい。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

授業への取り組み姿勢、授業中の態度を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 室内楽研究A / Ca

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

科目ナンバリング MUS1240MA/
3240MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲・ピアノ五重奏曲を中心に取り上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

授業の到達目標

- ・ 様々な時代および編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術の基礎を確立できる。
- ・ 楽器を通してのコミュニケーション力を身につけることができる。
- ・ 古典から近現代までの様々な様式・形式を学ぶことができる。

授業計画

1. 導入、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽 (ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽 (ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽 (ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽 (ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽 (ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽 (ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽 (ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等③
9. 近現代の室内楽 (様々な楽器を含む) ①

10. 近現代の室内楽 (様々な楽器を含む) ②
11. 近現代の室内楽 (様々な楽器を含む) ③
12. 声楽を含む室内楽①
13. 声楽を含む室内楽②
14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別 (グループ) に指導・フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。また、お互いの楽器の特徴なども調べておくこと。日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲。
ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。
モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

成績評価

成績評価については、演奏曲目の下調べ30%、各自の練習40%、授業態度30%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが確だった者)
B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解、演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解、演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽研究A / C b

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 北本 秀樹

科目ナンバリング MUA1240MA/
3240MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

室内楽に興味と意欲のある学生。

授業の概要

あなた達が今演奏してみたい室内楽。
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

授業の到達目標

- ・作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- ・アンサンブル能力の向上。

授業計画

1. 導入、ガイダンス
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫
14. アンサンブル実習⑬
15. 発表演奏

第1回目はガイダンス。2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。
必要な楽器のメンバーがない時は、演奏要員の方をお願いする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

口頭で行う。

授業時間外の学習

各自十分な練習を行うこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、出席・授業態度、授業への取り組みを重視する。出席および授業参加への積極性80%、授業態度20%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 室内楽研究B / D a

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 阪本 奈津子

科目ナンバリング MUS2242MA/
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

授業計画

1. 導入および曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレージングの注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性—弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品
12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品
13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品

14. ドヴォルザーク② ピアノを含む室内楽作品
 15. まとめと確認
- ※専攻楽器の種類によって、変更あり。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に個別（グループ）に指導、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組む姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 室内楽研究B / D b

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 蓼沼 恵美子

科目ナンバリング MUS2242MA/
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の学生も履修可。

授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性を踏まえた上で、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な演奏技術や表現法を実践で学ぶ。

演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

具体的には以下の点を到達目標とする。

- ・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。
- ・各々の楽器との響きの融合を考えた音作りができる。
- ・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。
- ・楽曲の様式や作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

授業計画

1. オリエンテーションおよび曲目とメンバーの決定
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫

14. アンサンブル実習⑬

15. アンサンブル実習⑭

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

※試験期間中に発表演奏会を行う。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時に指導・フィードバックを行う。

授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。

事前に音源を聴いたり、スコアを見る等、他のパートにも目を向けておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に行う。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者)

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み意欲、演奏能力が的確だった者)

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者)

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者)

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力等に問題がある者)

科目名 室内楽研究B / D c

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 吉岡 次郎

科目ナンバリング MUS2242MA/
4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

授業の概要

フルートを中心とする二重奏～複数のアンサンブルを基盤に、レポート・修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。

並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催しそこで様々な対応力を学ぶ。

授業の到達目標

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性等を習得する。

初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力等を習得する。

授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
2. 学習曲目の検討および組み合わせと初見演奏実習①
3. アンサンブル実習、初見実習②
4. アンサンブル実習、初見実習③
5. アンサンブル実習、初見実習④
6. アンサンブル実習、初見実習⑤
7. アンサンブル実習、初見実習⑥
8. アンサンブル実習、初見実習⑦
9. アンサンブル実習、初見実習⑧
10. アンサンブル実習、初見実習⑨
11. アンサンブル実習、初見実習⑩
12. アンサンブル実習、初見実習⑪

13. アンサンブル実習、初見実習⑫

14. アンサンブル実習、初見実習⑬

15. アンサンブル発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

各回の初見実習の発表後に総評を行い、必要な場合は個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽研究B / D d

授業形態 演奏(技術)

対象 専音 1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 菊池 奏絵

科目ナンバリング MUS2242MA/ 4242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

楽譜を見ただけで正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣等に興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、実践を通して学んでいく。時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現在の実践現場から見えてくる様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えていく可能性がある。演奏の実践を中心に進めるが、講義も取り入れながら総合的に学んでいく。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

授業の到達目標

バロック時代の音楽の演奏法を理解、習得し、どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考えることができる。また、バロック時代の影響を受けているその後の作曲家への理解も深まり、あらゆる時代の音楽と関連付けることができる。

授業計画

1. 歴史的知識に基づく演奏とは
2. 楽譜について
3. アンサンブル組み
4. バロック時代周辺の楽器について
5. 演奏習慣について
6. 通奏低音 ①数字の理解
7. 通奏低音 ②基本形
8. アンサンブル中間発表
9. 装飾法 ①フランス様式

10. 装飾法 ②イタリア様式
11. 舞曲、組曲について
12. 当時の文献を読む
13. 音楽修辭学について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業演奏時に個別、グループにアドバイス、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を図書館等を利用して、自分なりにやってくる。

個人練習、グループでの練習を十分にしておくこと。
これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介する。

成績評価

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし、総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者（積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる）
- A 総合点80点以上の者（積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化が見られる）
- B 総合点60点以上の者（積極的に取り組み、演奏に生かそうとする）
- C 総合点50点以上の者（程よく取り組み、程よく演奏する）
- D 総合点49点以下の者（取り組み姿勢に欠け、演奏の変化が見られない）

科目名 歌曲研究A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専音 1・2年

単位数 4

実務経験

担当教員 松井 康司・東井 美佳

科目ナンバリング MUS2243MA/ 4243MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

詩人の思いが言葉を通して詩となり、さらに作曲家がその詩に共感して音にする。そしてその詩と音楽を演奏家が感じ、表現して、聴衆の心に訴える。歌曲が聴衆の耳に届くまでにはこれだけ様々な人の心を通して行くのである。歌曲の奥深さはここにある。

この授業ではドイツ歌曲・日本歌曲を題材に、歌曲をどのように解釈し、演奏したら良いかを研究する。楽譜に込められた詩人や作曲家の思いを正しく受け止め自分自身の表現に結びつけること、またアンサンブルをする上で大切なこと等、受講者自身による演奏を通じて実践的に研究を進めて技能、表現を高めていく。

また歌とピアノの組み合わせにとどまらず、本学の専修を生かし、他の弦・管楽器あるいは和楽器とのコラボレーションも随時取り上げる。

授業の到達目標

- ・ 歌曲の歴史と変遷を学び、その時代の芸術・音楽文化と関連付けてより楽曲についての理解を深めることができる。
- ・ 歌曲の解釈・分析を深め、楽曲に込められた詩人・作曲家の思いを正しく理解し、自身の表現に結びつけることができる。

授業計画

履修者の専修楽器が決まらなと取り上げる曲を決めることはできない。曲を決定してからの授業の流れは下記の通りである。

【前期】

1. 導入 日本歌曲について
2. 日本歌曲の歴史と変遷①
3. 日本歌曲の歴史と変遷②
4. 日本歌曲課題曲検討
- 5～10. 日本歌曲の分析および実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

【後期】

1. ドイツ ドイツ歌曲について
2. ドイツ歌曲の歴史と変遷①

3. ドイツ歌曲の歴史と変遷②
4. ドイツ歌曲課題曲検討
- 5～10. ドイツ歌曲の分析および実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

※コロナの状況により、授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

翌週取り上げる曲を各自必ず譜読みをし、曲の内容を理解してから授業に臨むこと。これらの学修120時間以上を要する。

教科書・参考書等

ヴィオラ「ドイツ・リート」の歴史と美学（音楽之友社）
フィッシャー・ディースカウ「シューベルトの歌曲をたどって」（白水社）
塚田佳男選曲・構成「日本歌曲百選 詩の分析と解釈」（音楽之友社）

成績評価

成績評価については、授業態度40%、課題50%、テスト10%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、歌唱能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・歌唱能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期課題未提出者、歌唱能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 オペラ実習A/B [演奏]

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音
1・2年

単位数 2(演技と併せて4)

実務経験 —

担当教員 布施 雅也

科目ナンバリング MUS1540MA/
3540MA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレペティトウアの養成としてピアノ専攻の学生も受け入れる。その他専修、他専攻の希望者は要相談。

授業の概要

オペラは演劇・音楽・美術が融合した総合舞台芸術である。演劇の「台詞」はオペラにおいては「歌」になっている。オペラを歌うためには、台詞(言葉)を音楽に乗せて正しく伝える技術を身につけなくてはならない。本授業ではオペラの代表的歌唱様式の一つである、レチタティーヴォの基礎とアンサンブル(重唱)を学んでいく。

授業の到達目標

- ・身体表現を伴った歌唱表現を身につけることができる。(動きながら歌うことの基礎を作る)
- ・音楽(歌唱・演奏)を通してのコミュニケーションの取り方を学ぶ。
- ・作品の内容を理解し(時代背景等も含む)、表現に生かすことができる。

授業計画

オペラ作品から短いシーンを取り上げ、最終授業時に前期試験として簡易な演技をつけたアンサンブル試演会を行う。

1. オリエンテーション・試聴会・演目決め
2. 音楽稽古①(個人稽古Ⅰ)
3. 音楽稽古②(個人稽古Ⅱ)
4. 音楽稽古③レチタティーヴォ講義・実践
5. 音楽稽古④(個人稽古Ⅲ)
6. 音楽稽古⑤(アンサンブル稽古Ⅰ)
7. 音楽稽古⑥(アンサンブル稽古Ⅱ)
8. 音楽稽古⑦(アンサンブル稽古Ⅲ←暗譜稽古)
9. 音楽稽古⑧(アンサンブル稽古Ⅳ←音楽通し稽古)
10. 立ち稽古Ⅰ(舞台の設定、動線の確認)
11. 立ち稽古Ⅱ(内容を理解し、表現者として舞台に立つ)
12. 立ち稽古Ⅲ(内容を理解し、表現者として舞台に立つ)
13. 通し稽古Ⅰ(荒通し)
14. 通し稽古Ⅱ(ケネプロ)
15. 試演会(試験)

※授業内容に関しては進行具合により、多少の前後がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・毎回授業の際に個別・グループに対して指導、フィードバックを行う。
- ・試演会後に総括を行う。

授業時間外の学習

- ・課題となった作品について、作曲家・時代背景等を調べておく。(映像資料等で作品を必ず試聴しておくこと)
 - ・自分の課題以外の作品についても楽譜・資料を用意し、上記項目のように準備しておくこと。
 - ・授業を円滑に進めるために、各自十分に個人稽古・アンサンブル稽古をしておくこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、試演会(実技試験)50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90%以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80%以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60%以上の者(授業内容の理解、演奏・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50%以上の者(授業内容の理解、演奏・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49%以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏・課題への取り組み、受講態度等に問題がある者)

科目名 オペラ実習A/B [演技]

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音
1・2年

単位数 2(演技と併せて4)

実務経験 —

担当教員 柴田 千絵里

科目ナンバリング MUS1541MA/
3541MA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレペティトウアの養成としてピアノ専攻の学生を若干名受け入れる。その他の専修、他専攻の希望者は要相談。

授業の概要

オペラの上演では、多くの人が関わり1つの作品を創り上げていく。1人1人の責任感、協調性が必要である。それは歌い、演じることと同じく大切なことである。

この授業では、作品を上演するにあたり、何が必要で、どのように創られてゆくのかを実体験を通して学ぶ。全授業に出席する覚悟を持って履修してもらいたい。

授業の到達目標

- ・身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。
- ・課題を自分で研究し、指示された通りだけでなく、自ら考え動くことができる。
- ・作品を深く理解し、歌唱に活かすことができる。

授業計画

前期は、台詞のある課題や、舞台に立つための基本を学んでいく。

1. 前に出て立つ(空間を把握する)
2. 身体表現・課題(1)配布(読む)
3. 課題(1)を授業内で発表①前半
4. 課題(1)を授業内で発表②後半
5. 身体表現・課題(2)配布(読む)
6. 課題(2)を授業内で発表①前半
7. 課題(2)を授業内で発表②後半
8. 身体表現・課題(3)配布(読む)
9. 課題(3)を授業内で発表①前半
10. 課題(3)を授業内で発表②後半

11. 身体表現・課題(4)配布(読む)
 12. 授業内で稽古①立ち位置の確認等
 13. 授業内で稽古②全体の流れを把握して、自分の役割をしっかりと理解する
 14. 授業内で稽古③通し稽古
 15. 授業内で発表、振り返りと総括、ディスカッション
- ※授業内容に関しては、進行具合により多少前後することがある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・課題発表の後に振り返りとして総評を行い、個々へ良い点・改善点を伝える。

授業時間外の学習

- ・与えられた課題の研究。
 - ・必要と感じたら、自分の小道具や衣装は自ら準備すること。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時に台詞の課題を配布する。

成績評価

授業への取り組み30%、課題の成果40%、表現者としての真摯な姿勢30%にて総合評価する。

- S 総合評価90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合評価80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合評価60点以上の者(授業内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合評価50点以上の者(授業内容の理解・取り組みが不十分だった者)
- D 総合評価49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組みが不十分だった者、授業態度に問題がある者)

科目名 オペラ実習A/B [上演]

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 布施 雅也・柴田 千絵里

科目ナンバリング MUS2540MA/
4540MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

前期の「オペラ実習A/B [演奏] [演技]」の単位を取得していることを条件とする。声楽以外の専修、コレペティウアの養成としてピアノ専修の学生を含め、その他専修、他専攻の希望者は要相談。

授業の概要

オペラをはじめ舞台芸術作品は演者・奏者以外にも多くの人が関わり、ひとつの作品が創り上げられていく。ここでは一人一人の責任感・協調性が必要であり、それは歌い演じることと同じ位に大切なことである。この授業では舞台作品がどのようにして創り上げられていくのか、何が必要であるのかを実体験を通して学んでいく。全授業に出席する意志を持って履修することが望ましい。欠席が多い場合は途中で失格とすることもある。

授業の到達目標

- 演技・芝居をしながら自然に歌唱を行えるようにする。
- 演奏と演技・芝居の両側面において、どちらに偏ることなく表現できるようにする。
- 観客に自身のパフォーマンスを最も良い形で観せるために必要なものを学ぶ。
- 試演会という一つのプロダクション制作に関わることで、社会で必要な人間関係の構築を学ぶことができる。

授業計画

前期の「オペラ実習A/B [演奏] [演技]」で学んだことを基本に、学生主体で舞台作品を創り上げていくことを学ぶ。

- オリエンテーション (試演会に向けてインベク等、役割分担決め)
- 音楽稽古①
- 音楽稽古② (アンサンブル稽古。作品解釈、舞台語発音等含む)
- 音楽稽古③ (アンサンブル稽古。作品解釈、舞台語発音等含む)
- 音楽稽古④ (アンサンブル稽古。暗譜確認稽古。翌週から立ち稽古の見直しをつける)
- 立ち稽古① (シーン稽古。芝居の台詞の読み合わせ、荒立ちをしながらの音楽稽古)
- 立ち稽古② (シーン稽古。芝居の台詞の読み合わせ、荒立ちをしながらの音楽稽古)
- 立ち稽古③ (シーン稽古。芝居の台詞の定着、演技をしながらの音楽稽古)
- 立ち稽古④ (シーン稽古。芝居の台詞の定着、演技をしながらの音楽稽古)
- 立ち稽古⑤ (シーン稽古。演技をしながらの自然な歌唱を目指す)
- 立ち稽古⑥ (部分通し稽古。音楽と芝居の自然な融合を目指す)

- 立ち稽古⑦ (部分通し稽古。音楽と芝居の自然な融合を目指す)
 - 立ち稽古⑧ (部分通し稽古。音楽と芝居の自然な融合を目指す)
 - 通し稽古① (荒通し稽古。全体を通し、流れ・問題等を洗い出す)
 - 音楽稽古⑤・立ち稽古⑩ (前週の問題点を含めシーンごとの確認)
 - 通し稽古② (試演会に向けてホール、観客を意識しての通し)
- ※後期の試演会に向けては、追加稽古を行う。授業の合計回数は15回を越える。
※授業内容に関しては進行具合により、変更する場合がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 毎回授業後に個別・グループに対して指導、フィードバックを行う。
- 試演会後に総括を行う。

授業時間外の学習

- 課題となる作品について、作曲家・時代背景等を調べておく。(映像資料等で作品を必ず視聴しておくこと)
 - 自分の出演以外のシーンについても、楽譜・資料を用意しておくこと。
 - 授業を円滑に進めるために、十分に個人稽古・アンサンブル稽古をしておくこと。
 - 試演会で使用する衣装・小道具・舞台装置等の準備をすること。
- ※これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%、試演会(実技試験)50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90%以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80%以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60%以上の者(授業内容の理解、演奏・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50%以上の者(授業内容の理解、演奏・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49%以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏・課題への取り組み、受講態度等に問題がある者)

科目名 邦楽アンサンブル研究A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 滝田 美智子

科目ナンバリング MUS2245MA/
4245MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻 —

履修条件

日本音楽専修は必修。

授業の概要

邦楽器は各々楽器の特性が強く、固定的である。楽器の特性を認識しながら、様々な可能性を追求する。洋楽とのアンサンブルを積極的にすることも重要である。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴き、感じることを最大課題として、アンサンブルの醍醐味を体得できるようにする。

授業の到達目標

- 邦楽のアンサンブルの可能性について、各人が考え、意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に得ることができる。
- スコア譜を深く読み取ることができる。
- 年2回の日本音楽演奏会を外部への発信として、成果を発表できる。

授業計画

【前期】

- 受講生の習熟度の確認と前期計画
- 楽譜を読み解く(作曲家を招いて)
- 箏二重奏
- 箏・尺八合奏
- 箏・尺八合奏のまとめ
- 箏三重奏
- 箏三重奏のまとめ
- 邦楽器と洋楽器合奏
- 邦楽器と洋楽器合奏のまとめ
- 古典曲合奏
- 古典曲合奏のまとめ
- 演奏会に向けた大編成曲①譜読み
- 演奏会に向けた大編成曲②研究
- 演奏会に向けた大編成曲③まとめ
- 総まとめ

【後期】

- 箏四重奏曲
- 箏四重奏曲のまとめ
- 尺八合奏曲
- 箏・尺八合奏曲
- 第3回目・第4回目のまとめ
- 古典合奏曲
- 古典合奏曲のまとめ
- 演奏会に向けた大編成曲I①譜読み
- 演奏会に向けた大編成曲I②研究
- 演奏会に向けた大編成曲I③仕上げ
- 演奏会に向けた大編成曲II①譜読み
- 演奏会に向けた大編成曲II②研究
- 演奏会に向けた大編成曲II③仕上げ
- 第8回目・第11回目のまとめ
- 総まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で演奏する場合は、総評を行う。
演奏しない場合も、学生の曲解釈に対し、総評を行う。

授業時間外の学習

授業内で演奏する場合は、譜読み・練習をしっかりと行う。
演奏に参加しない週は、スコア譜を予習しておくこと。
これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて、教員より指示する。

成績評価

- 成績評価については、積極的な授業への取り組み(準備予習50%、成果50%)の結果を、総合的に評価する。
※遅刻厳禁。評価に含む。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容への理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・課題への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 オーケストラ・スタディC/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 野口 千代光

科目ナンバリング MUS1242MA/
3242MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期集中

他専攻 ー

履修条件

弦楽器専修者必修。

授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。

- ・オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、音源等も聴き、作品を理解して臨む。
- ・演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人ずつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

授業の到達目標

- ・オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。
- ・全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

授業計画

曲目は4月に発表する。

11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。

毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内演奏時、アンサンブル全体への指導、必要に応じてパート指導、個別指導を丁寧に行う。

授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。授業を受ける前に個々がしっかり個人練習をし、スコアを準備して楽曲の成り立ちを勉強することを必須とする。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、音源を準備すること。

成績評価

成績評価については、曲の事前準備10%、受講態度50%、演奏成果40%の結果を総合的に判断する。

- S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかりと把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者
- A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者
- B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期「合奏」においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者
- C 後期「合奏」授業において何とかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者
- D 後期「合奏」授業についていける能力が見込まれない者

試験の結果により後期「合奏」授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導も行き、「合奏」授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験 ー

担当教員 野口 千代光・永井 由比

科目ナンバリング MUS2246MA/
4246MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期集中

他専攻 ー

履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」の単位を修得した者。弦楽器専修者必修。弦楽器奏者以外についてはオーディション等で選出された者。

授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。

個々の力が合わさると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感する。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備等についての確認)
2. 黒岩氏とのリハーサル①
3. 黒岩氏とのリハーサル②
4. 黒岩氏とのリハーサル③
5. 黒岩氏とのリハーサル④
6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ゲネプロ 本番
8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証・反省を行い、意見交換の場とする。

毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内演奏時、アンサンブル全体への指導、必要に応じてパート指導、個別指導を丁寧に行う。

授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。授業を受ける前に個々がしっかり個人練習をし、スコアを準備して楽曲の成り立ちを勉強することを必須とする。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

成績評価

成績評価については、授業態度60%、演奏成果40%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 ギター・アンサンブルC/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音 1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 佐藤 紀雄

科目ナンバリング MUS2247MA/4247MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 通年

他専攻

履修条件

ギター専修者必修。

授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

授業の到達目標

年2回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

授業計画

[前期]

1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴き合い理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドウークイック①各パートの難所の練習課題を見つける
12. バンドウークイック②各パート同士の役割を理解する
13. バンドウークイック③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドウークイック④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドウークイック⑤11～14を踏まえて表現を実現する

[後期]

1. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
2. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
3. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
4. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する

5. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. ヴィヴァルディー「四季より」[春]①この曲に必要な技術を準備する
12. ヴィヴァルディー「四季より」[春]②各パート毎に弾いて役割を理解する
13. ヴィヴァルディー「四季より」[春]③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
14. ヴィヴァルディー「四季より」[春]④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
15. ヴィヴァルディー「四季より」[春]⑤作品の中で自然の描写を豊かに再現する

学生に対する教員からのフィードバック方法

演奏上、またはモチベーションの上で問題を抱えている学生には、個々に面談し解決する方法を探してゆく。一方でアンサンブルの上での問題を発見した場合は、皆で話し合う。

授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 室内楽特設クラスA/B/C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音 1・2年

単位数 1・1

実務経験

担当教員 柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS1241MA/2244MA/3241MA/4244MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期集中・後期集中

他専攻

履修条件

室内楽作品を深く掘り下げて研究したい、アンサンブルに意欲的な学生。

※芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする。

授業の概要

弦楽器・管楽器・ピアノを含む室内楽曲(デュオ・ピアノトリオ・ピアノカルテット等)を中心に取り上げ、演奏助手の協力のもと、アンサンブル能力の向上を目指す。非常に柔軟性のある形態を持ち、半期につき、5回程度個人レッスンの形で授業を行う。他の室内楽クラスを履修しつつ受講することも可能で、同じ曲目を別の観点から学ぶことも、良い勉強になるだろう。経験の有無や量を問わずに履修できるという利点があり、半期の間は同じメンバーで、お互いを理解し共演者と共に音楽を作り上げていく。主として担当教員が指導に当たるが、必要に応じてアンサンブル指導員(弦楽器・管楽器等)のレッスンを受講することもある。

受講希望者は、メンバー確定後履修登録をし、受講曲が決まり次第早目に担当教員に申し出ること。具体的な日程等については、演奏員とも相談の上、後日掲示する。前期受講希望者多数の場合は、後期に履修変更となることもあり得る。

授業の到達目標

共演者としてお互いを信頼し合い、ひとりひとりが積極的に音楽作りに参加できる。

授業計画

基本的には、各グループの希望曲(複数可)を取り上げる。レッスンの進め方については、臨機応変に対応したい。たとえば、経験の少ないグループの場合は各楽器の特徴の理解や、基本的な合わせ方から入り、選曲のアドバイス等も行う。

定期演奏会のオーディション参加を希望するグループは、より深く音楽を掘り下げ、説得力のある演奏を目指す。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

レッスンに向けて、お互い迷惑にならないように、各自十分に練習を積んでおくこと。受講曲目についても、深く調べておくように。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

各自事前準備60%、受講態度40%にて総合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者(事前準備が十分で学習意欲が強く認められ、各種コンサートに出演した者)

A 総合点が80点以上の者(事前準備が十分で学習意欲が強く認められた者)

B 総合点が60点以上の者(事前準備、学習意欲が中程度の者)

C 総合点が50点以上の者(事前準備、学習意欲が不十分と思われる者)

D 総合点が49点以下の者(授業(レッスン)への取り組み、受講態度に問題のある者)

科目名 伴奏C (1) (2) / D (1) (2)

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 1・1

実務経験 —

担当教員 柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS2248MA/
4248MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期集中・
後期集中

他専攻 —

履修条件

ピアノ専修の学生のみ履修可。

授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏および演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)を以って各々単位認定を行う。“伴奏受講票”を使用のこと。

授業の到達目標

様々な楽器に関心を持ち、「伴奏」という立場に責任を持ち、意欲的にアンサンブルを作り上げる。そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に判断する。
S 総合点が90点以上の者(本番までの取り組みが的確かつ秀でた者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
A 総合点が80点以上の者(本番までの取り組みが的確な者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
B 総合点が60点以上の者(本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者)

科目名 伴奏研究A / B / C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 1・1

実務経験 —

担当教員 柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS1243MA/2249MA/
3243MA/4249MA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期集中・
後期集中

他専攻 —

履修条件

学内試験、学内演奏会等でピアノ(伴奏)を担当する学生。

授業の概要

主としてピアノと弦楽器または管楽器のデュオ作品を扱う。
学内試験の伴奏を担当するピアノの学生が、パートナーの実技担当教員のレッスンだけでなく、ピアノ専任教員からもレッスンを受け、助言を得ることで、伴奏にとどまらない「共演ピアニスト」としての自覚を持って、より積極的にふたりで音楽を創り上げていけるようなデュオを目指す。
授業はレッスン形式で行い、5回程度のレッスン受講とパートナーの学内試験や学内演奏会での演奏を以って単位を認定する。
受講希望者は、予め履修登録をした後、パートナーと受講曲が決まり次第届け出ること。
具体的な日程については、後日掲示発表する。

授業の到達目標

共演者としての役割をしっかりと認識し、責任を持ってパートナーと共に学び、音楽を作り上げることができる。

授業計画

前期は、5月中旬を目途にパートナー・受講曲を決定し、5月末～7月にレッスンを受ける。
後期は、11月中旬を目途にパートナー・受講曲を決定し、11月末～2月にレッスンを受ける。
授業時間は、他の授業と重ならないよう、6限目(17:30以降)や土曜日等に設定する。必要に応じて、ピアノパートのみのレッスンも行うが、原則として、パートナーと一緒に出席すること。

学生に対する教員からのフィードバック方法

演習発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

大事な試験や学内演奏会に向けての科目となるので、個人練習を十分に行なっておくこと。また、演奏曲目の内容についても深く理解しておくように。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

各自用意。教員用の楽譜(コピー可)も準備すること。

成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者(本番までの取り組みが的確かつ秀でた者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
A 総合点が80点以上の者(本番までの取り組みが的確な者で本番での演奏が公演および実技試験の質を高めた者)
B 総合点が60点以上の者(本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者)
C 総合点が50点以上の者(本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者)
D 総合点が49点以下の者(本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者)

科目名 海外特別演習C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 松井 康司・東井 美佳

科目ナンバリング MUS1244MA/
3244MA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 前期集中

他専攻 —

履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

授業の概要

ドイツ・デトモルト音楽大学にて、1週間のレッスン研修を行う。後半は、作曲家のゆかりの地を訪れ音楽家の業績を辿ることにより、芸術全般の知識・教養を深める。

授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。そのためには早くから個人の実技練習を十分に積んでおく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 旅行会社による説明会①
3. 訪問都市についての勉強会①
4. 訪問都市についての勉強会②
5. 旅行会社による説明会②
6. 訪問都市についての勉強会③
7. 受講曲による試演会
8. 研修旅行

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

訪れる街の歴史や関係する作曲家について、深く学んでおく。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

成績評価

事前授業への取り組み30%、研修中の取り組み50%、レポート20%で総合的に判断する。

- S 総合点90点以上の者（事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点80点以上の者（事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確だった者）
- B 総合点60点以上の者（事前授業の理解、レッスンへの取り組みが良好だった者）
- C 総合点50点以上の者（事前授業の理解、レッスンへの取り組みが不十分だった者）
- D 総合点49点以下の者（事前授業の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、レッスンへの取り組み・受講態度に問題がある者）

科目名 特別講義（音楽）

授業形態 講義

対象 専音1年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 松井 康司

科目ナンバリング MUS2002MA

学位授与方針との関係 DP①②

期間 集中

他専攻 —

履修条件

専音1必修（専音2も選択授業として履修可能）。

授業の概要

音楽を通しての仕事という観点から、音楽マネジメントについて、また、コンサートホールの舞台機構、ホールスタッフの仕事について、前期・後期お一人ずつゲストをお招きし4コマずつ講義を頂く。この授業を通して、自らの音楽経験と教養を深め、いかに時代に即した現代社会に還元していけるかを考察していく。

授業の到達目標

コンサート制作に必要な知識や舞台機構、ホールスタッフの仕事についての知識を得て、自分の専門と結びつけていけるような思考を身につけることができる。

授業計画

【前期集中講義期間】

1～4. コンサートホールの舞台機構とホールスタッフの仕事について

【後期集中講義期間】

5～8. 音楽マネジメントの仕事について

※コロナの状況により、授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後に、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業中に学んだことを図書館、インターネットを使いチェックすること。これらの学修には30時間以上を要する。

教科書・参考書等

その都度配付。

成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 特別演習C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専音
1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 柏原 佳奈

科目ナンバリング MUS2201MA/
4201MA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 通年

他専攻 ー

履修条件

Cは全専修必修。

授業の概要

公開講座・学内演奏会・定期演奏会・卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家および研究生による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。これらの演奏会を聴講することで単位認定を行う。

授業の到達目標

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なものもちろんだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことから得るもの大きさもぜひ認識してほしい。

授業計画

公開講座・学外演奏会・学内演奏会の日程・演目の詳細は、オリエンテーション時に発表する。

また日程は変更となる場合もあるので、常に掲示やClassroomを確認のこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

特別公開講座のみについては、レポートを提出後、個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

ゲストの音楽家や演奏される楽曲について調べ、理解を深める。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

全ての演目に出席することを前提とし、授業への取り組みとレポートにより評価する。

- S 総合点が90点以上の者（公演の内容を深く理解し、取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（公演の内容を理解し、取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（公演の内容を理解し、取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（公演の内容を理解し、取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（公演の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、取り組み・受講態度等に問題のある者）

科目名 コラボレイト実習C(1)(2)/D(1)(2)

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音
1・2年

単位数 1・1

実務経験 ー

担当教員 松井 康司

科目ナンバリング MUS2551MA/
4551MA

学位授与方針との関係 DP②③

期間 前期集中・
後期集中

他専攻 ー

履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会・卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表を以って単位認定を行う。“コラボレイト実習受講票”を使用のこと。なお、単位認定は、前期・後期1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけていくことが求められる。

授業の到達目標

- ・演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶことができる。
- ・音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶことができる。

授業計画

1. 打ち合わせ
2. 音楽のみの練習①
3. 音楽のみの練習②
- 4～8. 舞台稽古への参加（1回が2コマ分）
9. 通し稽古
10. 本番

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生の演奏に対して、随時フィードバックを行う。

授業時間外の学習

音楽専攻・演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督に要望に応えるよう練習をしていかななくてはならない。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（本番までの取り組みが的確かつ秀でた者で、本番での演奏が公演の質を高めた者）
- A 総合点が80点以上の者（本番までの取り組みが的確な者で、本番での演奏が公演の質を高めた者）
- B 総合点が60点以上の者（本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者）

科目名 楽曲分析 [編曲]

授業形態 講義 対象 専音2年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 たかの 舞俐

科目ナンバリング MUS3010MA 学位授与方針との関係 DP③⑤ 期間 前期 他専攻 ー

履修条件

特にないが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、編曲を学んでいく。今まで学んできたことの復習や確認をしながら、まずメロディーに合うコードを付け、伴奏付けをしていくことを学ぶ。その後、ピアノ以外の楽器を含む編曲も試みる。編曲した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

授業の到達目標

和声法やソルフェージュの基礎を必要に応じてもう一度確認しながら、卒業後の音楽活動に直接役立つような伴奏付けや編曲等を学んで実践的な力を身につけることができる。

授業計画

1. オリエンテーション、ポップスとクラシックのコード進行の違い
2. 様々な曲のメロディーにコード付けを試みる (実習例 ポップス作品や童謡や歌曲等)
3. 様々な曲のメロディーに対旋律を書く事を試みる (実習例 ポップス作品や童謡や歌曲等)
4. 様々な伴奏パターン①実習1回目
5. 様々な伴奏パターン②実習2回目
6. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲①実習1回目
7. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲②実習2回目
8. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲③実習3回目
9. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲①実習1回目
10. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲②実習2回目

11. ジャズのコード進行/ジャズコードを用いた編曲
12. 編曲実習①各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
13. 編曲実習②各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
14. 編曲実習③各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
15. 編曲作品発表、演奏 (コンサート形式)
順序および内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

編曲作品発表後、講評を行う。

授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。次の授業で見るので、各自学習しておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

成績評価

- 成績評価については、受講態度30%、学期内作品提出30%、作品発表40%の結果を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、作品未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 楽曲分析 [創作]

授業形態 講義 対象 専音2年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 たかの 舞俐

科目ナンバリング MUS4011MA 学位授与方針との関係 DP③⑤ 期間 後期 他専攻 ー

履修条件

特にないが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、創作 (作曲の基礎) を学んでいく。作曲と聞くと、難しいものに思えるかもしれないが、最初はふっと思いついた鼻歌のようなものでも立派に作曲の始まりであると私は考えている。それぞれの学生の個性を大事にしながら、まずは歌詞に合わせて歌を書いていくことから徐々に作品を完成していくことを学んでいく。また、今まで学んできたコードの知識を実践的に使ってジャズ風の短い作品を作曲してみることも試みていきたいと思っている。様々な作曲手法を実習を通して学んでいき、その後、各自の意向による自由作曲を個人指導していく。創作した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

授業の到達目標

創作の授業では、メロディー、リズム、ハーモニーという3つの要素をどのように展開していくかということを知り、各人の音楽創作能力を引き出し、伸ばすことができる。

授業計画

1. 歌曲、ないし童謡の作曲①メロディーの作曲
2. 歌曲、ないし童謡の作曲②ハーモニーをつける
3. 歌曲、ないし童謡の作曲③伴奏付けをする
4. 歌曲、ないし童謡の作曲④伴奏付けの形をさらに発展させる
5. 歌曲、ないし童謡の作品発表。
6. 簡単な室内楽作品の試作①
7. 簡単な室内楽作品の試作②
8. 簡単な室内楽作品の試作の発表

9. 簡単なジャズ風スタイルによる作曲講義
10. 12音技法について講義①
11. 12音技法について講義②
12. 自由創作実習①
13. 自由創作実習②
14. 自由創作実習③
15. 作品発表、演奏 (コンサート形式)
順序および内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

創作作品発表後、講評を行う。

授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。次の授業で見るので、各自学習しておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

成績評価

- 成績評価については、受講態度30%、学期内作品提出30%、作品発表40%の結果を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、作品未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 音楽療法実習

授業形態 実習
(卒業試験など)

対象 専音2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 鈴木 千恵子

科目
ナンバリング

MUS4500MA

学位授与方針
との関係

DP③⑤

期間 後期集中

他専攻 —

履修条件

「音楽療法演習A/B」を履修していることが望ましい。

授業の概要

対象者とコミュニケーションを図りながら、様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。実習現場は高齢者や児童領域を考えているが、その時の社会的状況にもよるので、様々なことを考慮して判断する。

授業の到達目標

「音楽療法概説」「音楽療法演習」で学んだ音楽療法の現場に必要な臨床的技術（伴奏・楽器・身体・編曲・即興）を身につけることができる。

授業計画

1. 導入：授業の進め方と実習について
2. 臨床現場についての理解～対象者に向けてのセッション計画
3. 実習に向けてのオリエンテーション
4. 現場実習①
5. 現場実習②
6. 現場実習③
7. 現場実習④
8. 現場実習⑤

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習報告書を提出後、講評を行う。

授業時間外の学習

授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行う。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

松井紀和「音楽療法の手引き」(牧野出版)

松井紀和、鈴木千恵子他「音楽療法の実際」(牧野出版)

成績評価

授業の取り組みと態度50%、実習報告書の提出と内容50%

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習報告書未提出者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

Toho Gakuen College of Drama and Music

専攻科演劇専攻

科目名 特別講義 A/B

授業形態

講義

対象

専演
1・2年

単位数

2

実務経験

—

担当教員 高橋 宏幸・後藤 絢子

科目
ナンバリング

THE1000TA
/3000TA

学位授与方針
との関係

DP①③

期間

前期

他専攻

○

履修条件

認定専攻科、演劇専攻の学生の必修授業。毎週、ゲスト講師を招聘して講義をしていただく。授業の第1回目に全体の説明や注意事項をする。また、毎回質問時間を設けるので、積極的に質問ができるように準備すること。

授業の概要

演劇界を中心に第一線で活躍するゲストをお呼びし、テーマに沿った講義をしていただく。それぞれのゲストがどのように演劇界を見て、どのような作品をつくり、プロデュース等しているのか。それぞれのトークから、受講者は自分なりに演劇界を知って、どのような傾向があるのかを考えること。

授業の到達目標

- 様々な講師の講義を通して、舞台芸術から社会の問題や自身の持っている価値観・芸術観を相対化して、考えることを試みる。また、現代演劇や現代の舞台芸術の最前線で今何が行われているのかを理解し、自分の芸術活動の指標とすることを目指す。
- レポートを書き、質問等も授業中にすることで、自分の理解の客観性や理解度を深め、自分の知識や意見を他者に伝えることができる。

授業計画

1. イントロダクション：今回のテーマとゲスト講師について
2. ゲストトーク①
3. ゲストトーク②
4. ゲストトーク③
5. ゲストトーク④
6. ゲストトーク⑤
7. ゲストトーク⑥
8. ゲストトーク⑦
9. ゲストトーク⑧
10. ゲストトーク⑨
11. ゲストトーク⑩
12. ゲストトーク⑪

13. ゲストトーク⑫
 14. ゲストトーク⑬
 15. まとめ
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

それぞれのゲスト講師の作品・活動等を調べておき、ゲストのレクチャーの後には、必ず質問ができるように準備すること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

- 授業態度40%、質疑応答における積極性30%、レポート30%を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（卓越した授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる）
- A 総合点が80点以上の者（優れた授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる）
- B 総合点が60点以上の者（授業態度、質疑応答、レポートを書き、授業で一定の役割を果たすことができる）
- C 総合点が50点以上の者（授業態度、質疑応答、レポートの内容が不十分で、授業での役割を十分に果たすことができない）
- D 総合点が49点以下の者（授業態度、質疑応答、レポートが出せず、授業に必要な役割を果たすことができない）

科目名 演劇学研究 A（日本演劇論）（1）

授業形態

講義

対象

専演
1・2年

単位数

2

実務経験

—

担当教員 高橋 宏幸

科目
ナンバリング

THE1001TA

学位授与方針
との関係

DP①③

期間

前期

他専攻

○

履修条件

特になし。

授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものを揺るがすこともあるだろう。その双方向的な視点をもって、舞台について考える。

授業の到達目標

単に舞台を観る授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何を発見するべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

授業計画

1. イントロダクション：演劇の理論とは
2. ポストコロナル理論と演劇①
3. ポストコロナル理論と演劇②
4. クィア・スタディーズと演劇①
5. クィア・スタディーズと演劇②
6. 舞台の報告①
7. 舞台の報告②
8. 実際に書く①
9. 実際に書く②
10. ディスカッション①
11. ディスカッション②
12. ディスカッション③
13. 批評の講評①
14. 批評の講評②
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

講評の回にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- 授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - 授業中に次の授業までに行う予習・復習を指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

成績評価

- レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 演劇学研究A (日本演劇論) (2)

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 高橋 宏幸

科目ナンバリング THE2000TA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 後期 他専攻 〇

履修条件

特になし。

授業の概要

演劇というアートは、社会の中でどのように成り立っているか。そこには様々な関係がある。たとえば劇場について考えると、経済的なことはもちろん、都市における劇場、地域の劇場、街の中の劇場等、そこからは様々な関係を見ることができる。それは経済的な土台を反映したものというだけではない。演劇が公共圏を形作ることをはじめとして、そこについてまわる観客の位置、批評の役割等、演劇の制度について包括的に考える。もちろん、実際の舞台作品も具体例として関係するので、毎回、劇場で上演される作品等も検証して、授業を行う。

授業の到達目標

社会がどのように成り立っているのか。それを、演劇をはじめとした舞台芸術を通して考えることができる。

授業計画

1. イントロダクション：演劇と公共
2. 公共圏とはなにか①アーレントを参照として
3. 公共圏とはなにか②ハーバーマスを参照として
4. 日本の都市と演劇①公共劇場について
5. 日本の都市と演劇②民間劇場について
6. 街と演劇—都市計画と演劇の位置
7. 地域の演劇①関西圏を参照として
8. 地域の演劇②関西圏を参照として
9. 助成金と演劇
10. 文化団体の役割
11. 批評の役割
12. 観客の位置
13. 各国の劇場
14. 各国の劇場システム

15. まとめ
※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート提出後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを図書館等でチェックすること。
 - ・授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。
 - ・授業中に次の授業までに行う予習・復習は指示するので、それを行うこと。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

成績評価

レポート50%、授業態度と授業中の取り組み50%で100点に換算する。
S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 演劇学研究B (西洋演劇論) (1)

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 安宅 りさ子

科目ナンバリング THE1002TA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 前期 他専攻 〇

履修条件

演技論に関心を持つ者。

授業の概要

スタニスラフスキー・システムは、ロシアの演出家・俳優コンスタンチン・スタニスラフスキーが俳優教育法を体系的にまとめたものである。このスタニスラフスキー・システムは演技の文法として世界中に普及し、各国で独自の発展を遂げている。本講義では、スタニスラフスキーの著書「俳優の仕事」をもとに、システムの神髄を探っていく。「俳優の仕事」は（大部で難解な著作）と敬遠されがちであるが、演劇学校の生徒の日記という形式で書かれており、演劇を学ぶ学生にとっては身近な話題が取り上げられている。受講生自身の体験と重ねつつ読み込み、演技に関する考察を深めていきたい。また、関連資料も使用しながら、スタニスラフスキー・システムに基づく演技を分析していきたい。

授業の到達目標

専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、スタニスラフスキー・システムに関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。
・スタニスラフスキー・システムの基本的な考え方を説明することができる。
・創造の現場で、スタニスラフスキー・システムを応用することができる。

授業計画

1. コンスタンチン・スタニスラフスキーとモスクワ芸術座
2. 「俳優の仕事」①〈もしも〉と〈与えられた状況〉
3. 「俳優の仕事」②舞台における注意
4. 「俳優の仕事」③筋肉の開放
5. 「俳優の仕事」④断片と課題
6. 「俳優の仕事」⑤真実の感情と確信
7. 「俳優の仕事」⑥情緒的記憶
8. 「俳優の仕事」⑦究極課題と一貫した行動
9. 「俳優の仕事」⑧テンポ・リズム
10. 「俳優の仕事」⑨論理と一貫性
11. 「俳優の仕事」⑩システムの利用法

12. 練習とエチュード
 13. スタニスラフスキーの「オセロー」演出ノート
 14. スタニスラフスキー・システムの影響
 15. 今日におけるスタニスラフスキー・システムの意義
- ※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業で扱う章を必ず事前に読み、文中の人名、作品名は調べておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

スタニスラフスキー著 堀江新二他訳「俳優の仕事—俳優教育システム 第一部」「俳優の仕事—俳優教育システム 第二部」(未来社)
参考書：スタニスラフスキー著 蔵原惟人・江川卓訳「芸術におけるわが生涯」(上) (下) (岩波書店)
ジーン・ベネディティ著 高山図南雄・高橋英子訳「演技—創造の実際—スタニスラフスキーと俳優」(晩成書房)

成績評価

レポート30%、発表30%、授業態度40%を総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者（授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる）
A 総合点が80点以上の者（授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる）
B 総合点が60点以上の者（授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる）
C 総合点が50点以上の者（授業内容をあまり理解せず、レポート・発表の内容が不十分）
D 総合点が49点以下の者（授業内容を全く理解せず、レポート・発表ができない）

科目名 演劇学研究B (西洋演劇論) (2)

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験 ー

担当教員 安宅 りさ子

科目ナンバリング THE2001TA 学位授与方針との関係 DP①③ 期間 後期 他専攻 〇

履修条件

演技論・演出論に関心を持つ者。

授業の概要

ロシア・ソビエト演劇を牽引した演出家フセヴォロド・メイエルホリドの活動を追いながら、社会の変革と芸術運動の関係を概観すると共に、メイエルホリドの演劇が及ぼした影響について考察する。帝政ロシアの崩壊とそれに続く社会主義革命…激動の時代に、ロシアでは前衛的な芸術文化が生まれた。この講義では、映像資料等を使用し時代背景を捉えながら、メイエルホリドの論文を読み進め、演出作品を紹介していきたい。また、スターリン体制が確立する中で、メイエルホリドが粛清されたため、その業績の継承が途絶えていたが、1955年の名誉回復後は再評価が進み、現在ではピオメハニカを俳優訓練に取り入れる演劇学校も少なくない。スタニスラフスキー・システムに対するメイエルホリドの考えについても触れ、両者の共通性と相違点を明確にしていきたい。

授業の到達目標

専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、ロシア・ソビエト演劇に関する知識・理解を深め、演劇と社会の関りについて関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。

- ・メイエルホリドの演劇観について説明ができる。
- ・ロシア・アバンギャルドの芸術について説明ができる。

授業計画

1. モスクワ芸術座とチェーホフ～「かもめ」を中心に～
2. 象徴主義演劇～メーテルリンクの静劇理論～
3. 演劇の約束事～ブロック作「芝居小屋」を中心に～
4. 帝室アレクサンドルスキー劇場における演出作品
5. ドクトル・ダベルトゥットの演出作品
6. 十月革命と芸術
7. メイエルホリドとマヤコフスキー～「ミステリヤ・ブッフ」を中心に～

8. アジプロ演劇の隆盛
 9. ピオメハニカ～新時代の俳優訓練法としての意義～
 10. 構成主義演劇～「堂々たるコキユ」を中心に～
 11. 古典の現代化～「検察官」を中心に～
 12. 風刺劇～「南京虫」「風呂」を中心に～
 13. 社会主義リアリズムとメイエルホリド批判
 14. 日本の近代劇運動とメイエルホリド
 15. メイエルホリドの再評価
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業で扱う章を事前に読んでおくこと。また、同時代の文学・美術・音楽・舞踊・映画等についても調べておくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

エドワード・ブローン著 浦雅春・伊藤諭訳「メイエルホリド演劇の革命」(水声社)

成績評価

- レポート30%、発表30%、授業態度40%を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる)
- A 総合点が80点以上の者(授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解せず、レポート・発表の内容が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を全く理解せず、レポート、発表ができない)

科目名 劇作研究A (劇作論)

授業形態 講義 対象 専演 1・2年 単位数 2 実務経験 〇

担当教員 瀬戸山 美咲

科目ナンバリング THE1010TA 学位授与方針との関係 DP③⑤ 期間 前期 他専攻 ー

履修条件

ドラマ演劇の構造を理解し、シノプシス(あらすじ)を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。「劇作研究B」と併せて履修することが望ましい。

授業の概要

ドラマ演劇の基本構造を理解し、物語の骨格となるログラインをつくり、シノプシス(あらすじ)を書き上げる。お互いのシノプシスを分析し、講評し合う。

授業の到達目標

- ・戯曲の仕組みを理解し、分析できる。
- ・長編戯曲のシノプシス(あらすじ)を書き上げることができる。

授業計画

1. 戯曲とは何か。映像の脚本との違いについて
2. ログライン発表①物語の種類について
3. ログライン発表②登場人物について
4. ログライン発表③構成について
5. 戯曲分析①既存の作品からシノプシスを書き起こす
6. 戯曲分析②既存の作品からシノプシスを書き起こす
7. シノプシス第一稿発表①
8. シノプシス第一稿発表②
9. シノプシス第一稿発表③

10. シノプシス第一稿発表④
11. シノプシス第二稿発表①
12. シノプシス第二稿発表②
13. シノプシス第二稿発表③
14. シノプシス第二稿発表④
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の際、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・様々な演劇や映画を見て、構造を分析する。
- ・執筆のためのリサーチや取材をする。

教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

成績評価

- 授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。
- S 総合点が90点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)
- A 総合点が80点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)
- B 総合点が60点以上の者(ディスカッションに参加。戯曲を提出)
- C 総合点が50点以上の者(授業に出席。戯曲を提出)
- D 総合点が49点以下の者(出席日数が足りない等授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)

科目名 劇作研究B (劇作演習)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 瀬戸山 美咲

科目ナンバリング THE2110TA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

長編戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。「劇作研究A」と併せて履修することが望ましい。

12. 第三稿発表②
13. 第三稿発表③
14. 第三稿発表④
15. まとめ

授業の概要

シノプシスをもとに戯曲を書き上げる。お互いの戯曲を分析し、講評し合う。

- 学生に対する教員からのフィードバック方法
発表の際、フィードバックを行う。

授業の到達目標

1時間半以上の長編戯曲を書き上げることができる。

授業時間外の学習

- 様々な演劇や映画を見て、構造を分析する。
- 執筆のためのリサーチや取材をする。

授業計画

1. ログラインとシノプシスについて振り返り
2. セリフとト書きについて
3. 第一稿発表①
4. 第一稿発表②
5. 第一稿発表③
6. 第一稿発表④
7. 第二稿発表①
8. 第二稿発表②
9. 第二稿発表③
10. 第二稿発表④
11. 第三稿発表①

教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。

- S 総合点が90点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)
- A 総合点が80点以上の者(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)
- B 総合点が60点以上の者(ディスカッションに参加。戯曲を提出)
- C 総合点が50点以上の者(授業に出席。戯曲を提出)
- D 総合点が49点以下の者(出席日数が足りない等授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)

科目名 演出研究

授業形態 講義

対象 専演
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 小山 ゆうな

科目ナンバリング THE1020TA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

- 授業時間外も準備をすること。
- 演出に興味を持ち、積極的にグループワークに参加すること。

授業の概要

古典・現代翻訳劇・現代日本語劇の3パターンの課題シーンを紹介。課題シーンまたは、自ら選んだシーンを使用し、演出プランを作成する。

演出の要である①戯曲解釈 ②多様なキャスト・スタッフの持ち味をいかに生かすか、の2点を中心にシーンを創作していく。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 日々の稽古に対するコメント
- シーン発表後、今後の課題と成果を個々にコメント

授業の到達目標

- 戯曲解釈の基本を習得できる。
- シーンを立ち上げ、上演に向かうプロセスを合理的に進める力を養うことができる。
- 演劇シーンへの意見の伝え方を学び、同時に他者の意見を自己の表現に活かす能力を養うことができる。

授業計画

1. イントロダクション：演出の仕事について・戯曲解釈について・課題戯曲の紹介
2. 課題戯曲(古典・現代翻訳劇・現代日本語劇)の分析
課題戯曲または生徒の選んだシーンを本読み・分析・戯曲の中のシーンの見つけ方
3. グループワーク 人物シートの作成・演出シート作成 本読み
4. シーン本読み 立ち稽古①
5. シーン立ち稽古②
6. シーン立ち稽古③
7. シーン立ち稽古④
8. シーン立ち稽古⑤
9. シーン発表リハーサル①
- 10・11. シーン発表リハーサル②
- 12・13. シーン発表① 互いのシーンへの合評
- 14・15. シーン発表② 互いのシーンへの合評

授業時間外の学習

- 授業では複数の戯曲の抜粋を扱って実践的に創作していくため、受講生が事前に作品を読み全容を把握しておくことが望ましい。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要な資料は授業時に配布する。

成績評価

授業への取り組み20%、テキストへの理解10%、自らを研鑽する意欲10%、事前準備の度合い10%、成果発表への評価50%にて総合的に評価する。

- S：総合点90点以上の者
- A：総合点80点以上の者
- B：総合点60点以上の者
- C：総合点50点以上の者
- D：総合点49点以下の者

科目名 映像映画研究

授業形態

講義

対象

専演
1・2年

単位数 2

実務経験

担当教員 山岡 信貴

科目
ナンバリング

THE2002TA

学位授与方針
との関係

DP①③

期間 後期集中

他専攻

—

履修条件

長編映画を観たことがあれば、その他の条件は必要ない。

授業の概要

映画の制作現場で行われていることやその効果の研究をベースにして、映画という表現手法がどのように成立しているかについて、歴史的経緯を含めて講義し、その中で俳優の役割がどうなっているかについてを並行して学ぶ。また、映画以外にも多様になってゆく映像表現全般についても考察してゆく。答えが必ずしもひとつではない内容を多数含んでいるため、授業テーマによっては、実践的な内容やディスカッションを導入することもある。

授業の到達目標

「映画とは何か」を俯瞰しながら、映画制作現場の実際の流れを理解し、映像における演技の特徴やそれに対する取り組み方を事例を通して把握する。

授業計画

1. 映画とはどのようにできているのか？
 2. 映画制作の概要
 3. 映画における俳優の役割
 4. 映画史における俳優の変遷
 5. 映画撮影の現場①
 6. 映画撮影の現場②
 7. カメラと俳優①
 8. カメラと俳優②
 9. 編集と俳優①
 10. 編集と俳優②
 11. 音声と俳優
 12. 映画における嘘
 13. 映画とテレビ
 14. 複製芸術
 15. 映画とは何か？
- ※授業の進行によっては、内容が前後する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

基本的には授業内で実施する。それが難しい内容の場合は、メール等で対応する。

授業時間外の学習

必要に応じて都度指示を出す。基本的な方針としては、授業で理解したことや疑問に思ったことを意識しながら既存の映画を鑑賞し、気付いたことを授業のディスカッション等で提示する。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業では必要な。以下は参考になる資料なので、授業とは関係なく読んだ方がよい。
ロバート・H.ヘスマン「リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち」(劇書房)
フランソワ・トリュフォー、アルフレッド・ヒッチコック「定本映画術ヒッチコック・トリュフォー」(晶文社)
ロベール・ブレッソン「シネマトグラフ叢書」(筑摩書房)

成績評価

授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。
S 総合点90点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みが優れている者)
A 総合点80点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みができていない者)
B 総合点60点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みがほぼできていない者)
C 総合点50点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みが不十分な者)
D 総合点49点以下の者(授業内容の理解と授業への取り組みに問題がある者)

科目名 演劇教育論

授業形態 演習(理論)

対象

専演
1・2年

単位数 2

実務経験

—

担当教員 柏木 陽

科目
ナンバリング

THE2100TA

学位授与方針
との関係

DP③⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

演劇と教育の2つのジャンルを往復しながら、社会の中での教育環境や学習の有り様を考えたいと思っている人。社会の中に偏在する演劇的環境や演劇的に読み解いていくことに興味のある人。

授業の概要

この授業は参加する学生の興味の方向によって大きく変わってくる。主には教育や学習について、現状あるものと、今後必要になっていきそうだと考えられるものを、色々に検討していくことを中心にして授業を行っていくつもりである。

授業の到達目標

教育行為の中で演劇の果たせる役割はどんなことかを具体的に考えていく。また、それらのアイデアを具体的な活動の形に落とし込んで考えて実践していくにはどのようにしたら良いかのヒントを掴むことができる。

授業計画

1. 教育について少し考える①今ある教育環境とはどのようなものだろうか
2. 教育について少し考える②教育と学習の違いについて考えてみる
3. 教育について少し考える③現状の教育環境で演劇はどのように働くだろうか
4. 演劇を考えてみる①先行事例を知って考える
5. 演劇を考えてみる②演劇にどのような可能性があるのかを先行事例から考えてみる
6. 演劇を考えてみる③教育演劇とはどのようなものかを想像してみる
7. 演劇と教育の接点を考える①演劇は教育行為のどのような場面が必要になるかを考える
8. 演劇と教育の接点を考える②教育の中での演劇の優位性を考えてみる
9. 演劇と教育の接点を考える③教育環境の中で演劇には難しいことは何なのかを考える

10. 具体的に考える①ここまでの中でどのようなことが可能なのかを具体的に考える
11. 具体的に考える②参加メンバーに対してプレゼンテーションしてみる
12. 具体的に考える③フィードバックを貰いながら対話をしていく
13. 再び教育について考える①日本の中の様々な教育環境の中での実践を考える
14. 再び教育について考える②現状の教育環境の何を変えていきたいのかを考える
15. まとめ：自分にとってまた自分たちにとってこの授業はどのようなものだったか

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内での発表は、発表の後に振り返りとして総評を行う。レポート等は、提出後に講評を行う。

授業時間外の学習

普段接する環境の中にどれくらい演劇的に読み解ける状況があるか等授業の進度と共に考察していくこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

資料配布等は授業内で行う。

成績評価

主として授業への参加と理解50%、授業時間内の実習状況30%、提出物等の成果20%にて総合的に評価を行う。評価テストは行わない。
S 総合点90点以上の者
A 総合点80点以上の者
B 総合点60点以上の者
C 総合点50点以上の者
D 総合点49点以下の者

科目名 アーツマネジメント研究 (1)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング THE1150TA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

専攻科生であること。演劇の内容がメインになるが、音楽専攻の学生も履修可。

授業の概要

広報や助成金申請の際には、プレゼンテーションをしたり企画書を書く等、自身の関わる作品について言語化する必要がある。さらに、協働者を得るために、作品を語る自分の言葉が必要になることも少なからずある。劇団の主宰者や制作者のみならず、海外公演等では、俳優やスタッフもメディアや観客から様々な質問を受けることがある。この授業では、自身の手がける作品について、プレス用および助成金申請用の企画書を書いたり、プレゼンテーションをすること、さらに他者の企画書を読んだり、プレゼンテーションを聞くことで自身の関わる作品について言語化する力を養う。また、言語化することは同時に、作品を様々なベクトルから深く捉えたり、自身の作品の方向性について見直したりする機会ともなるだろう。

授業の到達目標

自身の関わる作品について言語化し、プレゼンテーションをすることができる。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 広報と助成金申請の実際—企画書の作成について
3. 広報と助成金申請と広報の実際—企画書の作成について
4. 広報文を作る
5. 広報文を作る
6. プレス用企画書を書く
7. プレス用企画書を書く
8. ディスカッション
9. ディスカッション
10. 助成金申請用の企画書を書く
11. 助成金申請用の企画書を書く
12. ディスカッション

13. ディスカッション
14. ディスカッション
15. 総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業中の発言や発表、課題について適宜フィードバックする。提出物については、Classroomやメールで個々にフィードバックすることもある。

授業時間外の学習

発表と課題提出準備。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

適宜、Classroom等で資料を配布する。

成績評価

発表および課題30%、授業態度と授業中の取り組み（出席含む）70%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べる事ができる。課題の内容も優秀である）
- A 総合点が80点以上の者（欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つことができる）
- B 総合点が60点以上の者（欠席が5回未満で、遅滞なく課題を行う）
- C 総合点が50点以上の者（欠席が5回未満で、課題を提出する）
- D 総合点が49点以下の者（欠席が5回以上または課題が1つでも提出されない場合）
- ※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポートやプレゼンテーションの課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 アーツマネジメント研究 (2)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング THE2150TA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

専攻科生であり、内容に関心があること。演劇の内容がメインになるが、音楽専攻の学生も履修可。

授業の概要

表現の自由、ハラスメント、制作者の孤立等、創作現場を取り巻く問題について考える。表現の自由については主に昨今の国内外の作品やアーティスト、イベントを扱うが、歴史的な事柄を扱うこともある。また、国内外で表現の自由を制限されたアーティスト達がどのように苦境を切り抜けたのかについても知る。

授業の到達目標

創作現場を取り巻く問題について知り、より良い創作の環境・働き方について考えることができる。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 創造の現場を取り巻く問題について—ブレインストーミング (1)
3. 創造の現場を取り巻く問題について—ブレインストーミング (2)
4. 創造の現場を取り巻く問題について—調査と発表 (1)
5. 創造の現場を取り巻く問題について—調査と発表 (2)
6. 創造の現場を取り巻く問題について—調査と発表 (3)
7. 表現の自由・検閲・プロパガンダ戦争と芸術 (1)
8. 表現の自由・検閲・プロパガンダ戦争と芸術 (2)
9. 表現の自由・検閲・プロパガンダ戦争と芸術 (3)
10. 性をめぐる規制
11. ポリティカル・コレクトネス (ウオークネス) と芸術 (1)
12. ポリティカル・コレクトネス (ウオークネス) と芸術 (2)
13. 映画「宮本から君へ」と「あいちトリエンナーレ2019」への助成金不公布
14. イラン発の戯曲—ナシーム・スレイマンプール作「白いウサギ、赤いウサギ」
15. 総括

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表後やレポート提出後にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・授業中に話をしたことを図書館の資料やインターネット等でチェックすること。
 - ・発表のための準備
 - ・学期末のレポート
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

適宜指示、またはプリントを配布する。

成績評価

発表および課題30%、授業態度と授業中の取り組み（出席含む）70%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べる事ができる。さらに、課題の内容が優秀である）
- A 総合点が80点以上の者（欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つことができる。さらに、課題の内容が優秀である）
- B 総合点が60点以上の者（欠席が5回未満で、遅滞なく課題を行う）
- C 総合点が50点以上の者（欠席が5回未満で、課題を提出する）
- D 総合点が49点以下の者（欠席が5回以上または課題が1つでも提出されない場合）
- ※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポートやプレゼンテーションの課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 アウトリーチ研究 (1)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 恵志 美奈子

科目ナンバリング THE1151TA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

特になし。

授業の概要

元々社会福祉の文脈で使われていた用語「アウトリーチ」は2000年代に入り、公共劇場といった舞台芸術の文脈でも多用されるようになった。その頃「アウトリーチ」は劇場や施設へのアクセスが難しい層に向かって働きかける出張ワークショップの側面からその意義が語られることが多かったが、現在は地域社会とアートがいかに連携しうるかという視点が重要視されるようになり、その内容も多様化するようになっていく。そのため「アウトリーチ」という用語はやや死語になりつつあるが、アートに携わる者にとって、社会との接点を探るこうしたプログラムに自身がどう関わるかの視点を持つことは、必要不可欠である。

本科目では、講師の所属する世田谷パブリックシアターの事例を中心に、全国の主に公共劇場における先鋭的な取り組みについて紹介していく。

授業の到達目標

授業で紹介された事例や、独自で調べた事例を踏まえ、学生一人ひとりが、自分なりにアートをどのように社会と結びつけていくかの考えを持つことを目標とする。

授業計画

1. 講師受講生の自己紹介。世田谷パブリックシアターについて。
2. 世田谷パブリックシアターについて (続き)
3. 演劇ワークショップについて考える
4. 事例紹介 (稽古場での取り組み1)
5. 事例紹介 (稽古場での取り組み2)
6. 事例紹介 (学校での取り組み)
7. ゲスト講師 (俳優をしながら、ワークショップ進行役や地域社会

での独自企画を行っている実践例)

8. 事例紹介 (劇場での取り組み1)
 9. 事例紹介 (劇場での取り組み2)
 10. 事例紹介 (地域社会での取り組み1)
 11. 事例紹介 (地域社会での取り組み2)
 12. 地域課題と演劇1
 13. 地域課題と演劇2
 14. 地域課題と演劇3
 15. 振り返りと発表
- ※授業の進捗状況によって、各回の内容は変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題・発表に対し、フィードバックを行う。

授業時間外の学習

授業中に課題や予習を指示するので、それを行うこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にプリント配布。

成績評価

レポート30%、授業態度と授業中の取り組み(出席含む)70%を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 アウトリーチ研究 (2)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 2

実務経験 —

担当教員 後藤 絢子

科目ナンバリング THE2151TA

学位授与方針との関係 DP③⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

専攻科生であり、内容に関心があること。演劇メインの内容だが、音楽専攻の学生も履修可。

授業の概要

アーティストが学校や福祉施設に出向き、ワークショップや公演を行う等して、日頃の劇場等の文化施設へ行く機会・習慣がない人たちにもアートとの出会いの機会をつくる「アウトリーチ」(「手を伸ばす」という意味)と呼ばれる活動がある。このような活動は、分け隔てなく文化的な生活を届けるだけではなく、潜在的な観客や作り手の発掘に繋がり、時には新しい価値を生み共有することを叶えることもある。この授業では、アウトリーチのあらましを確認し、昨今どのようなアウトリーチが行われているのかを調べて発表し、自身の活動の中で、どのようなアウトリーチ活動が可能かを考えてみる。なお、授業ではいわゆる「出張公演」にとどまらず、市民自らが劇場に足を運ぶ「市民参加型」や「鑑賞教室」も扱うものとし、社会包摂や多文化共生・多文化理解のための演劇、応用演劇についても考えたい。

授業の到達目標

アウトリーチの基本を理解し、多様なアウトリーチ活動の存在を知り、演劇活動を通して社会や人と繋がる方法を考えることができる。

授業計画

1. イントロダクション・自己紹介
2. 観客を創る取り組み
3. 国内のアウトリーチ活動を調べる (1)
4. 国内のアウトリーチ活動を調べる (2)
5. 国内のアウトリーチ活動を調べる (3)
6. 国内のアウトリーチ活動を調べる (4)
7. 社会包摂・多文化共生とは
8. 多文化理解・共生のための演劇—国内の劇場の取り組み
9. 多文化共生と演劇—スウェーデン発の戯曲「I Call My Brothers」を読む (1)
10. 多文化共生と演劇—スウェーデン発の戯曲「I Call My Brothers」を読む (2)
11. 多文化共生と演劇—スウェーデン発の戯曲「I Call My Brothers」を読む (3)

12. 多文化理解・共生のための演劇—ベルギー発の戯曲「ジハード」を知る (1)
13. 多文化理解・共生のための演劇—ベルギー発の戯曲「ジハード」を知る (2)
14. 多文化理解・共生のための演劇—ベルギー発の戯曲「ジハード」を知る (3)
15. 総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の発言や発表、レポートについて適宜フィードバックを行う。

授業時間外の学習

調査・発表のための学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時またはClassroomでその都度指示するか、プリントを配布する。

成績評価

発表およびレポート30%、授業態度と授業中の取り組み(出席含む)70%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者(大幅な遅刻欠席がなく、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持って質問や意見を述べる事ができる。さらに、課題の内容が優秀である)
A 総合点が80点以上の者(欠席が3回未満で、遅滞なく課題を終わらせ、発表内容に意欲が感じられ、他者の発表にも関心を持つことができる。さらに、課題の内容が優秀である)
B 総合点が60点以上の者(欠席が5回未満で、遅滞なく課題を行う)
C 総合点が50点以上の者(欠席が5回未満で、課題を提出する)
D 総合点が49点以下の者(欠席が5回以上または課題が1つでも提出されない場合)
※外部出演等、特別の事情によりやむをえず遅刻・欠席が多い場合は、個別にレポートやプレゼンテーションの課題を課し、その内容によって評価を行う。

科目名 演技研究A (日本演劇) (1) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング

THE1230TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻 ー

履修条件

- ・専攻科2年次の「自主上演実習」に出演する者は履修が望ましい。
- ・演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

授業の概要

- ・翌年の「自主上演実習」に向けての作品選び、チーム作りを通して、舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲①」「課題戯曲②」を研究・稽古し、最終的に上演する。
- ・日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代に合ったリアリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。

授業の到達目標

- ・課題戯曲の研究・解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現近代演劇における多角的な表現方法を実践できる。
- ・上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表①
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古(戯曲解釈)
9. 立ち稽古(関係性)
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表

11. 課題①上演(1班)・反省/課題
12. 課題①上演(2班)・反省/課題
13. 課題①上演(3班)・反省/課題
14. 課題①上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
 - ・グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
 - ・期末の発表に対しての個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- ・課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。
- ・これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究A (日本演劇) (2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング

THE2230TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

- ・専攻科2年次の「自主上演実習」に出演する者は履修が望ましい。
- ・演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

授業の概要

- ・翌年の「自主上演実習」に向けての作品選び、チーム作りを通して、舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲①」「課題戯曲②」を研究・稽古し、最終的に上演する。
- ・日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代に合ったリアリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。

授業の到達目標

- ・課題戯曲の研究・解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現近代演劇における多角的な表現方法を実践できる。
- ・上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、さらなる研鑽に役立てることができる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表②
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古(戯曲解釈)
9. 立ち稽古(関係性)
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表

11. 課題②上演(1班)・反省/課題
12. 課題②上演(2班)・反省/課題
13. 課題②上演(3班)・反省/課題
14. 課題②上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
 - ・グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
 - ・期末の発表に対しての個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- ・課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。
- ・これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究A (日本演劇) (1) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング

THE3230TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻 ー

履修条件

- 演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。
- 「自主上演実習」で担当演出が三浦の場合は履修が望ましい。

授業の概要

- 7月の「自主上演実習」に向けての作品ブラッシュアップ、上演を想定した演出を通して、舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- 少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲①」「課題戯曲②」を研究、稽古し、最終的に「自主上演実習」にて上演する。
- 日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代に合ったリアリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。

授業の到達目標

- 課題戯曲の研究・解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現近代演劇における多角的な方法を実践できる。
- 上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、さらなる研鑽に役立てることができる。
- 現代日本演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表③
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古(戯曲解釈)
9. 立ち稽古(関係性)

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題③上演(1班)・反省/課題
12. 課題③上演(2班)・反省/課題
13. 課題③上演(3班)・反省/課題
14. 課題③上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
 - グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
 - 「自主上演実習」対しての個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- 課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究A (日本演劇) (2) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング

THE4230TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

授業の概要

- 舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- 少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲③」「課題戯曲④」を研究、稽古し、最終的に上演する。
- 日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代に合ったリアリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。
- 最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

授業の到達目標

- 課題戯曲の研究・解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現近代演劇における多角的な方法を実践できる。
- 上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。
- 現代日本演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表④
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古(戯曲解釈)
9. 立ち稽古(関係性)

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題④上演(1班)・反省/課題
12. 課題④上演(2班)・反省/課題
13. 課題④上演(3班)・反省/課題
14. 課題④上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

- 日々の稽古による、個々への演技指導時の言葉。
 - グループワークによる、グループへの演出指導の言葉。
 - 期末の発表に対しての個々へのチェック(良い点、悪い点、改善点)を伝える。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

- 課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究B (外国演劇) (1) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング THE1231TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 前期

他専攻 —

履修条件

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置付けを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ（ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師）とキース・ジョンストン（カルガリー「ルーズムースシアター」）によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解すること、の基本から演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション（二人～五人）、作品準備：劇作家、時代等
3. 学生レポート：作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省

9. ワンシーン稽古
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

絹川友梨「インプロ・ゲーム」
研究旅行（キース・ジョンストン「ルーズムースシアター」）で集めた書類
キース・ジョンストン「シアタースポーツ」（英語版）

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究B (外国演劇) (2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング THE2231TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 後期

他専攻 —

履修条件

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置付けを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ（ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師）とキース・ジョンストン（カルガリー「ルーズムースシアター」）によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解すること、の基本から演じることに對する理解を深めることができる。

授業計画

1. ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション、エチュード
3. ボイストレーニング、エチュード
4. 読む稽古
5. 学生レポート、シーン準備
6. ワンシーン稽古
7. ワンシーン通し、反省
8. ワンシーン稽古
9. ワンシーン発表会

10. 反省、個人反省
11. ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
12. ワンシーン稽古
13. ワンシーン稽古
14. ワンシーン発表会
15. 反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

絹川友梨「インプロ・ゲーム」
研究旅行（キース・ジョンストン「ルーズムースシアター」）で集めた書類
キース・ジョンストン「シアタースポーツ」（英語版）

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S ①～④まで90%以上獲得した者
A ①～④まで80%以上獲得した者
B ①～④まで60%以上獲得した者
C ①～④まで50%以上獲得した者
D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究B (外国演劇) (1) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング

THE3231TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻 —

履修条件

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置付けを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ（ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師）とキース・ジョンストン（カルガリー「ルーズムースシアター」）によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

授業の到達目標

- ・演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解すること、の基本から演じることに理解を深めることができる。
- ・外国演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション（二人～五人）、作品準備：劇作家、時代等
3. 学生レポート：作品コンテクスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード

5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

絹川友梨「インプロ・ゲーム」

研究旅行（キース・ジョンストン「ルーズムースシアター」）で集めた書類

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」（英語版）

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

S ①～④まで90%以上獲得した者

A ①～④まで80%以上獲得した者

B ①～④まで60%以上獲得した者

C ①～④まで50%以上獲得した者

D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究B (外国演劇) (2) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング

THE4231TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻 —

履修条件

自分の身体全てを用いて自己を表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置付けを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ（ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師）とキース・ジョンストン（カルガリー「ルーズムースシアター」）によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

授業の到達目標

- ・演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解すること、の基本から演じることに理解を深めることができる。
- ・外国演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

- 1 ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
- 2 ワンシーンオーディション、エチュード
- 3 ボイストレーニング、エチュード
- 4 読む稽古
- 5 学生レポート、シーン準備

- 6 ワンシーン稽古
- 7 ワンシーン通し、反省
- 8 ワンシーン稽古
- 9 ワンシーン発表会
- 10 反省、個人反省
- 11 ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
- 12 ワンシーン稽古
- 13 ワンシーン稽古
- 14 ワンシーン発表会
- 15 反省、まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

授業の中で出された課題やショートシーン等は、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

絹川友梨「インプロ・ゲーム」

研究旅行（キース・ジョンストン「ルーズムースシアター」）で集めた書類

キース・ジョンストン「シアタースポーツ」（英語版）

成績評価

①課題に対する成果10%②授業に取り組もうとする姿勢・態度・協調性の成否20%③役者としてどのくらい能力が培われたか30%④課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

S ①～④まで90%以上獲得した者

A ①～④まで80%以上獲得した者

B ①～④まで60%以上獲得した者

C ①～④まで50%以上獲得した者

D ①～④まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究C（現代劇）（1）1年次

授業形態 演習（演技）

対象 専演1年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE1232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻

履修条件

積極的に取り組むこと。

授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

授業計画

1. 授業概要、進行の説明
 2. 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
 3. 本読み①話し合い
 4. 本読み②話し合い
 5. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
 6. 読み合わせ②
 7. 立ち稽古①空間の把握
 8. 立ち稽古②台詞の目的化
 9. 立ち稽古③台詞の目的化
 10. 立ち稽古④台詞を自分の言葉にする
 11. 立ち稽古⑤台詞を自分の言葉にする
 12. 立ち稽古⑥台詞を身体から離す
 13. 立ち稽古⑦台詞を身体から離す
 14. 立ち稽古⑧形にする
 15. 授業内発表
- ※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

- ①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。
- S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究C（現代劇）（2）1年次

授業形態 演習（演技）

対象 専演1年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE2232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻

履修条件

積極的に取り組むこと。

授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

授業計画

1. 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
 2. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
 3. 読み合わせ②
 4. 読み合わせ③
 5. 立ち稽古①空間の把握
 6. 立ち稽古②コミュニケーション
 7. 立ち稽古③行動としての台詞
 8. 立ち稽古④相手役を動かす
 9. 立ち稽古⑤役にとってより負荷の大きい状況を選択していくということ
 10. 立ち稽古⑥形にしてゆく ブロッキング
 11. 立ち稽古⑦通し稽古
 12. 立ち稽古⑧通し稽古
 13. 立ち稽古⑨通し稽古
 14. 後期発表
 15. まとめ
- ※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

- ①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。
- S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究C（現代劇）（1）2年次

授業形態 演習（演技）

対象 専演2年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE3232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻

履修条件

積極的に取り組むこと。

授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

授業計画

1. 授業概要、進行の説明
 2. 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
 3. 本読み①話し合い
 4. 本読み②話し合い
 5. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ①
 6. 読み合わせ②
 7. 立ち稽古①空間の把握
 8. 立ち稽古②台詞の目的化
 9. 立ち稽古③台詞の目的化
 10. 立ち稽古④台詞を自分の言葉にする
 11. 立ち稽古⑤台詞を自分の言葉にする
 12. 立ち稽古⑥台詞を身体から離す
 13. 立ち稽古⑦台詞を身体から離す
 14. 立ち稽古⑧形にする
 15. 授業内発表
- ※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。
S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究C（現代劇）（2）2年次

授業形態 演習（演技）

対象 専演2年

単位数 1

実務経験

担当教員 田中 壮太郎

科目ナンバリング

THE4232TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 後期

他専攻

履修条件

積極的に取り組むこと。

授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

授業計画

1. 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
 2. 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定 読み合わせ
 3. 読み合わせ①
 4. 読み合わせ②
 5. 立ち稽古①空間の把握
 6. 立ち稽古②コミュニケーション
 7. 立ち稽古③行動としての台詞
 8. 立ち稽古④相手役を動かす
 9. 立ち稽古⑤役にとってより負荷の大きい状況を選択していくということ
 10. 立ち稽古⑥形にしてゆく ブロッキング
 11. 立ち稽古⑦通し稽古
 12. 立ち稽古⑧通し稽古
 13. 立ち稽古⑨通し稽古
 14. 後期発表
 15. まとめ
- ※授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内のコミュニケーションによる。

授業時間外の学習

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必要に応じて授業内で配布する。

成績評価

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。
S ①～⑤で90%以上を獲得した者
A ①～⑤で80%以上を獲得した者
B ①～⑤で60%以上を獲得した者
C ①～⑤で50%以上を獲得した者
D ①～⑤で49%以下だった者

科目名 演技研究D (フィジカルシアター) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験

担当教員 大谷 賢治郎

科目ナンバリング THE2233TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 後期

他専攻

履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。

授業の概要

- ・俳優としての身体性を習得することを目標とする。
- ・身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やしていく。
- ・台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。
- ・「演技演習A」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げていく。
- ・身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。

授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程における自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。

授業計画

1. 授業の導入：授業内容の説明と目標設定
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーション等
4. 身体記憶
5. 模倣と観察
6. 日常的ジェスチャー
7. 表現的ジェスチャー
8. 音楽的表現
9. キャラクターの創造①基礎
10. キャラクターの創造②応用

11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の課題発表後に講評を行い、場合によっては個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布。
参考書：必要に応じて授業時に配布。

成績評価

授業への取組み80%、発表の内容20%の総合的評価

- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技研究D (フィジカルシアター) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験

担当教員 大谷 賢治郎

科目ナンバリング THE4233TA

学位授与方針との関係 DP②④

期間 後期

他専攻

履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。「演技研究D (フィジカルシアター) 1年次」を履修していること。

授業の概要

- ・俳優としての身体性を習得することを目標とする。
- ・身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やしていく。
- ・台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。
- ・「演技研究D1年次」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げていく。
- ・身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。
- ・最高学年として、専攻科1年生への稽古のアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程における自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。
- ・フィジカルシアター上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

授業計画

1. 授業の導入：授業内容の説明と目標設定
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーション等
4. 仮面①
5. 仮面②
6. 仮面③日常的ジェスチャー

7. 身体表現：感情
8. 身体表現：年齢
9. 身体表現：キャラクター形成①基礎
10. 身体表現：キャラクター形成②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内の課題発表時に講評を行い、場合によっては個別にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布。
参考書：必要に応じて授業時に配布。

成績評価

授業への取組み80%、発表の内容20%の総合的評価

- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技研究E (ミュージカル) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演1年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 大塚 幸太

科目ナンバリング

THE1233TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻 —

履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。
稽古着・稽古靴着用。

授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。シーンワークでは群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。メインとアンサンブルの両方を経験し、双方に必要なモノを体感する。「役として生きる」ことを怠らず、俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

授業の到達目標

歌やダンスの苦手意識を軽減し、今後の活動の場を広げられるように努力し、各自が新たな発見をすること。「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得することができる。

授業計画

1. 課題の歌入れ・振付①
2. 課題の歌入れ・振付①
3. 課題作品の演出
4. 課題作品の演出
5. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
6. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
7. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
8. 課題の歌入れ・振付②
9. 課題の歌入れ・振付②

10. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
11. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
12. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
13. 課題作品①②演出
14. 課題作品①②演出
15. 授業内発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で個別にアドバイスを伝える。

授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢と実力④自らを研鑽する意欲⑤身体的・精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者 (①～⑤を満たし、即戦力となりうる可能性のある実力がある)
- A 総合点が80点以上の者 (①～⑤を満たしている)
- B 総合点が60点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足)
- C 総合点が50点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足・授業態度や他の学生に及ぼす影響)
- D 総合点が49点以下の者 (①～⑤を満たしていない)

科目名 演技研究E (ミュージカル) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専演2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 大塚 幸太

科目ナンバリング

THE3233TA

学位授与方針との関係

DP②④

期間 前期

他専攻 —

履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。
稽古着・稽古靴着用。

授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。2年次のシーンワークは1年次よりも本格化した「作品ワーク」となる。1年次と同様に群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。作品ワーク中心の授業で、細部に渡る表現を研究し、心身共に「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得する。

また、生徒による「クリエイティブ・チーム」を編成し、振付または演出の立場を経験することで、創造力や創作意図を伝える指導力を身につける機会を設ける場合がある。1年次と同様に俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。そして、卒業後すぐに「現場」に適應できる人材育成を目指す。

授業の到達目標

歌やダンスの苦手意識を軽減し、今後の活動の場を広げられるように努力し、各自が新たな発見をすること。「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得することができる。

授業計画

1. 課題の歌入れ・振付①
2. 課題の歌入れ・振付①
3. 課題作品の演出
4. 課題作品の演出
5. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
6. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
7. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
8. 課題の歌入れ・振付②
9. 課題の歌入れ・振付②
10. ソロパート等入れ替えたシーンワーク

11. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
12. ソロパート等入れ替えたシーンワーク
13. 課題作品①②演出
14. 課題作品①②演出
15. 授業内発表

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内で個別にアドバイスを伝える。

授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢と実力④自らを研鑽する意欲⑤身体的・精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者 (①～⑤を満たし、即戦力となりうる可能性のある実力がある)
- A 総合点が80点以上の者 (①～⑤を満たしている)
- B 総合点が60点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足)
- C 総合点が50点以上の者 (①～⑤を満たしていない。実力不足・出席日数不足・授業態度や他の学生に及ぼす影響)
- D 総合点が49点以下の者 (①～⑤を満たしていない)

科目名 演劇特別研究 (1) ①②

授業形態 演習(演技)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 眞鍋 卓嗣

科目ナンバリング THE1234TA

学位授与方針との関係 DP①④

期間 前期

他専攻 ー

履修条件

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。稽古着・運動靴を必ず着用すること。授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

授業の概要

演技基礎を他者との交流の視点から学ぶ。様々なトレーニングを施し、それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。

授業の到達目標

- ・ 専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・ 他者との交流の重要性を知ること、集団においての協働性を向上することができる。
- ・ 戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。

授業計画

1. トレーニング: 交流①
2. トレーニング: 交流②
3. トレーニング: 交流③
4. トレーニング: 与えられた状況の中の自分①
5. トレーニング: 与えられた状況の中の自分②
6. トレーニング: 与えられた状況の中の自分③
7. 戯曲読解
8. 役へのアプローチの仕方、読み合わせ
9. 読み合わせ
10. セリフの覚え方
11. 実演①
12. 実演②

13. 実演③
14. 実演④
15. 前期の総括、ディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・ 授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
 - ・ 与えられた宿題をやってくること。
 - ・ 実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書: 授業時に配布 (戯曲の一場面)

成績評価

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者)

科目名 演劇特別研究 (2) ①②

授業形態 演習(演技)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 眞鍋 卓嗣

科目ナンバリング THE2234TA

学位授与方針との関係 DP①④

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。稽古着・運動靴を必ず着用すること。授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

授業の概要

他者との交流の視点から演技基礎を学ぶ。それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。前期で学んだことを生かし、より実践的な内容とする。

授業の到達目標

- ・ 専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・ 他者との交流の重要性を知ること、集団においての協働性の向上をすることができる。
- ・ 戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。
- ・ プロの現場で行われているアプローチの仕方を学び、専門俳優・表現者として向上することができる。

授業計画

1. 戯曲読解・読み合せ①
2. 戯曲読解・読み合せ②
3. 戯曲読解・読み合せ③
4. 戯曲読解・読み合せ④
5. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ①
6. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ②
7. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ③
8. 立ち稽古①
9. 立ち稽古②
10. 立ち稽古③

11. 立ち稽古④
12. 立ち稽古⑤
13. 発表①
14. 発表②
15. 後期の総括、ディスカッション

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

- ・ 授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
 - ・ 与えられた宿題をやってくること。
 - ・ 実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書: 授業時に配布 (戯曲の一場面)

成績評価

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者)
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者)

科目名 ワークショップA (1) / B (1)

授業形態 実習 (WS)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 A: 内藤 裕子 / B: 永井 愛

科目ナンバリング THE1630TA/
THE3630TA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 前期集中

他専攻 ー

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。

授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各1回ずつワークショップを行う。授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また、事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる。(専攻科2年)

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②
7. 立ち稽古③

8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・個々への演技指導時の言葉
 - ・グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップA (2) / B (2)

授業形態 実習 (WS)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 〇/ー

担当教員 A: 日澤 雄介 / B: 佐藤 信

科目ナンバリング THE2630TA/
THE4630TA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 後期集中

他専攻 ー

履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。

授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各1回ずつワークショップを行う。授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また、事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる。(専攻科2年)

授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②
7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤

10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・個々への演技指導時の言葉
 - ・グループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップC / D (演大連)

授業形態 実習 (WS)

対象 専演 1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 ペーター・ゲスナー・後藤 絢子

科目ナンバリング THE2631TA / THE4631TA

学位授与方針との関係 DP④⑤

期間 集中

他専攻 ー

履修条件

演劇専攻芸術科1・2年生、専攻科1・2年生を対象とする。しかし、履修希望者多数の場合は、5つの大学からの選抜メンバーによってワークショップが開催されるという授業の趣旨もあって、優先的に芸術科2年生、専攻科1・2年生の中から選抜をする。

また、5大学の総合での授業ということもあって、そもそも履修できる人数は少数になる。

授業の概要

演劇大学連盟 (桐朋学園芸術短期大学・桜美林大学・日本大学・多摩美術大学・玉川大学) が主催する、共同のサマースクールとしてのワークショップである。8月上旬の集中講義として行う予定である。

ワークショップの内容は、演技・身体系のワークショップと美術・衣装系のワークショップの2つを予定している。

授業の到達目標

自分と同世代の他大学の学生がどのようなレベルでどのような志向を持って学生生活もしくは演劇活動を行っているのか、ワークショップで切磋琢磨をして、今後の自身の社会生活もしくは卒業後の進路等、目標を持った活動ができるようにする。

授業計画

1. イントロダクション
2. ワークショップのレクチャー (桐朋学園において)
3. ワークショップ 1日目 午前
4. ワークショップ 1日目 午後
5. ワークショップ 1日目 午後
6. ワークショップ 1日目 夕方
7. ワークショップ 2日目 午前
8. ワークショップ 2日目 午後
9. ワークショップ 2日目 午後
10. ワークショップ 2日目 夕方

11. ワークショップ 3日目 午前
12. ワークショップ 3日目 午後
13. ワークショップ 3日目 午後
14. ワークショップ・発表 3日目 夕方
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・ 個々への演技指導時の言葉
- ・ グループへの演出指導の言葉

※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

30時間以上の時間外学習をすること。

教科書・参考書等

追って指示する。

成績評価

最終発表50%、授業への貢献度50%で100点に換算。

- S 総合点が90点以上の者 (基本的な諸事項を十分に把握し、発表においても十全にプレゼンスができた)
- A 総合点が80点以上の者 (基本的な諸事項をほぼ把握し、発表等の成果においてもプレゼンスを保てた)
- B 総合点が60点以上の者 (基本的な諸事項の理解に欠け、プレゼンスが曖昧になる)
- C 総合点が50点以上の者 (基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスがあまりできない)
- D 総合点が49点以下の者 (基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスが発揮できない)

科目名 演劇研修

授業形態 実習 (WS)

対象 専演 1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 ペーター・ゲスナー・高橋 宏幸・後藤 絢子

科目ナンバリング THE2600TA / 4600TA

学位授与方針との関係 DP①③

期間 後期集中

他専攻 ー

履修条件

良好な体調を準備して海外での研修に参加できる者。また、事前に複数回の説明会 (授業として、渡航先の文化や芸術についての講義等) を課すが、全ての回に受講できる者。

授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、それぞれの文化圏における俳優訓練等を勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を観たり、美術館・博物館を回り、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外の様々な演劇人と実際に触れ合う機会があるので、聴することなく積極的に参加すること。

昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリーのルーズムーズシアター等で研修している。今年度は、海外での研修を予定しているが、新型コロナウイルスの状況を見て、実施の可否を判断する。

授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見を持って視野を広めることができる。また、様々な人と触れ合うことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修として様々なものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。そのためのテキスト等は用意される。

授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②
5. 事前学習会①
6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①

9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

学生に対する教員からのフィードバック方法

海外渡航先において、最終日にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

訪問する国の文化・環境・演劇等を必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家・演劇等を知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また、帰国後のレポートを書く際に、体験したことを踏まえて、さらに調べること。時間外学習として30時以上は必要となる。

教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲や様々な資料をその都度配布するので、読んでおくこと。

成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合 (およそ33%ずつ) にて総合的に評価する。
- S 上記の①②③の総合点が90点以上の者 (基本的なことを十分に理解し、さらに独自の見解を得ている)
- A 上記の①②③の総合点が80点以上の者 (基本的なことをほぼ理解し、さらに自身の見解を得ている)
- B 上記の①②③の総合点が60点以上の者 (基本的なことの理解に欠け、自身の見解に欠ける)
- C 上記の①②③の総合点が50点以上の者 (基本的なことを理解せず、自身の見解だけがある)
- D 上記の①②③の総合点が49点以下の者 (基本的なことを理解せず、自身の見解がない)

科目名 舞踊論A (クラシックバレエ) I

授業形態 実技 (GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 中農 美保

科目ナンバリング DNC1300TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 ※

履修条件

特になし。
※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエI」「クラシックバレエII」の単位を履修していること。

授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して、下記の事項等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。
・舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイスメント
・あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
・西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
・音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚

授業の到達目標

・それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。
・バレエのアカデミックなムーヴメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

授業計画

1. 姿勢とプレイスメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ
2～5回は
「バーレッスン」プリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グラン・バットマン
「センターレッスン」アダージュ、バットマン・タンジュ、小さいジャンプ、シンヌ
2. 体の使い方①応用
3. 体の使い方②発展
4. 体の使い方③綺麗に魅せる
5. 2～4回のまとめ
- 6～10回は
「バーレッスン」加えてバットマン・フラッペ、バットマン・フォンジュ、デヴロップ
「センターレッスン」加えてグラン・バットマン、アッサンブレ、ピルエット、ピケアダダン

6. 難易度を上げた体の使い方①基本
 7. 難易度を上げた体の使い方②応用
 8. 難易度を上げた体の使い方③発展
 9. 難易度を上げた体の使い方④綺麗に魅せる
 10. 6～9回のまとめ
 11. ジャンプや回転のコンビネーション①基本
 12. ジャンプや回転のコンビネーション②応用
 13. ジャンプや回転のコンビネーション③発展
 14. 試験のアンシェヌマン①
 15. 試験のアンシェヌマン②
- 順序および内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので、練習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

成績評価

授業への取り組み・授業の状況40%、課題に対する成果30%、期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 舞踊論A (クラシックバレエ) II

授業形態 実技 (GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 中農 美保

科目ナンバリング DNC2300TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 ※

履修条件

「舞踊論A (クラシックバレエ) II」の単位を修得していること。

授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して、下記の事項等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。
・舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイスメント
・あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
・西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
・音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚

授業の到達目標

・それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。
・バレエのアカデミックなムーヴメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

授業計画

1. 「舞踊論A I」の復習
2. アレグロ・グランワルツ①基本
3. アレグロ・グランワルツ②体の使い方
4. アレグロ・グランワルツ③応用
5. アレグロ・グランワルツ④綺麗に魅せる
- 6回以降は「フルレッスン」「バリエーション」
6. 体の使い方①基本
7. 体の使い方②応用
8. 体の使い方③発展
9. 体の使い方④綺麗に魅せる
10. 体の使い方⑤音楽に合わせて

11回以降は「フルレッスン」「簡単なパ・ド・ドゥ」

11. 体の使い方①基本
12. 体の使い方②相手への気遣い
13. 体の使い方③応用
14. 試験のアンシェヌマン①
15. 試験のアンシェヌマン②

順序および内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので、練習に努めること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

成績評価

授業への取り組み・授業の状況40%、課題に対する成果30%、期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 舞踊B (コンテンポラリー)

授業形態 実技 (GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 勝倉 寧子

科目ナンバリング DNC1340TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻

履修条件

専攻科1・2年における選択科目。
経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

授業の概要

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端を行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力特徴的。舞台芸術の中でも心とからだの密接な関係を深く実感できる、実に魅力的な身体表現である。

コンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ・モダン・ジャズ・シアター・舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、演劇においても質の高い身体表現を可能にするために大いに有効である。

この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのテクニカルトレーニングを積むことでからだを意志通りにコントロールできる能力を養う。応用ではテーマごとの実践を通して確かな技能、実践に役立つ表現力を身につけていく。

授業の到達目標

- ・コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- ・プロの俳優として通用するからだをつくることができる。
- ・演じる上で、身体を使った感情表現がスムーズに行うことができる。
- ・プロの演出家、振付家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身につけることができる。
- ・自作自演を可能にする創作力・演出力を身につけることができる。
- ・全プログラムを修了することで、協調性・距離感・空間認知能力・プランニング力を高めることができる。

授業計画

【基礎トレーニング】

1. ストレッチ、スウィング&リリース、呼吸法、筋力強化 (インナー、アウトター、体幹)
2. アライメント (姿勢の矯正、正確なポジショニング)、重心移動 (基礎)
3. 重力のコントロール: フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション・動きのリダー・フロアーワーク
4. 基礎テクニック1. ~ 3.の理解度、動きを中間チェック
5. 動きを伴う重心移動: ステップバリエーション、フロアー+ジャンプ&ターン
6. テクニック応用: ダイナミックな3次元空間使用の実践

【応用】

7. フレーズを踊る①舞踊身体表現の実践: まとまった長さの振付を覚える
8. フレーズを踊る②舞台空間の使い方、緩急の配分、他者との関わり
9. フレーズを踊る③感情を伴う表現: 音楽、シチュエーション設定による実践
10. ダンスにおける距離感 (音楽と感情、空間認知)、協調性 (他者との関わり方)
11. 小道具を踊りのパートナーとして用いるプロップダンスの実践
12. プロップダンスによるパフォーマンスの実践: グループごとに発表
13. インプロビゼーション①デットスペース: 他者の作り出す空間を利用したインプロ
14. インプロビゼーション②即興力: 新しい動きの生み出し方、手掛かりとなる手法
15. 授業の振り返り、実技試験 (自作自演) に関する説明

学生に対する教員からのフィードバック方法

作品発表の後に全員を集め個々の作品ごとに講評、最後に総評を行う。

授業時間外の学習

毎回授業で学んだテクニックは、次回の授業までに必ず復習しておくこと。予習課題には積極的に取り組み、次の授業までに準備しておくこと。日頃から創作 (実技試験) の素材となり得る音楽やテーマの情報収集に努めること。舞踊動画等を積極的に観ること。
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古着はシンプルで動きやすいものが望ましい。
基本的にシューズを履かずに行う。素足をカバーするための布製の履物や靴下等は着用可。

成績評価

授業の取り組み60%、課題に対する評価40%とし、総合的に評価する。
S 総合点が90点以上の者 (基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に用いた優れた身体表現を実現することができる)
A 総合点が80点以上の者 (基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体能力を持っている)
B 総合点が60点以上の者 (基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを表現し応用できる身体能力を持っている)
C 総合点が50点以上の者 (基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる)
D 総合点が49点以下の者 (基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない)

科目名 舞踊C (日舞)

授業形態 実技 (GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験

担当教員 藤間 希穂

科目ナンバリング DNC2330TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻

履修条件

1. 「日舞Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、同等のスキルがある、授業進行を遂行できるのいずれかに該当する方。
 2. 稽古着は浴衣を含む和服・足袋着用、舞踊扇子持参の上、参加すること。
 3. 授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。
 4. 授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、髪の色が肩まで届く場合は、必ず結ぶこと。
 5. 授業内に座学と実技があるが、必ず両方参加のこと。
 6. 遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出しにくること。
- ※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「日本舞踊Ⅰ」「日本舞踊Ⅱ」の単位を修得していること。

授業の概要

古典芸能日本舞踊 (藤間流) の実技・知識の習得および創作の作成・発表。
本科で学んだ古典舞踊の基本を元に、歌舞伎所作舞踊として広く知られている「汐汲」「越後獅子」全段を学習する。難解な歌詞とハイレベルな振りに加え、三段傘や手桶、一本歯の下駄、晒、竹等の多彩な小道具を使いこなし情景描写・心理描写を描く。

一方、創作舞踊はテーマを決定し構想、音源作成、振付等を学生自らが発表する専攻科オリジナルメニュー。本科で古典の基礎を学び古典の実力のある方対象のチャレンジメニューでもある。座学はより現場に則した舞台行儀や日本舞踊をより深める知識を学ぶ。

【曲目】

- 立方 (たちかた) : 長唄「越後獅子」
女形 (おんながた) : 長唄「汐汲」
創作 : テーマを決定し構想、音源作成、振付等学生自らが発表する。

授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて、8割以上得点できる。
- ・実技では、課題曲を舞台上で発表できるスキルを身につけることを目標とする。
- ・授業態度では「成果を生む」ことを前提とした行動ができる。
- ・コミュニケーションシートでは全体課題の抽出、課題解決提案を示すことができ、それを実行および言語表現できる。

授業計画

1. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマ設定
2. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成①
3. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成②

4. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成③
5. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作音源選定
6. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作音源編集
7. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付①
8. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付②
9. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付③
10. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付④
11. 長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付⑤
12. 長唄「汐汲」「越後獅子」フォーメーション/創作フォーメーション①
13. 長唄「汐汲」「越後獅子」フォーメーション/創作フォーメーション②
14. 座学/プレテスト長唄「汐汲」「越後獅子」リハーサル/創作リハーサル
15. 座学/テスト長唄「汐汲」「越後獅子」本番/創作本番

※ハイブリッド型授業の場合

座学: オンラインまたはオンデマンド授業

実技: 教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

学生に対する教員からのフィードバック方法

1. 授業内の実技指導時の言葉 (個・全体)
2. Classroomへコメント (グループ)
3. 学習到達度の確認後全体への総評

授業時間外の学習

1. 座学内容の理解を深める復習
 2. 実技課題曲歌詞の理解
 3. 実技課題曲振りの確認
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

成績評価

実技の学習到達度の確認・授業態度 (取り組み) を総合して100点満点にて評価する。(点数配分: 実技試験50%・授業態度50%)
S 総合評価90点以上の者 (学習到達度・授業への取り組みが秀でている者)
A 総合評価80点以上の者 (学習到達度・授業への取り組みが的確な者)
B 総合評価60点以上の者 (学習到達度・授業への取り組みが良好な者)
C 総合評価50点以上の者 (学習到達度・授業への取り組みが不十分な者)
D 総合評価49点以下の者 (学習到達度・授業への取り組みに問題がある者)

科目名 ミュージカル唱法(1)

授業形態 実技(GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 藍澤 幸頼

科目ナンバリング VOM1310TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 前期

他専攻 ー

履修条件

暗譜して授業に出席する。課題の練習に積極的に取り組む。最終段階において、衣装髪型等も含め、工夫を厭わない。遅刻厳禁(芝居の稽古同様)。

授業の概要

- ・オーディションや人々の前で歌を披露することを前提に、ミュージカルナンバーを学ぶ。
- ・多数のミュージカルナンバーを聞いて、役で歌うことを意識し、解釈まで掘り下げる。
- ・自分自身のキャラクター・音域を意識し、役別オーディションにおいて適切な役を選定する知識を身につける。
- ・唱う基礎的な力(体の使い方・呼吸法・発声)を確認する。
- ・1980年以降にブロードウェイ・ウェストエンドで上演されたミュージカルの楽曲を学習する。
- ・期末に発表会を実施し、実技試験とする。

授業の到達目標

自分に合ったミュージカルのスタンダードナンバーを創り、いつでもオーディション等に対応することができる。

授業計画

1. 自分で用意した、短い台詞/歌をひとりずつ披露する
2. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する①
3. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する②
4. 体の使い方・呼吸法・発声を確認する
5. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する①
6. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する②
7. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する③
8. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する④
9. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する①

10. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する②
11. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する③
12. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する④
13. 前期まとめと共にオーディション用紙の記入について学ぶ
14. 公開試験 ゲネプロ
15. 公開試験

※講義内容に関しては、学生個々に応じた教材を与えるため、必ずしも授業計画に沿った学習速度とは限らず、また内容を変更する可能性もある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・課題の暗譜、練習
 - ・映画・舞台・CD・DVD等できるだけ音楽に触れる。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・譜面は自分で用意(応相談)
- ・Richard Walters [THE SINGER'S MUSICAL THEATRE ANTHOLOGY] (HAL・LEONARD)

成績評価

授業への取り組み・態度(積極性、事前準備等)50%、実技試験50%を元に総合的に評価する。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者

科目名 ミュージカル唱法(2)

授業形態 実技(GL)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 ー

担当教員 藍澤 幸頼

科目ナンバリング VOM2310TA

学位授与方針との関係 DP②⑤

期間 後期

他専攻 ー

履修条件

暗譜して授業に出席する。課題の練習に積極的に取り組む。最終段階において、衣装髪型等も含め、工夫を厭わない。遅刻厳禁(芝居の稽古同様)。

授業の概要

- ・オーディションや人々の前で歌を披露することを前提に、ミュージカルナンバーを学ぶ。
- ・多数のミュージカルナンバーを聞いて、役で歌うことを意識し、解釈まで掘り下げる。
- ・自分自身のキャラクター・音域を意識し、役別オーディションにおいて適切な役を選定する知識を身につける。
- ・唱う基礎的な力(体の使い方・呼吸法・発声)を確認する。
- ・舞台上演されたミュージカルの楽曲や映画上演されたミュージカルの楽曲を学習する。
- ・デュエット歌唱についても学習する。
- ・期末に発表会を実施し、実技試験とする。

授業の到達目標

自分に合ったミュージカルのスタンダードナンバーを創り、いつでもオーディション等に対応することができる。

授業計画

1. 自分で用意した、短い台詞/歌をひとりずつ披露する
2. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する①
3. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する②
4. 体の使い方・呼吸法・発声を確認する
5. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する①
6. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する②
7. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する③
8. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する④
9. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する①

10. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する②
11. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する③
12. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する④
13. 前期まとめと共にオーディション用紙の記入について学ぶ
14. 公開試験 ゲネプロ
15. 公開試験

※講義内容に関しては、学生個々に応じた教材を与えるため、必ずしも授業計画に沿った学習速度とは限らず、また内容を変更する可能性もある。

学生に対する教員からのフィードバック方法

授業内発表時にフィードバックを行う。

授業時間外の学習

- ・課題の暗譜、練習
 - ・映画・舞台・CD・DVD等できるだけ音楽に触れる。
- これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

- ・譜面は自分で用意(応相談)
- ・Richard Walters [THE SINGER'S MUSICAL THEATRE ANTHOLOGY] (HAL・LEONARD)

成績評価

授業への取り組み・態度(積極性、事前準備等)50%、実技試験50%を元に総合的に評価する。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者

科目名 英語劇 (1)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 James Sutherland

科目
ナンバリング FLS1100TA学位授与方針
との関係 DP①③

期間 前期

他専攻 —

履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to stage and screen preparation and making in contemporary Europe and America while increasing our English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose-fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

授業の概要

This works proposes a journey through major styles of European and American theatre and film and the discovery of their dynamic and richness. At the heart of the process is the pleasure of play and the freedom of the actor to discover his or her own beauty.

【ギリシャ悲劇 シェイクスピア】

Students will work both individually and in groups to explore movement analysis, the language of movement and an improvisation through the work of the Neutral mask, a tool that helps to serve as a point of departure into any character and helps to make actors authors of space. Actors will also be working with Tragic texts exploring how to unpack the and understand them and performing them in solo. We will take a brief look at comedy, through clowning. Every session starts working with the physical training, before moving onto text. There will be a moment every session for the participants to work on their own and there will be a presentation of the result of their work in the classroom.

授業の到達目標

1. Learning theatre and film vocabulary in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity.
3. Learning more about history and context of actor training in in theatre and film in both America and Europe in English.

授業計画

1. Games Intro exercises. Introduction to the course.
2. Games Neutral Mask, movement qualities. Actor and Text 1.
3. Games Neutral Mask, movement qualities. Actor and Text 2/ Punctuation.

4. Games Neutral Mask, movement qualities. Actor and Text 3/ Syllables.
5. Games Scene work, movement qualities. Actor and Text 4/ Antithesis, Consonants, Alliteration.
6. Games Neutral Mask, movement qualities, Actor and Text 5/ Beats/ Memorization.
7. Games Neutral Mask, movement qualities, Actor and Text 6.
8. PRESENTATION 10 MOVEMENTS OF JACQUES LECOQ
9. Clown exercises intro
10. Clown: words, rhythm and architecture/ Actor and Text 7
11. Clown: Time: literal time and sensual time/ Actor and Text 8
12. Clown: Exercises to reveal literal time.
13. Clown: Understanding characters PRESENTATION THE JOURNEY.
14. Clown work Seeming and being/Tension
15. Clown work: Tension Performance/presentation MONOLOGUE DUE

学生に対する教員からのフィードバック方法

Method of feedback to students will be in regular class verbal feedback both individually and in groups.

授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually.
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

成績評価

S +90 A+80 B+65 C+50 D below 49
Participation 20%
Journey Presentation 25%
10 Movements Presentation 25%
Monologue 30%

科目名 英語劇 (2)

授業形態 演習(理論)

対象 専演
1・2年

単位数 1

実務経験 —

担当教員 James Sutherland

科目
ナンバリング FLS2100TA学位授与方針
との関係 DP①③

期間 後期

他専攻 —

履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to stage and screen preparation and making in contemporary Europe and America while increasing our English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose-fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

授業の概要

This works proposes a journey through major styles of European and American theatre and film and the discovery of their dynamic and richness. At the heart of the process is the pleasure of play and the freedom of the actor to discover his or her own beauty.

【戦闘シーンの撮影】

We will explore the biomechanical work of Russian Theatre director Vsevolod Meyerhold alongside stage combat and fight scenes. We will look at modern film and theatre scenes studies and examples of various kinds of combat on the silver screen. We will also write and build a fight sequence in industry standard Hollywood script format and create a small film, learning about the elements involved in modern film making. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games, and exercises to tackling larger topics, and themes.

授業の到達目標

1. Learning theatre and film vocabulary in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity.
3. Learning more about history and context of actor training in in theatre and film in both America and Europe in English.

授業計画

1. Intro exercises: Introduction to the course.
2. SCENE WORK/ STAGE COMBAT BASICS. BIOMECHANICS.
3. SCENE WORK/ STAGE COMBAT BASICS. BIOMECHANICS.

4. Building a fight sequence. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
5. Choreographing a fight sequence. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
6. SCENE WORK Writing the fight scene. STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
7. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
8. Filming/Bomechanics
9. Filming/Biomechanics
10. Filming/Biomechanics
11. Filming/Biomechanics
12. Editing, first assembly. BIOMECHANICS PRESENTATION
13. Editing/Rough cut. Pick up shots
14. Editing/Final cut
15. Performance/Presentation.

学生に対する教員からのフィードバック方法

Method of feedback to students will be in regular class verbal feedback both individually and in groups.

授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually.
これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

成績評価

S +90 A+80 B+65 C+50 D below 49
Participation 10%
Stage Combat Writing and Choreography 25%
Stage Combat Filming and Editing 20%
Biomechanics Practice 25%
Biomechanics Presentation 20%

科目名 歌唱（個人レッスン）Ⅰ～Ⅱ

授業形態 実技(PL)

対象 専演
1・2年

単位数 Ⅰ～Ⅱ
M～P1

実務経験 ー

担当教員 各担当教員

科目ナンバリング

P.107参照

学位授与方針との関係

DP②⑤

期間 前期・後期

他専攻 ー

履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

授業の到達目標

- ・音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- ・表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる。

授業計画

各講師に委ねられるが、声や歌に関することを学ぶ。身体を使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法等を学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・課題になっている曲への総評をする。
- ・発声についてもアドバイスをする。
- ・全体的な表現への総評。

授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。これらの学修に、Ⅰ～Ⅱは60時間、Ⅲ～Ⅳは30時間以上を要する。

教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上の者
- A 講師の平均が80点以上の者
- B 講師の平均が60点以上の者
- C 講師の平均が50点以上の者
- D 講師の平均が49点以下の者

科目名 劇上演実習A①②

授業形態 実習(上演)

対象 専演1・2年
1・2年(1・2年)

単位数 4

実務経験 〇/ー

担当教員 大谷 賢治郎/三浦 剛 他

科目ナンバリング

THE1700TA
/3700TA

学位授与方針との関係

DP②④⑤

期間 前期集中

他専攻 ー

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。自主上演の場合、劇作・演出・キャスト・スタッフとして、1本の作品を完全上演し、演劇制作の能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることができない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④

10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
 - ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。これらの学習に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B①

授業形態 実習(上演)

対象

専演
1・2年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 ペーター・ゲスナー

科目ナンバリング THE2700TA /4700TA

学位授与方針との関係

DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み

11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉。
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。これらの学修に120時間以上を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B②

授業形態 実習(上演)

対象

専演
1・2年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング THE2700TA /4700TA

学位授与方針との関係

DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み

11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。これらの学修に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習C (専1最終公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専演1年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 越光 照文

科目ナンバリング

THE2701TA

学位授与方針との関係

DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。また、この実習では、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することができるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③

14. 本番

15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に望むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉。
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉。

※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習D (修了公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専演2年

単位数 4

実務経験 —

担当教員 越光 照文

科目ナンバリング

THE4701TA

学位授与方針との関係

DP②④⑤

期間 後期集中

他専攻 —

履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。専攻科修了に必要な単位数を確保した学生のみ受講することができる。

授業の概要

プロの演出家の指導のもと、1本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。学生・スタッフ・演出家を含む座組全体に重大な迷惑をかけることになるので、意思が確認された後で出演を取り下げることはできない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。また、この実習では、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することができるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

修了公演にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②

13. 舞台稽古③

14. 本番

15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に望むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
- ・担当演出からグループへの演出指導の言葉

※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み②課題の成果③表現者としての真摯な姿勢④自らを研鑽する意欲⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習E / F (学外出演)

授業形態 実習(上演)

対象

専演
1・2年

単位数 4

実務経験

—

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング THE2702TA/
THE2703TA

学位授与方針
との関係

DP②④⑤

期間 集中

他専攻

—

履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)等、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合にのみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組にも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任を持って管理すること。むしろ安易な参加は控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないが、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生と例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないので、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。様々な現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
14. 本番 あるいは撮影
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉。
 - ・担当演出からグループへの演出指導の言葉。
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備すること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
 - ②課題の成果
 - ③表現者としての真摯な姿勢
 - ④自らを研鑽する意欲
 - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習G / H (学内出演)

授業形態 実習(上演)

対象

専演
1・2年

単位数 1

実務経験

—

担当教員 三浦 剛

科目ナンバリング THE2704TA/
THE2705TA

学位授与方針
との関係

DP②④⑤

期間 集中

他専攻

—

履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)等、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

授業の概要

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)への出演者としての参加。ただし、出演依頼を授業担当教員から受けた場合に限る。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組にも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任を持って管理すること。むしろ安易な参加は控えること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度を上げることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

授業の到達目標

様々な実習・演習に出演者として参加し、様々な関係者・出演者・スタッフと協調し、協力する態度を可能にする表現力を養う。本番の出演者としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能・心構え・現場での対応力を獲得することができる。

授業計画

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)に出演者として参加し、協調し、協力するプロセスを通じて表現力を養う。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④

10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・担当演出から個々への演技指導時の言葉
 - ・担当演出からグループへの演出指導の言葉
- ※演技指導・演出指導に関しては、各自で台本にメモすることが望ましい。

授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回ミーティングで何が合意されたか記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備すること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なダメ出しを毎回事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

これらの学修に120時間程度を要する。

教科書・参考書等

特になし。

成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
 - ②課題の成果
 - ③表現者としての真摯な姿勢
 - ④自らを研鑽する意欲
 - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
A 総合点が80点以上の者
B 総合点が60点以上の者
C 総合点が50点以上の者
D 総合点が49点以下の者

科目名 修了論文(1) / (2)

授業形態 講義

対象 専演
1・2年

単位数 2・2

実務経験 ー

担当教員 高橋 宏幸

科目ナンバリング THE1004TA
/2003TA

学位授与方針との関係 DP①②⑤

期間 前期・後期

他専攻 ー

履修条件

修了論文を書く、もしくは書きたいと考えている者は、専攻科1年生の前期のうちに相談すること。

- 13. 注の付け方
- 14. まとめ①
- 15. まとめ②

授業の概要

修了論文を提出するための授業となるので、毎週1度、話し合っ自分の書きたいテーマを決めて、2年間の指導を受けながら論文を書き、提出する。週に1度都合の良い時間を決めて、個別に相談をする。修了論文をもってして、学位申請を考えている学生は、提出締切・口頭試問の日程を確認すること。

学生に対する教員からのフィードバック方法

口頭試問がフィードバックとなる。

授業の到達目標

- ・4年間の成果として、1つの論文によって深く洞察された研究テーマを基とした論文を書くことができる。
- ・今後の社会生活における内省や活動をする際の礎となるものとして、または演劇活動をするための試金石となるものを書くことができる。

授業時間外の学習

毎週、必ず少しずつ書いてくることが求められる。前提としては、半年間で60時間以上の時間外学習は必要とされるが、むしろ、自身で書いていく中で、週に1度進捗状況を確認するので、時間外学習の比重は大きい。

授業計画

1. テーマについて
2. テーマとは何か
3. 批評的視点としてのテーマ
4. 書き出してみる
5. 第1章①
6. 第1章②
7. 第1章③
8. 第2章①
9. 第2章②
10. 第2章③
11. 第3章～
12. 参考文献

教科書・参考書等

それぞれのテーマに合わせて、適時推薦する文献を読む。

成績評価

卒業論文の評価100%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、明瞭に説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が曖昧になる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

Toho Gakuen College of Drama and Music

教職科目

科目名 音楽科教育法

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 伊藤 誠

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 後期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- 教材研究を通して、音楽科教師になるための指導力・実践力を養うと共に、「表現」と「鑑賞」の両領域の関連性、および指導に生かす評価を充実させることの重要性について、学習指導案の書式（作成の仕方）と合わせて色々な角度から学ぶ。
- 音楽系部活動にとって、文化的・体育的・儀式的行事で発表する機会が多い。生徒同士が協力して活動に取り組むための環境づくりと、目標に向かって努力するプロセスの大切さについて学ぶ。

授業の到達目標

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業のあり方について理解できる。
- 音楽科における「音楽的な見方・考え方」について、自分自身の考えを持つことができる。
- 自らの音楽的知識・経験をベースに、教育者にとって必要な実践力やコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画

- 中等教育における音楽科が担うべき役割
- [共通事項]を生かした教材研究／学校教育における部活動の意義
- 学習指導計画①中学校教科書の分析を通して
- 学習指導計画②学習指導案について
- 歌唱指導における教材研究
- 器楽教育の実践と指導<リコーダーについて>
- 鑑賞指導の留意点～教材研究（その1）
- 鑑賞指導の留意点～教材研究（その2）
- 創作指導の実際<コード進行を踏まえて>
- 弦楽器を体験しよう①音の出る仕組み
- 弦楽器を体験しよう②ヴァイオリンの歴史
- 弦楽器を体験しよう③アンサンブルの楽しみ
- わが国の音楽教育史～学習指導要領の歴史的変遷を辿る
- 日本の伝統音楽の特徴～西洋音楽との相違点から考える

15. まとめと振り返り<自己評価により学習到達度を確認する>

学生に対する教員からのフィードバック方法

受講者には必ず「模擬授業」を体験してもらう。その授業実践を通して得た反省点（自己評価や相対評価）を踏まえて、より良い授業を目指すための方策について具体的な指導を行う。

授業時間外の学習

- 与えられた課題（教材研究や学習指導案の作成等）の予習を行うこと。
 - 毎回、前時の振り返りをもとに本時の見通しを持つ授業を行うため、復習を心がけること。
- 上記2項目の学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 以下の7冊を必ず購入すること。
- 中等科音楽教育研究会編「改訂版 最新中等科音楽教育法」（音楽之友社）
- 中学校音楽の教科書（以下3冊ずつ＝計6冊）
「中学生の音楽」1／2・3上／2・3下（教育芸術社）
「音楽のおくりもの」1／2・3上／2・3下（教育出版）

成績評価

授業への積極的姿勢40%、模擬授業30%、レポート30%、それぞれの配分から評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分理解し、課題への取り組みも的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を理解し、課題への取り組みも的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解および課題の取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解および課題の取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（受講態度に問題がある者、かつレポートが未提出だった者）

科目名 教育史概説

授業形態

講義

対象 教職2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 宮城 哲

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 前期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- 広義には、人類の歴史と共に古いとも言える「教育」という営為について、その理念や制度等の歴史的な変化を概観し、教育について歴史的に考える上で必要な基礎的知識を得ることを目指す。
- 具体的には、西洋と日本の近代以降の教育の流れを中心に（近代以前の教育も簡単に確認する【授業計画】2）、それらの理念や制度の変化を歴史的に概観し（【授業計画】3～9）、また、現代的な課題についても、その歴史的な経緯を踏まえながら考えてもらう（【授業計画】10～14）。視聴覚資料をはじめ様々な史・資料等に触れ、教育を具体的に考える基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

授業で扱った史・資料等を理解し、教育史についての基礎的知識・教育の基本的概念を習得し、その知識を活かして現代の教育の課題を考える上で役立てることができるようになること。

授業計画

- はじめに：教師（教職）の社会史から
- 近代以前の教育：西洋と日本
- 近代の教育の理念：子どもの発見（ルソー「エミール」等）
- 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大①：西洋（産業革命から子どもの世紀へ）
- 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大②：日本①（福澤諭吉「学問のすゝめ」と学制）
- 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大③：日本②（教育勅語体制の成立と展開）
- 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大④：日本③（大正デモクラシー～戦時下の学校・教育）
- 戦後の教育改革の理念と制度
- 経済成長と教育～現代の教育へ
- 現代の教育とその課題①不登校
- 現代の教育とその課題②学力
- 現代の教育とその課題③いじめ
- 現代の教育とその課題④体罰
- 現代の教育とその課題⑤共生（シティズンシップ教育）
- まとめ：卒業式ソングの今・昔から

学生に対する教員からのフィードバック方法

毎回の授業の最後に提出してもらうリアクションペーパーに対するフィードバックを、次の授業の冒頭（振り返り）で行う。

授業時間外の学習

授業で資料等を配布し、合わせて参考文献等も提示するので、それらを参考にそれぞれのテーマに関する文献を授業後に読むことを期待する。私たちは過去のことを知るためだけでなく、現代の教育の課題について深く考えるためにも教育史を学ぶ。そのため授業外の時間にも、常に教育に関わることに興味を持ってもらいたい。ニュースや新聞等時事的な話題や映画や文学作品等の中にあられる「教育」にも普段から関心を向けること。

これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- [教科書] 特になし（授業でレジュメ、資料等を配布する）。
- [参考書]
森川輝紀・小玉重夫編「教育史入門」（放送大学教育振興会）2012年
斉藤利彦・佐藤学編「新版 近現代教育史」（学文社）2016年
片桐芳雄・木村元編「教育から見る日本の社会と歴史（第2版）」（八千代出版）2017年
若下誠他「問いからはじめる教育史」（有斐閣）2020年

成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%、学期末課題70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みも的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みがほぼ良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 教師論

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 風見 章

科目
ナンバリング学位授与方針
との関係

期間 後期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- ・学校で日常的に行われている具体的な職務活動を、教育関連法規の視点で見ることを通して、どのような課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
- ・学校現場における今日的な課題への対応については、グループワークにおける協働的な学びを行う。また、そこから得られた対話的な学びを通して学習効果の伸長を図る。
- ・教育者としての資質とどのように高めるか職務内容を学び、理想とする教師像に迫るために、教えることの意味と実務について事例を元に学習する。

授業の到達目標

- ・教師の意義：我が国における現在の学校教育や教師の社会的意義を理解することができる。
- ・教師の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。
- ・教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。
- ・チーム学校への対応：学校が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家や関係機関と連携・役割分担を行う必要性について理解することができる。

授業計画

1. ガイダンス：本講座の進め方、評価についての説明、学習到達目標等について理解する。
2. 公教育の目標と教員の存在意義（教育に対する使命感と豊かな人間性）
3. 教師の資格と教員養成について理解する。
4. 学校と教職の歴史：学校教育と教職の歴史を理解する。
5. 教員に求められる資質能力について①今日の教員に求められる基礎的な資質能力について理解する。
6. 教師の教育活動①授業とは。教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。
7. 教師の教育活動②学級担任として。学級担任と学級経営。学級集団作りについての理解。
8. 学校組織と教師の種類：学校に必要な教員の役割と職務についての理解。学校運営と校務分掌。

9. 教師に求められる資質能力について②教師としての資質向上と研修。教員研修の意義と研修体制。
10. 教師に求められる資質能力について③近代学校の誕生と教員養成制度の変遷とその特徴を理解する。
11. 教師の服務義務について①公立学校教員の服務義務を理解する。
12. 教師の服務義務について②地方公務員法等に定められる「服務上の義務」を理解する。
13. 教師の服務義務について③地方公務員法等に定められる「身分上の義務」を理解する。
14. チーム学校への対応 ・教育実習までに身につけておくべきこと
15. 教師への進路 教員採用制度の理解。まとめと振り返り
試験期間にまとめ試験を実施する。

学生に対する教員からのフィードバック方法

次の授業で、レポートの振り返りや講評を行う。

授業時間外の学習

各回の授業内容・課題を復習し、授業内容の理解を深めると共に、次回授業の課題も確認し事前学習を行う。
なお、これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業資料：各回の授業で授業概要説明資料、ならびにまとめ課題レポートを適宜を配布する。

成績評価

- レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー10%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 教育原理

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 木村 康彦

科目
ナンバリング学位授与方針
との関係

期間 後期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

本授業は、公教育の理念、原理、歴史および現行制度の枠組みを軸として踏まえながら、現代社会で教育が果たしている役割を考察するために必要な基礎的な理解を得ることを目的とするものである。「公教育や学校とは何か」という根源的な問いに始まり、現在も進められている様々な教育改革、不登校やいじめ等の深刻な教育課題、学校教育以外の幅広い教育機会の方向性、地域社会等との連携・協働や学校安全対応について、社会的・制度的側面から取り上げながら、考察を深めていく。特に、現代の社会変動がもたらしている複雑な教育課題については、具体的な政策や取り組み事例を参照しながら検討する。

なお、授業は基本的に講義形式で進めていくが、コメントシートを毎回配付して小レポートを課し、授業の理解度を確認すると共に、受講者と担当教員との間で双方向的にやり取りをしながら、授業を作り上げていく。また、授業中に数回程度、映像資料を活用する。

授業の到達目標

学校教育の専門家として必要な知識と教養を総合的に身につけ、教育と関わる事象を客観的に自らの力で判断することができるようになること。また、地域社会との連携や学校安全対応を含めた公教育を巡る様々な教育課題を理解して、社会的・制度的側面から自分なりの答えを理論的に導き出せること。

授業計画

1. オリエンテーション：公教育の原理と思想背景
2. 学校の歴史①前近代の学校とその理念
3. 学校の歴史②近代公教育制度の成立と意義
4. 学校の歴史③学校教育制度の確立と戦後教育改革
5. 教育法規と教育行政：教育法体系と中央・地方教育行政の仕組み
6. 教育課程と教育評価：学習指導要領の変遷/成績評価と学校評価
7. 諸外国の教育制度と教育改革：各国の教育制度と国際学力試験
8. 現代社会の教育課題：不登校/いじめ/校内暴力

9. 社会変動と教育：選抜と競争/子どもたちの貧困
10. 生徒理解と教育支援：特別支援教育/発達障害/性的マイノリティへの対応
11. 学校外の教育活動：フリースクール/生涯学習/社会教育/家庭学習等
12. 教育ガバナンスの動態：地域社会やNPO法人等との連携・協働と開かれた学校づくり
13. 学校運営と学級経営：校務分掌と校則/懲戒/体罰
14. 学校安全と危機管理：学校事故と災害対策に向けた安全教育
15. これからの教育 まとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

課題への個別のフィードバックを、教職課程履修カルテにコメントする形で行う。

授業時間外の学習

普段から、「教育」や「学校」に関する新聞記事やニュースに触れておくこと。授業内に、関心のある最新の教育動向を話題として取り上げてもらう場合もある。また、参考書や授業内で配布したプリントを見返して、復習に努めること。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：特に指定しない。必要に応じて、資料をプリントで配付する。
参考書：汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治編著「よくわかる教育原理」（ミネルヴァ書房 2011年）
島田和幸・高宮正貴編著「教育原理」（ミネルヴァ書房 2018年）

成績評価

授業中の取り組み20点、小レポート30点、期末レポート50点で点数化し、S（90点以上）、A（80～89点）、B（60～79点）、C（50～59点）、D（49点以下）の5段階で評価する。ただし、正当な理由なく出席日数が授業時数の3分の2に満たない場合は、評価の対象としない。

科目名 教育心理学

授業形態 講義

対象 教職2年

単位数 2

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 鈴木 敦子

科目
ナンバリング ー

学位授与方針
との関係 ー

期間 前期

他専攻 ー

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

子ども、生徒に何かを教える際、教える側は「教えた」のだからそれが正しく相手に伝わっているはずだと思いがちになる。相手が教えたことをできないのは相手がちゃんと聞いていなかったか、理解する努力が足りなかったためだと主張したくなる。しかし、実は教える側と教えられる側の間にはそれぞれの常識では考えられないような理解がなされている。「教える」ことは教える内容が充実してさえすればいいわけではなく、相手の理解プロセスも考慮する必要がある。

本授業ではこの点を踏まえ、心理学的に探究する。

授業の到達目標

中等教育まで受けてきた授業で、自分が理解しやすかったもの、あるいは理解しにくかったもの、それがなぜなのか解明する手がかりをつかむことができる。いくらかでもその「謎」がわかれば、教える立場に立つ時に自信が持てると思われる。

授業計画

1. オリエンテーション：乳幼児に関するプリントの記入と説明
2. 発達①生得性と学習 赤ちゃんDVD
3. 発達②生得性と学習
4. 発達③ピアジェの発達課題
5. 発達④誤信念課題
6. 教授①何が学習か
7. 教授②計算のバグ
8. 教授③文章問題のバグ
9. 教授④見ればわかるか
10. 教授⑤見ればできるか
11. 教授⑥情報処理アプローチ 地球は丸い？

12. 発達障害①読字障害
13. 発達障害②自閉症スペクトラム児の学習
14. 発達障害③自閉症スペクトラムの世界
15. 授業の総括

学生に対する教員からのフィードバック方法

リアクションペーパーのフィードバックを、次の授業中に行う。

授業時間外の学習

新聞等で「授業」「学習」「心理」等の項目を注意深く読むこと。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

授業時にその都度プリント等を配布する。

成績評価

授業への取り組み・受講態度50%、試験・レポート50%

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、試験未受験者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 特別支援教育入門

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 桑山 一也

科目
ナンバリング ー

学位授与方針
との関係 ー

期間 後期

他専攻 ー

○

履修条件

教職課程受講者必修科目。

授業の概要

本授業では、特別支援教育の基礎を習得し、教育現場において特別なニーズを有する生徒に遭遇した時に、適切に対応できるようになることを目標とし、講義を実施する。具体的には、特別支援教育の意義と歴史等（第1・2回）、対象者別の教育の理解と支援（第3～13回）、通常の教育場面での配慮と支援（第14・15回）について学んでいく。

授業の到達目標

- ・障害等の理由により特別の支援を必要とする生徒の学習上または生活上の困難を理解できる。
- ・個別の教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に支援する方法が理解できる。
- ・上記の理解を踏まえ、教育者として自らの在り方を考察できる。

授業計画

1. ガイダンス 特別支援教育の意義
2. 特別支援教育の歴史 インクルーシブ教育システム
3. 視覚障害教育の理解と支援
4. 社会との接点（全国盲学校弁論大会）
5. 聴覚障害教育の理解と支援
6. 知覚障害教育の理解と支援
7. 肢体不自由教育の理解と支援
8. 病弱教育の理解と支援
9. 重複障害教育の理解と支援
10. 言語障害教育の理解と支援
11. 自閉症・情緒障害教育の理解と支援
12. 学習障害・注意欠陥多動性障害の理解と支援
13. 発達障害教育のまとめ 社会との接点
14. 通常の学級における特別支援教育

15. 障害はないが配慮が必要な教育

学生に対する教員からのフィードバック方法

学生からの提出課題のフィードバックを、次の授業中に行う。

授業時間外の学習

教科書および参考図書等の該当箇所について、予習・復習をしておくこと。これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：宮崎英憲監修・全国特別支援学校長会編著「特別支援教育のすべてがわかる「教員を目指すあなたへ」」（ジアース教育新社）

参考書：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「障害のある子供の教育支援の手引き—子供達一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて—」（ホームページ参照）

成績評価

- 受講態度40%と試験等の結果60%を合わせて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分理解し、教育者としての自らの在り方を的確に考察できている者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容を一定以上理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・考察が不十分である者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容の理解・考察が著しく不十分である者）

科目名 教育課程論及び教育方法論

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 風見 章

科目
ナンバリング

—

学位授与方針
との関係

—

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- ・学校教育の目的・目標・指導方法等について総合的に編成した教育計画、「教育課程」の役割・機能・意義について学ぶ。
- ・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や受容性について学ぶ。
- ・学習指導要領に示された内容について理解を深め、実践的指導能力を身につけることを主題とする。

授業の到達目標

- ・教育課程の基本概念・意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
- ・戦後の学習指導要領の改訂を、時代の変化と照らし合わせて説明できる。
- ・教育課程の基本的な編成方法を、教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
- ・求められる資質・能力を育むための教育の方法・技術・情報メディアと教材の活用ができる。
- ・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解できる。

授業計画

1. シラバスを用いたガイダンス：本講座の進め方・評価についての説明・到達目標等について理解する
2. 教育課程に関する法律について
3. 学習指導要領①学習指導要領の変遷と教育課程について
4. 学習指導要領②改訂の基本方針と教育課程編成上の一般方針について
5. 学習指導要領③内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について

6. 教育課程の編成 教育委員会と教育課程編成について
7. 教育方法とICT 学校教育とICTの効果的活用
8. 教育方法とICT ICTを活用した学習指導の実際 最終のまとめ、課題レポート

学生に対する教員からのフィードバック方法

次の授業でレポートの振り返りや講評を行う。

授業時間外の学習

毎時の授業の復習・予習を行い授業内容の理解を深め、次回授業の課題確認により事前学習を行う。
なお、これらの学修に30時間以上を要す。

教科書・参考書等

テキスト：「中学校学習指導要領解説 総則編」（平成30年文部科学省）
参考書：適宜資料を配布する。

成績評価

- レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー10%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点90点以上の者（観点全てにおいて際だった成果を見せる）
- A 総合点80点以上の者（講義内容に対する自己の考えを積極的かつ意欲的に表現できる姿勢が見られる。各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- B 総合点60点以上の者（授業への理解を示す姿勢が見られると共に、講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- C 総合点50点以上の者（各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- D 総合点49点以下の者（上記の条件を満たしていない）

科目名 道徳教育の理論と方法

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 風見 章

科目
ナンバリング

—

学位授与方針
との関係

—

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル）解決に向けて、講義形式の理論的な授業のみならず、グループワークや指導資料の作成という演習的等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を実施する。また、「特別の教科道徳」の授業力育成を目指し、学習指導案の作成・模擬授業を行う。

授業の到達目標

- ・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
- ・生徒の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
- ・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が実施できる。

授業計画

1. シラバスを用いたガイダンス：教育関連法規（教育基本法、学校教育法、学習指導要領等）と道徳の関連について
2. 学習指導要領「特別の教科道徳編」による道徳教育の意義と重要性
3. 現在の道徳教育の現状と課題を考える（公立中学校の実態と課題）
4. 「特別の教科道徳」の役割と年間指導計画および指導の基本方針と学習指導過程について
5. ・「特別の教科道徳」における効果的な教材の活用と役割について
・学習指導案の内容と多様な指導法について（主体的対話的で深い学びの視点）
6. 「特別の教科道徳」の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性および学習指導過程）の作成
7. 模擬授業実践における視点と授業評価について

8. 「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育について 講座のまとめ

学生に対する教員からのフィードバック方法

次の授業でレポートの振り返りや講評を行う。

授業時間外の学習

「道徳性」は日常生活におけるすべての場面で心がけていなくてはならない。そこで社会で起こる事実や発生する事象に対する視野・視点を持ち、常に「道徳的な考え」を保持する。また、「道徳教材として活用できるか」という視点を持って身のまわりの情報を見るようにする。
なお、これらの学修に60時間以上を要す。

教科書・参考書等

「中学校学習指導要領解説—特別の教科道徳編—」（文部科学省平成29年告示）
その他の資料は授業で配布するものを使用する。

成績評価

- レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー10%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点90点以上の者（観点全てにおいて際だった成果を見せる）
- A 総合点80点以上の者（講義内容に対する自己の考えを積極的かつ意欲的に表現できる姿勢が見られる。各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- B 総合点60点以上の者（授業への理解を示す姿勢が見られると共に、講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- C 総合点50点以上の者（各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- D 総合点が49点以下の者（上記の条件を満たしていない）

科目名 総合的な学習の時間の指導法

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 風見 章

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 前期集中

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- ・総合的な学習の時間の目標や年間指導計画作成の考え方、単元計画の作成等について、グループで検討しながら理解を深めていく。
- ・グループごとに単元計画を作成し、主体的・対話的で深い学びが実現できる探求的な学習の指導と評価の在り方を身につけるようにする。

授業の到達目標

1. 当該科目の目標および内容
 - (1)総合的な学習の時間の意義や各学校において目標を定める際の考え方を理解することができる。
 - (2)総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につけることができる。
 - (3)総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。
2. 当該科目の指導方法と授業設計
 - (1)総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割、育成する資質能力等をテキストや具体的事例をもとにして理解できるようにする。
 - (2)他教科等との関連を図った年間指導計画作成の考え方や主体的・対話的で深い学びの実現を図る。探究的な学習の進め方について、具体的な事例を通して、理解できるようにする。
 - (3)グループごとの単元計画の作成・考察を通して、指導と評価の考え方を身につけるようにする。

授業計画

1. ガイダンス：本講座の目標や内容、授業の進め方や評価の仕方等について
2. 総合的な学習の時間の意義や目標設定の考え方を理解する。
3. 各学校で目標および内容を定める際の留意点を理解する。
4. 各教科等との関連を図った年間指導計画の具体的事例を検討する。
5. 各教科等との関連を図った年間指導計画の作成の考え方を理解する。
6. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、単元計画の事例を検討する。

7. 単元計画作成の考え方や配慮事項を理解する。
8. 主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習過程を検討する。最終のまとめと試験。

学生に対する教員からのフィードバック方法

次の授業で、レポートの振り返りや講評を行う。

授業時間外の学習

- ・毎時の授業内容を復習・予習することによって、内容の理解を深める。
 - ・グループで作成する単元指導計画について主体的・対話的に協議し、内容の理解を深め、深い学びができるようにする。
- なお、これらの学修に30時間以上を要す。

教科書・参考書等

テキスト：「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（平成30年文部科学省）
参考書：適宜資料を配布する。

成績評価

- レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー10%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点90点以上の者（以下のAの観点全てにおいて際だった成果を見せる）
- A 総合点80点以上の者（講義内容に対する自己の考えを積極的かつ意欲的に表現できる姿勢が見られる。各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- B 総合点60点以上の者（授業への理解を示す姿勢が見られると共に、講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- C 総合点50点以上の者（各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- D 総合点49点以下の者（上記の条件を満たしていない）

科目名 特別活動の指導法

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 1

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 風見 章

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 後期集中

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- ・特別活動の目標や年間指導計画作成の考え方、単元計画の作成等について、学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導につなげていく。
- ・授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせ、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

授業の到達目標

1. 当該科目の目標および内容
 - (1)特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、より良い集団や学校生活を目指して様々行われる活動内容が理解できる。
 - (2)特別活動の内容である学級活動、生徒会活動、学校行事における話し合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようにする。
 - (3)総合的な学習の時間の指導法との違いを明確に理解し、その二つを有機的に作用させ、「生きる力」の育成を効果的に指導できるようにする。
2. 当該科目の指導方法と授業設計
 - (1)特別活動の意義と教育課程における役割、育成する資質能力等をテキストや具体的事例をもとにして理解できるようにする。
 - (2)総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画作成の考え方を通して、「主体的・対話的で深い学び」や「生きる力」の実現を図る。
 - (3)グループごとの単元計画の作成・考察を通して、指導と評価の考え方を身につけるようにする。

授業計画

1. ガイダンス：特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違いについて
2. 「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の3つの視点から見た特別活動の意義の理解
3. 特別活動の目標と内容：学級活動、生徒会活動、学校行事の「チームとしての学校」の視点から見た内容と目標の理解

4. 特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置付け（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5. 学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6. 生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7. 特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8. 総合的な学習の時間との相違点を理解し、横断的な指導法を考える。最終のまとめと試験

学生に対する教員からのフィードバック方法

次の授業で、レポートの振り返りや講評を行う。

授業時間外の学習

- ・毎時の授業内容を復習・予習することによって、内容の理解を深める。
 - ・グループで作成する単元指導計画について主体的・対話的に協議し、内容の理解を深め、深い学びができるようにする。
- なお、これらの学修に30時間以上を要する。

教科書・参考書等

教科書：「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年告示 文部科学省）
参考書：適宜資料を配布する。

成績評価

- レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー10%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点90点以上の者（以下のAの観点全てにおいて際だった成果を見せる）
- A 総合点80点以上の者（講義内容に対する自己の考えを積極的かつ意欲的に表現できる姿勢が見られる。各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- B 総合点60点以上の者（授業への理解を示す姿勢が見られると共に、講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- C 総合点50点以上の者（各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している）
- D 総合点49点以下の者（上記の条件を満たしていない）

科目名 生徒指導（進路指導含む）

授業形態

講義

対象 教職1年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 安富 由美子

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 後期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

生徒指導に必要な、適性や偏差値の基礎知識をもとに、教師としての取り組み姿勢を検討する。また、学級運営や生活指導、保護者との関わりについても検討する。

授業の到達目標

指導のあり方について、教職課程で学んだことを基礎として、自分なりの取り組み姿勢を構築する意志を持つこと。

授業計画

1. オリエンテーション：授業計画・受講で求められる姿勢について説明する。
2. 人間関係と問題解決①交流分析によるコミュニケーション・スタイル：教師・生徒それぞれの人間関係のあり方について考える視点を養う。
3. 人間関係と問題解決②円滑なコミュニケーション：意志のすれ違いが発生した際の取り組みについて考える。
4. 人間関係と問題解決③発達に応じた指導と学級運営について、心理学の知識を参考に検討する。
5. 進学指導と偏差値：偏差値の意味を理解し、生徒の志望を尊重した指導について考える。
6. 職業選択と適性①：適性検査として利用される内田クレペリン検査を体験し、進路適性や行動特性をいかに進路選択に生かすか、検討する基礎力を養う。
7. 職業選択と適性②：就職希望・進学希望の双方に重要な、適性と本人の希望をいかに捉え、指導するかについて考える。
8. アサーション・トレーニング①アサーション権と非合理的思い込み：精神衛生の観点から教師自身、また生徒のアサーションについて考える。
9. アサーション・トレーニング②DESC法：アサーティブな態度について理解を深め、生徒指導に生かすことを検討する。
10. 集団の意志決定：個々の価値観による判断の食い違いを、いかに集団の決定として統合するか、演習体験を通して検討する。
11. 体罰問題と部活：①生活指導や部活でしばしば問題視される体罰と暴力について考察する。②部活の顧問や指導について考察する。
12. 心因による障害：心理・社会的な原因による適応問題の構造・指導の見通しのつけ方について理解する。

13. 器質因、内因による障害：専門性の高い適応上の問題について理解し、指導上の適切な判断の仕方について理解する。
14. 情緒障害の子供と教師：ビデオ利用により、情緒障害の具体的な行動特徴をつかみ、対応のヒントを得る。
15. 安全管理：学習環境における生徒の安全確保について、多動への対応も絡めて考察する。

学生に対する教員からのフィードバック方法

Googleclassroomを使って、メールやストリームから行う。

授業時間外の学習

自分の目標とする教師像や人間像を実現することを念頭に、授業で扱ったテーマについて、自分の考えを可能な限り具体的にノート等に記してみよう。実践には多少の補習が必要になるかもしれない。ただ頭の中で考えるだけでなく、文章に表わすことにより、追究の曖昧な部分が明らかになるので、更に具体的に考える習慣を身につける助けとなるであろう。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：江川政成編著、「教育相談—その理論と方法—」（学芸図書）
平木典子「アサーション・トレーニング」（日本・精神技術研究所）
※教科書は特に定めない。参考書は上記以外にも適宜紹介する。

成績評価

期末の論述試験と受講態度による。論述試験の評価をS:100点A:90点B:80点C:70点D:50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。
S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識を持って実践的に考察できる。
A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。
B 授業で扱ったテーマについて十分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。
C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。
D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 教育相談

授業形態

講義

対象 教職2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 安富 由美子

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 前期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

生徒と関わる上で重要な要件である教育相談の役割を理解する。事例を通して教育相談に必要な知識と技術を身につける。講義と共に演習が加わるため、積極的に参加する意志が求められる。

授業の到達目標

自身の人間観を深めると共に、教育相談の実践力につながる基礎力を身につけることができる。

授業計画

1. オリエンテーション：授業計画・求められる学習姿勢について説明する。
2. 来談者中心療法と聴く技術について理解する。
3. 発達過程と様々な適応問題との関係について考察する。
4. ロールプレイ：教師役、生徒役を演じて教育相談での即応性を養う。
5. ノンバーバル・コミュニケーション①コミュニケーションにおける役割：ノンバーバル行動の影響について理解し、コミュニケーションへの生かし方について考える。
6. ノンバーバル・コミュニケーション②演習：事例における問題点と解決策の検討。
7. 保護者との関係①事例から保護者との信頼関係の構築をはじめとした教師の課題について考える。
8. 保護者との関係②ロールプレイ：教師役、保護者役を演じながら、現場での対応の基礎力を養う。
9. イギリスの学校改革に学ぶ：ビデオ利用：劣悪とも言える学校環境が改革された過程について視聴し、自分の現場でどのように応用できるかについて考える。
10. 教師の精神衛生：自身の精神衛生管理と同僚への配慮について考察する。
11. インターネットの影響およびいじめ：一例一例が異なる現場での対応力を養うために、まずは事例を挙げながら生徒支援について検討する。
12. ネット環境と教育：インターネットをツールとして生かしながら、人間関係を構築するための学びを模索する。
13. 実習での課題：実習を済ませた受講生の報告から、更に改善するためにできることについて検討し合う。
14. 課外活動の意義と留意点：普段と異なる環境で学習する際の特徴を多

角的に捉え、環境を生かした安全な学習計画が立てられる検討力を養う。

15. 補足と自由討論

学生に対する教員からのフィードバック方法

Googleclassroomを使って、メールやストリームから行う。

授業時間外の学習

心理学概論や精神医学も理解の助けになる。また、普段から学校関連のニュースに注目し、自分が当事者や関係者だったら、どんな対応ができるか考察する習慣をつけると、実践力を鍛えることになろう。これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

参考書：江川政成編著「教育相談—その理論と方法—」（学芸図書）
春木豊編著「心理臨床のノンバーバル・コミュニケーション」（川島書店）
山下格「精神医学ハンドブック」（日本評論社）
レニエ他「インタープリテーション入門」（小学館）
※教科書は特に定めない。参考書は上記の他にも適宜紹介する。

成績評価

期末の論述試験と受講態度による。論述試験の評価をS:100点A:90点B:80点C:70点D:50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。
S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識を持って実践的に考察できる。
A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。
B 授業で扱ったテーマについて十分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。
C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。
D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 ICT活用による教育の方法・技術

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 狩野 浩二

科目
ナンバリング ー

学位授与方針
との関係 ー

期間 後期

他専攻 ー

○

履修条件

教職課程受講者必修。

授業の概要

- ・教育に関する方法や技術について、実際の授業を想定しながら考察する。特に、ICTの活用を通して、ひとりひとりの生徒にとって最も必要となる学習活動の成立と共に、協働的に学び合う学習形態の工夫に関する指導場面を具体的に考察する。
- ・教育は、社会全体形成に関わる領域である。この講義では、情報通信技術の開発と向上を含んだ社会の変化を幅広く捉えつつ、学校教育における教育活動の成立に迫る。
- ・将来教師として、学校に勤務することを想定しながら、実際の生徒との関係を考察する。特にこれからの時代において必要となる情報モラルの指導と共に教師としてICTを活用した教育活動および、校務分掌の実務が展開できる力を養う。
- ・教員として最小限必要となる資質能力の育成として、グループ(チーム)によるテキスト(大学教科書)のクリティック(批評)と、問題提起、討論等、ゼミナール形式の授業展開を組織する力を養う。

授業の到達目標

- ・教師として、生徒たちの学習を組織することについての理解を深める。その際、生徒が個として最も適切な学習をすることと同時に、仲間と共に協力し合いながら集団として学ぶことの意味を理解する。
- ・学校教育における授業において、生徒の思考活動をつくることについて理解する。考えるためには、認識と表現の円環的な関係づくりが必要であることを理解し、ICTの活用を通して児童生徒の学習活動を成立させる手法を理解する。
- ・教師として教材を解釈したり、教科を横断的に学習指導する力が必要である。デジタル教材の活用、ICT機器・システムの活用を含めて、教材と教師、生徒の関係を理解する。

授業計画

1. ガイダンス、教育方法論の課題—DXと教育改革 (ICTによる校務分掌の工夫と改善)—
2. 授業づくりとは—GIGAスクールとこれからの授業づくり—
3. 教育の方法・技術とは—チーム学校とDX—
4. 子どもに求められる資質・能力—情報活用能力の形成—
5. 子どもの学びと授業—ICTの活用による個別最適化の実現—
6. 授業の構想・計画と教材研究—教科・領域の架け橋—
7. 授業の展開と探究型学習—協働的学習の成立—
8. 学習評価の意味と方法—パフォーマンス課題の創造とルーブリックの活用—
9. 授業研究と授業づくり—授業カンファレンスにおけるデジタル機器の活用—
10. 教材づくり・教材研究と授業づくり—ICTの活用—
11. 学習指導案と授業実践—デジタル教材の活用と指導過程の創造—
12. ICTを活用した授業づくり—ユニバーサルデザインとICT、特別な教育ニーズに応じた授業の創造—
13. 授業づくりを通じた教師教育の可能性—双方向通信の特性を活かす—

14. これからの時代の授業づくり—デジタルポートフォリオによる指導と評価の一体化—
 15. まとめおよび、学修達成度の確認：講義全体を省察し、学修内容を整理する—教師の働き方改革とDX (校務分掌におけるICTの活用)—
- ※原則は対面授業であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大等に備え、すべてリモート形式、ライブ配信に対応させたハイブリット型の講義展開である。
※各回は、グループ発表を基盤とし、万が一新型コロナウイルス感染症の拡大が生じた際に備え、リモート形式で受講する受講生と対面受講する学生が協働的に学修できるようにノートPC・タブレット端末等を用意すること。

学生に対する教員からのフィードバック方法

- ・受講者によるプレゼンテーションの方法や内容について、各回の講義ごとに時間を設け、口頭で講評を行う。
 - ・口頭試問として、受講者全員から講義への省察を口頭にて報告してもらい、講評を行う。
 - ・学修達成度の確認を行い、それに対する講評を口頭で行う。
- これらの学修に30時間以上を要する。

授業時間外の学習

- 授業前学修：テキスト(大学教科書)の該当箇所(講義回数とテキストの章が対応している)を読み、疑問点を整理し、ノートづくりを行う(90分)。グループ発表は、対面での場合はもちろんのこと、ライブ配信、リモート形式等を活用し、双方向通信による発表に対応するよう準備すること。
 - 授業後学修：講義内容を振り返り、予めた疑問点をさらに追究し、自己の仮説や予想をもとに考察し、学修内容を深める(90分)。
- これらの学修に60時間以上を要する。

教科書・参考書等

- 教科書：狩野浩二「教育の方法・技術 新しい時代の授業づくりに向けて」(ジダイ社) その他プリント等は教室で配付(もしくはGoogle Classroomへ配信)する。
- 参考書：斎藤喜博「授業」(国土社)、横須賀薫「授業研究用語辞典」(教育出版)

成績評価

- 成績評価については、提出課題・口頭発表等80%、受講姿勢20%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、課題未提出・未発表、受講姿勢に課題がある者)

科目名 教育実習 I

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 IIと合わせて5

実務経験 ー

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

科目
ナンバリング ー

学位授与方針
との関係 ー

期間 通年

他専攻 ー

○

履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志を持つ者。
「教育実習II」必修。

授業の概要

「教育実習」とは、文字通り、指導教員の指導のもと中学校で行う実習(3週間から4週間)そのものを指し、この授業はその実習をより有意義に行うための事前指導が中心となる。教職課程履修にあたっての心構え、実習までに身につけておくべきこと、実習までに必要な諸手続き等、より具体的な内容および課題を取り上げる。

授業の到達目標

- ・教育実習の意義を理解できる。
- ・教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備することができる。

授業計画

1. 教職課程履修の心構え
2. 実習校について①
3. 実習校について②
4. 介護等体験オリエンテーション
5. 教育実習の実際①
6. 教育実習の実際②
7. 教育実習の実際③
8. 教育実習の実際④
9. 教育実習の実際⑤
10. 教育実習報告①
11. 教育実習報告②
12. 介護等体験の実際①

13. 介護等体験の実際②
14. 介護等体験報告①
15. 介護等体験報告②

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習後に振り返り(フィードバック)の時間を設ける。

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

教科書・参考書等

資料配付。

成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%、実習校評価50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・実習への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・実習への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み・受講態度等に問題がある者)

科目名 教育実習Ⅱ

授業形態

講義

対象 教職2年

単位数 1と合わせて5

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 通年

他専攻 —

○

履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志を持つ者。
「教育実習Ⅰ」必修。

- 13. 教育実習報告②
- 14. 教育実習報告③
- 15. 諸手続きについて②

授業の概要

「教育実習」とは、文字通り、指導教員の指導のもと中学校で行う実習（3週間から4週間）そのものを指し、この授業は実習直前の具体的な準備と、さらに実習後、卒業までの具体的な課題を意識し、将来に備えるための事前および事後指導が中心となる。

学生に対する教員からのフィードバック方法

実習後に振り返り（フィードバック）の時間を設ける。

授業の到達目標

- ・教育実習の意義を理解できる。
- ・教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備できる。
- ・教育実習後の課題を認識し、必要な知識および技術を身につけることができる。

授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

授業計画

1. 諸手続きについて①
2. 教育実習の実際①
3. 教育実習の実際②
4. 教育実習の実際③
5. 教育実習の実際④
6. 教育実習の実際⑤
7. 教育実習の実際⑥
8. 教育実習の実際⑦
9. 教育実習の実際⑧
10. 教育実習の実際⑨
11. 教育実習の実際⑩
12. 教育実習報告①

教科書・参考書等

資料配付。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、実習校評価50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・実習への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・実習への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み・受講態度等に問題がある者）

科目名 教職実践演習（中学校）

授業形態

実習

対象 教職2年

単位数 2

実務経験 —

キャップ制
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

科目
ナンバリング

学位授与方針
との関係

期間 後期

他専攻 —

○

履修条件

教職課程受講者必修。

- 不登校等）への対応について事例研究・ロールプレイング
- 10. 連携先の学校の授業見学、模擬授業、現職教員と意見交換等
- 11. 多文化社会における学校教育
- 12. クラブ活動の指導体験
- 13. ティーチングとコーチングについて
- 14. 特別支援学級の運営や課題について事例研究・集団討議
- 15. 総括

授業の概要

2年間で学んだ学問としての教育に関する知識と、教育実習や介護等体験において学んだ実践力のさらなる統合を目指し、これまでの学習成果をもとに、教員としての資質の構築をより深く具体化するための授業である。

授業の形態としては、講義や事例研究、ロールプレイング、現職教員をゲストスピーカーとしたフィールドワーク等を行うものとする。

学生に対する教員からのフィードバック方法

単元ごとに振り返り（フィードバック）の時間を設ける。

授業の到達目標

- ・教員として求められる基本的な資質として、以下の4つのテーマを定め、到達目標とする。
- ・教育に対する使命感や責任感および児童・生徒への教育的愛情を持つことができる。
- ・社会性および人とのコミュニケーション能力を身につけることができる。
- ・児童・生徒との間に信頼関係を築き、規律ある学級経営を行うことができる。
- ・教科内容を理解し、児童・生徒の反応や学習状況に応じた指導ができる。

授業時間外の学習

授業で取り上げる課題・事例について理解を深めておくこと。

授業計画

1. 導入：本演習の目的と概要の説明、授業担当者紹介
2. 教育実習における実体験をもとに、事例研究・集団討議
3. 講義「教職の意義・教師の職務や役割について」
4. 他教職員・生徒・保護者・社会と教師とのつながりについて事例研究・ロールプレイング
5. 自校教育について
6. 言語技術教育について
7. 高大接続について
8. 校外活動・学習について
9. 教育現場で起こりうる様々な問題（家庭内の問題・学級内いじめ・

教科書・参考書等

テキスト：各回に必要なプリント等を配布する。
参考書：必要に応じて紹介する。

成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題への取り組み・受講態度等に問題がある者）

課・係名	開設時間	取扱業務（主なもの）	
女子部門事務局	総合受付 8:15～16:30 土曜日は、 8:15～12:40	1. 女子部門全体の来客対応、代表電話対応、郵便物・宅配物の受け取り・仕分け等に関する事 2. 女子部門各学校のパンフレット・入試要項の配付、「桐朋教育」等出版物の販売に関する事	
	経理窓口 8:15～15:00 (11:30～13:00を除く) 土曜日は、 8:15～12:00	1. 授業料等に関する事 2. 学生会・自治会の出納・経理に関する事	
	総務課 (施設担当) 8:15～16:30 土曜日は、 8:15～12:40	1. 施設設備・備品等の保守管理に関する事 2. 火気使用の申請確認等、安全対策に関する事 3. 委託業者（警備・清掃等）との連絡・調整に関する事	
*事務局で行う以外の事務は、短大教学課及び各専攻研究室で行う。			
短大教学課	窓口	1. 学生証、学割等の発行に関する事 2. 証明書等の交付に関する事 3. 一般教室等の使用に関する事	
	教務	8:30～16:20 土曜日は、 8:30～12:30	1. 授業（試験を含む）・履修・成績・卒業等に関する事 2. 学籍に関する事 3. 教育職員免許状に関する事
	学生部	1. 入学式・卒業式・桐朋祭等諸行事に関する事 2. 学生活動、学生生活、奨学金に関する事 3. 保安に関する事	
進路相談室	火曜日・木曜日 13:00～17:00 (原則予約制)	1. 就職や進学に関する支援	
本学には、音楽専攻・演劇専攻それぞれに研究室がある。			
研究室	各専攻共通の業務		1. 学生と教員間の諸連絡 2. 授業の準備、教材・教具の保管管理 3. 学生ロッカーの管理
	音楽専攻	8:30～16:30 土曜日は、 8:30～12:30	1. レッスン室使用に関する事 2. 演奏会等に関する事
	演劇専攻		1. 小劇場・実習室の使用に関する事
短大図書館	10:00～18:30 土曜日は、 10:00～15:00	P.36参照	
保健室	8:15～16:20 土曜日は、 8:15～12:40 ただし、 不在の場合もある。	1. 定期健康診断 2. 健康相談 3. 救急処置 4. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険の手続に関する事 5. スクールカウンセラーの面談の申込み	
桐朋教育研究所	9:00～16:30	P.36参照	

<4月>

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

<5月>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

<6月>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

<7月>

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

<8月>

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

<9月>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

<10月>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

<11月>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

<12月>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

<1月>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

<2月>

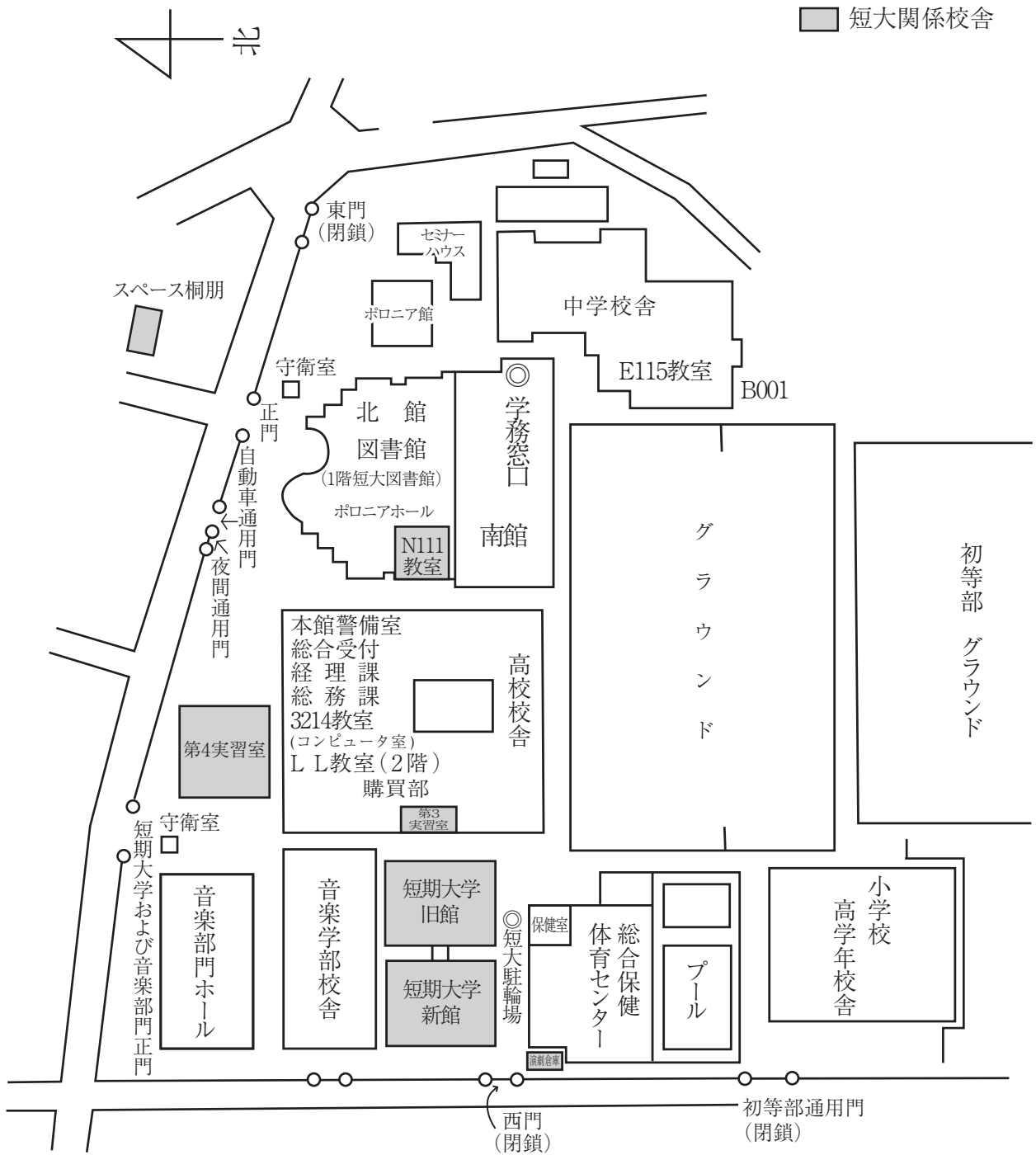
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

<3月>

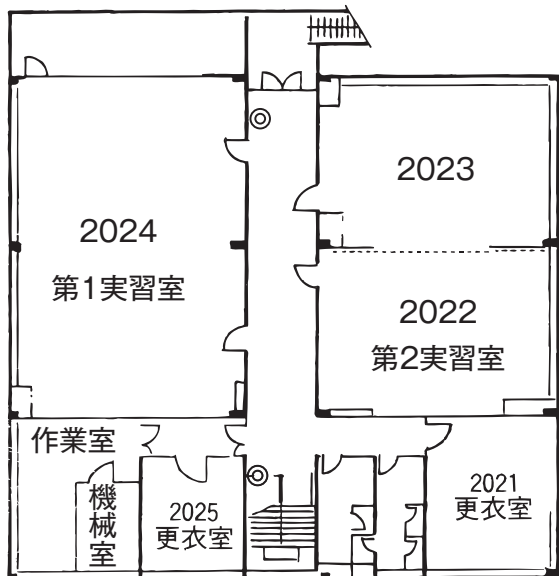
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

通常開館 10:00~18:30 月~金
 通常開館 10:00~15:00 土
 休館

短縮開館 10:00~16:00
 短縮開館 10:00~17:00
 オープンキャンパス



地下2階



(新館)

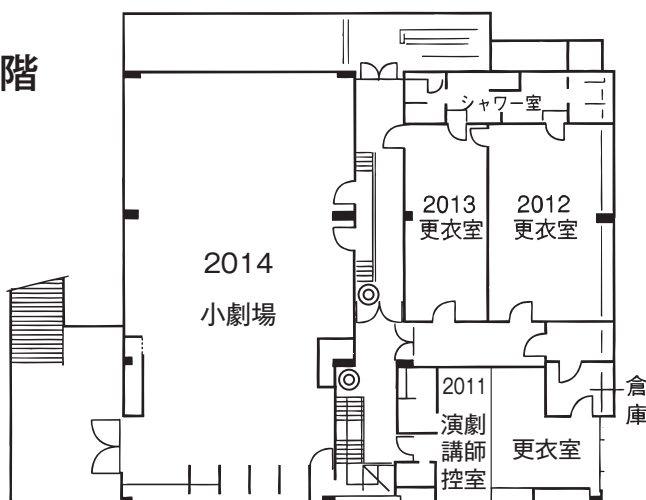


教室番号の読み方

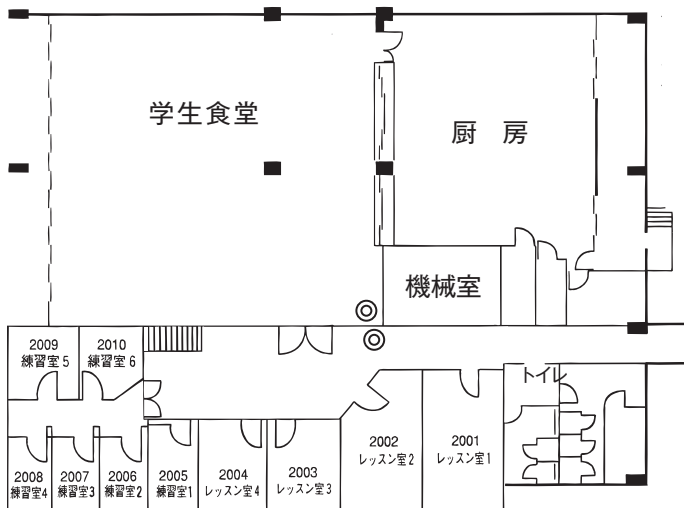
- 4桁……建物番号を示す
- 3桁……階数を示す (0は地下を示す)
- 1桁・2桁……教室番号を示す

(例) 2014
2号館, 地下, 14番教室 (小劇場)

地下1階

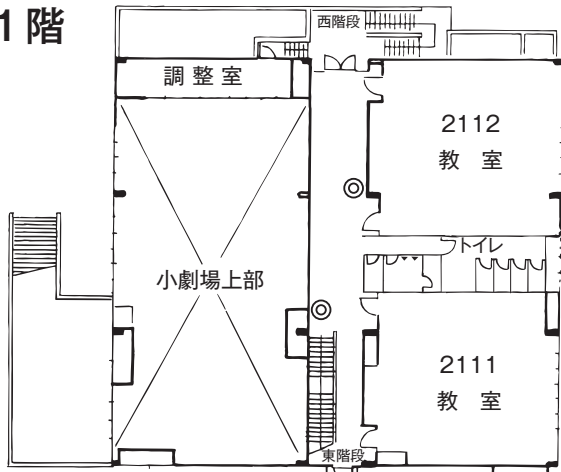


(新館)

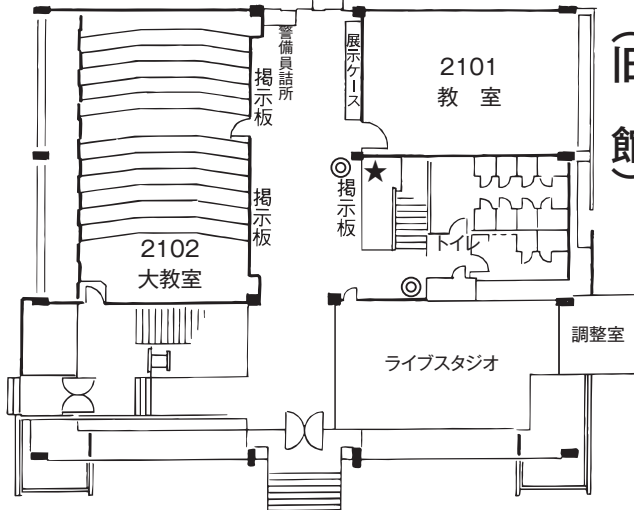


(旧館)

1階

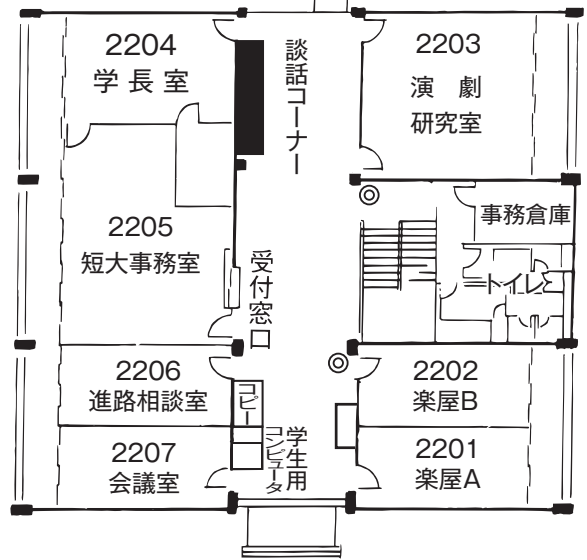
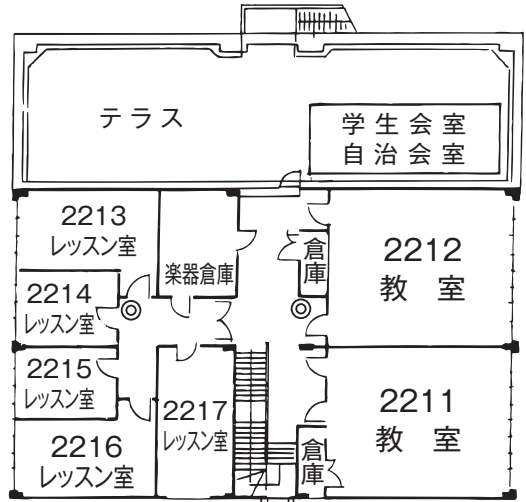


(新館)

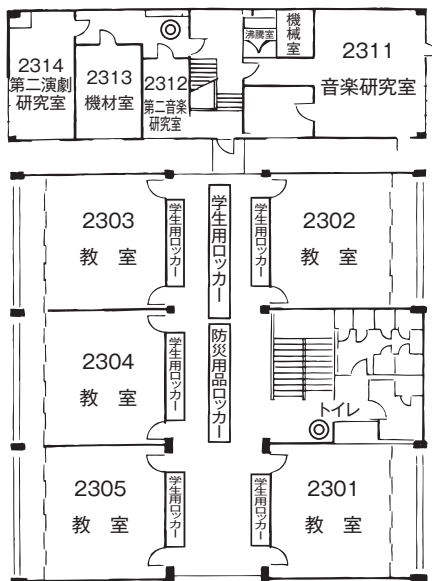


(旧館)

2階



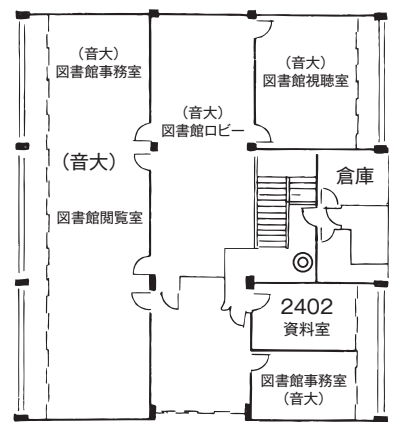
3階



(新館)

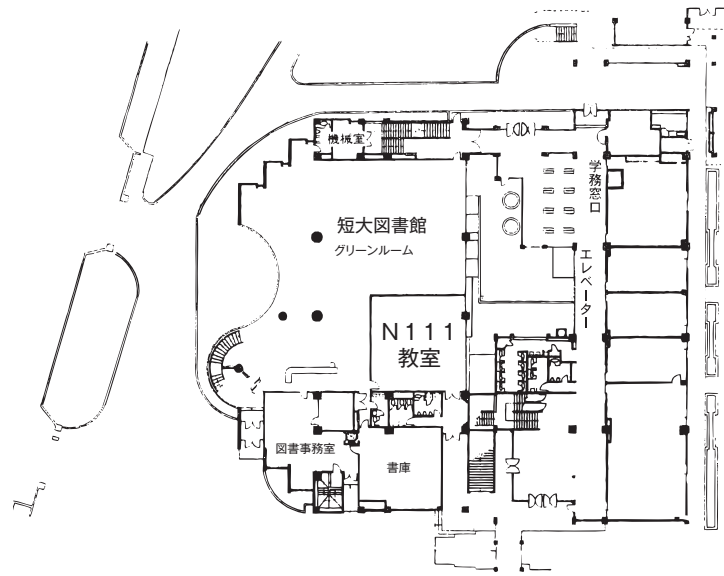
(旧館)

4階

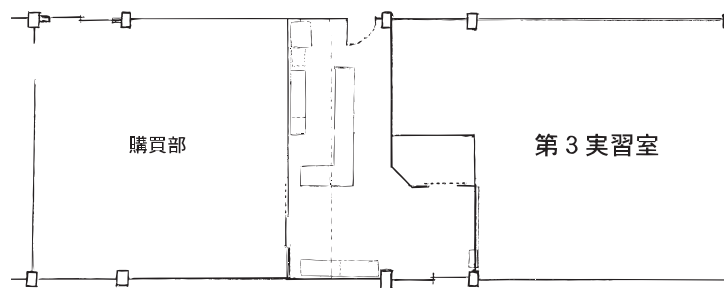


(旧館)

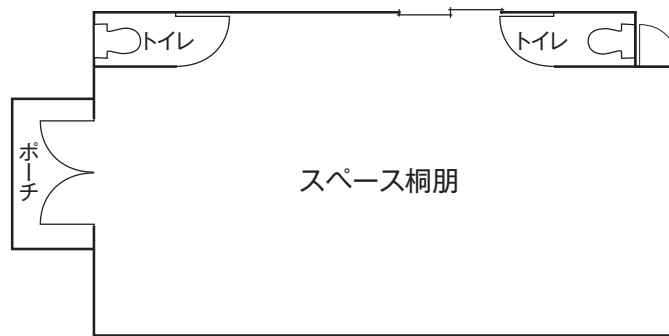
北館 1階



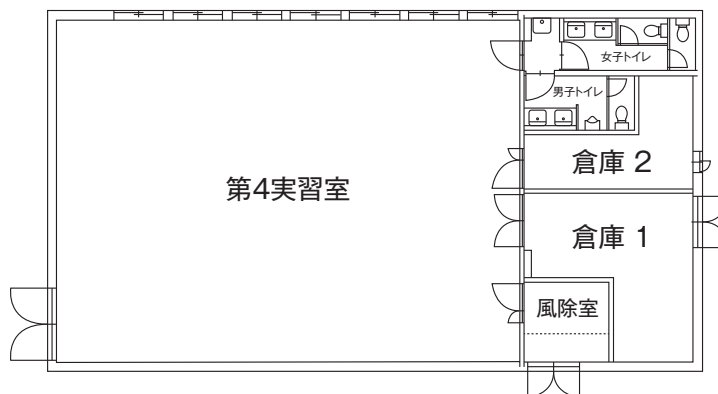
本館 1階



別棟



別棟



1 非常事態発見の時

キャンパス内で、火災、急病者、不審者等の非常事態に遭遇したり、発見したりした学生は、速やかに近くにいる教職員に通報し指示を受けること。また、教職員のいない夜間や休業中の時は、短大夜間警備員または本館警備員に連絡し、指示を受けること。

- (1) 急病者、けが人、不審者等を発見した時
 - ・すぐに教職員、警備員に通報し指示を受けること。
 - ・急病者の搬送等の要請にはできるだけ協力すること。
 - ・AED（自動体外式除細動器）が、短大旧館1階ロビー（2101教室前）に備え付けてあります。
- (2) 火災を発見した時
 - ・すぐに教職員、警備員に通報し、初期消火にできるだけ協力をすること。
 - ・避難は、教職員等の指示に従って行動すること。なお、巡回、救出作業等、危険の及ばない限り協力すること。
- (3) 地震発生時
 - ・地震が起きた時、すぐに外に飛び出すことは危険である。机の下等に身を伏せ、しばらく様子を見ること。
 - ・ドアや窓を開放し、非常脱出口を確保すること。
 - ・火の始末をすること。もし、火が出たら、教職員、警備員に通報し、初期消火にできるだけ協力すること。
 - ・緊急放送や教職員等の指示に従い、建物から離れた避難場所（グラウンド等）に集合すること。
 - ・巡回、救出作業等、危険の及ばない限り協力すること。
 - ・帰宅は学園の指示に従うこと。

台風・大雪等の悪天候による交通機関の乱れ、また大地震における対応

1 原則として前日の17時00分までに、翌日の対応等について安否確認システム、ホームページより連絡する。

2 大地震時における対応・連絡については状況に応じて判断し、安否確認システム、ホームページより対応を連絡する。

3 安否確認システムには、右記QRコードまたは本学ホームページからもアクセス可能。ログイン・登録方法等の詳細については、ガイダンス配付資料を参照すること。



Tempo di Marcia

石 森 延 男 作 詞
入 野 義 朗 作 曲



1. こ ころ の し る し こ む ら - さ - き ゆ た か に
2. と う と き い の ち ま も り - つ - つ し ん り の
3. つ ゆ く さ し げ る む さ し - の - の ひ か り に



に お う き り の - は な き ぼ う は は る - か お お - ら か
せ か い あ こ が - る る わ れ ら は わ か - し す が - す が
ま な こ あ ら わ - れ て は る か に あ お - ぐ ふ じ - さ ん



に は ば た く つ ば さ た く - ま し く -
し う た わ ん い ざ や よ ろ - こ び を - } く も よ
は し た し く よ べ り こ の - あ さ も - }



な が れ よ わ - が と も よ - も の み な こ こ に ひ び - き あ -



い と う ほう が く えん さ ち - あ ふ - る

学 園 歌

第 一 章

心しるしの象徴こむらさき、
ゆたかに匂ふ桐の花、
希望ははるかおほらかに、
はばたく翼たくましく。

(くり返し)

雲よ、流れよ、わが友よ、
ものみなここに響きあひ、
桐朋学園幸あふる。

第 二 章

尊いのちき生命守りつつ、
真理の世界あこがるる、
われらは若しすがすがし、
歌わんいざや飲びを。

第 三 章

露草茂るむさしの、
光まなこに眼洗はれて、
はるかに仰ぐ富士山は
親しく呼べり、この朝も。

2023年（令和5年）4月1日 印刷
2023年（令和5年）4月1日 発行

発 行 者

桐朋学園芸術短期大学

東京都調布市若葉町1-41-1
tel. (3300) 2111（代表）
fax. (3300) 4253
<https://college.toho.ac.jp/>

